

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.1.1(2)a.(e)ii.	1.1-11,12	中央制御室でのスクラムテストスイッチ及び原子炉緊急停止系電源スイッチの操作、中央制御室からの手動操作による制御棒電動挿入により制御棒を挿入する。 水圧駆動にて制御棒を手動で挿入する設備は以下のとおり。 ・スクラムテストスイッチ ・原子炉緊急停止系電源スイッチ ・制御棒 ・制御棒駆動機構(水圧駆動) ・制御棒駆動系配管 ・制御棒駆動系水圧制御ユニット	中央制御室でのスクラムテストスイッチの操作、現場でのスクラムソレノイドヒューズ引き抜き操作、中央制御室からの手動操作による制御棒電動挿入により制御棒を挿入する。 制御棒を手動で水圧挿入する設備は以下のとおり。 ・スクラムテストスイッチ ・スクラムソレノイドヒューズ ・制御棒 ・制御棒駆動機構(水圧駆動) ・制御棒駆動系配管 ・制御棒駆動系水圧制御ユニット	⑤
2	1.1.1(2)a.(g)	1.1-15	原子炉緊急停止系電源スイッチ 原子炉緊急停止系の監視及び操作はできなくなるものの、当該電源スイッチを操作し、スクラムパイロット弁電磁コイルの電源を遮断することで、制御棒の緊急挿入が可能であることから、制御棒を挿入する手段として有効である。	スクラムソレノイドヒューズ 全制御棒全挿入完了までには時間を要するものの、現場に設置してある当該ヒューズを引き抜くことでスクラムパイロット弁電磁コイルの電源を遮断し、制御棒のスクラム動作が可能であることから、制御棒を挿入する手段として有効である。	⑤
3	1.1.1(2)a.(g)	1.1-15	・制御棒駆動機構(電動駆動)、制御棒操作監視系 全制御棒全挿入が完了するまでに時間を要するものの、スクラムテストスイッチ若しくは原子炉緊急停止系電源スイッチの操作が完了するまでの間、又はこれらの操作が実施できない場合に、制御棒を自動又は手動にて電動駆動で挿入する手段として有効である。	・制御棒駆動機構(電動駆動)、制御棒操作監視系 全制御棒全挿入完了までには時間を要するものの、スクラムテストスイッチ若しくはスクラムソレノイドヒューズの操作完了までの間、又はこれらの操作が実施できない場合に、制御棒を自動又は手動にて電動駆動で挿入する手段として有効である。	⑤
4	1.1.2.1(2)b.	1.1-19,20	④当直副長は、原子炉冷却材再循環ポンプ停止による原子炉出力の抑制操作、並びに自動減圧系及び代替自動減圧系の自動起動阻止操作が完了したことを確認し、中央制御室運転員にほう酸水注入系の起動操作、原子炉圧力容器内の水位低下操作及び制御棒の挿入操作を同時に行うことを指示する。同時に行うことが不可能な場合は、ほう酸水注入系の起動操作、原子炉圧力容器内の水位低下操作、制御棒の挿入操作の順で優先させる。	③当直副長は、原子炉冷却材再循環ポンプ停止による原子炉出力の抑制後、中央制御室運転員にほう酸水注入系の起動、制御棒の挿入、及び原子炉圧力容器内の水位の低下操作を同時に行うことを指示する。同時に行うことが不可能な場合は、ほう酸水注入系の起動、制御棒の挿入、原子炉圧力容器内の水位の低下操作の順で優先させる。	⑤
5	1.1.2.1(2)b.	1.1-20	手順の変更に伴い削除	⑤中央制御室運転員Bは、主蒸気逃がし安全弁からの蒸気流入によるサブレーション・チェンバ・プールの温度の上昇を抑制するため、残留熱除去系(サブレーション・チェンバ・プール水冷却モード)を起動する。	⑤
6	1.1.2.1(2)b.	1.1-20,21	⑦中央制御室運転員A及びBは、以下の操作により制御棒を挿入する。 ・原子炉手動スクラム操作 ・手動操作による代替制御棒挿入機能の作動 ・スクラムテストスイッチの操作 ・原子炉緊急停止系電源スイッチの操作 ・制御棒手動挿入操作(制御棒自動挿入が作動しない場合)	⑥中央制御室運転員A及びBは、以下の操作により制御棒挿入を実施する。また、現場運転員にスクラムソレノイドヒューズ引き抜きを指示する。 ・手動スクラム ・手動による代替制御棒挿入機能の作動 ・スクラムテストスイッチによるペアロッドスクラム ・制御棒手動挿入(制御棒自動挿入が作動しない場合) ⑦現場運転員C及びDは、スクラムソレノイドヒューズの引き抜き操作を実施する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.1.2.1(2)b.	1.1-21	⑧当直副長は、上記⑦の操作を実施中に制御棒をペアロッド1組以下まで挿入完了した場合又は未挿入の制御棒を16ステップ以下(0ステップが全挿入位置、200ステップが全引抜き位置)まで挿入完了した場合は、中央制御室運転員にほう酸水注入系の停止を指示する。	⑨当直副長は、上記⑥～⑦の操作を実施中に全制御棒全挿入の完了又は未挿入の制御棒を16ステップ以下(0ステップが全挿入位置、200ステップが全引抜き位置)まで挿入成功した場合は中央制御室運転員へほう酸水注入系の停止を指示する。	⑤
8	1.1.2.1(2)c.	1.1-21,22	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの各操作の所要時間は以下のとおり。 ・原子炉冷却材再循環ポンプ手動停止 :1分以内 ・自動減圧系、代替自動減圧系の自動起動阻止:1分以内 ・ほう酸水注入開始 :1分以内 ・原子炉圧力容器内の水位低下操作開始 :1分以内 ・制御棒挿入操作開始 :2分以内 ・スクラムテストスイッチ操作完了 :約7分 ・原子炉緊急停止系電源スイッチ操作完了 :約10分	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名、現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの各操作の所要時間は以下のとおり。 ・原子炉冷却材再循環ポンプ手動停止:1分以内 ・自動減圧系、代替自動減圧系起動阻止:1分以内 ・ほう酸水注入開始:1分以内 ・制御棒挿入操作開始:1分以内 ・原子炉圧力容器内の水位の低下操作開始:2分以内 ・残留熱除去系サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード操作完了:5分以内 ・スクラムテストスイッチによるペアロッドスクラム操作完了:約10分 ・現場でのスクラムソレノイドヒューズ引き抜き操作完了:約25分	⑤
9	第1.1.1表	1.1-25	手順の変更に伴い対処設備を変更 ・原子炉緊急停止系電源スイッチ	・スクラムソレノイドヒューズ	⑤
10	第1.1.2図 第1.1.4図	1.1-30 1.1-32	EOPの変更に伴い対応フローを変更	—	⑤
11	第1.1.6図	1.1-34	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・現場運転員2名を削除 ・各操作の所要時間に関してはNo.8に記載	—	⑤
12	第1.1.7図	1.1-35	手順の変更に伴いフローチャートを修正	—	⑤
13	添付資料 1.1.1	1.1-37	手順の変更に伴い対応表を修正 ・対処設備の変更(スクラムソレノイドヒューズ→原子炉緊急停止系電源スイッチ) ・要員数、時間の修正(制御棒手動挿入(水圧挿入、電動挿入))	—	⑤
14	添付資料 1.1.1	1.1-38	手順の変更に伴い対応表を修正 ・時間の修正(原子炉圧力容器内の水位低下操作による原子炉出力抑制)	—	⑤
15	添付資料 1.1.2	1.1-39	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変更)
16	添付資料	—	手順の変更に伴い削除	添付資料1.1.4 「1.EOP 原子炉制御「反応度制御」 (1)スクラムソレノイドヒューズ引き抜き	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.2 原子炉冷却材圧カバウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.2.1(2)a.(a) i.	1.2-10,11	中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動し 発電用 原子炉を冷却する設備は以下のとおり。 ・高圧代替注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・高圧代替注水系(注水系)配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替直流電源設備 ・ 可搬型直流電源設備 また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動し原子炉を冷却する設備は以下のとおり。 ・高圧代替注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・高圧代替注水系(注水系)配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替直流電源設備 また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・可搬型直流電源設備	② (第二GTGの自主化)
2	1.2.1(2)a.(b)	1.2-13	・ 第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)
3	1.2.1(2)b.(a) i.	1.2-14,15	また、上記原子炉隔離時冷却系を現場での人力による弁の操作で起動したことにより発生する排水を処理する手段がある。 排水設備による排水で使用する設備は以下のとおり。 ・水中ポンプ ・ホース ・仮設発電機 ・燃料補給設備	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.2.1(2)b.(b) i.	1.2-15,16	<p>i. 代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して発電用原子炉を冷却する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・所内蓄電式直流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	<p>i. 代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉を冷却する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	<p>② (第二GTGの自主化) ⑤</p>
5	1.2.1(2)b.(b) ii.	1.2-16,17	<p>ii. 可搬型直流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 可搬型直流電源設備により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して発電用原子炉を冷却する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・所内蓄電式直流電源設備 ・可搬型直流電源設備 	<p>ii. 可搬型直流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 可搬型直流電源設備により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉を冷却する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・可搬型直流電源設備 	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
6	1.2.1(2)b.(b) iii.	1.2-17,18	iii. 直流給電車による原子炉隔離時冷却系への給電 直流給電車により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して 発電用 原子炉を冷却する設備は以下のとおり。 ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・ 所内蓄電式直流電源設備 ・ 直流給電車及び電源車	iii. 直流給電車による原子炉隔離時冷却系への給電 直流給電車により原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉を冷却する設備は以下のとおり。 ・原子炉隔離時冷却系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・サブプレッション・チェンバ ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・直流給電車及び可搬型代替交流電源設備	⑤
7	1.2.1(2)b.(c)	1.2-19	復旧にて使用する設備のうち、復水貯蔵槽、サブプレッション・チェンバ、原子炉圧力容器、 所内蓄電式直流電源設備 、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。また、原子炉隔離時冷却系ポンプ、原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁、主蒸気系配管・弁、原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ、復水補給水系配管・弁、高圧炉心注水系配管・弁及び給水系配管・弁・スパーージャは重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置付ける。	復旧にて使用する設備のうち、復水貯蔵槽、サブプレッション・チェンバ、原子炉圧力容器、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備は重大事故等対処設備として位置づける。また、原子炉隔離時冷却系ポンプ、原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁、主蒸気系配管・弁、原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ、復水補給水系配管・弁、高圧炉心注水系配管・弁及び給水系配管・弁・スパーージャは重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置づける。	⑤
8	1.2.1(2)b.(c)	1.2-19,20	・ 排水設備 排水を行わなかった場合においても、原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間、原子炉隔離時冷却系の運転を継続することができるが、排水が可能であれば原子炉隔離時冷却系の運転継続時間を延長できることから、原子炉隔離時冷却系の機能を維持する手段として有効である。	—	⑤
9	1.2.1(2)b.(c)	1.2-20	・ 第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.2.1(2)d.(a) i.	1.2-24	<p>ほう酸水注入系により原子炉圧力容器へほう酸水を注入する設備及び注水する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう酸水注入系ポンプ ・ほう酸水注入系貯蔵タンク ・ほう酸水注入系テストタンク ・ほう酸水注入系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系 ・消火系 ・純水補給水系 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	<p>ほう酸水注入系により原子炉へほう酸水を注入する設備及び注水を継続する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう酸水注入系ポンプ ・ほう酸水注入系貯蔵タンク ・ほう酸水注入系テストタンク ・ほう酸水注入系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系 ・消火系 ・純水補給水系 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
11	1.2.1(2)d.(a) ii.	1.2-24,25	<p>制御棒駆動系により原子炉圧力容器へ注水する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御棒駆動水ポンプ ・復水貯蔵槽 ・制御棒駆動系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	<p>制御棒駆動系により原子炉へ注水する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御棒駆動水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・制御棒駆動系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
12	1.2.1(2)d.(a) iii.	1.2-25	<p>常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで高圧炉心注水系を一定時間運転し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への緊急注水を実施する。 高圧炉心注水系により原子炉圧力容器へ緊急注水する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧炉心注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	<p>常設代替交流電源を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで高圧炉心注水系を一定時間運転し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉への緊急注水を実施する。 高圧炉心注水系により原子炉へ緊急注水する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧炉心注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
13	1.2.1(2)d.(b)	1.2-27	<p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
14	1.2.2.1(1)b.(c)	1.2-33	<p>室温は通常運転時と同程度である。</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
15	1.2.2.2(1)a.	1.2-35	また、現場手動操作により原子炉隔離時冷却系を起動した場合は、潤滑油冷却器の冷却水を確保するため、真空タンクドレン弁等を開操作することにより、原子炉隔離時冷却系ポンプ室に排水が滞留することとなるが、この排水を処理しなかった場合においても、原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間、原子炉隔離時冷却系を水没させずに継続して運転できる。	-	⑤
16	1.2.2.2(1)a.(a)	1.2-35	(a) 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により中央制御室からの操作による原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系での原子炉圧力容器への注水ができない場合において、中央制御室からの操作及び現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動できない場合、又は高圧代替注水系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合。	(a)手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により中央制御室からの操作による高圧注水系での原子炉注水ができない場合において、中央制御室からの操作若しくは現場手動操作による高圧代替注水系の起動にて原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合、又は中央制御室からの操作及び現場手動操作による高圧代替注水系の起動ができない場合。	⑤
17	1.2.2.2(1)a.(b)	1.2-37	また、原子炉建屋地下3階原子炉隔離時冷却系ポンプ室(管理区域)の現場監視計器により原子炉隔離時冷却系の作動状況を確認し、現場運転員E及びFに作動状況に異常がないことを報告する。	また、現場監視計器により原子炉隔離時冷却系の作動状況を確認し、現場運転員E及びFへ作動状況に異常がないことを報告する。	⑤
18	1.2.2.2(1)a.(c)	1.2-40	原子炉隔離時冷却系ポンプ室に現場運転員が入室するのは原子炉隔離時冷却系起動時のみとし、その後速やかに退室する手順とする。したがって、原子炉隔離時冷却系タービンランド部からの蒸気漏えいに伴う環境温度の上昇による運転員への影響はないものと考えており、防護具(酸素呼吸器及び耐熱服)を確実に装着することにより本操作が可能である。	-	⑤
19	1.2.2.2(2)a.	1.2-40,41	a. 代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内蓄電式直流電源設備の蓄電池(直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池)が枯渇する前に常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉圧力容器へ注水する。	a.代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電 全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉注水を実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
20	1.2.2.2(2)a.(a)	1.2-41	(a) 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失時、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池が枯渇により機能が喪失すると予測される場合で、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備が使用可能な場合。	(a)手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失時、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池が枯渇により機能が喪失すると予測される場合で、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備が使用可能な場合。	② (第二GTGの自主化)
21	1.2.2.2(3)b.	1.2-44,45	b. 全交流動力電源のみ喪失した場合の対応 全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉圧力容器へ注水する。	b.全交流動力電源のみ喪失した場合の対応 全交流動力電源が喪失し、原子炉隔離時冷却系の起動又は運転継続に必要な直流電源を所内蓄電式直流電源設備により給電している場合は、所内蓄電式直流電源設備の蓄電池が枯渇する前に常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を受電し、原子炉隔離時冷却系の運転継続に必要な直流電源を確保して原子炉へ注水する。	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
22	1.2.2.3(1)a.(b)	1.2-47	⑦現場運転員C及びDは、原子炉建屋地上3階ほう酸水注入系貯蔵タンク室(管理区域)にて、原子炉圧力容器へのほう酸水注入が開始されたことをほう酸水タンク液位指示値の低下により確認し、当直副長に報告する。	⑦現場運転員C及びDは、原子炉へのほう酸水注入が開始されたことをほう酸水タンク液位指示値の低下により確認し、当直副長に報告する。	⑤
23	1.2.2.3(1)a.(b)	1.2-50,51	⑨現場運転員C及びDは、ほう酸水注入系注入弁(A)又は(B)の全開操作を実施した後、ほう酸水注入ポンプ(A)又は(B)を起動する。原子炉建屋地上3階ほう酸水注入系貯蔵タンク室(管理区域)にて、ほう酸水注入ポンプ出口圧力指示値の上昇を確認後、速やかにほう酸水注入系テストタンク純水供給元弁を調整開とし、ほう酸水注入系テストタンクに補給する。 室温は通常運転時と同程度である。	⑨現場運転員C及びDは、ほう酸水注入系ほう酸水注入弁の全開操作を実施した後、ほう酸水注入ポンプA又はBを起動する。ほう酸水注入ポンプ出口圧力指示値の上昇を確認後速やかに、ほう酸水注入系テストタンク純水供給元弁を調整開とし、ほう酸水注入系テストタンクに補給を行う。	⑤
24	1.2.2.3(1)a.(c)	1.2-50,52		-	⑤
25	1.2.2.3(1)c.	1.2-54	c. 高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への緊急注水 全交流動力電源喪失時において、高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により高圧炉心注水系の電源を確保することで高圧炉心注水系を冷却水がない状態で一定時間運転し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への緊急注水を実施する。	c.高圧炉心注水系緊急注水 全交流動力電源喪失時において、高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合は、常設代替交流電源により高圧炉心注水系の電源を確保することで高圧炉心注水系を冷却水がない状態で短時間起動させて、復水貯蔵槽を水源とした原子炉への緊急注水を実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
26	1.2.2.3(1)c.(a)	1.2-54	(a) 手順着手の判断基準 原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧状態であり、高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合で、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備による非常用高圧母線D系への給電が可能となった場合。	(a)手順着手の判断基準 原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧状態であり、高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合で、常設代替交流電源設備によるM/C D系への給電が可能となった場合。	② (第二GTGの自主化) ⑤
27	1.2.2.3(1)c.(b)	1.2-56	⑧当直副長は、高圧炉心注水系ポンプの運転許可時間を経過する前に、中央制御室運転員に高圧炉心注水系ポンプ(B)を停止するよう指示する。	⑧当直副長は、中央制御室運転員に高圧炉心注水系ポンプの運転許可時間経過後に高圧炉心注水系ポンプ(B)を停止するよう指示する。	⑤
28	1.2.2.5	1.2-63	1.2.2.5 その他の手順項目について考慮する手順 高圧代替注水系、原子炉隔離時冷却系、高圧炉心注水系ポンプ、ほう酸水注入系ポンプ、制御棒駆動水ポンプ、電動弁及び中央制御室監視計器類への電源供給手順並びに常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備への燃料補給手順については「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	1.2.2.5 その他の手順項目について考慮する手順 高圧代替注水系、原子炉隔離時冷却系、高圧炉心注水系ポンプ、ほう酸水注入系ポンプ、制御棒駆動水系ポンプ、電動弁及び中操監視計器類への電源供給手順並びに常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び可搬型直流電源設備への燃料補給手順については「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
29	第1.2.1表	1.2-65 1.2-66 1.2-69	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
30	第1.2.1表	1.2-66	記載の拡充 ・原子炉隔離時冷却系現場起動時の排水設備を追加	-	⑤
31	第1.2.1表	1.2-66 1.2-67	記載の拡充 ・所内蓄電式直流電源設備を追加	-	⑤
32	第1.2.2図 第1.2.3図	1.2-78 1.2-79	EOPの変更に伴い対応フローを変更	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
33	添付資料 1.2.1	1.2-100 1.2-101 1.2-103	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
34	添付資料 1.2.1	1.2-100	記載の拡充 ・原子炉隔離時冷却系現場起動時の排水設備を追加	—	⑤
35	添付資料 1.2.1	1.2-101	記載の拡充 ・所内蓄電式直流電源設備を追加	—	⑤
36	添付資料 1.2.2	1.2-104	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変)
37	添付資料 1.2.3-1	1.2-109	1.現場手動操作による高圧代替注水系起動 (1)高圧代替注水系現場起動 a.操作概要 給水・復水系による原子炉圧力容器への注水ができず、原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系が故障により使用できない場合において、中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動できない場合は、現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下2階(管理区域) c.必要要員数及び時間 高圧代替注水系現場起動のうち、現場での高圧代替注水系の系統構成及びタービン起動操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:40分(実績時間:35分)	1.現場手動操作による高圧代替注水系起動 (1)高圧代替注水系現場起動 a.操作概要 高圧注水系が機能喪失した場合において、中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動できない場合は、現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動し原子炉注水を実施する。 b.作業場所(7号炉の例) 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下2階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 高圧代替注水系現場起動に必要な要員数(5名)、所要時間(40分)のうち、高圧代替注水系系統構成及びタービン起動操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間:35分) (実績時間は、原子炉建屋地下3階の可搬式原子炉水位計使用時の実績時間である。原子炉建屋地上1階の可搬式原子炉水位計は設置工事中のため実績時間なし。)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
38	添付資料 1.2.3-2	1.2-111	<p>2.現場手動操作による原子炉隔離時冷却系起動 (1)原子炉隔離時冷却系現場起動 a.操作概要 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により、原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への注水ができず、中央制御室からの操作及び現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動できない場合、又は高圧代替注水系により原子炉圧力容器内の水位を維持できない場合は、現場での人力による弁の操作により原子炉隔離時冷却系を起動し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下3階(管理区域) c.必要要員数及び時間 原子炉隔離時冷却系現場起動のうち、現場での原子炉隔離時冷却系系統構成及びタービン起動操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :90分(実績時間:80分)</p>	<p>2.現場手動操作による原子炉隔離時冷却系起動 (1)原子炉隔離時冷却系現場起動 a.操作概要 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により、中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動できない場合、かつ現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動できない場合は、現場での人力による弁の操作により原子炉隔離時冷却系を起動し原子炉注水を実施する。 b.作業場所(7号炉の例) 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下3階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 原子炉隔離時冷却系現場起動に必要な要員数(5名)、所要時間(90分)のうち、原子炉隔離時冷却系系統構成及びタービン起動操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:90分(実績時間:80分) (実績時間は、原子炉建屋地下3階の可搬式原子炉水位計使用時の実績時間である。原子炉建屋地下1階の可搬式原子炉水位計は設置工事のため実績時間なし。)</p>	⑤
39	添付資料 1.2.3-2	1.2-113	<p>(2)原子炉隔離時冷却系現場起動時の排水処理 a.操作概要 原子炉隔離時冷却系の現場起動にて発生する水は、原子炉隔離時冷却系ポンプ室の機器ファンネルを経由して残留熱除去系ポンプ室(A)にある高電導度廃液系サンプ(A)に排出される。しかし、全交流動力電源喪失時は高電導度廃液系サンプ(A)の常設ポンプが運転できないため、仮設の水中ポンプを用いて排水を汲み上げることで、原子炉隔離時冷却系ポンプ本体が水没することを防止する。 b.作業場所 サービス建屋 屋外 廃棄物処理建屋 地上1階(管理区域) 原子炉建屋 地下3階(管理区域) c.必要要員数及び時間 原子炉隔離時冷却系現場起動時における排水処理に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(緊急時対策要員4名) 想定時間 :180分(実績時間:166分)</p>	<p>(2)原子炉隔離時冷却系現場起動(排水処理) a.操作概要 「原子炉隔離時冷却系現場起動」に伴い発生する排水により原子炉隔離時冷却系ポンプ本体が水没する前に、排水を移送する。 b.作業場所 サービス建屋 屋外 廃棄物処理建屋 地上1階(管理区域) 原子炉建屋 地下3階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 原子炉隔離時冷却系現場起動時における冷却水排水処理に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:180分(実績時間:166分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
40	添付資料 1.2.3-2	1.2-114	<p>e.排水が滞留することの影響について 常設直流電源系統が健全である場合は、原子炉隔離時冷却系タービン及びポンプの潤滑油を冷却するため、原子炉隔離時冷却系ポンプの吐出側より冷却水を潤滑油冷却器に供給し、復水ポンプにより、この冷却水を原子炉隔離時冷却系ポンプの吸込側に戻している。常設直流電源系統喪失時は、復水ポンプの電源が喪失しているため、原子炉隔離時冷却系を現場にて起動する場合は、真空タンクドレン弁等を開操作し、潤滑油冷却器の冷却水を高電導度廃液系サンプ(A)に排水しながら原子炉隔離時冷却系を運転する必要がある。この排水を仮設の水中ポンプで処理しなかった場合、原子炉隔離時冷却系ポンプ室に排水が滞留し、原子炉隔離時冷却系が水没することになる。 したがって、排水の発生量、高電導度廃液系サンプ(A)の体積、原子炉隔離時冷却系ポンプ室及び残留熱除去系ポンプ室(A)の面積等から保守的に一般的な機器が影響を受けないとされる機器のベースまで排水が滞留する時間を評価した。 その結果、原子炉冷却材圧カバウンダリの減圧対策及び原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時の冷却対策の準備が整うまでの期間(24時間)に対して、原子炉隔離時冷却系を起動してから約30時間まで排水の影響を受けずに運転を継続できることを確認した。</p>	-	⑤
41	添付資料 1.2.3-3	1.2-115	<p>3.現場手動操作による高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系起動における可搬式原子炉水位計接続 (1)可搬式原子炉水位計接続 a.操作概要 現場手動操作による高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系の起動操作において、現場での原子炉圧力容器内の水位監視のため可搬式原子炉水位計を接続する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下3階(管理区域) c.必要要員数及び時間 現場手動操作による高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系起動のうち、可搬式原子炉水位計の接続に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:40分(実績時間:37分) (実績時間は、原子炉建屋地下3階の可搬式原子炉水位計使用時の実績時間である。原子炉建屋地上1階及び地下1階の可搬式原子炉水位計は設置工事中のため実績時間なし。)</p>	<p>3.現場手動操作による高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系起動における可搬式原子炉水位計接続 (1)可搬式原子炉水位計接続 a.操作概要 原子炉隔離時冷却系又は高圧代替注水系の現場起動操作において現場での原子炉水位監視のため可搬式原子炉水位計の接続を行う。 b.作業場所(7号炉の例) 原子炉建屋 地上1階、地下1階、地下3階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 高圧代替注水系現場起動に必要な要員数(5名)、所要時間(40分)、原子炉隔離時冷却系現場起動に必要な要員数(5名)、所要時間(90分)のうち、可搬式原子炉水位計の接続に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間:37分) (実績時間は、原子炉建屋地下3階の可搬式原子炉水位計使用時の実績時間である。原子炉建屋地上1階及び地下1階の可搬式原子炉水位計は設置工事中のため実績時間なし。)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
42	添付資料 1.2.3-4	1.2-117	<p>4.ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入及び注水 (1)現場での系統構成、注水操作 a.操作概要 高圧炉心注水系の機能喪失又は全交流動力電源喪失時において、高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合は、ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入及び注水が行えるよう、系統構成(ほう酸水注入系テストタンク使用の場合は現場での注水操作を含む)を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上3 階(管理区域) c.必要要員数及び時間 ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入及び注水のうち、現場での系統構成、注水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:ほう酸水注入系貯蔵タンクを使用した原子炉圧力容器への継続注水の場合65分(実績時間:62分) ほう酸水注入系テストタンクを使用した原子炉圧力容器への注水の場合75分(実績時間:72分)</p>	<p>4.ほう酸水注入系による原子炉注水 (1)ほう酸水注入系による原子炉注水(現場操作) a.操作概要 全交流動力電源喪失時又は高圧炉心注水系の機能喪失時において、高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合、重大事故等の進展抑制のため、ほう酸水注入系により原子炉注水を行う。 b.作業場所 原子炉建屋 地上3 階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 ほう酸水注入系による原子炉注水の現場での操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:ほう酸水注入系貯蔵タンクを使用した原子炉への継続注水の場合65分(実績時間:62分) ほう酸水注入系テストタンクを使用した原子炉注水の場合75分(実績時間:72分)</p>	⑤
43	添付資料 1.2.3-4	1.2-119	<p>(2)受電操作 a.操作概要 ほう酸水注入系により原子炉圧力容器へのほう酸水注入及び注水を行う際、注水に必要なポンプ及び電動弁の電源を確保する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入及び注水のうち、現場での受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:15分(実績時間:12分)</p>	<p>(2)ほう酸水注入系による原子炉注水のための電源確保 a.操作概要 ほう酸水注入系により原子炉注水を行う際、注水に必要な電源の受電操作を行う。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 ほう酸水注入系による原子炉注水に必要な要員数(6名)、所要時間(75分)のうち、現場での電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:15分(実績時間:12分)</p>	⑤
44	添付資料 1.2.4-3	1.2-123	<p>記載の拡充 ・弁名称、操作場所を追加</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.3 原子炉冷却材圧カバウンダリを減圧するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.3.1(2)a.(a) ii.	1.3-10	逃がし安全弁の 手動操作 による減圧で使用する設備は以下のとおり。 ・逃がし安全弁 ・主蒸気系配管・クエンチャ ・逃がし弁機能用アキュムレータ ・自動減圧機能用アキュムレータ ・所内蓄電式直流電源設備 ・ 可搬型直流電源設備 また、上記所内蓄電式直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	逃がし安全弁による減圧で使用する設備は以下のとおり。 ・逃がし安全弁 ・主蒸気系配管・クエンチャ ・逃がし弁機能用アキュムレータ ・自動減圧機能用アキュムレータ ・所内蓄電式直流電源設備 また、上記所内蓄電式直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・可搬型直流電源設備	② (第二GTGの自主化)
2	1.3.1(2)a.(b)	1.3-11	・ 第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
3	1.3.1(2)b.(d)	1.3-16	ii . 代替交流電源設備による復旧 常設代替交流電源設備、 第二代替交流電源設備 又は 可搬型代替交流電源設備 により充電器を受電し、逃がし安全弁の作動に必要な直流電源を確保して逃がし安全弁の機能を復旧する。 代替交流電源設備による復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	ii . 代替交流電源設備による復旧 代替交流電源設備(常設又は可搬型)により充電器を受電し、逃がし安全弁の作動に必要な直流電源を確保して逃がし安全弁の機能を復旧する。 代替交流電源設備により逃がし安全弁を復旧する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化)
4	1.3.1(2)b.(e)	1.3-18	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
5	1.3.1(2)d.(a)	1.3-19~21	<p>(a) インターフェイスシステムLOCA 発生時の対応 インターフェイスシステムLOCA 発生時に、漏えい箇所の隔離操作を実施するものの隔離できない場合、原子炉冷却材が原子炉格納容器外へ漏えいする。原子炉格納容器外への漏えいを抑制するため、逃がし安全弁及びタービンバイパス弁により発電用原子炉を減圧するとともに、弁の隔離操作により原子炉冷却材の漏えい箇所を隔離する手段がある。 また、原子炉冷却材が原子炉格納容器外へ漏えいし原子炉建屋原子炉区域内の圧力が上昇した場合において、原子炉建屋ブローアウトパネルが開放することで、原子炉建屋原子炉区域内の圧力上昇を抑制し、環境を改善する手段がある。 なお、原子炉建屋ブローアウトパネルは開放設定圧力に到達した時点で自動的に開放する設備であり、運転員による開放操作は必要としない。 インターフェイスシステムLOCA 発生時における発電用原子炉の減圧で使用する設備は以下のとおり。 ・逃がし安全弁 ・主蒸気系配管・クエンチャ ・逃がし弁機能用アキュムレータ ・自動減圧機能用アキュムレータ ・タービンバイパス弁 ・タービン制御系 インターフェイスシステムLOCA 発生時における原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離で使用する設備は以下のとおり。 ・高圧炉心注水系注入隔離弁 インターフェイスシステムLOCA 発生時における原子炉建屋原子炉区域内の圧力上昇抑制及び環境改善で使用する設備は以下のとおり。 ・原子炉建屋ブローアウトパネル</p>	<p>(a)インターフェイスシステムLOCA発生時の対応 インターフェイスシステムLOCA発生時に、漏えい箇所の隔離操作を実施するものの隔離できない場合、原子炉冷却材が原子炉格納容器外へ漏えいする。原子炉格納容器外への漏えいを抑制するため、逃がし安全弁及びタービンバイパス弁により原子炉を減圧するとともに、弁の隔離操作により原子炉冷却材の漏えい箇所を隔離する手段がある。 原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧で使用する設備は以下のとおり。 ・逃がし安全弁 ・主蒸気系配管・クエンチャ ・逃がし弁機能用アキュムレータ ・自動減圧機能用アキュムレータ ・タービンバイパス弁 ・タービン制御系 原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離で使用する設備は以下のとおり。 ・高圧炉心注水系注入隔離弁</p>	<p>② (ブローアウトパネルのSA化)</p>
6	1.3.1(2)d.(b)	1.3-21	<p>インターフェイスシステムLOCA 発生時における原子炉建屋原子炉区域内の圧力上昇抑制及び環境改善で使用する原子炉建屋ブローアウトパネルは重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	—	<p>② (ブローアウトパネルのSA化)</p>
7	1.3.2.1(1)a.(a)	1.3-24,25	<p>※1:「低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の起動」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)及び給水・復水系のうち1系以上起動すること、また、それができない場合は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上起動、若しくは低圧代替注水系(常設)、消火系及び低圧代替注水系(可搬型)のうち2系以上起動することをいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系のみの起動であっても発電用原子炉の減圧を行う。</p>	<p>※1:「低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)、給水系及び復水系のいずれか1系以上、又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上、若しくは消火系及び低圧代替注水系(可搬型)の組み合わせによる2系以上をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系であっても減圧を行う。</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
8	1.3.2.2(1)a.(a)	1.3-29	※1:「 低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の起動 」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)及び給水・復水系のうち1系以上 起動すること、また、それができない場合は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上起動、若しくは低圧代替注水系(常設)、消火系及び低圧代替注水系(可搬型)のうち2系以上起動すること をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系 のみの起動 であっても 発電用原子炉 の減圧を行う。	※1:「 低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上 」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)、給水系及び復水系のいずれか1系以上、又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上、若しくは消火系及び低圧代替注水系(可搬型)の組み合わせによる2系以上をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系であっても減圧を行う。	⑤
9	1.3.2.2(1)a.(c)	1.3-34	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
10	1.3.2.2(1)b.(a)	1.3-34~36	(a)手順着手の判断基準 常設直流電源システム喪失により逃がし安全弁を中央制御室から遠隔操作できない状態において、以下の条件が 全て成立した場合 。 ・炉心損傷前の 発電用原子炉 の減圧は、低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の 起動※1 により原子炉 圧力容器 への注水手段が確保されている場合。炉心損傷後の 発電用原子炉 の減圧は、高圧注水系が使用できない場合で、低圧注水系1系※2以上が使用可能である場合、又は原子炉圧力容器内の水位が規定水位(有効燃料棒底部から有効燃料棒の長さの10%上の位置)に到達した場合。 ・逃がし安全弁(自動減圧機能付き)作動用の窒素ガスが確保されている場合。 ※1:「 低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の起動 」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)及び給水・復水系のうち1系以上 起動すること、また、それができない場合は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上起動、若しくは低圧代替注水系(常設)、消火系及び低圧代替注水系(可搬型)のうち2系以上起動すること をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、 低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系 のみの起動であっても 発電用原子炉 の減圧を行う。(添付資料1.3.7) ※2:「 低圧注水系1系 」とは、残留熱除去系(低圧注水モード)、給水・復水系、低圧代替注水系(常設)、消火系 又は 低圧代替注水系(可搬型)の いずれか1系 をいう。	(a)手順着手の判断基準 常設直流電源システム喪失により逃がし安全弁を中央制御室から遠隔操作できない状態において、炉心損傷前の原子炉減圧は、低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上※1起動により原子炉注水手段が確保されている場合、炉心損傷後の原子炉減圧は、高圧注水系が使用できない合で、低圧注水系1系※2以上が使用可能である場合、又は原子炉圧力容器内の水位が規定水位(有効燃料棒底部から有効燃料棒の長さの10%上の位置)に到達した場合で、逃がし安全弁(自動減圧機能付き)作動用の窒素ガスが確保されている場合。 ※1:「 低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上 」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能システムである高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)、給水系及び復水系のいずれか1系以上、又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上、消火系若しくは低圧代替注水系(可搬型)の組み合わせによる2系以上をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、代替注水系1系であっても減圧を行う。 ※2:「 低圧注水系1系 」とは、残留熱除去系(低圧注水モード)、低圧代替注水系(常設)、消火系、低圧代替注水系(可搬型)、給水系及び復水系の1系の いずれか をいう。	⑤
11	1.3.2.2(1)b.(b)	1.3-37	⑤現場運転員E及びFは、 原子炉建屋地上4階北西通路、南西通路にて、窒素ガスポンベ出口圧力指示値が規定値以上であり、逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の駆動源が確保されていることを確認する。	⑤現場運転員E及びFは、窒素ガスポンベ出口圧力指示値が規定値以上であり、逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の駆動源が確保されていることを確認する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
12	1.3.2.2(1)b.(b)	1.3-38	①現場運転員E及びFは、原子炉建屋地上4階北西通路、南西通路にて、窒素ガスポンベ出口圧力指示値が規定値以上であることを確認し、高圧窒素ガス供給系非常用窒素ガス(A)、(B)供給弁の全閉操作を実施する。	①現場運転員E及びFは、窒素ガスポンベ出口圧力指示値が規定値以上であることを確認し、高圧窒素ガス供給系非常用窒素ガス(A)、(B)供給弁の全閉操作を実施する。	⑤
13	1.3.2.2(1)b.(c)	1.3-39	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
14	1.3.2.2(1)c.(a)	1.3-40,41	(a)手順着手の判断基準 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁を中央制御室から遠隔操作できない状態において、以下の条件が全て成立した場合。 ・低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の起動※1により原子炉圧力容器への注水手段が確保されている場合。 ・逃がし安全弁(自動減圧機能なし)作動用の窒素ガスが確保されている場合。 ※1:「低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上の起動」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能な系統である高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)及び給水・復水系のうち1系以上起動すること、また、それができない場合は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上起動、若しくは低圧代替注水系(常設)、消火系及び低圧代替注水系(可搬型)のうち2系以上起動することをいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、低圧代替注水系(常設)のポンプ1台又は代替注水系1系のみでの起動であっても発電用原子炉の減圧を行う。	(a)手順着手の判断基準 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁を中央制御室から遠隔操作できない状態において、低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上※1起動により原子炉注水手段が確保され、逃がし安全弁(自動減圧機能なし)作動用の窒素ガスが確保されている場合。 ※1:「低圧注水系1系以上又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上若しくは代替注水系2系以上」とは、原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時での注水が可能な系統である高圧炉心注水系、残留熱除去系(低圧注水モード)、給水系及び復水系のいずれか1系以上、又は低圧代替注水系(常設)のポンプ2台以上、消火系若しくは低圧代替注水系(可搬型)の組み合わせによる2系以上をいう。 なお、原子炉格納容器パラメータ又は原子炉圧力容器内の水位が規定値に到達した場合は、代替注水系1系であっても減圧を行う。	⑤
15	1.3.2.2(1)c.(c)	1.3-43	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
16	1.3.2.2(2)a.(c)	1.3-46,47	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
17	1.3.2.2(3)b.(a)	1.3-48	(a)手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失が原因で常設直流電源が喪失し、直流125V主母線(A)系及び(B)系の電圧喪失を確認した場合において、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備いずれかの設備からの給電が可能な場合。	(a)手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失が原因で常設直流電源が喪失し、直流125V主母線(A)系及び(B)系の電圧喪失を確認した場合において、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備いずれかの設備からの給電が可能な場合。	② (第二GTGの自主化)
18	1.3.2.2(4)	1.3-49	全交流動力電源喪失が原因で常設直流電源が喪失した場合、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を充電し、直流電源を確保して逃がし安全弁の機能を復旧する。	全交流動力電源喪失が原因で常設直流電源が喪失した場合、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により充電器を充電し、直流電源を確保して逃がし安全弁の機能を復旧する。	② (第二GTGの自主化)
19	第1.3.1表	1.3-56 1.3-58	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
20	第1.3.1表	1.3-59	設備変更に伴い対処設備を追加 ・原子炉建屋ブローアウトパネル	—	② (ブローアウトパネルのSA化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	第1.3.2図 第1.3.3図 第1.3.4図 第1.3.13図 第1.3.14図	1.3-70 1.3-71 1.3-72 1.3-81 1.3-82	EOP, SOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.3.1表, 第1.3.2表の手順書名称を修正	—	⑤
22	第1.3.6図	1.3-74	記載の最適化 ・タイムチャートの操作時間を変更	—	⑤
23	第1.3.16図	1.3-85	設備変更に伴いフローチャートを修正 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
24	添付資料 1.3.1	1.3-87 1.3-88	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
25	添付資料 1.3.1	1.3-88	設備変更に伴い対処設備を追加 ・原子炉建屋ブローアウトパネル	—	② (ブローアウトパネルのSA化)
26	添付資料 1.3.2	1.3-89	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	添付資料 1.3.3-1	1.3-94	<p>1.可搬型直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の減圧機能が喪失した場合、可搬型直流電源設備により逃がし安全弁(自動減圧機能なし)の作動に必要な直流電源を確保し、逃がし安全弁(自動減圧機能なし)を開放して発電用原子炉を減圧する。なお、可搬型直流電源設備による直流電源の供給準備が整うまでの期間は、常設代替直流電源設備にて逃がし安全弁(自動減圧機能なし)の作動に必要な直流電源を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4階、地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 可搬型直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放に必要な要員数、時間については「1.14 電源の確保に関する手順等」に整理する。 また、常設代替直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放(現場での減圧状況の確認を含む)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:35分(実績時間:28分)</p>	<p>1.可搬型直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の原子炉減圧機能が喪失した場合、常設代替直流電源設備により逃がし安全弁の駆動に必要な直流電源を確保し、逃がし安全弁(自動減圧機能なし)を開放し、原子炉の減圧を実施する。その後、常設代替直流電源設備の枯渇により逃がし安全弁の駆動電源喪失を防止するため、可搬型直流電源設備により逃がし安全弁の駆動に必要な直流電源を継続的に供給する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4階、地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および操作時間 常設代替直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放に必要な要員数(6名)、所要時間(35分)のうち、現場での系統構成、可搬型直流電源設備による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放及び現場での減圧状況確認に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。また、常設代替直流電源設備の枯渇により逃がし安全弁の駆動電源喪失を防止するため、可搬型直流電源設備により逃がし安全弁の駆動に必要な直流電源を継続的に供給する。(可搬型直流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。) 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:35分(実績時間:28分)</p>	⑤
28	添付資料 1.3.3-2	1.3-96	<p>2. 逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁(自動減圧機能付き)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の減圧機能が喪失した場合、現場多重伝送盤にて逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の作動回路に逃がし安全弁用可搬型蓄電池を接続し、逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の機能を回復させて逃がし安全弁(自動減圧機能付き)を開放する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4階、地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁(自動減圧機能付き)開放(現場での減圧状況の確認を含む)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:55分(実績時間:44分)</p>	<p>2. 逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁(自動減圧機能付き)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の原子炉減圧機能が喪失した場合、現場多重伝送盤にて逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の作動回路に逃がし安全弁用可搬型蓄電池を接続し、逃がし安全弁(自動減圧機能付き)の機能を回復させて逃がし安全弁(自動減圧機能付き)を開放する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4階、地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および操作時間 逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁(自動減圧機能付き)開放に必要な要員数(6名)、所要時間(55分)のうち、現場での系統構成、逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁(自動減圧機能付き)開放及び現場での減圧状況確認に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:55分(実績時間:44分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
29	添付資料 1.3.3-3	1.3-98	<p>3.代替逃がし安全弁駆動装置による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の減圧機能が喪失した場合、代替逃がし安全弁駆動装置により逃がし安全弁(自動減圧機能なしD,E,K又はU)の電磁弁排気ポートへ窒素ガスを供給し、逃がし安全弁(自動減圧機能なしD,E,K 又はU)を開放する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 原子炉建屋 地上1 階, 地下1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 代替逃がし安全弁駆動装置による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放(現場での減圧状況の確認を含む)に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:4 名(現場運転員4 名) 想定時間 :40 分(実績時間:38 分)</p>	<p>3.代替逃がし安全弁駆動装置による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放</p> <p>a.操作概要 常設直流電源系統喪失により逃がし安全弁の原子炉減圧機能が喪失した場合、代替逃がし安全弁駆動装置により逃がし安全弁(自動減圧機能なしD,E,K又はU)の電磁弁排気ポートへ窒素ガスを供給し、逃がし安全弁(自動減圧機能なしD,E,K 又はU)を開放する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 原子炉建屋 地上1 階, 地下1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 代替逃がし安全弁駆動装置による逃がし安全弁(自動減圧機能なし)開放に必要な要員数(6 名), 所要時間(40 分)のうち, 現場での系統構成, 減圧操作, 減圧確認に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4 名(現場運転員4 名) 所要時間目安:40 分(実績時間 :38 分)</p>	⑤
30	添付資料 1.3.3-4	1.3-100	<p>4.高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保</p> <p>(1)高圧窒素ガスポンペによる窒素ガス供給のためのライン切替え</p> <p>a.操作概要 高圧窒素ガス供給系ドライウェル入口圧力低警報が発生し、逃がし安全弁の駆動源を確保する必要がある場合において、電動弁の電源が確保できず中央制御室の操作スイッチにて窒素ガスの供給ラインを高圧窒素ガスポンベ側へ切り替えることができない場合、現場での弁の手動操作にて窒素ガスの供給ラインを切り替える。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保のうち、高圧窒素ガスポンペによる供給のためのライン切替えに必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:13 分)</p>	<p>4.高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保</p> <p>(1)高圧窒素ガスポンペによる窒素ガス供給のためのライン切替え</p> <p>a.操作概要 高圧窒素ガス供給系ドライウェル入口圧力低警報が発生し、逃がし安全弁の駆動源を確保する必要がある場合において、電動弁の電源が確保できず中央制御室の操作スイッチにて窒素ガスの供給ラインを高圧窒素ガスポンベ側へ切り替えることができない場合、現場での弁の手動操作にて窒素ガスの供給ラインを切り替える。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保に必要な要員数(4名), 所要時間(20 分)のうち, 高圧窒素ガスポンペによる供給のためのライン切替えに必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:20 分(実績時間:13 分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
31	添付資料 1.3.3-4	1.3-101	<p>(2)高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替え及び使用済み高圧窒素ガスポンペの取替え</p> <p>a.操作概要 発電用原子炉の減圧操作中及び減圧完了後の逃がし安全弁開保持期間中に、逃がし安全弁作動用の高圧窒素ガス供給系出口のポンペ圧力低警報が発生した場合、高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替え及び使用済みポンペの取替えを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保のうち、高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替え及び使用済み高圧窒素ガスポンペの取替えに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4 名(現場運転員4 名) 想定時間 :60 分(実績時間:59 分)</p>	<p>(2)高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替え及び使用済み高圧窒素ガスポンペの交換</p> <p>a.操作概要 原子炉減圧操作中及び減圧完了後の逃がし安全弁開保持期間中に、逃がし安全弁作動用の高圧窒素ガス供給系(非常用)出口のポンペ圧力低警報が発生した場合、高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替えと使用済みポンペの交換を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 高圧窒素ガスポンペによる逃がし安全弁駆動源確保に必要な要員数(4名)、所要時間(60 分)のうち、高圧窒素ガスポンペ(待機側)への切替え、使用済み高圧窒素ガスポンペの交換操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4 名(現場運転員4 名) 所要時間目安:60 分(実績時間:59 分)</p>	⑤
32	添付資料 1.3.3-5	1.3-103	<p>5.インターフェイスシステムLOCA 発生時の漏えい停止操作(高圧炉心注水系の場合)</p> <p>a.操作概要 インターフェイスシステムLOCA 発生時は、原子炉格納容器外への漏えいを停止するための破断箇所の隔離が必要となる。破断箇所の特定又は隔離ができない場合は、逃がし安全弁及びタービンバイパス弁により発電用原子炉を減圧し、原子炉建屋への原子炉冷却材の漏えいを抑制する。その後は発電用原子炉を冷温停止状態に移行させ、破断箇所の隔離操作を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 インターフェイスシステムLOCA 発生時の高圧炉心注水系からの漏えい停止操作のうち、防護具装着、原子炉建屋内における隔離操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4 名(現場運転員4 名) 想定時間 :90 分(実績時間:60 分)</p>	<p>5.インターフェイスシステムLOCA 発生時の漏えい停止操作(高圧炉心注水系の場合)</p> <p>a.操作概要 インターフェイスシステムLOCA発生時は、原子炉格納容器外への漏えいを停止するための破断箇所の隔離が必要となる。破断箇所の発見又は隔離ができない場合は、逃がし安全弁及びタービンバイパス弁により原子炉を減圧し、原子炉建屋への原子炉冷却材漏えいを抑制する。その後は原子炉を冷温停止状態に移行させ、破断箇所の隔離操作を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 インターフェイスシステムLOCA 発生時の高圧炉心注水系からの漏えい停止操作に必要な要員数(6 名)、所要時間(240 分)のうち移動、保護具装着、原子炉建屋内隔離操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4 名(現場運転員4 名) 所要時間目安:90 分(実績時間:60 分)</p>	⑤
33	添付資料 1.3.8-3	1.3-124	<p>記載の拡充 ・弁名称、操作場所を追加</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.4 原子炉冷却材圧カバウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.4.1(2)a.(a) i.(i)	1.4-10	低圧代替注水系(常設)による 発電用 原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	低圧代替注水系(常設)による原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	② (第二GTGの自主化)
2	1.4.1(2)a.(a) i.(ii)	1.4-11	低圧代替注水系(可搬型)による 発電用 原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ ホース・接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	低圧代替注水系(可搬型)による原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース ・MUWC接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	② (第二GTGの自主化) ⑤
3	1.4.1(2)a.(a) i.(ii)	1.4-11,12	なお、低圧代替注水系(可搬型)による 発電用 原子炉の冷却は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉の冷却は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.4.1(2)a.(a) i.(iii)	1.4-12	<p>消火系による発電用原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>消火系による原子炉の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	② (第二GTGの自主化)
5	1.4.1(2)a.(a) ii.	1.4-14	<p>第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
6	1.4.1(2)a.(b) i.	1.4-14,15	<p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、設計基準事故対処設備である残留熱除去系(低圧注水モード)による発電用原子炉の冷却ができない場合は、「(a) i . 低圧代替注水」の手段に加え、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系(低圧注水モード)を復旧し、発電用原子炉を冷却する手段がある。 常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備及び代替原子炉補機冷却系へ燃料を補給し、電源の供給を継続することにより、残留熱除去系(低圧注水モード)を十分な期間、運転継続することが可能である。 また、発電用原子炉停止後は発電用原子炉からの除熱を長期的に行うため、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)に移行する。残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)については、「b.(b) i . 復旧」にて整理する。</p>	<p>設計基準事故対処設備である残留熱除去系(低圧注水モード)が全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により使用できない場合には、「1.4.1(2)a.(a) i .低圧代替注水」の手段に加え、常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系(低圧注水モード)を復旧する手段がある。 常設代替交流電源設備及び代替原子炉補機冷却系へ燃料を補給し、電源の供給を継続することにより、残留熱除去系(低圧注水モード)を十分な期間、運転継続することが可能である。 また、原子炉停止後は残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)に移行し、長期的に原子炉を除熱する手段がある。残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)については、「1.4.1(2)b.(b) i .復旧」にて整備する。</p>	② (第二GTGの自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.4.1(2)a.(b) i.(i)	1.4-15,16	代替交流電源設備による残留熱除去系（低圧注水モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備	常設代替交流電源設備による残留熱除去系（低圧注水モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化)
8	1.4.1(2)a.(b) ii.	1.4-17	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
9	1.4.1(2)a.(c) i.(i)	1.4-17	低圧代替注水系（常設）による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	低圧代替注水系（常設）による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.4.1(2)a.(c) i.(ii)	1.4-18	<p>低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース・接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース ・MUWC接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>② (第二GTGの自主化) ⑤</p>
11	1.4.1(2)a.(c) i.(ii)	1.4-19	<p>なお、低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。</p>	<p>なお、低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。</p>	<p>② (淡水貯水池の運用変更)</p>
12	1.4.1(2)a.(c) i.(iii)	1.4-19	<p>消火系による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>消火系による残存溶融炉心の冷却で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>② (第二GTGの自主化)</p>
13	1.4.1(2)a.(c) ii.	1.4-21	<p>・第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	-	<p>② (第二GTGの自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
14	1.4.1(2)b.(b) i.	1.4-22	<p>発電用原子炉停止中において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）による発電用原子炉からの除熱ができない場合は、「(a) i .低圧代替注水」の手段に加え、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）を復旧し、発電用原子炉からの除熱を行う手段がある。</p> <p>常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備及び代替原子炉補機冷却系へ燃料を補給し、電源の供給を継続することにより、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）を十分な期間、運転継続することが可能である。</p>	<p>原子炉停止中に設計基準事故対処設備である残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）が全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系により使用できない場合には、「1.4.1(2)b.(a) i .低圧代替注水」の手段に加え、常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系（原子炉停止時冷却モード）を復旧する手段がある。</p> <p>常設代替交流電源設備及び代替原子炉補機冷却系へ燃料を補給し、電源の供給を継続することにより、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）を十分な期間、運転継続することが可能である。</p>	② (第二GTGの自主化)
15	1.4.1(2)b.(b) i.(i)	1.4-22,23	<p>代替交流電源設備による残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ ・原子炉圧力容器 ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	<p>常設代替交流電源設備による残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系ポンプ ・原子炉圧力容器 ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・スパーージャ ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
16	1.4.1(2)b.(b) ii.	1.4-23,24	<p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
17	1.4.1(2)c.	1.4-24	<p>これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書（徴候ベース）（以下「EOP」という。）、事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）（以下「SOP」という。）、事故時運転操作手順書（停止時徴候ベース）（以下「停止時EOP」という。）、AM 設備別操作手順書及び多様なハザード対応手順に定める（第1.4.1 表）。</p>	<p>これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書（徴候ベース）（以下「EOP」という。）、事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）（以下「SOP」という。）、AM設備別操作手順書及び多様なハザード対応手順に定める（表1.4.1）。</p>	⑤
18	1.4.2.1(1)a.(a) ii.	1.4-28,29	<p>⑨ a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量（RHR B 系代替注水流量）指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低（レベル3）から原子炉水位高（レベル8）の間で維持する。</p>	<p>⑨a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたこと残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	② (計器名称の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
19	1.4.2.1(1)a.(a)ii.	1.4-29	⑨ b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	⑨b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	② (計器名称の変更)
20	1.4.2.1(1)a.(a)iii.	1.4-31	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
21	1.4.2.1(1)a.(b)i.	1.4-31	i.手順着手の判断基準 給水・復水系及び非常用炉心冷却系による原子炉圧力容器への注水ができず、原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において、低圧代替注水系(可搬型)及び注入配管が使用可能な場合※1。	i.手順着手の判断基準 常設の原子炉注水設備、低圧代替注水系(常設)、消火系により原子炉注水ができず、原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において、低圧代替注水系(可搬型)及び注入配管が使用可能な場合※1。	⑤
22	1.4.2.1(1)a.(b)ii.	1.4-32,33	⑤ 現場運転員C及びDは、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う)。 なお、上記の送水ライン以外にも、原子炉建屋原子炉区域にて接続口から復水補給水系配管までホースを敷設し送水するラインがある。	⑤現場運転員C及びDは、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する。(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う。)	⑤
23	1.4.2.1(1)a.(b)ii.	1.4-35	⑫ a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	⑫a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	② (計器名称の変更)
24	1.4.2.1(1)a.(b)ii.	1.4-35,36	⑫ b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	⑫b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	② (計器名称の変更)
25	1.4.2.1(1)a.(b)ii.	1.4-36~40	低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)の操作手順において、[全交流動力電源が喪失している場合]の手順を追加	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
26	1.4.2.1(1)a.(b)iii.	1.4-40,41	<p>iii. 操作の成立性</p> <p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での各注入配管の系統構成を、交流電源が確保されている場合は1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて、全交流動力電源が喪失している場合は1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員2名にて作業を実施した場合の所要時間は以下のとおり。</p> <p>[交流電源が確保されている場合]</p> <p>残留熱除去系(A)(B)注入配管使用の場合: 約25分 残留熱除去系(C)注入配管使用の場合: 約65分 高圧炉心注水系(B)注入配管使用の場合: 約30分 高圧炉心注水系(C)注入配管使用の場合: 約55分</p> <p>[全交流動力電源が喪失している場合]</p> <p>残留熱除去系(A)注入配管使用の場合: 約95分 残留熱除去系(B)(C)注入配管使用の場合: 約85分 高圧炉心注水系(B)(C)注入配管使用の場合: 約75分</p> <p>また、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>[防火水槽を水源とした送水]</p> <p>緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分</p> <p>[淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)]</p> <p>緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分</p> <p>[淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)]</p> <p>緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分</p> <p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作は、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで約330分で可能である。</p>	<p>iii. 操作の成立性</p> <p>防火水槽を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水開始まで残留熱除去系(A)(B)(C)又は高圧炉心注水系(B)(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約95分で可能である。</p> <p>また、淡水貯水池を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水開始まで残留熱除去系(A)(B)(C)又は高圧炉心注水系(B)(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約120分で可能である。</p>	⑤
27	1.4.2.1(1)a.(b)iii.	1.4-42	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
28	1.4.2.1(1)a.(c)i.	1.4-42	<p>i. 手順着手の判断基準</p> <p>給水・復水系、非常用炉心冷却系及び低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水ができず、原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において、消火系及び注入配管が使用可能な場合※1。ただし、重大事故等へ対処するために消火系による消火が必要な火災が発生していない場合。</p>	<p>i. 手順着手の判断基準</p> <p>常設の原子炉注水設備、低圧代替注水系(常設)により原子炉注水ができず、原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において、消火系及び注入配管が使用可能な場合※1。ただし、重大事故等へ対処するために消火系による消火が必要な火災が発生していない場合。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
29	1.4.2.1(1)a.(c) ii.	1.4-44,45	⑧ 5号炉運転員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了を緊急時対策本部に報告する。また、緊急時対策本部は当直長に報告する。	⑧緊急時対策要員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了を緊急時対策本部へ報告する。また、緊急時対策本部は当直長へ報告する。	⑤
30	1.4.2.1(1)a.(c) ii.	1.4-45,46	⑫ a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	⑫a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	② (計器名称の変更)
31	1.4.2.1(1)a.(c) ii.	1.4-46	⑫ b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	⑫b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。	② (計器名称の変更)
32	1.4.2.1(1)a.(c) iii.	1.4-47	iii . 操作の成立性 残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)の注入配管を使用した消火系による原子炉圧力容器への注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで約30分で可能である。 残留熱除去系(C)の注入配管を使用した消火系による原子炉圧力容器への注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで約40分で可能である。 高圧炉心注水系(B)又は高圧炉心注水系(C)の注入配管を使用した消火系による原子炉圧力容器への注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで約30分で可能である。	iii . 操作の成立性 作業開始を判断してから、消火系による原子炉注水開始までの必要な要員及び所要時間は以下のとおり。 残留熱除去系(A)又は残留熱除去系(B)注入配管使用 ・1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて所要時間を約30分 残留熱除去系(C)注入配管使用 ・1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員2名にて所要時間を約40分 高圧炉心注水系(B)又は高圧炉心注水系(C)注入配管使用 ・1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員2名にて所要時間を約30分	⑤
33	1.4.2.1(1)a.(c) iii.	1.4-48	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
34	1.4.2.1(1)b.	1.4-48	外部電源、代替交流電源設備等により交流電源が確保できた場合、復水貯蔵槽が使用可能であれば低圧代替注水系（常設）により原子炉 圧力容器へ注水 する。復水貯蔵槽が使用できない場合、消火系又は低圧代替注水系（可搬型）により原子炉 圧力容器へ注水 する。 交流電源が確保できない場合、現場での手動操作により系統構成を実施し、消火系又は低圧代替注水系（可搬型）により原子炉 圧力容器へ注水 する。 なお、消火系による原子炉圧力容器への注水は、発電所構内（大湊側）で重大事故等へ対処するために消火系による消火が必要な火災が発生していないこと 及びろ過水タンクの使用可能 が確認できた場合に実施する。	代替交流電源設備等により交流動力電源が確保できた場合、復水貯蔵槽水源が使用可能であれば低圧代替注水系（常設）により原子炉を冷却する。復水貯蔵槽水源が使用できない場合、消火系又は低圧代替注水系（可搬型）により原子炉を冷却する。 交流動力電源が確保できない場合、現場の手動操作により系統構成を実施し、消火系又は低圧代替注水系（可搬型）により原子炉を冷却する。なお、消火系による原子炉の冷却は、発電所構内（大湊側）で重大事故等へ対処するために消火系による消火が必要な火災が発生していないことが確認できた場合に実施する。	⑤
35	1.4.2.1(2)a.(a)	1.4-49	(a) 残留熱除去系電源復旧後の原子炉 圧力容器への注水 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、 残留熱除去系（低圧注水モード）による原子炉圧力容器への注水ができない場合は 、常設代替交流電源設備又は 第二代替交流電源設備 により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、 残留熱除去系（低圧注水モード）にて原子炉圧力容器へ注水 する。 なお、 常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備 する。	(a)残留熱除去系電源復旧後の原子炉注水 全交流動力電源の喪失により常設の原子炉注水設備による注水機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、 残留熱除去系（低圧注水モード）にて原子炉への注水 を実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
36	1.4.2.1(2)a.(a) i.	1.4-49	i. 手順着手の判断基準 常設代替交流電源設備又は 第二代替交流電源設備 により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、 残留熱除去系（低圧注水モード）が使用可能な状態※1に復旧された場合 。	i. 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、 残留熱除去系（低圧注水モード）が使用可能な状態※1に復旧された場合 。	② (第二GTGの自主化)
37	1.4.2.1(2)b.	1.4-52	常設代替交流電源設備又は 第二代替交流電源設備 により交流電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば 残留熱除去系（低圧注水モード）により原子炉圧力容器へ注水 する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、 残留熱除去系（低圧注水モード）により原子炉圧力容器へ注水 するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、 低圧代替注水系（常設）等による原子炉圧力容器への注水 を並行して実施する。 発電用原子炉停止後は、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）による発電用原子炉からの除熱を実施 する。	外部電源、常設代替交流電源設備等により交流動力電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば 残留熱除去系（低圧注水モード）により原子炉を冷却 する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、 残留熱除去系（低圧注水モード）により原子炉を冷却 するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、 低圧代替注水系（常設）等による原子炉の冷却を並行して実施 する。原子炉停止後は、 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）により原子炉を除熱 する。	② (第二GTGの自主化)
38	1.4.2.1(3)a.(b)	1.4-56	残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)の注入配管を使用した消火系による原子炉圧力容器への注水操作は 、1ユニット当たり中央制御室運転員2名（操作者及び確認者）、現場運転員2名及び 5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで約30分で可能である 。	作業開始を判断してから、消火系による原子炉注水開始までの必要な要員及び所要時間は以下のとおり。 残留熱除去系(A)又は(B)注入配管使用 ・1ユニット当たり中央制御室運転員2名（操作者及び確認者）、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて所要時間を約30分	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
39	1.4.2.1(3)a.(b)	1.4-56	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
40	1.4.2.1(3)a.(c) ii.	1.4-57	<p>低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却については、 「(1)a.(b) 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」の操作手順(交流電源が確保されている場合)のうち、残留熱除去系(B)注入配管又は残留熱除去系(A)注入配管を使用した手順と同様。ただし、MUWC 接続口内側隔離弁の操作については、リンク機構を取り外さず、MUWC 接続口内側隔離弁(B)の場合は屋外(緊急時対策要員)にて、MUWC 接続口内側隔離弁(A)の場合は非管理区域(運転員)にて遠隔手動弁操作設備を使用して行う。</p>	<p>低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却については、 「1.4.2.1(1)a.(b)低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水」の操作手順のうち、残留熱除去系(B)注入配管及び残留熱除去系(A)注入配管を使用した手順と同様。</p>	⑤
41	1.4.2.1(3)a.(c) iii.	1.4-58,59	<p>低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での各注入配管の系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合の所要時間は以下のとおり。 残留熱除去系(A)(B)注入配管使用の場合: 約20分 また、低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。 [防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分 低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作は、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却開始まで約330分で可能である。</p>	<p>防火水槽を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水開始まで残留熱除去系(A)又は残留熱除去系(B)のいずれの注入配管を使用した場合においても約95分で可能である。 また、淡水貯水池を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水開始まで残留熱除去系(A)又は残留熱除去系(B)のいずれの注入配管を使用した場合においても約120分で可能である。</p>	⑤
42	1.4.2.1(3)a.(c) iii.	1.4-59	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
43	1.4.2.2(2)a.(a)	1.4-60,61	<p>(a) 残留熱除去系電源復旧後の発電用原子炉からの除熱 全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)による発電用原子炉からの除熱ができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)にて発電用原子炉からの除熱を実施する。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	<p>(a)残留熱除去系電源復旧後の原子炉除熱 全交流動力電源の喪失により残留熱除去系による崩壊熱除去機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)にて原子炉の除熱を実施する。</p>	② (第二GTGの自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
44	1.4.2.2(2)a.(a) i.	1.4-61	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)が使用可能な状態※1に復旧された場合。	i.手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)が使用可能な状態※1に復旧された場合。	② (第二GTGの自主化)
45	1.4.2.2(2)a.(a) iii.	1.4-64	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
46	1.4.2.2(2)b.	1.4-64	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により交流電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)により発電用原子炉からの除熱を実施する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)により発電用原子炉からの除熱を実施するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、低圧代替注水系(常設)等による原子炉圧力容器への注水を並行して実施する。	外部電源、常設代替交流電源設備等により交流動力電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)により原子炉を除熱する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)により原子炉を除熱するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、低圧代替注水系(常設)等による原子炉の冷却を並行して実施する。	② (第二GTGの自主化)
47	1.4.2.3(2)c.	1.4-69	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
48	第1.4.1表	1.4-71 1.4-72 1.4-73 1.4-74 1.4-75 1.4-76 1.4-77	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
49	第1.4.2表	1.4-78 1.4-79 1.4-81 1.4-82 1.4-83	計器名称の変更に伴い監視計器一覧を修正 ・復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量) ・復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)	・復水補給水系流量(圧力容器) ・残留熱除去系(A)注入配管流量 ・残留熱除去系(B)注入配管流量	② (計器名称の変更)
50	第1.4.2図 第1.4.3図 第1.4.4図 第1.4.5図 第1.4.6図	1.4-91 1.4-92 1.4-93 1.4-94 1.4-95	EOP, SOP, 停止時EOPの変更に伴い対応フローを変更併せて第1.4.1表、第1.4.2表の手順書名称を修正	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
51	第1.4.13図 第1.4.14図 第1.4.15図 第1.4.16図 第1.4.17図 第1.4.19図 第1.4.27図	1.4-102 1.4-103 1.4-104 1.4-105 1.4-106 1.4-107 1.4-109	タイムチャートのパターン増加に伴いタイムチャートを修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.26.No.41に記載 ・タイムチャートの簡素化のため「運転員による操作」, 「緊急時対策要員による操作」に分割	-	⑤
52	添付資料 1.4.1	1.4-125 1.4-126 1.4-127 1.4-128	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
53	添付資料 1.4.1	1.4-126	手順の変更に伴い要員数、時間を修正 ・低圧代替注水系(可搬型)による発電用原子炉の冷却	-	⑤
54	添付資料 1.4.2	1.4-129	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	-	② (緊急用断路器の通常状態変更)
55	添付資料 1.4.3-2	1.4-134	低圧代替注水系(可搬型)による原子炉 圧力容器 への注水(淡水/海水) (1)遠隔 手動弁操作設備を使用しない場合の系統構成 a.操作概要 低圧代替注水系(可搬型)により原子炉 圧力容器 へ注水する際の 系統構成としてMUWC 接続口内側隔離弁(B)又はMUWC 接続口内側隔離弁(A)を全開するため, 管理区域にて遠隔手動弁操作設備のリンク機構を取り外し, 弁操作を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階, 地上1 階(管理区域) c.必要要員数及び時間 遠隔手動弁操作設備の取外し及び取外し後の弁操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間:25 分(実績時間:10 分)	2.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水(淡水/海水) (1)遠隔手動弁操作設備の取外し及び系統構成 a.操作概要 低圧代替注水系(可搬型)により原子炉へ注水する際に, MUWC 接続口内側隔離弁(B)又はMUWC 接続口内側隔離弁(A)は遠隔手動弁操作設備のため, リンク機構を取り外してから系統構成を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階, 地上1 階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉注水に必要な要員数(7 名), 所要時間(95 分)のうち, 遠隔手動弁操作設備の取外し及び取外し後の弁操作に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:25 分(実績時間:10 分)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
56	添付資料 1.4.3-2	1.4-136	<p>(2)遠隔手動弁操作設備を使用する場合の系統構成</p> <p>a.操作概要 低圧代替注水系(可搬型)により原子炉圧力容器へ注水する際の系統構成としてMUWC 接続口内側隔離弁(A)を全開するため, 非管理区域にて遠隔手動弁操作設備を使用して弁操作を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 遠隔手動弁操作設備を使用した弁操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:15 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており, 建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 放射性物質が放出される可能性があることから, 操作は防護具(全面マスク, 個人線量計, ゴム手袋)を装備又は携行して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :一般工具を使用した簡易な操作であり, 容易に実施可能である。 操作対象弁には, 暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器, 電力保安通信用電話設備, 携帯型音声呼出電話設備)のうち, 使用可能な設備により, 中央制御室に連絡する。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
57	添付資料 1.4.3-2	1.4-137	<p>(3)可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水準備及び送水</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水が必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決する。 現場では、指示された送水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により送水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池周辺)</p> <p>c.必要要員数及び時間 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」125分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」140分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330分(実績時間なし)</p>	<p>(2)屋外接続口から原子炉への注水(淡水/海水)</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉への注水が必要な状況において、接続口(消防ホース接続箇所)及び水源を選定し、注水ルートを決する。 現場では、指示された注水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により注水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉への注水に必要な要員(防火水槽を水源とした場合7名、淡水貯水池を水源とした場合8名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合95分、淡水貯水池を水源とした場合120分)のうち、屋外接続口から原子炉への注水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」95分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」120分(実績時間なし)</p>	⑤
58	添付資料 1.4.3-3	1.4-139	<p>3.残留熱除去系(C)注入配管使用による原子炉圧力容器への注水</p> <p>(1)現場での系統構成</p> <p>a.操作概要 低圧代替注水系(常設)等による注水が行えるよう、手動にて残留熱除去系注入弁(C)及び残留熱除去系洗浄水弁(C)を全開し、系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水(残留熱除去系(C)注入配管使用)のうち、現場での系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:40分(実績時間:37分)</p>	<p>3.残留熱除去系(C)注入配管使用による原子炉注水</p> <p>(1)系統構成</p> <p>a.操作概要 復水移送ポンプからの注水が行えるよう、手動にて残留熱除去系注入弁(C)を全開とし、残留熱除去系洗浄水弁(C)を開いて原子炉注水を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 低圧代替注水系(常設)による原子炉注水(残留熱除去系(C)ライン)に必要な要員数(4名)、所要時間(40分)のうち、現場での系統構成、注水操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間:37分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	添付資料 1.4.3-4	1.4-141	<p>高圧炉心注水系(C)注入配管使用による原子炉圧力容器への注水 (1)現場での系統構成、注水操作 a.操作概要 低压代替注水系(常設)等による注水が行えるよう、手動にて高圧炉心注水系注入弁(C)及び高圧炉心注水系洗浄用補給水止め弁(C)を全開し、系統構成及び注水操作を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上1階(管理区域) c.必要要員数及び時間 低压代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水のうち、現場での系統構成及び注水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:30分(実績時間:26分)</p>	<p>4.高圧炉心注水系(C)注入配管使用による原子炉注水 (1)系統構成 a.操作概要 復水移送ポンプからの注水が行えるよう、手動にて高圧炉心注水系注入弁(C)を全開とし、高圧炉心注水系洗浄用補給水止め弁(C)を開いて原子炉注水を行う。 b.作業場所 原子炉建屋 地上1階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 低压代替注水系(常設)による原子炉注水(高圧炉心注水系(C)ライン)に必要な要員数(4名)、所要時間(30分)のうち、現場での系統構成、注水操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:30分(実績時間:26分)</p>	⑤
60	添付資料 1.4.3-5	1.4-143	<p>5. 消火系による原子炉圧力容器への注水 (1)受電操作 a.操作概要 消火系による原子炉圧力容器への注水の系統構成のために電源を確保する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 消火系による原子炉圧力容器への注水のうち、現場での受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:20分(実績時間:18分)</p>	<p>5. 消火系による原子炉注水 (1)受電操作 a.操作概要 消火系による原子炉注水の系統構成のために電源確保を行う。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 消火系による原子炉注水に必要な要員数(6名)、所要時間(30分)のうち系統構成のための電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:20分(実績時間:18分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
61	添付資料 1.4.3-6	1.4-145	<p>6. 残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)による発電用原子炉からの除熱</p> <p>a.操作概要 残留熱除去系の原子炉停止時冷却モードにて発電用原子炉からの除熱を実施するため、残留熱除去系の原子炉停止時冷却モードの現場での系統構成及びそれに必要な電源開放操作を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下3 階(管理区域) 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)による発電用原子炉からの除熱のうち、現場での系統構成及び電源開放操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:系統構成 15分(実績時間:14分) 電源開放 15分(実績時間:12分)</p>	<p>6. 残留熱除去系による原子炉除熱</p> <p>a.操作概要 残留熱除去系の停止時冷却モードにて原子炉の除熱を実施するため、残留熱除去系の停止時冷却モードのラインナップ及びそれに必要な電源開放操作を実施し、残留熱除去系ポンプを起動させ、原子炉の除熱を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下3 階(管理区域) 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数および操作時間 残留熱除去系による原子炉除熱に必要な要員数(6名)、所要時間(20分)のうち、現場での系統構成および電源開放操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4名(現場運転員4名) 所要時間目安:系統構成 15分(実績時間:14分) 電源開放 15分(実績時間:12分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
62	添付資料 1.4.3-7	1.4-147,148	<p>7.残留熱除去系注入配管使用による原子炉圧力容器への注水(全交流動力電源喪失時)</p> <p>(1)系統構成</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源喪失時において, 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水が行えるよう, 手動にて復水補給水系原子炉建屋復水積算計バイパス弁を全閉(復水補給水系バイパス流防止措置), 残留熱除去系注入弁及び残留熱除去系洗浄水弁を全開し, 系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域) 原子炉建屋 地下2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 低圧代替注水系(可搬型)による残留熱除去系注入配管を使用した原子炉圧力容器への注水のうち, 現場での系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :「残留熱除去系(A)注入配管使用の場合」 95 分(実績時間:92 分) 「残留熱除去系(B)注入配管使用の場合」 85 分(実績時間:82 分) 「残留熱除去系(C)注入配管使用の場合」 85 分(実績時間:82 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており, 建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。操作は汚染の可能性を考慮し防護具(全面マスク, 個人線量計, ゴム手袋)を装備して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :通常の弁操作であり, 容易に実施可能である。 操作対象弁には, 暗間でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器, 電力保安通信用電話設備, 携帯型音声呼出電話設備)のうち, 使用可能な設備により, 中央制御室に連絡する。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
63	添付資料 1.4.3-8	1.4-149,150	<p>8.高圧炉心注水系注入配管使用による原子炉圧力容器への注水(全交流動力電源喪失時)</p> <p>(1)系統構成</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源喪失時において, 低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水が行えるよう, 手動にて復水補給水系原子炉建屋復水積算計バイパス弁を全閉(復水補給水系バイパス流防止措置), 高圧炉心注水系注入弁及び高圧炉心注水系洗浄用補給水止め弁を全開し, 系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1 階(管理区域) 原子炉建屋 地下2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 低圧代替注水系(可搬型)による高圧炉心注水系注入配管を使用した原子炉圧力容器への注水のうち, 現場での系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :75 分(実績時間:66 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており, 建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 操作は汚染の可能性を考慮し防護具(全面マスク, 個人線量計, ゴム手袋)を装備して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :通常の弁操作であり, 容易に実施可能である。 操作対象弁には, 暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器, 電力保安通信用電話設備, 携帯型音声呼出電話設備)のうち, 使用可能な設備により, 中央制御室に連絡する。</p>	-	⑤
64	添付資料 1.4.4-2	1.4-152	<p>計器名称の変更に伴い解釈一覧を修正 復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量) 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)</p>	<p>残留熱除去系(A)注入配管流量 残留熱除去系(B)注入配管流量</p>	② (計器名称の変更)
65	添付資料 1.4.4-3	1.4-153,154	<p>記載の拡充 ・弁名称, 操作場所を追加</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.5.1(2)	1.5-9	原子炉補機冷却系による除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・原子炉補機冷却海水ポンプ ・原子炉補機冷却水ポンプ ・原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ ・原子炉補機冷却系サージタンク ・原子炉補機冷却水系熱交換器 ・海水貯留堰 ・スクリーン室 ・取水路 ・補機冷却用海水取水路 ・補機冷却用海水取水槽 ・非常用交流電源設備	原子炉補機冷却系による除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・原子炉補機冷却系海水ポンプ ・原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ ・原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ ・原子炉補機冷却系サージタンク ・原子炉補機冷却系熱交換器 ・海水貯留堰 ・スクリーン室 ・取水路 ・補機冷却用海水取水路 ・補機冷却用海水取水槽 ・非常用交流電源設備	⑤
2	1.5.1(2)a.(a) i.	1.5-11	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・格納容器圧力逃がし装置 ・フィルタ装置スクラバ水補給設備	格納容器圧力逃がし装置又は代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・格納容器圧力逃がし装置 ・専用空気ポンプ ・代替格納容器圧力逃がし装置	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除、スクラバ 水補給設備の自 主化) ⑤
3	1.5.1(2)a.(a) ii.	1.5-11,12	耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・耐圧強化ベント系(W/W)配管・弁 ・耐圧強化ベント系(D/W)配管・弁 ・遠隔手動弁操作設備 ・遠隔空気駆動弁操作ポンプ ・遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 ・原子炉格納容器(サブプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む) ・不活性ガス系配管・弁 ・非常用ガス処理系配管・弁 ・主排気筒(内筒) ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備	耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・耐圧強化ベント系(W/W)配管・弁 ・耐圧強化ベント系(D/W)配管・弁 ・遠隔手動弁操作設備 ・専用空気ポンプ ・原子炉格納容器 ・不活性ガス系配管・弁 ・非常用ガス処理系配管・弁 ・真空破壊弁(S/C→D/W) ・主排気筒(内筒) ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・常設代替直流電源設備	② (専用空気ポンプ のSA化、第二 GTGの自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.5.1(2)a.(a) ii.	1.5-12	格納容器ベントを実施する際の設備とラインの優先順位は以下のとおりとする。 優先①：格納容器圧力逃がし装置によるウェットウェルベント(以下「W/Wベント」という。) 優先②：格納容器圧力逃がし装置によるドライウェルベント(以下「D/Wベント」という。) 優先③：耐圧強化ベント系によるW/Wベント 優先④：耐圧強化ベント系によるD/Wベント	原子炉格納容器ベントを実施する際の設備とラインの優先順位は以下のとおりとする。 優先①：格納容器圧力逃がし装置によるW/W側ベント 優先②：格納容器圧力逃がし装置によるD/W側ベント 優先③：代替格納容器圧力逃がし装置によるW/W側ベント 優先④：代替格納容器圧力逃がし装置によるD/W側ベント 優先⑤：耐圧強化ベント系によるW/W側ベント 優先⑥：耐圧強化ベント系によるD/W側ベント ただし、代替格納容器圧力逃がし装置が完成するまでの期間における優先順位は、①→②→⑤→⑥の順とする。	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
5	1.5.1(2)a.(a) iii.	1.5-12,13	格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の隔離弁(空気駆動弁、電動駆動弁)の駆動源や制御電源が喪失した場合、隔離弁を遠隔で手動操作することで最終ヒートシンク(大気)へ熱を輸送する手段がある。なお、隔離弁を遠隔で手動操作するエリアは原子炉建屋内の原子炉区域外とする。 格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の現場操作で使用する設備は以下のとおり。 ・遠隔手動弁操作設備 ・遠隔空気駆動弁操作ポンペ ・遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁	格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の隔離弁(空気駆動弁、電動駆動弁)の駆動源や制御電源が喪失した場合、隔離弁を手動にて遠隔操作することで最終ヒートシンク(大気)へ熱を輸送する手段がある。なお、隔離弁を手動にて遠隔操作するエリアは二次格納施設外とする。 格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の現場操作で使用する設備は以下のとおり。 ・遠隔手動弁操作設備 ・専用空気ポンペ	② (専用空気ポンペのSA化)
6	1.5.1(2)a.(b)	1.5-13	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備のうち、格納容器圧力逃がし装置は重大事故等対処設備として位置付ける。	格納容器圧力逃がし装置又は代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備のうち、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置は重大事故等対処設備として位置づける。	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
7	1.5.1(2)a.(b)	1.5-13	耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備のうち、耐圧強化ベント系(W/W)配管・弁、耐圧強化ベント系(D/W)配管・弁、遠隔手動弁操作設備、遠隔空気駆動弁操作ポンペ、遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁、原子炉格納容器(サブプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む)、不活性ガス系配管・弁、非常用ガス処理系配管・弁、主排気筒(内筒)、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備、常設代替直流電源設備及び可搬型直流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。	耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備のうち、耐圧強化ベント系(W/W)配管・弁、耐圧強化ベント系(D/W)配管・弁、遠隔手動弁操作設備、原子炉格納容器、不活性ガス系配管・弁、非常用ガス処理系配管・弁、真空破壊弁(S/C→D/W)、主排気筒(内筒)、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備及び常設代替直流電源設備は重大事故等対処設備として位置づける。	② (専用空気ポンペのSA化) ⑤
8	1.5.1(2)a.(b)	1.5-13	現場操作で使用する設備のうち、遠隔手動弁操作設備、遠隔空気駆動弁操作ポンペ及び遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁は重大事故等対処設備として位置付ける。	現場操作で使用する設備のうち、遠隔手動弁操作設備は重大事故等対処設備として位置づける。	② (専用空気ポンペのSA化)
9	1.5.1(2)a.(b)		設備変更(遠隔空気駆動弁操作ポンペ(重大事故等対処設備))に伴い自主対策設備の理由を削除	・専用空気ポンペ 重大事故等対処設備に要求される設備としての耐震性は十分ではないものの、空気駆動弁である原子炉格納容器一次隔離弁等の駆動に必要な空気を空気ポンペより供給が可能であれば、中央制御室又は二次格納施設外からの遠隔操作が可能となり、原子炉格納容器ベント時の系統構成の手段として有効である。	② (専用空気ポンペのSA化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.5.1(2)a.(b)	1.5-14	<p>・フィルタ装置スクラバ水補給設備</p> <p>有効性評価の条件下において、格納容器圧力逃がし装置を使用する場合、事故発生後7日間は、外部からのスクラバ水を補給しなくてもフィルタ装置内に必要となるスクラバ水を保有することができる。</p> <p>その後の安定状態において、スクラバ水が低下した場合、本設備を用いて外部からスクラバ水を補給することで格納容器圧力逃がし装置の機能を維持できることから、炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損防止対策として有効である。</p>	—	⑤
11	1.5.1(2)a.(b)	1.5-14	<p>・第二代替交流電源設備</p> <p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
12	1.5.1(2)b.(a) i.	1.5-16	<p>なお、全交流動力電源喪失により残留熱除去系が起動できない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで残留熱除去系を復旧する。</p> <p>残留熱除去系による除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ・残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード) ・残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) <p>・常設代替交流電源設備</p> <p>・第二代替交流電源設備</p>	<p>なお、全交流動力電源喪失により残留熱除去系が起動できない場合には、常設代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで残留熱除去系を復旧する。</p> <p>残留熱除去系による除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ・残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード) ・残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) <p>・常設代替交流電源設備</p>	② (第二GTGの自主化)
13	1.5.1(2)b.(a) ii.	1.5-17,18	<p>なお、全交流動力電源喪失により残留熱除去系が起動できない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで残留熱除去系を復旧する。</p> <p>残留熱除去系による除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ・残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード) ・残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) <p>・常設代替交流電源設備</p> <p>・第二代替交流電源設備</p>	<p>なお、全交流動力電源喪失により残留熱除去系が起動できない場合には、常設代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで残留熱除去系を復旧する。</p> <p>残留熱除去系による除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ・残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード) ・残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) <p>・常設代替交流電源設備</p>	② (第二GTGの自主化)
14	1.5.1(2)b.(b)	1.5-19	<p>・第二代替交流電源設備</p> <p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
15	1.5.2.1(1)a.	1.5-21	<p>格納容器ベント実施中において、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁又は二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを一旦停止する。また、残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復した場合は、一次隔離弁及び二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを停止する。</p>	<p>原子炉格納容器ベント後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、原子炉格納容器ベント弁を全閉する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
16	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-23	⑦中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止し、非常用ガス処理系フィルタ装置出口隔離弁及び非常用ガス処理系出口Uシール隔離弁の全閉操作、並びに耐圧強化ベント弁、非常用ガス処理系第一隔離弁、換気空調系第一隔離弁、非常用ガス処理系第二隔離弁及び換気空調系第二隔離弁の全閉、及びフィルタ装置入口弁の全閉を確認する。	⑦中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁及び非常用ガス処理系出口Uシール元弁の全閉操作、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁、不活性ガス系非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁、不活性ガス系換気空調系側PCVベント用隔離弁、非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁後弁及び換気空調系側PCVベント用隔離弁後弁の全閉及び、耐圧強化ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全閉を確認する。	⑤
17	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-23,24	⑧a W/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作を実施する。	⑧aW/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系S/Cベント弁操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の全開操作を実施する。 不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。	⑤
18	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-24	⑧b D/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(ドライウェル側)操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁(ドライウェル側)の全開操作を実施する。	⑧bD/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系D/Wベント弁操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全開操作を実施する。 不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。	⑤
19	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-24	⑨現場運転員C及びDは、格納容器ベント前の系統構成として、フィルタベント大気放ラインドレン弁を全閉とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	-	⑤
20	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-25	⑭中央制御室運転員A及びBは、二次隔離弁を調整開(流路面積約70%開)とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を調整開(流路面積約70%開)とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の増開操作を実施する。	⑬中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を調整開(流路面積約70%開)とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の増開操作を実施する。	⑤
21	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-25,26	⑰中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉操作を実施する。なお、一次隔離弁の全閉操作ができない場合は、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。 残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉、その後に二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。	⑱中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合は、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全閉、その後不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全閉操作を実施する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
22	1.5.2.1(1)a.(a) ii.	1.5-26	上記の操作は、1 ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約40分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約35分で可能である。また、空気駆動弁の駆動源が確保できない場合で遠隔手動操作設備による操作を実施する場合は約75分で可能である。	⑤
23	1.5.2.1(1)a.(b) i.	1.5-27	格納容器圧力逃がし装置の系統構成及び格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱を実施中、各隔離弁の駆動源である遠隔空気駆動弁操作ポンプの残量が減少した場合。	原子炉格納容器ベントラインナップ及び原子炉格納容器ベント中、各隔離弁の駆動源である空気ポンプの残量が減少した場合。	⑤
24	1.5.2.1(1)a.(b) ii.	1.5-27	削除	②中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の全閉操作を実施する。	⑤
25	1.5.2.1(1)a.(b) ii.	1.5-28	削除	②中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全閉操作を実施する。	⑤
26	1.5.2.1(1)a.(b) iii.	1.5-29	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
27	1.5.2.1(1)a.(c) iii.	1.5-31	上記の操作は、1 ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りの完了まで45分以内で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りの完了まで60分以内で可能である。	⑤
28	1.5.2.1(1)a.(d) ii.	1.5-32	②a 防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を配備し、防火水槽又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)へ、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタ装置補給水接続口へそれぞれ送水ホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。 ②b 事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合) 緊急時対策要員は、事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタベント装置補給水接続口へホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。	②緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を配備し、防火水槽又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)へ、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタ装置補給水接続口へそれぞれ送水ホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。	② (淡水貯水池の運用変更) ⑤
29	1.5.2.1(1)a.(d) iii.	1.5-33	防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開したフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1 ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定制定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。	防火水槽を水源としたフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定制定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約80分、フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分、計約130分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
30	1.5.2.1(1)a.(d)iii.	1.5-33、34	淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開したフィルタ装置水位調整(水張り)(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。 また、事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を使用したフィルタ装置水位調整(水張り)(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)操作は、1ユニット当たり、緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ位置(A-2級)と送水ルートの確認～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約95分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約155分で可能である。	淡水貯水池を水源としたフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約110分、フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分、計約160分で可能である。	② (淡水貯水池の運用変更) ⑤
31	1.5.2.1(1)a.(e)iii.	1.5-37	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置水位調整(水抜き)完了まで約150分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置水位調整(水抜き)完了まで約135分で可能である。	⑤
32	1.5.2.1(1)a.(f)i.	1.5-38	格納容器圧力逃がし装置の停止を判断した場合。	残留熱除去系あるいは代替循環冷却系の機能が復旧し、格納容器圧力逃がし装置の停止を判断した場合。	⑤
33	1.5.2.1(1)a.(f)ii.	1.5-38	①緊急時対策本部は、手順着手の判断に基づき、当直長に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ前の系統構成を開始するよう指示するとともに、緊急時対策要員に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージの準備の開始を指示する。 ②当直副長は、中央制御室運転員に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ前の系統構成の開始を指示する。 ③中央制御室運転員A及びBは、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ前の系統構成として、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側)、一次隔離弁(ドライウェル側)及び耐圧強化ベント弁の全開確認、並びにフィルタ装置入口弁の全開確認後、二次隔離弁を全開とし、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ準備完了を当直副長に報告する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を全開とする。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全開する手段がある。 ④当直長は、当直副長からの依頼に基づき、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ前の系統構成完了を緊急時対策本部に報告する。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
34	1.5.2.1(1)a.(f) ii.	1.5-39	⑤緊急時対策要員は、原子炉建屋非管理区域内サンプリングラックにて、フィルタ装置の水素濃度測定のため、系統構成及び工具準備、サンプリングポンプの起動を実施する。また、原子炉建屋外壁南側(屋外)へ可搬型窒素供給装置を配備し送気ホースを接続口へ取り付け、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部に報告する。	②緊急時対策要員は、原子炉建屋非管理区域内サンプリングラックにて、フィルタ装置の水素濃度測定のため、系統構成及び工具準備、サンプリングポンプの起動、フィルタ装置水素濃度計の校正を実施する。また、原子炉建屋外壁南側(屋外)へ可搬型窒素供給装置を配備し送気ホースを接続口へ取付操作し、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部へ報告する。	⑤
35	1.5.2.1(1)a.(f) ii.	1.5-39	⑧緊急時対策要員は、サンプリングポンプの起動完了を緊急時対策本部に報告する。 ⑨緊急時対策本部は、可搬型窒素供給装置からの窒素注入の完了及びサンプリングポンプの起動完了を当直長に連絡するとともに、フィルタ装置の入口圧力及び水素濃度の監視を依頼する。	⑤緊急時対策要員は、フィルタ装置水素濃度計の校正完了を緊急時対策本部へ報告する。 ⑥緊急時対策本部は、可搬型窒素供給装置からの窒素注入の完了及びフィルタ装置水素濃度計の校正完了を当直長に連絡するとともに、フィルタ装置の入口圧力及び水素濃度の監視を依頼する。	⑤
36	1.5.2.1(1)a.(f) ii.	1.5-40,41	⑦当直副長は、窒素ガスパージの完了後の系統構成を開始するよう中央制御室運転員に指示する。 ⑩中央制御室運転員A及びBは、窒素ガスパージの完了後の系統構成として、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全閉とし、系統構成完了を当直副長に報告する。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全閉する手段がある。	-	⑤
37	1.5.2.1(1)a.(f) iii.	1.5-41	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ完了まで約270分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置停止後のN ₂ パージ完了まで約240分で可能である。	⑤
38	1.5.2.1(1)a.(g) ii.	1.5-42,43	「フィルタ装置スクラバ水pH調整の手順」記載の適正化	-	⑤
39	1.5.2.1(1)a.(g) iii.	1.5-43	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始の判断をしてから格納容器圧力逃がし装置スクラバ水pH調整完了まで約85分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始の判断をしてから格納容器圧力逃がし装置スクラバ水pH調整完了まで約90分で可能である。	⑤
40	1.5.2.1(1)a.(h) iii.	1.5-45	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレン移送ライン窒素ガスパージ完了まで約155分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレン移送ラインN ₂ パージ完了まで約100分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	1.5.2.1(1)a.(i) ii.	1.5-46,47	<p>②緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室にてドレン移送ポンプの電源が確保されていることをFCVCS 現場制御盤ドレン移送ポンプ運転状態ランプにより確認し、FCVCS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備にて全開とする。フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVCS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁を全開、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にてFCVCS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁を微開とし、ドレン移送ポンプを起動した後、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁の増し開操作により、ポンプ吐出側流量を必要流量に調整し、ドレンタンク内の水をサプレッション・チェンバへ排水し、排水開始を緊急時対策本部に報告する。</p> <p>③緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室FCVCS 計器ラックのドレンタンク水位指示値にて排水による水位の低下を確認し、ドレン移送ポンプを停止した後、フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVCS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁を全開、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にてFCVCS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作、フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVCS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備にて全開とし、ドレンタンク水抜きを完了を緊急時対策本部に報告する。</p>	<p>②緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室にて、ドレン 移送ポンプの電源が確保されていることをFCVCS現場制御盤ドレン移送ポンプ運転状態ランプにより確認し、FCVCS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動操作にて全開とする。フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVCS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にて、FCVCS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁を微開とし、ドレン移送ポンプを起動した後、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁の増し開操作により、ポンプ吐出側流量を必要流量に調整し、ドレンタンク内の水をサプレッション・チェンバへ排水する。</p> <p>③緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室FCVCS 計器ラックのドレンタンク水位指示値にて排水による水位の低下を確認し、ドレン移送ポンプを停止した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVCS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁、FCVCS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にて、FCVCS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作、フィルタベント遮蔽壁附室にて、FCVCS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動操作にて全開とし、ドレンタンク水抜きの完了を緊急時対策本部へ報告する。</p>	⑤
42	1.5.2.1(1)a.(i) iii.	1.5-47,48	上記の操作は、1 ユニット当たり緊急時対策要員2 名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレンタンク水抜き完了まで約80 分で可能である。	上記の操作は、1 ユニット当たり緊急時対策要員2 名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレンタンク水抜き完了まで約105 分で可能である。	⑤
43			「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」の操作手順を削除	-	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
44	1.5.2.1(1)b.	1.5-48	格納容器ベント実施中において、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁又は二次隔離弁を全開し、格納容器ベントを一旦停止する。また、残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復した場合は、一次隔離弁及び二次隔離弁を全開し、格納容器ベントを停止する。	原子炉格納容器ベント後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合は、原子炉格納容器ベント弁を全開する。	⑤
45	1.5.2.1(1)b.(a) ii.	1.5-50	⑥中央制御室運転員A 及びB は、格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止し、非常用ガス処理系フィルタ装置出口隔離弁及び非常用ガス処理系出口U シール隔離弁の全開操作、並びに非常用ガス処理系第一隔離弁、換気空調系第一隔離弁、非常用ガス処理系第二隔離弁及び換気空調系第二隔離弁の全開確認を実施する。	⑥中央制御室運転員A 及びB は、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁及び非常用ガス処理系出口U シール元弁の全開操作、不活性ガス系非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁、不活性ガス系換気空調系側PCVベント用隔離弁、非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁後弁及び換気空調系側PCVベント用隔離弁後弁の全開確認を実施する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
46	1.5.2.1(1)b.(a) ii.	1.5-51	⑩中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、 耐圧強化ベント弁 の全開操作を実施する。	⑩中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の全開操作を実施する。 耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。	⑤
47	1.5.2.1(1)b.(a) ii.	1.5-51	⑪a W/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、 一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側) 操作空気供給弁を全開とし駆動源を確保することで、 一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側) の全開操作を実施する。 ⑪b D/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、 一次隔離弁(ドライウェル側) 操作空気供給弁を全開とし駆動源を確保することで、 一次隔離弁(ドライウェル側) の全開操作を実施する。	⑪aW/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、不活性ガス系S/Cベント弁操作空気供給弁を全開とし駆動源を確保することで、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の全開操作を実施する。 不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。 ⑪bD/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、不活性ガス系D/Wベント弁操作空気供給弁を全開とし駆動源を確保することで、不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全開操作を実施する。 不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。	⑤
48	1.5.2.1(1)b.(a) ii.	1.5-52	⑬中央制御室運転員A及びBは、 二次隔離弁 を調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による格納容器ベントを開始する。 二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、 二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁 の増開操作を実施する。	⑬中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の増開操作を実施する。	⑤
49	1.5.2.1(1)b.(a) ii.	1.5-52,53	⑭中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合は、 一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側) の全開操作を実施する。なお、 一次隔離弁の全開操作ができない場合は、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全開操作を実施する。 残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、 耐圧強化ベント系 を停止できると判断した場合は、 一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側) の全開、その後 に二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁 の全開操作を実施する。	⑭中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全開、その後 に不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁 の全開操作を実施する。	⑤
50	1.5.2.1(1)b.(a) iii.	1.5-53	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで 約55分 で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで60分以内で可能である。また、空気駆動弁の駆動源が確保できない場合で遠隔手動操作設備による操作を実施する場合は 約180分 で可能である。	⑤
51	1.5.2.1(1)b.(a) iii.	1.5-53	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
52	1.5.2.1(1)b.(b) i.	1.5-54	耐圧強化ベント系の系統構成及び耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱を実施中、各隔離弁の駆動源である遠隔空気駆動弁操作ポンベの残量が減少した場合。	原子炉格納容器ベントラインナップ及び原子炉格納容器ベント中、各隔離弁の駆動源である空気ポンベの残量が減少した場合。	⑤
53	1.5.2.1(1)b.(b) ii.	1.5-55	①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、現場運転員に耐圧強化ベント弁遠隔空気駆動弁操作ポンベを、使用済みポンベから予備ポンベへの交換を指示する。	①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の全閉及び耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁駆動用空気ポンベを使用済みの空気ポンベから予備空気ポンベへの交換を指示する。 ②中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の全閉操作を実施する。	⑤
54	1.5.2.1(1)b.(b) iii.	1.5-56	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
55	1.5.2.1(2)a.	1.5-56,57	格納容器ベント実施中において、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁又は二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを一旦停止する。また、残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復した場合は、一次隔離弁及び二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを停止する。	原子炉格納容器ベント後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、原子炉格納容器ベント弁を全閉する。	⑤
56	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-60	⑩現場運転員C及びDは、フィルタベント大気放 layドレン弁を全閉とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	-	⑤
57	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-61,62	⑮現場運転員C及びDは、二次隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開（流路面積約70%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開（流路面積約70%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の増開操作を実施する。	⑭現場運転員C及びDは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開（流路面積約70%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の開操作ができない場合は、PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開（流路面積約70%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の増開操作を実施する。	⑤
58	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-62	⑯中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁（サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側）の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。 残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、一次隔離弁（サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側）の全閉、その後に二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。	⑰中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁の全閉、その後に不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-62	⑩[格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合] 現場運転員C及びDは、遠隔手動弁操作設備により一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉操作を実施する。なお、一次隔離弁の全閉操作ができない場合は、遠隔手動弁操作設備により二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。 [残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合] 現場運転員C及びDは、遠隔手動弁操作設備により一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。	⑩現場運転員C及びDは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉、その後不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉とする。	⑤
60	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-63	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約70分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約55分で可能である。	⑤
61	1.5.2.1(2)a.(a) ii.	1.5-63	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
62			「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱(現場操作)」の操作手順を削除	—	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
63	1.5.2.1(2)b.	1.5-66	格納容器ベント実施中において、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁又は二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを一旦停止する。また、残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復した場合は、一次隔離弁及び二次隔離弁を全閉し、格納容器ベントを停止する。	原子炉格納容器ベント後は、炉心損傷を判断した場合、又は耐圧強化ベント系以外の格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合は、原子炉格納容器ベント弁を全閉する。	⑤
64	1.5.2.1(2)b.(a) ii.	1.5-71	⑪現場運転員C及びDは、二次隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による格納容器ベントを開始する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の増開操作を実施する。	⑪現場運転員C及びDは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベントを開始する。不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の開操作ができない場合は、PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約70%開)とし、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベントを開始する。 なお、原子炉格納容器内の圧力に低下傾向が確認されなかった場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の増開操作を実施する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
65	1.5.2.1(2)b.(a)ii.	1.5-72	⑩中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合は、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。 残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合は、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。	⑩中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合、又は残留熱除去系による格納容器除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合は、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁の全閉、その後不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全閉操作をするよう現場運転員に指示する。	⑤
66	1.5.2.1(2)b.(a)ii.	1.5-72	⑨[格納容器ベント開始後、炉心損傷を判断した場合] 現場運転員C及びDは、遠隔手動弁操作設備により一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉操作を実施する。なお、一次隔離弁の全閉操作ができない場合は、遠隔手動弁操作設備により二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。 [残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱機能及び可燃性ガス濃度制御系の機能が回復し、耐圧強化ベント系を停止できると判断した場合] 現場運転員C及びDは、遠隔手動弁操作設備により一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウェル側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。	⑩現場運転員C及びDは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉、その後不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉とする。	⑤
67	1.5.2.1(2)b.(a)iii.	1.5-73	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
68	1.5.2.1(3)	1.5-73,74	残留熱除去系が機能喪失した場合は、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の除熱を実施する。格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は耐圧強化ベント系により原子炉格納容器内の除熱を実施する。 格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系による格納容器ベントは、弁の駆動電源及び空気源がない場合、現場での手動操作を行う。 なお、格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系を用いて、格納容器ベントを実施する際には、スクラビングによる放射性物質の排出抑制を期待できるW/Wを経由する経路を第一優先とする。W/Wベントラインが水没等の理由で使用できない場合は、D/Wを経由してフィルタ装置を通る経路を第二優先とする。	残留熱除去系が機能喪失した場合は、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の除熱を実施する。格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は代替格納容器圧力逃がし装置により実施し、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は耐圧強化ベント系により原子炉格納容器内の除熱を実施する。 格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベントは、弁の駆動電源及び空気源がない場合、現場での手動操作を行う。 なお、格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系を用いて、原子炉格納容器ベントを実施する際には、スクラビングによる放射性物質の排出抑制を期待できるW/Wを経由する経路を第一優先とする。W/Wベントラインが水没などの理由で使用できない場合は、D/Wを経由してフィルタ装置を通る経路を第二優先とする。	⑤
69	1.5.2.2(1)a.	1.5-74	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源が確保されている場合に、冷却水通水確認後、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード、サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード)を起動し、最終ヒートシンク(海)へ熱を輸送する。	常設代替交流電源設備により残留熱除去系の電源が確保されている場合に、冷却水通水確認後、残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード、サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード)を起動し、最終ヒートシンク(海洋)へ熱を輸送する。	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
70	1.5.2.2(1)a.(b) i.	1.5-76	⑦bB系使用時は、熱交換器ユニットの繋ぎ込み箇所が、原子炉補機冷却水系熱交換器(B/E)冷却水出口弁の後になるため、原子炉補機冷却水系熱交換器(B/E)冷却水出口弁については系統構成対象外とする。(A系使用時は、原子炉補機冷却水系熱交換器(A/D)冷却水出口弁の前に繋ぎこむ)	-	⑤
71	1.5.2.2(1)a.(c)	1.5-78,79	なお、炉心の著しい損傷が発生した場合において代替原子炉補機冷却系を設置する場合、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を2班体制とし、交替して対応する。	-	⑤
72	1.5.2.2(1)a.(c)	1.5-79	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
73	1.5.2.2(1)b.	1.5-79,80	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源が確保されている場合に、冷却水通水確認後、目的に応じた運転モードで残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード、サブレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード)を起動し、最終ヒートシンク(海)へ熱を輸送する。	常設代替交流電源設備により残留熱除去系の電源が確保されている場合に、冷却水通水確認後、目的に応じた運転モードで残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード、サブレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード)を起動し、最終ヒートシンク(海洋)へ熱を輸送する。	② (第二GTGの自主化)
74	1.5.2.2(1)b.(c)	1.5-84	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
75	第1.5.1表	1.5-89	記載の適正化 ・原子炉補機冷却水ポンプ	・原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ	⑤
76	第1.5.1表	1.5-90	設備変更(設備の位置付け)に伴う修正 ・フィルタ装置スクラバ水補給設備(自主対策設備) ・遠隔空気駆動弁操作用ポンプ(重大事故等対処設備)	・格納容器圧力逃がし装置として括っていたため記載なし ・専用空気ポンプ	② (専用空気ポンプのSA化、スクラバ水補給設備の自主化)
77	第1.5.1表	1.5-90	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	-	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
78	第1.5.1表	1.5-90	記載の拡充 ・原子炉格納容器(サブレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む)	・原子炉格納容器	⑤
79	第1.5.1表	1.5-90 1.5-92	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
80	第1.5.2図 第1.5.3図	1.5-104 1.5-105	EOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.5.1表、第1.5.2表の手順書名称を修正	-	⑤
81	第1.5.5図 第1.5.6図	1.5-108	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.22に記載	-	⑤
82	第1.5.10図	1.5-112	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.27に記載	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
83	第1.5.12図	1.5-114 1.5-115 1.5-116	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.29, No.30に記載	—	⑤
84	第1.5.14図	1.5-118	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.31に記載	—	⑤
85	第1.5.16図	1.5-121	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.37に記載	—	⑤
86	第1.5.18図	1.5-123	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.39に記載	—	⑤
87	第1.5.20図	1.5-125	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.40に記載	—	⑤
88	第1.5.22図	1.5-127	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.42に記載	—	⑤
89			「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」の概要図、タイムチャートを削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
90	第1.5.24図 第1.5.25図	1.5-130	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.50に記載	—	⑤
91	第1.5.27図 第1.5.28図	1.5-133	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.60に記載	—	⑤
92			「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱(現場操作)」の概要図、タイムチャートを削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
93	第1.5.30図 第1.5.31図	1.5-136	手順の変更に伴いタイムチャートを修正	—	⑤
94	第1.5.37図	1.5-144	「代替格納容器圧力逃がし装置」の記載削除に伴いフローチャートを修正	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
95	添付資料 1.5.1	1.5-146	記載の適正化 ・原子炉補機冷却水ポンプ	・原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ	⑤
96	添付資料 1.5.1	1.5-147	設備変更(設備の位置付け)に伴う修正 ・フィルタ装置スクラバ水補給設備(自主対策設備) ・遠隔空気駆動弁操作用ポンプ(重大事故等対処設備)	・格納容器圧力逃がし装置として括っていたため記載なし ・専用空気ポンプ	② (専用空気ポンプ のSA化、スクラバ 水補給設備の自 主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
97	添付資料 1.5.1	1.5-147	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
98	添付資料 1.5.1	1.5-147	記載の拡充 ・原子炉格納容器(サブプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む)	・原子炉格納容器	⑤
99	添付資料 1.5.1	1.5-147 1.5-148	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主 化)
100	添付資料 1.5.2	1.5-149	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器 の通常状態変 更)
101	添付資料 1.5.2	1.5-150 1.5-151 1.5-152 1.5-153	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・AC系電動弁、空気作動弁の駆動源をSA化	—	② (AC系弁の駆動 源のSA化)
102	添付資料 1.5.3-1	1.5-154	1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流電源確立時 a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱操作に 必要な電動弁の電源確保及び系統構成を行う。 b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 低層階屋上(非管理区域) c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち、 電源確保及び系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:電源確保 20分(実績時間:18分) 系統構成(原子炉建屋内の原子炉区域外)15分(実績時間:12分)	1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流動力電源確立時 a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱操作に 必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。 b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2 階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要 な要員数(4名)、所要時間(35分※)のうち、電源確保及び現場での系統構 成に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:電源確保 30分(実績時間:24分) ※空気駆動弁の駆動源の確保ができない場合、遠隔手動弁操作設備による 操作を40分とし所要時間が75分となる。 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場 合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場 合 17分)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
103	添付資料 1.5.3-1	1.5-156	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱操作を現場にて行う。全交流動力電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) 系統構成 原子炉建屋 低層階屋上、地上中3階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち、現場での系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:系統構成(原子炉建屋原子炉区域) 35分 (原子炉建屋内の原子炉区域外) 65分※ ※遠隔手動弁操作設備による操作の実績時間は以下の通りである。 (実績時間:一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:一次隔離弁(ドライウエル側)の全開操作を実施する場合 17分) 遠隔手動弁操作設備による格納容器ベント操作 5分(実績時間:二次隔離弁の全開 2分)</p>	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱操作を現場にて行う。交流電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地上中3階、地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上中3階、地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(6名)、所要時間(55分)のうち、系統構成に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:系統構成(二次格納容器施設内) 35分 (二次格納容器施設外) 40分※ 遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作5分 (実績時間:不活性ガス系PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全開 2分) ※遠隔手動弁操作設備による操作の実績時間は以下の通りである。 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 17分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
104	添付資料 1.5.3-2	1.5-159	<p>2.原子炉格納容器ベント弁駆動源確保(予備ポンペ)</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置又は耐圧強化ベント系により大気を最終ヒートシンクとして熱を輸送する場合、空気駆動弁である一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)及び耐圧強化ベント弁を全開とし、格納容器ベントラインを構成する必要がある、通常の駆動空気供給源である計装用圧縮空気系が喪失した状況下では遠隔空気駆動弁操作ポンペが駆動源となる。常設ポンペの残量が減少した場合に、常設ポンペと予備ポンペを交換することで、一次隔離弁及び耐圧強化ベント弁の駆動圧力を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上3階、地上2階、地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 原子炉格納容器ベント弁駆動源確保(予備ポンペ)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:45分(実績時間:32分)</p>	<p>2.PCVベント弁駆動源確保[予備ポンペ]</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器内の圧力上昇に対する原子炉格納容器ベントの必要性が認識された場合、ベント隔離弁を「全開」にして、原子炉格納容器ベントラインを構成する必要がある、通常の駆動源であるIAが喪失した状況下ではAM対策用空気ポンペが駆動源となる。常設ポンペと予備ポンペを交換した後、隔離弁の駆動圧力を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上3階、地上2階、地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 PCVベント弁駆動源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:45分(実績時間:32分)</p>	⑤
105	添付資料 1.5.3-3	1.5-161	<p>3.フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作中におけるフィルタ装置の水位調整のため、フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 想定時間:45分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>3.フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作中におけるフィルタ装置水位調整のため、フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:60分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
106	添付資料 1.5.3-4	1.5-162	<p>4.フィルタ装置水位調整(水張り)</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作時又は格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため、フィルタ装置の水張りによるフィルタ装置の水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置水位調整(水張り)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」6名(緊急時対策要員6名) 「他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合」125分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」125分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」155分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>4.フィルタ装置水位調整(水張り)</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作時又は原子炉格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため、フィルタ装置の水張りによるフィルタ装置の水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置水位調整(水張り)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合」6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」130分 (実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」160分 (実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
107	添付資料 1.5.3-5	1.5-164	<p>5.フィルタ装置水位調整(水抜き)</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作時又は格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため水抜きによる水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置水位調整(水抜き)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 想定時間:150分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>5.フィルタ装置水位調整(水抜き)</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作時又は原子炉格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため水抜きによる水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置水位調整(水抜き)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:135分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
108	添付資料 1.5.3-6	1.5-165	<p>6.格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ</p> <p>a.操作概要 格納容器バント停止後は、配管内に残留する水素ガスによる燃焼防止と、残留蒸気凝縮による配管内の負圧防止のため、格納容器圧力逃がし装置の窒素ガスによるパージを実施する。 窒素ガスの供給は可搬型窒素供給装置にて行い、当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し、窒素供給弁を操作することでパージを行う。</p> <p>また、格納容器バントライン水素サンプリングラックのサンプリングポンプを起動させ、窒素ガスパージ中の配管内の水素濃度を測定する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側(屋外) 原子炉建屋 地上3階 南側通路(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:270分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>6.格納容器圧力逃がし装置停止後のN₂パージ</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器バント停止後は、配管内に残留する水素ガスによる燃焼防止と、残留蒸気凝縮による配管内の負圧防止のため、格納容器圧力逃がし装置の窒素ガスによるパージを実施する。 窒素ガスの供給は可搬型窒素供給装置にて行い、当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し、窒素供給弁を操作することでパージを行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 屋外南側(非管理区域) 原子炉建屋 地上3階 南側通路(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置停止後のN₂パージに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:7名(中央制御室運転員1名、緊急時対策要員6名) (※1.5.3-8とあわせて合計7名の必要要員数とする) 所要時間目安:240分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
109	添付資料 1.5.3-7	1.5-167	<p>7.フィルタ装置スクラバ水pH調整</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)によりスクラバ水に含まれる薬液が排水されることでスクラバ水のpHが規定値よりも低くなることを防止するため薬液を補給する。 薬液補給は可搬型薬液補給装置にて行い、当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し、補給を行う。 また、pHサンプリングポンプを起動させ、スクラバ水のpH値を確認する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタバント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置スクラバ水pH調整に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:85分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>8.フィルタ装置スクラバ水pH調整</p> <p>a.操作概要 排気ガスの凝縮水によりフィルタ装置の水位が上昇した場合、スクラバ水に含まれる薬液が凝縮水により薄まる。スクラバ水のpHが規定値よりも低くなった場合に薬液を補給する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタバント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置スクラバ水pH調整に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:7名(中央制御室運転員1名、緊急時対策要員6名) 所要時間目安:90分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
110	添付資料 1.5.3-8	1.5-169	<p>8.ドレン移送ライン窒素ガスパーズ</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)及びドレンタンク水抜き後は、フィルタ装置排水ラインの水の放射線分解により発生する水素ガスの蓄積を防止するため、フィルタ装置排水ラインの窒素ガスによるパーズを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 ドレン移送ラインの窒素ガスパーズに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 想定時間:155分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>9.ドレン移送ラインN2 パージ</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)・ドレンタンク水抜き後は、フィルタ装置排水ラインの水の放射線分解により発生する水素ガスの蓄積を防止するため、フィルタ装置排水ラインの窒素ガスによるパーズを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 ドレン移送ラインのN2 パージに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:100分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
111	添付資料 1.5.3-9	1.5-171	<p>9.ドレンタンク水抜き</p> <p>a.操作概要 ドレンタンクが水位高に達した場合、よう素フィルタの機能維持のため、ドレン移送ポンプを使用してドレンタンク内の凝縮水を排水する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 ドレンタンク水抜きに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 想定時間:80分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>10.ドレンタンク水抜き</p> <p>a.操作概要 ドレンタンクが水位高に達した場合、よう素フィルタの機能維持のため、ドレン移送ポンプを使用してドレンタンク内の凝縮水を排水する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 ドレンタンク水抜きに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:105分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
112	添付資料 1.5.3-10	1.5-172	<p>10.耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流電源確立時 a.操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。 b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 地上3階, 地上中3階(管理区域) c.必要要員数及び時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち, 電源確保及び系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:電源確保 20分(実績時間:18分) 系統構成(原子炉建屋内の原子炉区域外)30分(実績時間:23分)</p>	<p>12.耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流動力電源確立時 a.操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な電動弁の電源の確保, 系統構成, 及び中央制御室での系統構成のためのAM対策用空気ポンベ出口弁の手動操作を行う b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 地上中3階, 地上3階(非管理区域) W/Wベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/Wベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(4名), 所要時間(60分※)のうち, AM対策用空気ポンベ出口弁の手動操作, 現場系統構成及び電源確保に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:電源確保 30分(実績時間:24分) 系統構成(二次格納容器施設外)25分(実績時間:23分) ※空気駆動弁の駆動源の確保ができない場合, 遠隔手動弁操作設備による操作を120分(40分/1弁)とし所要時間が180分となる。 (実績時間:不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁の全開操作を実施した場合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁の全開操作を実施した場合 17分) (耐圧強化系ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全閉実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし) (耐圧強化系ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の全開実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
113	添付資料 1.5.3-10	1.5-174	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱の系統構成を全交流動力電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により行う。 なお、空気駆動弁の操作手段として、ポンベからの駆動空気を電磁弁排気ポートへ供給することで空気駆動弁を操作することができる。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) 原子炉建屋 地上中3階、地上3階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち、現場系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:系統構成(原子炉建屋原子炉区域) 35分 (原子炉建屋内の原子炉区域外) 120分(40分/1弁)※ 遠隔手動弁操作設備による格納容器ベント操作 5分(実績時間:二次隔離弁の全開 2分) ※遠隔手動弁操作設備による操作の実績時間は以下の通りである。 (実績時間:一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:一次隔離弁(ドライウエル側)の全開操作を実施する場合 17分) (フィルタ装置入口弁の全開:設備設置工事中のため実績時間なし) (耐圧強化ベント弁の全開:設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱の系統構成を交流電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により行う。 なお、空気駆動弁の操作手段として、ポンベからの駆動空気を電磁弁排気ポートへ供給することで空気駆動弁を操作する事ができる。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) 原子炉建屋 地上中3階、地上3階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(6名)、所要時間(135分)のうち、現場系統構成に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:系統構成(二次格納容器施設内) 35分(二次格納容器施設外) 120分(40分/1弁)※遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作5分 (実績時間:不活性ガス系PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全開 2分) ※遠隔手動弁操作設備による操作の実績時間は以下の通りである。 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 17分) (耐圧強化系ベント系PCV ベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全閉実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし) (耐圧強化系ベント系PCV ベントライン排気筒側隔離弁の全開実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
114	添付資料 1.5.3-11	1.5-176	<p>11.代替原子炉補機冷却系による補機冷却水確保</p> <p>a.操作概要 代替原子炉補機冷却系を用いた冷却水確保のため、現場にて原子炉補機冷却系の系統構成を行う。 また、本操作は管理区域及び非管理区域での操作を同要員が行う想定としている。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋(管理及び非管理区域) タービン建屋海水熱交換器エリア(非管理区域) コントロール建屋(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 代替原子炉補機冷却系による補機冷却水確保(系統構成)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:4時間15分(実績時間:4時間)</p>	<p>13.代替原子炉補機冷却系による補機冷却水確保</p> <p>a.操作概要 代替原子炉補機冷却系を用いた冷却水確保のため、現場にて原子炉補機冷却系の系統構成を行う。 また、本操作は管理区域及び非管理区域での操作を同要員が行う想定としている。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋(管理及び非管理区域) タービン建屋海水熱交換器エリア(非管理区域) コントロール建屋(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 代替原子炉補機冷却系による補機冷却水確保(系統構成)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:4時間15分(実績時間:4時間)</p>	⑤
115	添付資料 1.5.3		「代替格納容器圧力逃がし装置」に関する重大事故対策の成立性を削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
116	添付資料 1.5.4-3	1.5- P184,185,1	記載の拡充 ・弁名称、操作場所を追加	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.6.1(2)	1.6-8	残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)による原子炉格納容器内の除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ ・格納容器スプレイ・ヘッド ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・非常用交流電源設備	残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)による原子炉格納容器内の除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・非常用交流電源設備	⑤
2	1.6.1(2)a.(a) i.(i)	1.6-10	代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁 ・格納容器スプレイ・ヘッド ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッド ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	② (第二GTGの自主化) ⑤
3	1.6.1(2)a.(a) i.(ii)	1.6-10,11	消火系による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁 ・格納容器スプレイ・ヘッド ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	消火系による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッド ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	② (第二GTGの自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.6.1(2)a.(a) i.(iii)	1.6-11,12	代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース・接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁 ・格納容器スプレイ・ヘッダ ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による原子炉格納容器内の冷却で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース ・MUWC接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッダ ・原子炉格納容器 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	② (第二GTGの自主化) ⑤
5	1.6.1(2)a.(a) i.(iii)	1.6-12	また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	—	② (淡水貯水池の運用変更)
6	1.6.1(2)a.(a) ii.	1.6-12	代替格納容器スプレイで使用する設備のうち、復水移送ポンプ、復水貯蔵槽、復水補給水系配管・弁、残留熱除去系配管・弁、格納容器スプレイ・ヘッダ、高圧炉心注水系配管・弁、原子炉格納容器、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備、代替所内電気設備、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、ホース・接続口及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。	代替格納容器スプレイで使用する設備のうち、復水移送ポンプ、復水貯蔵槽、復水補給水系配管・弁、残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッダ、高圧炉心注水系配管・弁、原子炉格納容器、常設代替交流電源設備、可搬型代替交流電源設備及び代替所内電気設備は重大事故等対処設備として位置づける。	② (可搬型代替注水ポンプのSA化) ⑤
7	1.6.1(2)a.(a) ii.	—	削除	・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) 原子炉格納容器内を十分に冷却するために必要な流量は確保できないが、代替格納容器スプレイ冷却系による格納容器スプレイが実施できない場合の代替手段として有効である。	② (可搬型代替注水ポンプのSA化)
8	1.6.1(2)a.(a) ii.	1.6-13,14	・第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
9	1.6.1(2)a.(b) i.	1.6-14	全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、 設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）による原子炉格納容器内の除熱ができない場合は、「(a) i . 代替格納容器スプレイ」の手段に加え、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備 を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）を復旧し、 原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させる手段がある。	設計基準事故対処設備である残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）が全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により使用できない場合には、「1.6.1(2)a.(a) i .代替格納容器スプレイ」の手段に加え、常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）を復旧する手段がある。	② (第二GTGの自主化)
10	1.6.1(2)a.(b) i.(i)	1.6-14,15	代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ ・ 格納容器スプレイ・ヘッダ ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備	常設代替交流電源設備による残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッダ ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化) ⑤
11	1.6.1(2)a.(b) i.(ii)	1.6-15	代替交流電源設備による残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備	常設代替交流電源設備による残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）の復旧で使用する設備は以下のとおり。 ・残留熱除去系ポンプ ・サブプレッション・チェンバ ・残留熱除去系熱交換器 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ ・原子炉格納容器 ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化)
12	1.6.1(2)a.(b) ii.	1.6-16	復旧で使用する設備のうち、サブプレッション・チェンバ、 格納容器スプレイ・ヘッダ 、原子炉格納容器、代替原子炉補機冷却系及び常設代替交流電源設備は重大事故等対処設備として位置付ける。また、残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系熱交換器、残留熱除去系配管・弁・ストレーナ及び原子炉補機冷却系は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として位置付ける。 ・ 第二代替交流電源設備	復旧で使用する設備のうち、サブプレッション・チェンバ、原子炉格納容器、代替原子炉補機冷却系及び常設代替交流電源設備は重大事故等対処設備として位置づける。また、残留熱除去系ポンプ、残留熱除去系熱交換器、残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッダ及び原子炉補機冷却系は重大事故等対処設備（設計基準拡張）として位置づける。	⑤
13	1.6.1(2)a.(b) ii.	1.6-16	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
14	1.6.1(2)b.(a) ii.	1.6-17	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給することで原子炉補機冷却系を復旧し、ドライウエル冷却系により原子炉格納容器内の除熱を行う手段がある。	常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給することで原子炉補機冷却系を復旧し、ドライウエル冷却系により原子炉格納容器内を除熱する手段がある。	② (第二GTGの自主化)
15	1.6.1(2)b.(a) ii.(i)	1.6-18	ドライウエル冷却系による原子炉格納容器内の代替除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・ドライウエル冷却系送風機 ・ドライウエル冷却系冷却器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備	ドライウエル冷却系により原子炉格納容器内を除熱する設備は以下のとおり。 ・ドライウエル冷却系送風機 ・ドライウエル冷却系冷却器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化)
16	1.6.1(2)b.(a) iii.	—	削除	・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) 原子炉格納容器内を十分に冷却するために必要な流量は確保できないが、代替格納容器スプレイ冷却系による格納容器スプレイが実施できない場合の代替手段として有効である。	② (可搬型代替注水ポンプのSA化)
17	1.6.1(2)b.(a) iii.	1.6-19	・ドライウエル冷却系 耐震性は確保されておらず、除熱量は小さいが、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により原子炉補機冷却系を復旧し、原子炉格納容器内への冷却水通水及びドライウエル冷却系送風機の起動が可能である場合、原子炉格納容器内を除熱する手段として有効である。 また、ドライウエル冷却系送風機が停止している場合においても、冷却水の通水を継続することにより、ドライウエル冷却系冷却器のコイル表面で蒸気を凝縮し、原子炉格納容器内の圧力上昇を緩和することが可能である。	・ドライウエル冷却系 耐震性は確保されておらず、除熱量は小さいが、常設代替交流電源設備により原子炉補機冷却系を復旧し、原子炉格納容器内への冷却水通水及びドライウエル冷却系送風機の起動が可能である場合、原子炉格納容器内の除熱手段の一つとして有効である。 また、ドライウエル冷却系送風機が停止している場合においても、冷却水の通水を継続することにより、ドライウエル冷却系冷却器のコイル表面で蒸気を凝縮し、原子炉格納容器内の圧力上昇を緩和することが可能である。	② (第二GTGの自主化)
18	1.6.1(2)b.(a) iii.	1.6-19	・第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)
19	1.6.1(2)b.(b) i.	1.6-20	全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、設計基準事故対処設備である残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)が使用できない場合は、「(a) i .代替格納容器スプレイ」の手段に加え、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)を復旧し、原子炉格納容器内の圧力及び温度並びに放射性物質の濃度を低下させる手段がある。	設計基準事故対処設備である残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)が全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系により使用できない場合には、「1.6.1(2)b.(a) i .代替格納容器スプレイ」の手段に加え、常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)を復旧する手段がある。	② (第二GTGの自主化)
20	1.6.2.1(1)a.(a) i.	1.6-22,23	※ 2:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に達した場合。	※ 2:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に達した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	1.6.2.1(1)a.(a) ii.	1.6-25	⑨ 中央制御室運転員A及びBは、復水補給水系流量（RHRB系代替注水流量）指示値が140m ³ /hとなるよう残留熱除去系洗浄水弁(B)を調整開とし、原子炉格納容器内へのスプレイを開始する。	⑨中央制御室運転員A及びBは、残留熱除去系(B)注入配管流量指示値が140m ³ /hとなるよう残留熱除去系洗浄水弁(B)を調整開とし、格納容器スプレイを開始する。	② (計器名称の変更)
22	1.6.2.1(1)a.(a) ii.	1.6-25	なお、格納容器内圧力(D/W)、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ停止の判断基準(第1.6.4表)に到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に再度到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを再開する。	なお、格納容器内圧力(S/C)又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ停止の判断基準(表1.6.4)に到達した場合は、格納容器スプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、ドライウエル雰囲気温度又はサブプレッション・チェンバ氣體温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に再度到達した場合は、格納容器スプレイを再開する。	⑤
23	1.6.2.1(1)a.(a) iii.	1.6-26	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
24	1.6.2.1(1)a.(b) i.	1.6-27,28	※2:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に達した場合。	※2:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に達した場合。	⑤
25	1.6.2.1(1)a.(b) ii.	1.6-29	⑨ 5号炉運転員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部に報告する。また、緊急時対策本部は当直長に報告する。	⑨緊急時対策要員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部を経由し、当直長へ報告する。	⑤
26	1.6.2.1(1)a.(b) ii.	1.6-30	なお、格納容器内圧力(D/W)、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ停止の判断基準(第1.6.4表)に到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に再度到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを再開する。	なお、格納容器内圧力(S/C)又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ停止の判断基準(表1.6.4)に到達した場合は、格納容器スプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、ドライウエル雰囲気温度又はサブプレッション・チェンバ氣體温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に再度到達した場合は、格納容器スプレイを再開する。	⑤
27	1.6.2.1(1)a.(b) iii.	1.6-31	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから消火系による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約30分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから消火系による格納容器スプレイ開始まで約30分で可能である。	⑤
28	1.6.2.1(1)a.(b) iii.	1.6-31	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
29	1.6.2.1(1)a.(c) i.	1.6-32,33	※2:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に達した場合。	※2:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウエル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に達した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
30	1.6.2.1(1)a.(c) ii.	1.6-34	⑤ 現場運転員C及びDは、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイの系統構成として、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う)。 なお、上記の送水ライン以外にも、原子炉建屋原子炉区域にて接続口から復水補給水系配管までホースを敷設し送水するラインがある。	⑤現場運転員C及びDは、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイの系統構成として、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する。(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う。)	⑤
31	1.6.2.1(1)a.(c) ii.	1.6-36	※2:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウェル雰囲気温度、サプレッション・チェンバ氣體温度又はサプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に達した場合。	※2:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウェル雰囲気温度、サプレッション・チェンバ氣體温度又はサプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に達した場合。	⑤
32	1.6.2.1(1)a.(c) ii.	1.6-37~40	代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水)に[全交流動力電源が喪失している場合]の操作手順を追加	-	⑤
33	1.6.2.1(1)a.(c) iii.	1.6-40~42	代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での系統構成を、交流電源が確保されている場合は1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて、全交流動力電源が喪失している場合は1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員2名にて作業を実施した場合の所要時間は以下のとおり。 交流電源が確保されている場合: 約25分 全交流動力電源が喪失している場合: 約100分 また、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。 [防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作は、作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約330分で可能である。	防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ開始まで約95分で可能である。 また、淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ開始まで約120分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
34	1.6.2.1(1)a.(c)iii.	1.6-42	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
35	1.6.2.1(2)a.(a)	1.6-43	全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）による原子炉格納容器内へのスプレイができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）にて原子炉格納容器内にスプレイする。 スプレイ作動後は原子炉格納容器内の圧力が負圧とならないように、スプレイ流量の調整又はスプレイの起動/停止を行う。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	全交流動力電源の喪失により常設の原子炉格納容器冷却設備による冷却機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）にて格納容器スプレイを実施する。 スプレイ作動後は原子炉格納容器内の圧力が負圧とならないように、スプレイ流量の調整又はスプレイの起動/停止を行う。	② (第二GTGの自主化) ⑤
36	1.6.2.1(2)a.(a)i.	1.6-43,44	i. 手順着手の判断基準 常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線D系の受電が完了し、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が使用可能な状態※1に復旧された場合で、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達した場合※2。	全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線D系の受電が完了し、残留熱除去系（格納容器スプレイ冷却モード）が使用可能な状態※1に復旧された場合で、格納容器スプレイ起動の判断基準に到達した場合※2。	② (第二GTGの自主化)
37	1.6.2.1(2)a.(a)i.	1.6-44	※2:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準（第1.6.4表）に達した場合。	※2:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準（表1.6.4）に達した場合。	⑤
38	1.6.2.1(2)a.(a)ii.	1.6-46	なお、格納容器内圧力(D/W)、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ停止の判断基準（第1.6.4表）に到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ氣體温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準（第1.6.4表）に再度到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを再開する。	なお、格納容器内圧力(S/C)又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ停止の判断基準（表1.6.4）に到達した場合は、格納容器スプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、ドライウェル雰囲気温度又はサブプレッション・チェンバ氣體温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準（表1.6.4）に再度到達した場合は、格納容器スプレイを再開する。	⑤
39	1.6.2.1(2)a.(b)	1.6-47	全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）（以下「残留熱除去系（S/P冷却モード）」という。）によるサブプレッション・チェンバ・プールの除熱ができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系（S/P冷却モード）にてサブプレッション・チェンバ・プールの除熱を実施する。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	全交流動力電源の喪失により残留熱除去系によるS/P水除熱機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系（S/P水冷却モード）の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系（S/P水冷却モード）にてS/P水の除熱を実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
40	1.6.2.1(2)a.(b) i.	1.6-48	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(S/P冷却モード)が使用可能な状態※1に復旧された場合。	全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(サブプレッション・チェンバプール水冷却モード)が使用可能な状態※1に復旧された場合。	② (第二GTGの自主化)
41	1.6.2.1(2)b.	1.6-50	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により交流電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びS/P冷却モード)により原子炉格納容器内の除熱を実施する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びS/P冷却モード)により原子炉格納容器内の除熱を実施するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、代替格納容器スプレイ冷却系(常設)等による原子炉格納容器内へのスプレイを並行して実施する。	外部電源、常設代替交流電源設備等により交流動力電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバプール水冷却モード)により原子炉格納容器内の冷却を実施する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバプール水冷却モード)により原子炉格納容器内の冷却を行うが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、代替格納容器スプレイ冷却系、消火系、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による原子炉格納容器内の冷却を並行して実施する。	② (第二GTGの自主化)
42	1.6.2.2(1)a.(a) i.	1.6-51	※3:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.5表)に達した場合。	※3:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.5)に達した場合。	⑤
43	1.6.2.2(1)a.(a) iii.	1.6-52	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
44	1.6.2.2(1)a.(b) i.	1.6-53	※3:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.5表)に達した場合。	※3:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.5)に達した場合。	⑤
45	1.6.2.2(1)a.(b) iii.	1.6-54	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから消火系による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約30分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施し、作業開始を判断してから消火系による格納容器スプレイ開始まで約30分で可能である。	⑤
46	1.6.2.2(1)a.(b) iii.	1.6-54	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
47	1.6.2.2(1)a.(c) i.	1.6-56	※3:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.5表)に達した場合。	※3:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力、ドライウエル雰囲気温度又は原子炉圧力容器下鏡部温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.5)に達した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
48	1.6.2.2(1)a.(c) ii.	1.6-56	代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイについては、「1.6.2.1(1)a.(c)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水)」の操作手順のうち、[交流電源が確保されている場合]の操作手順と同様である。ただし、MUWC接続口内側隔離弁の操作については、リンク機構を取り外さず、MUWC接続口内側隔離弁(B)の場合は屋外(緊急時対策要員)にて、MUWC接続口内側隔離弁(A)の場合は非管理区域(運転員)にて遠隔手動弁操作設備を使用して行う。また、スプレイの停止、再開及び流量は、原子炉格納容器内へのスプレイ起動・停止の判断基準(第1.6.5表)に従い実施する。	可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイについては、「1.6.2.1(1)a.(c)可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ」の操作手順と同様である。ただし、代替格納容器スプレイの停止、再開及び流量は、格納容器スプレイ起動・停止の判断基準(表1.6.5)に従い実施する。	⑤
49	1.6.2.2(1)a.(c) iii.	1.6-57,58	代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合の所要時間は約20分である。 また、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。 [防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ操作は、作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約330分で可能である。	防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ開始まで約95分で可能である。 また、淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ開始まで約120分で可能である。	⑤
50	1.6.2.2(1)a.(c) iii.	1.6-58	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
51	1.6.2.2(1)b.(a)	1.6-58,59	代替格納容器スプレー冷却系(常設)等による原子炉格納容器内へのスプレー及び残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)の復旧ができず、原子炉格納容器からの除熱手段がない場合に、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により原子炉補機冷却系の電源を復旧し、原子炉格納容器内へ冷却水通水後、ドライウェル冷却系送風機を起動して原子炉格納容器内の除熱を行う。 ドライウェル冷却系送風機を停止状態としても、原子炉格納容器内の冷却水の通水を継続することで、ドライウェル冷却系冷却器コイル表面で蒸気を凝縮し、原子炉格納容器内の圧力の上昇を緩和する。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	代替格納容器スプレー及び残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)の復旧ができず、格納容器除熱手段がない場合に、常設代替交流電源設備により原子炉補機冷却系の電源を復旧し、原子炉格納容器内へ冷却水通水後、ドライウェル冷却系送風機を起動して原子炉格納容器内を除熱する。ドライウェル冷却系送風機を停止状態としても、原子炉格納容器内の冷却水の通水を継続することで、ドライウェル冷却系冷却器コイル表面で蒸気を凝縮し、原子炉格納容器内の圧力の上昇を緩和する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
52	1.6.2.2(1)b.(a)i.	1.6-59	発電用原子炉の注水機能が喪失し、代替格納容器スプレー及び残留熱除去系による原子炉格納容器内の除熱ができず、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により原子炉補機冷却系が復旧可能である場合。室温は通常運転時と同程度である。	原子炉の注水機能が喪失し、代替格納容器スプレー及び残留熱除去系による格納容器除熱ができず、常設代替交流電源設備により、原子炉補機冷却系(海水系含む)が復旧可能である場合。	② (第二GTGの自主化)
53	1.6.2.2(1)b.(a)iii.	1.6-61		-	⑤
54	1.6.2.2(1)c.	1.6-61	削除	交流電源が確保できない場合、電動弁の手動操作により系統構成を実施し、消火系又は可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による原子炉格納容器内の冷却を実施する。	⑤
55	1.6.2.2(2)a.(a)	1.6-62	炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)による原子炉格納容器内へのスプレーができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)にて原子炉格納容器内にスプレーする。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	全交流動力電源の喪失により常設の原子炉格納容器冷却設備による冷却機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)にて格納容器スプレーを実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
56	1.6.2.2(2)a.(a)i.	1.6-62,63	炉心損傷を判断した場合※1において、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線D系の受電が完了し、残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)が使用可能な状態※2に復旧された場合で、原子炉格納容器内へのスプレー起動の判断基準に到達した場合※3。	炉心損傷を判断した場合※1において、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線D系の受電が完了し、残留熱除去系(格納容器スプレー冷却モード)が使用可能な状態※2に復旧された場合で、格納容器スプレー起動の判断基準に到達した場合※3。	② (第二GTGの自主化)
57	1.6.2.2(2)a.(a)i.	1.6-63	※3:「原子炉格納容器内へのスプレー起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)又は格納容器内圧力(S/C)指示値が、原子炉格納容器内へのスプレー起動の判断基準(第1.6.5表)に達した場合。	※3:「格納容器スプレー起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力指示値が、格納容器スプレー起動の判断基準(表1.6.5)に達した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
58	1.6.2.2(2)a.(b)	1.6-64,65	全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却系の故障により、残留熱除去系(S/P冷却モード)によるサブプレッション・チェンバ・プールの除熱ができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(S/P冷却モード)にてサブプレッション・チェンバ・プールの除熱を実施する。 なお、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	全交流動力電源の喪失により残留熱除去系(S/P水冷却モード)によるS/P水除熱機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系(S/P水冷却モード)の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(S/P水冷却モード)にてS/P水の除熱を実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
59	1.6.2.2(2)a.(b)i.	1.6-65	炉心損傷を判断した場合※1において、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(S/P冷却モード)が使用可能な状態※2に復旧された場合。	炉心損傷を判断した場合※1において、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線C系又はD系の受電が完了し、残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)が使用可能な状態※2に復旧された場合。	② (第二GTGの自主化)
60	1.6.2.2(2)b.	1.6-66	常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により交流電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びS/P冷却モード)により原子炉格納容器内の除熱を実施する。原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びS/P冷却モード)により原子炉格納容器内の除熱を実施するが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、代替格納容器スプレイ冷却系(常設)等による原子炉格納容器内へのスプレイを並行して実施する。	外部電源、常設代替交流電源設備等により交流動力電源が確保できた場合、原子炉補機冷却系の運転が可能であれば残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)により原子炉格納容器内の冷却を実施する。 原子炉補機冷却系の運転ができない場合、代替原子炉補機冷却系を設置し、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード)により原子炉格納容器内の冷却を行うが、代替原子炉補機冷却系の設置に時間を要することから、代替格納容器スプレイ系、消火系、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による原子炉格納容器内の冷却を並行して実施する。	② (第二GTGの自主化)
61	1.6.2.3(1)a.	1.6-67	※1:「原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に達した場合。	※1:「格納容器スプレイ起動の判断基準に到達」とは、格納容器内圧力(D/W)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に達した場合。	⑤
62	1.6.2.3(1)b.	1.6-69	なお、格納容器内圧力(D/W)、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ停止の判断基準(第1.6.4表)に到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、格納容器内圧力(S/C)、ドライウェル雰囲気温度、サブプレッション・チェンバ気体温度又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、原子炉格納容器内へのスプレイ起動の判断基準(第1.6.4表)に再度到達した場合は、原子炉格納容器内へのスプレイを再開する。	なお、格納容器内圧力(S/C)又はサブプレッション・チェンバ・プール水位指示値が、格納容器スプレイ停止の判断基準(表1.6.4)に到達した場合は、格納容器スプレイを停止する。その後、格納容器内圧力(D/W)、ドライウェル雰囲気温度又はサブプレッション・チェンバ気体温度指示値が、格納容器スプレイ起動の判断基準(表1.6.4)に再度到達した場合は、格納容器スプレイを再開する。	⑤
63	第1.6.1表	1.6-73 1.6-76 1.6-79	記載の適正化 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ(設計基準拡張) ・格納容器スプレイ・ヘッド(重大事故等対処設備)	・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド(設計基準拡張)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
64	第1.6.1表	1.6-74 1.6-75 1.6-76 1.6-77 1.6-78 1.6-79	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
65	第1.6.1表	1.6-74 1.6-75 1.6-77 1.6-78	記載の適正化 ・残留熱除去系配管・弁(重大事故等対処設備) ・格納容器スプレイ・ヘッダ(重大事故等対処設備)	・残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッダ(重大事故等対処設備, 自主対策設備)	⑤
66	第1.6.1表	1.6-75 1.6-78	設備変更に伴い対処設備を変更 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級)(重大事故等対処設備)	・可搬型代替注水ポンプ(A-2級)(自主対策設備)	② (可搬型代替注水ポンプのSA化)
67	第1.6.2表	1.6-80 1.6-81 1.6-82 1.6-85 1.6-86 1.6-87	計器名称の変更に伴い監視計器一覧を修正 ・復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)	・復水補給水系流量(圧力容器) ・残留熱除去系(B)注入配管流量	② (計器名称の変更)
68	第1.6.4表	1.6-95	EOPの変更に伴い判断基準を変更	—	⑤
69	第1.6.5表	1.6-96	SOPの変更に伴い判断基準を変更	—	⑤
70	第1.6.2図 第1.6.3図 第1.6.4図 第1.6.5図 第1.6.6図	1.6-100 1.6-101 1.6-102 1.6-103 1.6-104	EOP, SOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.6.1表, 第1.6.2表の手順書名称を修正	—	⑤
71	第1.6.12図 第1.6.13図 第1.6.15図 第1.6.20図	1.6-110 1.6-111 1.6-112 1.6-114 1.6-119	タイムチャートのパターン増加に伴いタイムチャートを修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.33, No.49に記載 ・タイムチャートの簡素化のため「運転員による操作」, 「緊急時対策要員による操作」に分割	—	⑤
72	第1.6.26図	1.6-125 1.6-126	「代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ」を重大事故等対処設備に変更	—	② (可搬型代替注水ポンプのSA化)
73	添付資料 1.6.1	1.6-129 1.6-131	記載の適正化 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ(設計基準拡張) ・格納容器スプレイ・ヘッダ(重大事故等対処設備)	・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッダ(設計基準拡張)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
74	添付資料 1.6.1	1.6-130	記載の適正化 ・残留熱除去系配管・弁(重大事故等対処設備) ・格納容器スプレイ・ヘッダ(重大事故等対処設備)	・残留熱除去系配管・弁・スプレイヘッダ(重大事故等対処設備, 自主対策設備)	⑤
75	添付資料 1.6.1	1.6-130 1.6-131	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
76	添付資料 1.6.2	1.6-132	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	-	② (緊急用断路器の通常状態変更)
77	添付資料 1.6.3-2	1.6-137	2.消火系による原子炉格納容器内へのスプレイ (1)受電操作 a.操作概要 消火系による原子炉格納容器内へのスプレイの系統構成のために電源を確保する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 消火系による原子炉格納容器内へのスプレイのうち、系統構成のための受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:20分(実績時間:18分)	2.消火系による格納容器スプレイ (1)受電操作 a.操作概要 消火系による格納容器スプレイ系統構成のための電源確保を行う。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 消火系による格納容器スプレイに必要な要員数(6名)、所要時間(30分)のうち系統構成のための電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:20分(実績時間:18分)	⑤
78	添付資料 1.6.3-3	1.6-139	3.代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水) (1)遠隔手動弁操作設備を使用しない場合の系統構成 a.操作概要 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)により原子炉格納容器内へスプレイする際の系統構成としてMUWC 接続口内側隔離弁(B)又はMUWC 接続口内側隔離弁(A)を全開するため、管理区域にて遠隔手動弁操作設備のリンク機構を取り外し、弁操作を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上2階, 地上1階(管理区域) c.必要要員数及び時間 遠隔手動弁操作設備の取外し及び取外し後の弁操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:25分(実績時間:10分)	3.可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ(淡水/海水) (1)遠隔手動弁操作設備の取外し及び系統構成 a.操作概要 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイを行う際に、MUWC 接続口内側隔離弁(B)又はMUWC 接続口内側隔離弁(A)は遠隔手動弁操作設備のため、リンク機構を取り外してから系統構成を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上2階, 地上1階(管理区域) c.必要要員数及び操作時間 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイに必要な要員数(7名)、所要時間(95分)のうち、遠隔手動弁操作設備の取外し及び取外し後の弁操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:25分(実績時間:10分)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
79	添付資料 1.6.3-3	1.6-141	<p>(2)遠隔手動弁操作設備を使用する場合の系統構成</p> <p>a.操作概要 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)により原子炉格納容器内ヘスプレイする際の系統構成としてMUWC 接続口内側隔離弁(A)を全開するため, 非管理区域にて遠隔手動弁操作設備を使用して弁操作を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 遠隔手動弁操作設備を使用した弁操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:15 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており, 建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 放射性物質が放出される可能性があることから, 操作は防護具(全面マスク, 個人線量計, ゴム手袋)を装備して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :一般工具を使用した簡易な操作であり, 容易に実施可能である。 操作対象弁には, 暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器, 電力保安通信用電話設備, 携帯型音声呼出電話設備)のうち, 使用可能な設備により, 中央制御室に連絡する。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
80	添付資料 1.6.3-3	1.6-142	<p>(3)可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水準備及び送水</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイが必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決定する。 現場では、指示された送水ルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により送水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池周辺)</p> <p>c.必要要員数及び時間 代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイのうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」3名の場合125分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」140分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330分(実績時間なし)</p>	<p>(2)可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水準備及び送水</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による格納容器スプレイが必要な状況において、接続口(消防ホース接続箇所)及び水源を選定し、スプレイルートを決定する。 現場では、指示されたスプレイルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により原子炉格納容器へスプレイする。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による格納容器スプレイに必要な要員(防火水槽を水源とした場合7名、淡水貯水池を水源とした場合8名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合95分、淡水貯水池を水源とした場合120分)のうち、屋外接続口から格納容器スプレイに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」95分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」120分(実績時間なし)</p>	⑤
81	添付資料 1.6.3-4	1.6-144	<p>4.ドライウエル冷却系による原子炉格納容器内の代替除熱</p> <p>(1)受電操作</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器内へ冷却水通水後、ドライウエル冷却系送風機を起動して原子炉格納容器内を除熱するために必要となる電源を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 ドライウエル冷却系による原子炉格納容器内の代替除熱のうち、原子炉格納容器内への冷却水通水、ドライウエル冷却系送風機起動のための受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:30分(実績時間:24分)</p>	<p>4.ドライウエル冷却系による格納容器除熱</p> <p>(1)受電操作</p> <p>a.操作概要 格納容器内へ冷却水通水後、ドライウエル冷却系送風機を起動して格納容器を除熱するために必要となる電源を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 ドライウエル冷却系による格納容器除熱に必要な要員数(4名)、所要時間(45分)のうち格納容器内への冷却水通水、ドライウエル冷却系送風機起動のための電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:30分(実績時間:24分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
82	添付資料 1.6.3-5	1.6-146,147	<p>5.残留熱除去系(B)配管使用による原子炉格納容器内へのスプレイ(全交流動力電源喪失時)</p> <p>(1)系統構成</p> <p>a.操作概要</p> <p>全交流動力電源喪失時において, 可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)又は消火系による原子炉格納容器内へのスプレイが行えるよう, 手動にて復水補給水系原子炉建屋復水積算計バイパス弁を全閉(復水補給水系バイパス流防止措置), 残留熱除去系格納容器冷却流量調節弁(B), 残留熱除去系格納容器冷却ライン隔離弁(B)及び残留熱除去系洗浄水弁(B)を全開とし, 系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所</p> <p>原子炉建屋 地上1 階(管理区域) 原子炉建屋 地下2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間</p> <p>代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイのうち, 現場での系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。</p> <p>必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :100 分(実績時間:95 分)</p> <p>d.操作の成立性について</p> <p>作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており, 建屋内常用明消灯時における作業性を確保している。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。</p> <p>操作は汚染の可能性を考慮し防護具(全面マスク, 個人線量計, ゴム手袋)を装備して作業を行う。</p> <p>移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また, ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。</p> <p>アクセスルート上に支障となる設備はない。</p> <p>操作性 :通常の弁操作であり, 容易に実施可能である。</p> <p>操作対象弁には, 暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。</p> <p>連絡手段:通信連絡設備(送受話器, 電力保安通信用電話設備, 携帯型音声呼出電話設備)のうち, 使用可能な設備により, 中央制御室に連絡する。</p>	-	⑤
83	添付資料 1.6.4-3	1.6-150	<p>記載の拡充</p> <p>・弁名称, 操作場所を追加</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.7.1(2)a.(a) i.	1.7-7,8	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・フィルタ装置 ・よう素フィルタ ・ラプチャーディスク ・ドレン移送ポンプ ・ドレンタンク ・遠隔手動弁操作設備 ・遠隔空気駆動弁操作作用ポンペ ・可搬型窒素供給装置 ・スクラバ水pH 制御設備 ・フィルタベント遮蔽壁 ・配管遮蔽 ・不活性ガス系配管・弁 ・耐圧強化ベント系配管・弁 ・格納容器圧力逃がし装置配管・弁 ・遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 ・ホース・接続口 ・原子炉格納容器(サブプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む) ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・フィルタ装置 ・よう素フィルタ ・フィルタ装置水位 ・フィルタ装置入口圧力 ・フィルタ装置出口放射線モニタ ・フィルタ装置金属フィルタ差圧 ・フィルタ装置水素濃度 ・フィルタ装置スクラバ水pH ・ドレン移送ポンプ ・ドレンタンク ・遠隔手動弁操作設備 ・スクラバ水pH制御設備 ・ラプチャーディスク ・可搬型窒素供給装置 ・フィルタベント遮蔽壁 ・配管遮蔽 ・原子炉格納容器 ・真空破壊弁(S/C→D/W) ・格納容器圧力逃がし装置配管・弁 ・不活性ガス系配管・弁 ・耐圧強化ベント系配管・弁 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・常設代替直流電源設備 ・燃料補給設備	② (専用空気ポンベのSA化、第二GTGの自主化) ⑤
2	1.7.1(2)	—	削除	「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」で使用する設備	② (代替格納容器圧力逃がし装置削除)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
3	1.7.1(2)a.(a) i.	1.7-8,9	格納容器ベントを実施する際の設備とラインの優先順位は以下のとおりとする。 優先①: 格納容器圧力逃がし装置によるウェットウェルベント(以下「W/Wベント」という。) 優先②: 格納容器圧力逃がし装置によるドライウェルベント(以下「D/Wベント」という。)	原子炉格納容器ベントを実施する際の設備とラインの優先順位は以下のとおりとする。 優先①: 格納容器圧力逃がし装置によるW/W側ベント 優先②: 格納容器圧力逃がし装置によるD/W側ベント 優先③: 代替格納容器圧力逃がし装置によるW/W側ベント 優先④: 代替格納容器圧力逃がし装置によるD/W側ベント ただし, 代替格納容器圧力逃がし装置が完成するまでの期間における優先順位は, ①→②の順とする。	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 削除)
4	1.7.1(2)a.(a) i.	1.7-9	フィルタ装置スクラバ水補給設備によるフィルタ装置へのスクラバ水の補給で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2 級) ・ホース・接続口 ・防火水槽 ・淡水貯水池	—	② (スクラバ水補給 設備の自主化)
5	1.7.1(2)a.(a) i.	1.7-9	なお, フィルタ装置スクラバ水補給設備は, 防火水槽又は淡水貯水池の淡水を利用する。また, 淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は, 淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と, そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	—	② (淡水貯水池の 運用変更)
6	1.7.1(2)a.(a) ii.	1.7-10	格納容器圧力逃がし装置の現場操作で使用する設備は以下のとおり。 ・遠隔手動弁操作設備 ・遠隔空気駆動弁操作ポンプ ・遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁	格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置の現場操作で使用する設備は以下のとおり。 ・遠隔手動弁操作設備	② (専用空気ポンベ のSA化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.7.1(2)a.(b)	1.7-11,12	<p>代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復水移送ポンプ ・代替原子炉補機冷却系 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・サプレッション・チェンバ ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ ・高圧炉心注水系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・格納容器スプレイ・ヘッド ・ホース ・原子炉圧力容器 ・原子炉格納容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復水移送ポンプ ・サプレッション・チェンバ ・代替循環冷却系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド ・高圧炉心注水系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・給水系配管・弁・スパージャ ・格納容器下部注水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・原子炉格納容器 ・代替原子炉補機冷却系 ・海水貯留堰 ・スクリーン室 ・取水路 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・ホース ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>② (第二GTGの自主化) ⑤</p>
8	1.7.1(2)a.(d)	1.7-14,15	<p>・フィルタ装置スクラバ水補給設備</p> <p>有効性評価の条件下において、格納容器圧力逃がし装置を使用する場合、事故発生後7日間は、外部からのスクラバ水を補給しなくてもフィルタ装置内に必要となるスクラバ水を保有することができる。</p> <p>その後の安定状態において、スクラバ水が低下した場合、本設備を用いて外部からスクラバ水を補給することで格納容器圧力逃がし装置の機能を維持できることから、原子炉格納容器の過圧破損防止対策として有効である。</p>	—	<p>② (スクラバ水補給設備の自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
9	1.7.1(2)a.(d)	1.7-15	<p>・可搬型格納容器窒素供給設備</p> <p>有効性評価における原子炉格納容器内の圧力評価により、事故発生後7日間は窒素ガスを供給しなくても原子炉格納容器が負圧破損に至る可能性はない。</p> <p>その後の安定状態において、サブプレッション・チェンバ・プール水の温度が低下し、原子炉格納容器内で発生する水蒸気が減少した場合においても、本設備を用いて原子炉格納容器へ窒素ガスを供給することで原子炉格納容器内の負圧化を回避できることから、原子炉格納容器の負圧破損防止対策として有効である。</p>	<p>・可搬型格納容器窒素供給設備</p> <p>原子炉運転中は原子炉格納容器内を窒素ガスで置換しているため、炉心損傷に伴い水素ガスが発生した場合においても、事故発生直後に酸素濃度が可燃限界に至ることはなく、短期的には原子炉格納容器への窒素ガス供給は不要である。中長期的には本設備を用い窒素ガスを供給することで、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度を低減できるとともに、原子炉格納容器内が負圧に至ることを防止できることから、原子炉格納容器の負圧破損防止対策として有効である。</p>	⑤
10	1.7.1(2)a.(d)	1.7-15,16	<p>・第二代替交流電源設備</p> <p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
11	1.7.2.1(1)a.	1.7-17	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系の機能が喪失した場合、及び代替循環冷却系の運転が期待できない場合は、サブプレッション・チェンバ・プール水以外の水源を用いた原子炉格納容器内へのスプレイを実施しているため、サブプレッション・チェンバ・プール水位が上昇するが、外部水源注水制限値に到達した場合は、このスプレイを停止するため、原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制できる見込みがなくなることから、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱を実施し、原子炉格納容器の過圧破損を防止する。</p>	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系の機能が喪失した場合、及び代替循環冷却系の運転が期待できない場合に、格納容器圧力逃がし装置により原子炉格納容器内の減圧及び除熱を実施し、原子炉格納容器の過圧破損を防止する。</p>	⑤
12	1.7.2.1(1)a.	1.7-17	<p>また、原子炉格納容器内でジルコニウム-水反応により発生した水素ガスが原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、燃料取替床天井付近の水素濃度、非常用ガス処理系吸込配管付近の水素濃度及び燃料取替床以外のエリアの水素濃度並びに静的触媒式水素再結合器動作監視装置の出入口温度の監視を行い、原子炉建屋内において異常な水素ガスの漏えいを検知した場合は原子炉格納容器内に滞留した水素ガスを排出することで、原子炉建屋への水素ガスの漏えいを防止する。</p>	<p>また、原子炉格納容器内でジルコニウム-水反応により発生した水素ガスが原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度及び原子炉建屋オペレーティングフロア以外のエリアの水素濃度並びに静的触媒式水素再結合器動作監視装置の出入口温度の監視を行い、原子炉建屋において異常な水素ガスの漏えいを検知した場合には原子炉格納容器内に滞留した水素ガスを排出することで、原子炉建屋への水素ガスの漏えいを防止する。</p>	⑤
13	1.7.2.1(1)a.(a) i.	1.7-18,19	<p>炉心損傷を判断した場合※1において、炉心の著しい損傷の緩和及び原子炉格納容器の破損防止のために必要な操作が完了した場合※2。</p> <p>※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。</p> <p>※2:炉心の著しい損傷を防止するために原子炉圧力容器への注水を実施する必要がある場合、又は原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内へスプレイを実施する必要がある場合は、これらの操作を完了した後に格納容器ベントの準備を開始する。ただし、発電用原子炉の冷却ができない場合、又は原子炉格納容器内の冷却ができない場合は、速やかに格納容器ベントの準備を開始する。</p>	<p>炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器ベント移行条件※2に達した場合。</p> <p>※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のγ線線量率が、設計基準事故相当のγ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。</p> <p>※2:原子炉格納容器内の圧力の上昇率を確認し、残留熱除去系の復旧又は代替循環冷却系の運転によって原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制する見込みがない場合、又は原子炉建屋の水素濃度の上昇が確認された場合。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
14	1.7.2.1(1)a.(a) ii.	1.7-20,21	⑦中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止し、非常用ガス処理系フィルタ装置出口隔離弁及び非常用ガス処理系出口Uシール隔離弁の全閉操作、並びに耐圧強化ベント弁、非常用ガス処理系第一隔離弁、換気空調系第一隔離弁、非常用ガス処理系第二隔離弁及び換気空調系第二隔離弁の全閉、及びフィルタ装置入口弁の全開を確認後、二次隔離弁を調整開（流路面積約50%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を調整開（流路面積約50%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	⑦中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁及び非常用ガス処理系出口Uシール元弁の全閉操作、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁、不活性ガス系非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁、不活性ガス系換気空調系側PCVベント用隔離弁、非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁後弁及び換気空調系側PCVベント用隔離弁後弁の全閉及び耐圧強化ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全開を確認後、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を調整開（流路面積約50%開）とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベント準備完了を当直副長へ報告する。	⑤
15	1.7.2.1(1)a.(a) ii.	1.7-21	⑧現場運転員C及びDは、格納容器ベント前の系統構成として、フィルタベント大気放出ラインドレン弁を全閉とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	—	⑤
16	1.7.2.1(1)a.(a) ii.	1.7-21	⑩当直副長は、原子炉格納容器内の圧力及び水位、並びに原子炉建屋内の水素濃度に関する情報収集を適宜行い、当直長に報告する。また、当直長は、原子炉格納容器内の圧力及び水位、並びに原子炉建屋内の水素濃度に関する情報を、緊急時対策本部に報告する。	⑨当直副長は、原子炉格納容器内の圧力及び原子炉建屋の水素濃度に関する情報収集を適宜行い、当直長へ報告する。また、当直長は、原子炉格納容器内の圧力及び原子炉建屋の水素濃度に関する情報を、緊急時対策本部へ報告する。	⑤
17	1.7.2.1(1)a.(a) ii.	1.7-21	⑫当直副長は、以下のいずれかの条件に到達したことを確認し、運転員に格納容器ベント開始を指示する。 ・外部水源を用いた原子炉格納容器内へのスプレイを実施中に、サブプレッション・チェンバ・プール水位が「真空破壊弁高さ」に到達した場合。 ・燃料取替床天井付近の水素濃度が2.2vol%に到達した場合。	⑪当直副長は、原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制する見込みがないと判断した場合、又は静的触媒式水素再結合器の機能が発揮されていない場合で原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度を2.5vol%以下に抑制する見込みがないと判断した場合、若しくは静的触媒式水素再結合器が動作している場合で原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度を3.0vol%以下に抑制する見込みがないと判断した場合は、原子炉格納容器ベント開始の規定値に到達する時間、現場運転員による移動・弁操作に必要な時間、原子炉格納容器内の圧力上昇率を考慮し、運転員に原子炉格納容器ベント開始を指示する。	⑤
18	1.7.2.1(1)a.(a) ii.	1.7-22	⑬a W/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁（サブプレッション・チェンバ側）操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁（サブプレッション・チェンバ側）の全開操作により、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。現場運転員C及びDは、一次隔離弁（サブプレッション・チェンバ側）を遠隔手動弁操作設備による操作で全開状態を保持させる。 ⑬b D/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁（ドライウェル側）操作空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁（ドライウェル側）の全開操作により、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。現場運転員C及びDは、一次隔離弁（ドライウェル側）を遠隔手動弁操作設備による操作で全開状態を保持させる。	⑬aW/Wベントの場合 現場運転員C及びDは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。 ⑬bD/Wベントの場合 現場運転員C及びDは、不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベント操作を開始する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
19	1.7.2.1(1)a.(a)ii.	1.7-23	<p>⑯中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、可燃性ガス濃度制御系及び残留熱除去系の復旧、又は代替循環冷却系の運転により原子炉格納容器内の除熱が開始され格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)の全開保持状態を遠隔手動弁操作設備により解除するよう現場運転員に指示する</p> <p>⑰現場運転員C及びDは、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)を遠隔手動弁操作設備による操作で全開保持状態を解除する。</p> <p>⑱中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)の全開、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全開操作を実施する。</p>	<p>⑮中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、可燃性ガス濃度制御系及び残留熱除去系の復旧又は代替循環冷却系による格納容器除熱機能の復旧により、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全開、現場運転員C及びDは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開操作を実施する。</p>	⑤
20	1.7.2.1(1)a.(a)iii.	1.7-23,24	<p>上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約40分で可能である。原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始後、現場運転員2名にて一次隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開状態を保持させた場合、約40分で可能である。</p>	<p>上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約70分で可能である。</p>	⑤
21	1.7.2.1(1)a.(a)iii.	1.7-24	<p>室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤
22	1.7.2.1(1)a.(b)iii.	1.7-24	<p>上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りは45分以内で可能である。</p>	<p>上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りは60分以内で可能である。</p>	⑤
23	1.7.2.1(1)a.(c)ii.	1.7-26,27	<p>②a 防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を配備し、防火水槽又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)へ、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタ装置補給水接続口へそれぞれ送水ホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。</p> <p>②b 事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合) 緊急時対策要員は、事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタベント装置補給水接続口へホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。</p>	<p>②緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を配備し、防火水槽又は淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)へ、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からフィルタ装置補給水接続口へそれぞれ送水ホースを接続し、フィルタ装置水位調整(水張り)の準備完了を緊急時対策本部に報告する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
24	1.7.2.1(1)a.(c) ii.	1.7-27,28	<p>⑤緊急時対策要員は、当直長にフィルタ装置の水位を監視するよう依頼する。</p> <p>⑥当直副長は、フィルタ装置の水位を監視するよう中央制御室運転員に指示する。</p> <p>⑦中央制御室運転員Aは、中央制御室にて水位を継続監視し、規定水位に到達したことを当直副長に報告する。</p> <p>⑧当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に可搬型代替注水ポンプ(A-2級)停止操作を依頼する。</p> <p>⑨緊急時対策本部は、緊急時対策要員へ可搬型代替注水ポンプ(A-2級)停止操作を指示する。</p>	-	⑤
25	1.7.2.1(1)a.(c) iii.	1.7-28,29	<p>防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開したフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。</p> <p>淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開したフィルタ装置水位調整(水張り)(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。</p> <p>また、事前に他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を使用したフィルタ装置水位調整(水張り)(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)操作は、1ユニット当たり、中央制御室運転員1名(確認者)及び緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ位置(A-2級)と送水ルートの確認～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約95分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約155分で可能である。</p>	<p>防火水槽を水源としたフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約80分、フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分、計約130分で可能である。また、淡水貯水池を水源としたフィルタ装置水位調整(水張り)操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約110分、フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分、計約160分で可能である。</p>	⑤
26	1.7.2.1(1)a.(c) iii.	1.7-29	<p>なお、屋外における本操作は格納容器ベント実施後の短期間において、フィルタ装置水の蒸発によるフィルタ装置の水位低下は評価上想定されないため、フィルタ装置水位調整(水張り)操作を実施することはないと考えられるが、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。</p>	<p>なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	1.7.2.1(1)a.(d) ii.	1.7-31,32	⑥緊急時対策本部は、当直長にフィルタ装置の水位を監視するよう依頼する。 ⑦当直副長は、フィルタ装置の水位を監視するよう中央制御室運転員に指示する。 ⑧中央制御室運転員Aは、中央制御室にて水位を継続監視し、通常水位に到達したことを当直副長に報告する。 ⑨当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部にドレン移送ポンプ停止操作を依頼する。 ⑩緊急時対策本部は、緊急時対策要員へドレン移送ポンプ停止操作を指示する。	-	⑤
28	1.7.2.1(1)a.(d) iii.	1.7-32,33	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置水位調整(水抜き)完了まで約130分で可能である。なお、屋外における本操作は、格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しており、また、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからフィルタ装置水位調整(水抜き)完了まで約135分で可能である。なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。	⑤
29	1.7.2.1(1)a.(e) i.	1.7-33	格納容器圧力逃がし装置の停止を判断した場合。	残留熱除去系あるいは代替循環冷却系の機能が復旧し、格納容器圧力逃がし装置の停止を判断した場合。	⑤
30	1.7.2.1(1)a.(e) ii.	1.7-33,34	① 緊急時対策本部は、手順着手の判断に基づき、当直長に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ前の系統構成を開始するよう指示するとともに、緊急時対策要員に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズの準備の開始を指示する。 ②当直副長は、中央制御室運転員に格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ前の系統構成の開始を指示する。 ③中央制御室運転員A及びBは、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ前の系統構成として、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)、一次隔離弁(ドライウェル側)及び耐圧強化ベント弁の全開確認、並びにフィルタ装置入口弁の全開確認後、二次隔離弁を全開とし、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ準備完了を当直副長に報告する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を全開とする。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全開する手段がある。 ④当直長は、当直副長からの依頼に基づき、格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ前の系統構成完了を緊急時対策本部に報告する。	-	⑤
31	1.7.2.1(1)a.(e) ii.	1.7-34,35	⑤緊急時対策要員は、原子炉建屋非管理区域内サンプリングラックにて、フィルタ装置の水素濃度測定のため、系統構成及び工具準備、サンプリングポンプ起動を実施する。また、原子炉建屋外壁南側(屋外)へ可搬型窒素供給装置を配備し送気ホースを接続口へ取り付け、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部に報告する。	②緊急時対策要員は、原子炉建屋非管理区域内サンプリングラックにて、フィルタ装置の水素濃度測定のため、系統構成及び工具準備、サンプリングポンプの起動、フィルタ装置水素濃度計の校正を実施する。また、原子炉建屋外壁南側(屋外)へ可搬型窒素供給装置を配備し送気ホースを接続口へ取付操作し、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部へ報告する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
32	1.7.2.1(1)a.(e) ii.	1.7-35	⑧緊急時対策要員は、 サンプリングポンプ起動の完了 を緊急時対策本部に報告する。 ⑨緊急時対策本部は、可搬型窒素供給装置からの窒素ガス注入の完了及び サンプリングポンプ起動の完了 を当直長に連絡するとともに、フィルタ装置の入口圧力及び水素濃度の監視を依頼する。	⑤緊急時対策要員は、フィルタ装置水素濃度計の校正完了を緊急時対策本部へ報告する。 ⑥緊急時対策本部は、可搬型窒素供給装置からの窒素ガス注入の完了及びフィルタ装置水素濃度計の校正完了を当直長に連絡するとともに、フィルタ装置の入口圧力及び水素濃度の監視を依頼する。	⑤
33	1.7.2.1(1)a.(e) ii.	1.7-36	⑦当直副長は、窒素ガスパージの完了後の系統構成を開始するよう中央制御室運転員に指示する。 ⑩中央制御室運転員A及びBは、窒素ガスパージの完了後の系統構成として、二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全閉とし、系統構成完了を当直副長に報告する。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を全閉する手段がある。	-	⑤
34	1.7.2.1(1)a.(e) iii.	1.7-37	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパージ完了まで約270分で可能である。なお、屋外における本操作は、格納容器ベント停止後の操作であることから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しており、また、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置停止後のN ₂ パージ完了まで約240分で可能である。なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。	⑤
35	1.7.2.1(1)a.(f) ii.	1.7-37,38,39	「フィルタ装置スクラバpH調整の手順」記載の適正化	-	⑤
36	1.7.2.1(1)a.(f) iii.	1.7-39	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置スクラバ水pH調整完了まで約85分で可能である。なお、屋外における本操作は、格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しており、また、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置スクラバ水pH調整完了まで約90分で可能である。なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。	⑤
37	1.7.2.1(1)a.(g) iii.	1.7-41	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員8名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレン移送ライン窒素ガスパージ完了まで約130分で可能である。なお、屋外における本操作は、格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しており、また、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレン移送ラインN ₂ パージ完了まで約100分で可能である。なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
38	1.7.2.1(1)a.(h) ii.	1.7-42,43	②緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室にてドレン移送ポンプの電源が確保されていることをFCVS 現場制御盤のドレン移送ポンプ運転状態ランプにより確認し、FCVS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備による操作にて全閉とする。フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁を全開、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開、原子炉建屋外壁東側(屋外)にてFCVS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁を微開とし、ドレン移送ポンプを起動した後、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁の増し開操作により、ポンプ吐出側流量を必要流量に調整し、ドレンタンク内の水をサブプレッション・チェンバへ排水し、排水開始を緊急時対策本部に報告する。	② 緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室にて、ドレン移送ポンプの電源が確保されていることをFCVS現場制御盤のドレン移送ポンプ運転状態ランプにより確認し、FCVS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備による操作にて全閉とする。フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にて、FCVS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁を微開とし、ドレン移送ポンプを起動した後、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁の増し開操作により、ポンプ吐出側流量を必要流量に調整し、ドレンタンク内の水をサブプレッション・チェンバへ排水する。	⑤
39	1.7.2.1(1)a.(h) ii.	1.7-43	③緊急時対策本部は、当直長にドレンタンクの水位を確認するよう依頼する。 ④当直副長は、ドレンタンクの水位を確認するよう中央制御室運転員に指示する。 ⑤中央制御室運転員A は、中央制御室にて水位を継続監視し、規定水位に到達したことを当直副長に報告する。 ⑥当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部にドレン移送ポンプ停止操作を依頼する。 ⑦緊急時対策本部は、緊急時対策要員へドレン移送ポンプ停止操作を指示する。	-	⑤
40	1.7.2.1(1)a.(h) ii.	1.7-43,44	⑧緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室FCVS 計器ラックのドレンタンク水位指示値にて排水による水位の低下を確認し、ドレン移送ポンプA 又はB を停止した後、フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁を全開、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にてFCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にてFCVS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作、フィルタベント遮蔽壁附室にてFCVS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備による操作にて全開とし、ドレンタンク水抜き完了を緊急時対策本部に報告する。	③ 緊急時対策要員は、フィルタベント遮蔽壁附室FCVS計器ラックのドレンタンク水位指示値にて排水による水位の低下を確認し、ドレン移送ポンプA又はBを停止した後、フィルタベント遮蔽壁南側(屋外)にて、FCVS フィルタベント装置ドレンタンク出口止め弁、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第一止め弁、FCVS フィルタベント装置ドレン移送ポンプ吐出側第二止め弁を全開操作し、原子炉建屋外壁東側(屋外)にて、FCVS フィルタベント装置ドレンライン二次格納施設外側止め弁を全開操作、フィルタベント遮蔽壁附室にて、FCVS フィルタベント装置遮蔽壁内側ドレン弁を遠隔手動弁操作設備による操作にて全開とし、ドレンタンク水抜きの完了を緊急時対策本部へ報告する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	1.7.2.1(1)a.(h) ii.	1.7-44	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレンタンク水抜き完了まで約80分で可能である。なお、屋外における本操作は、格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しており、また、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからドレンタンク水抜き完了まで約105分で可能である。なお、屋外における本操作は、原子炉格納容器ベント実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。	⑤
42	—	—	「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」の操作手順を削除	—	② (代替格納容器圧力逃がし装置削除)
43	1.7.2.1(1)b.(a) i.	1.7-45,46	炉心損傷を判断した場合※1において、残留熱除去系の復旧に見込みがなく※2原子炉格納容器内の除熱が困難な状況で、以下の条件が全て成立した場合。 ・復水補給水系が使用可能※3であること。 ・代替原子炉補機冷却系による冷却水供給が可能であること。 ・原子炉格納容器内の酸素濃度が4vol%以下※4であること。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:設備に故障が発生した場合、又は駆動に必要な電源若しくは補機冷却水が確保できない場合。 ※3:設備に異常がなく、電源及び水源(サブプレッション・チェンバ)が確保されている場合。 ※4:ドライウエル側のドライ条件の酸素濃度を確認する。格納容器内酸素濃度(CAMS)にて4vol%以下を確認できない場合は、外部水源によるドライウエルスプレイを継続し、格納容器ベント操作に移行する。	炉心損傷を判断した場合※1において、残留熱除去系の復旧に見込みがなく※2格納容器除熱が困難な状況で、復水補給水系が使用可能※3でかつ、代替原子炉補機冷却系による冷却水供給が可能な場合。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のγ線線量率が、設計基準事故相当のγ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:設備に故障が発生した場合、又は駆動に必要な電源若しくは補機冷却水が確保できない場合。 ※3:設備に異常がなく、電源及び水源(サブプレッション・チェンバ)が確保されている場合。	⑤
44	1.7.2.1(1)b.(a) ii.	1.7-49	⑬a 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇、復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認する。あわせて、原子炉格納容器内へのスプレイが開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇、復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇、並びに格納容器内圧力指示値及び格納容器内温度指示値の低下により確認し、当直副長に報告する。	⑬a 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇、残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認する。あわせて、格納容器スプレイが開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇、残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇、並びに格納容器内圧力指示値及び格納容器内温度指示値の低下により確認し、当直副長へ報告する。	② (計器名称の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
45	1.7.2.1(1)b.(a)ii.	1.7-50	⑭b 中央制御室運転員A及びBは, 原子炉格納容器下部への注水が開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇, 復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)指示値の上昇により確認する。あわせて, 原子炉格納容器内へのスプレーが開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇, 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇, 並びに格納容器内圧力指示値及び格納容器内温度指示値の低下により確認し, 当直副長に報告する。	⑭b中央制御室運転員A及びBは, 原子炉格納容器下部への注水が開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇, 格納容器下部注水流量指示値の上昇により確認する。あわせて, 格納容器スプレーが開始されたことを復水移送ポンプ吐出圧力指示値の上昇, 残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇, 並びに格納容器内圧力指示値及び格納容器内温度指示値の低下により確認し, 当直副長へ報告する。	② (計器名称の変更)
46	1.7.2.1(1)b.(a)iii.	1.7-51	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
47	1.7.2.1(1)b.(b)iii.	1.7-54	上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員13名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから運転員操作の系統構成完了まで約1時間55分, 緊急時対策要員操作の補機冷却水供給開始まで約9時間で可能である。なお, 炉心の著しい損傷が発生した場合において代替原子炉補機冷却系を設置する場合, 作業時の被ばくによる影響を低減するため, 緊急時対策要員を2班体制とし, 交替して対応する。	上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員13名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから運転員操作の系統構成完了まで約45分, 緊急時対策要員操作の補機冷却水供給開始まで約9時間で可能である。	⑤
48	1.7.2.1(1)b.(b)iii.	1.7-54	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
49	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-56	③ 現場運転員C及びDは, 廃棄物処理建屋地上2階レイダウニア(管理区域)にて, 薬液タンク水位指示値により薬液量が必要量以上確保されていることを確認し, 当直副長に報告する。また, 復水移送ポンプの運転状態に異常がないことを確認する。	③現場運転員C及びDは, 薬液タンク水位指示値により薬液量が必要量以上確保されていることを確認し, 当直副長に報告する。また, 復水移送ポンプの運転状態に異常がないことを確認する。	⑤
50	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-56	⑤中央制御室運転員A及びBは, 薬液注入準備完了を確認した後に, 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値が規定値となるように残留熱除去系洗浄水弁(B)を調整開し, S/Pスプレーを開始する。S/Pスプレーの開始を当直副長に報告するとともに, 現場運転員C及びDへ薬液注入操作を指示する。	⑤中央制御室運転員A及びBは, 薬液注入準備完了を確認した後に, 残留熱除去系(B)注入配管流量指示値が規定値となるように残留熱除去系注入ライン洗浄水止め弁(B)を調整開し, S/Pスプレーを開始する。S/Pスプレーの開始を当直副長へ報告するとともに, 現場運転員C及びDへ薬液注入操作を指示する。	② (計器名称の変更)
51	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-57	⑦現場運転員C及びDは, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し, 薬液注入が開始されたことを廃棄物処理建屋地上2階レイダウニア(管理区域)にて, 薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ⑧現場運転員C及びDは, 廃棄物処理建屋地上2階レイダウニア(管理区域)にて, 規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し薬液注入を停止する。また, 薬液注入を停止した旨を当直副長に報告する。	⑦現場運転員C及びDは, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し, 薬液注入が開始されたことを薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ⑧現場運転員C及びDは, 規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し薬液注入を停止する。また, 薬液注入を停止した旨を当直副長へ報告する。	⑤
52	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-57,58	⑬現場運転員C及びDは, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し, 薬液注入が開始されたことを廃棄物処理建屋地上2階レイダウニア(管理区域)にて, 薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ⑭現場運転員C及びDは, 廃棄物処理建屋地上2階レイダウニア(管理区域)にて, 規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し薬液注入を停止する。また, 薬液注入を停止した旨を当直副長に報告する。	⑬現場運転員C及びDは, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し, 薬液注入が開始されたことを薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ⑭現場運転員C及びDは, 規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後, 薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し薬液注入を停止する。また, 薬液注入を停止した旨を当直副長へ報告する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
53	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-58	①中央制御室運転員A及びBは、復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)指示値が規定値となるように下部ドライウェル注水流量調節弁を調整開し、原子炉格納容器下部への注水を開始する。	①中央制御室運転員A及びBは、格納容器下部注水流量指示値が規定値となるように復水補給水系下部ドライウェル注水流量調節弁を調整開し、格納容器下部注水を開始する。	② (計器名称の変更)
54	1.7.2.1(1)c.(b)	1.7-58,59	②現場運転員C及びDは、薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し、薬液注入が開始されたことを廃棄物処理建屋地上2階レイダウンエリア(管理区域)にて、薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ③現場運転員C及びDは、廃棄物処理建屋地上2階レイダウンエリア(管理区域)にて、規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後、薬液注入タンク出口弁の全閉操作を実施し薬液注入を停止する。また、薬液注入を停止した旨を当直副長に報告する。	②現場運転員C及びDは、薬液注入タンク出口弁の全開操作を実施し、薬液注入が開始されたことを薬液タンク水位指示値の低下により確認する。 ③現場運転員C及びDは、規定量の薬液が注入されたことを薬液タンク水位にて確認後、薬液注入タンク出口弁の全閉操作を実施し薬液注入を停止する。また、薬液注入を停止した旨を当直副長へ報告する。	⑤
55	1.7.2.1(1)c.(c)	1.7-60	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
56	1.7.2.1(1)d.(c)	1.7-60,61,62	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」の操作手順を追加	—	⑤
57	1.7.2.1(2)a.	1.7-62,63	炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系の機能が喪失した場合及び代替循環冷却系の運転が期待できない場合は、サブプレッション・チェンバ・プール水以外の水源を用いた原子炉格納容器内へのスプレイを実施しているため、サブプレッション・チェンバ・プール水位が上昇するが、外部水源注水制限値に到達した場合は、このスプレイを停止するため、原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制できる見込みがなくなることから、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱を実施し、原子炉格納容器の過圧破損を防止する。	炉心の著しい損傷が発生した場合において、残留熱除去系の機能が喪失した場合及び代替循環冷却系の運転が期待できない場合に、格納容器圧力逃がし装置を使用した原子炉格納容器ベント操作を実施し、原子炉格納容器の過圧破損を防止する。	⑤
58	1.7.2.1(2)a.	1.7-63	また、原子炉格納容器内でジルコニウム-水反応により発生した水素ガスが原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、燃料取替床天井付近の水素濃度、非常用ガス処理系吸込配管付近の水素濃度及び燃料取替床以外のエリアの水素濃度並びに静的触媒式水素再結合器動作監視装置の出入口温度の監視を行い、原子炉建屋内において異常な水素ガスの漏えいを検知した場合は原子炉格納容器に滞留した水素ガスを排出することで、原子炉建屋への水素ガスの漏えいを防止する。	また、原子炉格納容器内でジルコニウム-水反応により発生した水素ガスが原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度及び原子炉建屋オペレーティングフロア以外のエリアの水素濃度並びに静的触媒式水素再結合器動作監視装置の出入口温度の監視を行い、原子炉建屋において異常な水素ガスの漏えいを検知した場合には原子炉格納容器内に滞留した水素ガスを排出することで、原子炉建屋への水素ガスの漏えいを防止する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	1.7.2.1(2)a.(a) i.	1.7-64	<p>〔原子炉建屋原子炉区域の系統構成〕 全交流動力電源喪失時に、早期の電源復旧が見込めない場合。 〔格納容器ベント準備〕 炉心損傷を判断した場合※1において、炉心の著しい損傷の緩和及び原子炉格納容器の破損防止のために必要な操作が完了した場合※2。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉压力容器温度で300°C以上を確認した場合。 ※2:炉心の著しい損傷を防止するために原子炉压力容器への注水を実施する必要がある場合、又は原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内へスプレイを実施する必要がある場合は、これらの操作を完了した後格納容器ベントの準備を開始する。ただし、発電用原子炉の冷却ができない場合、又は原子炉格納容器内の冷却ができない場合は、速やかに格納容器ベントの準備を開始する。</p>	<p>『二次格納施設内の系統構成』 全交流動力電源喪失時に、早期の電源復旧が見込めない場合。 『原子炉格納容器ベント準備』 炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器ベント移行条件※2に達した場合。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のγ線線量率が、設計基準事故相当のγ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉压力容器温度で300°C以上を確認した場合。 ※2:「原子炉格納容器ベント移行条件」とは、原子炉格納容器内の圧力の上昇率を確認し、残留熱除去系の復旧又は代替循環冷却系の運転によって原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制する見込みがない場合、又は原子炉建屋の水素濃度の上昇が確認された場合。</p>	⑤
60	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-66	<p>⑧現場運転員C及びDは、フィルタベント大気放出ラインドレン弁を全閉とする。また、耐圧強化ベント弁の全閉を遠隔手動弁操作設備の開度指示にて確認し、二次隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開く(流路面積約50%開)とする。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約50%開)とする。</p>	<p>⑦現場運転員C及びDは、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の全閉を遠隔手動弁操作設備の開度指示にて確認し、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約50%開)とする。不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の開操作ができない場合は、PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を遠隔手動弁操作設備にて調整開(流路面積約50%開)とする。</p>	⑤
61	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-66,67	<p>⑪当直副長は、原子炉格納容器内の圧力及び水位、並びに原子炉建屋内の水素濃度に関する情報収集を適宜行い、当直長に報告する。また、当直長は原子炉格納容器内の圧力及び水位、並びに原子炉建屋内の水素濃度に関する情報を、緊急時対策本部に報告する</p>	<p>⑩当直副長は、原子炉格納容器内の圧力及び原子炉建屋の水素濃度に関する情報収集を適宜行い、当直長へ報告する。また、当直長は原子炉格納容器内の圧力及び原子炉建屋の水素濃度に関する情報を、緊急時対策本部へ報告する。</p>	⑤
62	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-67	<p>⑬当直副長は、以下のいずれかの条件に到達したことを確認し、運転員に格納容器ベント開始を指示する。 ・外部水源を用いた原子炉格納容器内へのスプレイを実施中に、サブレッション・チェンバ・プール水位が「真空破壊弁高さ」に到達した場合。 ・燃料取替床天井付近の水素濃度が2.2vol%に到達した場合。</p>	<p>⑫当直副長は、原子炉格納容器内の圧力を620kPa[gage]以下に抑制する見込みがないと判断した場合、又は静的触媒式水素再結合器の機能が発揮されていない場合で原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度を2.5vol%以下に抑制する見込みがないと判断した場合、若しくは静的触媒式水素再結合器が動作している場合で原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度を3.0vol%以下に抑制する見込みがないと判断した場合は、原子炉格納容器ベント開始の規定値に到達する時間、現場運転員による移動・弁操作に必要な時間、原子炉格納容器内の圧力上昇率を考慮し、運転員に原子炉格納容器ベント開始を指示する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
63	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-68	⑰中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント開始後、可燃性ガス濃度制御系及び残留熱除去系の復旧、又は代替循環冷却系の運転により原子炉格納容器内の除熱が開始され格納容器圧力逃がし装置を停止できると判断した場合は、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備により全閉するよう現場運転員に指示する。 ⑱現場運転員C及びDは、一次隔離弁(サプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉とする。	⑰中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント開始後、可燃性ガス濃度制御系及び残留熱除去系の復旧又は代替循環冷却系による格納容器除熱機能の復旧により、不活性ガス系PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁の全閉及び不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉するよう現場運転員に指示する。 ⑰現場運転員C及びDは、不活性ガス系PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁又はPCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁バイパス弁及び不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉とする。	⑤
64	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-68,69	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員4名にて作業を実施し、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約70分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名にて作業を実施し、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱開始まで約55分で可能である。	⑤
65	1.7.2.1(2)a.(a) ii.	1.7-69	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
66	第1.7.1表	1.7-74 1.7-76	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
67	第1.7.1表	1.7-74	記載の拡充 ・原子炉格納容器(サプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む)	・原子炉格納容器	⑤
68	第1.7.1表	1.7-74	設備変更(設備の位置付け)に伴う修正 ・遠隔空気駆動弁操作ポンペ(重大事故等対処設備)	—	② (専用空気ポンペのSA化)
69	第1.7.1表	—	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	—	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
70	第1.7.2表	1.7-80 1.7-81	計器名称の変更に伴い監視計器一覧を修正 ・復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量) ・復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量) ・復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)	・復水補給水系流量(原子炉圧力容器) ・残留熱除去系(A)注入配管流量 ・復水補給水系流量(原子炉格納容器) ・残留熱除去系(B)注入配管流量 ・格納容器下部注水流量	② (計器名称の変更)
71	第1.7.2表	1.7-81	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」の操作手順を追加に伴い監視計器を追加	—	⑤
72	第1.7.1図	1.7-85	SOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.7.1表、第1.7.2表の手順書名称を修正	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
73	第1.7.3図 第1.7.4図	1.7-88	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.20に記載	—	⑤
74	第1.7.6図	1.7-90	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.22に記載	—	⑤
75	第1.7.8図	1.7-92 1.7-93 1.7-94	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.25に記載	—	⑤
76	第1.7.10図	1.7-96	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.28に記載	—	⑤
77	第1.7.12図	1.7-99	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.34に記載	—	⑤
78	第1.7.14図	1.7-101	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.36に記載	—	⑤
79	第1.7.16図	1.7-103	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.37に記載	—	⑤
80	第1.7.18図	1.7-105	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.41に記載	—	⑤
81	—	—	「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」 の概要図、タイムチャートを削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
82	第1.7.22図	1.7-112	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.47に記載	—	⑤
83	第1.7.25図 第1.7.26図	1.7-115 1.7-116	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」 の操作手順を追加に伴い概要図、タイムチャート追加	—	⑤
84	第1.7.28図 第1.7.29図	1.7-119	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.64に記載	—	⑤
85	第1.7.30図	1.7-120	「代替格納容器圧力逃がし装置」の記載削除に伴いフローチャートを修正	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
86	添付資料 1.7.1	1.7-122 1.7-124	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主 化)
87	添付資料 1.7.1	1.7-122	記載の拡充 ・原子炉格納容器(サブプレッション・チェンバ、真空破壊弁を含む)	・原子炉格納容器	⑤
88	添付資料 1.7.1	—	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
89	添付資料 1.7.2	1.7-125	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変更)
90	添付資料 1.7.2	1.7-126 1.7-127 1.7-128 1.7-129	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・AC系電動弁、空気作動弁の駆動源をSA化	—	② (AC系弁の駆動源のSA化)
91	添付資料 1.7.3-1	1.7-130	1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流電源確立時 a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱操作に必要な電動弁の電源確保及び格納容器ベント開始前の系統構成を行う。 中央制御室からの操作により格納容器ベントが開始された後、遠隔手動弁操作設備の操作により一次隔離弁を全開状態に保持させる。 b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 低層階屋上(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち、電源確保、格納容器ベント開始前の系統構成及び格納容器ベントが開始された後の系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:電源確保 20分(実績時間:18分) 系統構成(格納容器ベント開始前) 15分(実績時間:12分) 系統構成(格納容器ベント開始後) 40分 (実績時間:一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:一次隔離弁(ドライウエル側)の全開操作を実施する場合 17分)	1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱 (1)交流動力電源確立時 a.操作概要 炉心損傷時に原子炉格納容器内の減圧及び除熱を格納容器圧力逃がし装置を使用して行う。交流電源確立時は必要な電動弁の受電操作を実施後、遠隔手動弁操作設備の操作により原子炉格納容器ベントを行う。 b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(4名)、所要時間(70分)のうち、電源の受電操作及び空気作動弁の遠隔手動弁操作設備の操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。なお、W/W ベントに必要な所要時間、D/W ベントに必要な所要時間は同一時間とする。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:電源受電操作 30分(実績時間:24分) 遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作 40分 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 17分)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
92	添付資料 1.7.3-1	1.7-133	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱の系統構成を全交流動力電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により行う。 なお、空気駆動弁の操作手段として、ポンペからの駆動空気を電磁弁排気ポートへ供給することで空気駆動弁を操作することができる。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) 系統構成 原子炉建屋 低層階屋上、地上中3階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち、現場の系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 なお、W/W ベントに必要な時間、D/W ベントに必要な時間は同一時間とする。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:系統構成(原子炉建屋原子炉区域) 35分 (原子炉建屋内の原子炉区域外) 30分(実績時間:25分) 遠隔手動弁操作設備による格納容器ベント操作 40分 (実績時間:一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:一次隔離弁(ドライウェル側)の全開操作を実施する場合 17分)</p>	<p>(2)全交流動力電源喪失時</p> <p>a.操作概要 炉心損傷時に原子炉格納容器内の減圧及び除熱を格納容器圧力逃がし装置を使用して行う。交流電源喪失時は遠隔手動弁操作設備の操作により原子炉格納容器ベント操作を行う。</p> <p>b.作業場所 系統構成 原子炉建屋 地上4階、地上3階(管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地上中3階、地下1階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上中3階、地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(6名)、所要時間(90分)のうち、電動弁、空気駆動弁の遠隔手動弁操作設備の操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 なお、W/W ベントに必要な所要時間、D/W ベントに必要な所要時間は同一時間とする。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:系統構成(二次格納容器施設内) 35分 (二次格納容器施設外) 15分(実績時間:13分) 遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作40分 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 21分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合 17分)</p>	⑤
93	添付資料 1.7.3-2	1.7-135	<p>2.フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作中におけるフィルタ装置の水位調整のため、フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 想定時間:45分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>2.フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作中におけるフィルタ装置水位調整のため、フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張りに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:60分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
94	添付資料 1.7.3-3	1.7-136	<p>3.フィルタ装置水位調整(水張り)</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作時又は格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため、フィルタ装置の水張りによるフィルタ装置の水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置水位調整(水張り)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合」6名(緊急時対策要員6名) 「淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」10名(緊急時対策要員10名) 「他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」10名(緊急時対策要員10名) 想定時間:「防火水槽から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合」125分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプを展開した水張りの場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」125分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「他の対応手段により設置した可搬型代替注水ポンプを使用した水張りの場合(淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」155分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>3.フィルタ装置水位調整(水張り)</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作時又は原子炉格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため、フィルタ装置の水張りによるフィルタ装置の水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置水位調整(水張り)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合」6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」130分 (実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」160分 (実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
95	添付資料 1.7.3-4	1.7-138	<p>4.フィルタ装置水位調整(水抜き)</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント操作時又は格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため水抜きによる水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置水位調整(水抜き)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:10名(緊急時対策要員10名) 想定時間:130分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>4.フィルタ装置水位調整(水抜き)</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント操作時又は原子炉格納容器ベント停止時に想定されるフィルタ装置の水位変動に対し、フィルタ装置機能維持のため水抜きによる水位調整を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置水位調整(水抜き)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:135分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
96	添付資料 1.7.3-5	1.7-139	<p>5.格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズ</p> <p>a.操作概要 格納容器ベント停止後は, 配管内に残留する水素ガスによる燃焼防止と, 残留蒸気凝縮による配管内の負圧防止のため, 格納容器圧力逃がし装置の窒素ガスによるパーズを実施する。 窒素ガスの供給は可搬型窒素供給装置にて行い, 当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し, 窒素供給弁を操作することでパーズを行う。</p> <p>また, 格納容器ベントライン水素サンプリングラックのサンプリングポンプを起動させ, 窒素ガスパーズ中の配管内の水素濃度を測定する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南側側(屋外) 原子炉建屋 地上3階 南側通路(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置停止後の窒素ガスパーズに必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:270分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>5.格納容器圧力逃がし装置停止後のN₂パーズ</p> <p>a.操作概要 原子炉格納容器ベント停止後は, 配管内に残留する水素ガスによる燃焼防止と, 残留蒸気凝縮による配管内の負圧防止のため, 格納容器圧力逃がし装置の窒素ガスによるパーズを実施する。 窒素ガスの供給は可搬型窒素供給装置にて行い, 当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し, 窒素供給弁を操作することでパーズを行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南側ヤード(屋外) 原子炉建屋 地上3階 南側通路(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置停止後のN₂パーズに必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数:7名(中央制御室運転員1名, 緊急時対策要員6名) (※1.7.3-7とあわせて合計7名の必要要員数とする) 所要時間目安:240分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
97	添付資料 1.7.3-6	1.7-141	<p>6.フィルタ装置スクラバ水pH調整</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)によりスクラバ水に含まれる薬液が排水されることでスクラバ水のpHが規定値よりも低くなることを防止するため薬液を補給する。 薬液補給は可搬型薬液補給装置にて行い, 当該装置を格納容器圧力逃がし装置にホースで接続し, 補給を行う。 また, pHサンプリングポンプを起動させ, スクラバ水のpH値を確認する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 フィルタ装置スクラバ水pH調整に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:10名(緊急時対策要員10名) 想定時間:85分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>7.フィルタ装置スクラバ水pH調整</p> <p>a.操作概要 排気ガスの凝縮水によりフィルタ装置の水位が上昇した場合, スクラバ水に含まれる薬液が凝縮水により薄まる。スクラバ水のpHが規定値よりも低くなった場合に薬液を注入する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 フィルタ装置スクラバ水pH調整に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数:7名(中央制御室運転員1名, 緊急時対策要員6名) 所要時間目安:90分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
98	添付資料 1.7.3-7	1.7-143	<p>7.ドレン移送ライン窒素ガスパーズ</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)及びドレンタンク水抜き後は、フィルタ装置排水ラインの水の放射線分解により発生する水素ガスの蓄積を防止するため、フィルタ装置排水ラインの窒素ガスによるパーズを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 ドレン移送ラインの窒素ガスパーズに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(緊急時対策要員8名) 想定時間:130分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>8.ドレン移送ラインN₂パーズ</p> <p>a.操作概要 フィルタ装置水位調整(水抜き)・ドレンタンク水抜き後は、フィルタ装置排水ラインの水の放射線分解により発生する水素ガスの蓄積を防止するため、フィルタ装置排水ラインの窒素ガスによるパーズを実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 ドレン移送ラインのN₂パーズに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:100分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
99	添付資料 1.7.3-8	1.7-145	<p>8.ドレンタンク水抜き</p> <p>a.操作概要 ドレンタンクが水位高に達した場合、よう素フィルタの機能維持のため、ドレン移送ポンプを使用してドレンタンク内の凝縮水を排水する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側 フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び時間 ドレンタンク水抜きに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(緊急時対策要員4名) 想定時間:80分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>9.ドレンタンク水抜き</p> <p>a.操作概要 ドレンタンクが水位高に達した場合、よう素フィルタの機能維持のため、ドレン移送ポンプを使用してドレンタンク内の凝縮水を排水する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 南東側ヤード フィルタベント遮蔽壁周辺(屋外)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 ドレンタンク水抜きに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(緊急時対策要員2名) 所要時間目安:105分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
100	添付資料 1.7.3-9	1.7-146	<p>9.代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>a.操作概要 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱の準備として, 電動弁操作盤による系統構成, 復水補給水水源を復水貯蔵槽からサプレッション・チェンバ・プールへ切り替えることにより水源を確保する。 復水移送ポンプ停止前の操作を系統構成(1), 停止後の操作を系統構成(2)とする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上3階(非管理区域) 廃棄物処理建屋 地下3階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および時間 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱のうち, 系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:系統構成(1)管理区域60分(実績時間:54分) 非管理区域40分(設備設置工事中のため実績時間なし) 系統構成(2)管理区域15分(実績時間:15分) 非管理区域5分(設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>11.代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</p> <p>a.操作概要 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱の準備として, 電動弁操作盤による系統構成ならびに, 復水補給水水源を復水貯蔵槽からサプレッション・チェンバ・プール水へ切り替えることにより水源を確保する。 復水移送ポンプ停止前の操作を系統構成(1), 停止後の操作を系統構成(2)とする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上3階(非管理区域) 廃棄物処理建屋 地下3階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および操作時間 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱に必要な要員数(6名), 所要時間(90分)のうち, サプレッション・チェンバ・プール水水源確保に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:系統構成(1)管理区域60分(実績時間:54分) 非管理区域40分(実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし) 系統構成(2)管理区域15分(実績時間:15分) 非管理区域5分(実績時間:設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
101	添付資料 1.7.3-10	1.7-148	<p>10.格納容器内pH制御</p> <p>a.操作概要 復水移送ポンプ吸込配管に薬液(水酸化ナトリウム)を注入し, 格納容器スプレイ配管から原子炉格納容器内に注入することで, サプレッション・チェンバ・プール水の酸性化を防止し格納容器ベント時の放射性物質の系外放出を低減させる。</p> <p>b.作業場所 廃棄物処理建屋 地下3階, 地上2階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および時間 格納容器内pH制御に必要な要員数(4名), 時間(原子炉格納容器内へのスプレイ(S/P)による薬液注入開始:30分, 原子炉格納容器内へのスプレイ(D/W)による薬液注入開始:65分, 原子炉格納容器下部への注水による薬液注入開始:100分)※のうち, 系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 ※薬液注入箇所を選択し, 実施した場合それぞれ30分。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:系統構成 25分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>12.格納容器内pH制御</p> <p>a.操作概要 復水移送ポンプ吸込配管に薬液(水酸化ナトリウム)を注入し, 格納容器スプレイ配管から原子炉格納容器内に注入することで, S/P水の酸性化を防止し原子炉格納容器ベント時の放射性物質の系外放出を低減させる。</p> <p>b.作業場所 廃棄物処理建屋 地下3階, 地上中1階, 地上2階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数および操作時間 格納容器内pH制御に必要な要員数(4名), 所要時間(格納容器スプレイ(S/P)による薬液注入開始:30分, 格納容器スプレイ(D/W)による薬液注入開始:65分, 格納容器下部注水による薬液注入開始:100分)※のうち, 系統構成に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 ※薬液注入箇所を選択し, 実施した場合それぞれ30分。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:系統構成 25分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
102	添付資料 1.7.4-3	1.7- 153,154,155	<p>記載の拡充</p> <p>・弁名称, 操作場所を追加</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.8 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.81(2)a.(a) i.	1.8-8	格納容器下部注水系(常設)による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	格納容器下部注水系(常設)による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備	② (第二GTGの自主化)
2	1.81(2)a.(a) ii.	1.8-9	格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ ホース・接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース ・MUWC接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備	② (第二GTGの自主化)
3	1.81(2)a.(a) ii.	1.8-9	なお、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。 また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.81(2)a.(a) iii.	1.8-9.10	<p>消火系による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 	<p>消火系による原子炉格納容器下部への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉格納容器 ・コリウムシールド ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	② (第二GTGの自主化)
5	1.81(2)a.(b)	1.8-11	<ul style="list-style-type: none"> ・第二代替交流電源設備 <p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	-	② (第二GTGの自主化)
6	1.81(2)b.(a) i.	1.8-12	<p>低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 	<p>低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復水移送ポンプ ・復水貯蔵槽 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・高圧炉心注水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.81(2)b.(a) ii.	1.8-12,13	<p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース・接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・防火水槽 ・淡水貯水池 ・ホース ・MUWC接続口 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	② (第二GTGの自主化)
8	1.81(2)b.(a) ii.	1.8-13	<p>なお、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。</p>	<p>なお、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。</p>	② (淡水貯水池の運用変更)
9	1.81(2)b.(a) iii.	1.8-13,14	<p>消火系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	<p>消火系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁・スパージャ ・給水系配管・弁・スパージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・代替所内電気設備 ・燃料補給設備 	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.81(2)b.(a)iv.	1.8-14,15	<p>高压代替注水系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高压代替注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高压代替注水系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・高压代替注水系(注水系)配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・高压炉心注水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備 <p>また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	<p>高压代替注水系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高压代替注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高压代替注水系(蒸気系)配管・弁 ・主蒸気系配管・弁 ・原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 ・高压代替注水系(注水系)配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・高压炉心注水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) ・給水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替直流電源設備 <p>また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・可搬型直流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
11	1.81(2)b.(a)v.	1.8-15	<p>ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう酸水注入系ポンプ ・ほう酸水注入系貯蔵タンク ・ほう酸水注入系配管・弁 ・高压炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	<p>ほう酸水注入系による原子炉圧力容器へのほう酸水注入で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほう酸水注入系ポンプ ・ほう酸水注入系貯蔵タンク ・ほう酸水注入系配管・弁 ・高压炉心注水系配管・弁・スパーージャ ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
12	1.81(2)b.(a)vi.	1.8-16	<p>制御棒駆動系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御棒駆動水ポンプ ・復水貯蔵槽 ・制御棒駆動系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	<p>制御棒駆動系による原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御棒駆動水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・制御棒駆動系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
13	1.81(2)b.(a) vii.	1.8-16	<p>高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への緊急注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧炉心注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	<p>高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への緊急注水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高圧炉心注水系ポンプ ・復水貯蔵槽 ・高圧炉心注水系配管・弁・スパージャ ・復水補給水系配管・弁 ・原子炉圧力容器 ・常設代替交流電源設備 	② (第二GTGの自主化)
14	1.81(2)b.(b)	1.8-19	<p>耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	—	② (第二GTGの自主化)
15	1.8.2.1(1)a.(b)	1.8-24	<p>⑨ a 原子炉格納容器下部への初期水張りの場合 中央制御室運転員A及びBは、下部ドライウェル注水流量調節弁の全開操作を実施し、復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)指示値の上昇(90m³/h程度)により注水されたことを確認し、当直副長に報告する。</p>	<p>⑨a原子炉格納容器下部への初期水張りの場合 中央制御室運転員A及びBは、下部ドライウェル注水流量調節弁の全開操作を実施し、格納容器下部注水流量指示値の上昇(90m³/h程度)により注水されたことを確認し、当直副長に報告する。</p>	② (計器名称の変更)
16	1.8.2.1(1)a.(c)	1.8-25	<p>室温は通常運転時と同程度である。</p>	—	⑤
17	1.8.2.1(1)b.(b)	1.8-28	<p>⑥ a MUWC 接続口内側隔離弁(B)を使用する場合 緊急時対策要員は、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水の系統構成として、屋外にてMUWC 接続口内側隔離弁(B)の全開操作(遠隔手動弁操作設備による操作)を実施する。 ⑥ b MUWC 接続口内側隔離弁(A)を使用する場合 現場運転員C及びDは、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水の系統構成として、非管理区域にてMUWC 接続口内側隔離弁(A)の全開操作(遠隔手動弁操作設備による操作)を実施する。</p>	<p>⑥現場運転員C及びDは格納容器下部注水系(可搬型)による格納容器下部注水の系統構成として、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する。(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う)</p>	⑤
18	1.8.2.1(1)b.(b)	1.8-29	<p>⑫ 中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器下部への注水が開始されたことを復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)指示値の上昇により確認し、当直副長に報告する。</p>	<p>⑫中央制御室運転員A及びBは、格納容器下部への注水が開始されたことを格納容器下部注水流量指示値の上昇により確認し、当直副長に報告する。</p>	② (計器名称の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
19	1.8.2.1(1)b.(c)	1.8-30,31	<p>格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合に必要な時間は約35分である。</p> <p>また、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での格納容器下部注水系(可搬型)による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>[防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分</p> <p>格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水操作は、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約330分で可能である。</p>	<p>防火水槽を水源とした格納容器下部注水系(可搬型)によるデブリ冷却操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約95分で可能である。</p> <p>また、淡水貯水池を水源とした格納容器下部注水系(可搬型)によるデブリ冷却操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約120分で可能である。</p>	⑤
20	1.8.2.1(1)b.(c)	1.8-31	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
21	1.8.2.1(1)c.(b)	1.8-34	⑦ 5号炉運転員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部に報告する。また、緊急時対策本部は当直長に報告する。	⑦緊急時対策要員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部を経由し、当直長へ報告する。	⑤
22	1.8.2.1(1)c.(b)	1.8-34	⑩ a 原子炉格納容器下部への初期水張りの場合 中央制御室運転員A及びBは、下部ドライウェル注水流量調節弁の全開操作を実施し、復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)指示値の上昇(90m ³ /h程度)により注水されたことを確認し、当直副長に報告する。	⑩a原子炉格納容器下部への初期水張りの場合 中央制御室運転員A及びBは、下部ドライウェル注水流量調節弁の全開操作を実施し、格納容器下部注水流量指示値の上昇(90m ³ /h程度)により注水されたことを確認し、当直副長に報告する。	② (計器名称の変更)
23	1.8.2.1(1)c.(c)	1.8-35	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約30分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約30分で可能である。	⑤
24	1.8.2.1(1)c.(c)	1.8-35	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
25	1.8.2.2(1)a.	1.8-36	全交流動力電源喪失時、給水・復水系及び非常用炉心冷却系による原子炉圧力容器への注水ができない場合は、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により低圧代替注水系(常設)の電源を確保し、原子炉圧力容器へ注水する。	全交流動力電源喪失時、給水系、復水系及び非常用炉心冷却系による原子炉圧力容器への注水ができない場合には、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により低圧代替注水系(常設)の電源を確保し、原子炉圧力容器への注水を実施する。	② (第二GTGの自主化)
26	1.8.2.2(1)a.(a)	1.8-36	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	1.8.2.2(1)a.(b)	1.8-38	<p>⑨ a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑨ b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	<p>⑨a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑨b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	② (計器名称の変更)
28	1.8.2.2(1)a.(c)	1.8-39	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
29	1.8.2.2(1)b.(a)	1.8-40	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ燃料及び水源(防火水槽又は淡水貯水池)が確保されている場合。	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ燃料及び水源(防火水槽又は淡水貯水池)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)
30	1.8.2.2(1)b.(b)	1.8-41	<p>⑤ a MUWC 接続口内側隔離弁(B)を使用する場合 緊急時対策要員は、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水の系統構成として、屋外にてMUWC 接続口内側隔離弁(B)の全開操作(遠隔手動弁操作設備による操作)を実施する。</p> <p>⑤ b MUWC 接続口内側隔離弁(A)を使用する場合 現場運転員C及びDは、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水の系統構成として、非管理区域にてMUWC 接続口内側隔離弁(A)の全開操作(遠隔手動弁操作設備による操作)を実施する。</p>	⑤現場運転員C及びDは、MUWC接続口内側隔離弁(B)又はMUWC接続口内側隔離弁(A)のどちらかを選択し全開操作を実施する。(当該弁は遠隔手動弁操作設備のためリンク機構を取り外し、弁操作を行う。)	⑤
31	1.8.2.2(1)b.(b)	1.8-42,43	<p>⑪ a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑪ b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	<p>⑪a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑪b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	② (計器名称の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
32	1.8.2.2(1)b.(c)	1.8-43,44	<p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での各注入配管の系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合の所要時間は約20分である。</p> <p>また、低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での低圧代替注水系(可搬型)による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>[防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員3名にて実施した場合: 約125分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施した場合: 約140分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施した場合: 約330分</p> <p>低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作は、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで約330分で可能である。</p>	<p>防火水槽を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)のいずれの注入配管を使用した場合においても約95分で可能である。</p> <p>また、淡水貯水池を水源とした低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)のいずれの注入配管を使用した場合においても約120分で可能である。</p>	⑤
33	1.8.2.2(1)b.(c)	1.8-44	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
34	1.8.2.2(1)c.(a)	1.8-45	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ燃料及び水源(ろ過水タンク)が確保されている場合。	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ燃料及び水源(ろ過水タンク)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)
35	1.8.2.2(1)c.(b)	1.8-46	⑧5号炉運転員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了を緊急時対策本部に報告する。また、緊急時対策本部は当直長に報告する。	⑧緊急時対策要員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了を緊急時対策本部へ報告する。また、緊急時対策本部は当直長へ報告する。	⑤
36	1.8.2.2(1)c.(b)	1.8-47	<p>⑫a 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑫b 残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉圧力容器への注水が開始されたことを復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	<p>⑫a注水確認 残留熱除去系(B)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し、当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p> <p>⑫b残留熱除去系(A)注入配管使用の場合 中央制御室運転員A及びBは、原子炉への注水が開始されたことを残留熱除去系(A)注入配管流量指示値の上昇及び原子炉水位指示値の上昇により確認し当直副長に報告するとともに原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)から原子炉水位高(レベル8)の間で維持する。</p>	② (計器名称の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
37	1.8.2.2(1)c.(c)	1.8-48	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)のいずれの注入配管を使用した場合においても約30分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)のいずれの注入配管を使用した場合においても約30分で可能である。	⑤
38	1.8.2.2(1)c.(c)	1.8-48	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
39	1.8.2.2(1)e.(a)	1.8-50	※2:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備、第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(ほう酸水注入系貯蔵タンク)が確保されている場合。	※2:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(ほう酸水注入系貯蔵タンク)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)
40	1.8.2.2(1)e.(c)	1.8-52	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
41	1.8.2.2(1)f.	1.8-52	全交流動力電源喪失時、原子炉隔離時冷却系、高圧炉心注水系及び高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水ができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により制御棒駆動系の電源を確保し、原子炉圧力容器の下部への注水を実施することで、原子炉圧力容器の下部に落下した熔融炉心を冷却し、原子炉圧力容器の破損の進展を抑制する。	全交流動力電源喪失時、原子炉隔離時冷却系、高圧炉心注水系及び高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水ができない場合には、常設代替交流電源設備により制御棒駆動系の電源を確保し、原子炉圧力容器の下部への注水を実施することで、原子炉圧力容器の下部に落下した熔融炉心を冷却し、原子炉圧力容器の破損の進展を抑制する。	② (第二GTGの自主化)
42	1.8.2.2(1)f.(a)	1.8-52,53	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ補機冷却水及び水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ補機冷却水及び水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)
43	1.8.2.2(1)g.	1.8-53	全交流動力電源喪失時において、原子炉隔離時冷却系及び高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水ができない場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により高圧炉心注水系の電源を確保することで高圧炉心注水系を冷却水がない状態で一定時間運転し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への緊急注水を実施する。	全交流動力電源喪失時において、原子炉隔離時冷却系及び高圧代替注水系による原子炉圧力容器への注水ができない場合は、常設代替交流電源設備により高圧炉心注水系の電源を確保することで高圧炉心注水系を冷却水がない状態で短時間起動させて、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への緊急注水を実施する。	② (第二GTGの自主化)
44	1.8.2.2(1)g.(a)	1.8-54	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	※1:設備に異常がなく、常設代替交流電源設備により注水に必要な電源が確保され、かつ水源(復水貯蔵槽)が確保されている場合。	② (第二GTGの自主化)
45	1.8.2.4(2)	1.8-56	代替交流電源設備により交流電源が確保できるまでは交流電源を必要としない高圧代替注水系により原子炉圧力容器へ注水し、代替交流電源設備により交流電源が確保できた段階で、高圧代替注水系に併せてほう酸水注入系によるほう酸水注入及び制御棒駆動系による原子炉圧力容器への注水を行う。また、低圧代替注水系の運転が可能となり発電用原子炉の減圧が完了するまでの期間は、高圧代替注水系により原子炉圧力容器への注水を継続するが、高圧代替注水系が使用できなくなった場合は高圧炉心注水系により原子炉圧力容器へ緊急注水する。	原子炉冷却材圧力バウンダリが高圧の状態において、代替交流電源設備により電源が確保できるまでは交流電源を必要としない高圧代替注水系により原子炉注水を行い、代替交流電源設備により電源が確保できた段階で、高圧代替注水系と併せてほう酸水注入系によるほう酸水注入を行う。なお、原子炉の減圧が可能となる前に高圧代替注水系による原子炉注水ができなくなった場合は高圧炉心注水系の緊急注水、及び制御棒駆動系による原子炉注水を行う	⑤
46	第1.8.1表	1.8-58 1.8-59 1.8-60	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
47	第1.8.1表	1.8-61 1.8-62 1.8-63	計器名称の変更に伴い監視計器一覧を修正 ・復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)	・復水補給水系流量(原子炉格納容器) ・格納容器下部注水流量	② (計器名称の変更)
48	第1.8.1表	1.8-64 1.8-65	計器名称の変更に伴い監視計器一覧を修正 ・復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量) ・復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)	・復水補給水系流量(圧力容器) ・残留熱除去系(A)注入配管流量 ・残留熱除去系(B)注入配管流量	② (計器名称の変更)
49	第1.8.1図 第1.8.2図	1.8-69 1.8-70	SOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.8.1表, 第1.8.2表の手順書名称を修正	—	⑤
50	第1.8.6図 第1.8.13図	1.8-74 1.8-83	手順の変更に伴い現場運転員の操作, 時間を修正 ・遠隔手動弁操作設備による系統構成(非管理区域)	—	⑤
51	第1.8.6図 第1.8.7図 第1.8.13図 第1.8.14図	1.8-74 1.8-75 1.8-76 1.8-77 1.8-83 1.8-84 1.8-85	水源の運用変更に伴いタイムチャートを修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.19, No.32に記載 ・他条文のタイムチャートに合わせて「運転員による操作」, 「緊急時対策要員による操作」に分割	—	⑤
52	第1.8.19図	1.8-90	記載の最適化 ・「電動弁を手動操作にて系統構成実施」をフローチャートから削除	—	⑤
53	第1.8.19図	1.8-91	手順の変更に伴いフローチャートを修正 ・「制御棒駆動系による原子炉圧力容器への注水」を代替交流電源設備による交流電源確保完了後に移動	—	⑤
54	添付資料 1.8.1	1.8-92 1.8-93 1.8-94	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
55	添付資料 1.8.2	1.8-95	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
56	添付資料 1.8.2-2	1.8-102	<p>2.格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水(淡水/海水)</p> <p>(1)遠隔手動弁操作設備を使用する場合の系統構成</p> <p>a.操作概要 格納容器下部注水系(可搬型)により原子炉格納容器下部へ注水する際の系統構成としてMUWC 接続口内側隔離弁(A)を全開するため、非管理区域にて遠隔手動弁操作設備を使用して弁操作を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 遠隔手動弁操作設備を使用した弁操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:15 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており、建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また、ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 放射性物質が放出される可能性があることから、操作は防護具(全面マスク、個人線量計、ゴム手袋)を装備して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており接近可能である。また、ヘッドライト及び懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :一般工具を使用した簡易な操作であり、容易に実施可能である。 操作対象弁には、暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器、電力保安通信用電話設備、携帯型音声呼出電話設備)のうち、使用可能な設備により、中央制御室に連絡する。</p>	<p>2.格納容器下部注水系(可搬型)によるデブリ冷却(淡水/海水)</p> <p>(1)遠隔手動弁操作設備の取外し及び系統構成</p> <p>a.操作概要 格納容器下部注水系(可搬型)により原子炉格納容器下部へ注水する際に、MUWC 接続口内側隔離弁(B)又はMUWC 接続口内側隔離弁(A)は遠隔手動弁操作設備のため、リンク機構を取り外してから系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階、地上1 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器下部注水系(可搬型)によるデブリ冷却に必要な要員数(9 名)、所要時間(95 分)のうち、遠隔手動弁操作設備の取外し及び取外し後の弁操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 : 2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:25 分(実績時間:10 分)</p> <p>d.操作の成立性について 作業環境:バッテリー内蔵型LED 照明を作業エリアに配備しており、建屋内常用照明消灯時における作業性を確保している。また、ヘッドライト・懐中電灯をバックアップとして携帯している。 操作は汚染の可能性を考慮し放射線防護具(全面マスク、個人線量計、ゴム手袋)を装備して作業を行う。 移動経路:バッテリー内蔵型LED 照明をアクセスルート上に配備しており近接可能である。また、ヘッドライト・懐中電灯をバックアップとして携帯している。 アクセスルート上に支障となる設備はない。 操作性 :一般工具を使用した簡易な操作であり、容易に実施可能である。 操作対象弁には、暗闇でも識別し易いように反射テープを施している。 連絡手段:通信連絡設備(送受話器、電力保安通信用電話設備、携帯型音声呼出電話設備)のうち、使用可能な設備により、中央制御室に連絡する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
57	添付資料 1.8.2-2	1.8-103	<p>(2)可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水準備及び送水</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水が必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決定する。 現場では、指示された送水ルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により送水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池周辺)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器下部注水系(可搬型)による原子炉格納容器下部への注水のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」3名の場合125分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」140分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330分(実績時間なし)</p>	<p>(2)屋外接続口から格納容器下部への注水(淡水/海水)</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、格納容器下部注水系(可搬型)による格納容器下部への注水が必要な状況において、接続口(消防ホース接続箇所)及び水源を選定し、注水ルートを決定する。 現場では、指示された注水ルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により注水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器下部注水系(可搬型)による格納容器下部への注水に必要な要員(防火水槽を水源とした場合9名、淡水貯水池を水源とした場合8名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合95分、淡水貯水池を水源とした場合120分)のうち、屋外接続口から原子炉への注水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」95分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」120分(実績時間なし)</p>	⑤
58	添付資料 1.8.2-3	1.8-105	<p>3. 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による原子炉格納容器下部への注水(受電操作)</p> <p>a.操作概要 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による原子炉格納容器下部への注水の系統構成のために電源を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) コントロール建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による原子炉格納容器下部への注水のうち、現場での受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:20分(実績時間:18分)</p>	<p>3. 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による格納容器下部注水(電源確保)</p> <p>a.操作概要 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による格納容器下部注水の系統構成のために電源確保を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) コントロール建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器下部注水系(常設若しくは可搬型)又は消火系による格納容器下部注水に必要な要員数(格納容器下部注水系(常設)の場合6名、格納容器下部注水系(可搬型)の場合9名、消火系の場合6名)、所要時間(格納容器下部注水系(常設)の場合35分、格納容器下部注水系(可搬型)の場合95分、消火系の場合30分)のうち、現場での電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:20分(実績時間:18分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	添付資料 1.8.4-2	1.8-109	計器名称の変更に伴い解釈一覧を修正 復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量) 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)	残留熱除去系(A)注入配管流量 残留熱除去系(B)注入配管流量	② (計器名称の変更)
60	添付資料 1.8.4-3	1.8-110	記載の拡充 ・弁名称, 操作場所を追加	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.9.1(2)a.(b) i.	1.9-8,9	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出で使用する設備は以下のとおり。 ・格納容器圧力逃がし装置 ・フィルタ装置出口放射線モニタ ・フィルタ装置水素濃度 耐圧強化ベント系(W/W)による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出で使用する設備は以下のとおり。 ・サブプレッション・チェンバ ・耐圧強化ベント系(W/W) ・可搬型窒素供給装置 ・ホース・接続口 ・耐圧強化ベント系放射線モニタ ・フィルタ装置水素濃度	格納容器圧力逃がし装置等による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出で使用する設備は以下のとおり。 ・格納容器圧力逃がし装置 ・代替格納容器圧力逃がし装置 ・耐圧強化ベント系(W/W) なお、耐圧強化ベント系(W/W)においては以下の設備を使用する。 ・可搬型窒素供給装置 ・耐圧強化ベント系放射線モニタ ・フィルタ装置水素濃度 ・燃料補給設備	⑤
2	1.9.1(2)a.(d)	1.9-10,11	代替電源設備による必要な設備への給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備 ・ 代替所内電気設備	代替電源設備による必要な設備への給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備	② (第二GTGの自主化)
3	1.9.1(2)a.(e)	1.9-12,13	・可搬型格納容器窒素供給設備 発電用原子炉運転中は原子炉格納容器内を窒素ガスで置換しているため、炉心損傷に伴い水素ガスが発生した場合においても、事故発生直後に酸素濃度が可燃限界に至ることはない。 有効性評価における原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度評価により、事故発生後7日間は原子炉格納容器への窒素ガス供給は不要であるが、その後の安定状態において、本設備を用いて原子炉格納容器へ窒素ガスを供給することで原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度を低減できることから、水素爆発による原子炉格納容器の破損防止対策として有効である。	・可搬型格納容器窒素供給設備 原子炉運転中は原子炉格納容器内を窒素ガスで置換しているため、炉心損傷に伴い水素ガスが発生した場合においても、事故発生直後に酸素濃度が可燃限界に至ることはなく、短期的には原子炉格納容器への窒素ガス供給は不要である。中長期的には本設備を用い窒素ガスを供給することで、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度を低減できることから、水素爆発による原子炉格納容器の破損防止対策として有効である。	⑤
4	1.9.1(2)a.(e)	1.9-13	・第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
5	1.9.2.1(1)b.	1.9-15~18	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」の操作手順を追加	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
6	1.9.2.1(2)a.(a)	1.9-18,19	炉心損傷を判断した場合※1において、炉心の著しい損傷の緩和及び原子炉格納容器の破損防止のために必要な操作が完了した場合※2。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:炉心の著しい損傷を防止するために原子炉圧力容器への注水を実施する必要がある場合、又は原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内へスプレイを実施する必要がある場合は、これらの操作を完了した後に格納容器ベントの準備を開始する。ただし、発電用原子炉の冷却ができない場合、又は原子炉格納容器内の冷却ができない場合は、速やかに格納容器ベントの準備を開始する。	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇を確認した場合。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のγ線線量率が、設計基準事故相当のγ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。	⑤
7	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-19,20	なお、格納容器圧力逃がし装置補機類の操作手順は「1.7.2.1(1)a.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」にて整備する。また、原子炉格納容器ベント弁駆動源確保(予備ポンペ)の操作手順は「1.5.2.1(1)a.(b)原子炉格納容器ベント弁駆動源確保(予備ポンペ)」にて整備する。	なお、格納容器圧力逃がし装置補機類の操作手順は「1.7.2.1(i)a.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱」にて整備する。	⑤
8	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-21	⑦中央制御室運転員A及びBは、格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止し、非常用ガス処理系フィルタ装置出口隔離弁及び非常用ガス処理系出口Uシール隔離弁の全閉操作、並びに耐圧強化ベント弁、非常用ガス処理系第一隔離弁、換気空調系第一隔離弁、非常用ガス処理系第二隔離弁及び換気空調系第二隔離弁の全閉、及びフィルタ装置入口弁の全開確認後、二次隔離弁を調整開(流路面積約50%開)とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を調整開(流路面積約50%開)とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	⑦中央制御室運転員A及びBは、原子炉格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁及び非常用ガス処理系出口Uシール弁の全閉操作、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁、不活性ガス系非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁、不活性ガス系換気空調系側PCVベント用隔離弁、非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁後弁及び換気空調系側PCVベント用隔離弁後弁の全閉及び、耐圧強化ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全開確認後、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を調整開(流路面積約50%開)とし、格納容器逃がし装置による原子炉格納容器ベント準備完了を当直副長へ報告する。	⑤
9	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-21,22	⑧現場運転員C及びDは、格納容器ベント前の系統構成として、フィルタベント大気放出ラインドレン弁を全閉とし、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント準備完了を当直副長に報告する。	—	⑤
10	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-22,23	⑫a W/Wベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作により、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)を全開する手段がある。更に一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)逆操作用空気排気側止め弁を全閉、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気供給弁及び一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気排気側止め弁を全開することで電磁弁排気ポートへ駆動空気を供給し、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)を全開する手段がある。	⑪aW/Wベントの場合 現場運転員C及びDは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
11	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-23	⑫ b D/W ベントの場合 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(ドライウエル側)操作用空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁(ドライウエル側)の全開操作により、格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベントを開始する。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて一次隔離弁(ドライウエル側)を全開する手段がある。更に一次隔離弁(ドライウエル側)逆操作用空気排気側止め弁を全開、一次隔離弁(ドライウエル側)操作用空気供給弁及び一次隔離弁(ドライウエル側)操作用空気排気側止め弁を全開することで電磁弁排気ポートへ駆動空気を供給し、一次隔離弁(ドライウエル側)を全開する手段がある。	⑪ bD/Wベントの場合 現場運転員C及びDは、不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開とし、格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器ベントを開始する。	⑤
12	1.9.2.1(2)a.(b)	1.9-24	⑬ 中央制御室運転員A及びBは、格納容器内水素濃度指示値及び格納容器内酸素濃度指示値の低下傾向が確認できない状態となった場合、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側又はドライウエル側)の全開、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全開操作を実施する。再度原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が上昇する場合は、格納容器圧力逃がし装置を使用し格納容器ベントを実施する。	⑭ 中央制御室運転員A及びBは、格納容器内水素濃度指示値及び格納容器内酸素濃度指示値の低下傾向が確認できない状態となった場合、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全開、現場運転員C及びDは、不活性ガス系 S/Cベント用出口隔離弁又は不活性ガス系D/Wベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開操作を実施する。再度原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が上昇する場合は、格納容器圧力逃がし装置を使用し原子炉格納容器ベントを実施する。	⑤
13	1.9.2.1(2)a.(c)	1.9-24	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出開始まで約40分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出開始まで約70分で可能である。	⑤
14	1.9.2.1(2)a.(c)	1.9-24	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
15	—	—	削除	「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出」の操作手順	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
16	1.9.2.1(2)b.	1.9-25	炉心の著しい損傷が発生した場合、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度を監視し、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解により原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇が確認され、格納容器圧力逃がし装置の機能が喪失した場合に、耐圧強化ベント系を使用した格納容器ベント操作により原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスを排出することで原子炉格納容器の水素爆発による破損を防止する。	炉心の著しい損傷が発生した場合、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度を監視し、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解により原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇が確認され、格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置の機能が喪失した場合に、耐圧強化ベント系を使用した原子炉格納容器ベント操作により原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスを排出することで原子炉格納容器の水素爆発による破損を防止する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
17	1.9.2.1(2) b.(a) i.	1.9-25	炉心損傷を判断した場合※1において、炉心の著しい損傷の緩和及び原子炉格納容器の破損防止のために必要な操作が完了した場合※2で格納容器圧力逃がし装置が使用できず※3、耐圧強化ベント系が使用可能な場合。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:炉心の著しい損傷を防止するために原子炉圧力容器への注水を実施する必要がある場合、又は原子炉格納容器の破損を防止するために原子炉格納容器内ヘスプレイを実施する必要がある場合は、これらの操作を完了した後に格納容器ベントの準備を開始する。ただし、発電用原子炉の冷却ができない場合、又は原子炉格納容器内の冷却ができない場合は、速やかに格納容器ベントの準備を開始する。 ※3:「格納容器圧力逃がし装置が使用できない」とは、設備に故障が発生した場合。	炉心損傷後、代替循環冷却系を長期使用し原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇を確認した場合において、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失※1した場合。 ※1:「格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失」とは、設備に故障が発生した場合。	⑤
18	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-27,28	⑤ 中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止し、非常用ガス処理系フィルタ装置出口隔離弁及び非常用ガス処理系出口Uシール隔離弁の全閉操作、並びに非常用ガス処理系第一隔離弁、換気空調系第一隔離弁、非常用ガス処理系第二隔離弁及び換気空調系第二隔離弁の全閉確認を実施する。	⑤中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベント前の系統構成として、非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁及び非常用ガス処理系出口Uシール元弁の全閉操作、不活性ガス系非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁、不活性ガス系換気空調系側PCVベント用隔離弁、非常用ガス処理系側PCVベント用隔離弁後弁及び換気空調系側PCVベント用隔離弁後弁の全閉確認を実施する。	⑤
19	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-28	⑧ 中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による格納容器ベント前の系統構成として、フィルタ装置入口弁の全閉操作を実施する。現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備によりフィルタ装置入口弁の全閉操作を実施する。また、中央制御室及び遠隔手動弁操作設備からの操作以外の手段として、フィルタ装置入口弁逆作用空気排気側止め弁を全開、フィルタ装置入口弁操作空気ポンベ出口弁及びフィルタ装置入口弁操作空気排気側止め弁を全開することで電磁弁排気ポートへ駆動空気を供給し、フィルタ装置入口弁を全閉する手段がある。	⑧中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベント前の系統構成として、耐圧強化ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全閉操作を実施する。 現場運転員C及びDは、遠隔手動操作設備により耐圧強化ベント系PCVベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全閉操作を実施する。	⑤
20	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-28,29	⑨ 中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による格納容器ベント前の系統構成として、耐圧強化ベント弁を全開とする。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて耐圧強化ベント弁を全開する手段がある。更に耐圧強化ベント弁逆作用空気排気側止め弁を全開、耐圧強化ベント弁操作空気ポンベ出口弁及び耐圧強化ベント弁操作空気排気側止め弁を全開することで電磁弁排気ポートへ駆動空気を供給し、耐圧強化ベント弁を全開する手段がある。	⑨中央制御室運転員A及びBは、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベント前の系統構成として、耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁を全開とする。 耐圧強化ベント系PCVベントライン排気筒側隔離弁の駆動源が確保できない場合、現場運転員C及びDは遠隔手動操作設備により全開操作を実施する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-29	⑩ 中央制御室運転員A及びBは、二次隔離弁を調整開(弁開度約20%開)とする。開度指示は現場運転員C及びDにて確認する。二次隔離弁の開操作ができない場合は、二次隔離弁バイパス弁を調整開(弁開度約20%開)とする。	⑩中央制御室運転員A及びBは、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁を調整開(弁開度約20%開)とする。開度指示は現場運転員C及びDにて確認する。	⑤
22	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-30	⑯ 中央制御室運転員A及びBは、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気供給弁を全開とすることで駆動空気を確保し、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全開操作により、耐圧強化ベント系による格納容器ベントを開始する。また、中央制御室からの操作以外の手段として、遠隔手動弁操作設備による操作にて一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)を全開する手段がある。更に一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)逆操作用空気排気側止め弁を全閉、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気供給弁及び一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)操作用空気排気側止め弁を全開することで電磁弁排気ポートへ駆動空気を供給し、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)を全開する手段がある。	⑯現場運転員C及びDは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全開とし、耐圧強化ベント系による原子炉格納容器ベントを開始する。	⑤
23	1.9.2.1(2) b.(a) ii.	1.9-30,31	⑰ 中央制御室運転員A及びBは、格納容器内水素濃度指示値及び格納容器内酸素濃度指示値の低下傾向が確認できない状態となった場合、一次隔離弁(サブプレッション・チェンバ側)の全閉、その後二次隔離弁又は二次隔離弁バイパス弁の全閉操作を実施する。再度原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が上昇する場合は、耐圧強化ベント系を使用し格納容器ベントを実施する。	⑰中央制御室運転員A及びBは、格納容器内水素濃度指示値及び格納容器内酸素濃度指示値の低下傾向が確認できない状態となった場合、不活性ガス系PCV耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁の全閉、現場運転員C及びDは、不活性ガス系S/Cベント用出口隔離弁を遠隔手動弁操作設備による操作で全閉操作を実施する。再度原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が上昇する場合は、耐圧強化ベント系を使用し原子炉格納容器ベントを実施する。	⑤
24	1.9.2.1(2) b.(a) iii.	1.9-31	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ベント系による水素ガス及び酸素ガス排出開始まで約55分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ベント系による水素ガス及び酸素ガス排出開始まで約95分で可能である。また、空気駆動弁の駆動源が確保できない場合で遠隔手動操作設備による操作を実施する場合は約175分で可能である。	⑤
25	1.9.2.1(2) b.(a) iii.	1.9-31	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
26	1.9.2.1(2) b.(b) i.	1.9-32	炉心損傷後、代替循環冷却系を長期使用し原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇を確認した場合。	炉心損傷後、代替循環冷却系を長期使用し原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇を確認した場合において、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失※1し、耐圧強化ベント系を用いて原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出を判断した場合。 ※1:「格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失」とは、設備に故障が発生した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	1.9.2.1(2) b.(b) ii.	1.9-32	③ 緊急時対策要員は、タービン建屋-原子炉建屋連絡通路南西側(原子炉建屋内の原子炉区域外)にて、可搬型窒素供給装置からの送気ホースを接続口へ取付操作を実施する。また、非常用ガス処理系モニタ室通路(原子炉建屋内の原子炉区域外)にて、耐圧強化ベント系N ₂ パージ用元弁(原子炉建屋内の原子炉区域外)及び耐圧強化ベント系N ₂ パージ用元弁(タービン建屋側)の開操作を実施した後、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部に報告する。	③緊急時対策要員は、タービン建屋-原子炉建屋連絡通路南東側(屋外)にて、可搬型窒素供給装置からの送気ホースを接続口へ取付操作を実施する。また非常用ガス処理系モニタ室通路(管理区域内)にて配管中継用の伸縮継手を取付操作し、耐圧強化ベント系N ₂ パージ用元弁(二次格納施設側)及び耐圧強化ベント系N ₂ パージ用元弁(タービン建屋側)の開操作を実施した後、窒素ガス注入の準備完了を緊急時対策本部へ報告する。	⑤
28	1.9.2.1(2) b.(b) iii.	1.9-33	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ラインの窒素ガスパージ完了まで約6時間で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから耐圧強化ラインのN ₂ パージ完了まで約5時間40分で可能である。	⑤
29	1.9.2.1(2) b.(b) iii.	1.9-33	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
30	1.9.2.1(2)c. a)	1.9-34	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の水素濃度が5vol%以下で、可燃性ガス濃度制御系が使用可能な場合※2。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:原子炉格納容器内の圧力が105kPa[gage](可燃性ガス濃度制御系運転時の制限圧力)以下であり、設備に異常がなく、電源、残留熱除去系から供給される冷却水(サブプレッション・チェンバ・プール水)が確保されている場合。	①炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が上昇し、原子炉格納容器内の圧力が105kPa[gage](可燃性ガス濃度制御系運転時の制限圧力)以下であり、残留熱除去系が使用可能な場合※2。 ②原子炉格納容器ベント操作後の原子炉格納容器水素濃度が10%以上で、原子炉格納容器内の圧力が105kPa[gage](可燃性ガス濃度制御系運転時の制限圧力)以下であり、残留熱除去系が使用可能な場合※2。 ※1:格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)で原子炉格納容器内のγ線線量率が、設計基準事故相当のγ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル(CAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度で300℃以上を確認した場合。 ※2:設備に異常がなく、電源、補機冷却水及び水源(サブプレッション・チェンバ)が確保されている場合。	⑤
31	1.9.2.1(2)c. c)	1.9-37	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
32	1.9.2.1(3)a.	1.9-37	炉心の著しい損傷が発生した場合において、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解で原子炉格納容器内に発生する水素ガスの濃度を格納容器内水素濃度(SA)により監視する。 なお、格納容器内水素濃度(SA)は、通常時から常時監視が可能である。	炉心の著しい損傷が発生した場合において、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解で原子炉格納容器内に発生する水素ガスの濃度を格納容器内水素濃度(SA)により監視する。	⑤
33	1.9.2.1(3)b.	1.9-38,39	炉心の著しい損傷が発生した場合において、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解で原子炉格納容器内に発生する水素ガス及び酸素ガスを格納容器内水素濃度及び格納容器内酸素濃度により監視する。	炉心の著しい損傷が発生した場合において、ジルコニウム-水反応及び水の放射線分解で原子炉格納容器内に発生する水素ガス及び酸素ガスを格納容器内水素濃度及び格納容器内酸素濃度により監視する。 なお、通常運転中における原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度についても監視を行う。	⑤
34	1.9.2.1(3)b. c)	1.9-41	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
35	1.9.2.4	1.9-42	<p>原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の上昇が確認された場合において、原子炉格納容器内の圧力を可燃性ガス濃度制御系運転時の制限圧力以下に維持可能で、原子炉格納容器内の水素濃度が規定値以下の場合には、可燃性ガス濃度制御系を起動し、原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスを再結合させることで、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度が可燃限界へ到達することを防止する。</p> <p>可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度の抑制ができず、原子炉格納容器内の酸素濃度が規定値に到達した場合は、格納容器圧力逃がし装置により原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出することで、水素爆発の発生を防止する。格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は耐圧強化ベント系により原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出することで、水素爆発の発生を防止する。</p> <p>なお、格納容器圧力逃がし装置を用いて、原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出する際には、スクラビングによる放射性物質の排出抑制を期待できるW/Wを経由する経路を第一優先とする。W/Wベントラインが水没等の理由で使用できない場合は、D/Wを経由してフィルタ装置を通る経路を第二優先とする。</p>	<p>格納容器内雰囲気計装にて原子炉格納容器内の酸素濃度を監視し、原子炉格納容器内の酸素濃度が規定値に到達した場合に、格納容器圧力逃がし装置により原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出することで、水素爆発の発生を防止する。格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は代替格納容器圧力逃がし装置により実施し、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置が機能喪失した場合は耐圧強化ベント系により原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出することで、水素爆発の発生を防止する。</p> <p>なお、格納容器圧力逃がし装置及び代替格納容器圧力逃がし装置を用いて、原子炉格納容器内に滞留している水素ガス及び酸素ガスを排出する際には、スクラビングによる放射性物質の排出抑制を期待できるW/Wを経由する経路を第一優先とする。W/Wベントラインが水没等の理由で使用できない場合は、D/Wを経由してフィルタ装置を通る経路を第二優先とする。</p> <p>その後は、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)又は代替格納容器スプレイ冷却系により原子炉格納容器の除熱を行い、長期的な事故対応として可燃性ガス濃度制御系を起動し、原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスを再結合させることで、原子炉格納容器内の可燃性ガス濃度が可燃限界へ到達することを防止する。</p>	⑤
36	第1.9.1表	1.9-44	<p>記載の拡充 ・「耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出」にサブプレッション・チェンバ(重大事故等対処設備)を追加</p>	—	⑤
37	第1.9.1表	1.9-44	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	—	② (代替格納容器圧力逃がし装置の削除)
38	第1.9.1表	1.9-45	<p>設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)</p>	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
39	第1.9.2表	1.9-46 1.9-48	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」、「格納容器内水素濃度(SA)による原子炉格納容器内の水素濃度監視」、「格納容器内雰囲気計装による原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度監視」に関する監視計器を追加	—	⑤
40	第1.9.1図	1.9-50	SOPの変更に伴い対応フローを変更併せて第1.9.1表、第1.9.2表の手順書名称を修正	—	⑤
41	第1.9.2図 第1.9.3図	1.9-51 1.9-52	「可搬型格納容器窒素供給設備による原子炉格納容器への窒素ガス供給」の操作手順の追加に伴い概要図、タイムチャートを追加	—	⑤
42	第1.9.5図	1.9-55	<p>手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.13に記載</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
43	—	—	削除	「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出」の概要図、タイムチャート	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
44	第1.9.7図	1.9-58	手順の変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.24に記載	—	⑤
45	第1.9.9図	1.9-60	緊急時対策所変更に伴いタイムチャートを修正 ・操作の所要時間に関してはNo.28に記載	—	⑤
46	第1.9.14図	1.9-65	手順の変更に伴いフローチャートを修正 ・可燃性ガス濃度制御系を使用する条件に原子炉格納容器内の水素濃度を追記	—	⑤
47	添付資料 1.9.1	1.9-67	記載の拡充 ・「耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出」にサブプレッション・チェンバ(重大事故等対処設備)を追加	—	⑤
48	添付資料 1.9.1	1.9-67	「代替格納容器圧力逃がし装置」を削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)
49	添付資料 1.9.1	1.9-67	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主 化)
50	添付資料 1.9.1	1.9-67	手順の追加に伴い要員数、時間を記載 ・原子炉格納容器内不活性化による原子炉格納容器水素爆発防止	—	⑤
51	添付資料 1.9.2	1.9-67	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (断路器の通常 状態変更)
52	添付資料 1.9.2	1.9-69 1.9-70 1.9-71 1.9-72	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・AC系電動弁、空気作動弁の駆動源をSA化	—	② (AC系弁の駆動 源のSA化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
53	添付資料 1.9.3-1	1.9-73	<p>1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 低層階屋上(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出のうち、電源確保及び系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :電源確保 20 分(実績時間:18 分) 系統構成(原子炉建屋内の原子炉区域外)15 分(実績時間:12分)</p>	<p>1.格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</p> <p>a.操作概要 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) D/W ベント 原子炉建屋 地上2 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な要員数(4 名)、所要時間(70 分)のうち、電源確保及び空気作動弁の遠隔手動弁操作設備の操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:電源確保 30 分(実績時間:24 分) 遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作40 分 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合21 分) (実績時間:不活性ガス系D/W ベント用出口隔離弁の全開操作を実施する場合17 分)</p>	⑤
54	—	—	添付資料「代替格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出」を削除	—	② (代替格納容器 圧力逃がし装置 の削除)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
55	添付資料 1.9.3-2	1.9-75	<p>2. 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</p> <p>a. 操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。</p> <p>b. 作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 地上3 階, 地上中3 階(非管理区域)</p> <p>c. 必要要員数及び時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出のうち, 電源確保及び系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間:電源確保 20 分(実績時間:18 分) 系統構成(原子炉建屋内の原子炉区域外)30 分(実績時間:23分)</p>	<p>3. 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</p> <p>a. 操作概要 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な電動弁の電源確保及び現場での系統構成を手動操作にて行う</p> <p>b. 作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 地上中3 階, 地上3 階(非管理区域) W/W ベント 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c. 必要要員数及び操作時間 耐圧強化ベント系による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出に必要な要員数(4 名), 所要時間(95 分※)のうち, 電源確保及び現場系統構成に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:電源確保 30 分(実績時間:24 分) 系統構成(二次格納容器施設外)25 分(実績時間:23 分) 遠隔手動弁操作設備による原子炉格納容器ベント操作40 分 (実績時間:不活性ガス系S/C ベント用出口隔離弁の全開21分) ※空気駆動弁の駆動源の確保ができない場合, 遠隔手動弁操作設備による操作を80 分(40 分/1 弁)とし所要時間が175 分となる。 (耐圧強化系ベント系PCV ベントラインフィルタベント容器側隔離弁の全開実績時間: 設備設置工事中のため実績時間なし) (耐圧強化系ベント系PCV ベントライン排気筒側隔離弁の全開実績時間: 設備設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
56	添付資料 1.9.3-3	1.9-77	<p>3. 可燃性ガス濃度制御系の電源確保</p> <p>a. 操作概要 可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御の系統構成のために電源の受電操作を行う。</p> <p>b. 作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c. 必要要員数及び時間 可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御のうち, 電源確保に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:18 分)</p>	<p>4. 可燃性ガス濃度制御系の電源確保</p> <p>a. 操作概要 可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御の系統構成のために電源の受電操作を行う。</p> <p>b. 作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c. 必要要員数及び操作時間 可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御に必要な要員数(4 名), 所要時間(30 分)のうち系統構成のための電源確保に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:20 分(実績時間:18 分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
57	添付資料 1.9.3-4	1.9-79	<p>4.格納容器内雰囲気計装の電源確保</p> <p>a.操作概要 代替原子炉補機冷却系により冷却水が確保されていることの確認及び代替交流電源設備からの給電を確認後、格納容器内雰囲気計装電源の受電操作を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器内雰囲気計装による原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度の監視のうち、電源確保に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 人(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:19 分)</p>	<p>5.格納容器内雰囲気計装の電源確保</p> <p>a.操作概要 代替原子炉補機冷却系により冷却水が確保されていることの確認及び代替交流電源設備からの給電を確認後、格納容器内雰囲気計装電源の受電操作を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 格納容器内雰囲気計装による原子炉格納容器内の水素濃度及び酸素濃度監視に必要な要員数運転員(4 名)、所要時間(25 分)のうち格納容器内雰囲気計装電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 人(現場運転員2 名) 所要時間目安:20 分(実績時間:19 分)</p>	⑤
58	添付資料 1.9.3-5	1.9-81	<p>5.耐圧強化ラインの窒素ガスパーージ</p> <p>a.操作概要 炉心の著しい損傷が発生し、耐圧強化ベント系により原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出を実施する際、耐圧強化ベントライン主排気筒側の大気開放されたラインに対してあらかじめ窒素ガスパーージを実施することにより、系統内の酸素濃度を可燃限界以下に保ち、水素爆発を防止する。</p> <p>b.作業場所 タービン建屋 西側大物搬入口前(屋外) タービン建屋 地上1 階 原子炉建屋連絡通路南西側(管理区域) 原子炉建屋 地上1 階 非常用ガス処理系モニタ室通路(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 耐圧強化ラインの窒素ガスパーージに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4 人(緊急時対策要員4 名) 想定時間 :6 時間(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>6.耐圧強化ラインのN2 パージ</p> <p>a.操作概要 炉心の著しい損傷の後に代替循環冷却系を使用した際、原子炉格納容器内で水の放射線分解により発生する水素ガス・酸素ガスを耐圧強化ベント系を用いて排出する場合、水素ガス・酸素ガス排出操作前に耐圧強化ベントライン主排気筒側の大気開放されたラインに対してあらかじめN2パーージを実施することにより、系統内の酸素濃度を可燃限界以下に保ち、水素爆発を防止する。</p> <p>b.作業場所 タービン建屋 西側大物搬入口前(屋外) タービン建屋 地上1 階 原子炉建屋連絡通路南西側(管理区域) 原子炉建屋 地上1 階 非常用ガス処理系モニタ室通路(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 耐圧強化ラインのN2 パージに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4 人(緊急時対策要員4 名) 所要時間目安:5 時間40 分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
59	添付資料 1.9.4-2	1.9-84,85	<p>記載の拡充 ・弁名称、操作場所を追加</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.10.1(2)a.(a) ii.	1.10-8	原子炉建屋内の水素濃度監視で使用する設備は以下のとおり。 ・原子炉建屋水素濃度 上記設備は原子炉建屋原子炉区域に8個(そのうち、燃料取替床に3個)設置している。	原子炉建屋内の水素濃度監視で使用する設備は以下のとおり。 ・原子炉建屋水素濃度 上記設備は二次格納施設内に7個(そのうち、原子炉建屋オペレーティングフロアに2個)設置している。	② (SGTS配管を水素燃焼から保護するため、計器追設)
2	1.10.1(2)a.(a) iii.	1.10-8	代替電源による必要な設備への給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替直流電源設備 ・可搬型直流電源設備 また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	代替電源による必要な設備への給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替直流電源設備 また、上記常設代替直流電源設備への継続的な給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・可搬型直流電源設備	② (第二GTGの自主化)
3	1.10.1(2)a.(b) i.	1.10-9,10	なお、格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)
4	1.10.1(2)a.(d)	1.10-12	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
5	1.10.2.1(1)a. (a)	1.10-14	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度が171℃を超えるおそれがある場合で、格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度上昇が継続している場合で、格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	⑤
6	1.10.2.1(1)a. (b)	1.10-15	⑤ 当直副長は、原子炉格納容器内の温度が171℃に到達したことを確認し、当直長に報告する。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.10.2.1(1)a. (c)	1.10-16,17	防火水槽を水源とした格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水開始まで約110分で可能である。 淡水貯水池を水源とした格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合）操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水開始まで約115分で可能である。 また、淡水貯水池を水源とした格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水開始まで約330分で可能である。	防火水槽を水源とした格納容器頂部注水系による原子炉ウエル注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員2名で作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウエル注水開始まで約80分で可能である。 また、淡水貯水池を水源とした格納容器頂部注水系による原子炉ウエル注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名で作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウエル注水開始まで約110分で可能である。	⑤
8	1.10.2.1(1)b. (a)	1.10-18	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度が171℃を超えるおそれがある場合で、サブプレッションプール浄化系が使用可能な場合※2。	炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度上昇が継続している場合で、サブプレッションプール浄化系が使用可能な場合※2。	⑤
9	1.10.2.1(1)b. (b)	1.10-19	⑤ 当直副長は、原子炉格納容器内の温度が171℃に到達したことを確認し、中央制御室運転員にサブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水開始を指示する。	⑤ 当直副長は、中央制御室運転員にサブプレッションプール浄化系による原子炉ウエル注水の開始を指示する。	⑤
10	1.10.2.1(1)b. (c)	1.10-20	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
11	1.10.2.2(1)	1.10-21	炉心の著しい損傷が発生した場合、原子炉格納容器内で発生した水素ガスが原子炉格納容器から原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、原子炉建屋水素濃度にて燃料取替床天井付近の水素濃度、非常用ガス処理系吸込配管付近の水素濃度及び燃料取替床以外のエリアの水素濃度（以下「原子炉建屋内の水素濃度」という。）を監視する。	炉心の著しい損傷が発生した場合、原子炉格納容器内で発生した水素ガスが原子炉格納容器から原子炉建屋に漏えいする可能性があることから、原子炉建屋水素濃度にて原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度及び原子炉建屋オペレーティングフロア以外のエリアの水素濃度（以下、「原子炉建屋内の水素濃度」という。）を監視する。	② (SGTS配管を水素燃焼から保護するため、計器追設)
12	1.10.2.2(1)b.	1.10-22	また、燃料取替床の水素濃度が1.3vol%に到達した場合は、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止するよう指示する。	また、原子炉建屋内の水素濃度の上昇を確認した場合には、非常用ガス処理系を停止するよう指示する。	⑤
13	1.10.2.2(1)b.	1.10-22	③ 中央制御室運転員Aは、燃料取替床の原子炉建屋水素濃度指示値が1.3vol%に到達したことを確認した場合は、非常用ガス処理系を停止する。	③ 中央制御室運転員Aは、原子炉建屋水素濃度指示値の上昇を確認した場合、非常用ガス処理系が運転中であれば非常用ガス処理系を停止する。	⑤
14	1.10.2.2(1)c.	1.10-22,23	水素濃度の監視は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名にて対応を実施する。 また、非常用ガス処理系の停止操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名（操作者及び確認者）にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから非常用ガス処理系の停止まで約5分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名にて確認及び対応を実施する。原子炉建屋の水素濃度の上昇を確認してから非常用ガス処理系の停止まで約3分で可能である。	⑤
15	1.10.2.2(2)a.	1.10-23	原子炉建屋内の水素濃度の上昇により格納容器ベントを実施したにもかかわらず、原子炉建屋内の水素濃度が低下しない場合。	原子炉建屋オペレーティングフロアの天井付近の水素濃度が3.5vol%を超えた場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
16	1.10.2.2(2)c.	1.10-24	上記の操作は, 1 ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから原子炉建屋トップベントの開放まで約55分で可能である。	上記の操作は, 1 ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業開始を判断してから原子炉建屋トップベント開放まで約45分で可能である。	⑤
17	第1.10.1表	1.10-28	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
18	第1.10.2表	1.10-31	「原子炉建屋内の水素濃度監」に関する監視計器を追加	—	⑤
19	第1.10.1図 第1.10.6図	1.10-33 1.10-40	SOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.10.1表, 第1.10.2表の手順書名称を修正	—	⑤
20	第1.10.3図	1.10-35 1.10-36 1.10-37	水源の運用変更に伴いタイムチャートを修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.7に記載	—	⑤
21	第1.10.8図	1.10-42	記載の適正化 ・移動時間の変更に伴い所要時間を修正	—	⑤
22	第1.10.8図	1.10-43	記載の拡充 ・「原子炉建屋トップベント」実施までの流れを修正	—	⑤
23	添付資料 1.10.1	1.10-44	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備) 水源の運用変更に伴い所要時間を修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.7に記載	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化) ⑤
24	添付資料 1.10.2	1.10-45	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	—	② (緊急用断路器の通常状態変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
25	添付資料 1.10.3-1	1.10-50	<p>1.格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水(淡水/海水) (1)可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水準備及び送水</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水が必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決定する。 現場では、指示された送水ルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により送水する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池周辺)</p> <p>c.必要要員数及び時間 格納容器頂部注水系による原子炉ウエルへの注水のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2 名(緊急時対策要員2 名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4 名(緊急時対策要員4 名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6 名(緊急時対策要員6 名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」110 分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」115 分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330 分(実績時間なし)</p>	<p>1.格納容器頂部注水系による原子炉ウエル注水(淡水/海水)</p> <p>a.操作概要 緊急時対策本部は、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による原子炉ウエル注水が必要な状況において、接続口及び水源を選定し、送水ルートを決定する。 現場では、指示された送水ルートを確保した上で、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により原子炉ウエル注水を実施する。</p> <p>b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による原子炉ウエル注水に必要な要員(防火水槽を水源とした場合3 名、淡水貯水池を水源とした場合5 名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合80 分、淡水貯水池を水源とした場合110 分)のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)による送水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2 名(緊急時対策要員2 名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4 名(緊急時対策要員4 名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」80 分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」110 分(実績時間なし)</p>	⑤
26	添付資料 1.10.3-2	1.10-52	<p>2.サプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水</p> <p>a.操作概要 原子炉ウエルへの注水準備のため、サプレッションプール浄化系の系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 サプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水のうち、現場での系統構成に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間:35 分(実績時間:33 分)</p>	<p>2.サプレッションプール浄化系による原子炉ウエル注水</p> <p>a.操作概要 原子炉ウエルへの注水準備のため、サプレッションプール浄化系の系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 サプレッションプール浄化系による原子炉ウエル注水に必要な要員数(4名)、所要時間(40 分)のうち、現場系統構成に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:40 分(実績時間:33 分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	添付資料 1.10.3-3	1.10-54	<p>3.原子炉建屋トップベント (1)トップベント開放操作 a.操作概要 レバーブロックをトップベント開放用ワイヤーロープ及び反力用フックに取り付け, レバーブロック操作によりトップベント開放用ワイヤーロープを反力用フック近傍まで引っ張り, トップベント開放用ワイヤーロープを反力用フックに固定する。 b.作業場所 原子炉建屋低層階屋上(非管理区域) c.必要要員数及び時間 原子炉建屋トップベントの開放操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:3名(緊急時対策要員) 想定時間 :55分(実績時間なし)</p>	<p>3.原子炉建屋トップベント (1)トップベント開放操作 a.操作概要 レバーブロックをトップベント開放用ワイヤーロープ及び反力用フックに取り付け, レバーブロック操作によりトップベント開放用ワイヤーロープを反力用フック近傍まで引っ張り, トップベント開放用ワイヤーロープを反力用フックに固定する。 b.作業場所 原子炉建屋低層階屋上(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 原子炉建屋トップベントに必要な要員(4名), 所要時間(45分)のうち, トップベントの開放作業に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :3名(緊急時対策要員) 所要時間目安:45分(実績時間なし)</p>	⑤
28	添付資料 1.10.4-3	1.10-58	<p>記載の拡充 ・弁名称, 操作場所を追加</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.11.1(2)a.(a) i.	1.11-11	なお、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)
2	1.11.1(2)a.(a) ii.	1.11-12	なお、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水は、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)
3	1.11.1(2)a.(a) iii.	1.11-12	消火系による使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。 ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・使用済燃料プール ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・燃料補給設備	消火系による使用済燃料プールへの注水で使用する設備は以下のとおり。 ・ディーゼル駆動消火ポンプ ・ろ過水タンク ・消火系配管・弁 ・復水補給水系配管・弁 ・残留熱除去系配管・弁 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁 ・使用済燃料プール ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・燃料補給設備	② (第二GTGの自主化)
4	1.11.1(2)a.(c)	1.11-14	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
5	1.11.1(2)b.(a) i.	1.11-15	なお、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイは、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイは、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)
6	1.11.1(2)b.(a) ii.	1.11-16	なお、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイは、防火水槽又は淡水貯水池の淡水だけでなく、海水も利用できる。また、淡水貯水池を水源として利用する際の取水方法は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用する方法と、そのホースを使用せずに淡水貯水池から直接取水する方法がある。	なお、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイは、防火水槽又は淡水貯水池の淡水を使用する手段だけでなく、海水を使用する手段もある。	② (淡水貯水池の運用変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
7	1.11.1(2)c.(b)	1.11-20	代替電源による給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・所内蓄電式直流電源設備 ・可搬型直流電源設備	代替電源による給電で使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・所内蓄電式直流電源設備 ・可搬型直流電源設備	② (第二GTGの自主化)
8	1.11.1(2)c.(c)	1.11-21	・ 第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)
9	1.11.1(2)d.(a)	1.11-22	(a) 代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱 燃料プール冷却浄化系が全交流動力電源喪失により起動できない場合は、常設代替交流電源設備、 第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備 を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給することで燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで使用済燃料プールを除熱する手段がある。 代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・燃料プール冷却浄化系ポンプ ・使用済燃料プール ・燃料プール冷却浄化系熱交換器 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマサージタンク・ディフューザ ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備 ・ 第二代替交流電源設備 ・ 可搬型代替交流電源設備	(a)復旧 設計基準対象施設である燃料プール冷却浄化系が全交流動力電源喪失により起動できない場合には、常設代替交流電源設備を用いて非常用所内電気設備へ電源を供給することで燃料プール冷却浄化系を復旧し、使用済燃料プールを除熱する手段がある。 i. 燃料プール冷却浄化系復旧による使用済燃料プール除熱 燃料プール冷却浄化系復旧による使用済燃料プール除熱で使用する設備は以下のとおり。 ・燃料プール冷却浄化系ポンプ ・使用済燃料プール ・燃料プール冷却浄化系熱交換器 ・燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマサージタンク・ディフューザ ・原子炉補機冷却系 ・代替原子炉補機冷却系 ・常設代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化) ⑤
10	1.11.1(2)d.(b)	1.11-23	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)
11	1.11.1(2)e.	1.11-23.24	これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書(徴候ベース)(以下「EOP」という。), 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)(以下「SOP」という。), 事故時運転操作手順書(停止時徴候ベース)(以下「停止時EOP」という。), AM 設備別操作手順書及び多様なハザード対応手順に定める(第1.11.1表)。	これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書(徴候ベース)(以下「EOP」という。), AM設備別操作手順書及び多様なハザード対応手順に定める(表1.11.1)。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
12	1.11.2.1(1)a. (c)	1.11-28	<p>防火水槽を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで110分以内で可能である。</p> <p>淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースを使用した場合の常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで115分以内で可能である。</p> <p>また、淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合の常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで330分以内で可能である。</p>	<p>防火水槽を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで80分以内で可能である。</p> <p>また、淡水貯水池を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで110分以内で可能である。</p>	⑤
13	1.11.2.1(1)b. (c)	1.11-33,34	<p>可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員2名にて作業を実施した場合に必要な時間は約65分である。</p> <p>また、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での燃料プール代替注水系による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>[防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員2名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約110分 緊急時対策要員2名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約120分</p> <p>[淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約115分 緊急時対策要員4名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約120分</p> <p>[淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約330分 緊急時対策要員6名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約340分</p>	<p>防火水槽を水源とし、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。</p> <p>SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合：約80分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合：約90分</p> <p>また、淡水貯水池を水源とし、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。</p> <p>SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合：約110分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合：約110分</p>	⑤
14	1.11.2.1(1)b. (c)	1.11-35	<p>室温は、事象初期に可搬型スプレイヘッドの設置を実施するため通常運転時と同程度である。</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
15	1.11.2.1(1)c. (b)	1.11-37	⑦ 5号炉運転員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部に報告する。また、緊急時対策本部は当直長に報告する。	⑦緊急時対策要員は、ディーゼル駆動消火ポンプの起動完了について緊急時対策本部を経由し、当直長へ報告する。	⑤
16	1.11.2.1(1)c. (b)	1.11-37	⑪ 中央制御室運転員A及びBは、使用済燃料プールへの注水が開始されたことを使用済燃料貯蔵プール監視カメラ、復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)指示値の上昇、使用済燃料貯蔵プール水位指示値の上昇により確認し当直副長に報告するとともに、使用済燃料プールの水位を使用済燃料プール水位低レベル以上に維持する。	⑪中央制御室運転員A及びBは、使用済燃料プールへの注水が開始されたことを使用済燃料貯蔵プール監視カメラ、残留熱除去系(B)注入配管流量指示値の上昇、使用済燃料貯蔵プール水位指示値の上昇により確認し当直副長に報告するとともに、使用済燃料プールの水位を使用済燃料プール水位低レベル以上に維持する。	② (計器名称の変更)
17	1.11.2.1(1)c. (c)	1.11-38	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び5号炉運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による使用済燃料プールへの注水開始まで約30分で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから消火系による使用済燃料プールへの注水開始まで約30分で可能である。	⑤
18	1.11.2.1(1)c. (c)	1.11-38	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
19	1.11.2.1(2)a. (c)	1.11-41	室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
20	1.11.2.2(1)a. (c)	1.11-44,45	防火水槽を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで125分以内で可能である。 淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースを使用した場合の常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで140分以内で可能である。 また、淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合の常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで330分以内で可能である。	防火水槽を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで120分以内で可能である。 また、淡水貯水池を水源とし、常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで95分以内で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	1.11.2.2(1)b. (c)	1.11-50,51	<p>可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ操作のうち、運転員が実施する原子炉建屋での系統構成を1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員2名にて作業を実施した場合に必要な時間は約65分である。</p> <p>また、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ操作のうち、緊急時対策要員が実施する屋外での燃料プール代替注水系による送水操作に必要な1ユニット当たりの要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>[防火水槽を水源とした送水] 緊急時対策要員2名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約125分 緊急時対策要員2名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約135分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)] 緊急時対策要員4名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約125分 緊急時対策要員4名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約135分 [淡水貯水池を水源とした送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)] 緊急時対策要員6名にて実施し、SFP可搬式接続口を使用した場合：約330分 緊急時対策要員6名にて実施し、原子炉建屋大物搬入口から接続した場合：約340分</p>	<p>防火水槽を水源とし、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールのスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始までの所要時間は以下のとおり。</p> <p>SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約95分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約105分 また、淡水貯水池を水源とし、可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールのスプレイ操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始までの所要時間は以下のとおり。</p> <p>SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約120分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約125分</p>	⑤
22	1.11.2.2(1)b. (c)	1.11-51	室温は、事象初期に可搬型スプレイヘッドの設置を実施するため通常運転時と同程度である。	—	⑤
23	1.11.2.3(1)a. (c)	1.11-56	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
24	1.11.2.4(1)	1.11-57	(1) 代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱 全交流動力電源の喪失により燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱機能の喪失が発生した場合、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。なお、水源であるスキマサージタンクへの補給については、「1.11.2.1(1)a.燃料プール代替注水系による常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水(淡水/海水)」、「1.11.2.1(1)b.燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水(淡水/海水)」又は「1.11.2.1(1)c.消火系による使用済燃料プールへの注水」と同様の手順にて実施する。また、常設代替交流電源設備及び第二代替交流電源設備に関する手順等は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。	(1)復旧 a.燃料プール冷却浄化系復旧による使用済燃料プール除熱 全交流動力電源の喪失により燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱機能の喪失が発生した場合、常設代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。なお、水源であるスキマサージタンクへの補給については、「1.11.2.1(1)a.燃料プール代替注水系(可搬型)による常設スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水)」、「1.11.2.1(1)b.燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水)」又は「1.11.2.1(1)c.消火系による使用済燃料プールへの注水」と同様の手順にて実施する。	② (第二GTGの自主化) ⑤
25	1.11.2.4(1)a.	1.11-58	全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により非常用高圧母線C系及びD系の受電が完了し、燃料プール冷却浄化系が使用可能な状態※1である場合。	全交流動力電源喪失時、常設代替交流電源設備により非常用高圧母線C系及びD系の受電が完了し、燃料プール冷却浄化系が使用可能な状態※1に復旧された場合。	② (第二GTGの自主化) ⑤
26	1.11.2.4(1)c.	1.11-60	室温は通常運転時と同程度である。	—	⑤
27	1.11.2.6	1.11-62	可搬型代替注水ポンプによる使用済燃料プールへの注水又はスプレイを実施する際は、防火水槽を水源として使用し、防火水槽が使用できない場合は淡水貯水池を使用する。また、可搬型スプレイヘッドよりも系統構成が容易で使用済燃料プール近傍での現場操作がなく、スロッシング等により使用済燃料プールの水位が低下しても被ばくを低減できることから、常設スプレイヘッドの使用を優先する。	使用する水源は防火水槽を優先とし、防火水槽が使用不可能な場合は淡水貯水池を使用する。 また、使用済燃料プールへの注水又はスプレイの実施に当たっては、可搬型スプレイヘッドと比較して系統構成が容易であり、使用済燃料プール近傍へのアクセスが不要である常設スプレイヘッドの使用を優先する。	⑤
28	1.11.2.6	1.11-62	可搬型代替注水ポンプが使用できず、使用済燃料プールへのスプレイが実施できない場合は、大気への放射性物質の拡散を抑制するための対応を実施する。	—	⑤
29	1.11.2.6	1.11-63	全交流動力電源の喪失により燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱機能の喪失が発生した場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を確保し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水の確保及び燃料プール代替注水により水源であるスキマサージタンクへの補給を行うことで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。	全交流動力電源の喪失により燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱機能の喪失が発生した場合は、常設代替交流電源設備により燃料プール冷却浄化系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水の確保及び燃料プール代替注水により水源であるスキマサージタンクへの補給を行うことで、燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱を実施する。	② (第二GTGの自主化)
30	第1.11.1表	1.11-64 1.11-66	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
31	第1.11.2表	1.11-68 1.11-69	「漏えい抑制」、「漏えい緩和」に関する監視計器を追加	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
32	第1.11.2図 第1.11.3図 第1.11.4図 第1.11.5図	1.11-75 1.11-76 1.11-77 1.11-78	EOP, SOP, 停止時EOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.11.1表, 第1.11.2表の手順書名称を修正	-	⑤
33	第1.11.7図 第1.11.9図 第1.11.10図 第1.11.16図 第1.11.18図 第1.11.19図	1.11-80 1.11-81 1.11-83 1.11-84 1.11-85 1.11-91 1.11-92 1.11-94 1.11-95 1.11-96	タイムチャートのパターン増加に伴いタイムチャートを修正 ・各操作の所要時間に関してはNo.12.No.13.No.20.No.21に記載 ・可搬型スプレイヘッドを使用した操作手順についてはタイムチャートの簡素化のため「運転員による操作」, 「緊急時対策要員による操作」に分割	-	⑤
34	添付資料 1.11.1	1.11-105 1.11-106	設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
35	添付資料 1.11.1	1.11-106	「漏えい緩和」の要員数修正 ・3名	・2名	⑤
36	添付資料 1.11.2	1.11-107	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更	-	② (緊急用断路器の通常状態変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
37	添付資料 1.11.3-1	1.11-112	<p>1.燃料プール代替注水系による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレィ(淡水/海水) (1)可搬型代替注水ポンプによる送水準備及び送水 a.操作概要 緊急時対策本部は、燃料プール代替注水系による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレィが必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決する。 現場では、指示された送水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプにより送水する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池) c.必要要員数及び時間 (a)注水の場合 燃料プール代替注水系による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水(淡水/海水)のうち、可搬型代替注水ポンプによる送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」110分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」115分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330分(実績時間なし)</p>	<p>3.燃料プール代替注水系(可搬型)による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プール注水及びスプレィ(淡水/海水) (1)可搬型代替注水ポンプによる送水 a.操作概要 緊急時対策本部は、可搬型代替注水ポンプによる使用済燃料プールへの注水、スプレィが必要な状況において、接続口及び水源を選定し、送水ルートを決する。 現場では、指示された送水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプによる常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水、スプレィを実施する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺) c.必要要員数及び操作時間 (a)注水の場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水)に必要な要員数(防火水槽を水源とした場合3名、淡水貯水池を水源とした場合5名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合80分、淡水貯水池を水源とした場合110分)のうち、水源から燃料プール代替注水系外部接続口までの送水ルート確保並びに使用済燃料プールへの送水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」80分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」110分(実績時間なし)</p>	⑤
38	添付資料 1.11.3-1	1.11-112,113	<p>(b)スプレィの場合 燃料プール代替注水系による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレィ(淡水/海水)のうち、可搬型代替注水ポンプによる送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」125分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」140分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」330分(実績時間なし)</p>	<p>(b)スプレィの場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による常設スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールスプレィ(淡水/海水)に必要な要員数(防火水槽を水源とした場合4名、淡水貯水池を水源とした場合5名)、所要時間(防火水槽を水源とした場合95分、淡水貯水池を水源とした場合120分)のうち、水源から燃料プール代替注水系外部接続口までの送水ルート確保並びに使用済燃料プールへの送水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」95分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」120分(実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
39	添付資料 1.11.3-2	1.11- 115,116	<p>2.燃料プール代替注水系による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレィ(淡水/海水) (1)可搬型代替注水ポンプによる送水準備及び送水 a.操作概要 緊急時対策本部は、燃料プール代替注水系による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレィが必要な状況において、接続口(ホース接続箇所)及び水源を選定し、送水ルートを決する。 現場では、指示された送水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプにより送水する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺、淡水貯水池) c.必要要員数及び時間 (a)注水の場合 燃料プール代替注水系による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水(淡水/海水)のうち、可搬型代替注水ポンプによる送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽を水源とした場合」 SFP 可搬式接続口使用の場合110分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合120分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」 SFP 可搬式接続口使用の場合115分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合120分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」 SFP 可搬式接続口使用の場合330分(実績時間なし)</p>	<p>4.燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プール注水及びスプレィ(淡水/海水) (1)可搬型代替注水ポンプによる送水 a.操作概要 緊急時対策本部は、可搬型代替注水ポンプによる使用済燃料プールへの注水、スプレィが必要な状況において、接続口及び水源を選定し、送水ルートを決する。 現場では、指示された送水ルートを確認した上で、可搬型代替注水ポンプによる可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水、スプレィを実施する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋周辺、防火水槽周辺) c.必要要員数及び操作時間 (a)注水の場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレィヘッドを使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水)に必要な要員数(防火水槽を水源とした場合5名、淡水貯水池を水源とした場合7名)、所要時間(防火水槽を水源とし、SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合80分、原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合90分、淡水貯水池を水源とした場合、SFP接続口(原子炉建屋南側)使用、原子炉建屋大物搬入口からの接続いずれも110分)のうち、水源から接続口までの送水ルート確保、原子炉建屋扉外側の防潮扉開放及び使用済燃料プールへの送水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合80分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合90分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合110分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合110分(実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
40	添付資料 1.11.3-2	1.11-116	<p>(b)スプレイの場合 燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへのスプレイ(淡水/海水)のうち、可搬型代替注水ポンプによる送水操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」2名(緊急時対策要員2名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:「防火水槽水源とした場合」 SFP 可搬式接続口使用の場合 125分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合135分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」 SFP 可搬式接続口使用の場合125分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合135分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」 SFP 可搬式接続口使用の場合330分(実績時間なし)</p>	<p>(b)スプレイの場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールスプレイ(淡水/海水)に必要な要員数(防火水槽を水源とした場合6名、淡水貯水池を水源とした場合7名)、所要時間(防火水槽を水源とし、SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:95分、原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:105分、淡水貯水池を水源とし、SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合120分、原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合125分)のうち、水源から接続口までの送水ルート確保、原子炉建屋扉外側の防潮扉開放及び使用済燃料プールへの送水に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 所要時間目安:「防火水槽水源とした場合」 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合 95分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合105分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合120分(実績時間なし) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合125分(実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	添付資料 1.11.3-2	1.11-118	<p>(2)可搬型スプレイヘッドの設置及びホース接続</p> <p>a.操作概要 燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水及びスプレイ(淡水/海水)を実施するため、現場にて原子炉建屋地上1階SFP可搬式接続口から燃料取替床までホースを敷設し、燃料取替床にて可搬型スプレイヘッドを設置し、ホースと接続する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1階～地上4階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水又はスプレイ(淡水/海水)のうち、可搬型スプレイヘッドの設置、原子炉建屋内でのホースの敷設、接続及び原子炉建屋扉開放(原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合のみ)に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間:SFP可搬式接続口使用の場合50分(実績時間:45分) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合65分(実績時間:55分)</p>	<p>(2)可搬型スプレイヘッドの設置及びホース接続</p> <p>a.操作概要 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水及びスプレイ(淡水/海水)を実施するため、現場にて原子炉建屋地上1階SFP接続口(原子炉建屋南側)から原子炉建屋オペレーティングフロアまでホースを敷設し、原子炉建屋オペレーティングフロアにて可搬型スプレイヘッドを設置し接続する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上1階～地上4階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 (a)注水の場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プール注水(淡水/海水)に必要な要員数(5名)、所要時間(SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:80分、原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:90分)のうち、可搬型スプレイヘッドの設置、原子炉建屋内でのホースの敷設、接続及び原子炉建屋扉開放(原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合のみ)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合50分(実績時間:45分) 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合 65分(実績時間:55分)</p> <p>(b)スプレイの場合 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールスプレイ(淡水/海水)に必要な要員数(6名)、所要時間(SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:95分、原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:105分)のうち、可搬型スプレイヘッドの設置、原子炉建屋内でのホースの敷設、接続及び原子炉建屋扉開放(原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合のみ)に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 所要時間目安:SFP接続口(原子炉建屋南側)使用の場合50分(実績時間:45分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
42	添付資料 1.11.3-3	1.11-120	<p>3.消火系による使用済燃料プールへの注水</p> <p>a.操作概要 消火系による使用済燃料プールへの注水の系統構成のために電源を確保する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域) コントロール建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 消火系による使用済燃料プールへの注水のうち、現場での受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(実績時間:18 分)</p>	<p>1.消火系による使用済燃料プール注水</p> <p>a.操作概要 消火系による使用済燃料プール注水系統構成のための電源確保を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 消火系による使用済燃料プール注水に必要な要員数(6 名)、所要時間(30 分)のうち、系統構成のための電源確保に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:20 分(実績時間:18 分)</p>	⑤
43	添付資料 1.11.3-4	1.11-122	<p>4.使用済燃料プール漏えい隔離</p> <p>サイフォン現象による使用済燃料プール水流出時の手動隔離</p> <p>a.操作概要 使用済燃料プール接続配管からの漏えい、及び使用済燃料プール注水配管の逆止弁の機能喪失により発生したサイフォン現象による使用済燃料プール水の流出を現場にて手動で隔離する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階、地上2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 使用済燃料プール漏えい隔離のうち、現場での隔離操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :30 分(実績時間:原子炉建屋地上2 階での隔離の場合15 分 原子炉建屋地上4 階での隔離の場合25 分)</p>	<p>2.使用済燃料プール漏えい隔離</p> <p>サイフォン現象による使用済燃料プール水流出時の手動隔離</p> <p>a.操作概要 使用済燃料プール接続配管からの漏えい、及び使用済燃料プール注水配管の逆止弁の機能喪失により発生したサイフォン現象による使用済燃料プール水の流出を現場にて手動で隔離する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階、地上2 階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 使用済燃料プール漏えい隔離に必要な要員数(4 名)、所要時間(90 分)のうち、現場での隔離操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:30 分(実績時間:原子炉建屋地上2 階での隔離の場合15 分 原子炉建屋地上4 階での隔離の場合25 分)</p>	⑤
44	添付資料 1.11.3-5	1.11-124	<p>5.使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置起動</p> <p>a.操作概要 使用済燃料プールの状態監視のため、現場にて使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置の起動を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置起動に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2 名(現場運転員2 名) 想定時間 :20 分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>5.使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置起動</p> <p>a.操作概要 使用済燃料プールの状態監視のため、現場にて使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置の起動を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上4 階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置起動に必要な要員数(3名)、所要時間(20分)のうち、現場にて冷却装置起動に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2 名(現場運転員2 名) 所要時間目安:20 分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
45	添付資料 1.11.3-6	1.11-125	<p>6.代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱</p> <p>a.操作概要 燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱に必要なポンプ, 電動弁の電源を確保し, 現場での系統構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 電源確保 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 系統構成 原子炉建屋 地上2階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 燃料プール冷却浄化系ポンプによる使用済燃料プールの除熱のうち, 現場での受電操作及び系統構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間:電源確保30分(実績時間:24分) 系統構成25分(実績時間:23分)</p>	<p>6.燃料プール冷却浄化系復旧による使用済燃料プール除熱</p> <p>a.操作概要 燃料プール冷却浄化系復旧による使用済燃料プール除熱操作に必要なポンプ, 電動弁の電源確保及び現場での系統構成を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地上2階(管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 燃料プール浄化系ポンプによる使用済燃料プール除熱に必要な要員数(6名), 所要時間(45分)のうち, 電源確保及び現場での系統構成に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 所要時間目安:電源確保30分(実績時間:24分) 系統構成25分(実績時間:23分)</p>	⑤
46	添付資料 1.11.4-1	1.11-127	<p>判断基準の解釈一覧を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料プール温度高警報設定値 	—	⑤
47	添付資料 1.11.4-2	1.11-128	<p>計器名称の変更に伴い解釈一覧を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量) 	残留熱除去系(B)注入配管流量	② (計器名称の変更)
48	添付資料 1.11.4-3	1.11-129	<p>記載の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁名称, 操作場所を追加 	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	表題	1.12-1	1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等	1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等	⑤ 同様の変更(工場等→発電所)について以降は省略
2	目次	1.12-2	a. 化学消防自動車単独又は大型化学高所放水車等による泡消火	a. 化学消防自動車単独又は高所放水車等による泡消火	⑤ 同様の変更(高所放水車→大型化学高所放水車)について以降は省略
3	目次	1.12-2	(2) 航空機燃料火災への泡消火	(2) 航空機燃料火災への対応	⑤
4	目次	1.12-3	添付資料1.12.5 放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制 【放射性物質吸着材の運搬, 設置】	添付資料1.12.5 放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制	⑤
5	目次	1.12-3	添付資料1.12.6 汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制 【汚濁防止膜の運搬, 設置】	添付資料1.12.6 汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制	⑤
6	目次	1.12-3	添付資料1.12.7 初期対応における延焼防止処置 【大型化学高所放水車の配置, 泡消火】	添付資料1.12.7 初期対応における延焼防止処置	⑤
7	目次	1.12-3	添付資料1.12.8 航空機燃料火災への泡消火 【大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲による泡消火】	添付資料1.12.8 航空機燃料火災への泡消火	⑤
8	1.12.1 (2) a. (a)	1.12-6	大気への放射性物質の拡散抑制に使用する設備(原子炉建屋放水設備)は以下のとおり。 ・大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ・ホース ・放水砲 ・燃料補給設備 ・ガンマカメラ ・サーモカメラ	大気への放射性物質の拡散抑制に使用する設備は以下のとおり。 ・大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ・ホース ・放水砲 ・燃料補給設備	②(原子炉建屋から漏えいする放射性物質等を監視するため, 監視設備を自主的に配備することとした)
9	1.12.1 (2) a. (b)	1.12-7	海洋への放射性物質の拡散抑制に使用する設備(海洋拡散抑制設備)は以下のとおり。	海洋への放射性物質の拡散抑制に使用する設備は以下のとおり。	⑤
10	1.12.1 (2) b.	1.12-7	初期対応における延焼防止処置に使用する設備は以下のとおり。 ・化学消防自動車 ・水槽付消防ポンプ自動車 ・泡消火薬剤備蓄車 ・大型化学高所放水車	初期対応における延焼防止処置に使用する設備は以下のとおり。 ・化学消防自動車 ・水槽付消防ポンプ自動車 ・高所放水車 ・泡原液備蓄車	⑤ 同様の変更(泡原液備蓄車→泡消火薬剤備蓄車)について以降は省略

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
11	1.12.1 (2) b.	1.12-8	原子炉建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災が発生した場合、航空機燃料火災の泡消火により火災に対応する手段がある。	<記載無し>	⑤
12	1.12.1 (2) c.(a)	1.12-9	以上の重大事故等対処設備により発電所外への放射性物質の拡散抑制が可能であることから、以下の設備は自主対策設備として位置付ける。あわせて、その理由を示す。 ・ガンマカメラ ・サーモカメラ これらの設備については、大気への放射性物質の拡散を直接抑制する手段ではないが、原子炉建屋放水設備により原子炉建屋に向けて放水する際に、原子炉建屋から漏えいする放射性物質や熱を検出する手段として有効である。	以上の重大事故等対処設備により発電所外への放射性物質の拡散抑制が可能である。	②(原子炉建屋から漏えいする放射性物質等を監視するため、監視設備を自主的に配備することとした)
13	1.12.1 (2) d.	1.12-10	また、重大事故等時に監視が必要となる計器についても整理する(第1.12.2表)。	(記載なし)	⑤
14	1.12.2.1 (1) a.	1.12-11	炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の破損を防止するため、格納容器スプレイによる原子炉格納容器内の除熱や格納容器圧力逃がし装置及び代替循環冷却による原子炉格納容器の減圧及び除熱させる手段がある。	炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器の破損を防止するため、格納容器スプレイによる原子炉格納容器内の除熱や格納容器圧力逃がし装置、代替格納容器圧力逃がし装置、及び代替循環冷却による原子炉格納容器の減圧及び除熱させる手段がある。	② (代替格納容器圧力逃がし装置自主化)
15	1.12.2.1 (1) a.(b)	1.12-12	①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、当直長を経由して、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制の準備を緊急時対策本部に依頼する。 ②緊急時対策本部は、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制の準備開始を緊急時対策要員に指示する。 ③緊急時対策要員は、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)を海水取水箇所周辺に設置する。	①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、当直長を経由して、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制の準備を緊急時対策本部に依頼する。 ②緊急時対策本部は、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制の準備開始を緊急時対策要員(復旧班員)に指示する。 ③緊急時対策要員(復旧班員)は、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)を海水取水箇所周辺に設置する。	⑤ (1.1~1.14手順との整合) 同様の変更(復旧班員の記載削除)について以降は省略
16	1.12.2.1 (1) a.(b)	1.12-12	④緊急時対策要員は、ホースを取水ポンプに接続後、取水ポンプを取水箇所へ設置し、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)吸込口にホースを接続する。	④緊急時対策要員(復旧班員)は、ホースを取水ポンプに接続後、取水ポンプを取水箇所へ設置し、大容量送水車吸込口にホースを接続する。	⑤ 同様の変更(大容量送水車→大容量送水(原子炉建屋放水設備用))について以降は省略
17	1.12.2.1 (1) a.(b)	1.12-13	・原子炉格納容器からの異常な漏えいにより、格納容器圧力逃がし装置で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの、原子炉建屋内の水素濃度が低下しないことにより原子炉建屋トップベントを開放する場合	・原子炉格納容器の異常な漏えいにより、格納容器圧力逃がし装置又は代替格納容器圧力逃がし装置で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの、原子炉建屋内天井付近の水素濃度が3.5%を超えたことにより原子炉建屋トップベントを開放する場合	④ (1.10手順の判断基準変更に伴う修正)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
18	1.12.2.1 (1) a.(c)	1.12-14	上記(b)の現場対応は、準備段階では緊急時対策要員8名(水張りは5名)にて実施し、所要時間は、複数あるホース敷設ルートのうち、設置距離が短くなる7号炉南側からのルートを優先的に選択することで、手順着手から約130分(7号炉の場合、6号炉の場合は約160分)で大気への放射性物質の拡散抑制の準備を完了することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は、約190分で大気への放射性物質の拡散抑制の準備を完了することとしている。)	上記の現場対応は準備段階では緊急時対策要員(復旧班員)8名(水張りは5名)にて実施し、所要時間は、複数あるホース設置ルートのうち、設置距離が短くなる7号炉南側からのルートを優先的に選択することで、手順着手から約120分(7号炉の場合、6号炉の場合は約150分)で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。(ホース設置距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを設置した場合は、約180分で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。)	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
19	1.12.2.1 (1) a.(c)	1.12-15	緊急時対策本部からの指示を受けて、大気への放射性物質の拡散抑制を開始する。緊急時対策要員5名にて実施し、手順着手から約130分以降(7号炉の場合、6号炉の場合は約160分以降)放水することが可能である。	設備用)の保管場所に使用工具及びホースを配備する。 緊急時対策本部からの指示を受けて、大気への放射性物質の拡散抑制を開始する。緊急時対策要員(復旧班員)5名にて実施し、手順着手から約120分以降(7号炉の場合、6号炉の場合は約150分以降)放水することが可能である。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
20	1.12.2.1 (1) a.(c)	1.12-15	放水砲は可搬型設備のため、任意に設置場所を設定することが可能であり、風向き等の天候状況及びアクセス状況に応じて、最も効果的な方角から原子炉建屋の破損口等、放射性物質の放出箇所に向けて放水する。なお、原子炉建屋への放水に当たっては、原子炉建屋から漏えいする放射性物質や熱を検出する手段として、必要に応じてガンマカメラ又はサーモカメラを活用する。原子炉建屋の破損箇所や放射性物質の放出箇所が確認できない場合は、原子炉建屋の中心に向けて放水する。	放水砲は可搬型設備のため、任意に設置場所を設定することが可能であり、風向き等の天候状況及びアクセス状況に応じて、最も効果的な方角から原子炉建屋破損口等の放射性物質放出箇所に向けて放水を実施する。	②(原子炉建屋から漏えいする放射性物質等を監視するため、監視設備を自主的に配備することとした)
21	1.12.2.1 (1) a.(c)	1.12-15	また、直線状で放射する場合も到達点では、噴霧状になっているため放射性物質の拡散抑制効果がある。	<記載なし>	⑤
22	1.12.2.1 (2) a.	1.12-16	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損に至った場合は、原子炉建屋から直接放射性物質が拡散する場合を想定し、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲により原子炉建屋に海水を放水する場合は、放射性物質を含む汚染水が発生する。 防潮堤内側の合計6箇所に放射性物質吸着材を設置することにより、海洋への放射性物質の拡散を抑制する手順を整備する。設置に当たっては、放水した汚染水が流れ込む6号及び7号炉近傍の構内雨水排水路の集水樹2箇所を優先する。	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損に至った場合は、原子炉建屋から直接放射性物質が拡散する場合を想定し、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲により原子炉建屋に海水を放水し、大気への放射性物質の拡散を抑制するが、放水することで放射性物質を含む汚染水が発生する。 防潮堤の内側で放射性物質吸着材を設置(6号及び7号炉に放水した汚染水が流れ込む6号及び7号炉近傍の構内雨水排水路の集水樹2箇所を優先的に設置し、最終的に合計6箇所)することにより汚染水の海洋への放射性物質の拡散を抑制する手順を整備する。	⑤
23	1.12.2.1 (2) a.(c)	1.12-17	(c) 操作の成立性 放射性物質吸着材の設置は、緊急時対策要員4名の体制である。 設置作業は、緊急時対策本部の指示に従い対応することとしており、放射性物質吸着材を放射性物質拡散抑制の手順着手から約180分で設置することとしている。(6号及び7号炉に放水した汚染水が流れ込む6号及び7号炉近傍の構内雨水排水路の集水樹2箇所へ放射性物質吸着材を約100分で設置することとしている。) 円滑に作業できるように移動経路を確保し、防護具、照明、通信連絡設備を整備する。	(c) 操作の成立性 放射性物質吸着材の設置は、緊急時対策要員(復旧班員)4名の体制である。 設置作業は、緊急時対策本部の指示に従い対応することとしており、放射性物質吸着材を放射性物質拡散抑制の手順着手から約170分で設置することとしている。(6号及び7号炉に放水した汚染水が流れ込む6号及び7号炉近傍の構内雨水排水路の集水樹2箇所へ放射性物質吸着材を約90分で設置することとしている。) 作業に伴い、運搬経路及び作業エリアの確保、可搬型照明、通信設備を整備する。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
24	1.12.2.1 (2) b.	1.12-17	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損に至った場合において、原子炉建屋から直接放射性物質が拡散する場合を想定し、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲により原子炉建屋に海水を放水する場合は、放射性物質を含む汚染水が発生する。 放射性物質を含む汚染水は構内排水路を通して放水口から海へ流れ込むため、汚濁防止膜を設置することで、海洋への放射性物質の拡散を抑制する手順を整備する。 小型船舶(汚濁防止膜設置用)を用いて、取水口3箇所、放水口1箇所の合計4箇所に汚濁防止膜を設置する。設置に当たっては、放水した汚染水が海洋に流れ込むルートにある放水口1箇所を優先する。	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損に至った場合において、原子炉建屋から直接放射性物質が拡散する場合を想定し、大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)、放水砲により原子炉建屋に海水を放水し、大気への放射性物質の拡散を抑制するが、放水することで放射性物質を含む汚染水が発生する。 放射性物質を含む汚染水は構内排水路を通して北放水口から海へ流れ込むため、汚濁防止膜を設置することで、海洋への放射性物質の拡散を抑制する手順を整備する。 汚濁防止膜は、小型船舶(汚濁防止膜設置用)を用い、放水によって放射性物質を取り込んだ汚染水が海洋に流れ込むルートである北放水口1箇所を優先的に、その後、取水口3箇所にも設置し、計4箇所に設置する。	⑤
25	1.12.2.1 (2) b.(b)	1.12-18	⑦緊急時対策要員は、小型船舶(汚濁防止膜設置用)を使用し、汚濁防止膜のカーテン部を結束していたロープを切断し、カーテン部を開放する。	⑦緊急時対策要員(復旧班員)は、小型船舶(汚濁防止膜設置用)を使用し、カーテン部を結束していたロープを切断し、カーテン部を開放する。	⑤
26	1.12.2.1 (2) b.(c)	1.12-19	汚濁防止膜の設置は、北放水口への1重目の汚濁防止膜の設置を緊急時対策要員6名で実施する。 その後の汚濁防止膜の設置については、積み込み・運搬を緊急時対策要員6名、設置を緊急時対策要員7名、合計13名で実施する。 汚濁防止膜の設置作業は、北放水口(1箇所)の設置を約190分、その後の取水口(3箇所)への設置を約24時間で行うこととしている。それぞれ1重目の汚濁防止膜の設置完了後、緊急時対策本部の指示により、2重目の汚濁防止膜を設置する。 円滑に作業できるように移動経路を確保し、防護具、照明、通信連絡設備を整備する。	汚濁防止膜の設置は、北放水口への汚濁防止膜(1重目)の設置を緊急時対策要員(復旧班員)4名で実施する。 その後の汚濁防止膜の設置については、積み込み・運搬を緊急時対策要員(復旧班員)4名、設置を緊急時対策要員(復旧班員)9名、合計13名で実施する。 汚濁防止膜の設置作業は、北放水口(1箇所)の設置を約180分、その後の取水口(3箇所)への設置を約24時間で行うこととしている。それぞれ1重目の設置完了後、緊急時対策本部の指示により、2重目を設置する。 作業に伴い、運搬経路及び作業エリアの確保、可搬型照明、通信設備を整備する。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更) ⑤ (対応要員の人員割り当ての変更)
27	1.12.2.1 (2) c.	1.12-20	その後、汚濁防止膜を設置するが、汚濁防止膜の設置が困難な状況(大津波警報、津波警報が出ている状況等)である場合、汚濁防止膜の設置が可能な状況になり次第、汚濁防止膜の設置を開始する。	その後、汚濁防止膜を設置するが、汚濁防止膜の設置が困難な状況(大津波警報、津波警報が出ている状況)である場合、大津波警報、津波警報が解除された後に汚濁防止膜の設置を開始する。	⑤
28	1.12.2.2 (1) a. (b)	1.12-21	①自衛消防隊の消防隊長は、発電所敷地内において航空機衝突による火災を確認した場合、現場の火災状況及び安全を確保した後、初期消火に必要な設備の準備を開始する。 ・周辺の状況(けが人の有無、モニタリングの状況) ・消火の水源に、防火水槽や消火栓(淡水タンク)を使用する場合は、水量が確保され使用できることを確認 ・化学消防自動車単独による泡消火又は大型化学高所放水車による泡消火の実施判断は、現場火災状況を基に自衛消防隊の消防隊長が自衛消防隊へ指示	①消防隊長は、発電所敷地内において航空機衝突による火災を確認した場合、現場の火災状況及び安全距離を確保した後、初期消火に必要な設備の準備を開始する。 ※安全距離を確保でき、消防隊長が対応可能と判断した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
29	1.12.2.2 (1) a. (b)	1.12-21	②自衛消防隊の消防隊長は, 現場火災状況を緊急時対策本部へ報告する。 ・周辺の状況(けが人の有無, モニタリング実施結果) ・ 消火の水源 ・化学消防自動車単独による泡消火又は 大型化学高所放水車 による泡消火の実施判断の結果	② 自衛消防隊は, 現場火災状況を緊急時対策本部へ報告する。 ※化学消防自動車単独による泡消火又は高所放水車による泡消火の実施判断は,現場火災状況を基に消防隊長が自衛消防隊へ指示する。 ※放射線管理要員によるサーベイを実施する。 ※けが人の有無を確認する。 ※消火の水源に,防火水槽や消火栓(淡水タンク)を使用する場合は,水量が確保され使用できることをあわせて確認する。	⑤
30	1.12.2.2 (1) a. (b)	1.12-22	<化学消防自動車単独での泡消火を選択した場合> ⑥自衛消防隊は, 水源近傍に化学消防自動車を設置し, 水利を確保する。	<化学消防自動車単独での泡消火を選択した場合> ⑥ 自衛消防隊は,水源近傍に化学消防自動車を設置し,吸管を水利に投入し,吸水する。	⑤
31	1.12.2.2 (1) a. (b)	1.12-22	<大型化学高所放水車等による泡消火を選択した場合> ⑩自衛消防隊は, 水源近傍に化学消防自動車及び水槽付消防ポンプ自動車を設置し, 水利を確保する。	<高所放水車等による泡消火を選択した場合> ⑩ 自衛消防隊は,水源近傍に化学消防自動車及び水槽付消防ポンプ自動車を設置し,吸管を水利に投入し,吸水する。	⑤
32	1.12.2.2 (1) a. (c)	1.12-23	上記の現場対応は, 自衛消防隊6名及び緊急時対策要員2名の合計8名で対応する。 化学消防自動車単独での泡消火を選択した場合, 初期消火開始まで手順着手から約35分, 大型化学高所放水車等による泡消火を選択した場合, 初期消火開始まで手順着手から55分 で対応することとしている。(緊急時対策要員2名は, 大型化学高所放水車, 泡原液搬送車を運転し, 自衛消防隊への引き渡し後, 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による航空機燃料火災への泡消火に向けた準備にとりかかる。)	上記の現場対応は,自衛消防隊6名及び緊急時対策要員(復旧班員)2名の合計8名で対応する。初期消火開始まで手順着手から約45分で対応することとしている。(緊急時対策要員(復旧班員)2名は, 高所放水車, 泡原液搬送車を運転し, 自衛消防隊への引き渡し後, 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による航空機燃料火災への泡消火に向けた準備にとりかかる。)	⑤ ② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
33	1.12.2.2 (2) a.	1.12-23	(2) 航空機燃料火災への 泡消火 a. 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による航空機燃料火災への泡消火 原子炉建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災が発生した場合は,大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置により, 海水を水源とした航空機燃料火災への泡消火を行う手順を整備する。	(2) 航空機燃料火災への対応 a. 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による航空機燃料火災への泡消火 原子炉建屋周辺における航空機衝突による航空機燃料火災が発生した場合において,海水を水源として大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による航空機燃料火災への泡消火を行う手順を整備する。	⑤
34	1.12.2.2 (2) a.(b)	1.12-24	(b) 操作手順 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による泡消火手順の概要は以下のとおり。 また, 航空機燃料火災への対応の概要図 を第1.12.9図に, タイムチャート を第1.12.10図に, 水利の配置及び大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による泡消火に関するホース敷設ルートを第1.12.11図に示す。	(b) 操作手順 大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による泡消火手順の概要は以下のとおり。概略系統図を図1.12.9に, タイムチャートを図1.12.10に, 水利の配置及び大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による泡消火に関するホース設置ルートの例を図1.12.11に示す。	⑤
35	1.12.2.2 (2) a.(c)	1.12-25	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による泡消火は, 準備段階では現場にて8名で実施する。手順着手から約 130分 (7号炉の場合, 6号炉の場合は約 160分)で準備を完了することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は, 約 190分 で対応することとしている。)	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用), 放水砲, 泡原液搬送車及び泡原液混合装置による泡消火は, 準備段階では現場にて8名で実施する。手順着手から約 120分 (7号炉の場合, 6号炉の場合は約 150分)で準備を完了することとしている。(ホース設置距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを設置した場合は, 約 180分 で対応することとしている。)	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																							
36	1.12.2.2 (2) a.(c)	1.12-25	円滑に作業できるように移動経路を確保し、 防護具、照明、通信連絡設備 を整備する。ホース等の取付けについては、速やかに作業ができるように大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)の保管場所に使用工具及びホースを配備する。	円滑に作業できるように移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。ホース等の取付けについては、速やかに作業ができるように大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)の保管場所に使用工具及びホースを配備する。	⑤																																							
37	第1.12.1表	1.12-28	<p>第 1.12.1 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順</p> <p>対応手段、対応設備、手順書一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷</td> <td rowspan="2">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1</td> <td>多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td>ガンマカメラ サーモカメラ</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉建屋周辺における航空機燃料火災</td> <td rowspan="2">海洋への放射性物質の拡散抑制</td> <td>放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)</td> <td>多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td>大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">初期対応における延焼防止処置</td> <td rowspan="2">航空機燃料火災への応対</td> <td>化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車</td> <td>多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への応対」</td> </tr> <tr> <td>化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整理する。</p>	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」	ガンマカメラ サーモカメラ	自主対策設備	原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	初期対応における延焼防止処置	航空機燃料火災への応対	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への応対」	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車	自主対策設備	<p>表 1.12.1 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷</td> <td rowspan="2">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1</td> <td>多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td>海洋への放射性物質の拡散抑制</td> <td>放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)</td> <td>多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉建屋周辺における航空機燃料火災</td> <td rowspan="2">航空機燃料火災への対応</td> <td>大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1</td> <td>多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への対応」</td> </tr> <tr> <td>化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高圧放水車 泡原液搬送車</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整理する。</p>	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」	原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	航空機燃料火災への対応	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への対応」	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高圧放水車 泡原液搬送車	自主対策設備	②(原子炉建屋から漏えいする放射性物質等を監視するため、監視設備を自主的に配備することとした)
機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																									
炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」																																									
		ガンマカメラ サーモカメラ	自主対策設備																																									
原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」																																									
		大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1	自主対策設備																																									
初期対応における延焼防止処置	航空機燃料火災への応対	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への応対」																																									
		化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高圧放水車	自主対策設備																																									
機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																									
炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の損傷 使用済燃料プール内放射性物質の著しい損傷	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」																																									
		海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶(汚濁防止膜設置用)	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」																																								
原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	航空機燃料火災への対応	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への対応」																																									
		化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高圧放水車 泡原液搬送車	自主対策設備																																									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																							
38	第1.12.2表	1.12-29～31	<p>変更理由が同じため、最初の表のみ掲載</p> <p>第 1.12.2 表 重大事故等対処に係る監視計器</p> <p>監視計器一覧 (1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順書</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視パラメータ (計器)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.12.2.1 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の超温時又は使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷時の手順書 (1) 大気への放射性物質の拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>格納容器内空間放射線レベル(A) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(A) (S/C) 格納容器内空間放射線レベル(B) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(B) (S/C)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">手帳なべ炉下対応手順書</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>原子炉圧力容器温度</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の水位</td> <td>原子炉水位 (広領域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器への注水量</td> <td>原子炉圧力容器への注水量</td> <td>高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールの監視</td> <td>燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器への注水量</td> <td>原子炉圧力容器への注水量</td> <td>高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内の水素濃度</td> <td>原子炉建屋水素濃度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールの監視</td> <td>燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外の放射線量</td> <td>モニタリング・ポスト</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ (計器)	1.12.2.1 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の超温時又は使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷時の手順書 (1) 大気への放射性物質の拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制	原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内空間放射線レベル(A) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(A) (S/C) 格納容器内空間放射線レベル(B) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(B) (S/C)	手帳なべ炉下対応手順書	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度	原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 (広領域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)	原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量	原子炉格納容器内の圧力	格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)	原子炉建屋内の水素濃度	原子炉建屋水素濃度		使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)		屋外の放射線量	モニタリング・ポスト		<p>表 1.12.2 重大事故等対処に係る監視計器</p> <p>監視計器一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順書</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視パラメータ (計器)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">多様なハード対応手順書 「大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」</td> <td>格納容器内の線量当量率</td> <td>格納容器内空間放射線レベル(A) D/W 格納容器内空間放射線レベル(A) S/C 格納容器内空間放射線レベル(B) D/W 格納容器内空間放射線レベル(B) S/C</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>原子炉圧力容器温度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力容器への注水量</td> <td>原子炉圧力容器内の水位</td> <td>原子炉水位 原子炉水位 (SA)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器への注水量</td> <td>高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (原子炉圧力容器) 残留熱除去系 (A) 注入配管流量 残留熱除去系 (B) 注入配管流量 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールの監視</td> <td>燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋内の水素濃度</td> <td>原子炉建屋水素濃度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外の放射線量率</td> <td>屋外放射線監視端末</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ (計器)	多様なハード対応手順書 「大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」	格納容器内の線量当量率	格納容器内空間放射線レベル(A) D/W 格納容器内空間放射線レベル(A) S/C 格納容器内空間放射線レベル(B) D/W 格納容器内空間放射線レベル(B) S/C	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度	原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 原子炉水位 (SA)	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (原子炉圧力容器) 残留熱除去系 (A) 注入配管流量 残留熱除去系 (B) 注入配管流量 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量	原子炉格納容器内の圧力	格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)		使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)		原子炉建屋内の水素濃度	原子炉建屋水素濃度		屋外の放射線量率	屋外放射線監視端末		<p>⑤ (記載方法を他条文と統一)</p>
手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ (計器)																																																										
1.12.2.1 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の超温時又は使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷時の手順書 (1) 大気への放射性物質の拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制	原子炉格納容器内の放射線量率	格納容器内空間放射線レベル(A) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(A) (S/C) 格納容器内空間放射線レベル(B) (D/W) 格納容器内空間放射線レベル(B) (S/C)																																																										
手帳なべ炉下対応手順書	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度																																																										
	原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 (広領域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)																																																										
原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量																																																										
	使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)																																																										
原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (ROR A 高圧代替注水系統) 復水補給水系統流量 (ROR B 高圧代替注水系統) 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量																																																										
	原子炉格納容器内の圧力	格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)																																																										
原子炉建屋内の水素濃度	原子炉建屋水素濃度																																																											
使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)																																																											
屋外の放射線量	モニタリング・ポスト																																																											
手順書	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視パラメータ (計器)																																																										
多様なハード対応手順書 「大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」	格納容器内の線量当量率	格納容器内空間放射線レベル(A) D/W 格納容器内空間放射線レベル(A) S/C 格納容器内空間放射線レベル(B) D/W 格納容器内空間放射線レベル(B) S/C																																																										
	原子炉圧力容器内の温度	原子炉圧力容器温度																																																										
原子炉圧力容器への注水量	原子炉圧力容器内の水位	原子炉水位 原子炉水位 (SA)																																																										
	原子炉圧力容器への注水量	高圧代替注水系統流量 復水補給水系統流量 (原子炉圧力容器) 残留熱除去系 (A) 注入配管流量 残留熱除去系 (B) 注入配管流量 原子炉隔離時冷却系統流量 制御棒駆動系統流量 残留熱除去系 (A) 系統流量 残留熱除去系 (B) 系統流量 残留熱除去系 (C) 系統流量 高圧炉心注水系 (B) 系統流量 高圧炉心注水系 (C) 系統流量																																																										
原子炉格納容器内の圧力	格納容器内圧力 (D/W) 格納容器内圧力 (S/C)																																																											
使用済燃料プールの監視	燃料プール水位低 警報 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ・低レンジ)																																																											
原子炉建屋内の水素濃度	原子炉建屋水素濃度																																																											
屋外の放射線量率	屋外放射線監視端末																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】




- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由											
39	-	-	削除	<p>表 1.12.3 審査基準における要求事項毎の給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">【1.12】 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等</td> <td>中操監視計器類</td> <td>代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 計測用A系電源 計測用B系電源</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール監視計器類</td> <td>代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 交流120V中央制御室計装用電源 交流120Vバイタル電源 計測用A系電源 計測用B系電源</td> </tr> <tr> <td>屋外放射線監視計器類</td> <td>モニタリング・ポスト用CVCF モニタリング・ポスト用発電機</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線	【1.12】 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等	中操監視計器類	代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 計測用A系電源 計測用B系電源	使用済燃料プール監視計器類	代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 交流120V中央制御室計装用電源 交流120Vバイタル電源 計測用A系電源 計測用B系電源	屋外放射線監視計器類	モニタリング・ポスト用CVCF モニタリング・ポスト用発電機		⑤ (他条文との記載基準統一による削除)
対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線														
【1.12】 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等	中操監視計器類	代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 計測用A系電源 計測用B系電源														
	使用済燃料プール監視計器類	代替交流電源設備 緊急用M/C AM用直流125V充電器 交流120V中央制御室計装用電源 交流120Vバイタル電源 計測用A系電源 計測用B系電源														
屋外放射線監視計器類	モニタリング・ポスト用CVCF モニタリング・ポスト用発電機															
40	第1.12.2図	1.12-32	<p>第 1.12.2 図 大気への放射性物質の拡散抑制 タイムチャート</p>	<p>図 1.12.2 大気への放射性物質の拡散抑制 タイムチャート</p>	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	第1.12.3図	1.12-33	 <p>第 1.12.3 図 大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制ホース敷設ルート図</p>	 <p>図 1.12.3 大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制 ホース設置ルート図 (例)</p>	⑤ (凡例追加のみ: 以下同様)
42	第1.12.4図	1.12-34	 <p>第 1.12.4 図 放射性物質吸着材の設置位置図</p>	 <p>図 1.12.4 放射性物質吸着材の設置位置図</p>	⑤ (凡例追加のみ)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
43	第1.12.5図	1.12-34	<p>第 1.12.5 図 海洋への放射性物質の拡散抑制（放射性物質吸着材）タイムチャート</p>	<p>図 1.12.5 海洋への放射性物質の拡散抑制（放射性物質吸着材）タイムチャート</p>	② (免震重要棟の 自主化による移 動起点の変更)
44	第1.12.7図	1.12-35	<p>第 1.12.7 図 海洋への放射性物質の拡散抑制（汚濁防止膜）タイムチャート</p>	<p>図 1.12.7 海洋への放射性物質の拡散抑制（汚濁防止膜）タイムチャート</p>	② (免震重要棟の 自主化による移 動起点の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】



- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
45	第1.12.10図	1.12-38	<p>第 1.12.10 図 航空機衝突による航空機燃料火災時の手順 タイムチャート</p>	<p>図 1.12.10 航空機衝突による航空機燃料火災時の手順 タイムチャート</p>	<p>② (免震重要棟の 自主化による移 動起点の変更)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

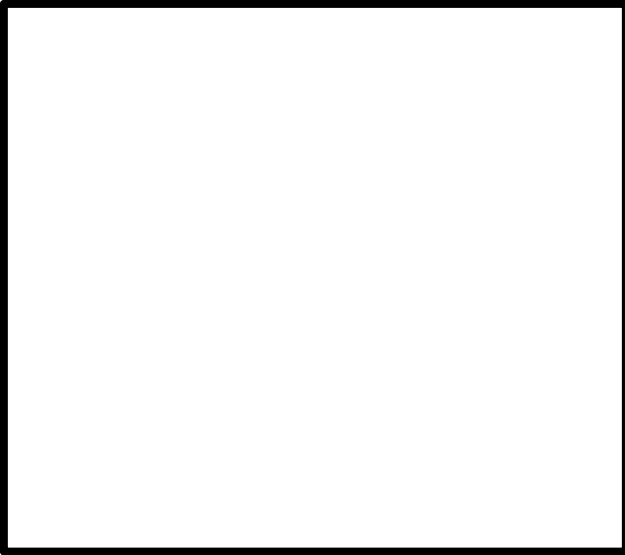
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
46	第1.12.11図	1.12-39	 <p>第 1.12.11 図 水利の配置及び大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による泡消火 ホース敷設ルート図</p>	 <p>図 1.12.11 水利の配置及び大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による泡消火 ホース設置ルート図（例）</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
47	—	—	削除	 <p>図 1. 12. 12 使用済燃料プール水位計設置位置概要図 (7号炉の例)</p>	⑤ (扱いを他の資料等を踏まえ再度整理した結果削除)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
48	審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (2/2)	1.12-41	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (2/2)</p> <p style="text-align: right;">■ : 重大事故等対処設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段</th> <th colspan="5">自主対策</th> </tr> <tr> <th>機能</th> <th>機器名称</th> <th>既設 新設</th> <th>解釈 対応番号</th> <th>機能</th> <th>機器名称</th> <th>常設 可設</th> <th>必要時間内に 使用可能か</th> <th>対応可能な人数 で使用可能か</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>新設</td> <td rowspan="5">① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧</td> <td rowspan="5">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>ガンマカメラ</td> <td>可設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>ホース</td> <td>新設</td> <td>サーモカメラ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>放水砲</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>海洋への放射性物質の拡散抑制</td> <td>放射性物質吸着材</td> <td>新設</td> <td rowspan="3">① ③ ④ ⑩</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>汚濁防止膜</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小型船舶 (汚濁防止膜設置用)</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">初期対応における延滞防止処置</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>化学消防自動車</td> <td>可設</td> <td rowspan="4">45分</td> <td rowspan="4">6名</td> <td rowspan="4">自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>水槽付消防ポンプ自動車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>大型化学漏洩放水車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>泡消火薬剤備蓄車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">航空機燃料火災への応用</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>新設</td> <td rowspan="7">① ④ ⑩</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ホース</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>放水砲</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>泡原液搬送車</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>泡原液混合装置</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策					機能	機器名称	既設 新設	解釈 対応番号	機能	機器名称	常設 可設	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧	大気への放射性物質の拡散抑制	ガンマカメラ	可設	-	-	自主対策とする理由は本文参照	ホース	新設	サーモカメラ	-	-	-	-	-	放水砲	新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材	新設	① ③ ④ ⑩	-	-	-	-	-	汚濁防止膜	新設	-	-	-	-	-	-	小型船舶 (汚濁防止膜設置用)	新設	-	-	-	-	-	-	初期対応における延滞防止処置	-	-	-	化学消防自動車	可設	45分	6名	自主対策とする理由は本文参照	-	-	-	水槽付消防ポンプ自動車	可設	-	-	-	大型化学漏洩放水車	可設	-	-	-	泡消火薬剤備蓄車	可設	航空機燃料火災への応用	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ④ ⑩	-	-	-	-	-	-	ホース	新設	-	-	-	-	-	-	放水砲	新設	-	-	-	-	-	-	泡原液搬送車	新設	-	-	-	-	-	-	泡原液混合装置	新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表 (2/2)</p> <p style="text-align: right;">■ : 重大事故等対処設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段</th> <th colspan="5">自主対策</th> </tr> <tr> <th>機能</th> <th>機器名称</th> <th>既設 新設</th> <th>解釈 対応番号</th> <th>機能</th> <th>機器名称</th> <th>常設 可設</th> <th>必要時間内に 使用可能か</th> <th>対応可能な人数 で使用可能か</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>新設</td> <td rowspan="5">① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧</td> <td rowspan="5">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>ガンマカメラ</td> <td>可設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>ホース</td> <td>新設</td> <td>サーモカメラ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>放水砲</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>海洋への放射性物質の拡散抑制</td> <td>放射性物質吸着材</td> <td>新設</td> <td rowspan="3">① ③ ④ ⑩</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>汚濁防止膜</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小型船舶 (汚濁防止膜設置用)</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">初期対応における延滞防止処置</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>化学消防自動車</td> <td>可設</td> <td rowspan="4">45分</td> <td rowspan="4">6名</td> <td rowspan="4">自主対策とする理由は本文参照</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>水槽付消防ポンプ自動車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>大型化学漏洩放水車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>泡原液備蓄車</td> <td>可設</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">航空機燃料火災への応用</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>新設</td> <td rowspan="7">① ④ ⑩</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ホース</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>放水砲</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>泡原液搬送車</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>泡原液混合装置</td> <td>新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>燃料補給設備</td> <td>既設 新設</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策					機能	機器名称	既設 新設	解釈 対応番号	機能	機器名称	常設 可設	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧	大気への放射性物質の拡散抑制	ガンマカメラ	可設	-	-	自主対策とする理由は本文参照	ホース	新設	サーモカメラ	-	-	-	-	-	放水砲	新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材	新設	① ③ ④ ⑩	-	-	-	-	-	汚濁防止膜	新設	-	-	-	-	-	-	小型船舶 (汚濁防止膜設置用)	新設	-	-	-	-	-	-	初期対応における延滞防止処置	-	-	-	化学消防自動車	可設	45分	6名	自主対策とする理由は本文参照	-	-	-	水槽付消防ポンプ自動車	可設	-	-	-	大型化学漏洩放水車	可設	-	-	-	泡原液備蓄車	可設	航空機燃料火災への応用	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ④ ⑩	-	-	-	-	-	-	ホース	新設	-	-	-	-	-	-	放水砲	新設	-	-	-	-	-	-	泡原液搬送車	新設	-	-	-	-	-	-	泡原液混合装置	新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	燃料補給設備	既設 新設	-	-	-	-	-	-	<p>②(原子炉建屋から漏えいする放射性物質等を監視するため、監視設備を自主的に配備することとした)</p> <p>⑤</p>
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
機能	機器名称	既設 新設	解釈 対応番号	機能	機器名称	常設 可設	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧	大気への放射性物質の拡散抑制	ガンマカメラ	可設	-	-	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ホース	新設			サーモカメラ	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	放水砲	新設			-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	燃料補給設備	既設 新設			-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材			新設	① ③ ④ ⑩	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
汚濁防止膜	新設	-	-	-	-		-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
小型船舶 (汚濁防止膜設置用)	新設	-	-	-	-		-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
初期対応における延滞防止処置	-	-	-	化学消防自動車	可設	45分	6名	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	-	-	-	水槽付消防ポンプ自動車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	-	-	-	大型化学漏洩放水車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	-	-	-	泡消火薬剤備蓄車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
航空機燃料火災への応用	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ④ ⑩	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ホース	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	放水砲	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	泡原液搬送車	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	泡原液混合装置	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	燃料補給設備	既設 新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	燃料補給設備	既設 新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
重大事故等対処設備を使用した手段 審査基準の要求に適合するための手段				自主対策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
機能	機器名称	既設 新設	解釈 対応番号	機能	機器名称	常設 可設	必要時間内に 使用可能か	対応可能な人数 で使用可能か	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ② ④ ⑤ ⑦ ⑧	大気への放射性物質の拡散抑制	ガンマカメラ	可設	-	-	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ホース	新設			サーモカメラ	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	放水砲	新設			-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	燃料補給設備	既設 新設			-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材			新設	① ③ ④ ⑩	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
汚濁防止膜	新設	-	-	-	-		-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
小型船舶 (汚濁防止膜設置用)	新設	-	-	-	-		-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
初期対応における延滞防止処置	-	-	-	化学消防自動車	可設	45分	6名	自主対策とする理由は本文参照																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	-	-	-	水槽付消防ポンプ自動車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	-	-	-	大型化学漏洩放水車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	-	-	-	泡原液備蓄車	可設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
航空機燃料火災への応用	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	新設	① ④ ⑩	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	ホース	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	放水砲	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	泡原液搬送車	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	泡原液混合装置	新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	燃料補給設備	既設 新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	燃料補給設備	既設 新設		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
49	添付資料 1.12.2 3.	1.12-42	所要時間目安:約130分(ホース350mを敷設した場合の時間であり、敷設長さにより変わる) (実績時間:約120分、ただし緊急取水口蓋の開放時間は含まない)	所要時間目安:約120分(ホース350mを設置した場合の時間であり、設置長さにより変わる) (実績時間:約110分、ただし緊急取水口蓋の開放時間は含まない)	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
50	添付資料 1.12.3	1.12-45	ホース敷設時間により、短いケースで約130分、長いケースで約190分での対応を想定している。	ホース設置時間により、短いケースで約120分、長いケースで約180分での対応を想定している。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																			
51	添付資料 1.12.3 第1図	1.12-45	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員(数)</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>20</th> <th>40</th> <th>60</th> <th>80</th> <th>100</th> <th>120</th> <th>140</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">大気への放射性物質の拡散抑制 130分</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">大容量送水車及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td rowspan="6">緊急時対策要員</td> <td>①移動</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td rowspan="6">※大容量送水車への移動は、20分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始130分</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">大気への放射性物質の拡散抑制 120分</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td rowspan="6">緊急時対策要員 (復旧班員)</td> <td>①移動</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td rowspan="6">※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>第1図 大気への放射性物質の拡散抑制 タイムチャート (130分ケース)</p>	手順の項目	要員(数)	経過時間(分)						備考	20	40	60	80	100	120	140	大気への放射性物質の拡散抑制 130分								大容量送水車及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員	①移動							※大容量送水車への移動は、20分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始130分	②							③							④							⑤							⑥							大気への放射性物質の拡散抑制 120分								大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分	②							③							④							⑤							⑥							<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員(数)</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>20</th> <th>40</th> <th>60</th> <th>80</th> <th>100</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">大気への放射性物質の拡散抑制 120分</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td rowspan="6">緊急時対策要員 (復旧班員)</td> <td>①移動</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td rowspan="6">※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">大気への放射性物質の拡散抑制 120分</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td rowspan="6">緊急時対策要員 (復旧班員)</td> <td>①移動</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td rowspan="6">1050m以内(北ルート~6号及び7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>図1 大気への放射性物質の拡散抑制 タイムチャート (120分ケース)</p>	手順の項目	要員(数)	経過時間(分)						備考	20	40	60	80	100	120	大気への放射性物質の拡散抑制 120分								大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分	②							③							④							⑤							⑥							大気への放射性物質の拡散抑制 120分								大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							1050m以内(北ルート~6号及び7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分	②							③							④							⑤							⑥							<p>② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)</p>
手順の項目	要員(数)	経過時間(分)						備考																																																																																																																																																																																																																																																
		20	40	60	80	100	120		140																																																																																																																																																																																																																																															
大気への放射性物質の拡散抑制 130分																																																																																																																																																																																																																																																								
大容量送水車及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員	①移動							※大容量送水車への移動は、20分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始130分																																																																																																																																																																																																																																															
		②																																																																																																																																																																																																																																																						
		③																																																																																																																																																																																																																																																						
		④																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑤																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑥																																																																																																																																																																																																																																																						
大気への放射性物質の拡散抑制 120分																																																																																																																																																																																																																																																								
大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分																																																																																																																																																																																																																																															
		②																																																																																																																																																																																																																																																						
		③																																																																																																																																																																																																																																																						
		④																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑤																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑥																																																																																																																																																																																																																																																						
手順の項目	要員(数)	経過時間(分)						備考																																																																																																																																																																																																																																																
		20	40	60	80	100	120																																																																																																																																																																																																																																																	
大気への放射性物質の拡散抑制 120分																																																																																																																																																																																																																																																								
大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							※荒浜高台保管場所への移動は、10分と想定する。 ※ホース設置距離により作業時間が異なる。 350m以内(南ルート~7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分																																																																																																																																																																																																																																															
		②																																																																																																																																																																																																																																																						
		③																																																																																																																																																																																																																																																						
		④																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑤																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑥																																																																																																																																																																																																																																																						
大気への放射性物質の拡散抑制 120分																																																																																																																																																																																																																																																								
大気への放射性物質の拡散抑制	緊急時対策要員 (復旧班員)	①移動							1050m以内(北ルート~6号及び7号炉) ホース設置25分 スプレー開始120分																																																																																																																																																																																																																																															
		②																																																																																																																																																																																																																																																						
		③																																																																																																																																																																																																																																																						
		④																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑤																																																																																																																																																																																																																																																						
		⑥																																																																																																																																																																																																																																																						

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】



- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																						
52	添付資料 1.12.3 第1表	1.12-46	<p>第1表 個別作業の概要及び訓練の実績と実績を踏まえた想定時間 (ホース敷設時間を3セットとした場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>作業名</th> <th>実績値 (単一訓練)</th> <th>実績を踏 まえた想 定</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>5号伊原子伊藤屋 内緊急時対策所から 荒砥側高台保管 場所までの移動</td> <td>約25分</td> <td>約30分</td> <td>他の手順と同じ設定としている。 (大津側高台保管場所までの移動は約20分)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>高台保管場所から 現場への車両運搬</td> <td>約15分</td> <td>約15分</td> <td>運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設</td> <td>約25分 (6名) [1セッ ト分]</td> <td>約25分 (6名) [1セッ ト分]</td> <td>6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1名 ・ホース敷設(車両上):2名 ・ホース敷設(道路上):2名 [ホースの敷設状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>取水ポンプの設置</td> <td>約40分 (6名)</td> <td>約50分 (6名)</td> <td>6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>大容量送水準備付 随作業</td> <td>設置の 個別訓練 実施 (2名)</td> <td>約90分 (2名)</td> <td>・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>水張り</td> <td>約10分 (5名)</td> <td>約10分 (5名)</td> <td>・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り</td> </tr> </tbody> </table>		作業名	実績値 (単一訓練)	実績を踏 まえた想 定	備考	①	5号伊原子伊藤屋 内緊急時対策所から 荒砥側高台保管 場所までの移動	約25分	約30分	他の手順と同じ設定としている。 (大津側高台保管場所までの移動は約20分)	②	高台保管場所から 現場への車両運搬	約15分	約15分	運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)	③	海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設	約25分 (6名) [1セッ ト分]	約25分 (6名) [1セッ ト分]	6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1名 ・ホース敷設(車両上):2名 ・ホース敷設(道路上):2名 [ホースの敷設状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。	④	取水ポンプの設置	約40分 (6名)	約50分 (6名)	6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。	⑤	大容量送水準備付 随作業	設置の 個別訓練 実施 (2名)	約90分 (2名)	・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等	⑥	水張り	約10分 (5名)	約10分 (5名)	・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り	<p>表1 個別作業の概要及び訓練の実績と実績を踏まえた想定時間 (ホース設置時間を3セットとした場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>作業名</th> <th>実績値 (単一訓練)</th> <th>実績を踏 まえた想 定</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>緊急時対策所から 大津側高台保管場 所までの移動</td> <td>約20分</td> <td>約20分</td> <td>他の手順と同じ設定としている。 (荒砥側高台保管場所までの移動は約10分)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>高台保管場所から 現場への車両運搬</td> <td>約15分</td> <td>約15分</td> <td>運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設</td> <td>約25分 (6名) [1セッ ト分]</td> <td>約25分 (6名) [1セッ ト分]</td> <td>6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1台 ・ホース設置(車両上):2名 ・ホース設置(道路上):2名 [ホースの設置状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>取水ポンプの設置</td> <td>約40分 (6名)</td> <td>約50分 (6名)</td> <td>6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>大容量送水準備付 随作業</td> <td>設置の 個別訓練 実施 (2名)</td> <td>約90分 (2名)</td> <td>・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>水張り</td> <td>約10分 (5名)</td> <td>約10分 (5名)</td> <td>・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り</td> </tr> </tbody> </table>		作業名	実績値 (単一訓練)	実績を踏 まえた想 定	備考	①	緊急時対策所から 大津側高台保管場 所までの移動	約20分	約20分	他の手順と同じ設定としている。 (荒砥側高台保管場所までの移動は約10分)	②	高台保管場所から 現場への車両運搬	約15分	約15分	運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)	③	海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設	約25分 (6名) [1セッ ト分]	約25分 (6名) [1セッ ト分]	6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1台 ・ホース設置(車両上):2名 ・ホース設置(道路上):2名 [ホースの設置状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。	④	取水ポンプの設置	約40分 (6名)	約50分 (6名)	6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。	⑤	大容量送水準備付 随作業	設置の 個別訓練 実施 (2名)	約90分 (2名)	・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等	⑥	水張り	約10分 (5名)	約10分 (5名)	・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り	<p>② (免震重要棟の 自主化による移 動起点の変更)</p> <p>⑤</p>
	作業名	実績値 (単一訓練)	実績を踏 まえた想 定	備考																																																																							
①	5号伊原子伊藤屋 内緊急時対策所から 荒砥側高台保管 場所までの移動	約25分	約30分	他の手順と同じ設定としている。 (大津側高台保管場所までの移動は約20分)																																																																							
②	高台保管場所から 現場への車両運搬	約15分	約15分	運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)																																																																							
③	海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設	約25分 (6名) [1セッ ト分]	約25分 (6名) [1セッ ト分]	6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1名 ・ホース敷設(車両上):2名 ・ホース敷設(道路上):2名 [ホースの敷設状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。																																																																							
④	取水ポンプの設置	約40分 (6名)	約50分 (6名)	6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。																																																																							
⑤	大容量送水準備付 随作業	設置の 個別訓練 実施 (2名)	約90分 (2名)	・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等																																																																							
⑥	水張り	約10分 (5名)	約10分 (5名)	・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り																																																																							
	作業名	実績値 (単一訓練)	実績を踏 まえた想 定	備考																																																																							
①	緊急時対策所から 大津側高台保管場 所までの移動	約20分	約20分	他の手順と同じ設定としている。 (荒砥側高台保管場所までの移動は約10分)																																																																							
②	高台保管場所から 現場への車両運搬	約15分	約15分	運搬する必要のある車両は6台 ・大容量送水車(原子伊藤屋放水設備用):1台 ・ホース運搬用車両:3台 ・放水砲運搬用車両:1台 ・ユニック車:1台(⑤大容量送水車付随作業で使用)																																																																							
③	海水取水場所(防 衛場内側)から放 水砲設置場所まで のホース敷設	約25分 (6名) [1セッ ト分]	約25分 (6名) [1セッ ト分]	6名の内訳 ・ホース運搬用車両運転:1台 ・ホース設置(車両上):2名 ・ホース設置(道路上):2名 [ホースの設置状況(ねじれないこと等)の確認] ・指揮者:1名 ※ホース1セットは350mであり、想定する最長距離 (約950m分)を敷設する場合、3セット分必要となる ことから想定時間は約75分となる。																																																																							
④	取水ポンプの設置	約40分 (6名)	約50分 (6名)	6名の内訳 ・取水ポンプ用ホース(4本)設置:2名 [取水ポンプとホースの接続] [クレーンによる取水ポンプの設置] ・油圧ケーブルリール設置:2名 [取水ポンプと車体をつなぐ油圧ケーブル引き出し] [油圧ケーブルの巻き取り] ・ユニック操作:1名 ・指揮者:1名 ※訓練実績値(約40分)には含まれていない。緊急取水 口蓋の開放時間(約10分)を考慮し約50分と想定。																																																																							
⑤	大容量送水準備付 随作業	設置の 個別訓練 実施 (2名)	約90分 (2名)	・配管エルボ部(ホースを直角に曲げる必要がある場合 の対応)の必要数量の確認、運搬、配備・設置(時間 に余裕があればホースブリッジ等の設置)等の付随作 業(設置の個別訓練は行っているが、いずれも重量物 であり作業時間を要すると想定) ・資機材の積み込み、車両による運搬 ・大容量送水ラインの周辺環境整備 ・給油作業 ・放水砲の配置 等																																																																							
⑥	水張り	約10分 (5名)	約10分 (5名)	・ホース水張り ・放水砲バラスト水張り																																																																							
53	添付資料 1.12.3 (1)	1.12-46	<p>訓練実績を踏まえ、作業時間を想定しているが、第1表に示したとおり、6名で 作業を行う①～④の作業の合計約120分と想定している。</p>	<p>訓練実績を踏まえ、作業時間を想定しているが、表1に示したとおり、6名で 作業を行う①～④の作業の合計約110分と想定している。</p>	<p>② (免震重要棟の 自主化による移 動起点の変更)</p>																																																																						

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
54	添付資料 1.12.3 (1)	1.12-47	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制手順については、敷設するホースの長さにより作業時間が約130分～約190分となる。	大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制手順については、設置するホースの長さにより作業時間が約120分～約180分となる。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
55	添付資料 1.12.3 (1)	1.12-47	ホース敷設ルートは、その時の現場の状況で敷設に支障がない場合は、敷設時間が短くなるルートを選択する(南側ルートを選択)こととしており、実際に要する時間としては約130分(7号炉への敷設の場合)若しくは約160分(6号炉への敷設の場合)が基本ケースとなる。	ホース設置ルートは、その時の現場の状況で設置に支障がない場合は、設置時間が短くなるルートを選択する(南側ルートを選択)こととしており、実際に要する時間としては約120分(7号炉への設置の場合)若しくは約150分(6号炉への設置の場合)が基本ケースとなる。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
56	添付資料 1.12.3 (1)	1.12-48	具体的には、ホース敷設距離が長い場合(700mより長くなる場合)、全体の作業時間は約190分となる。	具体的には、ホース設置距離が長い場合(700mより長くなる場合)、全体の作業時間は約180分となる。	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
57	添付資料 1.12.3 (2)	1.12-49	現在は本作業にかかる時間を約130分(7号炉への敷設の場合)若しくは約160分(6号炉への敷設の場合)としているが、	現在は本作業にかかる時間を約120分(7号炉への設置の場合)若しくは約150分(6号炉への設置の場合)としているが、	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
58	添付資料 1.12.4 1.(1)①	1.12-50	原子炉格納容器からの異常な漏えいにより、格納容器圧力逃がし装置で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの、原子炉建屋内の水素濃度が低下しないことにより原子炉建屋トップベントを開放する場合	原子炉格納容器の異常漏えいにより、格納容器圧力逃がし装置又は代替格納容器圧力逃がし装置で原子炉格納容器の減圧及び除熱をしているものの、原子炉建屋天井付近に設置されている原子炉建屋水素濃度計で、水素濃度が3.5%を超えたことにより原子炉建屋トップベントを開放する場合	④ (1.10手順の判断基準変更に伴う修正)
59	添付資料 1.12.4 第3図	1.12-53	 <p>第3図 放水砲設置位置</p>	 <p>図2 放水砲設置位置</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
60	添付資料 1.12.4 3.	1.12-54	放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できる。放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できるため、高い放射性物質の除去効果が期待できる。	放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切り替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できる。放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できるが、微粒子状の放射性物質の粒子径は、0.1～0.5μmと考えられ、この粒子径の微粒子の水滴による除去機構は、水滴と微粒子の慣性衝突作用(水滴径0.3mmφ前後で最も衝突作用が大きくなる)によるものであり、噴霧放射を活用することで、その衝突作用に期待できる。また、水滴と微粒子の相対速度を大きくし、水の流量を大きくすることで、除去効果の増大が期待できる。	⑤
61	添付資料 1.12.4 3.	1.12-54	原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所や放射性物質の放出箇所が確認できない場合、原子炉建屋の中央に向けて放水する。	原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所が不明な場合	⑤
62	添付資料 1.12.5 3.	1.12-55	所要時間目安 : 約180分	所要時間目安 : 約170分	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
63	添付資料 1.12.6 3.	1.12-56	(1) 北放水口への設置 必要要員数 : 6名(緊急時対策要員) 所要時間目安 : 約190分(北放水口1重目のみ)	(1) 北放水口への設置 必要要員数 : 4名(緊急時対策要員) 所要時間目安 : 約180分(北放水口1重目のみ)	③ (より確実に対応が可能となるよう対応人数見直し)
64	添付資料 1.12.7 1.	1.12-58	航空機燃料火災状況を確認し、安全を確保した場所に大型化学高所放水車を配置するとともに、化学消防自動車等により外部水源(防火水槽、消火栓又は海)から大型化学高所放水車に送水する。	航空機燃料火災状況を確認し、安全距離を確保した場所に高所放水車を配置するとともに、消防車により外部水源(防火水槽又は海)から高所放水車に送水する。	⑤
65	添付資料 1.12.7 3.	1.12-58	所要時間目安 : 約55分	所要時間目安 : 約45分	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)
66	添付資料 1.12.8 3.	1.12-60	所要時間目安 : 約130分(ホース350mを敷設した場合の時間であり、敷設長さにより変わる) (実績時間約115分、ただし実績のない緊急取水口蓋の開放時間は含まない)	所要時間目安 : 約120分(ホース350mを設置した場合の時間であり、設置長さにより変わる) (実績時間約105分、ただし実績のない緊急取水口蓋の開放時間は含まない)	② (免震重要棟の自主化による移動起点の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	目次	1.13-1	(e) 淡水貯水池を水源とした対応手段(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)と設備 (f) 淡水貯水池を水源とした対応手段(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)と設備	(d)淡水貯水池を水源とした対応手段及び設備	② (淡水貯水池の運用変更に伴う手順の追加)
2	目次	1.13-2	c. 水源の切替え (a) 原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系の水源の切替え	c.水源の切替え (a)原子炉隔離時冷却系の水源の切替え	⑤
3	目次	1.13-2	(2) サプレッション・チェンバを水源とした対応手順 a. 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時のサプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水 b. 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時のサプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水	(2)サプレッション・チェンバを水源とした対応手順 a.原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時のサプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水	⑤
4	目次	1.13-6	(3) 淡水タンクへ水を補給するための対応手順 a. 淡水貯水池から淡水タンクへの補給 1.13.2.3 水源を切り替えるための対応手順 (1) 原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系の水源切替え a. 原子炉隔離時冷却系による原子炉圧力容器への注水 b. 高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への注水 (2) 淡水から海水への切替え a. 防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による送水中の場合 b. 淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による送水中の場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 1.13.2.4 その他の手順項目について考慮する手順 1.13.2.5 重大事故等時の対応手段の選択 (1) 水源を利用した対応手段 (2) 水源へ水を補給するための対応手段 a. 復水貯蔵槽への補給 b. 防火水槽への補給 c. 淡水タンクへの補給	(3)淡水タンクへ水を補給するための対応手順 a.淡水貯水池から淡水タンクへの補給 1.13.2.3 水源を切り替えるための対応手順 (1)各種注水の水源切替え a.原子炉隔離時冷却系による原子炉圧力容器への注水 b.高圧炉心注水系による原子炉圧力容器への注水 (2)淡水から海水への切替え 1.13.2.4 その他の手順項目について考慮する手順 1.13.2.5 重大事故等時の対応手段の選択	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
5	目次	1.13-8	12.代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水槽への海水補給 13.淡水貯水池(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)から海を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)への送水の切替え 添付資料1.13.4 淡水貯水池から海への水源切替えの判断基準について 添付資料1.13.5 解釈一覧 1.操作手順の解釈一覧 2.各号炉の弁番号及び弁名称一覧	12.淡水貯水池から海を水源とした可搬型代替注水ポンプへの送水の切替え 添付資料1.13.4 解釈一覧 1.淡水貯水池から海への水源切替えの判断基準について 2.操作手順の解釈一覧	⑤
6	1.13.1(2)a.(a)	1.13-12	a. 水源を利用した対応手段と設備 (a) 復水貯蔵槽を水源とした対応手段と設備 重大事故等の収束に必要な水源として復水貯蔵槽を利用する。 重大事故等時において、サブプレッション・チェンバを水源として利用できない場合は、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、原子炉格納容器下部への注水及び原子炉ウエルへの注水を行う手段がある。 これらの対応手段及び設備は、「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」及び「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時において、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・高圧代替注水系(高圧代替注水系ポンプ) ・原子炉隔離時冷却系(原子炉隔離時冷却系ポンプ) ・高圧炉心注水系(高圧炉心注水系ポンプ) ・制御棒駆動系(制御棒駆動水ポンプ)	a.水源を利用した対応手段及び設備 (a)復水貯蔵槽を水源とした対応手段及び設備 重大事故等の収束に必要な水源として復水貯蔵槽を利用する。 重大事故等時において、サブプレッション・チェンバを水源として利用できない場合は、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、原子炉格納容器下部への注水及び原子炉格納容器頂部への注水を行う手段がある。 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時において、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水で使用する設備は以下のとおり。 ・高圧代替注水系(高圧代替注水系ポンプ) ・原子炉隔離時冷却系(原子炉隔離時冷却系ポンプ) ・高圧炉心注水系(高圧炉心注水系ポンプ) ・制御棒駆動水系(制御棒駆動水系ポンプ)	⑤
7	1.13.1(2)a.(b)	1.13-14	これらの対応手段及び設備は、「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。	-	⑤
8	1.13.1(2)a.(c)	1.13-16	これらの対応手段及び設備は、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」及び「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
9	1.13.1(2)a.(d)	1.13-17	<p>これらの対応手段及び設備は、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための手順等」、「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」及び「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。</p> <p>防火水槽を水源とした各接続口までの送水で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級) ・ホース・接続口 ・燃料補給設備 	-	⑤
10	1.13.1(2)a.(e)	1.13-19,20	<p>(e) 淡水貯水池を水源とした対応手段(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)と設備</p> <p>重大事故等の収束に必要な水源として淡水貯水池を利用する。</p> <p>重大事故等において、復水貯蔵槽及びサブプレッション・チェンバを水源として利用できない場合は、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用し、淡水貯水池を水源として可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)を用いた原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、フィルタ装置への補給、原子炉格納容器下部への注水、原子炉ウエルへの注水及び使用済燃料プールへの注水/スプレイを行う手段がある。</p> <p>これらの対応手段及び設備は、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための手順等」、「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」及び「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。</p> <p>淡水貯水池を水源とした各接続口までの送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級) ・ホース・接続口 ・燃料補給設備 	<p>(d) 淡水貯水池を水源とした対応手段及び設備</p> <p>重大事故等の収束に必要な水源として淡水貯水池を利用する。重大事故等において、復水貯蔵槽及びサブプレッション・チェンバを水源として利用できない場合は、淡水貯水池を水源として可搬型代替注水ポンプを用いた原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、フィルタ装置への補給、原子炉格納容器下部への注水、原子炉格納容器頂部への注水及び使用済燃料プールへの注水/スプレイを行う手段がある。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
11	1.13.1(2)a.(f)	1.13-22,23	(f) 淡水貯水池を水源とした対応手段(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)と設備 重大事故等の収束に必要な水源として淡水貯水池を利用する。 重大事故等時において、復水貯蔵槽及びサプレッション・チェンバを水源として利用できず、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合に、淡水貯水池から直接可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)を用いた原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、フィルタ装置への補給、原子炉格納容器下部への注水、原子炉ウエルへの注水及び使用済燃料プールへの注水/スプレーを行う手段がある。 これらの対応手段及び設備は、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための手順等」、「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」及び「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。 淡水貯水池を水源とした各接続口までの送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)で使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級) ・ホース・接続口 ・燃料補給設備	-	②
12	1.13.1(2)a.(g)	1.13-25	これらの対応手段及び設備は、「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」、「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」、「1.8 原子炉格納容器下部の熔融炉心を冷却するための手順等」、「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」、「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」及び「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。	-	⑤
13	1.13.1(2)a.(h)	1.13-28	これらの対応手段及び設備は、「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」、「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて選定する対応手段及び設備と同様である。	-	⑤
14	1.13.1(2)a.(i)	1.13-29	・ホース(淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホース)水を送水するホースとして耐震性は確保されていないが、重大事故等の収束に必要な水を確保する手段として有効である。	-	② (淡水貯水池の運用変更に伴う追加)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
15	1.13.1(2)b.(a) ii	1.13-30～ 32	<p>ii. 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給(淡水貯水池をと水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用し、淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・淡水貯水池 ・ホース・接続口 ・CSP外部補給配管・弁 ・復水貯蔵槽 ・燃料補給設備 <p>iii. 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給(淡水貯水池をと水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合に、直接可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・淡水貯水池 ・ホース・接続口 ・CSP外部補給配管・弁 ・復水貯蔵槽 ・燃料補給設備 <p>iv. 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給(海を水源とした場合) 海を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・ホース・接続口 ・CSP外部補給配管・弁 ・復水貯蔵槽 ・大容量送水車(海水取水用) ・海水貯留堰 ・スクリーン室 ・取水路海水取水箇所 ・燃料補給設備 	<p>i. 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備は以下のとおり。なお、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給は、淡水貯水池から防火水槽へ補給した淡水を使用する手段だけでなく、淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を用いて補給する手段、防火水槽へ補給した海水を可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を用いて補給する手段又は取水した海水を可搬型代替注水ポンプ(A-2級)を用いて補給する手段もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ・淡水貯水池 ・防火水槽 ・ホース・接続口 ・CSP 外部補給配管・弁 ・復水貯蔵槽 ・大容量送水車(海水取水用) ・海水貯留堰 ・スクリーン室 ・取水路[海水取水箇所] ・燃料補給設備 	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
16	1.13.1(2)b.(d)	1.13-36	<p>(d) 重大事故等対処設備と自主対策設備 防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、ホース・接続口、CSP外部補給配管・弁、復水貯蔵槽及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。 淡水貯水池を水源とし、あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合の可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、ホース・接続口、CSP外部補給配管・弁、復水貯蔵槽及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。 海を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給で使用する設備のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、ホース・接続口、CSP外部補給配管・弁、復水貯蔵槽、大容量送水車(海水取水用)、海水貯留堰、スクリーン室、取水路及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。 防火水槽への補給で使用する設備のうち、ホース、大容量送水車(海水取水用)、海水貯留堰、スクリーン室、取水路及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	<p>(d)重大事故等対処設備と自主対策設備 復水貯蔵槽への補給で使用する設備のうち、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)、ホース・接続口、CSP外部補給配管・弁、復水貯蔵及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置づける。</p>	② (淡水貯水池の運用変更に伴う追加)
17	1.13.1(2)b.(d)	1.13-37	<p>・ホース(淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホース)水を送水するホースとして耐震性は確保されていないが、淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給手段及び淡水貯水池から防火水槽への補給手段として有効である。</p>	-	② (淡水貯水池の運用変更に伴う追加)
18	1.13.1(2)c.(c)	1.13-41	<p>防火水槽へ補給する水源の切替えて使用する設備のうち、大容量送水車(海水取水用)、海水貯留堰、スクリーン室、取水路、ホース及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	-	⑤
19	1.13.2.1(1)a.(c)	1.13-46	<p>(c) 高圧代替注水系による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水(中央制御室操作) 原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系が機能喪失した場合、又は炉心の著しい損傷が発生した場合、熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止する場合には、中央制御室からの手動操作により高圧代替注水系を起動し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。</p>	<p>(c)高圧代替注水系による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水(中央制御室操作) 高圧代替注水系による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水(中央制御室操作)については、高圧注水系が機能喪失した場合に、中央制御室からの操作により高圧代替注水系を起動し原子炉圧力容器への注水をする場合と、炉心の著しい損傷が発生した場合に、熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止するため原子炉圧力容器へ注水する場合がある。</p>	⑤
20	1.13.2.1(1)a.(d)	1.13-49	<p>円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	1.13.2.1 (1)a.(e)	1.13-49	高圧注水系が機能喪失した場合、かつ高圧代替注水系が起動できない場合に、現場での弁の手動操作により原子炉隔離時冷却系を起動し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。	全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により高圧注水系での原子炉の冷却ができない場合において、高圧代替注水系が起動できない場合は、復水貯蔵槽を水源として原子炉隔離時冷却系を現場での弁の手動操作にて起動し原子炉圧力容器への注水を実施する。	⑤
22	1.13.2.1 (1)a.(e)	1.13-50	i. 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により中央制御室からの操作による原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系での原子炉圧力容器への注水ができない場合において、中央制御室からの操作及び現場での人力による弁の操作により高圧代替注水系を起動できない場合、又は高圧代替注水系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合。	①手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失及び常設直流電源系統喪失により中央制御室からの操作による高圧注水系での原子炉圧力容器への注水ができない場合において、中央制御室からの操作若しくは現場手動操作による高圧代替注水系の起動にて原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合、又は中央制御室からの操作及び現場手動操作による高圧代替注水系の起動ができない場合。	⑤
23	1.13.2.1 (1)a.(e)	1.13-50,51	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員4名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉隔離時冷却系による原子炉圧力容器への注水開始まで約90分、緊急時対策要員による排水処理開始まで約180分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具(酸素呼吸器及び耐熱服)、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業を開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。 原子炉隔離時冷却系ポンプ室に現場運転員が入室するのは原子炉隔離時冷却系起動時のみとし、その後速やかに退室する手順とする。したがって、原子炉隔離時冷却系タービングランド部からの蒸気漏えいに伴う環境温度の上昇による運転員への影響はないものと考えており、防護具(酸素呼吸器及び耐熱服)を確実に装着することにより本操作が可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員4名、緊急時対策要員4名にて作業を実施する。 作業開始を判断してから現場運転員による原子炉隔離時冷却系起動まで約90分で可能である。	⑤
24	1.13.2.1 (1)a.(f)	1.13-51	高圧注水系又は高圧代替注水系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合、又は炉心の著しい損傷が発生した場合、溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止する場合に、制御棒駆動系を起動し、復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。	制御棒駆動水系による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水(進展抑制)については、全交流動力電源喪失又は高圧炉心注水系の機能喪失時において、高圧代替注水系又は原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合に、原子炉補機冷却系により冷却水を確保し、制御棒駆動水系を用いて原子炉圧力容器への注水する場合と、炉心の著しい損傷が発生した場合に、溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止するため原子炉圧力容器へ注水する場合がある。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
25	1.13.2.1 (1)a.(g)	1.13-53	全交流動力電源が喪失し, 高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合, 又は炉心の著しい損傷が発生した場合, 熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止する場合に, 常設代替交流電源設備又は 第二代替交流電源設備により高圧炉心注水系の電源を確保 することで, 高圧炉心注水系を冷却水がない状態で一定時間運転し, 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。	高圧炉心注水系による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への緊急注水については, 全交流動力電源が喪失し, 高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系により原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合は, 常設代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで高圧炉心注水系を冷却水がない状態で短時間起動し, 原子炉圧力容器へ注水する場合と, 炉心の著しい損傷が発生した場合に, 熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止するため原子炉圧力容器へ注水する場合がある。	⑤
26	1.13.2.1 (1)b.(a)	1.13-55	常設の原子炉圧力容器への注水設備が機能喪失した場合, 残存熔融炉心を冷却し原子炉圧力容器から原子炉格納容器への放熱量を抑制する場合, 又は熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止する場合に, 低圧代替注水系(常設)を起動し, 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。	低圧代替注水系(常設)による復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水については, 常設の原子炉圧力容器への注水設備の注水機能が喪失した場合に, 低圧代替注水系(常設)により原子炉圧力容器への注水する場合と, 炉心の著しい損傷, 熔融が発生した場合において, 原子炉圧力容器内に熔融炉心が残存した場合に, 低圧代替注水系(常設)により原子炉圧力容器へ注水することで残存熔融炉心を冷却し, 原子炉圧力容器から原子炉格納容器への放熱量を抑制する場合と, 炉心の著しい損傷が発生した場合, 熔融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延又は防止するため原子炉圧力容器へ注水する場合がある。	⑤
27	1.13.2.1 (1)b.(a)	1.13-59	当該操作実施後, 現場運転員2名にて復水移送ポンプの水源確保操作を実施した場合, 15分以内で可能である。(「1.4.2.1(3)a.(a)低圧代替注水系(常設)による残存熔融炉心の冷却」, 「1.8.2.2(1)a.低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水」は炉心損傷状態での手順のため残留熱除去系(A)と残留熱除去系(B)注入配管のみを使用) 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	当該操作実施後, 現場運転員2名にて復水移送ポンプの水源確保操作を実施した場合, 15分以内で可能である。(「1.8.2.2(1)a.低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水」は残留熱除去系(A)と(B)注入配管使用のみを使用)	⑤
28	1.13.2.1 (1)c.(a)	1.13-60	スプレィ作動後は原子炉格納容器内の圧力が負圧とならないように, スプレィ流量の調整又はスプレィの起動/停止を行う。	-	⑤
29	1.13.2.1 (1)c.(a)	1.13-62	円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
30	1.13.2.1 (1)d.(a)	1.13-65	円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
31	1.13.2.1 (1)e.(a)	1.13-67	円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
32	1.13.2.1 (2)a.	1.13-67	a. 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時のサブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時のサブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水手段としては原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心注水系がある。	a.原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時のサブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時のサブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水手段としては残留熱除去系がある。	⑤
33	1.13.2.1 (2)b.(a)	1.13-70	また、全交流動力電源の喪失又は原子炉補機冷却系の故障により常設設備による原子炉圧力容器への注水機能が喪失した場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系による冷却水を確保後に残留熱除去系(低圧注水モード)を起動し、サブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水を実施する。	全交流動力電源の喪失により常設の原子炉圧力容器への注水設備の注水機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(低圧注水モード)にて原子炉圧力容器への注水を実施する場合がある。	⑤
34	1.13.2.1 (2)c.(a)	1.13-73	また、全交流動力電源の喪失により常設設備による原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合は、常設代替交流電源設備又は第二代替交流電源設備を用いて非常用高圧母線へ電源を供給することで、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系による冷却水を確保後に残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)を起動し、サブプレッション・チェンバを水源とした原子炉格納容器内へのスプレイを実施する。	全交流動力電源の喪失により常設の原子炉格納容器冷却設備による冷却機能の喪失が起きた場合、常設代替交流電源設備により残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)の電源を復旧し、原子炉補機冷却系又は代替原子炉補機冷却系により冷却水を確保することで、残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)にて格納容器スプレイを実施する場合がある。	⑤
35	1.13.2.1 (2)d.(a)	1.13-81	d. サプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器及び原子炉格納容器内の除熱 サブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器及び原子炉格納容器内の除熱手段については、代替循環冷却系がある。	c.サブプレッション・チェンバを水源とした代替循環冷却系を用いた除熱 サブプレッション・チェンバを水源とした代替循環冷却系を用いた除熱手段については、代替循環冷却系がある。	⑤
36	1.13.2.1 (2)d.(a)	1.13-82	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
37	1.13.2.1 (2)d.(b)	1.13-83	炉心の著しい損傷が発生し、原子炉格納容器の過圧破損を防止するために代替循環冷却系の運転を実施する場合、代替原子炉補機冷却系により補機冷却水を確保し、代替循環冷却系で使用する残留熱除去系熱交換器(B)及び代替循環冷却系の運転可否の判断で使用する格納容器内酸素濃度(CAMS)へ供給する。	炉心の著しい損傷が発生した場合において、復水補給水系を用いた代替循環冷却運転により、原子炉格納容器内の圧力及び温度を低下させることで原子炉格納容器の過圧破損を防止する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
38	1.13.2.1 (2)d.(b)	1.13-84	なお, 炉心の著しい損傷が発生した場合において代替原子炉補機冷却系を設置する場合, 作業時の被ばくによる影響を低減するため, 緊急時対策要員を2班体制とし, 交替して対応する。	-	⑤
39	1.13.2.1 (2)d.(b)	1.13-84	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
40	1.13.2.1 (3)a.(a)	1.13-85	給水・復水系, 非常用炉心冷却系及び低圧代替注水系(常設)による原子炉圧力容器への注水ができず, 原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において, 消火系及び注入配管が使用可能な場合※1。	常設の原子炉圧力容器への注水設備, 低圧代替注水系(常設)により原子炉圧力容器への注水ができず, 原子炉圧力容器内の水位を原子炉水位低(レベル3)以上に維持できない場合において, 消火系及び注入配管が使用可能な場合※1	⑤
41	1.13.2.1 (3)a.(a)	1.13-88	(「1.4.2.1(3)a.(b)」消火系による残存溶融炉心の冷却, 「1.8.2.2(1)c.消火系による原子炉圧力容器への注水」は炉心損傷状態での手順のため残留熱除去系(A)と残留熱除去系(B)注入配管のみを使用)) 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	(炉心損傷後の原子炉圧力容器への注水については, 残留熱除去系(C)又は高圧炉心注水系(B)(C)の注入配管は使用しない。)円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤
42	1.13.2.1 (3)b.(a)	1.13-89	残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)及び代替格納容器スプレイ冷却系(常設)による原子炉格納容器内の冷却機能が喪失した場合, 消火系を起動し, ろ過水タンクを水源とした原子炉格納容器へのスプレイを実施する。	残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード)及び代替格納容器スプレイ冷却系による原子炉格納容器内の冷却機能の喪失が起きた場合, ろ過水タンクを水源とした消火系による格納容器スプレイを実施する。	⑤
43	1.13.2.1 (3)b.(a)	1.13-89	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
44	1.13.2.1 (3)c.(a)	1.13-94	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
45	1.13.2.1 (3)d.(a)	1.13-96	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
46	1.13.2.1 (4)a.	1.13-98	復水貯蔵槽、サブプレッション・チェンバ及びびろ過水タンクを水源とした原子炉圧力容器への注水等の各種注水ができず、淡水貯水池及び淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合。また、フィルタ装置の水位が通常水位を下回ると判断した場合。	復水貯蔵槽又はサブプレッション・チェンバを水源とした原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給ができない場合。また、フィルタ装置の水位が通常水位を下回ると判断した場合。	② (淡水貯水池の運用変更に伴う追加)
47	1.13.2.1 (4)a.	1.13-98	防火水槽から各種注水ルート図を第1.13.35図に示す。		⑤
48	1.13.2.1 (4)a.	1.13-99,100	(c) 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台又は2台を使用した場合は1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて、可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台を使用した場合は1ユニット当たり緊急時対策要員3名にて作業を実施し、作業開始を判断してから建屋近傍の防火水槽を水源とした送水を開始するまでの所要時間は以下のとおりである。 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台を使用した場合(ホースの接続先:SFP接続口、スクラバ接続口、ウェル接続口):約110分 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)2台を使用した場合(ホースの接続先:SFP接続口):約125分 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台を使用した場合(ホースの接続先:MUWC接続口、SFP接続口):約125分	(c)操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台の操作を緊急時対策要員2名にて実施した場合、作業開始を判断してから送水開始まで、建屋近傍の防火水槽を用いることによりSFP接続口、スクラバ接続口及びウェル接続口に接続した場合において約80分で可能である。また、1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)2台又は3台の操作を緊急時対策要員3名にて実施した場合、作業開始を判断してから送水開始まで、建屋近傍の防火水槽を用いることによりMUWC接続口、SFP接続口に接続した場合において約95分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
49	1.13.2.1 (4)b.	1.13-104	<p>iii. 操作の成立性 【交流電源が確保されている場合】 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)、残留熱除去系(A)、残留熱除去系(C)、高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約125分で可能である。 (「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却(淡水/海水)」、「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため残留熱除去系(A)と残留熱除去系(B)注入配管のみを使用) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	<p>③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)又は残留熱除去系(A)のいずれの注入配管を使用した場合においても約95分で可能である。</p>	⑤
50	1.13.2.1 (4)b.	1.13-104,105	<p>【全交流動力電源が喪失している場合】 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)、残留熱除去系(A)、残留熱除去系(C)、高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約125分で可能である。(「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却(淡水/海水)」、「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流動力電源喪失時は使用できない。) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤
51	1.13.2.1 (4)c.	1.13-109	<p>iii. 操作の成立性 【交流電源が確保されている場合】 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから代替格納容器スプレー冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレー開始まで約125分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	<p>③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレー開始まで約95分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
52	1.13.2.1 (4)c.	1.13-109	<p>[全交流動力電源が喪失している場合] 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約125分で可能である。 (「1.6.2.2(1)a.(c)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流動力電源喪失時は使用できない。) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤
53	1.13.2.1 (4)d.	1.13-111,112	<p>上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配置～送水準備及びフィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分、フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。 炉心損傷がない状況下での格納容器ベントを実施した場合は、本操作における作業エリアの被ばく線量率は低く、作業は可能である。 なお、炉心損傷後の屋外における本操作は、格納容器ベント実施後の短期間において、フィルタ装置水の蒸発によるフィルタ装置の水位低下は評価上想定されないため、フィルタ装置水位調整(水張り)操作を実施することはないと考えられるが、作業時の被ばくによる影響を低減するため、緊急時対策要員を交替して対応することで、作業可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	<p>上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約80分、フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分、計約130分で可能である。 炉心損傷がない状況下での原子炉格納容器装置であることから、本操作における作業エリアの被ばく線量率は低く、作業は可能である。 炉心損傷状況下における本操作は、原子炉格納容器装置実施から25時間後以降に行うことから、大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため、作業可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	⑤
54	1.13.2.1 (4)e.	1.13-114	<p>屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
55	1.13.2.1 (4)f.	1.13-115	i. 手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度が171℃を 超えるおそれがある場合で、格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	①手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合※1において、原子炉格納容器内の温度上昇が 継続している場合で、格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	⑤
56	1.13.2.1 (4)f.	1.13-115	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系 による原子炉ウェル注水開始まで約110分で可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 2名で作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系に よる原子炉ウェル注水開始まで約80分で可能である。	⑤
57	1.13.2.1 (4)g.(a)	1.13-118	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへ の注水開始まで110分以内で可能である。	上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへ の注水開始まで80分以内で可能である。	⑤
58	1.13.2.1 (4)g.(b)	1.13-120	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び 緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用 済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約110分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約120分	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及 び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから 使用済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約80分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約90分	⑤
59	1.13.2.1 (4)g.(b)	1.13-121	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
60	1.13.2.1 (4)g.(c)	1.13-122	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへ のスプレイ開始まで125分以内で可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員 3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへ のスプレイ開始まで95分以内で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
61	1.13.2.1 (4)g.(d)	1.13- 124,125	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレー開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約125分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約135分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は、事象初期に可搬型スプレーヘッダの設置を実施するため通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は、1 ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレー開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約95分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約105分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。可搬型代替注水ポンプからのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に実施可能である。 また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗間における作業性についても確保している。	⑤
62	1.13.2.1 (5)a.	1.13-126	原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、原子炉格納容器下部への注水、原子炉ウェルへの注水及び使用済燃料プールの冷却に用いる常設の設備が使用できない場合に、淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを使用し可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による各種注水を行う。	原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器内の冷却、原子炉格納容器下部への注水、原子炉格納容器頂部への注水及び使用済燃料プールの冷却に用いる常設の設備が使用できない場合に可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による各種注水を行う。	② (淡水貯水池の運用変更に伴う修正)
63	1.13.2.1 (5)a.	1.13-127	(a) 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽、サブプレッション・チェンバ、ろ過水タンク及び防火水槽を水源とした原子炉圧力容器への注水等の各種注水ができず、淡水貯水池及び淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合。	(a)手順着手の判断基準 復水貯蔵槽又はサブプレッション・チェンバ及び防火水槽を水源とした原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給ができない場合。また、フィルタ装置の水位が通常水位を下回ると判断した場合。	② (淡水貯水池の運用変更に伴う修正)
64	1.13.2.1 (5)a.	1.13-129	(c) 操作の成立性 [水源確保(淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)への送水)] 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)へ淡水貯水池の水を送るまでの所要時間は以下のとおりである。 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台又は2台を使用した場合:約110分 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台を使用した場合:約125分	(c)操作の成立性 [水源確保(淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプへの送水)] 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)へ淡水貯水池の水を給水するまで105分以内で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
65	1.13.2.1 (5)a.	1.13-130	<p>[淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による送水]</p> <p>上記の操作は, 1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからあらかじめ敷設してあるホースを使用した淡水貯水池を水源とした送水を開始するまでの所要時間は以下のとおりである。 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台を使用した場合(ホースの接続先:SFP接続口, スクラバ接続口, ウェル接続口):約115分 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)2台を使用した場合(ホースの接続先:SFP接続口):約125分 可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台を使用した場合(ホースの接続先:MUWC接続口, SFP接続口):約140分</p>	<p>[淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプによる送水]</p> <p>上記の操作は, 1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台の操作を緊急時対策要員2名にて実施した場合, 作業開始を判断してから送水開始まで, 建屋近傍の送水ラインと直接接続し, SFP接続口, スクラバ接続口及びウェル接続口に接続した場合において約110分で可能である。</p>	⑤
66	1.13.2.1 (5)b.(a)	1.13-134	<p>iii. 操作の成立性</p> <p>[交流電源が確保されている場合]</p> <p>低圧代替注水系(可搬型)による淡水貯水池を水源とした原子炉压力容器への注水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉压力容器への注水開始まで残留熱除去系(B), 残留熱除去系(A), 残留熱除去系(C), 高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約140分で可能である。(「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存熔融炉心の冷却(淡水/海水)」, 「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉压力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため残留熱除去系(B)と残留熱除去系(A)注入配管のみを使用)</p> <p>円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	<p>③操作の成立性</p> <p>上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉压力容器への注水開始まで残留熱除去系(A)(B)(C)又は高圧炉心注水系(B)(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約120分で可能である。(炉心損傷後の原子炉压力容器への注水については, 残留熱除去系(C)又は高圧炉心注水系(B)(C)の注入配管は使用しない。)</p> <p>円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
67	1.13.2.1 (5)b.(a)	1.13- 135,136	<p>[全交流動力電源が喪失している場合] 低圧代替注水系(可搬型)による淡水貯水池を水源とした原子炉圧力容器への注水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名, 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B), 残留熱除去系(A), 残留熱除去系(C), 高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)のいずれの注入配管を使用した場合においても約140分で可能である。(「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存熔融炉心の冷却(淡水/海水)」, 「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流動力電源喪失時は使用できない。)円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤
68	1.13.2.1 (5)c.(a)	1.13-139	<p>iii. 操作の成立性 [交流電源が確保されている場合] 淡水貯水池を水源とした原子炉格納容器内の冷却(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約140分で可能である。円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は, 汎用の結合金具であり, 十分な作業スペースを確保していることから, 容易に実施可能である。また, 車両の作業用照明, ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで, 暗闇における作業性についても確保している。</p>	<p>③操作の成立性 上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による格納容器スプレイ開始まで約120分で可能である。円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
69	1.13.2.1 (5)c.(a)	1.13-140	<p>[全交流動力電源が喪失している場合] 淡水貯水池を水源とした原子炉格納容器内の冷却(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名, 現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約140分で可能である。(「1.6.2.2(1)a.(c)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流電源喪失時は使用できない。) 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は, 汎用の結合金具であり, 十分な作業スペースを確保していることから, 容易に実施可能である。また, 車両の作業用照明, ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで, 暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤
70	1.13.2.1 (5)d.(a)	1.13-142	<p>iii. 操作の成立性 淡水貯水池を水源としたフィルタ装置への補給(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は, 炉心損傷をしていない場合は, 1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定, 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配置, 送水準備及びフィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分, フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。 炉心損傷をしている場合は, 1ユニット当たり緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定, 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配置, 送水準備及びフィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約65分, フィルタ装置水位調整(水張り)完了まで約125分で可能である。 炉心損傷がない状況下での格納容器ベントを実施した場合は, 本操作における作業エリアの被ばく線量率は低く, 作業は可能である。 なお, 炉心損傷後の屋外における本操作は, 格納容器ベント実施後の短期間において, フィルタ装置水の蒸発によるフィルタ装置の水位低下は評価上想定されないため, フィルタ装置水位調整(水張り)操作を実施することはないと考えられるが, 作業時の被ばくによる影響を低減するため, 緊急時対策要員を交替して対応することで, 作業可能である。 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	<p>③操作の成立性 上記の操作は, 1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから水源と送水ルートの特定～可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の配備～送水準備～フィルタ装置補給用接続口使用による可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による注水開始まで約110分, フィルタ装置水位調整(水張り)を約50分, 計約160分で可能である。 炉心損傷がない状況下での原子炉格納容器装置であることから, 本操作における作業エリアの被ばく線量率は低く, 作業は可能である。 炉心損傷状況下における本操作は, 原子炉格納容器装置実施から25時間後以降に行うことから, 大気中に放出された放射性物質から受ける放射線量は低下しているため, 作業可能である。 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
71	1.13.2.1 (5)e.(a)	1.13- 145,146	iii. 操作の成立性 格納容器下部注水系(可搬型)による淡水貯水池を水源とした原子炉格納容器下部への注水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約140分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから原子炉格納容器下部への初期水張り開始を確認するまで約120分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤
72	1.13.2.1 (5)f.(a)	1.13- 147,148	iii. 操作の成立性 淡水貯水池を水源とした原子炉ウェルへの注水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウェルへの注水開始まで約115分で可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名で作業を実施した場合、作業開始を判断してから格納容器頂部注水系による原子炉ウェル注水開始まで約110分で可能である。	⑤
72	1.13.2.1 (5)g.(a)	1.13-150	iii. 操作の成立性 淡水貯水池を水源とした使用済燃料プールへの注水/スプレイ(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで115分以内で可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始まで110分以内で可能である。	⑤
73	1.13.2.1 (5)g.(b)	1.13-152	iii. 操作の成立性 燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッドを使用した使用済燃料プールへの注水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約115分 原子炉建屋大物搬入口から接続の場合:約120分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへの注水開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約110分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約110分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
75	1.13.2.1 (5)g.(c)	1.13-154	iii. 操作の成立性 燃料プール代替注水系による常設スプレイヘッダを使用した使用済燃料プールへのスプレイ(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで140分以内で可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始まで120分以内で可能である。	⑤
76	1.13.2.1 (5)g.(d)	1.13-156	iii. 操作の成立性 燃料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッダを使用した使用済燃料プールへのスプレイ(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約125分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約135分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は、事象初期に可搬型スプレイヘッダの設置を実施するため通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから使用済燃料プールへのスプレイ開始までの所要時間は以下のとおり。 SFP 接続口(原子炉建屋南側)使用の場合:約120分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約125分 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。	⑤
77	1.13.2.1 (6)	1.13-157~ 186	(6) 淡水貯水池を水源とした対応手順(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)手順の追加	—	② (淡水貯水池の運用変更に伴う手順の追加)
78	1.13.2.1 (7)b.(a)	1.13- 194,195	iii. 操作の成立性 [交流電源が確保されている場合] 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)、残留熱除去系(A)、残留熱除去系(C)、高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)の注入配管を使用した場合において約5時間15分で可能である。「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存溶融炉心の冷却(淡水/海水)」、「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため残留熱除去系(B)と残留熱除去系(A)注入配管のみを使用) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(A)又は(B)の注入配管を使用した場合において約5時間15分で可能である。(炉心損傷前の原子炉圧力容器への注水の場合は残留熱除去系(C)又は炉心注水系(B)(C)の注入配管も使用し、約5時間15分で対応可能)円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
79	1.13.2.1 (7)b.(a)	1.13- 195,196	<p>[全交流動力電源が喪失している場合] 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水開始まで残留熱除去系(B)、残留熱除去系(A)、残留熱除去系(C)、高圧炉心注水系(B)及び高圧炉心注水系(C)の注入配管を使用した場合において約5時間15分で可能である。 (「1.4.2.1(3)a.(c)低圧代替注水系(可搬型)による残存熔融炉心の冷却(淡水/海水)」、「1.8.2.2(1)b.低圧代替注水系(可搬型)による原子炉圧力容器への注水(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流動力電源喪失時は使用できない。) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に操作可能である。また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤
80	1.13.2.1 (7)c.(a)	1.13-199	<p>屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤
81	1.13.2.1 (7)c.(a)	1.13-200	<p>[全交流動力電源が喪失している場合] 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員10名にて作業を実施し、作業開始を判断してから代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ開始まで約5時間15分で可能である。 (「1.6.2.2(1)a.(c)代替格納容器スプレイ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内へのスプレイ(淡水/海水)」は炉心損傷状態での手順のため全交流動力電源喪失時は使用できない。) 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。室温は通常運転時と同程度である。 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)からのホースの接続は、汎用の結合金具であり、十分な作業スペースを確保していることから、容易に操作可能である。また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤
82	1.13.2.1 (7)d.(a)	1.13-203	<p>屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
83	1.13.2.1 (7)e.(a)	1.13-204	i. 手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合※1において, 原子炉格納容器内の温度が171℃を 超えるおそれがある場合で, 格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	①手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合※1において, 原子炉格納容器内の温度上昇が継 続している場合で, 格納容器頂部注水系が使用可能な場合※2。	⑤
84	1.13.2.1 (7)f.(b)	1.13-209	iii. 操作の成立性 上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名, 現場運転員2名及び 緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから燃 料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッダを使用した使用済燃料プ ールへの注水開始までの所要時間は下記のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約5時間5分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約5時間5分 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設 備を整備する。また, 速やかに作業が開始できるよう, 使用する資機材は作 業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は, 事象初期に可搬型スプレイ ヘッダの設置を実施するため通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は, 1 ユニット当たり中央制御室運転員1 名, 現場運転員2 名及 び緊急時対策要員10 名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッダを使用した使用 済燃料プール注水開始までの所要時間は下記のとおり。 南側貫通接続口使用の場合:約5 時間5 分 原子炉建屋扉からの接続の場合:約5 時間5 分 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信 連絡設備を整備する。	⑤
85	1.13.2.1 (7)f.(d)	1.13- 213,214	iii. 操作の成立性 上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名, 現場運転員2名及び 緊急時対策要員10名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから燃 料プール代替注水系による可搬型スプレイヘッダを使用した使用済燃料プ ールへのスプレイ開始までの所要時間は下記のとおり。 SFP可搬式接続口使用の場合:約5時間15分 原子炉建屋大物搬入口からの接続の場合:約5時間15分 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設 備を整備する。また, 速やかに作業が開始できるよう, 使用する資機材は作 業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は, 事象初期に可搬型スプレイ ヘッダの設置を実施するため通常運転時と同程度である。	③操作の成立性 上記の操作は, 1 ユニット当たり中央制御室運転員1 名, 現場運転員2 名及 び緊急時対策要員10 名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから 燃料プール代替注水系(可搬型)による可搬型スプレイヘッダを使用した使用 済燃料プールスプレイ開始までの所要時間は下記のとおり。 南側貫通接続口使用の場合:約5 時間15 分 原子炉建屋扉からの接続の場合:約5 時間15 分 円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 放射線防護具, 照明及び通信 連絡設備を整備する。	⑤
86	1.13.2.1 (7)g.(b)	1.13-217	円滑に作業できるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設 備を整備する。また, 速やかに作業が開始できるよう, 使用する資機材は作 業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。 また, 車両の作業用照明, ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで, 暗闇に おける作業性についても確保している。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
87	1.13.2.1 (7)g.(c)	1.13-219	<p>iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員8名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから運転員による系統構成完了まで約4時間15分、緊急時対策要員による大容量送水車(熱交換器ユニット用)を使用した補機冷却水供給開始まで約5時間で可能である。また、代替原子炉補機冷却海水ポンプを使用した場合は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員11名にて作業を実施し、補機冷却水供給開始まで約7時間で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。 また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	<p>③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員8名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから運転員による系統構成完了まで約4時間15分、緊急時対策要員による大容量送水車を使用した補機冷却水供給開始まで約5時間で可能である。また、代替原子炉補機冷却海水ポンプを使用した場合は補機冷却水供給開始まで約7時間で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。また、速やかに作業が開始できるよう、使用する資機材は作業場所近傍に配備する。</p>	⑤
88	1.13.2.1 (7)h.(a)	1.13-222	<p>手順着手から約130分(7号炉の場合、6号炉の場合は約160分)で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は、約190分で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。) 円滑に作業できるように移動経路を確保し、防護具、可搬型照明及び通信連絡設備を整備する。作業環境の周囲温度は外気温と同程度である。ホース等の取付けについては速やかに作業ができるように大容量送水車(原子炉建屋放水設備用)の保管場所に使用工具及びホースを配備する。 また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。 緊急時対策本部からの指示を受けて、大気への放射性物質の拡散抑制を開始する。緊急時対策要員(復旧班員)5名にて実施し、手順着手から約130分以降(7号炉の場合、6号炉の場合は約160分以降)放水することが可能である。</p>	<p>手順着手から120分(7号炉の場合、6号炉の場合は150分)で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は、180分で大気への放射性物質の拡散抑制準備を完了することとしている。) 円滑に作業できるようにアクセスルートを確保し、防護具、可搬型照明、通信設備等を整備する。作業環境の周囲温度は外気温と同程度である。ホース等の取付けについては速やかに作業ができるように大容量送水車の保管場所に使用工具及びホースを配備する。 緊急時対策本部からの指示を受けて、大気への放射性物質の拡散抑制を開始する。緊急時対策要員(復旧班員)5名にて実施し、手順着手から120分以降(7号炉の場合、6号炉の場合は150分以降)放水することが可能である。</p>	⑤
89	1.13.2.1 (7)i.(a)	1.13-222	<p>手順着手から約130分(7号炉の場合、6号炉の場合は約160分)で準備を完了することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は、約190分に対応することとしている。)</p>	<p>手順着手から120分(7号炉の場合、6号炉の場合は150分)で準備を完了しその後放水することとしている。(ホース敷設距離が長くなる5号炉北側からのルートでホースを敷設した場合は、180分に対応することとしている。)</p>	⑤
90	1.13.2.1 (7)i.(a)	1.13-222	<p>また、車両の作業用照明、ヘッドライト及び懐中電灯を用いることで、暗闇における作業性についても確保している。</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
91	1.13.2.1 (8)a.(a)	1.13-226	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから、 ほう酸水注入開始まで1分以内で対応可能である。	③操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名、現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの各操作の所要時間は以下のとおり。 ・原子炉冷却材再循環ポンプ手動停止:1分以内 ・自動減圧系、代替自動減圧系起動阻止:1分以内 ・ほう酸水注入開始:1分以内 ・制御棒挿入操作開始:1分以内 ・原子炉圧力容器内の水位の低下操作開始:2分以内 ・残留熱除去系サプレッション・チェンバ・プール水冷却モード操作完了:5分以内 ・スクラムテストスイッチによるペアロードスクラム操作完了:約10分 ・現場でのスクラムソレノイドヒューズ引き抜き操作完了:約25分	⑤
92	1.13.2.1 (8)a.(b)	1.13-228	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
93	1.13.2.1 (8)a.(c)	1.13-230	屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	-	⑤
94	1.13.2.2 (1)a.(a)	1.13-231	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水等の 各種注水 が開始され、防火水槽に 淡水又は海水 が補給されている場合。	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器へのスプレイ、原子炉格納容器下部への注水及び原子炉格納容器頂部への注水準備が開始され、防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給ができる場合。	⑤
95	1.13.2.2 (1)a.(a)	1.13-233	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給開始まで 145分以内 で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。 屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給開始まで 135分以内 で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤
96	1.13.2.2 (1)a.(b)	1.13-234	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水等の 各種注水 が開始され、 淡水貯水池及び淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホース が使用可能で、防火水槽が使用できない場合。	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水、原子炉格納容器へのスプレイ、原子炉格納容器下部への注水及び原子炉格納容器頂部への注水準備が開始され、防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給ができない場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
97	1.13.2.2 (1)a.(b)	1.13- 235,236	[淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による送水]の手順の追加 (省略していたものを記載)	[水源確保(淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプへの送水)] 「1.13.2.1(4)a.淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプによる送水」の操作手順と同様である。	⑤
98	1.13.2.2 (1)a.(b)	1.13-236	iii. 操作の成立性 [水源確保(淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプ(A-2級)への送水)] 上記の操作は, 1ユニット当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)へ淡水貯水池の水を送るまで約125分で可能である。	iii. 操作の成立性 [水源確保(淡水貯水池から可搬型代替注水ポンプへの送水)] 上記の操作は, 緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)へ淡水貯水池の水を給水するまで105分以内で可能である。	⑤
99	1.13.2.2 (1)a.(b)	1.13-237	[淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による送水] 上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給開始まで150分以内で可能である。	[淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプによる送水] 上記の操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び緊急時対策要員3名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給開始まで135分以内で可能である。	⑤
100	1.13.2.2 (1)a.(c)	1.13-238~ 240	(c) 淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)手順の追加	-	② (淡水貯水池の運用変更に伴う手順の追加)
101	1.13.2.2 (1)a.(d)	1.13-241	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水等の各種注水が開始され, 防火水槽及び淡水貯水池が使用できない場合。	i. 手順着手の判断基準 復水貯蔵槽を水源とした原子炉圧力容器への注水, 原子炉格納容器へのスプレイ, 原子炉格納容器下部への注水及び原子炉格納容器頂部への注水準備が開始され, 防火水槽及び淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給ができない場合。	⑤
102	1.13.2.2 (1)a.(d)	1.13-241~ 243	[海を水源とした大容量送水車(海水取水用)及び可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による送水]の手順の追加 (省略していたものを記載)	「1.13.2.1(6)a.海を水源とした大容量送水車(海水取水用)及び可搬型代替注水ポンプによる送水」の操作手順と同様である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
103	1.13.2.2 (1)b.	1.13-247	(c) 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから現場運転員による系統構成完了まで約15分、緊急時対策要員による純水移送ポンプを使用した復水貯蔵槽への補給開始まで約185分で可能である。円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。屋内作業の室温は通常運転時と同程度である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから運転員操作の系統構成完了まで約15分、緊急時対策本部へ作業着手を依頼してから緊急時対策要員操作の純水移送ポンプ起動後、補給開始まで約165分で可能である。円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤
104	1.13.2.2 (2)a.	1.13-249	(c) 操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから防火水槽へ淡水貯水池の水を補給するまで85分以内で可能である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから防火水槽へ淡水貯水池の水を補給するまで80分以内で可能である。	⑤
105	1.13.2.2 (2)b.	1.13-251	(c) 操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから防火水槽に水を補給するまで約70分で可能である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから防火水槽に水を補給するまで約80分で可能である。	⑤
106	1.13.2.2 (2)c.(a)	1.13-252	i. 手順着手の判断基準 防火水槽を水源として可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水を行う場合で、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)の水が枯渇するおそれがある場合。	(a)手順着手の判断基準 防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給を継続する場合において、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)から防火水槽への補給手段が確保できない場合、又は貯水量の減少により防火水槽への淡水の補給手段がなくなるおそれがある場合。	⑤
107	1.13.2.2 (2)c.(a)	1.13-253	iii. 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の操作を緊急時対策要員3名にて実施した場合、作業開始を判断してから送水開始まで約190分で可能である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の操作を緊急時対策要員3名にて実施した場合、作業開始を判断してから送水開始まで約180分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
108	1.13.2.2 (2)c.(b)	1.13-254	i. 手順着手の判断基準 防火水槽を水源として可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水を行う場合で、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)の水が枯渇するおそれがあり、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により海水を防火水槽へ補給できない場合。	(a)手順着手の判断基準 防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1 級又はA-2 級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給を継続する場合において、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)から防火水槽への補給手段が確保できない場合、又は貯水量の減少により防火水槽への淡水の補給手段がなくなるおそれがある場合で、可搬型代替注水ポンプにより海水を防火水槽へ補給できない場合。	⑤
109	1.13.2.2 (2)c.(c)	1.13-255,256	i. 手順着手の判断基準 防火水槽を水源として可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水を行う場合で、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)の水が枯渇するおそれがあり、大容量送水車(海水取水用)及び可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により海水を防火水槽へ補給できない場合。	(a)手順着手の判断基準 防火水槽を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1 級又はA-2 級)による原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給を継続する場合において、淡水貯水池及び淡水タンク(純水タンク及びろ過水タンク)から防火水槽への補給手段が確保できない場合、又は貯水量の減少により防火水槽への淡水の補給手段がなくなるおそれがある場合で、大容量送水車及び可搬型代替注水ポンプにより海水を防火水槽へ補給できない場合。	⑤
110	1.13.2.2 (3)a.	1.13-257	(a) 手順着手の判断基準 淡水タンク(純水タンク又はろ過水タンク)を水源として、原子炉圧力容器への注水等の各種注水を行う場合で、淡水貯水池及び淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合。	(a)手順着手の判断基準 淡水タンク(純水タンク又はろ過水タンク)を水源として、原子炉圧力容器への注水等の各種注水/補給を行う場合。	⑤
111	1.13.2.2 (3)a.	1.13-258	(c) 操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから指定された淡水タンク(純水タンク又はろ過水タンク)に補給するまで約85分で可能である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから指定された淡水タンク(純水タンク又はろ過水タンク)に補給するまで約80分で可能である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
112	1.13.2.5 (2)a.	1.13-266	<p>防火水槽を水源として利用できない場合は, 淡水貯水池を水源として, 淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースを用いて可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により復水貯蔵槽へ補給する。</p> <p>淡水貯水池から防火水槽の間にあらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合は, 淡水貯水池から直接可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により復水貯蔵槽へ補給する。</p> <p>淡水貯水池を水源として利用できない場合は, 海を利用した補給手段よりも短時間で補給を開始できる純水補給水系(仮設発電機を使用)により純水タンクから復水貯蔵槽へ補給する。</p> <p>純水補給水系(仮設発電機を使用)により純水タンクから復水貯蔵槽へ補給ができない場合は, 海を利用して大容量送水車(海水取水用)及び可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により復水貯蔵槽へ補給する。</p>	<p>防火水槽を水源として利用できない場合には, 淡水貯水池を水源として, ホースを用いて可搬型代替注水ポンプ(A-1 級又はA-2 級)に水を供給することで原子炉等の各設備へ注水する。</p> <p>淡水貯水池を水源として利用できない場合には, 海を利用して可搬型代替注水ポンプ(A-2 級)により原子炉等の各設備へ注水することとなる。</p>	② (淡水貯水池の運用変更に伴う変更)
113	第1.13.1表	1.13-268～ 282	淡水貯水池の運用変更に伴う設備の追加 条文内での記載の統一	—	② (淡水貯水池の運用変更に伴う変更)
114	第1.13.2表	1.13-283～ 286	淡水貯水池の運用変更に伴う設備の追加 使用する手順名称記載	—	② (淡水貯水池の運用変更に伴う変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
115	第1.13.1図	1.13- 288,289	機能喪失原因対策分析(使用済燃料プールの冷却について記載)	—	⑤
116	第1.13.3図 第1.13.5図 第1.13.11図 第1.13.13図 第1.13.19図 第1.13.21図 第1.13.23図 第1.13.31図	1.13- 291~293 295~297 305 307 313 315 317 325	作業内容変更に伴うタイムチャートの修正	—	⑤
117	第1.13.3図 第1.13.5図 第1.13.11図 第1.13.13図	1.13- 298 299 308 309	淡水貯水池の運用変更に伴うタイムチャートと概要図の追加	—	② (淡水貯水池の 運用変更に伴う 追加)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
118	第1.13.33図	1.13-327~329	重大事故時の対応手段選択フローチャートを分割(各種注水用, 復水貯蔵槽補給用, 防火水槽補給用に分割)	—	⑤
119	第1.13.34図 第1.13.36図	1.13-330~332	淡水貯水池と防火水槽を水源とした各種注水の為のホースルートの記載	—	⑤
120	添付資料 1.13.1	1.13-333~340	原子炉圧力容器への注水等の設備等も細かく記載	—	⑤
121	添付資料 1.13.2	1.13-341~343	自主設備の明確化	—	⑤
122	添付資料 1.13.3-1	1.13-344	想定時間 :「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台使用の場合」 110分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)2台又は3台使用の場合」 125分(実績時間なし)	所要時間目安:「可搬型代替注水ポンプ1台使用の場合」 80分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ2台又は3台使用の場合」 95分(実績時間なし)	⑤
123	添付資料 1.13.3-2	1.13-346	想定時間 :「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台又は2台使用の場合」 110分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台使用の場合」 125分(実績時間なし)	所要時間目安:105分(実績時間なし)	⑤
124	添付資料 1.13.3-3	1.13-348	想定時間 :「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)1台使用の場合」 115分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)2台使用の場合」 125分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)3台使用の場合」 140分(実績時間なし)	所要時間目安:「可搬型代替注水ポンプ1台使用の場合」 110分(実績時間なし) 「可搬型代替注水ポンプ2台又は3台使用の場合」 120分(実績時間なし)	⑤
125	添付資料 1.13.3-4	1.13-350,351	4.淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)による送水(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)	—	② (淡水貯水池の運用変更に伴う手順の追加)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
126	添付資料 1.13.3-5	1.13-352	海から大容量送水車(海水取水用)による可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)への送水に必要な要員数, 時間は以下のとおり。	—	⑤
127	添付資料 1.13.3-7	1.13-356	c.必要要員数及び時間 可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」4名(緊急時対策要員4名) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」6名(緊急時対策要員6名) 「海を水源とした場合」10名(緊急時対策要員10名) 想定時間 :「防火水槽を水源とした場合」145分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)」150分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合(あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合)」340分(実績時間なし) 「海を水源とした場合」5時間25分(実績時間なし)	必要要員数:「防火水槽を水源とした場合」3名(緊急時対策要員3名) 「淡水貯水池を水源とした場合」4名(緊急時対策要員4名) 「海を水源とした場合」10名(緊急時対策要員10名) 所要時間目安:「防火水槽を水源とした場合」135分(実績時間なし) 「淡水貯水池を水源とした場合」135分(実績時間なし) 「海を水源とした場合」5時間25分(実績時間なし)	⑤
128	添付資料 1.13.3-8	1.13-358	想定時間 :185分(実績時間:185分)	所要時間目安:165分(実績時間:165分)	⑤
129	添付資料 1.13.3-9	1.13-361	想定時間 :85分(実績時間:75分)	所要時間目安:80分(実績時間:70分)	⑤
130	添付資料 1.13.3-10	1.13-363	想定時間 :190分(実績時間なし)	所要時間目安:180分(実績時間なし)	⑤
131	添付資料 1.13.3-11	1.13-364	大容量送水車(海水取水用)による防火水槽への海水補給に必要な要員数, 時間は以下のとおり。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
132	添付資料 1.13.3-12	1.13-366	代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水槽への海水補給に必要な要員数、時間は以下のとおり。	-	⑤
133	添付資料 1.13.3-13	1.13-368	淡水貯水池から海を水源とした可搬型代替注水ポンプ(A-1級又はA-2級)への送水の切替えに必要な要員数、時間は以下のとおり。	-	⑤
134	添付資料 1.13.4	1.13-370	2.水源を淡水貯水池から海へ切り替える際の考え方 水源の淡水貯水池から海へ切り替えは、原子炉圧力容器への注水等の各種注水が途切れることなく、かつ淡水をできる限り使用する運用とする。よって海を水源とする対応の準備中における各種注水での必要水量を算出し、その必要水量を淡水貯水池から送水できなくなる前に、海を水源とした各種注水の準備作業を開始する。	2.水源を淡水貯水池から海へ切り替える際の考え方 水源の淡水貯水池から海へ切り替えは、原子炉圧力容器への注水等の各種注水が途切れる事がなく、且つ淡水をできる限り使用する運用とする。よって海を水源にする対応の準備中における各種注水での必要水量を算出し、その必要水量を上回る淡水貯水池の送水可能水位で切り替えることとする。	⑤
135	添付資料 1.13.4	1.13-371	以上のことから1770m ³ の必要水量が淡水貯水池から送水可能であれば、海を水源とした各種注水の準備中であっても、淡水貯水池を水源とした各種注水が途切れることはない。よって水源切替え時の必要水量1770m ³ を上回る2470m ³ 送水可能な水貯水池の水位T.P.43.8mで、海を水源とした各種注水の準備作業を開始する。 5.まとめ 淡水貯水池から海への水源の切替えについては、淡水貯水池の水位T.P.43.8mで切替え作業を実施する。淡水貯水池の水位確認については、原子炉圧力容器への注水等の各種注水での水の使用量を確認し、淡水貯水池の水位の計算を行っていることから、1日/回の目安で淡水貯水池に設置した水位計を目視にて確認する。	以上のことから1770m ³ の必要水量が淡水貯水池から送水可能であれば、海を水源とした各種注水の準備中であっても、淡水貯水池を水源とした各種注水が途切れることはない。1770m ³ の送水可能量が確保されている淡水貯水池の水位はT.P.43.8mで2470m ³ 送水可能である。よって淡水貯水池の水位がT.P.43.8mで水源を淡水貯水池から海へ切り替える事で、淡水をできる限り使用して各種注水が可能となる。 5.まとめ 淡水貯水池から海への水源の切り替えについては、T.P.43.8mで切り替えを実施する。切り替えを実施するために、1日/回の目安で淡水貯水池に設置した水位計を目視にて確認する。	⑤
136	添付資料 1.13.5-2	1.13-373	弁名称確定に伴う記載	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.14 電源の確保に関する手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	目次	1.14-2	1.14.2.5 重大事故等対処設備(設計基準拡張)による対応手順 (1) 非常用交流電源設備による給電 (2) 非常用直流電源設備による給電	—	⑤
2	目次	1.14-4	13.不要直流負荷(B系, C系, D系)の切離し	—	⑤
3	1.14.1(1)	1.14-8	これらの設計基準事故対処設備うち, 非常用交流電源設備並びに非常用直流電源設備C系及びD系が健全であれば, これらを重大事故等対処設備(設計基準拡張)と位置付け重大事故等の対処に用いるが,	これらの設計基準事故対処設備が健全であれば重大事故等の対処に用いるが	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	1.14.1(2)	1.14-9,10	<p>重大事故等対処設備(設計基準拡張)である非常用交流電源設備又は非常用直流電源設備が健全であれば重大事故等の対処に用いる。 非常用交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用ディーゼル発電機 ・燃料デイトンク ・非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 ・原子炉補機冷却系 ・軽油タンク ・燃料移送ポンプ ・非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁 <p>非常用直流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直流125V蓄電池A ・直流125V蓄電池A-2 ・直流125V蓄電池B ・直流125V蓄電池C ・直流125V蓄電池D ・直流125V充電器A ・直流125V充電器A-2 ・直流125V充電器B ・直流125V充電器C ・直流125V充電器D ・直流125V蓄電池及び充電器A～直流母線電路 ・直流125V蓄電池及び充電器A-2～直流母線電路 ・直流125V蓄電池及び充電器B～直流母線電路 ・直流125V蓄電池及び充電器C～直流母線電路 ・直流125V蓄電池及び充電器D～直流母線電路 	-	② (SA(DB拡張)設備を追記)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
5	1.14.1(2)a.(a) i, ii	1.14-11,12	<p>常設代替交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機 ・第一ガスタービン発電機用燃料タンク ・第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ ・第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 ・第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・第一ガスタービン発電機～AM用MCC電路 ・軽油タンク ・軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース ・タンクローリ(16kL) <p>ii. 第二代替交流電源設備による給電 第二代替交流電源設備から非常用所内電気設備又は代替所内電気設備へ給電する手段がある。</p> <p>第二代替交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二ガスタービン発電機 ・第二ガスタービン発電機用燃料タンク ・第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ ・第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 ・第二ガスタービン発電機～荒浜側緊急用高圧母線～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・第二ガスタービン発電機～大湊側緊急用高圧母線～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・第二ガスタービン発電機～荒浜側緊急用高圧母線～AM用MCC電路 ・第二ガスタービン発電機～大湊側緊急用高圧母線～AM用MCC電路 ・軽油タンク ・軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース ・タンクローリ(16kL) 	<p>常設代替交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.2に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機 ・第一ガスタービン発電機用燃料タンク ・第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ ・第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 ・第二ガスタービン発電機 ・第二ガスタービン発電機用燃料タンク ・第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ ・第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 ・緊急用断路器 ・緊急用高圧母線 ・大湊側緊急用高圧母線 ・緊急用電源切替箱断路器 ・緊急用電源切替箱接続装置 ・非常用高圧母線C系 ・非常用高圧母線D系 ・AM用動力変圧器 ・AM用MCC ・燃料補給設備 	<p>② (第二GTGの自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
6	1.14.1(2)a.(a) iii	1.14-13	<p>可搬型代替交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・電源車～荒浜側緊急用高圧母線～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用MCC電路 ・電源車～AM用動力変圧器～AM用MCC電路 ・電源車～荒浜側緊急用高圧母線～AM用MCC電路 ・電源車～代替原子炉補機冷却系電路 ・軽油タンク ・軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース ・タンクローリ(4kL) <p>なお, 代替原子炉補機冷却系への給電の操作手順については, 「1.5.2.2(1)a. 代替原子炉補機冷却系による補機冷却水確保」にて整備する。</p>	<p>可搬型代替交流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.2に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・緊急用電源切替箱断路器 ・緊急用電源切替箱接続装置 ・非常用高圧母線C系 ・非常用高圧母線D系 ・AM用動力変圧器 ・AM用MCC ・緊急用高圧母線 ・燃料補給設備 <p>電源車を移動式変圧器に接続し, 代替原子炉補機冷却系へ給電する手段がある。</p> <p>可搬型代替交流電源設備による代替原子炉補機冷却系への給電で使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・移動式変圧器 ・燃料補給設備 	⑤
7	1.14.1(2)a.(a) iii	1.14-14	<p>号炉間電力融通電気設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号炉間電力融通ケーブル(常設) ・号炉間電力融通ケーブル(可搬型) ・号炉間電力融通ケーブル(常設)～非常用高圧母線C系及びD系電路 ・号炉間電力融通ケーブル(可搬型)～非常用高圧母線C系及びD系電路 <p>なお, 号炉間電力融通ケーブル(常設)はコントロール建屋内にあらかじめ敷設し, 号炉間電力融通ケーブル(可搬型)は荒浜側高台保管場所に配備する。</p>	<p>号炉間電力融通ケーブルによる給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.2に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号炉間電力融通ケーブル ・緊急用電源切替箱断路器 ・緊急用電源切替箱接続装置 ・非常用高圧母線C系 ・非常用高圧母線D系 <p>なお, 号炉間電力融通ケーブルについてはコントロール建屋内に一式, 荒浜側常設代替交流電源設備設置場所の建屋内に一式同じ仕様のケーブルを配備する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
8	1.14.1(2)a.(b)	1.14-14,15	<p>(b) 重大事故等対処設備と自主対策設備 常設代替交流電源設備による給電で使用する設備のうち、第一ガスタービン発電機、第一ガスタービン発電機用燃料タンク、第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ、第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁、第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線C系及びD系電路、第一ガスタービン発電機～AM用MCC電路、軽油タンク、軽油タンク出口ノズル・弁、ホース及びタンクローリ(16kL)は重大事故等対処設備として位置付ける。 可搬型代替交流電源設備による給電で使用する設備のうち、電源車、電源車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線C系及びD系電路、電源車～動力変圧器C系～非常用高圧母線C系及びD系電路、電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用MCC電路、電源車～AM用動力変圧器～AM用MCC電路、電源車～代替原子炉補機冷却系電路、軽油タンク、軽油タンク出口ノズル・弁、ホース及びタンクローリ(4kL)は重大事故等対処設備として位置付ける。 号炉間電力融通電気設備による給電で使用する設備のうち、号炉間電力融通ケーブル(常設)、号炉間電力融通ケーブル(可搬型)、号炉間電力融通ケーブル(常設)～非常用高圧母線C系及びD系電路及び号炉間電力融通ケーブル(可搬型)～非常用高圧母線C系及びD系電路は重大事故等対処設備として位置付ける。</p>	<p>(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備 常設代替交流電源設備による給電で使用する設備のうち、第一ガスタービン発電機、第一ガスタービン発電機用燃料タンク、第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ、第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁、第二ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機用燃料タンク、第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ、第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁、緊急用断路器、緊急用高圧母線、緊急用電源切替箱断路器、緊急用電源切替箱接続装置、非常用高圧母線C系、非常用高圧母線D系、AM用動力変圧器、AM用MCC及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置づける。</p>	<p>② (第二GTGの自主化) ⑤</p>
9	1.14.1(2)a.(b)	1.14-16	<p>・第二ガスタービン発電機、荒浜側緊急用高圧母線を経由する電路、大湊側緊急用高圧母線を経由する電路 耐震性は確保されていないが、第一ガスタービン発電機と同等の機能を有することから、第二ガスタービン発電機及び電路の健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。</p>	-	<p>② (第二GTGの自主化)</p>
10	1.14.1(2)b.(a) i.	1.14-17	<p>所内蓄電式直流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.3図及び第1.14.4図に示す。 ・直流125V蓄電池A ・直流125V蓄電池A-2 ・AM用直流125V蓄電池 ・直流125V充電器A ・直流125V充電器A-2 ・AM用直流125V充電器 ・直流125V蓄電池及び充電器A～直流母線電路 ・直流125V蓄電池及び充電器A-2～直流母線電路 ・AM用直流125V蓄電池及び充電器～直流母線電路</p>	<p>所内蓄電式直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.3及び図1.14.4に示す。 ・直流125V蓄電池A ・直流125V蓄電池A-2 ・AM用直流125V蓄電池 ・直流125V充電器A ・直流125V充電器A-2 ・AM用直流125V充電器</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
11	1.14.1(2)b.(a) i.	1.14-18	<p>常設代替直流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.3図及び第1.14.4図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AM用直流125V蓄電池 ・AM用直流125V充電器 ・AM用直流125V蓄電池及び充電器～直流母線電路 	<p>常設代替直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.3及び図1.14.4に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AM用直流125V蓄電池 ・AM用直流125V充電器 	⑤
12	1.14.1(2)b.(a) ii.	1.14-18	<p>可搬型直流電源設備による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.2図, 第1.14.3図及び第1.14.4図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・AM用直流125V充電器 ・電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用直流125V充電器～直流母線電路 ・電源車～AM用動力変圧器～AM用直流125V充電器～直流母線電路 ・電源車～荒浜側緊急用高圧母線～AM用直流125V充電器～直流母線電路 ・軽油タンク ・軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース 	<p>可搬型直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.2, 図1.14.3及び図1.14.4に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・緊急用電源切替箱断路器 ・緊急用電源切替箱接続装置 ・AM用動力変圧器 ・AM用MCC ・AM用切替盤 ・AM用直流125V充電器 ・緊急用高圧母線 ・燃料補給設備 	⑤
13	1.14.1(2)b.(a) iii.	1.14-19	<p>iii. 直流給電車による給電 非常用交流電源設備の故障, 所内蓄電式直流電源設備の蓄電池の枯渇により直流設備への給電ができない場合は, 直流給電車及び電源車の組み合わせにより直流設備へ給電する手段がある。 直流給電車による給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を第1.14.3図及び第1.14.4図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直流給電車 ・電源車 ・電源車～直流給電車～直流母線電路 ・軽油タンク ・軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース ・タンクローリ(4kL) 	<p>直流給電車及び電源車の組み合わせによる直流設備への給電で使用する設備は以下のとおり。単線結線図を図1.14.3及び図1.14.4に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車 ・直流給電車 ・燃料補給設備 	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
14	1.14.1(2)b.(c)	1.14-20	(c) 重大事故等対処設備と自主対策設備 所内蓄電式直流電源設備による給電で使用する設備のうち、直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2、AM用直流125V蓄電池、直流125V充電器A、直流125V充電器A-2、AM用直流125V充電器、 直流125V蓄電池及び充電器A～直流母線電路、直流125V蓄電池及び充電器A-2～直流母線電路及びAM用直流125V蓄電池及び充電器～直流母線電路 は重大事故等対処設備として位置付ける。 常設代替直流電源設備による給電で使用する設備のうち、AM用直流125V蓄電池、AM用直流125V充電器 及びAM用直流125V蓄電池及び充電器～直流母線電路 は重大事故等対処設備として位置付ける。 可搬型直流電源設備による給電で使用する設備のうち、電源車、AM用直流125V充電器、 電源車～緊急用電源切替箱接続装置～AM用直流125V充電器～直流母線電路、電源車～AM用動力変圧器～AM用直流125V充電器～直流母線電路、軽油タンク、軽油タンク出口ノズル・弁、ホース及びタンクローリ(4kL) は重大事故等対処設備として位置付ける。	(c)重大事故等対処設備と自主対策設備 所内蓄電式直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備のうち、直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2、AM用直流125V蓄電池、直流125V充電器A、直流125V充電器A-2、AM用直流125V充電器は重大事故等対処設備として位置づける。 常設代替直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備のうち、AM用直流125V蓄電池及びAM用直流125V充電器は重大事故等対処設備として位置づける。 可搬型直流電源設備による直流設備への給電で使用する設備のうち、電源車、緊急用電源切替箱断路器、緊急用電源切替箱接続装置、AM用動力変圧器、AM用MCC、AM用切替盤、AM用直流125V充電器及び燃料補給設備は重大事故等対処設備として位置づける。 設計基準事故対処設備である直流125V蓄電池B、直流125V蓄電池C、直流125V充電器B及び直流125V充電器Cは重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置づける。	⑤
15	1.14.1(2)b.(c)	1.14-21	・電源車(荒浜側緊急用高圧母線に接続する場合) 容量が小さく、電路の耐震性は確保されていないが、 建屋近傍以外の箇所に電源車を接続して直流電源を確保する手段として有効である。	・電源車(緊急用高圧母線経由) 容量が小さく、給電対象設備が限定されるが、第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機による給電ができない場合において、事故対応に必要な電源を確保するための手段として有効である。	⑤
16	1.14.1(2)c.(b)	1.14-23	・荒浜側緊急用高圧母線を経由する電路、大湊側緊急用高圧母線を経由する電路 耐震性は確保されていないが、 健全性が確認できた場合は第一ガスタービン発電機と同等の機能を有する第二ガスタービン発電機を使用した給電が可能となることから、重大事故等の対処に必要な電源を確保するための手段として有効である。	・大湊側緊急用高圧母線 耐震性は確保されていないが、緊急用高圧母線と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、事故対応時に必要な電源を確保するための手段として有効である。	② (第二GTGの自主化) ⑤
17	1.14.1(2)d.(a)	1.14-23,24	重大事故等の対処で使用する設備を必要な期間継続して運転させるため、燃料補給設備により給油する手段がある。 燃料補給設備による給油で使用する設備は以下のとおり。 ・軽油タンク ・ 軽油タンク出口ノズル・弁 ・ホース ・タンクローリ(16kL) ・タンクローリ(4kL)	外部電源喪失及び非常用ディーゼル発電機の故障により、第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機、電源車等を使用して事故対応を行う場合には、それらの設備を必要な期間継続運転させるため、燃料補給設備により各設備へ給油する手段がある。 燃料補給設備による給油で使用する設備は以下のとおり。 ・軽油タンク ・タンクローリ(16kL) ・タンクローリ(4kL)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
18	1.14.1(2)d.(b)	1.14-24	(b) 重大事故等対処設備と自主対策設備 燃料補給設備による給油で使用する設備うち、軽油タンク、軽油タンク出口ノズル・弁、ホース、タンクローリ(16kL)及びタンクローリ(4kL)は重大事故等対処設備として位置付ける。	(b)重大事故等対処設備 燃料補給設備による給油で使用する設備うち、軽油タンク、タンクローリ(16kL)及びタンクローリ(4kL)は重大事故等対処設備として位置づける。 設計基準事故対処設備である燃料移送ポンプ及び非常用ディーゼル発電機用燃料移送系配管・弁は重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置づける。	⑤
19	1.14.1(2)e.	1.14-25	これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書(徴候ベース)(以下「EOP」という。)、事故時運転操作手順書(停止時徴候ベース)(以下「停止時EOP」という。)、AM設備別操作手順書及び多様なハザード対応手順に定める(第1.14.1表)。	これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書(事象ベース)(以下、「AOP」という。)、事故時運転操作手順書(徴候ベース)(以下、「EOP」という。)及び多様なハザード対応手順に定める(表1.14.1)	⑤
20	1.14.2.1(1)a.	1.14-27	第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機による給電ができず、号炉間電力融通ケーブルを使用した電力融通ができない場合は、荒浜側緊急用M/Cを経由した回路が健全であれば、電源車(荒浜側緊急用M/C経由)による給電を行う。 代替交流電源設備によるM/C C系及びM/C D系への給電の優先順位は以下のとおり。 1.第一ガスタービン発電機 2.第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由) 3.第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由) 4.号炉間電力融通ケーブル(常設) 5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型) 6.電源車(荒浜側緊急用M/C経由) 7.電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続) 8.電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続) なお、優先4及び優先5の手順については「c. 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電」にて、優先7及び優先8の手順については「b. 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電」にて整備する。 また、上記給電を継続するために第一ガスタービン発電機用燃料タンク、第二ガスタービン発電機用燃料タンク及び電源車への燃料補給を実施する。燃料の補給手順については、「1.14.2.4 燃料の補給手順」にて整備する。	第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機(緊急用M/C 経由及び大湊側緊急用M/C 経由)による給電ができない場合は、緊急用M/C を経由した回路が健全であれば、電源車(緊急用M/C 経由)による給電を行う。 給電元の優先順位は以下のとおり。 1.第一ガスタービン発電機 2.第二ガスタービン発電機(緊急用M/C 経由) 3.第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C 経由) 4.電源車(緊急用M/C 経由)	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
21	1.14.2.1(1)a. (a)	1.14-28	<p>(a) 手順着手の判断基準 [第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機の起動並びにM/C C系及びM/C D系受電準備開始の判断基準] 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合。 [第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)による給電の判断基準] 外部電源、非常用ディーゼル発電機及び第一ガスタービン発電機による給電ができない状況において、第二ガスタービン発電機の起動状態が正常であるが、荒浜側緊急用M/Cを経由した電路が使用できない場合。 [電源車(荒浜側緊急用M/C経由)による給電の判断基準] 外部電源、非常用ディーゼル発電機、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機及び炉間電力融通ケーブルによる給電ができない状況において、荒浜側緊急用M/Cを経由した電路が健全である場合。</p>	<p>(a)手順着手の判断基準 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機の起動判断基準外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合。 ・第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C 経由)による給電の判断基準外部電源及び非常用ディーゼル発電機による給電ができない場合並びに第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機(緊急用M/C 経由)による給電ができない場合で、第二ガスタービン発電機の起動状態が正常の場合。 ・電源車(緊急用M/C 経由)の起動判断基準 外部電源及び非常用ディーゼル発電機による給電ができない場合並びに第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機(緊急用M/C 経由)及び第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C 経由)による給電ができない場合で、緊急用M/C を経由した電路が健全である場合。 ・M/C C系及びM/C D系受電準備開始の判断基準 外部電源及び非常用ディーゼル発電機による給電ができず、M/C C系及びM/C D系の母線電圧が喪失している場合において、第一ガスタービン発電機又は第二ガスタービン発電機の起動準備を開始した場合。</p>	⑤
22	1.14.2.1(1)a. (b)	1.14-29	<p>③中央制御室運転員Aは、給電準備として第一ガスタービン発電機を起動し、当直副長に報告する。 ④緊急時対策要員は、第二ガスタービン発電機設置場所及び荒浜側緊急用M/C設置場所に到着後、外観点検により第二ガスタービン発電機及び電路の健全性を確認し、給電のための電路を構成する。 ⑤a第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 中央制御室運転員Bは、受電前準備としてM/C D系、P/C D系及びAM用MCCの負荷の遮断器を「切」とし、動的機器の自動起動防止のためコントロールスイッチ(以下「CS」という。)を「切」又は「切保持」とする。 ⑤b～d第二ガスタービン発電機又は電源車によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 中央制御室運転員A及びBは、受電前準備としてM/C D系、P/C D系、AM用MCC、M/C C系及びP/C C系の負荷の遮断器を「切」とし、動的機器の自動起動防止のためCSを「切」又は「切保持」とする。</p>	<p>③現場運転員E及びFは、第一ガスタービン発電機エリアに到着後、外観点検により第一ガスタービン発電機及び電路の健全性を確認し、緊急用断路器にてM/C D系、AM用MCC及びM/C C系への給電のための電路を構成する。 ④緊急時対策要員は、緊急用M/C及び第二ガスタービン発電機エリアに到着後、外観点検により第二ガスタービン発電機及び電路の健全性を確認し、給電のための電路を構成する。 ⑤中央制御室運転員A及びBは、受電前準備としてM/C D系、P/C D系、AM用MCC、M/C C系及びP/C C系の負荷の遮断器を「切」とし、動的負荷の自動起動防止のためコントロールスイッチ(以下、「CS」という。)を「切」又は「切保持」とする。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
23	1.14.2.1(1)a. (b)	1.14-30	<p>⑥a第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 現場運転員C及びDは、M/C D系及びP/C D系の受電前準備として、あらかじめ定められた負荷以外の遮断器を「切」とする。</p> <p>⑥b～d第二ガスタービン発電機又は電源車によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 現場運転員C及びDは、M/C D系、P/C D系及びAM用MCCの負荷抑制のため、あらかじめ定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/C D系の受電準備完了を報告する。</p> <p>⑦a第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 現場運転員E及びFは、M/C D系及びP/C D系の機器作動防止のため、あらかじめ定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/C D系の受電準備完了を報告する。</p> <p>⑦b～d第二ガスタービン発電機又は電源車によるM/C C系及びM/C D系受電の場合 現場運転員E及びFは、M/C C系、P/C C系の負荷抑制のため、あらかじめ定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/C C系の受電準備完了を報告する。</p>	<p>⑥現場運転員C及びDは、M/C D系、P/C D系及びAM用MCCの負荷抑制のため、予め定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/CD系の受電準備完了を報告する。</p> <p>⑦現場運転員E及びFは、第一ガスタービン発電機を起動後、M/C D系、AM用MCC及びM/C C系への給電準備完了を報告する。</p>	⑤
24	1.14.2.1(1)a. (b)	1.14-31	<p>⑪a中央制御室運転員Aは、第一ガスタービン発電機から給電するための遮断器を「入」とし、第一ガスタービン発電機から給電が開始されたことを当直副長に報告する。</p> <p>⑫a当直副長は、運転員にM/C D系の受電開始を指示する。</p> <p>⑬a現場運転員C及びDは、M/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器を「入」とし、M/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電操作を実施する。</p> <p>⑭a現場運転員C及びDは、外観点検によりM/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電状態に異常がないことを確認後、当直副長に報告する。</p> <p>⑮a中央制御室運転員Bは、受電前準備としてM/C C系及びP/C C系の負荷の遮断器を「切」とし、動的機器の自動起動防止のためCSを「切」又は「切保持」とする。</p> <p>⑯a現場運転員E及びFは、M/C C系、P/C C系の負荷抑制のため、あらかじめ定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/C C系の受電準備完了を報告する。</p>	<p>⑪a現場運転員E及びFは、M/C D系へ給電するための遮断器を「入」とし、M/C D系へ給電が完了したことを当直副長に報告する。</p> <p>⑫a当直副長は、運転員にM/C D系の受電開始を指示する。</p> <p>⑬a現場運転員C及びDは、M/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器を「入」とし、M/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電操作を実施する。</p> <p>⑭a現場運転員C及びDは、外観点検によりM/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電状態に異常が無いことを確認後、当直副長に報告し、M/C C系受電準備を開始する。</p> <p>⑮現場運転員C及びDは、M/C C系、P/C C系の負荷抑制のため、予め定められた負荷以外の遮断器を「切」とし、当直副長にM/C C系の受電準備完了を報告する。</p> <p>⑯当直副長は、運転員にM/C C系の受電開始を指示する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
25	1.14.2.1(1)a. (c)	1.14-37,38	<ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機による給電開始まで15分以内で可能である。 ・第一ガスタービン発電機によるM/C D系受電完了まで20分以内で可能である。 ・第一ガスタービン発電機によるM/C C系受電完了まで50分以内で可能である。 <p>また、6号及び7号炉がプラント停止中の運転員の体制においては、当直副長の指揮のもと1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機による給電開始まで25分以内で可能である。 ・第一ガスタービン発電機によるM/C D系受電完了まで30分以内で可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系への給電完了までは40分以内で可能である。 ・第一ガスタービン発電機によるM/C D系受電完了までは45分以内で可能である。 ・第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系受電完了までは75分以内で可能である。 <p>なお、6号及び7号炉が同時に全交流動力電源喪失した場合、6号炉の現場運転員2名が第一ガスタービン発電機の起動操作を行うことにより、7号炉のM/C C系及びM/C D系の受電前準備作業を現場運転員4名で対応することが可能となる。この場合、第一ガスタービン発電機による7号炉のM/C C系及びM/C D系受電完了までは50分以内で可能である。</p>	⑤
26	1.14.2.1(1)a. (c)	1.14-38	<p>優先2の第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了まで約75分で可能である。 ・第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C C系受電完了まで約80分で可能である。 	<p>優先2の第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系給電操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系への給電完了までは約45分で可能である。 ・第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了までは約50分で可能である。 ・第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電完了までは約80分で可能である。 	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
27	1.14.2.1(1)a. (c)	1.14-38,39	<p>優先3の第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了まで約85分で可能である。 ・第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C C系受電完了まで約90分で可能である。 <p>優先6の電源車(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了まで約95分で可能である。 ・電源車(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C C系受電完了まで約100分で可能である。 	<p>優先3の第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系給電操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了までは約65分で可能である。 ・第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電完了までは約95分で可能である。 <p>優先4の電源車(緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系給電操作は, 1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者), 現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源車(緊急用M/C経由)によるM/C D系受電完了までは約85分で可能である。 ・電源車(緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系受電完了までは約115分で可能である。 	⑤
28	1.14.2.1(1)b.	1.14-39,40	<p>b. 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電 外部電源, 非常用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル及び電源車(荒浜側緊急用M/C経由)によるM/C C系及びM/C D系への給電が見込めない場合, 電源車をP/C C系の動力変圧器の一次側又は緊急用電源切替箱接続装置に接続してP/C D系を受電し, 発電用原子炉及び使用済燃料プールの冷却, 原子炉格納容器内の冷却及び除熱に必要な設備の電源を確保する。P/C D系の受電完了後, P/C C系の受電操作を実施し, 直流125V充電器盤及び中央制御室監視計器へ交流電源を供給する。 また, 上記給電を継続するために電源車への燃料補給を実施する。燃料の補給手順については, 「1.14.2.4 燃料の補給手順」にて整備する。</p>	<p>b.電源車によるP/C C系及びP/C D系受電 外部電源, 非常用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機及び電源車(緊急用M/C経由)によるP/C C系及びP/C D系への給電が見込めない場合, 可搬型代替交流電源設備(電源車)をP/C C系の動力変圧器の一次側又は緊急用電源切替箱接続装置に接続し, P/C D系を受電し, 原子炉圧力容器及び使用済燃料プールの冷却, 原子炉格納容器の冷却及び除熱に必要な設備の電源を復旧する。P/C D系の受電完了後, P/C C系の受電操作を実施し, 直流125V充電器盤受電及び中操監視計器へ交流電源を供給する。</p>	⑤
29	1.14.2.1(1)b. (a)	1.14-40	<p>(a) 手順着手の判断基準 外部電源, 非常用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル及び電源車(荒浜側緊急用M/C経由)による給電ができない場合。</p>	<p>(a)手順着手の判断基準 外部電源, 非常用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機及び電源車(緊急用M/C経由)による給電ができない場合。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
30	1.14.2.1(1)b. (c)	1.14-45	(c) 操作の成立性 優先7の電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)によるP/C C系及びP/C D系受電操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)によるP/C C系及びP/C D系受電完了まで約5時間40分で可能である。 優先8の電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)によるP/C C系及びP/C D系受電操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)によるP/C C系及びP/C D系受電完了まで約4時間45分で可能である。	(c)操作の成立性 優先1.のP/C C系動力変圧器の一次側に接続による給電操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名、中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(動力変圧器一次側に接続の場合)によるP/C C系及びP/C D系受電までは約6時間25分で可能である。 優先2.の緊急用電源切替箱接続装置に接続による給電操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名、中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続の場合)によるP/C C系及びP/C D系受電までは約4時間40分で可能である。	⑤
31	1.14.2.1(1)c.	1.14-46	c. 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電 当該号炉で外部電源、非常用ディーゼル発電機、第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機による給電ができない場合において、号炉間電力融通ケーブル(常設)又は号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用して他号炉の緊急用電源切替箱断路器から当該号炉のM/C C系又はM/C D系までの電路を構成し、他号炉から給電することにより、発電用原子炉及び使用済燃料プールの冷却、原子炉格納容器内の冷却及び除熱に必要な設備の電源を復旧する。 また、他号炉で全交流動力電源が喪失し、当該号炉の電源が確保されている場合は、同様の手段により当該号炉から他号炉へ給電することが可能である。 なお、コントロール建屋内に配備する号炉間電力融通ケーブル(常設)が使用できない場合は、荒浜側高台保管場所に配備する号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用して電力融通を行う。	(2)電力融通による給電 a.号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 当該号炉が外部電源、非常用ディーゼル発電機、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機及び電源車による給電ができない場合において、号炉間電力融通ケーブルを用いて他号炉の緊急用電源切替箱断路器から当該号炉のM/C C系又はM/C D系までの電路を構成し、他号炉から給電することにより、原子炉圧力容器及び使用済燃料プールの冷却、原子炉格納容器の冷却及び除熱に必要な設備の電源を復旧する。 また、他号炉で全交流動力電源が喪失し、当該号炉の電源が確保されている場合においても、同様の手段により当該号炉から他号炉へ給電することが可能である。	⑤
32	1.14.2.1(1)c. (b)	1.14-47	(b) 操作手順 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電手順の概要は以下のとおり。手順の対応フローを第1.14.5図及び第1.14.6図に、概要図を第1.14.15図に、タイムチャートを第1.14.16図に示す。 【優先4.号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用したM/C C系又はM/C D系受電の場合】 【優先5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用したM/C C系又はM/C D系受電の場合】	(b)操作手順(当該号炉で全交流動力電源が喪失し、他号炉の非常用ディーゼル発電機A系から号炉間電力融通ケーブルを用いて当該号炉のM/C C系又はM/C D系へ給電する場合) 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通手順の概要は以下のとおり。手順の対応フローを図1.14.5に、概要図を図1.14.14に、タイムチャートを図1.14.15に示す。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
33	1.14.2.1(1)c. (b)	1.14-49	⑦a号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用する場合 緊急時対策要員は、当該号炉及び他号炉の緊急用電源切替箱断路器間に号炉間電力融通ケーブル(常設)を敷設する。 ⑦b号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用する場合 緊急時対策要員は、当該号炉及び他号炉の緊急用電源切替箱断路器間に号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を敷設する。	⑦緊急時対策要員は、当該号炉及び他号炉の緊急用電源切替箱断路器間に号炉間電力融通ケーブルを敷設する。	⑤
34	1.14.2.1(1)c. (c)	1.14-50,51	(c) 操作の成立性 上記の操作は、当該号炉及び他号炉の中央制御室運転員各2名(操作者及び確認者)の計4名、当該号炉の現場運転員2名、他号炉の現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。 ・優先4のコントロール建屋(緊急用電源切替箱断路器近傍)の号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用する場合、M/C C系又はM/C D系の受電完了まで約1時間55分で可能である。 ・優先5の屋外(荒浜側高台保管場所)の号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用する場合、M/C C系又はM/C D系の受電完了まで約4時間5分で可能である。 なお、号炉間電力融通ケーブルについては、コントロール建屋(緊急用電源切替箱断路器近傍)と屋外(荒浜側高台保管場所)に配備されており、円滑に6号及び7号炉間にケーブルを敷設することが可能である。	(c)操作の成立性 上記の操作は、当該号炉及び他号炉それぞれ中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)の計4名、現場運転員6名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。 ・屋外(荒浜側の緊急用M/C近傍)のケーブルを使用する場合、M/C C系又はM/C D系の受電完了までは約3時間35分で可能である。 ・コントロール建屋(緊急用電源切替箱断路器近傍)のケーブルを使用する場合、M/C C系又はM/C D系の受電完了までは約2時間5分で可能である。 なお、号炉間電力融通ケーブルについては、コントロール建屋(緊急用電源切替箱断路器近傍)と屋外(荒浜側の緊急用M/C近傍)に配備されており、円滑に6号及び7号炉間にケーブルを敷設することが可能である。	⑤
35	1.14.2.2(1)a.	1.14-51	1.14.2.2 代替電源(直流)による対应手順 (1)代替直流電源設備による給電 a. 所内蓄電式直流電源設備による給電 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル及び電源車による交流電源の復旧ができない場合、直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池から、24時間以上にわたり直流母線へ給電する。 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失後、充電器を経由した直流母線(直流125V主母線盤)への給電から、直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池B、直流125V蓄電池C及び直流125V蓄電池Dによる直流母線(直流125V主母線盤)への給電に自動で切り替わることを確認する。	1.14.2.2 交流電源及び直流電源喪失時の対应手順 (1)代替直流電源設備による給電 a. 所内蓄電式直流電源設備による給電 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備による交流電源の復旧ができない場合、直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池により、24時間以上にわたり直流電源母線へ給電する。 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失後、直流125V蓄電池A及び直流125V蓄電池Bにより直流電源母線(直流125V主母線盤)へ自動で給電されることを確認する	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
36	1.14.2.2(1)a.	1.14-52	所内蓄電式直流電源設備から直流母線へ給電している24時間以内に、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車によりP/C C系及びP/C D系を受電し、その後、直流125V充電器盤A、直流125V充電器盤B、直流125V充電器盤A-2、AM用125V充電器盤を受電して直流電源の機能を回復させる。なお、蓄電池を充電する際は水素ガスが発生するため、蓄電池室の換気を確保した上で蓄電池の回復充電を実施する。また、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車によるP/C C系及びP/C D系を受電完了後は、中央制御室監視計器C系及びD系の復旧を行う。	24時間以内に常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備によりP/C C系及びP/C D系を受電完了後、直流125V充電器盤A、直流125V充電器盤B、直流125V充電器盤A-2、AM用125V充電器盤を受電し直流電源の機能を回復させる。蓄電池は充電時に水素ガスが発生するため、蓄電池室の換気を確保した上で、蓄電池の回復充電を実施する。また、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備によりP/C C系及びP/C D系を受電完了後、中操監視計器C系及びD系の復旧を行う。	⑤
37	1.14.2.2(1)a. (a)	1.14-52	(a) 手順着手の判断基準 [直流125V蓄電池A、直流125V蓄電池B、直流125V蓄電池C及び直流125V蓄電池Dによる給電の判断基準] 全交流動力電源喪失により、直流125V充電器A、直流125V充電器B、直流125V充電器C及び直流125V充電器Dの交流入力電源の喪失が発生した場合。	・直流125V蓄電池A及び直流125V蓄電池Bからの給電の判断基準 全交流動力電源喪失により、直流125V充電器A及び直流125V充電器Bの交流入力電源の喪失が発生した場合。	⑤
38	1.14.2.2(1)a. (a)	1.14-52,53	[直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切り替えの判断基準] 全交流動力電源喪失後、8時間以内に第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル若しくは電源車による給電操作が完了する見込みがない場合又は直流125V蓄電池Aの電圧が放電電圧の最低値を下回る可能性がある場合。	・直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切り替えの判断基準 全交流動力電源喪失後、直流125V蓄電池Aから直流電源母線への給電が8時間以上になると予測される場合。	⑤
39	1.14.2.2(1)a. (a)	1.14-53	[直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切り替えの判断基準] 全交流動力電源喪失後、19時間以内に第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル若しくは電源車による給電操作が完了する見込みがない場合又は直流125V蓄電池A-2の電圧が放電電圧の最低値を下回る可能性がある場合。	・直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切り替えの判断基準 直流125V蓄電池A-2により直流電源母線へ給電されている状態で、全交流動力電源喪失から19時間以上の給電が予想される場合。	⑤
40	1.14.2.2(1)a. (a)	1.14-53	[直流125V充電器盤A、B、A-2、AM用直流125V充電器盤の受電及び中央制御室監視計器C系及びD系の復旧の判断基準] 全交流動力電源喪失時に、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車による給電により、P/C C系及びP/C D系の受電が完了している場合。	・直流125V充電器盤A、B、A-2、AM用直流125V充電器盤受電及び中操監視計器C系及びD系の復旧の判断基準 全交流動力電源喪失時に、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電により、P/C C系及びP/C D系の受電が完了している場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-53,54	<p>(b) 操作手順 所内蓄電式直流電源設備による給電手順の概要は以下のとおり。手順の対応フローを第1.14.5図及び第1.14.6図に、概要図を第1.14.17図から第1.14.20図、に、タイムチャートを第1.14.21図から第1.14.26図に示す。なお、直流125V蓄電池B、直流125V蓄電池C及び直流125V蓄電池Dによる給電手順については、「1.14.2.5(2) 非常用直流電源設備による給電」にて整備する。 ①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に直流125V蓄電池Aによる給電が開始されたことの確認を指示する。 ②中央制御室運転員Aは、直流125V充電器Aによる給電が停止したことをM/C C系電圧にて確認し、直流125V蓄電池Aによる給電が開始され、直流125V主母線盤A電圧指示値が規定電圧であることを確認する。 ③当直副長は、全交流動力電源喪失から8時間経過するまでに切替えを完了するよう、運転員に直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替えを指示する。なお、直流125V蓄電池Aの電圧が放電電圧の最低値を下回る可能性がある場合は、経過時間によらず、直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替えを指示する。</p>	<p>(b)操作手順 所内蓄電式直流電源設備による給電手順の概要は以下のとおり。手順の対応フローを図1.14.5に、概要図を図1.14.16～19、に、タイムチャートを図1.14.20～25に示す。 ①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に直流125V蓄電池Aからの給電が開始されたことの確認を指示する。 ②現場運転員C及びDは、直流125V充電器Aによる給電が停止したことを直流125V充電器A「蓄電池放電中」警報にて確認し、直流125V蓄電池Aによる給電が開始され、直流125V充電器盤A蓄電池電圧指示値が規定電圧であることを確認する。 ③当直副長は、全交流動力電源喪失から8時間経過するまでに切替えを完了するよう、運転員に直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切り替えを指示する。</p>	⑤
42	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-54	<p>⑤現場運転員C及びDは、全交流動力電源喪失から8時間経過するまでに、直流125V蓄電池Aによる給電から直流125V蓄電池A-2による給電への切替え操作を実施後、コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分I室(非管理区域)の直流125V充電器盤A-2蓄電池電圧指示値が規定電圧であることを確認し、切替え完了を当直副長に報告する。</p>	<p>⑤現場運転員C及びDは、全交流動力電源喪失から8時間経過するまでに、直流125V蓄電池Aによる給電から直流125V蓄電池A-2による給電への切り替え操作を実施後、直流125V充電器盤A-2蓄電池電圧指示値が規定電圧であることを確認し、切り替え完了を当直副長に報告する。</p>	⑤
43	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-55	<p>⑧当直副長は、全交流動力電源喪失から19時間経過するまでに切替えを完了するよう、運転員に直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切替えを指示する。なお、直流125V蓄電池A-2電圧が放電電圧の最低値を下回る可能性がある場合は、経過時間によらず、直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切替えを指示する。</p>	<p>⑧当直副長は、全交流動力電源喪失から19時間経過するまでに切替えを完了するよう、運転員に直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切り替えを指示する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
44	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-55,56	<p>⑩現場運転員C及びDは、全交流動力電源喪失から19時間経過するまでに、AM用直流125V充電器盤内の遮断器を「入」操作し、直流125V蓄電池A-2による給電からAM用直流125V蓄電池による給電への切替え操作を実施する。原子炉建屋地上4階北側通路(非管理区域)のAM用直流125V充電器盤蓄電池電圧指示値が規定電圧であることを確認し、切替え完了を当直副長に報告する。</p> <p>⑪中央制御室運転員A及びBは、原子炉隔離時冷却系を再起動する。</p> <p>⑫当直副長は、蓄電池による給電開始から24時間経過するまでに第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車によるP/C C系及びP/C D系の受電が完了したことを確認し、運転員に交流電源による直流125V充電器盤の受電開始を指示する。</p> <p>⑬a直流125V充電器盤A受電の場合 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、他号炉の非常用ディーゼル発電機又は電源車の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機及び直流125V充電器盤Aが使用可能か確認する。</p>	<p>⑩現場運転員C及びDは、全交流動力電源喪失から19時間経過するまでに、AM用直流125V充電器盤の負荷開閉器を「入」操作し、直流125V蓄電池A-2による給電からAM用直流125V蓄電池による給電への切り替え操作を実施する。AM用直流125V充電器盤蓄電池電圧指示値が規定電圧であることを確認し、切り替え完了を当直副長へ報告する。</p> <p>⑪中央制御室運転員A及びBは、原子炉隔離時冷却系を再起動する。</p> <p>⑫当直副長は、蓄電池による給電開始から24時間以内に、常設代替交流電源設備又は可搬型交流電源設備によりP/C C系及びP/C D系の受電完了後、運転員に交流電源による直流125V充電器盤受電開始を指示する。</p> <p>⑬a直流125V充電器盤Aの場合(⑬a～⑬a) 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ常設代替交流電源設備又は可搬型交流電源設備の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機及び直流125V充電器盤Aが使用可能か確認する。</p>	⑤
45	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-57	<p>⑰a現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤Aの充電器運転開閉器を「入」操作し、コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分Ⅰ室(非管理区域)の直流125V充電器盤A充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。</p>	<p>⑰a現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤Aの充電器運転開閉器を「入」操作し、直流125V充電器盤A充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。</p>	⑤
46	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-57,58	<p>⑬b直流125V充電器盤B受電の場合 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、他号炉の非常用ディーゼル発電機又は電源車の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(B)排風機及び直流125V充電器盤Bが使用可能か確認する。</p>	<p>⑬b直流125V充電器盤Bの場合(⑬b～⑬b) 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ常設代替交流電源設備又は可搬型交流電源設備の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(B)排風機及び直流125V充電器盤Bが使用可能か確認する。</p>	⑤
47	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-58	<p>⑰b現場運転員C及びDは直流125V充電器盤Bの充電器運転開閉器を「入」操作し、コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分Ⅱ室(非管理区域)の直流125V充電器盤B充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。</p>	<p>⑰b現場運転員C及びDは直流125V充電器盤Bの充電器運転開閉器を「入」操作し、直流125V充電器盤B充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
48	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-59	⑬c直流125V充電器盤A-2受電の場合 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に 第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、他号炉の非常用ディーゼル発電機 又は 電源車 の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機及び直流125V充電器盤A-2が使用可能か確認する。	⑬c直流125V充電器盤A-2の場合(⑬c～⑰c) 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ常設代替交流電源設備又は可搬型交流電源設備の負荷容量確認を依頼し、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機及び直流125V充電器盤A-2が使用可能か確認する。	⑤
49	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-59	⑰c現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤A-2の充電器運転開閉器を「入」操作し、 コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分I室(非管理区域) の直流125V充電器盤A-2充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。	⑰c現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤A-2の充電器運転開閉器を「入」操作し、直流125V充電器盤A-2充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。 直流125V充電器盤A-2受電完了後、中操監視計器の復旧操作を実施する。 操作手順については、「直流125V充電器盤Aの場合」の操作手順⑰～⑳と同様である。	⑤
50	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-60	⑬dAM用直流125V充電器盤受電の場合 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に 第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、他号炉の非常用ディーゼル発電機 又は 電源車 の負荷容量確認を依頼し、D/G(A)/Z排風機及びAM用直流125V充電器盤が使用可能か確認する。	⑬dAM用直流125V充電器盤の場合(⑬d～⑰d) 当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ常設代替交流電源設備又は可搬型交流電源設備の負荷容量確認を依頼し、D/G(A)/Z排風機及びAM用直流125V充電器盤が使用可能か確認する。	⑤
51	1.14.2.2(1)a. (b)	1.14-60	⑰d現場運転員C及びDは、AM用直流125V充電器盤の充電器運転開閉器を「入」操作し、 原子炉建屋地上4階北側通路(非管理区域) のAM用直流125V充電器盤充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。 AM用直流125V充電器盤受電完了後、中央制御室監視計器の復旧操作を実施する。	⑰d現場運転員C及びDは、AM用直流125V充電器盤の充電器運転開閉器を「入」操作し、AM用直流125V充電器盤充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。 操作手順については、「直流125V充電器盤Aの場合」の操作手順⑰～⑳と同様である。	⑤
52	1.14.2.2(1)a. (c)	1.14-61	直流125V蓄電池による給電は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名にて 直流母線(直流125V主母線盤) へ自動で給電されることを確認する。中央制御室での電圧確認であるため、速やかに対応できる。	—	⑤
53	1.14.2.2(1)b.	1.14-62	また、上記給電を継続するために電源車への燃料補給を実施する。燃料の補給手順については、「1.14.2.4 燃料の補給手順」にて整備する。	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
54	1.14.2.2(1)b. (a)	1.14-62	(a) 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失後, 24時間以内に第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル又は電源車による給電操作が完了する見込みがない場合。	(a)手順着手の判断基準 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失時,直流125V蓄電池A, 直流125V蓄電池A-2, AM用直流125V蓄電池の機能が喪失すると予測される場合。	⑤
55	1.14.2.2(1)b. (b)	1.14-64	⑩現場運転員C及びDは, AM用直流125V充電器盤の充電器運転開閉器を「入」操作し, 原子炉建屋地上4階北側通路(非管理区域)のAM用直流125V充電器盤充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。	⑩現場運転員C及びDは, AM用直流125V充電器盤の充電器運転開閉器を「入」操作し, AM用直流125V充電器盤充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。	⑤
56	1.14.2.2(1)b. (c)	1.14-65	優先1の電源車(荒浜側緊急用M/C経由)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了まで約3時間55分で可能である。 優先2の電源車(AM用動力変圧器に接続)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了まで約7時間35分で可能である。 優先3の電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了まで約6時間50分で可能である。	優先1.の可搬型直流電源設備(緊急用M/C経由)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了までは約3時間45分で可能である。 優先2.の可搬型直流電源設備(AM動力変圧器)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了までは約8時間35分で可能である。 優先3.の可搬型直流電源設備(緊急用電源切替箱接続装置)によるAM用直流125V充電器盤の受電完了までは約6時間40分で可能である。	⑤
57	1.14.2.2(1)c.	1.14-65	また, 上記給電を継続するために電源車への燃料補給を実施する。燃料の補給手順については, 「1.14.2.4 燃料の補給手順」にて整備する。	-	⑤
58	1.14.2.2(1)c. (a)	1.14-66	(a) 手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失後, 24時間以内に第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル又は電源車による給電操作が完了する見込みがない場合において, 可搬型直流電源設備による給電ができない場合。	(a)手順着手の判断基準 全交流動力電源喪失時,直流125V蓄電池A, 直流125V蓄電池A-2及びAM用直流125V蓄電池の機能が喪失すると予測される場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	1.14.2.2(1)c. (b)	1.14-66	①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電準備開始を指示する。 ②当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部に直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電準備開始を依頼する。 ③緊急時対策本部は、緊急時対策要員に直流給電車による非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電開始を指示する。 ④現場運転員C及びDは、直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電前準備のため非常用直流母線(直流125V主母線盤A)の負荷の遮断器を「切」とし、当直副長に非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電前準備完了を報告する。	①緊急時対策本部は、手順着手の判断基準に基づき、緊急時対策要員に直流給電車による非常用直流母線(直流125V主母線盤A)給電開始を指示する。 ②緊急時対策要員は、コントロール建屋に到着後、電路の健全性確認を行う。 ③緊急時対策要員は、直流給電車から非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電準備として直流電路の回路構成、電源車及び直流給電車の起動準備を行い、緊急時対策本部に起動準備完了を報告する。 ④緊急時対策本部は、緊急時対策要員に電源車の起動及び直流給電車による非常用直流母線(直流125V主母線盤A)給電開始を指示する。	⑤
60	1.14.2.2(1)c. (b)	1.14-67	⑨現場運転員C及びDは、外観点検により非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電状態に異常がないことを確認後、当直副長に報告する。 ⑩中央制御室運転員Bは、非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電が開始されたことを直流125V主母線盤A電圧指示値の上昇により確認するとともに、当直副長に報告する。	-	⑤
61	1.14.2.2(1)c. (c)	1.14-67,68	(c) 操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電完了まで約12時間10分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	(c)操作の成立性 上記の操作は、1ユニット当たり緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから直流給電車による直流125V主母線盤A給電までは約12時間で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。	⑤
62	1.14.2.2(2)a. (a)	1.14-68	(a) 手順着手の判断基準 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失時、AM用直流125V蓄電池の電圧が規定電圧である場合で、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車によるM/C C系への給電が可能となった場合。	(a)手順着手の判断基準 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失時、AM用直流125V蓄電池にて直流電源母線へ給電している場合で、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備によるM/C C系への給電が可能となった場合。	⑤
63	1.14.2.2(2)a. (b)	1.14-69	⑥現場運転員C及びDは、原子炉建屋地上4階北側通路(非管理区域)のAM用直流125V充電器盤蓄電池電圧指示値を確認する。	⑥現場運転員C及びDは、AM用直流125V充電器盤蓄電池電圧指示値を確認する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
64	1.14.2.2(2) b.	1.14-70	b. 常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電外部電源, 非常用ディーゼル発電機及び常設直流電源喪失後, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル又は電源車 による給電が可能な場合, M/C D系を受電後, 直流125V充電器盤Bから直流125V主母線盤Bへ給電し, 遮断器の制御電源を確保する。	b.常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電外部電源, 非常用ディーゼル発電機及び常設直流電源喪失後, 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備による給電が可能な場合M/C D系を受電し, 直流125V充電器盤Bにより, 直流125V主母線盤Bへの給電を実施し, 遮断器用制御電源を確保する。	⑤
65	1.14.2.2(2) b.	1.14-71	1.第一ガスタービン発電機 2.第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由) 3.第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由) 4.号炉間電力融通ケーブル(常設) 5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型) 6.電源車(荒浜側緊急用M/C経由) 7.電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続) 8.電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)	給電元の優先順位は以下のとおり。 1.第一ガスタービン発電機 2.第二ガスタービン発電機(緊急用M/C 経由) 3.第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C 経由) 4.電源車(緊急用M/C 経由) 5.電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続) 6.電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)	⑤
66	1.14.2.2(2) b.(a)	1.14-71	(a) 手順着手の判断基準 直流125V主母線盤Bの電圧が喪失した場合で, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル又は電源車のいずれかの 手段によるM/C D系への給電のための電路構成, M/C D系受電前準備及び起動操作が完了している場合。	(a)手順着手の判断基準 直流125V主母線盤Bの電圧が喪失した場合で, 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備のいずれかの手段によるM/C D系への給電のための電路構成及び起動操作が完了している場合。	⑤
67	1.14.2.2(2) b.(b)	1.14-75	[優先4.号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用した直流125V主母線盤B受電の場合] ④d当該号炉の当直副長は, 号炉間電力融通ケーブル(常設)による電力融通が可能な場合は, 当該号炉及び他号炉の運転員にM/C D系への電力融通開始を指示する。 ⑤d他号炉の現場運転員c及びdは, M/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器を「入」とし, 号炉間電力融通ケーブル(常設)による電力融通を開始する。 ⑥d当該号炉の現場運転員C及びDは, 外観点検によりM/C D系, P/C D系, MCC D系及びAM用MCCの受電状態に異常がないことを確認後, 当該号炉の当直副長に報告する。 ⑦d当該号炉の現場運転員C及びDは, 直流125V充電器盤Bを受電するためのMCCを「入」とし, 直流125V充電器盤Bの運転を開始する。 ⑧d当該号炉の中央制御室運転員Bは, 直流125V主母線盤Bが受電されたことを直流125V主母線盤B電圧指示値が規定電圧であることにより確認する。	(優先4.電源車(緊急用M/C 経由)による直流125V 主母線盤B 給電の場合) ④d 当直長は, 当直副長からの依頼に基づき, 電源車(緊急用M/C 経由)による給電が可能な場合は, 緊急時対策本部にM/C D 系の受電開始を依頼する。 ⑤d 緊急時対策要員は, 電源車(緊急用M/C 経由)によりM/C D 系へ給電するための遮断器を「入」とし, 電源車(緊急用M/C 経由)から給電が完了したことを緊急時対策本部に報告する。 ⑥d 現場運転員C 及びD は, 外観点検によりM/C D 系, P/C D 系, MCCD 系及びAM 用MCC の受電状態に異常が無いことを確認後, 当直副長に報告する。 ⑦d 現場運転員C 及びD は, 直流125V 充電器盤B を受電するためのMCC を「入」とし, 直流125V 充電器盤B の運転を開始する。 ⑧d 中央制御室運転員B は, 直流125V 主母線盤B 電圧により直流125V主母線盤B が受電されたことを確認する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
68	1.14.2.2(2) b.(b)	1.14-75,76	<p>[優先5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用した直流125V主母線盤B受電の場合]</p> <p>④e当該号炉の当直副長は、号炉間電力融通ケーブル(可搬型)による電力融通が可能な場合は、当該号炉及び他号炉の運転員にM/C D系への電力融通開始を指示する。</p> <p>⑤e他号炉の現場運転員c及びdは、M/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器を「入」とし、号炉間電力融通ケーブル(可搬型)による電力融通を開始する。</p> <p>⑥e当該号炉の現場運転員C及びDは、外観点検によりM/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電状態に異常がないことを確認後、当該号炉の当直副長に報告する。</p> <p>⑦e当該号炉の現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤Bを受電するためのMCCを「入」とし、直流125V充電器盤Bの運転を開始する。</p> <p>⑧e当該号炉の中央制御室運転員Bは、直流125V主母線盤Bが受電されたことを直流125V主母線盤B電圧指示値が規定電圧であることにより確認する。</p>	<p>(優先5.電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)による直流125V④e当直副長は、運転員にM/C C系の電路構成に伴う遮断器制御電源復旧操作のため、直流125V主母線盤Aの受電操作開始を指示する。直流125V主母線盤Aの受電操作手順については、「1.14.2.2(2)a.AM用直流125V蓄電池による直流125V主母線盤A受電」の操作手順と同様である。</p> <p>⑤e当直副長は、運転員に電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)によるM/C D系給電前の電路を構成するよう指示する。</p> <p>⑥e中央制御室運転員A及びBは、M/C D系給電前の電路を構成し、当直副長にM/C D系受電準備完了を報告する。</p> <p>⑦e当直長は、当直副長からの依頼に基づき、電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)による給電が可能な場合は、緊急時対策本部にM/C D系の受電開始を依頼する。</p> <p>⑧e緊急時対策委員は、電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)によりM/C D系へ給電するための遮断器を「入」とし、電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)から給電が完了したことを緊急時対策本部に報告する。</p> <p>⑨e現場運転員C及びDは、外観点検によりM/C D系、P/C D系、MCC D系及びAM用MCCの受電状態に異常が無いことを確認後、当直副長に報告する。</p> <p>⑩e現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤Bを受電するためのMCCを「入」とし、直流125V充電器盤Bの運転を開始する。</p> <p>⑪e中央制御室運転員Bは、直流125V主母線盤B電圧により直流125V主母線盤Bが受電されたことを確認する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
69	1.14.2.2(2) b.(b)	1.14-79,80	<p>(c) 操作の成立性 上記優先1の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)及び現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから第一ガスタービン発電機による直流125V主母線盤B受電完了まで約40分で可能である。 上記優先2、3、6、8の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由)、第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)、電源車(荒浜側緊急用M/C経由)又は電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)による直流125V主母線盤B受電完了まで約40分で可能である。 上記優先4、5の操作は、当該号炉の中央制御室運転員1名、当該号炉の現場運転員2名及び他号炉の現場運転員2名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから号炉間電力融通ケーブル(常設)又は号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用した直流125V主母線盤B受電完了まで約40分で可能である。 上記優先7の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)による直流125V主母線盤B受電完了まで約1時間20分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	<p>(c)操作の成立性 上記優先1.の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名及び現場運転員4名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから第一ガスタービン発電機による直流125V主母線盤B受電完了までは約30分で可能である。 上記優先2～4、6.の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員1名、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してからの所要時間は以下のとおり。 優先2、3.の第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)、第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)による直流125V主母線盤B受電完了までは約30分で可能である。 優先4、6.の電源車(緊急用M/C経由)、電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)による直流125V主母線盤B受電完了までは約30分で可能である。 上記優先5.の操作は、1ユニット当たり中央制御室運転員2名(操作者及び確認者)、現場運転員2名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合、作業開始を判断してから電源車(P/C C系動力変圧器の一次側に接続)による直流125V主母線盤B受電完了までは約1時間05分で可能である。 円滑に作業できるように、移動経路を確保し、放射線防護具、照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	⑤
70	1.14.2.2(3)a. (a)	1.14-81	<p>(a) 手順着手の判断基準 直流電源の喪失により非常用ディーゼル発電機が起動できず、外部電源、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル及び電源車による給電が不可能な状況において、他号炉のP/C C系又はP/C D系の電圧が正常で他号炉のMCC C系又はMCC D系からの給電が可能である場合。</p>	<p>(a)手順着手の判断基準 当該号炉の外部電源、非常用ディーゼル発電機、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機及び電源車による給電が不可能な状況において、他号炉の非常用ディーゼル発電機A系又はB系から給電が可能である場合。</p>	⑤
71	1.14.2.2(3)a. (b)	1.14-81	<p>他号炉のMCC C系又はMCC D系から号炉間連絡ケーブルを使用して当該号炉の直流125V主母線盤A又は直流125V主母線盤Bを受電する操作手順を示す。</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
72	1.14.2.2(3)a. (b)	1.14-82,83	⑦現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤A又は直流125V充電器盤Bの充電器へ給電するための遮断器を「入」とし、 コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分Ⅰ室(非管理区域) の直流125V充電器盤A充電器電圧指示値又は コントロール建屋地下1階計測制御電源盤区分Ⅱ室(非管理区域) の直流125V充電器盤B充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。	⑦現場運転員C及びDは、直流125V充電器盤A又は直流125V充電器盤Bの充電器へ給電するための遮断器を「入」とし、直流125V充電器盤A充電器電圧指示値又は直流125V充電器盤B充電器電圧指示値が規定電圧であることを確認する。	⑤
73	1.14.2.3(1)a.	1.14-84	a. 第一ガスタービン発電機,第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル 又は電源車によるAM用MCC受電 非常用所内電気設備であるM/C C系及びM/C D系が機能喪失した場合に、 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル 又は 電源車 から代替所内電気設備へ給電することで、 発電用原子炉の冷却,原子炉格納容器内の冷却及び除熱に必要となる設備の電源を復旧する。 代替交流電源設備によるAM用MCCへの給電の優先順位は以下のとおり。 1.第一ガスタービン発電機 2.第二ガスタービン発電機(荒浜側緊急用M/C経由) 3.第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由) 4.号炉間電力融通ケーブル(常設) 5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型) 6.電源車(荒浜側緊急用M/C経由) 7.電源車(AM用動力変圧器に接続) 8.電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)	a.第一ガスタービン発電機,第二ガスタービン発電機又は電源車によるAM用MCC受電 非常用所内電気設備であるM/C C系及びM/C D系が機能喪失した場合に、常設代替交流電源設備及び可搬型代替交流電源設備により代替所内電気設備へ給電することで、 原子炉圧力容器の冷却,原子炉格納容器の冷却及び除熱に必要となる設備の電源復旧を図る。	⑤
74	1.14.2.3(1)a.	1.14-84	また、上記給電を継続するために 第一ガスタービン発電機用燃料タンク, 第二ガスタービン発電機用燃料タンク及び電源車への燃料補給を実施する。 燃料の補給手順については、「1.14.2.4 燃料の補給手順」にて整備する。	-	⑤
75	1.14.2.3(1)a. (a)	1.14-84	(a) 手順着手の判断基準 非常用所内電気設備であるM/C D系が機能喪失した場合で、 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル 又は 電源車 からAM用MCCへ給電が可能な場合。	(a)手順着手の判断基準 非常用所内電気設備であるM/C C系及びM/C D系が同時に機能喪失した場合で、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備によりAM用MCCへの給電が可能な場合。	⑤
76	1.14.2.3(1)a. (b)	1.14-85	②a中央制御室運転員A及びBは、 第一ガスタービン発電機を起動後, AM用MCCへの給電準備完了を報告する。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
77	1.14.2.3(1)a. (b)	1.14-85,86	⑦a中央制御室運転員A及びBは, 第一ガスタービン発電機から給電するための遮断器を「入」とし, 第一ガスタービン発電機から給電が開始されたことを当直副長に報告する。	-	⑤
78	1.14.2.3(1)a. (b)	1.14-89~92	[優先4.号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用したAM用MCC受電の場合] [優先5.号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用したAM用MCC受電の場合] を追加	-	⑤
79	1.14.2.3(1)a. (c)	1.14-98	優先4.の号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用したAM用MCC受電操作は, 当該号炉及び他号炉の中央制御室運転員各2名(操作者及び確認者)の計4名, 他号炉の現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用したAM用MCC受電完了まで約110分で可能である。 優先5.の号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用したAM用MCC受電操作は, 当該号炉及び他号炉の中央制御室運転員各2名(操作者及び確認者)の計4名, 他号炉の現場運転員4名及び緊急時対策要員6名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してから号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用したAM用MCC受電完了まで約4時間で可能である。	-	⑤
80	1.14.2.3(1)a. (c)	1.14-99	なお, 号炉間電力融通ケーブルについては, コントロール建屋内(緊急用電源切替箱断路器近傍)と屋外(荒浜側高台保管場所)に配備されており, 円滑に6号及び7号炉間にケーブルを敷設することが可能である。	-	⑤
81	1.14.2.4(1)	1.14-99	(1) 軽油タンクからタンクローリへの補給 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(熱交換器ユニット用, 原子炉建屋放水設備用及び海水取水用)可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ及び仮設発電機に給油する。	(1)軽油タンクからタンクローリへの補給 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(取水ポンプ及び送水ポンプ), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ, 仮設発電機に燃料を給油する。	② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
82	1.14.2.4(1)a.	1.14-100	a. 手順着手の判断基準 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(熱交換器ユニット用, 原子炉建屋放水設備用及び海水取水用), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ又は仮設発電機を使用する場合。	a.手順着手の判断基準 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(取水ポンプ及び送水ポンプ), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ, 仮設発電機を使用する場合。	② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更)
83	1.14.2.4(1)c.	1.14-102	c. 操作の成立性 上記の操作は, タンクローリ1台当たり緊急時対策要員2名にて作業を実施した場合, 作業開始を判断してからタンクローリへの補給完了までタンクローリ(4kL)にて105分以内, タンクローリ(16kL)にて120分以内で可能である。	c.操作の成立性 上記の操作は, タンクローリ1台当たり緊急時対策要員2名で作業を実施した場合, 作業開始を判断してからタンクローリへの補給完了まではタンクローリ(4kL)にて約85分, タンクローリ(16kL)にて約100分で可能である。	⑤
84	1.14.2.4(2)	1.14-102,103	(2) タンクローリから各機器等への給油 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(熱交換器ユニット用, 原子炉建屋放水設備用及び海水取水用), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ及び仮設発電機に対して, タンクローリ(16kL)及び(4kL)を用いて給油する。 なお, 第一ガスタービン発電機の場合は, 第一ガスタービン発電機用燃料タンクへ給油する。第一ガスタービン発電機の運転に伴い燃料が消費されると, 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプが自動起動し, 第一ガスタービン発電機用燃料タンクから燃料の補給が開始される。また, 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプは, 燃料の補給完了後に自動停止する(第二ガスタービン発電機についても同様)。	(2)タンクローリから各機器等への給油 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(取水ポンプ及び送水ポンプ), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ, 仮設発電機に対して, タンクローリ(16kL)及び(4kL)を用いて燃料の給油を行う。	② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更) ⑤
85	1.14.2.4(2)a.	1.14-103	a. 手順着手の判断基準 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(熱交換器ユニット用, 原子炉建屋放水設備用及び海水取水用), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ又は仮設発電機を運転した場合において, 各機器の燃料が規定油量以上あることを確認した上で運転開始後, 燃料保有量及び燃費からあらかじめ算出した給油時間※1となった場合。	a.手順着手の判断基準 重大事故等の対処に必要な第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 電源車, 大容量送水車(取水ポンプ及び送水ポンプ), 可搬型代替注水ポンプ(A-1級), 可搬型代替注水ポンプ(A-2級), 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車, モニタリング・ポスト用発電機, ディーゼル駆動消火ポンプ, 仮設発電機の燃料保有量及び燃費から予め算出した給油時間※1となった場合。	② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
86	1.14.2.4(2)a.	1.14-104	<ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機 : 運転開始後約16時間 ・電源車 : 運転開始後約2時間 ・大容量送水車(熱交換器ユニット) 取水ポンプ : 運転開始後約7時間 送水ポンプ : 運転開始後約3時間 ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級) : 運転開始後約2時間 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) : 運転開始後約3時間 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 : 運転開始後約20時間 ・モニタリング・ポスト用発電機 : 運転開始後約10時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 : 運転開始後約9時間 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機 : 運転開始後約37時間 ・電源車, 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車 : 運転開始後約2時間 ・大容量送水車(取水ポンプ) : 運転開始後約4時間 ・大容量送水車(送水ポンプ) : 運転開始後約2時間 ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級) : 運転開始後約5時間 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級) : 運転開始後約3時間 ・モニタリング・ポスト用発電機 : 運転開始後約10時間 	<p>② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更) ⑤</p>
87	1.14.2.4(2)c.	1.14-107,108	<p>なお、各設備の燃料が枯渇しないよう以下の時間までに給油を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機の燃費は、定格容量にて約1,000L/hであり、起動から枯渇までの時間は約50時間。 ・電源車の燃費は、定格容量にて約110L/hであり、起動から枯渇までの時間は約2時間。 ・大容量送水車(熱交換器ユニット) 取水ポンプの燃費は、定格容量にて約40L/hであり、起動から枯渇までの時間は約7時間。 送水ポンプの燃費は、定格容量にて約90L/hであり、起動から枯渇までの時間は約3時間。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級)の燃費は、定格容量にて約43L/hであり、起動から枯渇までの時間は約2時間。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の燃費は、定格容量にて約21L/hであり、起動から枯渇までの時間は約3時間。 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の燃費は、定格容量にて約45L/hであり、起動から枯渇までの時間は約22時間。 ・モニタリング・ポスト用発電機の燃費は、定格容量にて約9L/hであり、起動から枯渇までの時間は約18時間。 	<p>なお、各設備の燃料が枯渇しないよう以下の時間までに給油を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機の燃費は、定格容量にて約1,705L/hであり、起動から枯渇までの時間は約29時間。 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機の燃費は、定格容量にて約437L/hであり、起動から枯渇までの時間は約68時間。 ・電源車, 3号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源車の燃費は、定格容量にて約110L/hであり、起動から枯渇までの時間は約2時間。 ・大容量送水車(取水ポンプ)の燃費は、定格容量にて約43L/hであり、起動から枯渇までの時間は約4時間。 ・大容量送水車(送水ポンプ)の燃費は、定格容量にて約135L/hであり、起動から枯渇までの時間は約2時間。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-1級)の燃費は、定格容量にて約23L/hであり、起動から枯渇までの時間は約5時間。 ・可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の燃費は、定格容量にて約18L/hであり、起動から枯渇までの時間は約3時間。 ・モニタリング・ポスト用発電機の燃費は、定格容量にて約9L/hであり、起動から枯渇までの時間は約19時間。 	<p>② (K5緊急時対策所変更に伴う給油対象設備の変更) ⑤</p>
88	1.14.2.4(2)c.	1.14-108	<p>また、多くの給油対象設備が必要となる事象(崩壊熱除去機能喪失等)を想定した場合、事象発生後7日間、それらの設備(第一ガスタービン発電機、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)及び電源車等)の運転を継続するために必要な燃料(軽油)の燃料消費量は約568kLである。また、6号及び7号炉軽油タンク(2,040kL)からも燃料補給が可能であり、6号及び7号炉軽油タンク1基当たり510 kL以上となるよう管理する。</p>	<p>また、多くの給油対象設備が必要となる事象(崩壊熱除去機能喪失等)を想定した場合、事象発生後7日間、それらの設備(第一ガスタービン発電機、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)及び電源車等)の運転継続するために必要な燃料(軽油)の燃料消費量は約580kLである。また、6号及び7号炉軽油タンク(2,040kL)からも燃料補給が可能であり、6号及び7号炉軽油タンク1基あたり510 kL以上となるよう管理する。</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
89	1.14.2.5	1.14-108~112	1.14.2.5 重大事故等対処設備(設計基準拡張)による対応手順 (1) 非常用交流電源設備による給電 (2) 非常用直流電源設備による給電	-	⑤
90	1.14.2.7(1)	1.14-113	第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機から給電できず他号炉の非常用ディーゼル発電機からの給電が可能な場合は, 号炉間電力融通ケーブル(常設)(優先4)を使用した電力融通, 号炉間電力融通ケーブル(可搬型)(優先5)を使用した電力融通を行う。なお, 号炉間電力融通ケーブルを使用した電力融通を行う場合は, 電源を供給する号炉の発電用原子炉の冷却状況, 非常用ディーゼル発電機の運転状況及び電源を受電する号炉の受電体制を確認した上で実施する。 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機及び号炉間電力融通ケーブルによる給電ができない場合は, 電源車(荒浜側緊急用M/C経由)(優先6)から給電する。	第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機を並行操作で起動し, 第一ガスタービン発電機からの給電を優先する。優先1の第一ガスタービン発電機からの給電ができない場合は, 優先2の第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)による給電を行う。第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)による給電ができない場合は, 優先3の第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)・優先4の電源車(緊急用M/C経由)の優先で給電を行う。	⑤
91	1.14.2.7(1)	1.14-114	上記の優先1から優先7までの手順を連続して実施した場合, 直流125V充電器盤の受電完了まで約11時間50分(あらかじめ他号炉の非常用ディーゼル発電機からの電力融通ができないと判断した場合は約8時間35分)で実施可能であり, 所内蓄電式直流電源設備から給電されている24時間以内に十分な余裕を持って給電を開始する。	上記の優先1から優先4までの手順及び電源車(P/C 動力変圧器経由)による給電手順を連続して実施した場合, 直流125V 充電器盤の受電まで約9時間15分で実施可能であり, 所内蓄電式直流電源設備から給電されている24時間以内に十分な余裕を持って給電を開始する。	⑤
92	1.14.2.7(2)	1.14-115	なお, 蓄電池の電圧が放電電圧の最低値を下回る可能性がある場合は, 経過時間によらず, 蓄電池の切替えを実施する。	-	⑤
93	第1.14.1表	1.14-116	重大事故等対処設備(設計基準拡張)を追記 ・非常用交流電源設備による給電 ・非常用直流電源設備による給電	-	⑤
94	第1.14.1表	1.14-117	設備変更に伴う修正 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
95	第1.14.1.表	1.14-119	設備変更に伴う修正 ・荒浜側緊急用高圧母線(自主対策設備)	・荒浜側緊急用高圧母線(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
96	第1.14.2表	1.14-120~127	・記載の適正化(1.14-120~126) ・重大事故等対処設備(設計基準拡張)の手順追加に伴い計器追記(1.14-127)	-	⑤
97	第1.14.2図	1.14-131	設備変更に伴い電源構成図を修正 ・緊急用断路器の通常状態変更		② (断路器の通常状態変更)
98	第1.14.5図 第1.14.6図	1.14-134 1.14-135 1.14-136 1.14-137	EOP、停止時EOPの変更に伴い対応フローを変更 併せて第1.14.1表、第1.14.2表の手順書名称を修正	-	⑤
99	第1.14.8図	1.14-139	手順の変更(第一GTGを現場起動から中操起動に変更)に伴いタイムチャートを修正	-	⑤
100	第1.14.9図 第1.14.10図 第1.14.11図	1.14-140 1.14-141 1.14-142	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正 第一GTGの要員数に合わせて現場運転員2→4人	-	⑤
101	第1.14.13図 第1.14.14図	1.14-144 1.14-145	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正 記載の適正化(個別操作の見直しに伴う修正)	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
102	第1.14.16図	1.14-147	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正	-	⑤
103	第1.14.29図 第1.14.30図 第1.14.31図	1.14-160 1.14-161 1.14-162	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正 記載の適正化(個別操作の見直しに伴う修正)	-	⑤
104	第1.14.33図	1.14-164	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正	-	⑤
105	第1.14.38図 第1.14.39図 第1.14.40図 第1.14.41図 第1.14.42図	1.14-169 1.14-170 1.14-171 1.14-172 1.14-173	記載の適正化(個別操作の見直しに伴う修正) 号炉間電力融通ケーブルを使用した場合のタイムチャートを追加(第1.14.40図)	-	⑤
106	第1.14.46図	1.14-177	手順の変更(第一GTGを現場起動から中操起動に変更)に伴いタイムチャートを修正	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
107	第1.14.47図 第1.14.48図 第1.14.49図 第1.14.50図 第1.14.51図 第1.14.52図	1.14-178 1.14-179 1.14-180 1.14-181 1.14-182 1.14-183	移動時間の変更(免震重要棟の自主化)に伴いタイムチャートを修正 号炉間電力融通ケーブルを使用した場合のタイムチャートを追加(第1.14.40図)	—	⑤
108	第1.14.56図	1.14-187	給油対象設備の変更に伴いタイムチャート補足を修正	—	⑤
109	第1.14.57図	1.14-188	燃費の変更に伴いタイムチャートを修正	—	⑤
110	第1.14.58図 第1.14.59図	1.14-189 1.14-190	重大事故等対処設備(設計基準拡張)の手順追加に伴い概要図を追加 ・非常用交流電源設備による給電 ・非常用直流電源設備による給電	—	⑤
111	第1.14.60図	1.14-191 1.14-192	号炉間電力融通ケーブルを使用した給電をフローチャートに追加 記載の適正化		⑤
112	添付資料 1.14.1	1.14-194	重大事故等対処設備(設計基準拡張)を追加 ・非常用交流電源設備による給電 ・非常用直流電源設備による給電	—	⑤
113	添付資料 1.14.1	1.14-195	設備変更に伴う修正 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)
114	添付資料 1.14.1	1.14-195 1.14-196 1.14-197	設備変更に伴う修正 ・荒浜側緊急用高圧母線(自主対策設備)	・荒浜側緊急用高圧母線(重大事故等対処設備)	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
115	添付資料 1.14.2-1	1.14-198	<p>1. 第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機又は電源車によるM/C C系及びM/C D系受電 (1)現場でのM/C C系及びM/C D系受電 a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合において、第一ガスタービン発電機を起動後、現場でのM/C C系及びM/C D系の受電操作を実施する。 M/C D系を受電することにより原子炉圧力容器への注水に必要な電源が供給されるため、M/C D系受電後は原子炉圧力容器への注水を優先させ、その後M/C C系へ給電する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びM/C D系受電のうち、現場でのM/C D系受電前準備及びM/C D系受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間 :20分(実績時間:18分) なお、M/C C系まで受電した場合は、50分と想定する。</p>	<p>1. 第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機又は電源車によるM/C C系及びM/C D系受電 (1)第一ガスタービン発電機起動及びM/C C系及びD系受電 a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びD系非常用高圧母線へ給電できない場合に第一ガスタービン発電機を起動し、M/C C系及びD系を受電する。 非常用高圧母線M/C D系を受電することにより原子炉注水に必要な電源が供給されるため、非常用高圧母線M/C D系受電後は原子炉の注水を優先させ、その後非常用高圧母線M/C C系への給電を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 屋外 c.必要要員数及び操作時間 第一ガスタービン発電機によるM/C C系及びD系受電に必要な要員数(6名)、所要時間(75分)のうち、第一ガスタービン発電機起動、M/C D系受電前準備、M/C D系受電操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4名(現場運転員4名) 所要時間目安:45分(実績時間:当該設備は設置工事のため実績時間なし) なお、M/C C系まで受電した場合は、75分と想定する。</p>	⑤
116	添付資料 1.14.2-1	1.14-200	<p>(2)第二ガスタービン発電機起動及び荒浜側緊急用M/C受電 a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合において、M/C C系及びM/C D系を受電するため、第二ガスタービン発電機を起動し、荒浜側緊急用M/Cを受電する。 b.作業場所 屋外(第二ガスタービン発電機設置場所、荒浜側緊急用M/C設置場所) c.必要要員数及び時間 第二ガスタービン発電機による荒浜側緊急用M/Cを経由したM/C C系及びM/C D系受電のうち、第二ガスタービン発電機起動操作及び荒浜側緊急用M/C受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :70分(実績時間:60分)</p>	<p>(2)第二ガスタービン発電機起動及び緊急用M/C受電 a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びD系非常用高圧母線へ給電できない場合に第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)を起動し、M/C C系及びD系を受電する。 非常用高圧母線M/C D系を受電することにより原子炉注水に必要な電源が供給されるため、非常用高圧母線M/C D系受電後は原子炉の注水を優先させ、その後非常用高圧母線M/C C系への給電を実施する。 b.作業場所 屋外(ガスタービン発電機エリア、154kV開閉所(緊急用M/C)) c.必要要員数及び操作時間 第二ガスタービン発電機による緊急用M/Cを経由したM/C C系及びD系受電に必要な要員数(10名)、所要時間(75分)のうち、第二ガスタービン発電機起動、緊急用M/C受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:45分(実績時間35分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
117	添付資料 1.14.2-1	1.14-202	<p>(3)第二ガスタービン発電機起動及び大湊側緊急用M/Cからの給電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合において、M/C C系及びM/C D系を受電するため、第二ガスタービン発電機を起動し、大湊側緊急用M/Cから給電する。</p> <p>b.作業場所 屋外(第二ガスタービン発電機設置場所, 大湊側緊急用M/C設置場所)</p> <p>c.必要要員数及び時間 第二ガスタービン発電機による大湊側緊急用M/C経由したM/C C系及びM/C D系受電のうち、第二ガスタービン発電機起動操作及び大湊側緊急用M/Cからの給電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :80分(実績時間なし)</p>	<p>(3)第二ガスタービン発電機起動及び大湊側緊急用M/C受電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びD系非常用高圧母線へ給電できない場合に第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)を起動し、M/C C系及びD系を受電する。 非常用高圧母線M/C D系を受電することにより原子炉注水に必要な電源が供給されるため、非常用高圧母線M/C D系受電後は原子炉の注水を優先させ、その後非常に非常用高圧母線M/C C系への給電を実施する。</p> <p>b.作業場所 屋外(ガスタービン発電機エリア, 154kV開閉所(大湊側緊急用M/C))</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 第二ガスタービン発電機による大湊側緊急用M/C 経由によるM/C C系及びD系受電に必要な要員数(10名), 所要時間(95分)のうち、第二ガスタービン発電機起動, 大湊側緊急用M/C受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:50分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
118	添付資料 1.14.2-1	1.14-203	<p>(4)電源車起動及び荒浜側緊急用M/C受電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合において、M/C C系及びM/C D系を受電するため、電源車を起動し、荒浜側緊急用M/Cを受電する。</p> <p>b.作業場所 屋外(荒浜側緊急用M/C設置場所)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車による荒浜側緊急用M/Cを経由したM/C C系及びM/C D系受電のうち、電源車起動操作及び荒浜側緊急用M/C受電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :90分(実績時間なし)</p>	<p>(4)電源車による緊急用M/C受電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びD系非常用高圧母線へ給電できない場合に500kVA電源車(緊急用M/C経由)を起動し、M/C C系及びD系を受電する。 非常用高圧母線M/C D系を受電することにより原子炉注水に必要な電源が供給されるため、非常用高圧母線M/C D系受電後は原子炉の注水を優先させ、その後非常に非常用高圧母線M/C C系への給電を実施する。</p> <p>b.作業場所 屋外(ガスタービン発電機エリア, 154kV開閉所(緊急用M/C))</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 500kVA電源車による緊急用M/Cを経由したM/C C系及びD系受電に必要な要員数(10名), 所要時間(115分)のうち、電源車起動, 緊急用M/C受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:80分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
119	添付資料 1.1.4.2-1	1.14-205	<p>(5)荒浜側緊急用M/C又は大湊側緊急用M/C経由によるM/C C系及びM/C D系受電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びM/C D系へ給電できない場合において、代替交流電源設備により荒浜側緊急用M/C又は大湊側緊急用M/Cを受電後、現場でのM/C C系及びM/C D系の受電操作を実施する。 M/C D系を受電することにより原子炉圧力容器への注水に必要な電源が供給されるため、M/C D系受電後は原子炉圧力容器への注水を優先させ、その後M/C C系へ給電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階、地上2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 荒浜側緊急用M/C又は大湊側緊急用M/C経由によるM/C C系及びM/C D系受電のうち、受電前準備及びM/C D系受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間 :「荒浜側緊急用M/C経由による受電の場合」 第二ガスタービン発電機:75分/80分※ 電源車:95分/100分※ (当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「大湊側緊急用M/C経由による受電の場合」 第二ガスタービン:85分/90分※ (当該設備は設置工事中のため実績時間なし) ※M/C C系まで受電した場合の想定時間</p>	<p>(5)緊急用M/C又は大湊側緊急用M/CによるM/C C系及びD系受電</p> <p>a.操作概要 外部電源及び非常用ディーゼル発電機の機能喪失によりM/C C系及びD系非常用高圧母線へ給電できない場合に緊急用M/C及び大湊側緊急用M/Cへ給電し、非常用高圧母線M/C C系及びD系を受電する。 非常用高圧母線M/C D系を受電することにより原子炉注水に必要な電源が供給されるため、非常用高圧母線M/C D系受電後は原子炉の注水を優先させ、その後非常用高圧母線M/C C系への給電を実施する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 緊急用M/C又は大湊側緊急用M/CによるM/C C系及びD系受電に必要な要員数(緊急用M/Cからの受電:8名、大湊側緊急用M/Cからの受電:10名)、所要時間(緊急用M/Cからの受電:80分、大湊側緊急用M/Cからの受電:95分)のうち、受電前準備、M/C D系受電操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:緊急用M/Cからの受電 (第二ガスタービン:50分/※80分、電源車:85分/※115分) 大湊側緊急用M/Cからの受電 (第二ガスタービン:65分/※95分) (実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし) ※M/C C系まで受電した場合の想定時間</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
120	添付資料 1.14.2-2	1.14-207	<p>2.電源車によるP/C C系及びP/C D系受電 (1)P/C C系及びP/C D系受電前準備 a.操作概要 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電の際, 受電前準備として回路構成及び負荷抑制を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階, 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電のうち, 回路構成及び負荷抑制操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :60分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>2.電源車によるP/C C系及びP/C D系受電 (1)P/C C系及びP/C D系受電 a.操作概要 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電の際, 負荷の抑制を行い, 電源接続後はP/C C系及びP/C D系の各MCCの受電を操作する。 b.作業場所 原子炉建屋 地上3階, 地上4階, 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電に必要な要員数(10名), 所要時間(6時間25分)のうち, 電源接続前準備, P/C C系及びP/C D系の各MCC受電に必要な要員数は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
121	添付資料 1.14.2-2	1.14-207	<p>(2)電源車のケーブル敷設及び電源車によるP/C C系及びP/C D系への給電 a.操作概要 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電の際, 電源車からP/C C系動力変圧器の一次側に電源車のケーブルを敷設及び接続後, 電源車を起動し, P/C C系及びP/C D系へ給電する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋近傍) 原子炉建屋 地上1階, 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電のうち, 電源車のケーブル敷設及び接続操作, 電源車起動操作, 並びにP/C C系及びP/C D系への給電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :5時間10分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(2)電源ケーブル布設及び電源車によるP/C C系及びP/C D系給電 a.操作概要 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電の際, 500kVA電源車よりP/C C系(動力変圧器の一次側)に電源ケーブルを布設, 接続後, 電源車を起動し, P/C C系, P/C D系に給電を実施する。 b.作業場所 屋外(原子炉建屋近傍) 原子炉建屋 地上1階, 地下1階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 電源車によるP/C C系及びP/C D系受電に必要な要員数(10名), 所要時間(6時間25分)のうち, 電源ケーブル布設, 接続, 電源車起動及びP/C C系及びP/C D系給電に必要な要員数は以下のとおり。 必要要員数 :10名(現場運転員4名, 緊急時対策要員6名) 所要時間目安:5時間45分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
122	添付資料 1.14.2-3	1.14-210	<p>3. 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電 (1)健全号炉の非常用ディーゼル発電機によるM/C C系又はM/C D系受電 a.操作概要 外部電源, 非常用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機により給電ができない場合において, 健全号炉の非常用ディーゼル発電機により号炉間電力融通ケーブルを介してM/C C系又はM/C D系を受電する。 b.作業場所 「当該号炉」 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 「他号炉」 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地上1階(管理区域) タービン建屋 地下中2階(非管理区域) c.必要要員数及び時間 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電のうち, 負荷切替え操作並びに健全号炉の非常用ディーゼル発電機によるM/C C系又はM/C D系への給電準備に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(現場運転員6名) 想定時間 :1時間25分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>3. 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通 (1)健全号炉非常用ディーゼル発電機によるM/C C系又はD系受電 a.操作概要 外部電源, 非除用ディーゼル発電機, 第一ガスタービン発電機, 第二ガスタービン発電機による給電が不可能な場合, 健全号炉の運転中D/Gにより電力融通ケーブルを介してM/C C系M/C D系の受電を実施する。 b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地上1階(管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) c.必要要員数及び操作時間 健全号炉(6号炉)非常用ディーゼル発電機によるM/C C系又はD系受電に必要な要員数(12名), 所要時間(3時間35分)のうち, 負荷切替, 非常用ディーゼル発電機によるM/C C系及びM/C D系送電準備に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(現場運転員6名) 所要時間目安:1時間15分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
123	添付資料 1.14.2-3	1.14-212	<p>(2)号炉間電力融通ケーブル敷設及び回路構成</p> <p>a.操作概要 健全号炉の非常用ディーゼル発電機からM/C C系又はM/C D系へ給電する際、各号炉の緊急用電源切替箱断路器間に号炉間電力融通ケーブルを敷設及び接続し、回路構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 号炉間電力融通ケーブルを使用したM/C C系又はM/C D系受電のうち、号炉間電力融通ケーブルの敷設及び接続に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 想定時間 :「緊急用電源切替箱近傍の号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用する場合」 1時間40分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「屋外保管の号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用する場合」 3時間50分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(2)電力融通ケーブル布設及び回路構成</p> <p>a.操作概要 健全号炉の運転中D/GによりM/C C系及びM/C D系へ送電する際に各号路の緊急用電源切替箱断路器間に電力融通ケーブルを布設及び接続し、回路構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 号炉間電力融通ケーブルによる電力融通に必要な要員数(10名), 所要時間(2時間:緊急用電源切替箱近傍の号炉間電力融通ケーブルを使用する場合)3時間30分:屋外の号炉間電力融通ケーブルを使用する場合)のうち、ケーブル施設・接続, 電源車運転操作に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 所要時間目安:3時間30分(屋外の号炉間電力融通ケーブルを使用する場合)(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
124	添付資料 1.14.2-4	1.14-214	<p>4. 所内蓄電式直流電源設備による給電</p> <p>(1)直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替え</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源喪失事象発生から8時間経過するまでに、直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替えを実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替えに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :20分(実績時間:11分)</p>	<p>4. 所内蓄電式直流電源設備による給電</p> <p>(1)直流125V蓄電池AからA-2への切替</p> <p>a.操作概要 全交流電源喪失事象発生から8時間経過するまでに、蓄電池Aから蓄電池A-2へ切替を行う。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V蓄電池AからA-2への切替に必要な要員数(4名), 所要時間(80分)のうち、現場での切替操作に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:20分(実績時間11分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
125	添付資料 1.14.2-4	1.14-216	<p>(2)不要直流負荷の切離し</p> <p>a.操作概要 直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替え実施後、全交流動力電源喪失事象発生から8時間経過した時点で直流125V主母線盤Aの不要直流負荷の切離しを実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V蓄電池Aから直流125V蓄電池A-2への切替え後の不要直流負荷の切離し操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :60分(実績時間:50分)</p>	<p>(2)不要直流負荷の切り離し</p> <p>a.操作概要 蓄電池Aから蓄電池A-2へ切替後、全交流電源喪失事象発生から8時間経過した時点で直流125V主母線盤Aの不要直流負荷の切り離しを行う。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V蓄電池AからA-2への切替に必要な要員数(4名)、所要時間(80分)のうち、不要直流負荷の切り離しに必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:60分(実績時間:50分)</p>	⑤
126	添付資料 1.14.2-4	1.14-217	<p>(3)直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切替え</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源喪失事象発生から19時間経過するまでに、直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切替えを実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地上4階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V蓄電池A-2からAM用直流125V蓄電池への切替えに必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :25分(実績時間:23分)</p>	<p>(3)直流125V蓄電池A-2からAM用蓄電池への切替</p> <p>a.操作概要 全交流電源喪失事象発生から19時間経過するまでに、蓄電池A-2からAM用蓄電池へ切り替える。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V蓄電池A-2からAM蓄電池への切替に必要な要員数(4名)、所要時間(25分)のうち、現場での切替操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:25分(実績時間15分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
127	添付資料 1.14.2-4	1.14-220	<p>(4)直流125V充電器盤A受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤A受電の際、現場にてMCC C系の受電操作を実施し、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機の運転状態を確認後、直流125V充電器盤Aを受電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階、地下中2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V充電器盤A受電のうち、MCC受電操作、空調機運転状態確認及び充電器盤受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :40分(実績時間:36分)</p>	<p>(4)直流125V充電器盤A受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤A受電の際に、現場にてMCC C系の受電操作を行い、C/B計測制御電源盤区域(A)排風機運転状態確認後、直流125V充電器盤A受電をする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 非管理区域(地下1階) コントロール建屋 非管理区域(地下1階)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V充電器盤A受電に必要な要員数(4名)、所要時間(40分)のうち、MCC受電及び空調確認、充電器盤受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間36分)</p>	⑤
128	添付資料 1.14.2-4	1.14-222	<p>(5)直流125V充電器盤B受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤B受電の際、現場にてMCC D系の受電操作を実施し、C/B計測制御電源盤区域(B)排風機の運転状態を確認後、直流125V充電器盤Bを受電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地上1階、地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V充電器盤B受電のうち、MCC受電操作、空調機運転状態確認及び充電器盤受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :40分(実績時間36分)</p>	<p>(5)直流125V充電器盤B受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤B受電の際に、現場にてMCC D系の受電操作を行い、C/B計測制御電源盤区域(B)排風機運転状態確認後、直流125V充電器盤B受電をする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 非管理区域(地下1階) コントロール建屋 非管理区域(地下1階)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V充電器盤B受電に必要な要員数(4名)、所要時間(40分)のうち、MCC受電及び空調確認、充電器盤受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間36分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
129	添付資料 1.14.2-4	1.14-224	<p>(6)直流125V充電器盤A-2受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤A-2受電の際, 現場にてMCC C系の受電操作を実施し, C/B計測制御電源盤区域(A)排風機の運転状態を確認後, 直流125V充電器盤A-2を受電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階, 地下中2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V充電器盤A-2受電のうち, MCC受電操作, 空調機運転状態確認及び充電器盤受電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :40分(実績時間:34分)</p>	<p>(6)直流125V充電器盤A-2受電</p> <p>a.操作概要 直流125V充電器盤A-2受電の際に, 現場にてMCC C系の受電操作を行い, C/B計測制御電源盤区域(A)排風機運転状態確認後, 直流125V充電器盤A-2受電をする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 非管理区域(地下1階) コントロール建屋 非管理区域(地下1階)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 直流125V充電器盤A-2受電に必要な要員数(4名), 所要時間(40分)のうち, MCC受電及び空調確認, 充電器盤受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:40分(実績時間34分)</p>	⑤
130	添付資料 1.14.2-4	1.14-226	<p>(7)AM用直流125V充電器盤受電</p> <p>a.操作概要 AM用直流125V充電器盤受電の際, 現場にてMCC C系の受電操作を実施し, D/G(A)/Z排風機の運転状態を確認後, AM用直流125V充電器盤を受電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 AM用直流125V充電器盤受電のうち, MCC受電操作, 空調機運転状態確認及び充電器盤受電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :35分(実績時間:31分)</p>	<p>(7)AM用直流125V充電器盤受電</p> <p>a.操作概要 AM用直流125V充電器盤受電の際に, 現場にてMCC C系の受電操作を行い, D/G(A)/Z排風機運転状態確認後, AM用直流125V充電器盤受電をする。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 4階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 AM用直流125V充電器盤受電に必要な要員数(4名), 所要時間(35分)のうち, MCC受電及び空調確認, 充電器盤受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:35分(実績時間31分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
131	添付資料 1.14.2-4	1.14-228	<p>(8)中央制御室監視計器の復旧 C系及びD系</p> <p>a.操作概要 中央制御室監視計器復旧の際、現場にてMCC C系及びMCC D系の受電操作を実施し、監視計器電源(バイタル交流電源、計測用電源)を復旧する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 中央制御室監視計器の復旧のうち、MCC受電操作及び監視計器電源復旧操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :50分(実績時間:40分)</p>	<p>(8)中操監視計器復旧 C系及びD系</p> <p>a.操作概要 中操監視計器復旧の際に、現場にてMCC C系及びMCC D系の受電操作を行い、監視計器電源(バイタル交流電源、計測用電源)を復旧する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 中操監視計器復旧に必要な要員数(4名)、所要時間(50分)のうち、MCC受電及び監視計器電源復旧に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:50分(実績時間40分)</p>	⑤
132	添付資料 1.14.2-5	1.14-230	<p>5. 可搬型直流電源設備による給電</p> <p>(1)電源車によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 AM用直流125V充電器盤の受電前準備のため、電源車によりAM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地下1階、地上1階、地上2階、地上3階、地上4階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 屋外(荒浜側緊急用M/C設置場所、原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車によるAM用直流125V充電器盤受電のうち、電源車起動操作及びAM用MCC受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名、緊急時対策要員6名) 想定時間 :「荒浜側緊急用M/C経由の場合」 95分(実績時間なし) 「緊急用電源切替箱接続装置経由の場合」 4時間30分(当該設備は設置工事のため実績時間なし) 「AM用動力変圧器経由の場合」 5時間15分(当該設備は設置工事のため実績時間なし)</p>	<p>5. 可搬型直流電源設備による給電</p> <p>(1)可搬型直流電源設備によるAM用直流125V充電器盤受電</p> <p>a.操作概要 電源車によりAM用MCC を介し、AM用直流125V充電器盤による給電を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 3,4階(非管理区域) コントロール建屋 2階(非管理区域) 屋外(ガスタービン発電機エリア、154kV開閉所(緊急用M/C))</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 可搬型直流電源設備によるAM用直流125V充電器盤受電に必要な要員数(10名)、所要時間(6時間40分)のうち、電源車起動、AM用MCC受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 なお、電源車からAM用MCC までの送電操作の必要要員数、所要時間は添付資料1.14.2-10(4)(5)と同様である。 必要要員数 :8名(現場運転員2名、緊急時対策要員6名) 所要時間目安:4時間20分(当該設備は設置工事のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
133	添付資料 1.14.2-5	1.14-232	<p>(2) AM用MCC からAM用直流125V蓄電池室換気設備及びAM用直流125V充電器盤への給電</p> <p>a.操作概要 電源車によりAM用MCC受電後、仮設ケーブルを敷設及び接続してAM用直流125V蓄電池室換気設備を起動し、蓄電池充電時の水素ガスの滞留を防止する。また、蓄電池室の換気を実施した後、AM用直流125V充電器盤の受電操作を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 地上3階、地上4階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車によるAM用直流125V充電器盤受電のうち、仮設ケーブル接続前準備、仮設ケーブル敷設、AM用直流125V充電器盤受電操作及びAM用直流125V蓄電池室換気設備起動操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名、緊急時対策要員6名) 想定時間 :2時間20分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(2) AM用MCCによるAM用直流125V蓄電池室換気設備への給電</p> <p>a.操作概要 電源車によりAM用MCCへ給電を行い、仮設ケーブル接続にてAM用直流125V蓄電池室換気設備の起動を行い、蓄電池充電時の水素ガス滞留防止を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 3,4階(非管理区域) コントロール建屋 2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 可搬型直流電源設備によるAM用直流125V充電器盤受電に必要な要員数(10名)、所要時間(6時間40分)のうち、電源ケーブル接続前準備、電源ケーブル敷設、AM用直流125V充電器盤受電及び換気設備運転に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :8名(現場運転員2名、緊急時対策要員6名) 所要時間目安:2時間20分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
134	添付資料 1.14.2-6	1.14-233	<p>6. 直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電</p> <p>(1)直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電前準備</p> <p>a.操作概要 直流給電車により直流125V主母線盤Aへ給電する際、給電前準備として負荷抑制を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電のうち、負荷抑制操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :30分(実績時間:25分)</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
135	添付資料 1.14.2-6	1.14-235	<p>(2)直流給電車及び電源車のケーブル敷設及び直流125V主母線盤Aへの給電</p> <p>a.操作概要 直流給電車により直流125V主母線盤Aへ給電する際、直流給電車及び電源車のケーブルを敷設、接続後、直流給電車及び電源車を起動し、直流125V主母線盤Aへの給電を実施する。</p> <p>b.作業場所 屋外(コントロール建屋近傍) コントロール建屋 地上1階, 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流給電車による直流125V主母線盤Aへの給電のうち、電源接続前準備、直流給電車及び電源車起動操作、並びに直流125V主母線盤A受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :12時間10分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>6.直流給電車による直流125V主母線盤A受電</p> <p>a.操作概要 非常用ディーゼル発電機の故障、非常用の常設直流電源設備及び常設代替直流電源設備の蓄電池の枯渇により非常用直流母線(直流125V主母線盤A)への給電ができない場合は、電源車及び直流給電車により非常用直流母線(直流125V主母線盤A)へ給電を行う。</p> <p>b.作業場所 屋外(コントロール建屋近傍) コントロール建屋 地上1階, 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 電源車及び直流給電車による非常用直流母線給電に必要な要員数(6名)、所要時間(12時間)のうち、電源接続前準備、電源車起動及び非常用直流母線受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:12時間(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
136	添付資料 1.14.2-7	1.14-237	<p>7. AM用直流125V蓄電池による直流125V主母線盤A受電</p> <p>a.操作概要 直流電源喪失時、M/C C系への給電を行う際、M/C C系緊急用電源母線連絡の遮断器の制御電源を確保するため、AM用直流125V蓄電池から125V同時投入防止用切替盤を介して直流125V主母線盤Aを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 AM用直流125V蓄電池による直流125V主母線盤A受電のうち、125V同時投入防止用切替盤での切替え操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :25分(実績時間:21分)</p>	<p>7. AM用直流125V蓄電池による直流125V主母線盤A受電</p> <p>a.操作概要 全直流電源喪失時、緊急用M/CからM/C C系への受電を行う際、M/C C系遮断器制御の電源を確保するため、125V同時投入防止用切替盤にてAM用直流125V蓄電池から直流125V主母線盤Aへの受電を行う。</p> <p>b.作業場所 原子炉建屋 4階(非管理区域) コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 AM用直流125V蓄電池による直流125V主母線盤A受電に必要な要員数(3名)、所要時間(25分)のうち、125V同時投入防止用切替盤での切替に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:25分(実績時間21分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
137	添付資料 1.14.2-8	1.14-239	<p>8. 常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源及び直流電源喪失後、第一ガスタービン発電機、第二ガスタービン発電機、号炉間電力融通ケーブル又は電源車による給電が可能な場合、M/C D系、直流125V充電器盤B及び直流125V主母線盤Bを受電して遮断器の制御電源を確保するが、M/C D系受電時は緊急用電源母線連絡の遮断器の制御電源が喪失していることから、現場にて直流125V蓄電池Bの遮断器を手動で開放し、M/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器を手動で投入する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電のうち、直流125V蓄電池Bの遮断器「切」操作及びM/C D系緊急用電源母線連絡の遮断器「入」操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :20分(実績時間:17分)</p> <p>常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電のうち、直流125V主母線盤Bの受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :15分(実績時間:12分)</p>	<p>8. 常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電</p> <p>a.操作概要 交流電源及び直流電源喪失後、常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備による給電が可能な場合、直流125V充電器盤を受電し遮断器制御電源を確保する。そのため現場にて直流蓄電池Bの遮断器を手動開放し、M/C D系緊急用M/Cの遮断器を手動投入する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 常設直流電源喪失時の直流125V主母線盤B受電に必要な要員数(5名)、所要時間(30分)のうち、現場での切替操作に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:30分(実績時間29分)</p>	⑤
138	添付資料 1.14.2-9	1.14-241	<p>9. 号炉間連絡ケーブルを使用した直流125V主母線盤A又は直流125V主母線盤B受電</p> <p>a.操作概要 当該号炉で外部電源、常設直流電源設備及び常設代替直流電源設備の機能喪失により非常用ディーゼル発電機の起動に必要な直流電源(制御電源)を確保できない場合において、他号炉のMCCから号炉間連絡ケーブルを使用して当該号炉の直流125V主母線盤A又は直流125V主母線盤Bを受電し、非常用ディーゼル発電機の起動に必要な直流電源(制御電源)を確保する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 号炉間連絡ケーブルを使用した直流125V主母線盤A又は直流125V主母線盤B受電のうち、電力融通前準備、電力融通操作及び直流125V主母線盤A又は直流125V主母線盤B受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :55分(実績時間:40分)</p>	<p>9. 低圧電源号炉間融通による直流125V主母線盤A又はB受電</p> <p>(1) 低圧電源号炉間融通による直流125V主母線盤A又はB受電</p> <p>a.操作概要 当該号炉で外部電源、常設直流電源設備及び常設代替直流電源設備の機能喪失により非常用ディーゼル発電機の起動ができない場合において、他号炉の非常用ディーゼル発電機によりMCCを経由して当該号炉の直流125V主母線盤A又はBを受電し、非常用ディーゼル発電機の起動に必要な直流電源を回復させる。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 低圧電源号炉間融通による直流125V主母線盤A又はB受電に必要な要員数(3名)、所要時間(55分)のうち、低圧電源号炉間融通による融通前準備、融通操作及び直流125V主母線盤A又はB受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :2名(現場運転員2名) 所要時間目安:55分(実績時間:40分)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
139	添付資料 1.14.2-10	1.14-243	<p>10. 第一ガスタービン発電機,第二ガスタービン発電機, 号炉間電力融通ケーブル又は電源車によるAM用MCC 受電</p> <p>(1) 電路構成</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において, 第一ガスタービン発電機によりAM用MCCを受電するため, 現場での電路構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 第一ガスタービン発電機によるAM用MCC受電のうち, 現場での電路構成に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :25分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>10. 第一ガスタービン発電機,第二ガスタービン発電機又は電源車によるAM用MCC 受電</p> <p>(1) 第一ガスタービン発電機によるAM用MCC 受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に, 第一ガスタービン発電機を起動し, AM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 第一ガスタービン発電機によるAM用MCC受電に必要な要員数(6名), 所要時間(45分)のうち, 第一ガスタービン発電機起動, 受電前準備, 受電操作に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :4名(現場運転員4名) 所要時間目安:45分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
140	添付資料 1.14.2-10	1.14-244	<p>(2)第二ガスタービン発電機起動及び荒浜側緊急用M/C受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において, AM用MCCを受電するため, 第二ガスタービン発電機を起動し, 荒浜側緊急用M/Cを受電する。</p> <p>b.作業場所 屋外(第二ガスタービン発電機設置場所, 荒浜側緊急用M/C設置場所)</p> <p>c.必要要員数及び時間 第二ガスタービン発電機による荒浜側緊急用M/Cを経由したAM用MCC受電のうち, 第二ガスタービン発電機起動操作及び荒浜側緊急用M/C受電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :65分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(2) 第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に, 第二ガスタービン発電機を起動し, AM用MCC受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外(ガスタービン発電機エリア, 154kV開閉所(緊急用M/C))</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 第二ガスタービン発電機(緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電に必要な要員数(10名), 所要時間(45分)のうち, 第二ガスタービン発電機起動, 緊急用M/C 受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:40分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
141	添付資料 1.14.2-10	1.14-245	<p>(3)第二ガスタービン発電機起動及び大湊側緊急用M/Cからの給電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において、AM用MCCを受電するため、第二ガスタービン発電機を起動し、大湊側緊急用M/Cから給電する。</p> <p>b.作業場所 屋外(第二ガスタービン発電機設置場所、大湊側緊急用M/C設置場所)</p> <p>c.必要要員数及び時間 第二ガスタービン発電機による大湊側緊急用M/Cを経由したAM用MCC受電のうち、第二ガスタービン発電機起動操作及び大湊側緊急用M/Cからの給電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間 :95分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(3)第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に、第二ガスタービン発電機を起動し、AM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階、地上3階、地上4階(非管理区域) 屋外(ガスタービン発電機エリア、154kV開閉所(緊急用M/C))</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 第二ガスタービン発電機(大湊側緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電に必要な要員数(10名)、所要時間(100分)のうち、第二ガスタービン発電機起動、大湊側緊急用M/C受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:95分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
142	添付資料 1.14.2-10	1.14-246	<p>(4)号炉間電力融通ケーブルによるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において、健全号炉の非常用ディーゼル発電機により号炉間電力融通ケーブルを介してAM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 「当該号炉」 原子炉建屋 地下1階、地上3階、地上4階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 「他号炉」 原子炉建屋 地下1階(非管理区域) コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地上1階(管理区域) タービン建屋 地下中2階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 号炉間電力融通ケーブルによるAM用MCC受電のうち、負荷切替え操作及び非常用ディーゼル発電機によるAM用MCCへの給電準備に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:4名(現場運転員4名) 想定時間 :1時間25分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
143	添付資料 1.14.2-10	1.14-248	<p>(5)号炉間電力融通ケーブル敷設及び電路構成</p> <p>a.操作概要 健全号炉の非常用ディーゼル発電機によりAM用MCCへ給電する際、各号炉の緊急用電源切替箱断路器間に号炉間電力融通ケーブルを敷設及び接続し、電路構成を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 号炉間電力融通ケーブルを使用したAM用MCC受電のうち、号炉間電力融通ケーブルの敷設及び接続に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名、緊急時対策要員6名) 想定時間:「緊急用電源切替箱近傍の号炉間電力融通ケーブル(常設)を使用する場合」 1時間40分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし) 「屋外保管の号炉間電力融通ケーブル(可搬型)を使用する場合」 3時間50分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	-	⑤
144	添付資料 1.14.2-10	1.14-250	<p>(6)電源車起動及び荒浜側緊急用M/C受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において、AM用MCCを受電するため、電源車を起動し、荒浜側緊急用M/Cを受電する。</p> <p>b.作業場所 屋外(荒浜側緊急用M/C設置場所)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車による荒浜側緊急用M/Cを経由したAM用MCC受電のうち、電源車起動操作及び荒浜側緊急用M/C受電操作に必要な要員数、時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 想定時間:90分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(4)電源車(緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に、可搬型代替交流電源設備(電源車)によりAM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階、地上3階、地上4階(非管理区域) 屋外(原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 電源車(緊急用M/C経由)によるAM用MCC受電に必要な要員数(10名)、所要時間(85分)のうち、電源車起動、緊急用M/C受電に必要な要員数、所要時間は以下のとおり。 必要要員数:6名(緊急時対策要員6名) 所要時間目安:80分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
145	添付資料 1.14.2-10	1.14-251	<p>(7)電源車(AM用動力変圧器に接続)起動及びAM用MCC受電前準備</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において、AM用MCCを受電するため、電源車(AM用動力変圧器に接続)を起動し、AM用MCCの受電前準備を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外(原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車(AM用動力変圧器に接続)によるAM用MCC受電のうち、回路構成, ケーブル敷設及び接続操作, 電源車起動操作並びにAM用MCCへの給電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 想定時間 :5時間15分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(5) 電源車(AM動力変圧器)によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に、可搬型代替交流電源設備(電源車)によりAM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外(原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 電源車(AM動力変圧器)によるAM用MCC受電に必要な要員数(10名), 所要時間(6時間15分)のうち, 受電前準備, 電源車起動, AM用MCC受電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 所要時間目安:6時間15分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤
146	添付資料 1.14.2-10	1.14-253	<p>(8)電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)起動及びAM用MCC受電前準備</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合において、AM用MCCを受電するため、電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)を起動し、AM用MCCの受電前準備を実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上2階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外(原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び時間 電源車(緊急用電源切替箱接続装置に接続)によるAM用MCC受電のうち、回路構成, ケーブル敷設及び接続操作, 電源車起動操作並びにAM用MCCへの給電操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 想定時間 :4時間25分(当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	<p>(6) 電源車(緊急用電源切替箱接続装置)によるAM用MCC受電</p> <p>a.操作概要 非常用所内電気設備の2系統が機能喪失した場合に、可搬型代替交流電源設備(電源車)によりAM用MCCを受電する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地上2階(非管理区域) 原子炉建屋 地下1階, 地上2階, 地上3階, 地上4階(非管理区域) 屋外(原子炉建屋近傍)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 電源車(緊急用電源切替箱接続装置)によるAM用MCC受電に必要な要員数(10名), 所要時間(6時間15分)のうち, 電源ケーブル布設, 接続, 電源車起動及び給電に必要な要員数, 所要時間は以下のとおり。 必要要員数 :8名(現場運転員2名, 緊急時対策要員6名) 所要時間目安:5時間45分(実績時間:当該設備は設置工事中のため実績時間なし)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
147	添付資料 1.14.2-11	1.14-255	<p>11.軽油タンクからタンクローリへの補給</p> <p>a.操作概要 軽油タンクからタンクローリへ軽油を補給(積載)する。</p> <p>b.作業場所 屋外(6号及び7号炉 軽油タンク近傍)</p> <p>c.必要要員数及び時間 軽油タンクからタンクローリ車への補給に必要な要員数, 時間は以下のとおり。</p> <p>必要要員数:2名(緊急時対策要員2名)</p> <p>想定時間 :「タンクローリ(4kL)へ補給する場合」 105分(実績時間:98分)</p> <p>「タンクローリ(16kL)へ補給する場合」 120分(実績時間:111分)</p>	<p>11.軽油タンクからタンクローリへの補給</p> <p>a.操作概要 軽油タンクからタンクローリへ軽油を補給(積載)する。</p> <p>b.作業場所 屋外(6号及び7号炉軽油タンク近傍)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 軽油タンクからタンクローリ車への補給に必要な要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>必要要員数 :2名(緊急時対策要員2名)</p> <p>所要時間目安:85分(実績時間82分) (タンクローリ(4kL)へ補給する場合) 100分(実績時間95分) (タンクローリ(16kL)へ補給する場合)</p>	⑤
148	添付資料 1.14.2-12	1.14-257	<p>12.タンクローリから各機器等への給油</p> <p>a.操作概要 タンクローリへ補給(積載)した軽油を重大事故等の対処に必要な燃料給油対象の設備へ給油する。</p> <p>b.作業場所 屋外(重大事故等の対処に必要な燃料給油対象の設備近傍)</p> <p>c.必要要員数及び時間 タンクローリから各機器等への給油に必要な要員数, 時間は以下のとおり。</p> <p>必要要員数:2名(緊急時対策要員2名)</p> <p>想定時間 :「タンクローリ(4kL)にて給油する場合」 15分(実績時間:可搬型代替注水ポンプ(A-2級)の場合11分)</p> <p>「タンクローリ(16kL)にて給油する場合」 90分(実績時間:第一ガスタービン発電機用燃料タンクの場合82分, 第二ガスタービン発電機用燃料タンクの場合86分)</p>	<p>12.タンクローリから各機器等への給油</p> <p>a.操作概要 タンクローリへ補給(積載)した軽油を重大事故等の対処に必要な燃料給油対象の設備へ給油する。</p> <p>b.作業場所 屋外(重大事故等の対処に必要な燃料給油対象の設備近傍)</p> <p>c.必要要員数及び操作時間 タンクローリから各機器等への給油に必要な要員数及び所要時間は以下のとおり。</p> <p>必要要員数 :2名 所要時間目安:15分(実績時間11分) (タンクローリ(4kL)にて各車両系設備へ給油) 90分(実績時間85分) (タンクローリ(16kL)にて第二ガスタービン発電機用燃料タンクへ給油)</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
149	添付資料 1.14.2-13	1.14-259	<p>13.不要直流負荷(B系, C系, D系)の切離し</p> <p>a.操作概要 全交流動力電源喪失により, 直流125V充電器B, 直流125V充電器C及び直流125V充電器Dの交流入力電源の喪失が発生した場合において, 1時間以内に直流125V主母線盤B, 直流125V主母線盤C及び直流125V主母線盤Dの不要直流負荷の切離しを実施する。</p> <p>b.作業場所 コントロール建屋 地下1階(非管理区域)</p> <p>c.必要要員数及び時間 直流125V主母線盤B, 直流125V主母線盤C及び直流125V主母線盤Dの不要直流負荷の切離し操作に必要な要員数, 時間は以下のとおり。 必要要員数:2名(現場運転員2名) 想定時間 :60分(実績時間:50分)</p>	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.15 事故時の計装に関する手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.15.1(2)b.(a)	1.15-11 1.15-12	重大事故等の対処時に当該パラメータが計測範囲を超えた場合は、発電用原子炉施設の状態を把握するため、代替パラメータを計測する計器により必要とするパラメータの値を推定する手段及び可搬型の計測器により計測する手段がある。 代替パラメータによる推定に使用する設備は以下のとおり。 ・重要代替計器 ・常用代替計器 可搬型の計器による計測に使用する設備は以下のとおり。 ・可搬型計測器	重大事故等の対処時に当該パラメータが計測範囲を超えた場合は、発電用原子炉施設の状態を把握するため、代替パラメータを計測する計器により必要とするパラメータの値を推定する手段がある。 代替パラメータによる推定に使用する設備は以下のとおり。 ・重要代替計器 ・常用代替計器	⑤
2	1.15.1(2)b.(b)	1.15-12	機能喪失原因対策分析の結果により選定した、主要パラメータの値が計器の計測範囲を超えた場合に、発電用原子炉施設の状態を把握するための設備のうち、重要代替計器及び可搬型計測器は重大事故等対処設備として位置付ける。	機能喪失原因対策分析の結果により選定した、主要パラメータの値が計器の計測範囲を超えた場合に、発電用原子炉施設の状態を把握するための設備のうち、重要代替計器は重大事故等対処設備と位置づける。	⑤
3	1.15.1(2)c.(a)	1.15-13	代替電源(交流)からの給電に使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	代替電源(交流)からの給電に使用する設備は以下のとおり。 ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備	② (第二GTGの自主化)
4	1.15.1(2)c.(b)	1.15-14	耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、重大事故等の対処に必要なパラメータの監視が可能となることから代替手段として有効である。	-	② (第二GTGの自主化)
5	1.15.1(2)d.(a)	1.15-14 1.15-15	重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを記録する設備は以下のとおり。 ・安全パラメータ表示システム(SPDS) 安全パラメータ表示システム(SPDS)は、データ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置により構成される。	重要監視パラメータ及び重要代替監視パラメータを記録する設備は以下のとおり。 ・データ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置、SPDS表示装置	⑤
6	1.15.1(2)d.(a)	1.15-15	有効監視パラメータを記録する設備は以下のとおり。 ・安全パラメータ表示システム(SPDS)	有効監視パラメータを記録する設備は以下のとおり。 ・データ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置、SPDS表示装置	⑤
7	1.15.1(2)e.	1.15-16	これらの手順は、運転員及び緊急時対策要員の対応として事故時運転操作手順書(徴候ベース)、AM設備別操作手順書及びアクシデントマネジメントの手引きに定める(第1.15.1表)。	これらの手順は、運転員及び緊急時対応要員の対応として事故時運転操作手順書(事象ベース)及び緊急時対策本部運用要領(多様なハザード対応手順)に定める(表1.15.1)。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
8	1.15.2.1(1)a.	1.15-17	<p>重大事故等に対処するために発電用原子炉施設の状態を把握するために必要な重要監視パラメータを計測する重要計器が故障した場合^{※1}。</p> <p>※1: 重要計器の指示値に、以下のような変化があった場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常時や事故時に想定される値から、大きな変動がある場合 ・複数ある計器については、それぞれの指示値の差が大きい場合 ・計器信号の喪失に伴い、指示値が計測範囲外にある場合 ・計器電源の喪失に伴い、指示値の表示が消滅した場合 	<p>重大事故等に対処するために発電用原子炉施設の状態を把握するために必要な重要監視パラメータを計測する重要計器が故障した場合。</p>	⑤
9	1.15.2.1(1)b.	1.15-18	<p>④運転員は、読み取った指示値を当直副長に報告する。 なお、常用代替計器が使用可能であれば、併せて確認する。 ⑤当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ重要代替監視パラメータの指示値から主要パラメータの推定を依頼する。 ⑥緊急時対策本部は、当直長に主要パラメータの推定結果を報告する。</p>	<p>④ 運転員は、読み取った指示値により、主要パラメータを推定する。 なお、常用代替計器が使用可能であれば、推定に使用する。</p>	⑤
10	1.15.2.1(1)d.	1.15-20 1.15-21	<ul style="list-style-type: none"> ・同一物理量(温度、圧力、水位、放射線量率、水素濃度及び中性子束)により推定するケース ・水位を注水源若しくは注水先の水位変化又は注水量及び吐出圧力により推定するケース ・流量を注水源又は注水先の水位変化を監視することにより推定するケース ・除熱状態を温度、圧力、流量等の傾向監視により推定するケース ・必要なpHが確保されていることを、フィルタ装置水位の水位変化により推定するケース ・圧力又は温度を水の飽和状態の関係により推定するケース ・注水量を注水先の圧力から注水特性の関係により推定するケース ・原子炉格納容器内の水位を格納容器内圧力(D/W)と格納容器内圧力(S/C)の差圧により推定するケース ・未臨界状態の維持を制御棒の挿入状態により推定するケース ・あらかじめ評価したパラメータの相関関係により酸素濃度を推定するケース ・装置の作動状況により水素濃度を推定するケース ・エリア放射線モニタの傾向監視により格納容器バイパス事象が発生したことを推定するケース ・原子炉格納容器への空気(酸素)の流入の有無を原子炉格納容器内圧力により推定するケース ・使用済燃料プールの状態を同一物理量(温度及び水位)、あらかじめ評価した水位と放射線量率の相関関係及びカメラの監視により、使用済燃料プールの水位又は必要な水遮蔽が確保されていることを推定するケース ・原子炉圧力容器内の圧力と原子炉格納容器内の圧力(S/C)の差圧により原子炉圧力容器の満水状態を推定するケース 	<ul style="list-style-type: none"> ・同一物理量(温度、圧力、水位、放射線量率、水素濃度及び中性子束)から推定するケース ・水位を注水源若しくは注水先の水位変化又は注水量及び吐出圧力から推定するケース ・流量を注水先又は注水源の水位変化を監視することにより推定するケース ・除熱状態を温度、圧力等の傾向監視により推定するケース ・原子炉冷却材圧力バウンダリからの漏えいを水位、圧力等の傾向監視により推定するケース ・圧力又は温度を水の飽和状態の関係から推定するケース ・注水量を注水先の圧力より注水特性の関係から推定するケース ・格納容器内圧力(D/W)と格納容器内圧力(S/C)の差圧から原子炉格納容器内の水位を推定するケース ・未臨界状態の維持を制御棒の挿入状態により推定するケース ・あらかじめ評価したパラメータの相関関係により酸素濃度を推定するケース ・装置の作動状況により水素濃度を推定するケース ・使用済燃料プールの状態を同一物理量(温度及び水位)、あらかじめ評価した水位と放射線量の相関関係及びカメラによる監視により、使用済燃料プールの水位又は必要な水遮蔽が確保されていることを推定するケース 	② (推定手段の拡充)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
11	1.15.2.1(2)	1.15-21 1.15-22	原子炉圧力容器内の温度, 圧力及び水位, 並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量を計測するパラメータのうち, パラメータの値が計器の計測範囲を超えるものは, 原子炉圧力容器内の温度及び水位, 並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量 である。なお, これらのパラメータ以外で計器の計測範囲を超えた場合には, 可搬型計測器により計測することも可能である。可搬型計測器により計測可能な計器について第1.15.2表に示す。	原子炉圧力容器内の温度, 圧力及び水位, 並びに原子炉圧力容器及び原子炉格納容器への注水量を計測するパラメータのうち, パラメータの値が計器の計測範囲を超えるものは, 原子炉圧力容器内の温度と水位である。	⑤
12	1.15.2.1(2)	1.15-22	・原子炉圧力容器内の圧力 原子炉圧力容器内の圧力を計測する計器の計測範囲は, 0~11MPa[gage] である。 原子炉圧力容器の最高使用圧力(8.62MPa)の1.2倍(10.34MPa[gage])を監視可能 であり, 重大事故等時において原子炉圧力容器内の圧力は, 計器の計測範囲内で計測が可能である。	・原子炉圧力容器内の圧力 原子炉圧力容器内の圧力を計測する計器の計測範囲は, 0~10.0MPa[gage]である。重大事故等時の原子炉圧力容器内の圧力は8.62MPa[gage]以下(原子炉圧力容器の最高使用圧力)であり, 重大事故等時において原子炉圧力容器内の圧力は, 計器の計測範囲内で計測が可能である。	② (計器の計測範囲拡大) ⑤
13	1.15.2.1(2)	1.15-22 1.15-23	・原子炉圧力容器内の水位 原子炉圧力容器内の水位を計測する計器の計測範囲は, 蒸気乾燥器スカート下端を基準として, -8000mm~3500mmであり, 原子炉水位制御範囲(レベル3~8)及び有効燃料棒底部まで 計測できるため, 重大事故等時において原子炉圧力容器内の水位は, 計器の計測範囲内で計測が可能である。原子炉圧力容器内の水位のパラメータである, 原子炉水位の計測範囲を超えた場合, 高圧代替注水系系統流量, 原子炉隔離時冷却系系統流量, 高圧炉心注水系系統流量, 復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量), 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量) , 残留熱除去系系統流量のうち, 機器動作状態にある流量計から崩壊熱除去に必要な水量の差を算出し, 直前まで判明していた水位に変換率を考慮することにより原子炉圧力容器内の水位を推定する。 また, 発電用原子炉の満水確認は原子炉圧力(SA)と格納容器内圧力(S/C)の差圧により, 原子炉圧力容器内の水位が有効燃料棒頂部以上であることは原子炉圧力容器温度により監視可能である。	・原子炉圧力容器内の水位 原子炉圧力容器内の水位を計測する計器の計測範囲は, 蒸気乾燥器スカート下端を基準として-8000mm~+3500mmであり, 有効燃料棒底部(BAF)から通常水位を計測できるため, 重大事故等時において原子炉圧力容器内の水位は, 計器の計測範囲内で計測が可能である。原子炉圧力容器内の水位のパラメータである, 原子炉水位の計測範囲を超えた場合, 高圧代替注水系系統流量, 復水補給水系流量(原子炉圧力容器), 原子炉隔離時冷却系系統流量, 高圧炉心注水系系統流量, 残留熱除去系系統流量のうち, 機器動作状態にある流量計から崩壊熱除去に必要な水量の差を算出し, 直前まで判明していた水位に変換率を考慮することにより原子炉圧力容器内の水位を推定する。	⑤ (記載の適正化) ② (計器名称変更) ⑤ (記載の拡充)
14	1.15.2.1(2)	1.15-24	復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)の計測範囲は, 0~200m ³ /h(6号炉), 0~150m ³ /h(7号炉)としており, 計測対象である復水移送ポンプの最大注水量は300m ³ /hであるため, 計器の計測範囲を超える場合がある。復水補給水系流量(RHR A系代替注水流量)の計測範囲を超えた場合, 低圧代替注水系使用時には, 水源である復水貯蔵槽の水位または注水先である原子炉圧力容器内の水位変化により注水量を推定する。なお, 復水貯蔵槽の補給状況も考慮した上で注水量を推定する。代替循環冷却系使用時には, 注水先である原子炉圧力容器内の水位変化により注水量を推定する。 復水補給水系流量(RHR B系代替注水流量)の計測範囲は, 0~350m ³ /hとしており, 計測対象である復水移送ポンプの最大注水量は, 300m ³ /hであるため, 計器の計測範囲内の流量測定が可能である。	-	② (推定手段の拡充)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
15	1.15.2.1(2)	1.15-25	復水補給水系流量(格納容器下部注水流量)の計測範囲を超えた場合、水源である復水貯蔵槽の水位又は注水先である原子炉格納容器内の水位変化により注水量を推定する。なお、復水貯蔵槽の補給状況も考慮した上で注水量を推定する。	-	② (推定手段の拡充)
16	1.15.2.1(2)a.	1.15-25	<p>a. 代替パラメータによる推定 重大事故等時において、計器の計測範囲を超過した場合、代替パラメータによる推定を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 重大事故等時に、原子炉圧力容器内の水位、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器への注水量を監視するパラメータが計器の計測範囲を超過し、指示値が確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順 計器の計測範囲超過の判断及び対応手順は、以下のとおり。 ①運転員は、発電用原子炉施設の状況を把握するために必要な重要監視パラメータについて、他チャンネルの重要計器がある場合には、当該計器により当該パラメータを計測する。 また、当該パラメータの常用計器が監視可能であれば確認に使用する。 ②運転員は、読み取った指示値が正常であることを、計測範囲内にあること及びプラント状況によりあらかじめ推定される値との間に大きな差異がないことにより確認する。 ③当該パラメータが計測範囲外にある場合には、当直副長は、あらかじめ選定した重要代替監視パラメータの計測を運転員に指示する。 ④運転員は、読み取った指示値を当直副長に報告する。なお、常用代替計器が使用可能であれば、併せて確認する。 ⑤当直長は、当直副長からの依頼に基づき、緊急時対策本部へ重要代替監視パラメータの指示値から主要パラメータの推定を依頼する。 ⑥緊急時対策本部は、当直長に主要パラメータの推定結果を報告する。</p>	<p>a. 手順着手の判断基準 重大事故等時に、原子炉圧力容器内の水位を監視するパラメータが計器の計測範囲を超過し、指示値が確認できない場合。</p> <p>b. 操作手順 (a) 原子炉圧力容器内の水位 計器の計測範囲を超えたかどうかの判断及び対応手順は以下のとおり。 ① 運転員は、読み取った指示値が正常であるかどうかを、プラント状況等によりあらかじめ推定される値との間に大きな差異がないことにより確認する。 ② 運転員は、原子炉水位の他チャンネル指示値を確認し、他チャンネルの指示値も同じ傾向か否かを確認する。 ③ 原子炉水位の計測範囲を超えた場合、運転員は高圧代替注水系系統流量、復水補給水系流量(原子炉圧力容器)、原子炉隔離時冷却系系統流量、高圧炉心注水系系統流量、残留熱除去系系統流量のうち、機器動作状態にある流量計から崩壊熱除去に必要な水量の差を算出し、直前まで判明していた水位に変換率を考慮することにより原子炉圧力容器内の水位を推定する。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
17	1.15.2.1(2)b.	1.15-26 1.15-27	<p>b. 可搬型計測器によるパラメータ計測又は監視 重大事故等時において, 主要パラメータが計器の計測範囲を超過した場合, 可搬型計測器による計測を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 重大事故等時に, 主要パラメータが計器の計測範囲を超過し, 指示値が確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順(現場での計測の場合) 可搬型計測器によるパラメータ計測の概要は以下のとおり。また, タイムチャートを第1.15.5図に示す。 ①当直副長は, 手順着手の判断基準に基づき, 運転員に可搬型計測器によるパラメータの計測開始を指示する。 ②現場運転員C及びDは, 可搬型計測器を使用する前に電池容量を確認し, 残量が少ない場合は予備乾電池と交換する。 ③現場運転員C及びDは, 原子炉建屋地下1階又はタービン建屋地下中2階(6号炉)のあらかじめ定めた端子台にて, 測定対象パラメータの信号出力端子と可搬型計測器を接続し, 測定を開始する。 ④現場運転員C及びDは, 可搬型計測器に表示される計測結果を読み取り, 結果を中央制御室運転員A及びBに報告する。 ⑤中央制御室運転員A及びBは, 現場運転員C及びDからの計測結果を換算表により工学値に換算し, 記録する。</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の現場対応は1測定点当たり, 中央制御室運転員2名, 現場運転員2名にて実施し, 作業開始を判断してから所要時間は約18分で可能である。また, 中央制御室での計測の場合, 中央制御室運転員2名にて実施し, 作業開始を判断してから所要時間は約10分で可能である。 円滑に作業ができるように, 移動経路を確保し, 防護具, 照明及び通信連絡設備を整備する。</p>	-	⑤
18	1.15.2.2(1)b.	1.15-28	<p>b. 常設代替交流電源設備, 第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電 全交流動力電源喪失が発生した場合に, 常設代替交流電源設備, 第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電に関する手順は, 「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	<p>b.常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電全交流動力電源喪失が発生した場合に, 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電に関する手順は, 「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	② (第二GTGの自主化)
19	1.15.2.2(1)d. (b)	1.15-29	<p>③現場運転員C及びDは, 原子炉建屋地下1階又はタービン建屋地下中2階(6号炉)のあらかじめ定めた端子台にて, 測定対象パラメータの信号出力端子と可搬型計測器を接続し, 測定を開始する。</p>	<p>③ 現場運転員C 及びD は, 原子炉建屋地下1階及びタービン建屋地下中2階にて, 測定対象パラメータの信号出力端子と可搬型計測器を接続し, 測定を開始する。</p>	⑤ (記載の適正化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
20	1.15.2.2(1)d. (c)	1.15-30	上記の現場対応は1測定点当たり, 中央制御室運転員2名, 現場運転員2名にて実施し, 作業開始を判断してから所要時間は約18分で可能である。また, 中央制御室での計測の場合, 中央制御室運転員2名にて実施し, 作業開始を判断してから所要時間は約10分で可能である。	上記の現場対応は1測定点当たり, 中央制御室運転員2名, 現場運転員2名にて実施し, 作業開始を判断してから所要時間は約15分で可能である。	⑤
21	1.15.2.2(1)e.	1.15-30	所内蓄電式直流電源設備から給電されている間に, 常設代替交流電源設備, 第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から計器に給電する。 常設代替交流電源設備, 第二代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が困難となった場合で直流電源が枯渇するおそれがある場合は, 可搬型直流電源設備又は直流給電車から計器に給電する。	所内蓄電式直流電源設備から給電されている間に, 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備から計器に給電する。 常設代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備からの給電が困難となった場合で直流電源が枯渇するおそれがある場合は, 可搬型直流電源設備又は直流給電車から計器に給電する。	② (第二GTGの自主化)
22	1.15.3d.(3)	1.15-33	安全パラメータ表示システム(SPDS)による記録は, 安全パラメータ表示システム(SPDS)の記録容量(14日間)を超える前に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所にて緊急時対策要員1名で行う。室内での端末操作であるため, 対応が可能である。	緊急時対策支援システム伝送装置による記録は, 緊急時対策支援システム伝送装置の記録容量(14日間)を超える前に, 緊急時対策本部内にて緊急時対策要員1名で行う。室内での端末操作であるため, 対応が可能である。	② (免振重要棟の自主化)
23	第1.15.1表	1.15-34	計器の計測範囲を超えた場合 可搬型計測器(重大事故等対処設備) 設備変更に伴い対処設備を変更 ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備) ・第二代替交流電源設備(自主対策設備)	— ・常設代替交流電源設備(重大事故等対処設備)	⑤ ② (第二GTGの自主化)
24	第1.15.2表	1.15-35~ 1.15-51	主要パラメータ, 推定手段及び計測範囲の変更に伴う修正	—	② (主要パラメータ, 推定手段及び計測範囲の変更)
25	第1.15.3表	1.15.52~66	原子炉満水時の推定手段の追加, 最終ヒートシンクの確保, 格納容器バイパスの監視等の推定手段の適正化に伴う修正 上記の変更に伴う推定ケース(No10参照)の修正	—	② (推定手段の変更) ⑤
26	第1.15.4表	1.15-67~ 69	技術的能力1.1~1.14の手順変更に伴う補助パラメータの見直し 重大事故等対処設備を活用する手順等の着手の判断基準として用いるパラメータの識別を追記	—	⑤
27	第1.15.2図 添付資料 1.15.2 第1図	1.15-73 1.15-84	補助パラメータ※4 重大事故等対処設備を活用する手順等の着手の判断基準として用いるパラメータについては, 重大事故対処設備とする。	補助パラメータ	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
28	第1.15.3図	1.15-74~76	(1/3)計器名称の変更及び高压炉心注水系ポンプ出口圧力の追加に伴う修正 (2/3)計器名称の変更に伴う修正 (3/3)免震重要棟の自主化に伴う修正	-	② (主要パラメータ, 計器名称の変更及び免震重要棟の自主化)
29	第1.15.4図	1.15-77,78	第二GTGの自主化及び緊急用断路器の通常状態変更に伴い電源構成図を修正	-	② (第二GTGの自主化, 緊急用断路器の運用変更)
30	第1.15.5図	1.15-79	「現場での可搬型計器接続」時の移動時間変更に伴うタイムチャートの修正	-	⑤
31	添付資料 1.15.2	1.15-85~91	原子炉満水時の推定手段の追加, 最終ヒートシンクの確保, 格納容器バイパスの監視等の推定手段の適正化に伴う修正	-	② (主要パラメータ及び推定手段の変更)
32	添付資料 1.15.3	1.15-97~445	技術的能力の手順変更及び有効性評価のシナリオ見直しに伴う監視計器変更の反映 推定手段の変更に伴う代替パラメータの修正	-	⑤
33	添付資料 1.15.4	1.15-446	b.作業場所 6号炉: 中央制御室, 原子炉建屋(非管理区域)地下1階, タービン建屋(非管理区域)地下中2階 7号炉: 中央制御室, 原子炉建屋(非管理区域)地下1階	b.作業場所 中央制御室, 原子炉建屋(非管理区域)地下1階, タービン建屋(非管理区域)地下中2階	⑤
34	添付資料 1.15.4	1.15-446	所要時間目安: 1測定点あたり10分(中央制御室における接続, 計測の場合) 1測定点あたり18分(現場における接続, 計測の場合)	所要時間目安: 1測定点あたり10分(中央制御室における接続, 計測の場合)	⑤
35	添付資料 1.15.5	1.15-448~451	格納容器バイパスの監視における重要監視パラメータの変更に伴う修正 計器名称の変更に伴う修正	-	② (主要パラメータ及び計器名称の変更) ⑤
36	添付資料 1.15.6	1.15-453~470	原子炉満水時の推定手段の追加, 最終ヒートシンクの確保, 格納容器バイパスの監視等の推定手段の適正化に伴う修正	-	② (主要パラメータ及び計器名称の変更) ⑤

主要修正箇所一覧表

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.16 原子炉制御室の居住性等に関する手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
1	目次	1.16-1～2	(2) 中央制御室待避室の準備手順 a. 中央制御室待避室陽圧化装置による中央制御室待避室の陽圧化手順 b. カードル式空気ポンベユニットによる中央制御室待避室の陽圧化手順	(2)中央制御室待避室の準備手順	⑤
2	目次	1.16-2	1.16.2.3 運転員等の被ばくを低減するための手順等 (1) 非常用ガス処理系による運転員等の被ばく防止手順 a. 非常用ガス処理系起動手順 b. 非常用ガス処理系停止手順	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
3	1.16.1(2)a.(a)	1.16-7	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素濃度・二酸化炭素濃度計 ・無線連絡設備(常設) ・無線連絡設備(常設)(屋外アンテナ) ・衛星電話設備(常設) ・衛星電話設備(常設)(屋外アンテナ) ・データ表示装置(待避室) ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・非常用照明 ・カードル式空気ポンベユニット 	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素濃度・二酸化炭素濃度計 ・無線連絡設備(常設)(待避室) ・無線連絡設備(常設)(屋外アンテナ) ・衛星電話設備(常設)(待避室) ・衛星電話設備(常設)(屋外アンテナ) ・データ表示装置(待避室) ・常設代替交流電源設備 ・非常用照明 ・カードル式空気ポンベユニット 	② (第二GTGの自主化)
4	1.16.1(2)a.(a)	1.16-8	<p>原子炉建屋原子炉区域を負圧に維持することで、重大事故等により原子炉格納容器から原子炉建屋原子炉区域内に漏えいしてくる放射性物質が原子炉建屋原子炉区域から直接環境へ放出されることを防ぎ、運転員等の被ばくを未然に防止する手段がある。</p> <p>運転員等の被ばくを未然に防止するための設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用ガス処理系排風機 ・非常用ガス処理系フィルタ装置 ・非常用ガス処理系乾燥装置 ・非常用ガス処理系配管・弁 ・主排気筒(内筒) ・非常用ガス処理系排気流量 ・原子炉建屋外気差圧 ・原子炉建屋原子炉区域 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 	—	② (SGTS SA化に伴う追加)

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
5	1.16.1(2)a.(b)	1.16-9	酸素濃度・二酸化炭素濃度計、無線連絡設備(常設)、無線連絡設備(常設)(屋外アンテナ)、衛星電話設備(常設)、衛星電話設備(常設)(屋外アンテナ)、データ表示装置(待避室)、非常用交流電源設備、常設代替交流電源設備、非常用ガス処理系排風機、非常用ガス処理系フィルタ装置、非常用ガス処理系乾燥装置、非常用ガス処理系配管・弁、主排気筒(内筒)、非常用ガス処理系排気流量、原子炉建屋外気差圧及び原子炉建屋原子炉区域は重大事故等対処設備と位置付ける。	酸素濃度・二酸化炭素濃度計、無線連絡設備(常設)(待避室)、無線連絡設備(常設)(屋外アンテナ)、衛星電話設備(常設)(待避室)、衛星電話設備(常設)(屋外アンテナ)、データ表示装置、及び常設代替交流電源設備は重大事故等対処設備と位置づける。	② (SGTS SA化に伴う追加)
6	1.16.1(2)a.(b)	1.16-10	・第二代替交流電源設備 耐震性は確保されていないが、常設代替交流電源設備と同等の機能を有することから、健全性が確認できた場合において、事故対応時に必要な電源を確保するための手段として有効である。	—	② (第二GTGの自主化)
7	1.16.2.1(1)a.(b)	1.16-16	⑤当直副長は、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、現場運転員E及びFに中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。	⑤当直副長は、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。	⑤
8	1.16.2.1(1)a.(b)	1.16-17	⑤当直副長は、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、現場運転員E及びFに中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。 ⑥現場運転員E及びFは、コントロール建屋計測制御電源盤区域(B)送・排風機室にて中央制御室と隣接区画の差圧を確認しながら中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量を調整し、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持する。(中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整は、起動時に調整後は再調整不要。)	⑤当直副長は、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。 ⑥現場運転員E及びFは、中央制御室にて中央制御室と隣接区画の差圧を確認しながら中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量を調整し、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持する。(中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整は、起動時に調整後は再調整不要)	⑤
9	1.16.2.1(1)b.(b)	1.16-20	⑤当直副長は、現場運転員E及びFに中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。 ⑥現場運転員E及びFは、コントロール建屋計測制御電源盤区域(B)送・排風機室にて中央制御室と隣接区画の差圧を確認しながら中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量を調整し、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持する。(中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整は、起動時に調整後は再調整不要。)	⑤当直副長は、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持するよう、中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整を指示する。 ⑥現場運転員E及びFは、中央制御室にて中央制御室と隣接区画の差圧を確認しながら中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量を調整し、中央制御室の圧力を隣接区画より陽圧に維持する。(中央制御室可搬型陽圧化空調機の流量調整は、起動時に調整後は再調整不要)	⑤
10	1.16.2.1(2)b.	1.16-25～28	b. カードル式空気ポンプユニットによる中央制御室待避室の陽圧化手順 (a) 手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合※1で、中央制御室待避室陽圧化装置を使用できない場合、又は6号及び7号炉の同時でない原子炉格納容器ベント操作を実施する場合。 ～	—	⑤

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
11	1.16.2.1(8) a.	1.16-35	(8) その他の放射線防護措置等に関する手順等 a. 炉心損傷の判断後に全面マスクを着用する手順 炉心損傷の判断後に運転員が中央制御室に滞在する場合、又は現場作業を実施する場合において、全面マスクを着用する手順を整備する。	a.炉心損傷判断後に現場作業を行う際に全面マスクを着用する手順 中央制御室の運転員は、中央制御室又は中央制御室待避室に滞在中は、中央制御室・中央制御室待避室の設計上、全面マスクを着用する必要はないが、現場作業時を考慮し全面マスクを着用する手順を整備する。	③ (被ばく評価の見直しに伴う変更)
12	1.16.2.1(8) a.(b)	1.16-36	炉心損傷の判断後に全面マスクを着用する手順の概要は以下のとおり。 ①当直副長は、手順着手の判断基準に基づき炉心損傷の判断後に中央制御室に滞在する場合、又は現場作業を実施する場合において、運転員に全面マスク着用を指示する。	炉心損傷判断後に現場作業を行う際に全面マスクを着用する手順の概要は以下のとおり。 ① 当直副長は、手順着手の判断基準に基づき炉心損傷判断後の現場作業において、運転員に全面マスク着用を指示する。	③ (被ばく評価の見直しに伴う変更)
13	1.16.2.2.(1)	1.16-40	チェン징エリアには、防護具を脱衣する脱衣エリア、放射性物質による要員や物品の汚染を確認するためのサーベイエリア、汚染が確認された際に除染を行う除染エリアを設け、運転員等が汚染検査及び除染を行うとともに、チェン징エリアの汚染管理を行う。除染エリアは、サーベイエリアに隣接して設置し、除染はウェットティッシュでの拭き取りを基本とするが、拭き取りにて除染できない場合は、簡易シャワーにて水洗による除染を行う。簡易シャワーで発生した汚染水は、必要に応じてウエスへ染み込ませる等により固体廃棄物として廃棄する。	—	⑤
14	1.16.2.2.(1)a	1.16-41	a. 手順着手の判断基準 当直副長が、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生したと判断した後、保安班長が、事象進展の状況(格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)等により炉心損傷※1を判断した場合等)、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェン징エリア設営を行うと判断した場合。 ※1: 格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)で原子炉格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)が使用できない場合に原子炉圧力容器温度計で300℃以上を確認した場合。 (添付資料1.16.5)	a.手順着手の判断基準 当直副長が、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生したと判断した後、保安班長が、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェン징エリア設営を行うと判断した場合。	⑤
15	1.16.2.3	1.16-42～ 46	1.16.2.3 運転員等の被ばくを低減するための手順等	—	② (SGTS SA化に伴う追加)

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
16	第1.16.1表	1.16-48	<p>被ばく線量低減対策に関する対処設備及び手順の追加 対処設備 ・非常用ガス処理系排風機 ・非常用ガス処理系フィルタ装置 ・非常用ガス処理系乾燥装置 ・非常用ガス処理系配管・弁 ・主排気筒(内筒) ・非常用ガス処理系排気流量 ・原子炉建屋外気差圧 ・原子炉建屋原子炉区域 ・非常用交流電源設備 ・常設代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備 ・第二代替交流電源設備</p> <p>手順 AM設備別操作手順書 SGTSによるR/B負圧維持及び放射性物質除去</p>	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
17	第1.16.2表	1.16-50	<p>被ばく線量低減対策で追加した手順で確認する監視項目と監視パラメータを追加</p> <p>監視項目 ・原子炉区域排気放射能高 ・燃料取替エリア放射能高 ・ドライウエル圧力高 ・原子炉水位低(L-3) ・原子炉区域・タービン区域換気空調系全停 ・原子炉区域・タービン区域換気空調系全停 ・非常用ガス処理系起動</p> <p>監視パラメータ 放射線モニタ 格納容器内圧力(D/W,S/C) 原子炉水位 原子炉建屋外気差圧 原子炉建屋外気差圧 非常用ガス処理系排気流量 原子炉建屋外気差圧</p>	—	② (SGTS SA化に伴う追加)

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
18	第1.16.1表	1.16-51	被ばく線量低減対策で追加した対処設備(SGTS)と給電元・給電母線の追加 6号炉 非常用ガス処理系 モータコントロールセンタ 6C-1-3, 6D-1-3 7号炉 非常用ガス処理系 モータコントロールセンタ 7C-1-3, 7D-1-3	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
19	第1.16.7図	1.16-57	免震重要棟内緊急時対策所に関する記載を削除	—	② (免震棟削除に伴う変更)
20	第1.16.8,9 図	1.16-58,59	被ばく線量低減対策で追加した対処設備(SGTS)の概要図の追加	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
21	第 1.16.12,13,1 4図	1.16-63~ 65	有効性評価タイムチャート変更に伴う変更	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
22	添付資料 1.16.1 第1.2図	1.16-67~ 68	被ばく線量低減対策で追加した対処設備(SGTS)追加に伴う単線結線図の変更	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
23	添付資料 1.16.2 審査基準、 基準規則と 対処設備と の対応表 (3/3)	1.16-71	被ばく線量低減対策で追加した対処設備(SGTS)追加に伴う対応表の追加	—	② (SGTS SA化に伴う追加)
24	添付資料 1.16.8 (1)	1.16-86	(実用発電用原子炉及びその附属設備の技術基準に関する規則の解釈第74条第1項(原子炉制御室)抜粋) 原子炉制御室の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、原子炉制御室への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること	—	⑤

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
25	添付資料 1.16.8 (2)	1.16-87	原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況(格納容器雰囲気放射線レベル計(CAMS)等により炉心損傷を判断した場合等)、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。	原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。	⑤
26	添付資料 1.16.8 (4)	1.16-89	設営の着手は、保安班長が、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、事象進展の状況(格納容器雰囲気放射線レベル計(CAMS)等により炉心損傷を判断した場合等)、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して判断し、速やかに実施する。	設営の着手は、保安班長が、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して判断し、速やかに実施する。	⑤
27	添付資料 1.16.8 (5)g.	1.16-95	ブルーム通過後にチェンジングエリアの出入管理を再開する際には、表面汚染密度、線量率及び空气中放射性物質濃度の測定を実施し、必要に応じチェンジングエリアの除染を実施する。なお、測定及び除染を行った要員は、脱衣エリアにて脱衣を行う。	—	⑤
28	添付資料 1.16.8 (6)b.	1.16-97	チェンジングエリアは、靴脱ぎ場及び脱衣エリアの空間をエアートントにより区画する。エアートントの外観は第6図のとおりであり、高圧ポンベにより約3分間送風することで、展張することが可能である。なお、展張は手動及びブロワによる送風も可能な設計とする。 チェンジングエリア内面は、必要に応じて汚染の除去の容易さの観点から養生シートを貼ることとし、一時閉鎖となる時間を短縮している。また、エアートントに損傷が生じた際は、速やかに補修が行えるよう補修用の資機材を準備する。	チェンジングエリアは、靴脱ぎ場及び脱衣エリアの空間をエアートントにより区画する。エアートントの外観は図6のとおりであり、仕様は表3のとおり。チェンジングエリア内面は、必要に応じて汚染の除去の容易さの観点から養生シートを貼ることとし、一時閉鎖となる時間を短縮している。	⑤
29	添付資料 1.16.8 (6)d.	1.16-100	中央制御室に入室しようとする要員に付着した汚染が、他の要員に伝播することがないようにサーベイエリアにおいて要員の汚染が確認された場合は、汚染箇所を養生するとともに、サーベイエリア内に汚染が移行していないことを確認する。 サーベイエリア内に汚染が確認された場合は、一時的にチェンジングエリアを閉鎖するが、速やかに養生シートを張り替える等により、要員の出入りに大きな影響は与えないようにする。ただし、中央制御室から緊急に現場に行く必要がある場合は、張り替え途中であっても、退室する要員は防護具を着用していることから、退室することは可能である。	中央制御室に入室しようとする要員に付着した汚染が、他の要員に伝播することがないようにサーベイエリアにおいて要員の汚染が確認された場合は、汚染箇所を養生するとともに、サーベイエリア内に汚染が移行していないことを確認する。サーベイエリア内に汚染が確認された場合は、速やかに養生シートを張り替える等により、要員の出入りに大きな影響は与えないようにする。	⑤
30	添付資料 1.16.8 (8)	1.16-101	炉心損傷の判断後に運転員が中央制御室に滞在する場合、又は現場作業を実施する際に全面マスクを着用する。	中央制御室内は、中央制御室可搬型陽圧化空調機により陽圧化することで希ガス以外の放射性物質の流入防止対策を行っているため、マスク着用は不要とする。	③ (被ばく評価の見直しに伴う変更)

主要修正箇所一覧表

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	総点検後	総点検前	変更理由
31	添付資料 1.16.8 (8)	1.16-102	保安班は、チェン징エリアの設置以外に、緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転(60分)、可搬型エリアモニタの設置(20分)、可搬型モニタリングポストの設置(最大435分)、可搬型気象観測装置の設置(90分)を行うことを想定している。これら対応項目の優先順位については、保安班長が状況に応じ判断する。以下にタイムチャートの例を示す。なお、緊急時対策所のチェン징エリアは、北東側ルートを設定した場合(90分)を想定する。	保安班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用することが決定した場合、チェン징エリアの設置以外に、緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転(50分)、可搬型エリアモニタの設置(30分)、可搬型モニタリングポストの設置(最大420分)、可搬型気象観測装置の設置(90分)を行うことを技術的能力にて説明している。これら対応項目の優先順位については、保安班長が状況に応じ判断する。以下にタイムチャートを示す。	⑤
37	添付資料 1.16.9 (3)	1.16-105	中央制御室に配備する飲食料等の追記	—	⑤
38	添付資料 1.16.10	1.16-106～ 110	運転員の被ばく線量についての評価条件変更に伴う修正	—	③ (被ばく評価の見直しに伴う変更)
39	添付資料 1.16.13	1.16-114	6号及び7号炉が同時に全交流動力電源喪失した場合には、6号及び7号炉の現場運転員の各2組(各4人)は、原子炉建屋地下1階のM/C(D)室及びコントロール建屋地下1階の区分Ⅱ計測制御電源盤室で交流電源の受電準備を行っている。	6号及び7号炉が同時に全交流動力電源喪失した場合には、7号炉現場運転員の2組(4人)は、M/C(C)、(D)室で交流電源の受電準備を行っているが	② (第二GTGの自主化)
40	添付資料 1.16.13	1.16-114	事故発生直後から中央制御室内放射線量が急上昇した時の対応については上記で記載したように、火災が発生していなければ初期消火要員で対応可能であるが、現場運転員で対応したとしても、中央制御室内放射線量上昇から30分(M/C(D)受電準備作業10分+移動5分+弁閉操作15分)で中央制御室を換気隔離可能である。	事故発生直後から中央制御室内放射線量が急上昇した時の対応については上記で記載したように、火災が発生していなければ初期消火要員で対応可能であるが、現場運転員で対応したとしても、中央制御室内放射線量上昇から40分(移動10分+弁閉操作30分)で中央制御室を換気隔離可能である。	② (第二GTGの自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.17 監視測定等に関する手順等

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	1.17.1 (2)a.(a)	1.17-8	・データ処理装置		⑤ ([流路]を記載することとした)
2	1.17.1 (2)a.(b)	1.17-9 1.17-10	放射線量の測定に使用する設備のうち、可搬型モニタリングポスト、データ処理装置、可搬型放射線計測器(電離箱サーベイメータ)及び小型船舶(海上モニタリング用)は、重大事故等対処設備として位置付ける。 また、放射性物質の濃度の測定に使用する設備のうち、可搬型放射線計測器(可搬型ダスト・よう素サンブラ、NaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータ及びZnSシンチレーションサーベイメータ)及び小型船舶(海上モニタリング用)は、重大事故等対処設備として位置付ける。これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備として全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、発電所及びその周辺(発電所の周辺海域を含む。)において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる。 また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備として位置付ける。あわせて、その理由を示す。	放射線量の測定に使用する設備のうち、可搬型モニタリングポスト、可搬型放射線計測器(電離箱サーベイメータ)及び小型船舶(海上モニタリング用)を重大事故等対処設備と位置づける。 また、放射性物質の濃度の測定に使用する設備のうち、可搬型放射線計測器(可搬型ダスト・よう素サンブラ、GM汚染サーベイメータ、NaIシンチレーションサーベイメータ、ZnSシンチレーションサーベイメータ)及び小型船舶(海上モニタリング用)を重大事故等対処設備と位置づける。これらの選定した設備により、審査基準及び基準規則に要求される事項が全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、発電所及びその周辺(周辺海域を含む。)において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録することができる。 また、以下の設備は自主対策設備であり、耐震SクラスではなくSs機能維持できない場合等、重大事故等時に機能維持を担保できないが、機能喪失していない場合には、事故対応に有効であるため使用する。	⑤ ([流路]を記載することとした) (設備の記載順番) (他条文との整合)
3	1.17.1 (2)a.(b)	1.17-10	耐震性は確保されていないが、健全性が確認できた場合において、重大事故等時の放射性物質の濃度及び放射線量を測定するための手段として有効である。		⑤ (説明内容を拡充)
4	1.17.1 (2)b.(a)	1.17-10	・データ処理装置		⑤ ([流路]を記載することとした)
5	1.17.1 (2)b.(b)	1.17-10 1.17-11	風向、風速その他の気象条件の測定に使用する設備のうち、可搬型気象観測装置及びデータ処理装置は、重大事故等対処設備として位置付ける。 これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備として全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、重大事故等が発生した場合に、発電所において風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる。	風向、風速その他の気象条件の測定に使用する設備のうち、可搬型気象観測装置は重大事故等対処設備と位置づける。 可搬型気象観測装置は、審査基準及び基準規則に要求される事項が全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、重大事故等が発生した場合に、発電所における風向、風速その他の気象条件を測定し、及びその結果を記録できる。	⑤ ([流路]を記載することとした)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
6	1.17.1 (2)b.(b)	1.17-11	また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備として位置付ける。あわせて、その理由を示す。 ・気象観測設備 耐震性は確保されていないが、健全性が確認できた場合において、風向、風速その他の気象条件を測定するための手段として有効である。	また、以下の設備は自主対策設備であり、耐震SクラスではなくSs 機能維持できない場合等、重大事故等時に機能維持を担保できないが、機能喪失していない場合には、事故対応に有効であるため使用する。 ・気象観測設備	⑤ (説明内容を拡充)
7	1.17.1 (2)c.(a)	1.17-11	常用所内電源が喪失し、モニタリング・ポストの電源が喪失した場合、モニタリング・ポストの電源を回復させるため、無停電電源装置及び代替交流電源設備(モニタリング・ポスト用発電機)から給電する手段がある。 なお、モニタリング・ポストの電源を回復してもモニタリング・ポストの機能が回復しない場合は、可搬型モニタリングポスト及びデータ処理装置により代替測定する手段がある。 モニタリング・ポストの電源回復又は機能回復で使用する設備は以下のとおり。	常用電源が喪失し、モニタリング・ポストの電源が喪失した場合、モニタリング・ポストの電源を回復させるため、無停電電源装置及び代替交流電源設備(モニタリング・ポスト用発電機)から給電する手段がある。 なお、電源を回復してもモニタリング・ポストの機能が回復しない場合は、可搬型モニタリングポストにより代替測定が可能である。 モニタリング・ポストの電源回復あるいは機能回復に使用する設備は以下のとおり。	⑤ ([流路]を記載することとした)
8	1.17.1 (2)c.(a)	1.17-12	・データ処理装置		⑤ ([流路]を記載することとした)
9	1.17.1 (2)c.(b)	1.17-12	モニタリング・ポストの電源回復又は機能回復で使用する設備のうち、モニタリング・ポスト用発電機、可搬型モニタリングポスト及びデータ処理装置は、重大事故等対処設備として位置付ける。これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備として全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、常用所内電源が喪失した場合においても、モニタリング・ポストの電源又は機能を回復し、発電所及びその周辺において発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録できる。 また、以下の設備はプラント状況によっては事故対応に有効な設備であるため、自主対策設備として位置付ける。あわせて、その理由を示す。 ・無停電電源装置 耐震性は確保されていないが、モニタリング・ポストの電源が喪失した場合に、モニタリング・ポスト用発電機から給電するまでの間のモニタリング・ポストの機能を維持するための手段として有効である。	常用電源が喪失し、モニタリング・ポストの電源が喪失した場合、モニタリング・ポストの電源を回復させるための設備のうち、モニタリング・ポスト用発電機を重大事故等対処設備として位置づける。 モニタリング・ポスト用発電機は、審査基準及び基準規則に要求される事項が全て網羅されている。 以上の重大事故等対処設備により、常用電源が喪失した場合においても、モニタリング・ポストの電源を回復し、発電所及びその周辺において発電用原子炉施設から放出される放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録することができる。 また、以下の設備は自主対策設備であり、耐震SクラスではなくSs 機能維持できない場合等、重大事故等時に機能維持を担保できないが、機能喪失していない場合には、事故対応に有効であるため使用する。 ・無停電電源装置	⑤ (説明内容を拡充)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.17.2.1 (2)	1.17-15 1.17-16	<p>重大事故等時にモニタリング・ポストが機能喪失した場合、可搬型モニタリングポストによる放射線量の代替測定を行う。また、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した場合、モニタリング・ポストが設置されていない海側等に可搬型モニタリングポストを5台配置し、放射線量の測定を行う。さらに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化の判断のため、5号炉原子炉建屋付近に可搬型モニタリングポストを1台配置し、放射線量の測定を行う。</p> <p>可搬型モニタリングポストにより放射線量を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するための手順を整備する。この手順のフローチャートを第1.17.1図に示す。</p> <p>可搬型モニタリングポストによる代替測定地点については、測定データの連続性を考慮し、各モニタリング・ポストに隣接した位置に配置することを原則とする。可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所を第1.17.2図に示す。</p> <p>ただし、地震・火災等で配置位置にアクセスすることができない場合は、アクセスルート上の車両等で運搬できる範囲に配置位置を変更する。</p>	<p>重大事故等時にモニタリング・ポストが機能喪失した場合、可搬型モニタリングポストにより放射線量を監視、及び測定し、並びにその結果を記録するための手順を整備する。この手順のフローチャートを図1.17.1に示す。</p> <p>可搬型モニタリングポストによる代替測定地点については、計測データの連続性を考慮し、各モニタリング・ポストに隣接した位置に配置することを原則とし、図1.17.2に示す。また、海側へのブルームの放出を考慮し、海側等に5台設置する。</p> <p>さらに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用することが決定した場合は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化の判断のため5号炉原子炉建屋付近に1台設置する。</p> <p>ただし、地震・火災等でアクセスすることが不能となった場合は、アクセスルート上の車両等で運搬できる範囲に配置位置を変更する。</p>	<p>⑤ (記載の拡充)</p> <p>② (免震重要棟の自主化)</p>
11	1.17.2.1 (2)a.	1.17-16	<p>重大事故等時、保安班長が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所でモニタリング・ポストの指示値及び警報表示を確認し、モニタリング・ポストの放射線量の測定機能が喪失したと判断した場合。</p> <p>また、海側等及び5号炉原子炉建屋付近への配置については、当直副長が原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生したと判断した場合。</p>	<p>重大事故等発生後、保安班長が緊急時対策所でモニタリング・ポストの指示値及び警報表示を確認し、モニタリング・ポストの放射線量の測定機能が喪失したと判断した場合。</p> <p>また、海側等への配置については、当直副長が原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生したと判断した場合。さらに、5号炉原子炉建屋付近に設置する1台は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用することが決定した場合に設置する。</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p>
12	1.17.2.1 (2)b.	1.17-17	<p>②保安班員は、高台保管場所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に保管してある可搬型モニタリングポストを車両等に積載し、配置位置まで運搬・配置し、測定を開始する。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所までデータが伝送されていることを確認し、監視を開始する。なお、可搬型モニタリングポストを配置する際に、あらかじめ可搬型モニタリングポスト本体を養生シートにより養生することで、可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策を行う。</p>	<p>②保安班員は、高台保管場所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に保管してある可搬型モニタリングポスト本体、外部バッテリー及び衛星携帯アンテナ部等を、配置場所まで車両等で運搬・設置し、緊急時対策所までデータが伝送されていることを確認し、監視・測定を開始する。</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p> <p>⑤ (バックグラウンド低減対策の一部を記載することとした。)</p>
13	1.17.2.1 (2)b.	1.17-17	<p>(外部バッテリーは連続5日以上使用可能である。なお、15台の可搬型モニタリングポストの外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約5時間30分で可能である。)</p>	<p>(外部バッテリーは連続5日以上使用可能である。なお、15台の可搬型モニタリングポストの外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約5時間15分で可能である。)</p>	<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
14	1.17.2.1 (2)c.	1.17-17 1.17-18	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、連続して15台配置した場合は、作業開始を判断してから約7時間15分で可能である。なお、モニタリング・ポストの代替測定(9台)、海側等の測定(5台)及び陽圧化判断用の測定(1台)をそれぞれ別々実施した場合は、作業開始を判断してから、モニタリング・ポストの代替測定は約4時間45分、海側等の測定は約2時間55分、陽圧化判断用の測定は約55分で可能である。 車両等で配置位置までの運搬ができない場合は、アクセスルート上に車両等で運搬し、配置する。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、連続して15台配置した場合の所要時間は、作業開始を判断してから約7時間で可能である。なお、モニタリング・ポストの代替測定(9台)と海側等の測定(5台)と陽圧化判断用の測定(1台)をそれぞれ別々実施した場合は、作業開始を判断してから、モニタリング・ポストの代替測定は約4時間30分、海側等の測定は約2時間40分、陽圧化判断用の測定は約1時間で可能である。 車両等でモニタリング・ポスト位置までの運搬ができない場合は、アクセスルート上に車両等で運搬し、配置する。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
15	1.17.2.1 (3)c.	1.17-19	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)は、作業開始を判断してから約1時間30分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間で可能である。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
16	1.17.2.1 (4)	1.17-19 1.17-20	重大事故等時に放射能観測車が機能喪失した場合、可搬型放射線計測器(ダスト・よう素サンプラの代替として可搬型ダスト・よう素サンプラ、よう素測定装置の代替としてNaIシンチレーションサーベイメータ、GM計数装置の代替としてGM汚染サーベイメータ)による空気中の放射性物質の濃度の代替測定を行う。可搬型放射線計測器により空気中の放射性物質の濃度を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するための手順を整備する。この手順のフローチャートを第1.17.1図に示す。可搬型放射線計測器の保管場所を第1.17.5図に示す。	重大事故等時に放射能観測車が機能喪失した場合、可搬型放射線計測器(可搬型ダスト・よう素サンプラ、GM汚染サーベイメータ、NaIシンチレーションサーベイメータ)により、空気中の放射性物質の濃度を監視し、及び測定し、並びにその結果を記録するための手順を整備する。この手順のフローチャートを図1.17.1に示す。	① (2017.2.21審査会合コメント「放射能観測車の機能(ダスト・よう素サンプラ、GM計数装置、よう素測定装置)を代替できる重大事故等対処設備をそれぞれ説明すること。」)
17	1.17.2.1 (4)c.	1.17-21	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)は、作業開始を判断してから約1時間35分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間30分で可能である。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
18	1.17.2.1 (5)a.(a)	1.17-22	重大事故等時、保安班長が主排気筒モニタの指示値及び警報表示を確認し、主排気筒モニタの放射性物質の濃度の測定機能が喪失したと判断した場合。 又は、主排気筒モニタの測定機能が喪失しておらず、指示値に有意な変動を確認する等、保安班長が発電用原子炉施設から気体状の放射性物質が放出されたおそれがあると判断した場合。	重大事故等発生後、保安班長が排気筒モニタ等の指示値の有意な変動を確認する等、発電用原子炉施設から放射性物質が放出されるおそれがあると判断した場合。	① (SA時の判断基準として用いる設備について)
19	1.17.2.1 (5)a.(c)	1.17-24	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)は、作業開始を判断してから約1時間35分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間30分で可能である。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
20	1.17.2.1 (5)b.(a)	1.17-24 1.17-25	重大事故等時、保安班長が液体廃棄物処理系排水モニタの指示値及び警報表示を確認し、液体廃棄物処理系排水モニタの放射性物質の濃度の測定機能が喪失したと判断した場合。 又は、液体廃棄物処理系排水モニタの測定機能が喪失しておらず、指示値に有意な変動を確認する等、保安班長が発電用原子炉施設から発電所の周辺海域へ放射性物質が含まれる水が放出されたおそれがあると判断した場合。	重大事故等発生後、保安班長が廃棄物処理設備排水モニタ等の指示値の有意な変動を確認する等、発電用原子炉施設から周辺海域へ放射性物質が含まれる水が放出されたおそれがあると判断した場合。	① (SA時の判断基準として用いる設備について)
21	1.17.2.1 (5)b.(c)	1.17-26	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)は、作業開始を判断してから約1時間5分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間で可能である。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
22	1.17.2.1 (5)c.(a)	1.17-26 1.17-27	重大事故等時、保安班長が以下のいずれかにより気体状の放射性物質が放出されたと判断した場合(ブルーム通過後)。 ・「1.17.2.1 (3) 放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定」 ・「1.17.2.1 (4) 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定」 ・「1.17.2.1 (5) a. 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定」 ・主排気筒モニタ(測定機能が喪失していない場合)	重大事故等発生後、「(5) 可搬型放射線計測器による放射性物質の濃度及び放射線量の測定 a. 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定」により放射性物質の放出が確認された場合又は、保安班長が排気筒モニタ等の指示値の有意な変動を確認する等、発電用原子炉施設から放射性物質が放出されたと判断した場合。	① (SA時の判断基準として用いる設備について)
23	1.17.2.1 (5)c.(c)	1.17-28	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)は、作業開始を判断してから約1時間5分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業(1箇所あたり)の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間で可能である。また、円滑に作業ができるよう緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
24	1.17.2.1 (5)d.(a)	1.17-29	重大事故等時、保安班長が以下のいずれかにより気体状又は液体状の放射性物質が放出されたと判断した場合(ブルーム通過後)。 ・「1.17.2.1 (3) 放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定」 ・「1.17.2.1 (4) 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定」 ・「1.17.2.1 (5) a. 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定」 ・「1.17.2.1 (5) b. 可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定」 ・主排気筒モニタ(測定機能が喪失していない場合) ・液体廃棄物処理系排水モニタ(測定機能が喪失していない場合)	重大事故等発生後、「(5) 可搬型放射線計測器による放射性物質の濃度及び放射線量の測定 b. 可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定」により放射性物質の放出が確認された場合又は、保安班長が排気筒モニタ等の指示値の有意な変動を確認する等、発電用原子炉施設から放射性物質が放出されたと判断した場合。	① (SA時の判断基準として用いる設備について)
25	1.17.2.1 (6)a.	1.17-31	重大事故等時、保安班長がモニタリング・ポストの指示値が安定している状態でモニタリング・ポスト周辺のバックグラウンドレベルとモニタリング・ポストの指示値に有意な差があることを確認し、モニタリング・ポストのバックグラウンド低減対策が必要と判断した場合(ブルーム通過後)。	保安班長が、モニタリング・ポストの指示値が安定している状態で、モニタリング・ポスト周辺のバックグラウンドと指示値に有意な差があることを確認し、バックグラウンド低減対策が必要だと判断した場合。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
26	1.17.2.1 (7)	1.17-32	事故後の周辺汚染により可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定ができなくなることを避けるため、可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策を行う手順を整備する。	事故後の周辺汚染により可搬型モニタリングポストによる測定ができなくなることを避けるため、バックグラウンド低減対策を行う手順を整備する。 「1.17.2.1(2)可搬型モニタリングポストの測定及び代替測定」の手順において、可搬型モニタリングポストを設置する際に、あらかじめ可搬型モニタリングポスト本体を養生シートにより養生を行うことで、バックグラウンド低減対策とする。 また、放射性物質の放出により可搬型モニタリングポストの周辺の汚染を確認した場合、周辺の汚染レベルを確認し、除草、周辺の土壌撤去等により、バックグラウンドの低減を行う。	⑤ (手順の中に記載することとした)
27	1.17.2.1 (7)a.	1.17-33	重大事故等時、保安班長が可搬型モニタリングポストの指示値が安定している状態で可搬型モニタリングポスト周辺のバックグラウンドレベルと可搬型モニタリングポストの指示値に有意な差があることを確認し、可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策が必要と判断した場合(ブルーム通過後)。	保安班長が、可搬型モニタリングポストの指示値が安定している状態で、可搬型モニタリングポスト周辺のバックグラウンドと指示値に有意な差があることを確認し、バックグラウンド低減対策が必要だと判断した場合。	⑤
28	1.17.2.1 (7)c.	1.17-33 1.17-34	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、可搬型モニタリングポスト15台分の養生シートの交換作業は、作業開始を判断してから約5時間35分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、可搬型モニタリングポスト15台分の養生シート交換作業の所要時間は、作業開始を判断してから約5時間40分で可能である。また、円滑に作業ができるよう、緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備等を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
29	1.17.2.1 (8)c.	1.17-35	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、遮蔽材で囲む等は、作業開始を判断してから約25分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。	上記の対応は、保安班員2名にて実施し、遮蔽材で囲む等の所要時間は、作業開始を判断してから約20分で可能である。また、円滑に作業ができるよう、緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備等を整備する。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
30	1.17.2.1 (9)	1.17-35 1.17-36	重大事故等時の敷地外でのモニタリングについては、国が地方公共団体と連携して策定するモニタリング計画に従い、資機材、要員及び放出源情報を提供するとともにモニタリングに協力する。 また、原子力災害が発生した場合に他の原子力事業者との協力体制を構築するため原子力事業者間協力協定を締結し、環境放射線モニタリング等への要員の派遣、資機材の貸与等を受けることが可能である。	重大事故等時の敷地外でのモニタリングについては、国、地方公共団体と連携して策定されるモニタリング計画に従い、資機材及び要員の動員、放出源情報を提供するとともにモニタリングに協力する。 また、原子力災害が発生した場合に他の原子力事業者との協力体制を構築するため原子力事業者間協力協定を締結し、環境放射線モニタリング等への要員の派遣、測定装置の貸与等を受けることが可能である。	⑤
31	1.17.2.2 (2)b.	1.17-38	なお、1台の可搬型気象観測装置の外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約50分で可能である。	なお、1台の可搬型気象観測装置の外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約30分で可能である。	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																												
32	1.17.2.3	1.17-38 1.17-39	<p>常用所内電源喪失時は、無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機によりモニタリング・ポストへ給電する。無停電電源装置は、常用所内電源喪失時に自動起動し、約15時間の間モニタリング・ポストへ給電することが可能である。モニタリング・ポスト用発電機は、無停電電源装置が機能維持していた場合は15時間以内に、機能喪失していた場合は速やかに手動起動させ、約18時間ごと給油を行いつつ、常用所内電源復旧までの間モニタリング・ポストに給電する。</p> <p>モニタリング・ポストは、電源が喪失した状態でモニタリング・ポスト用発電機から給電した場合、切替え操作を行うことで、放射線量の連続測定を開始する。モニタリング・ポスト用発電機の配置位置を第1.17.17図に示す。</p>	<p>常用電源喪失時は、無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機によりモニタリング・ポストへ給電する。無停電電源装置は、常用電源喪失時に自動起動し、約15時間の間モニタリング・ポストへ給電することが可能である。モニタリング・ポスト用発電機は、無停電電源装置が機能維持していた場合は15時間以内に、機能喪失していた場合は速やかに手動起動させ、約19時間毎に給油を行いつつ、常用電源復旧までの間モニタリング・ポストに給電する。</p> <p>モニタリング・ポストは、電源が喪失した状態からモニタリング・ポスト用発電機から給電した場合、切り替え操作を行うことで、放射線量の連続測定を開始する。</p>	<p>⑤ (19時間から18時間の変更理由:四捨五入ではなく、小数点切り捨てで記載する)</p>																																																																												
33	1.17.2.3 c.	1.17-40	<p>上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業は、作業開始を判断してから約1時間50分で可能である。また、円滑に作業ができるよう5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡用に通信連絡設備を整備する。</p> <p>なお、モニタリング・ポストの機能が回復しない場合は、「1.17.2.1(2)可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定」を行う。</p>	<p>上記の対応は、保安班員2名にて実施し、一連の作業の所要時間は、作業開始を判断してから約1時間30分で可能である。</p> <p>なお、モニタリング・ポストが電源系以外の故障により、機能を喪失した場合は、「1.17.2.1(2)可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定」を行う。</p>	<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>																																																																												
34		1.17-41	<p>第1.17.1表 機能喪失を想定する設計基準対象施設等と整備する手順(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>放射線量の測定</td> <td>モニタリング・ポスト</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>モニタリング・ポスト (放射線量の測定)</td> <td>放射線量の代替測定</td> <td>可搬型モニタリングポスト データ処理装置</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>空気中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>放射能観測車 採取装置：ダスト・よう素サンブラ 測定装置：よう素測定装置 +放射線装置</td> <td>自主対策設備 放射能観測車による測定</td> </tr> <tr> <td>放射能観測車 (空気中の放射性物質の濃度の測定)</td> <td>放射線量の代替測定</td> <td>可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>気象観測項目の測定</td> <td>気象観測設備</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)</td> <td>気象観測項目の代替測定</td> <td>可搬型気象観測装置 データ処理装置</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>放射線量の測定</td> <td>可搬型モニタリングポスト データ処理装置 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌中)の測定</td> <td>可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>Ge-ガンマ線多重度高分析装置 可搬型Ge-ガンマ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table>	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書	—	放射線量の測定	モニタリング・ポスト	自主対策設備	モニタリング・ポスト (放射線量の測定)	放射線量の代替測定	可搬型モニタリングポスト データ処理装置	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定	—	空気中の放射性物質の濃度の測定	放射能観測車 採取装置：ダスト・よう素サンブラ 測定装置：よう素測定装置 +放射線装置	自主対策設備 放射能観測車による測定	放射能観測車 (空気中の放射性物質の濃度の測定)	放射線量の代替測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング	—	気象観測項目の測定	気象観測設備	自主対策設備	気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)	気象観測項目の代替測定	可搬型気象観測装置 データ処理装置	重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定	—	放射線量の測定	可搬型モニタリングポスト データ処理装置 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定 緊急時構内モニタリング	—	放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌中)の測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング			Ge-ガンマ線多重度高分析装置 可搬型Ge-ガンマ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置	自主対策設備	<p>表1.17.1 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>放射線量の測定</td> <td>モニタリング・ポスト</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>モニタリング・ポスト (放射線量の測定)</td> <td>放射線量の代替測定</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>空気中放射性物質の濃度の測定</td> <td>放射能観測車</td> <td>自主対策設備 放射能観測車による測定</td> </tr> <tr> <td>放射能観測車 (空気中放射性物質の濃度の測定)</td> <td>放射線量の代替測定</td> <td>可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td>気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)</td> <td>気象観測設備の代替測定</td> <td>可搬型気象観測装置</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>放射線量の測定</td> <td>可搬型モニタリングポスト 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌)</td> <td>可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ</td> <td>重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>Ge-γ線多重度高分析装置 可搬型Ge-γ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table>	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書	—	放射線量の測定	モニタリング・ポスト	自主対策設備	モニタリング・ポスト (放射線量の測定)	放射線量の代替測定	可搬型モニタリングポスト	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定	—	空気中放射性物質の濃度の測定	放射能観測車	自主対策設備 放射能観測車による測定	放射能観測車 (空気中放射性物質の濃度の測定)	放射線量の代替測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング	気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)	気象観測設備の代替測定	可搬型気象観測装置	重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定	—	放射線量の測定	可搬型モニタリングポスト 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定 緊急時構内モニタリング	—	放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌)	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング			Ge-γ線多重度高分析装置 可搬型Ge-γ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置	自主対策設備	<p>⑤ ([流路]を記載することとした)</p>
機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書																																																																														
—	放射線量の測定	モニタリング・ポスト	自主対策設備																																																																														
モニタリング・ポスト (放射線量の測定)	放射線量の代替測定	可搬型モニタリングポスト データ処理装置	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定																																																																														
—	空気中の放射性物質の濃度の測定	放射能観測車 採取装置：ダスト・よう素サンブラ 測定装置：よう素測定装置 +放射線装置	自主対策設備 放射能観測車による測定																																																																														
放射能観測車 (空気中の放射性物質の濃度の測定)	放射線量の代替測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング																																																																														
—	気象観測項目の測定	気象観測設備	自主対策設備																																																																														
気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)	気象観測項目の代替測定	可搬型気象観測装置 データ処理装置	重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定																																																																														
—	放射線量の測定	可搬型モニタリングポスト データ処理装置 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる 測定 緊急時構内モニタリング																																																																														
—	放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌中)の測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：NaIシンチレーションサーベイメータ :GM汚染サーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング																																																																														
		Ge-ガンマ線多重度高分析装置 可搬型Ge-ガンマ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置	自主対策設備																																																																														
機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書																																																																														
—	放射線量の測定	モニタリング・ポスト	自主対策設備																																																																														
モニタリング・ポスト (放射線量の測定)	放射線量の代替測定	可搬型モニタリングポスト	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定																																																																														
—	空気中放射性物質の濃度の測定	放射能観測車	自主対策設備 放射能観測車による測定																																																																														
放射能観測車 (空気中放射性物質の濃度の測定)	放射線量の代替測定	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング																																																																														
気象観測設備 (風向、風速その他の気象条件の測定)	気象観測設備の代替測定	可搬型気象観測装置	重大事故等 対応設備 可搬型気象観測装置による測定																																																																														
—	放射線量の測定	可搬型モニタリングポスト 可搬型放射線計測器 測定装置：電離箱サーベイメータ	重大事故等 対応設備 可搬型モニタリングポストによる測定 緊急時構内モニタリング																																																																														
—	放射性物質の濃度(空気中、水中、土壌)	可搬型放射線計測器 採取装置：可搬型ダスト・よう素サンブラ 測定装置：GM汚染サーベイメータ :NaIシンチレーションサーベイメータ :ZnSシンチレーションサーベイメータ	重大事故等 対応設備 緊急時構内モニタリング																																																																														
		Ge-γ線多重度高分析装置 可搬型Ge-γ線多重度高分析装置 ガスフロー測定装置	自主対策設備																																																																														

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化



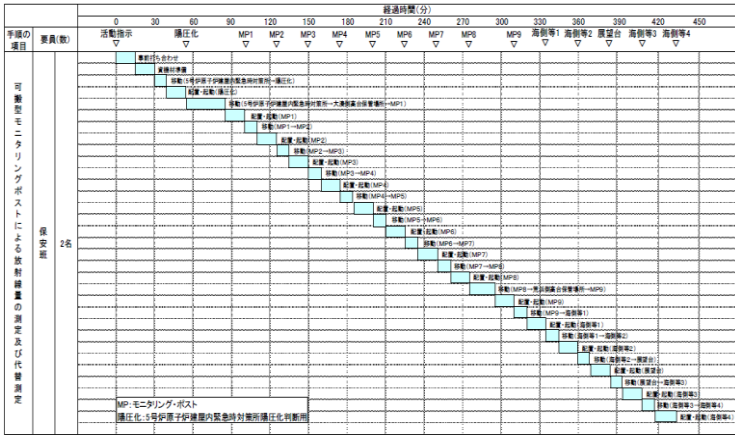
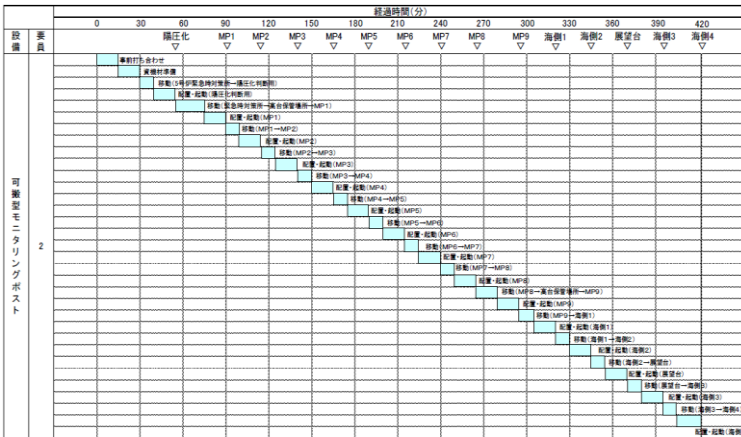
No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																														
35		1.17-45	<p>監視計器一覧 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応 に必要となる 監視項目</th> <th>監視パラメータ (計器)</th> <th>計測範囲 (単位)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射線量</td> <td>モニタリング・ポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射線量</td> <td>モニタリング・ポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射線量</td> <td>可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射線量</td> <td>可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)</td> <td>0.1 ~ 30 (μSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)</td> <td>0.1 ~ 30 (μSv/h)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定</td> <td>判断基準</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)</td> <td>16 (方位) 0 ~ 60 (m/s) 0 ~ 1.43 (kWh/m²) -1.40 ~ 0 (kWh/m²) 0 ~ 110 (mm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定</td> <td>判断基準</td> <td>風向・風速その他の気象条件</td> <td>気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>風向・風速その他の気象条件</td> <td>可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 0 (kWh/m²) 0 ~ 100 (mm)</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応 に必要となる 監視項目	監視パラメータ (計器)	計測範囲 (単位)	1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等				(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	操作	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	操作	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	判断基準	放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)	操作	放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)	1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等				(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定	判断基準	—	—	操作	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)	16 (方位) 0 ~ 60 (m/s) 0 ~ 1.43 (kWh/m ²) -1.40 ~ 0 (kWh/m ²) 0 ~ 110 (mm)	(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	判断基準	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)	操作	風向・風速その他の気象条件	可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 0 (kWh/m ²) 0 ~ 100 (mm)	<p>監視計器一覧 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応 に必要となる監視 項目</th> <th>監視パラメータ (計器)</th> <th>計測範囲 (単位)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射線量</td> <td>モニタリング・ポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射線量</td> <td>モニタリング・ポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射線量</td> <td>可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射線量</td> <td>可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10⁶ (nSv/h)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策</td> <td>判断基準</td> <td>放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)</td> <td>0.1 ~ 30 (μSv/h)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)</td> <td>0.1 ~ 30 (μSv/h)</td> </tr> <tr> <td colspan="4">1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定</td> <td>判断基準</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>風向・風速その他の気象条件</td> <td>気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定</td> <td>判断基準</td> <td>風向・風速その他の気象条件</td> <td>気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>風向・風速その他の気象条件</td> <td>可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 1.25 (kWh/m²) 0 ~ 100 (mm)</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応 に必要となる監視 項目	監視パラメータ (計器)	計測範囲 (単位)	1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等				(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	操作	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	操作	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)	(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	判断基準	放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)	操作	放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)	1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等				(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定	判断基準	—	—	操作	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)	(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	判断基準	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)	操作	風向・風速その他の気象条件	可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 1.25 (kWh/m ²) 0 ~ 100 (mm)	<p>⑤ (気象観測設備、可搬型気象観測設備の計測範囲の誤記を修正した)</p>
対応手段	重大事故等の対応 に必要となる 監視項目	監視パラメータ (計器)	計測範囲 (単位)																																																																																																
1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等																																																																																																			
(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
	操作	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
	操作	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	判断基準	放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)																																																																																																
	操作	放射性物質の濃度 ・NaI シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h) ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)																																																																																																
1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等																																																																																																			
(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定	判断基準	—	—																																																																																																
	操作	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)	16 (方位) 0 ~ 60 (m/s) 0 ~ 1.43 (kWh/m ²) -1.40 ~ 0 (kWh/m ²) 0 ~ 110 (mm)																																																																																																
(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	判断基準	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)																																																																																																
	操作	風向・風速その他の気象条件	可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 0 (kWh/m ²) 0 ~ 100 (mm)																																																																																																
対応手段	重大事故等の対応 に必要となる監視 項目	監視パラメータ (計器)	計測範囲 (単位)																																																																																																
1.17.2.1 放射性物質の濃度及び放射線量の測定の手順等																																																																																																			
(6) モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
	操作	放射線量	モニタリング・ポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
(7) 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	判断基準	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
	操作	放射線量	可搬型モニタリングポスト 10 ~ 10 ⁶ (nSv/h)																																																																																																
(8) 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	判断基準	放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)																																																																																																
	操作	放射性物質の濃度 ・GM 汚染サーベイメータ ・NaI シンチレーションサーベイメータ ・ZnS シンチレーションサーベイメータ 0 ~ 100k (μSv/h)	0.1 ~ 30 (μSv/h)																																																																																																
1.17.2.2 風向、風速その他の気象条件の測定の手順等																																																																																																			
(1) 気象観測設備による気象観測項目の測定	判断基準	—	—																																																																																																
	操作	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 ・雨量 0 ~ 110 (mm)																																																																																																
(2) 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	判断基準	風向・風速その他の気象条件	気象観測設備 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 0 ~ 110 (mm)																																																																																																
	操作	風向・風速その他の気象条件	可搬型気象観測装置 ・風向 (地上高) ・風速 (地上高) ・日照量 ・放射収支量 -0.250 ~ 1.25 (kWh/m ²) 0 ~ 100 (mm)																																																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
36		1.17-48	<p>第1.17.2図 可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所</p> 	<p>図1.17.2 可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所</p> 	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤ (中央制御室の追加)</p>
37		1.17-49	<p>第1.17.3図 可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定のタイムチャート</p> 	<p>図1.17.3 可搬型モニタリングポスト配置・測定のタイムチャート</p> 	<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																					
38		1.17-50	<p>第1.17.4図 放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定の実績チャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員(数)</th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定</td> <td rowspan="2">保安班 2名</td> <td>活動指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定完了</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>移動(5号伊原子使建屋内緊急時対策所→荒浜側集給保管場所→サンプリング地点)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>試料採取・測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	手順の項目	要員(数)	経過時間(分)					0	30	60	90	120	放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	活動指示						測定完了								事前打ち合わせ							移動(5号伊原子使建屋内緊急時対策所→荒浜側集給保管場所→サンプリング地点)							試料採取・測定					<p>図1.17.4 放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定の実績チャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">放射能観測車</td> <td rowspan="2">2</td> <td>事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>試料採取・測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>次ポイントへの移動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備	要員	経過時間(分)					0	30	60	90	120	放射能観測車	2	事前打ち合わせ					移動							試料採取・測定							次ポイントへの移動					<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>
手順の項目	要員(数)	経過時間(分)																																																																																								
		0	30	60	90	120																																																																																				
放射能観測車による空気中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	活動指示																																																																																								
		測定完了																																																																																								
		事前打ち合わせ																																																																																								
		移動(5号伊原子使建屋内緊急時対策所→荒浜側集給保管場所→サンプリング地点)																																																																																								
		試料採取・測定																																																																																								
設備	要員	経過時間(分)																																																																																								
		0	30	60	90	120																																																																																				
放射能観測車	2	事前打ち合わせ																																																																																								
		移動																																																																																								
		試料採取・測定																																																																																								
		次ポイントへの移動																																																																																								
39		1.17-51	<p>第1.17.5図 可搬型放射線計測器の保管場所及び海水・排水試料採取場所</p> <div style="border: 2px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>	<p>図1.17.7 発電所及びその周辺(周辺海域を含む。)の測定に使用するモニタリング設備(小型船舶(海上モニタリング用)は除く)の保管場所及び海水・排水試料採取場所</p> <div style="border: 2px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤ (中央制御室の追加)</p>																																																																																					

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																		
40		1.17-52	<p>第1.17.6図 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">手順の項目</td> <td style="width: 10%;">要員(数)</td> <td colspan="5">活動指示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;">測定完了</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定</td> <td>保安班 2名</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">移動(5号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> <td style="text-align: center;">▼</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	手順の項目	要員(数)	活動指示							測定完了					可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ	移動(5号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)	試料採取・測定	▼	<p>図1.17.5 可搬型放射線計測器による放射性物質の濃度の代替測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 5%;">設備</td> <td style="width: 5%;">要員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器</td> <td>2</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">資機材準備</td> <td style="text-align: center;">移動</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">次ポイントへの移動</td> <td style="text-align: center;">▼</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	設備	要員						可搬型放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ	資機材準備	移動	試料採取・測定						次ポイントへの移動	▼	<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
手順の項目	要員(数)	活動指示																																																																					
		測定完了																																																																					
可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の代替測定	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ	移動(5号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)	試料採取・測定	▼																																																																	
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
設備	要員																																																																						
可搬型放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ	資機材準備	移動	試料採取・測定																																																																	
					次ポイントへの移動	▼																																																																	
41		1.17-52	<p>第1.17.7図 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">手順の項目</td> <td style="width: 10%;">要員(数)</td> <td colspan="5">活動指示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;">測定完了</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>保安班 2名</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">移動(6号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> <td style="text-align: center;">▼</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	手順の項目	要員(数)	活動指示							測定完了					可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ	移動(6号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)	試料採取・測定	▼	<p>図1.17.6 可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 5%;">設備</td> <td style="width: 5%;">要員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器</td> <td>2</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">資機材準備</td> <td style="text-align: center;">移動</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">次ポイントへの移動</td> <td style="text-align: center;">▼</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	設備	要員						可搬型放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ	資機材準備	移動	試料採取・測定						次ポイントへの移動	▼	<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
手順の項目	要員(数)	活動指示																																																																					
		測定完了																																																																					
可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ	移動(6号館原子炉建屋内緊急時対策所 →大連側高倉保管場所→サンプリング地点)	試料採取・測定	▼																																																																	
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
設備	要員																																																																						
可搬型放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ	資機材準備	移動	試料採取・測定																																																																	
					次ポイントへの移動	▼																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																		
42		1.17-53	<p>第1.17.8図 可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">手順の項目</td> <td style="width: 10%;">要員(数)</td> <td colspan="5">活動指示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;">測定完了</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定</td> <td style="text-align: center;">保安班 2名</td> <td style="text-align: center;">▽</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)</td> <td style="text-align: center;">▽</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	手順の項目	要員(数)	活動指示							測定完了					可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▽	事前打ち合わせ	移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)	▽	試料採取・測定	<p>図1.17.8 可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 5%;">設備</td> <td style="width: 5%;">要員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">資機材準備</td> <td style="text-align: center;">移動(海水サンプリング箇所へ)</td> <td style="text-align: center;">試料採取</td> <td style="text-align: center;">測定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">移動</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	設備	要員						可搬型放射線計測器	2	事前打ち合わせ	資機材準備	移動(海水サンプリング箇所へ)	試料採取	測定					移動			<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
手順の項目	要員(数)	活動指示																																																																					
		測定完了																																																																					
可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▽	事前打ち合わせ	移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)	▽	試料採取・測定																																																																	
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
設備	要員																																																																						
可搬型放射線計測器	2	事前打ち合わせ	資機材準備	移動(海水サンプリング箇所へ)	試料採取	測定																																																																	
				移動																																																																			
43		1.17-53	<p>第1.17.9図 可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">手順の項目</td> <td style="width: 10%;">要員(数)</td> <td colspan="5">活動指示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: center;">測定完了</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定</td> <td style="text-align: center;">保安班 2名</td> <td style="text-align: center;">▽</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)</td> <td style="text-align: center;">▽</td> <td style="text-align: center;">試料採取・測定</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	手順の項目	要員(数)	活動指示							測定完了					可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▽	事前打ち合わせ	移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)	▽	試料採取・測定	<p>図1.17.9 可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 5%;">設備</td> <td style="width: 5%;">要員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">事前打ち合わせ</td> <td style="text-align: center;">資機材準備</td> <td style="text-align: center;">移動(土壌サンプリング箇所へ)</td> <td style="text-align: center;">試料採取</td> <td style="text-align: center;">測定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">移動</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	設備	要員						可搬型放射線計測器	2	事前打ち合わせ	資機材準備	移動(土壌サンプリング箇所へ)	試料採取	測定					移動			<p>④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)</p>
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
手順の項目	要員(数)	活動指示																																																																					
		測定完了																																																																					
可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定	保安班 2名	▽	事前打ち合わせ	移動(5号伊原子伊達屋内緊急時対策所→大湊側高台保管場所→サンプリング地点)	▽	試料採取・測定																																																																	
		経過時間(分)																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																	
設備	要員																																																																						
可搬型放射線計測器	2	事前打ち合わせ	資機材準備	移動(土壌サンプリング箇所へ)	試料採取	測定																																																																	
				移動																																																																			

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
46		1.17-55	<p>第1.17.12図 モニタリング・ポストのバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p>	<p>図1.17.12 モニタリング・ポストのバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p>	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
47		1.17-56	<p>第1.17.13図 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p>	<p>図1.17.13 可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p>	④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化


No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																												
48		1.17-56	<p>第1.17.14図 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="4">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手順の項目</td> <td>要員(数)</td> <td>活動指示</td> <td colspan="3">以後、測定可能</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策</td> <td rowspan="3">保安班 2名</td> <td>▼</td> <td style="background-color: #e0ffff;">事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: #e0ffff;">遮蔽材等の準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: #e0ffff;">遮蔽材等の設置</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)				0	10	20	30	手順の項目	要員(数)	活動指示	以後、測定可能			放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ					遮蔽材等の準備				遮蔽材等の設置		<p>図1.17.14 放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策のタイムチャート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="4">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設備</td> <td>要員</td> <td colspan="4">以後、測定可能</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">放射線計測器</td> <td rowspan="3">2</td> <td>▼</td> <td style="background-color: #e0ffff;">事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: #e0ffff;">遮蔽材等の準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="background-color: #e0ffff;">遮蔽材等の設置</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)				0	10	20	30	設備	要員	以後、測定可能				放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ					遮蔽材等の準備				遮蔽材等の設置		④ (見積りの最適化)
		経過時間(分)																																																															
		0	10	20	30																																																												
手順の項目	要員(数)	活動指示	以後、測定可能																																																														
放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	保安班 2名	▼	事前打ち合わせ																																																														
				遮蔽材等の準備																																																													
				遮蔽材等の設置																																																													
		経過時間(分)																																																															
		0	10	20	30																																																												
設備	要員	以後、測定可能																																																															
放射線計測器	2	▼	事前打ち合わせ																																																														
				遮蔽材等の準備																																																													
				遮蔽材等の設置																																																													
49		1.17-57	<p>第1.17.15図 可搬型気象観測装置の配置位置及び保管場所</p> <div style="border: 2px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>	<p>図1.17.15 可搬型気象観測装置の配置位置及び保管場所</p> <div style="border: 2px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>	② (免震重要棟の自主化) ⑤ (中央制御室を追加)																																																												

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																						
50		1.17-58	<p>第1.17.16図 可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定のタイムチャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手順の項目</td> <td>要員(数)</td> <td colspan="5">活動指示</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定</td> <td rowspan="2">保安班 2名</td> <td colspan="5">以後、測定可能</td> </tr> <tr> <td colspan="5"> 事前打ち合わせ 移動(5号炬燵子炬燵屋内緊急時対策所 → 大湊側高台保管場所 → 気象観測設備近傍) </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5">測定(風向、風速、放射収支量、雨量)</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	手順の項目	要員(数)	活動指示					可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	保安班 2名	以後、測定可能					事前打ち合わせ 移動(5号炬燵子炬燵屋内緊急時対策所 → 大湊側高台保管場所 → 気象観測設備近傍)							測定(風向、風速、放射収支量、雨量)					<p>図1.17.16 可搬型気象観測装置測定のタイムチャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設備</td> <td>要員</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">可搬型気象観測装置</td> <td rowspan="4">2</td> <td colspan="5">事前打ち合わせ</td> </tr> <tr> <td colspan="5">移動</td> </tr> <tr> <td colspan="5">資機材準備</td> </tr> <tr> <td colspan="5">移動</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="5">測定(風向、風速、放射収支量、日射量、雨量)</td> </tr> </tbody> </table>			経過時間(分)					0	30	60	90	120	設備	要員						可搬型気象観測装置	2	事前打ち合わせ					移動					資機材準備					移動							測定(風向、風速、放射収支量、日射量、雨量)					<p>④ (K5からの移動時間、記載の最適化)</p>
		経過時間(分)																																																																																									
		0	30	60	90	120																																																																																					
手順の項目	要員(数)	活動指示																																																																																									
可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	保安班 2名	以後、測定可能																																																																																									
		事前打ち合わせ 移動(5号炬燵子炬燵屋内緊急時対策所 → 大湊側高台保管場所 → 気象観測設備近傍)																																																																																									
		測定(風向、風速、放射収支量、雨量)																																																																																									
		経過時間(分)																																																																																									
		0	30	60	90	120																																																																																					
設備	要員																																																																																										
可搬型気象観測装置	2	事前打ち合わせ																																																																																									
		移動																																																																																									
		資機材準備																																																																																									
		移動																																																																																									
		測定(風向、風速、放射収支量、日射量、雨量)																																																																																									
51		1.17-59	<p>第1.17.17図 モニタリング・ポスト用発電機の配置位置</p> 		<p>⑤ (図を追加)</p>																																																																																						

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																		
52		1.17-60	<p>第1.17.18図 モニタリング・ポストの電源をモニタリング・ポスト用発電機から給電する手順のタイムチャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員(数)</th> <th colspan="5">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> <th>120</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">モニタリング・ポストの電源をモニタリング・ポスト用発電機から給電する手順</td> <td rowspan="8">保安班 2名</td> <td>活動指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動(MP1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電機起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動(MP5)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電機起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動(MP8)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電機起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	手順の項目	要員(数)	経過時間(分)					0	30	60	90	120	モニタリング・ポストの電源をモニタリング・ポスト用発電機から給電する手順	保安班 2名	活動指示						事前打ち合わせ						移動(MP1)						発電機起動						移動(MP5)						発電機起動						移動(MP8)						発電機起動						<p>図1.17.17 モニタリング・ポストの電源回復のタイムチャート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="4">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>30</th> <th>60</th> <th>90</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">モニタリング・ポスト</td> <td rowspan="8">2</td> <td>局舎1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>局舎2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>局舎3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事前打ち合わせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動(MP1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電機起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動(MP5)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電機起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備	要員	経過時間(分)				0	30	60	90	モニタリング・ポスト	2	局舎1					局舎2					局舎3					事前打ち合わせ					移動(MP1)					発電機起動					移動(MP5)					発電機起動					④ (K5からの移動時間、見積りの最適化)
手順の項目	要員(数)	経過時間(分)																																																																																																																					
		0	30	60	90	120																																																																																																																	
モニタリング・ポストの電源をモニタリング・ポスト用発電機から給電する手順	保安班 2名	活動指示																																																																																																																					
		事前打ち合わせ																																																																																																																					
		移動(MP1)																																																																																																																					
		発電機起動																																																																																																																					
		移動(MP5)																																																																																																																					
		発電機起動																																																																																																																					
		移動(MP8)																																																																																																																					
		発電機起動																																																																																																																					
設備	要員	経過時間(分)																																																																																																																					
		0	30	60	90																																																																																																																		
モニタリング・ポスト	2	局舎1																																																																																																																					
		局舎2																																																																																																																					
		局舎3																																																																																																																					
		事前打ち合わせ																																																																																																																					
		移動(MP1)																																																																																																																					
		発電機起動																																																																																																																					
		移動(MP5)																																																																																																																					
		発電機起動																																																																																																																					
53	添付資料 1.17.1	1.17-62	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能名称</th> <th>取扱</th> <th>対応</th> <th>機能</th> <th>機能名称</th> <th>取扱</th> <th>対応</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型AST・よう素</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型AST・よう素</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型発電機</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型発電機</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> </tbody> </table>	機能	機能名称	取扱	対応	機能	機能名称	取扱	対応	備考	代り	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	代り	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	代り	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>機能名称</th> <th>取扱</th> <th>対応</th> <th>機能</th> <th>機能名称</th> <th>取扱</th> <th>対応</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型AST・よう素</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型AST・よう素</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> <tr> <td>代り</td> <td>可搬型発電機</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>可搬型発電機</td> <td>取扱</td> <td>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</td> <td>機能喪失していない場合は使用する</td> </tr> </tbody> </table>	機能	機能名称	取扱	対応	機能	機能名称	取扱	対応	備考	代り	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	代り	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	代り	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する	⑤ ([流路]を記載することとした)																																																
機能	機能名称	取扱	対応	機能	機能名称	取扱	対応	備考																																																																																																															
代り	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																
代り	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																
代り	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																
機能	機能名称	取扱	対応	機能	機能名称	取扱	対応	備考																																																																																																															
代り	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型モニタリングポスト	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																
代り	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型AST・よう素	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																
代り	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	可搬型発電機	取扱	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	機能喪失していない場合は使用する																																																																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
54	添付資料 1.17.2	1.17-63	<p>(1) 放射線量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象進展に伴う放射線量の変化を的確に把握するため、モニタリング・ポスト9台の稼働状況を確認する。 ・モニタリング・ポストが機能喪失した場合は、車両等により可搬型モニタリングポストをモニタリング・ポスト位置に配置し、放射線量の代替測定を行う。なお、現場の状況により配置位置を変更する場合がある。 ・また、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した場合、海側等及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所付近に、可搬型モニタリングポスト6台を配置し、放射線量の測定を行う。 	<p>1) 放射線量及び放射性物質の濃度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象進展に伴う放射線量の変化を的確に把握するため、モニタリング・ポスト9台の稼働状況を確認する。 ・モニタリング・ポストが機能喪失した場合は、車両等により可搬型モニタリングポストをモニタリング・ポスト位置に配置し、放射線量率の監視を行う。なお、現場の状況により配置位置を変更する場合がある。 ・また、海側等に、可搬型モニタリングポスト5台を配置し、放射線量率の監視強化を行う。 ・さらに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用することが決定した場合、5号炉原子炉建屋付近に可搬型モニタリングポスト1台を設置し、放射線量率の監視強化を行う。 	<p>⑤</p> <p>② (免震重要棟の自主化)</p>
55	添付資料 1.17.2	1.17-63 1.17-64	<p>(2) 放射性物質の濃度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射能観測車が機能喪失した場合、可搬型放射線計測器により、空気中の放射性物質の濃度の代替測定を行う。また、主排気筒モニタが使用できない場合、又は気体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合、可搬型放射線計測器により、空気中の放射性物質の濃度の測定を行う。 ・液体廃棄物処理系排水モニタが使用できない場合、又は液体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合、取水口、放水口等で海水、排水の採取を行い、可搬型放射線計測器により水中の放射性物質の濃度の測定を行う。 ・プルーム通過後において、気体状の放射性物質が放出された場合、可搬型放射線計測器により土壤中の放射性物質の濃度を測定する。 ・プルーム通過後において、気体状又は液体状の放射性物質が放出された場合、小型船舶(海上モニタリング用)及び可搬型放射線計測器による周辺海域の放射線量及び放射性物質の濃度の測定を行う。なお、海洋の状況等が安全上の問題がないと判断できた場合に行う。 ・放射性物質の濃度の測定における試料採取場所については、放出状況、風向、風速等を考慮し、選定する。 	<p>(2) 海水、排水及び土壌等の放射性物質の濃度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体状の放射性物質が屋外に漏えいするおそれがある場合、取水口、放水口等で海水、排水の採取を行い、可搬型放射線計測器により放射性物質の濃度測定を行う。 ・また、周辺海域への放射性物質の漏えいが確認された場合は、小型船舶(海上モニタリング用)及び可搬型放射線計測器による周辺海域の放射線量率及び放射性物質の濃度の測定を行う。なお、海洋の状況等が安全上の問題がないと判断できた場合に行う。 ・プルーム通過後において、発電所敷地内の土壌モニタリングが必要と判断した場合に、可搬型放射線計測器により放射性物質の濃度を測定する。 	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																									
56	添付資料 1.17.2	1.17-65	<p>(4) 緊急時モニタリングの実施手順及び体制</p> <p>(4) 緊急時モニタリングの実施手順及び体制</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>具体的実施事項</th> <th>開始時期の考え方</th> <th>対応要員 (必要想定人員)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定の測定</td> <td>可搬型モニタリングポストの配置 【代替測定】モニタリング・ポスト位置に配置 【測定】海側等及び5号炉原子炉建屋付近に配置</td> <td>モニタリング・ポストが使用できない場合 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合</td> <td rowspan="2">2名</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定及び代替測定</td> <td>空気中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>【代替測定】放射線観測器が使用できない場合 【測定】主排気筒モニタが使用できない場合。又は気体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合</td> </tr> <tr> <td>可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定</td> <td>可搬型気象観測装置の配置</td> <td>気象観測装置が使用できない場合</td> <td rowspan="2">2名</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>海水、排水中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>液体廃棄物処理系排水モニタが使用できない場合。又は液体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合</td> </tr> <tr> <td>可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>土壌中の放射性物質の濃度の測定</td> <td>気体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)</td> <td rowspan="2">4名</td> </tr> <tr> <td>海上モニタリング</td> <td>海上における放射線量及び放射性物質の濃度の測定</td> <td>気体状又は液体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象とは、「原子力災害対策特別措置法に基づき原子力防災管理者が通報すべき事象等に関する規則」の第7条第1号の表中におけるイの施設に該当する事象。 (要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。)</p>	手順	具体的実施事項	開始時期の考え方	対応要員 (必要想定人員)	可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定の測定	可搬型モニタリングポストの配置 【代替測定】モニタリング・ポスト位置に配置 【測定】海側等及び5号炉原子炉建屋付近に配置	モニタリング・ポストが使用できない場合 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合	2名	可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定及び代替測定	空気中の放射性物質の濃度の測定	【代替測定】放射線観測器が使用できない場合 【測定】主排気筒モニタが使用できない場合。又は気体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合	可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	可搬型気象観測装置の配置	気象観測装置が使用できない場合	2名	可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定	海水、排水中の放射性物質の濃度の測定	液体廃棄物処理系排水モニタが使用できない場合。又は液体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合	可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定	土壌中の放射性物質の濃度の測定	気体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)	4名	海上モニタリング	海上における放射線量及び放射性物質の濃度の測定	気体状又は液体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)	<p>(4) 緊急時モニタリングの実施手順及び体制</p> <p>(4) 緊急時モニタリングの実施手順及び体制</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>モニタリングの考え方</th> <th>対応</th> <th>開始時期の考え方</th> <th>対応要員 (必要想定人員)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モニタリング・ポストの代替</td> <td>可搬型モニタリングポストの設置</td> <td>モニタリング・ポストが使用できない場合</td> <td rowspan="2">2名</td> </tr> <tr> <td>海側敷地境界等の放射線監視</td> <td></td> <td>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の場圧</td> <td></td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の使用を決定し、かつ原子力災害対策特別措置法第10条特定事象発生と判断した場合</td> <td rowspan="2">2名</td> </tr> <tr> <td>気象観測設備の代替</td> <td>可搬型気象観測装置の設置</td> <td>気象観測設備が使用できない場合</td> </tr> <tr> <td>放射線観測車の代替</td> <td>可搬型放射線計測器による監視</td> <td>放射線観測車が使用できない場合</td> <td rowspan="2">2名</td> </tr> <tr> <td>海水、排水のモニタリング</td> <td>海水、排水の測定</td> <td>液体状の放射性物質が屋外に漏れいするおそれがある場合</td> </tr> <tr> <td>土壌のモニタリング</td> <td>土壌の測定</td> <td>ブルーム通過後において発電所敷地内の土壌モニタリングが必要と判断した場合</td> <td rowspan="2">4名</td> </tr> <tr> <td>小型船舶(海上モニタリング用)による海上モニタリング</td> <td>放射線量率及び放射性物質の濃度の測定</td> <td>取水口、放水口、雨水排水設備出口等から放射性物質漏えいが確認された場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象とは、「原子力災害対策特別措置法に基づき原子力防災管理者が通報すべき事象等に関する規則」の第7条第1号の表中におけるイの施設に該当する事象。 (要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。)</p>	モニタリングの考え方	対応	開始時期の考え方	対応要員 (必要想定人員)	モニタリング・ポストの代替	可搬型モニタリングポストの設置	モニタリング・ポストが使用できない場合	2名	海側敷地境界等の放射線監視		原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の場圧		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の使用を決定し、かつ原子力災害対策特別措置法第10条特定事象発生と判断した場合	2名	気象観測設備の代替	可搬型気象観測装置の設置	気象観測設備が使用できない場合	放射線観測車の代替	可搬型放射線計測器による監視	放射線観測車が使用できない場合	2名	海水、排水のモニタリング	海水、排水の測定	液体状の放射性物質が屋外に漏れいするおそれがある場合	土壌のモニタリング	土壌の測定	ブルーム通過後において発電所敷地内の土壌モニタリングが必要と判断した場合	4名	小型船舶(海上モニタリング用)による海上モニタリング	放射線量率及び放射性物質の濃度の測定	取水口、放水口、雨水排水設備出口等から放射性物質漏えいが確認された場合	⑤
手順	具体的実施事項	開始時期の考え方	対応要員 (必要想定人員)																																																											
可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定の測定	可搬型モニタリングポストの配置 【代替測定】モニタリング・ポスト位置に配置 【測定】海側等及び5号炉原子炉建屋付近に配置	モニタリング・ポストが使用できない場合 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合	2名																																																											
可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定及び代替測定	空気中の放射性物質の濃度の測定	【代替測定】放射線観測器が使用できない場合 【測定】主排気筒モニタが使用できない場合。又は気体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合																																																												
可搬型気象観測装置による気象観測項目の代替測定	可搬型気象観測装置の配置	気象観測装置が使用できない場合	2名																																																											
可搬型放射線計測器による水中の放射性物質の濃度の測定	海水、排水中の放射性物質の濃度の測定	液体廃棄物処理系排水モニタが使用できない場合。又は液体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合																																																												
可搬型放射線計測器による土壌中の放射性物質の濃度の測定	土壌中の放射性物質の濃度の測定	気体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)	4名																																																											
海上モニタリング	海上における放射線量及び放射性物質の濃度の測定	気体状又は液体状の放射性物質が放出された場合(ブルーム通過後)																																																												
モニタリングの考え方	対応	開始時期の考え方	対応要員 (必要想定人員)																																																											
モニタリング・ポストの代替	可搬型モニタリングポストの設置	モニタリング・ポストが使用できない場合	2名																																																											
海側敷地境界等の放射線監視		原子力災害対策特別措置法第10条特定事象※発生と判断した場合																																																												
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の場圧		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の使用を決定し、かつ原子力災害対策特別措置法第10条特定事象発生と判断した場合	2名																																																											
気象観測設備の代替	可搬型気象観測装置の設置	気象観測設備が使用できない場合																																																												
放射線観測車の代替	可搬型放射線計測器による監視	放射線観測車が使用できない場合	2名																																																											
海水、排水のモニタリング	海水、排水の測定	液体状の放射性物質が屋外に漏れいするおそれがある場合																																																												
土壌のモニタリング	土壌の測定	ブルーム通過後において発電所敷地内の土壌モニタリングが必要と判断した場合	4名																																																											
小型船舶(海上モニタリング用)による海上モニタリング	放射線量率及び放射性物質の濃度の測定	取水口、放水口、雨水排水設備出口等から放射性物質漏えいが確認された場合																																																												

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化



No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
57	添付資料 1.17.3	1.17-66	<p>緊急時モニタリングに関する要員の動き</p> <p>緊急時モニタリングの実施手順及び体制に示す対応要員について、事故発生からブルーム通過後までの動きを以下に示す。 なお、対応要員数及び対応時間については、今後の訓練等の結果により見直す可能性がある。</p>	<p>緊急時モニタリングに関する要員の動き</p> <p>緊急時モニタリングの実施手順及び体制に示す対応要員について、事故発生からブルーム通過後までの動きを以下に示す。 なお、対応要員数及び対応時間については、今後の訓練等の結果により見直す可能性がある。</p>	<p>⑤ (タイムチャートの修正を反映)</p>
58	添付資料 1.17.4	1.17-68	<p>第1図 モニタリング・ポストの配置図</p>	<p>図1 モニタリング・ポストの配置図</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p> <p>⑤ (中央制御室を追加)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
59	添付資料 1.17.5	1.17-71	2. 必要要員数・想定操作時間 ○必要要員数:2名 ○操作時間:配置位置での操作開始から測定開始までは約15分/台 ○所要時間:測定及び代替測定を連続して実施した場合は約7時間15分	2. 必要要員数・想定時間 ○必要要員数:2名 ○操作時間:配置場所での設置開始から測定開始まで…約15分/台 ○所要時間:測定及び代替測定を連続して実施した場合…約7時間	⑤ (タイムチャートの修正を反映)
60	添付資料 1.17.6	1.17-72	重大事故等時、モニタリング・ポストが機能喪失した際に代替できるよう可搬型モニタリングポストをモニタリング・ポスト設置位置に9台配置する。また、原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した場合、可搬型モニタリングポストをモニタリング・ポストが設置されていない海側等に5台、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化が判断できるよう5号炉原子炉建屋付近に1台配置する。 可搬型モニタリングポストは合計15台(予備1台)保管する。可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所を第1図、計測範囲等を第1表、仕様を第2表に示す。可搬型モニタリングポストの電源は、外部バッテリーにより5日間以上連続で稼働できる設計としており、外部バッテリーを交換することにより継続して計測できる。また、測定データは、可搬型モニタリングポストの電子メモリに記録するとともに、衛星回線により、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に伝送することができる。	モニタリング・ポストが機能喪失した際に代替できるよう15台(予備1台)の可搬型モニタリングポストを配備している。配置場所を図1、計測範囲等を表1、仕様を表2に示す。可搬型モニタリングポストの電源は、外部バッテリーにより5日間以上連続で稼働できる設計としており、外部バッテリーを交換することにより継続して計測できる。また、測定データは、可搬型モニタリングポストの電子メモリに記録するとともに、衛星回線により、緊急時対策所に伝送することができる。	⑤
61	添付資料 1.17.6	1.17-73	第1図 可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所 	図1 可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所 	② (免震重要棟の自主化) ⑤ (中央制御室を追加)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
62	添付資料 1.17.7	1.17-76	<p>a. 放射性希ガス放出率 (Q) の算出式</p> $Q = 4 \times \boxed{D} \times U / D_0 / E \quad (\text{GBq/h})$ <p>Q : 実際の条件下での放射性希ガス放出率 (GBq/h)</p> <p>4 : 安全係数</p> <p>\boxed{D} : 風下の地表モニタリング地点で実測された空気カーマ率^{*1} ($\mu\text{Gy/h}$)</p> <p>U : 平均風速 (m/s)</p> <p>D₀ : 空気カーマ率分布図のうち地上放出高さ及び大気安定度が該当する図から読み取った地表地点における空気カーマ率 ($\mu\text{Gy/h}$) (at 放出率: 1GBq/h, 風速: 1m/s, 実効エネルギー: 1MeV/dis)^{*2}</p> <p>E : 原子炉停止から推定時点までの経過時間によるガンマ線実効エネルギー (MeV/dis)</p> <p>b. 放射性よう素放出率 (Q) の算出式</p> $Q = 4 \times \boxed{\chi} \times U / \chi_0 \quad (\text{GBq/h})$ <p>Q : 実際の条件下での放射性よう素放出率 (GBq/h)</p> <p>4 : 安全係数</p> <p>$\boxed{\chi}$: 風下の地表モニタリング地点で実測された大気中の放射性よう素濃度^{*1} (Bq/m^3)</p> <p>U : 平均風速 (m/s)</p> <p>χ_0 : 地上高さ及び大気安定度が該当する地表濃度分布図から読み取った地表面における大気中の放射性よう素濃度 (Bq/m^3) (at 放出率: 1GBq/h, 風速: 1m/s)^{*2}</p>	<p>a. 放射性希ガス放出率 (Q) の算出式</p> $Q = 4 \times \boxed{D} \times U / D_0 / E \quad (\text{GBq/h})$ <p>Q : 実際の条件下での放射性希ガス放出率 (GBq/h)</p> <p>\boxed{D} : 風下の地表モニタリング地点で実測された空気カーマ率^{*1} ($\mu\text{Gy/h}$)</p> <p>D₀ : 空気カーマ率図のうち地上放出高さ及び大気安定度が該当する図から読み取った地表地点における空気カーマ率 ($\mu\text{Gy/h}$) (at 放出率: 1GBq/h, 風速: 1m/s, 実効エネルギー: 1MeV/dis)^{*2}</p> <p>U : 平均風速 (m/s)</p> <p>E : 原子炉停止から推定時点までの経過時間によるガンマ線実効エネルギー (MeV/dis)</p> <p>b. 放射性よう素放出率 (Q) の算出式</p> $Q = 4 \times \boxed{\chi} \times U / \chi_0 \quad (\text{GBq/h})$ <p>Q : 実際の条件下での放射性よう素放出率 (GBq/h)</p> <p>$\boxed{\chi}$: 風下の地表モニタリング地点で実測された大気中の放射性よう素濃度^{*1} (Bq/m^3)</p> <p>χ_0 : 地上高さ及び大気安定度が該当する地表濃度分布図から読み取った地表面における大気中の放射性よう素濃度 (Bq/m^3) (at 放出率: 1GBq/h, 風速: 1m/s)^{*2}</p> <p>U : 平均風速 (m/s)</p>	<p>⑤ (4: 安全係数と追記、 説明の並び順を変更)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化


No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
63	添付資料 1.17.7	1.17-77	<p>第2図 各大気安定度における地表面での放射性雲からのガンマ線による空気カーマ率分布図</p>	<p>図2 各大気安定度における地表面での放射性雲からのγ線による空気カーマ率分布図</p>	<p>⑤ (放出高さ0m、大気安定度Dに該当する値を誤記修正)</p>
64	添付資料 1.17.7	1.17-83	<p>また、15台全ての可搬型モニタリングポストの外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約5時間30分で可能である。</p>	<p>また、15台全ての可搬型モニタリングポストの外部バッテリーを交換した場合の所要時間は、作業開始を判断してから移動時間も含めて約5時間10分で可能である。</p>	<p>④ (K5からの移動時間、記載の最適化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
65	添付資料 1.17.7	1.17-83	<p><被ばく線量の評価条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災プラント:6号及び7号炉 ・想定シナリオ:大破断LOCA+ECCS注水機能喪失+全交流動力電源喪失 - 6号炉:格納容器ベント(W/Wベント)実施 - 7号炉:代替循環冷却系により事象収束に成功 <p>・評価点:評価点を第4図に示す。評価点は、格納容器ベント実施号炉(6号炉)から実際の作業エリアまでの距離よりも、格納容器ベント実施号炉に近い範囲内で選定した。</p> <p>(可搬型モニタリングポストの配置場所である展望台、海側等3、海側等4、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用の4箇所は、発災プラントの比較的近傍に設置されることから、移動及びバッテリー交換時に、原子炉建屋内の放射性物質からの寄与、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びによろ素フィルタ内の放射性物質からのガンマ線による寄与を考慮した。)</p>	<p><被ばく線量の評価条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災プラント: 6号炉及び7号炉 ・想定シナリオ: 大破断LOCA+ ECCS 注水機能喪失+全交流動力電源喪失 - 6号炉: 格納容器ベント(W/W ベント) 実施※ 1 - 7号炉: 代替循環冷却系により事象収束に成功 <p>※ 1 被ばく量を保守的に評価するため、以下に示す評価点に近い6号炉において格納容器ベントを実施した場合を想定した。</p> <p>・評価点: 6号炉可搬型代替注水ポンプ(防火水槽取水) の設置場所(可搬型MP(展望台) , 海側可搬型MP-3、海側可搬型MP-4、可搬型MP(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用) は、発災プラントの比較的近傍に設置されることから、移動及びバッテリー交換時に、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよろ素フィルタ並びに配管内の放射性物質からのガンマ線による寄与を考慮した。評価点としては保守的に、実際の作業エリアよりも線源に近い場所を選定した)</p>	<p>③ (原子炉建屋からの漏えい率について)</p> <p>⑤ (タイムチャートの変更)</p>
66	添付資料 1.17.7	1.17-84	<p>第4図 評価点及び可搬型モニタリングポストの配置位置及び保管場所</p> 		<p>⑤ (評価点について、図示することとした)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由								
67	添付資料 1.17.7	1.17-85	<p>・評価時間:合計330分^{※1} ^{※1}:展望台、海側等3、海側等4、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用以外の可搬型モニタリングポストに係る作業:250分 ((作業場所への移動10分+作業10分)×9箇所+5号炉原子炉建屋内緊急時対策所から高台保管場所を経由してMP1への移動30分+MP7から高台保管場所を経由してMP8への移動20分+作業10分×2箇所) 展望台、海側等3、海側等4、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用の可搬型モニタリングポストに係る作業:80分 ((作業場所への移動10分+作業10分)×上記4箇所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業開始時間:事故発生後から5日後(120時間後)から作業開始 ・作業場所まわりの遮蔽:考慮しない ・マスクによる防護係数:1000 ・被ばく経路:以下を考慮 <p>原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばく、地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びに素フィルタ内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</p>	<p>・評価時間:合計310分^{※2} ^{※2}可搬型MP(展望台)、海側可搬型MP-3、海側可搬型MP-4、可搬型MP(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用)以外のMPに係る作業:220分 ((作業場所への移動10分+作業10分)×9箇所+5号炉原子炉建屋内緊急時対策所から高台保管場所を経由してMP-1への移動20分+作業10分×2箇所) 可搬型MP(展望台)、海側可搬型MP-3、海側可搬型MP-4、可搬型MP(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化判断用)に係る作業:90分 ((作業場所への移動10分+作業10分)×上記4箇所+作業場所からの移動10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業開始時間:事故発生後から5日後(120時間後)から作業開始 ・作業場所まわりの遮蔽:考慮しない ・マスクによる防護係数:50 ・被ばく経路:以下を考慮 <p>原子炉建屋内に浮遊する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばく、地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びに配管内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</p>	<p>⑤ ④ (作業条件変更)</p>								
68	添付資料 1.17.7	1.17-85	<table border="1"> <tr> <td>作業開始時間</td> <td>事故発生から 120 時間後</td> </tr> <tr> <td>作業に係る被ばく線量</td> <td>約 95mSv</td> </tr> </table>	作業開始時間	事故発生から 120 時間後	作業に係る被ばく線量	約 95mSv	<table border="1"> <tr> <td>作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>作業に係る被ばく線量 (mSv)</td> <td>70</td> </tr> </table>	作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	120	作業に係る被ばく線量 (mSv)	70	<p>③ (原子炉建屋からの漏えい率について)</p>
作業開始時間	事故発生から 120 時間後												
作業に係る被ばく線量	約 95mSv												
作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	120												
作業に係る被ばく線量 (mSv)	70												

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
69	添付資料 1.17.9	1.17-87	<p>可搬型放射線計測器による空気中の放射性物質の濃度の測定</p> <p>1. 操作の概要 ○重大事故等時、放射能観測車が機能喪失した際に、空気中の放射性物質の濃度を代替測定し監視するため、可搬型ダスト・よう素サンブラを配置し、試料を採取する。また、重大事故等時、主排気筒モニタが機能喪失した場合、又は気体状の放射性物質が放出されたおそれがある場合、空気中の放射性物質の濃度を測定し監視するため、可搬型ダスト・よう素サンブラを配置し、試料を採取する。 ○5号炉原子炉建屋内緊急時対策所T.M.S.L 約27.8mに保管している可搬型放射線計測器を車両等で、採取場所に運搬し、採取する。 ○採取したダストろ紙及びよう素用カートリッジを可搬型放射線計測器で放射性物質の濃度を測定し、記録する。</p> <p>2. 必要要員数・想定操作時間 ○必要要員数：2名 ○操作時間：採取場所での可搬型ダスト・よう素サンブラ起動から試料採取・測定終了まで約50分／箇所 ○所要時間：移動を含め1箇所の測定は、約1時間35分 ※試料採取場所により、所要時間に変動がある。</p>	<p>可搬型放射線計測器による放射性物質の濃度の代替測定</p> <p>1. 操作の概要 ○放射能観測車が機能喪失した際に、空気中の放射性物質の濃度を監視するため、可搬型ダスト・よう素サンブラを配置し、試料を採取する。 ○免震重要棟内緊急時対策所T.M.S.L 約13m 又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所T.M.S.L 約27.8m に保管している可搬型放射線計測器を車両等で、測定場所に運搬し、採取する。 ○採取したダストろ紙及びよう素用カートリッジを可搬型放射線計測器で放射性物質の濃度を測定、記録する。</p> <p>2. 必要要員数・想定時間 ○必要要員数：2名 ○操作時間：BG 測定から試料採取・測定終了 約1 時間／箇所 ○所要時間：移動を含め1 箇所の測定は、約1 時間30 分 ※ 試料採取場所により、所要時間に変動がある。</p>	⑤ (タイムチャートと整合)
70	添付資料 1.17.10	1.17-89	<p>2. 必要要員数・想定操作時間 ○必要要員数：2名 ○所要時間：移動を含め1箇所の測定は、約1時間5分</p>	<p>2. 必要要員数・想定時間 ○必要要員数：2名 ○所要時間：移動を含め約1 時間／箇所</p>	⑤ (タイムチャートと整合)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

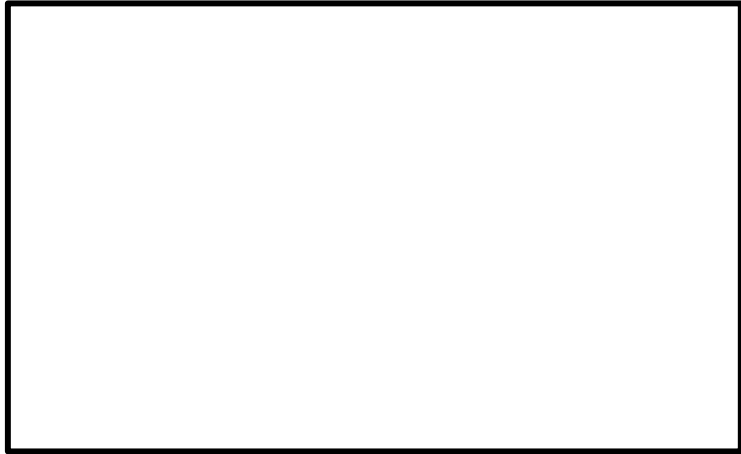
No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
71	添付資料 1.17.11	1.17-91	<p>「設置許可基準規則」第60条(監視測定設備)及び「技術基準規則」第75条(監視測定設備)の対応のモニタリング設備は以下とする。</p> <p>可搬型モニタリングポストは、モニタリング・ポストが機能喪失しても代替し得る十分な個数として9台、モニタリング・ポストが設置されていない海側等に5台、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化が判断できるよう1台、故障時及び保守点検時のバックアップ用(予備)として1台を加えた合計16台を保管する。</p> <p>放射能観測車は、周辺監視区域境界付近の放射線量率及び空気中の放射性物質の濃度を迅速に測定するために、1台を配備する。</p> <p>また、福島第一及び第二原子力発電所に放射能観測車を各1台、合計2台保有しており、融通をすることが可能である。さらに、原子力事業者間協力協定に基づき、放射能観測車11台の融通を受けることが可能である。</p> <p>可搬型放射線計測器のうち可搬型ダスト・よう素サンプラ、NaIシンチレーションサーベイメータ、GM汚染サーベイメータ及び電離箱サーベイメータは、放射能観測車の代替測定並びに発電所及びその周辺(発電所の周辺海域を含む。)において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度及び放射線量を測定し得る十分な個数として各2台、故障時及び保守点検時のバックアップ用(予備)として各1台を加えた合計各3台を保管する。可搬型放射線計測器のうちZnSシンチレーションサーベイメータは、発電所及びその周辺(発電所の周辺海域を含む。)において発電用原子炉施設から放出される放射性物質の濃度を測定し得る十分な個数として1台、故障時及び保守点検時のバックアップ用(予備)として1台を加えた合計2台を保管する。</p> <p>上記モニタリング設備の他に、サーベイカー(ワゴン車等)、可搬型放射線計測器、自主対策設備及び小型船舶(海上モニタリング用)等を組み合わせることで、状況に応じて、発電所内外のモニタリングを総合的に行う。</p>	<p>「設置許可基準規則」第60条(監視測定設備)及び「技術基準規則」第75条(監視測定設備)の対応として、モニタリング・ポストが使用できない場合の代替モニタリング設備として、可搬型モニタリングポスト15台及び放射能観測車1台を配備し、空間放射線量率及び放射性物質の濃度を監視、測定及び記録する。</p> <p>また、原子力事業者間協力協定に基づき、放射能観測車11台の融通を受けることが可能である。</p> <p>上記モニタリング設備の他に、サーベイカー(ワゴン車等)及びサーベイメータや可搬型ダスト・よう素サンプラ等を組み合わせることで、状況に応じて、発電所内外のモニタリングを総合的に行う。</p>	⑤
72	添付資料 1.17.11	1.17-92	<p>(1) サーベイメータ等を搭載したモニタリング可能な車両(サーベイカー)サーベイメータ等を搭載し、任意の場所のモニタリングを行うサーベイカーを2台配備している。</p> <p>なお、放射能観測車の保守点検時は、サーベイカーを使用可能な状態で待機させる。</p>	<p>(1) サーベイメータ等を搭載したモニタリング可能な車両(サーベイカー)可搬型サーベイメータ等を搭載し、任意の場所のモニタリングを行うサーベイカーを2台配備している。</p>	① コメント対応 「モニタリングカーが点検・機器校正等により使用できない場合の放射線計測に関する考え方について整理して説明すること」
73	添付資料 1.17.11	1.17-93	<p>c. 放射性物質の濃度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NaIシンチレーションサーベイメータ (2台(予備1台)) ・GM汚染サーベイメータ (2台(予備1台)) ・ZnSシンチレーションサーベイメータ (1台(予備1台)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・NaIシンチレーションサーベイメータ (緊急時対策所毎に、2台(予備1台)) ・GM汚染サーベイメータ(緊急時対策所毎に、2台(予備1台)) ・ZnSシンチレーションサーベイメータ(緊急時対策所毎に、1台(予備1台)) 	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
74	添付資料 1.17.11			図1 小型船舶(海上モニタリング用)の保管場所及び運搬ルート 	⑤ (既に同じ図で説明しているため削除)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価の進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
75	添付資料 1.17.12	1.17-99	<p>(3) オフサイトセンターから緊急時モニタリングセンターへの情報のやり取りは、第2図のとおりである。事業者はオフサイトセンターへ情報連絡する事項（放出源情報）を連絡し、オフサイトセンターは、その情報を緊急時モニタリングセンターに提供することとなる。</p> <p>第2図 緊急時モニタリング関連の情報のやり取り 出典：緊急時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）第6版 （平成29年3月22日）</p>		⑤ (OFCとEMCの情報の流れについて補足することとした)
76	添付資料 1.17.16	1.17-107	<p>2. 必要要員数・想定操作時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 必要要員数：2名 ○ 所要時間：可搬型気象観測装置(1台)の配置：約1時間30分 ※ 所要時間は、可搬型気象観測装置の運搬時間を含む。 	<p>2. 必要要員数・想定時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 必要要員数：2名 ○ 所要時間：可搬型気象観測装置(1台)の設置：約1時間30分 ※ 所要時間は可搬型気象観測装置の運搬時間を含む。 	⑤ (タイムチャートと整合)

まとめ資料変更箇所リスト

枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価の進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、最適化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																										
77	添付資料 1.17.19	1.17-112	<p>モニタリング・ポストの電源は、常用所内電源2系統に接続しており、常用所内電源喪失時においては、電源復旧までの期間、専用の無停電電源装置により電源を供給できる設計とする。また、モニタリング・ポストの電源は、15時間以上常用所内電源が復旧しない場合に、重大事故等対処設備であるモニタリング・ポスト用発電機により給電が可能な設計とする。なお、モニタリング・ポスト用発電機は、約18時間ごとに給油を行う。無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機の設備仕様を第1表に、電源構成概略図等を第1図に示す。</p>	<p>モニタリング・ポストの電源は、常用電源2系統に接続しており、常用電源喪失時は、専用の無停電電源装置により常用電源復旧までの期間の機能を維持できる設計とする。また、重大事故等の発生により、12時間以上常用電源が復旧しない場合に、重大事故等対処設備であるモニタリング・ポスト用発電機による給電が可能な設計とする。モニタリング・ポスト用発電機は、約19時間ごとに給油を行う。無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機の設備仕様を表1に、電源構成概略図等を図1に示す。</p>	<p>⑤ (無停電電源装置のバックアップ時間である15時間を設計の根拠とした) ⑤ (19時間から18時間の変更理由:四捨五入ではなく、小数点切り捨てで記載する)</p>																																										
78	添付資料 1.17.19	1.17-112	<p>第1表 無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機の設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>個数</th> <th>出力</th> <th>発電方式</th> <th>バックアップ時間^{※3}</th> <th>燃料</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無停電電源装置</td> <td>局舎毎に1台 計9台</td> <td>1.5kVA (3.0kVA)^{※1} (5.0kVA)^{※2}</td> <td>蓄電池</td> <td>約15時間以上</td> <td>—</td> <td>常用所内電源喪失時に自動起動し、電源復旧までの期間を担保する。</td> </tr> <tr> <td>モニタリング・ポスト用発電機</td> <td>3局舎毎に1台 計3台</td> <td>約40kVA</td> <td>ディーゼルエンジン</td> <td>常用所内電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約18時間ごとに給油を行うつつ、常用所内電源復旧までの期間を担保する。</td> <td>軽油</td> <td>基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。</td> </tr> </tbody> </table>	名称	個数	出力	発電方式	バックアップ時間 ^{※3}	燃料	備考	無停電電源装置	局舎毎に1台 計9台	1.5kVA (3.0kVA) ^{※1} (5.0kVA) ^{※2}	蓄電池	約15時間以上	—	常用 所内 電源喪失時に自動起動し、電源復旧までの期間を担保する。	モニタリング・ポスト用発電機	3局舎毎に1台 計3台	約40kVA	ディーゼルエンジン	常用 所内 電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約18時間ごとに給油を行う つつ、常用所内電源復旧までの期間を担保する。	軽油	基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。	<p>表1 無停電電源装置及びモニタリング・ポスト用発電機の設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>台数</th> <th>出力</th> <th>発電方式</th> <th>バックアップ時間^{※3}</th> <th>燃料</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無停電電源装置</td> <td>局舎毎に1台 計9台</td> <td>1.5kVA (3.0kVA)^{※1} (5.0kVA)^{※2}</td> <td>蓄電池</td> <td>約15時間以上</td> <td>—</td> <td>常用電源喪失時に自動起動し、常用電源復旧までの期間を担保する。</td> </tr> <tr> <td>モニタリング・ポスト用発電機</td> <td>1台 / 3局 計3台</td> <td>40kVA</td> <td>ディーゼルエンジン</td> <td>常用電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約19時間ごとに給油を行うつつ、常用電源復旧までの期間を担保する。</td> <td>軽油</td> <td>基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。</td> </tr> </tbody> </table>	名称	台数	出力	発電方式	バックアップ時間 ^{※3}	燃料	備考	無停電電源装置	局舎毎に1台 計9台	1.5kVA (3.0kVA) ^{※1} (5.0kVA) ^{※2}	蓄電池	約15時間以上	—	常用電源喪失時に自動起動し、常用電源復旧までの期間を担保する。	モニタリング・ポスト用発電機	1台 / 3局 計3台	40kVA	ディーゼルエンジン	常用電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約19時間ごとに給油を行う つつ、常用電源復旧までの期間を担保する。	軽油	基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。	<p>⑤ (無停電電源装置のバックアップ時間である15時間を設計の根拠とした) ⑤ (19時間から18時間の変更理由:四捨五入ではなく、小数点切り捨てで記載する)</p>
名称	個数	出力	発電方式	バックアップ時間 ^{※3}	燃料	備考																																									
無停電電源装置	局舎毎に1台 計9台	1.5kVA (3.0kVA) ^{※1} (5.0kVA) ^{※2}	蓄電池	約15時間以上	—	常用 所内 電源喪失時に自動起動し、電源復旧までの期間を担保する。																																									
モニタリング・ポスト用発電機	3局舎毎に1台 計3台	約40kVA	ディーゼルエンジン	常用 所内 電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約18時間ごとに給油を行う つつ、常用所内電源復旧までの期間を担保する。	軽油	基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。																																									
名称	台数	出力	発電方式	バックアップ時間 ^{※3}	燃料	備考																																									
無停電電源装置	局舎毎に1台 計9台	1.5kVA (3.0kVA) ^{※1} (5.0kVA) ^{※2}	蓄電池	約15時間以上	—	常用電源喪失時に自動起動し、常用電源復旧までの期間を担保する。																																									
モニタリング・ポスト用発電機	1台 / 3局 計3台	40kVA	ディーゼルエンジン	常用電源喪失後15時間以内に手動起動させ、約19時間ごとに給油を行う つつ、常用電源復旧までの期間を担保する。	軽油	基準地震動による地震力に対する耐震性が確認できなかったため、機能喪失した場合は、可搬型モニタリングポストにより対応する。																																									

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 :「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
章/項番号:1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	—	1.18-5	削除	柏崎刈羽原子力発電所においては、緊急時対策所として、免震構造を有する免震重要棟の「免震重要棟内緊急時対策所」と、5号炉原子炉建屋内の「5号炉原子炉建屋内緊急時対策所」を設置する。 免震重要棟内緊急時対策所は免震構造を有した免震重要棟に設置している。免震構造を有した建物は、発電施設等に大きな影響が生じる可能性がある短周期地震に対して優位性を有しており、免震重要棟は建築基準法告示で規定される地震動を1.5倍した地震力に対応した設計がなされている。加えて、緊急時対策所の設置位置が緊急時対策要員の執務室・宿直室に近いこと、利便性が高いこと、迅速な緊急時対策所拠点立ち上げが可能であることから、免震重要棟緊急時対策所を優先的に使用する方針である。	②(免震重要棟の自主化)
2	—	1.18-5	削除	一方で、非常に大きな長周期成分を含む一部の基準地震動に対しては通常の免震設計クライテリアを満足しない場合がある。 そのため、震度6弱以上の地震発生後に、免震重要棟内緊急時対策所の使用可否を判断し、使用可能と判断できない場合は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ移動することとする。	②(免震重要棟の自主化)
3	—	1.18-5	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所には、	免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(以下、単に「緊急時対策所」と記載するときは、2ヶ所の緊急時対策所を指す。)には、	②(免震重要棟の自主化)
4	1.18.1(1)	1.18-6	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の電源は、通常、5号炉の共通用高圧母線、及び6号炉若しくは7号炉の非常用高圧母線より給電	緊急時対策所の電源は、通常、発電所の共通用高圧母線から給電	②(K5TSC設計進捗)
5	1.18.1(2)a.(a)	1.18-7	削除	免震重要棟内緊急時対策所の居住性を確保するための設備は以下のとおり。 ・免震重要棟内緊急時対策所遮蔽 ・免震重要棟内緊急時対策所(待避所)遮蔽 ・免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機 ・免震重要棟内緊急時対策所給排気隔離ダンパ(給気隔離ダンパ、排気隔離ダンパ、給排気隔離ダンパ(手動)) ・地震観測装置(加速度検出器、震度表示計、変位置識別用ポール) ・酸素濃度計 ・二酸化炭素濃度計	②(免震重要棟の自主化)
6	1.18.1(2)a.(a)	1.18-7	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の居住性を確保するための設備は以下のとおり。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性を確保するための設備は以下のとおり。	⑤
7	1.18.1(2)a.(a)	1.18-8	・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)高気密室	—	②(K5TSC設計進捗)
8	1.18.1(2)a.(a)	1.18-8	・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)遮蔽 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機用仮設ダクト	・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所遮蔽 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
9	1.18.1(2)a.(a)	1.18-8	・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型外気取入送風機	—	②(K5TSC設計進捗)
10	1.18.1(2)a.(a)	1.18-8	<ul style="list-style-type: none"> ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンペ, 配管・弁) ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)二酸化炭素吸収装置 ・可搬型エリアモニタ(対策本部) ・可搬型モニタリングポスト ・酸素濃度計(対策本部) ・二酸化炭素濃度計(対策本部) ・差圧計(対策本部) ・5号炉屋外緊急連絡用インターフォン 	<ul style="list-style-type: none"> ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ポンペ陽圧化装置(空気ポンペ, 配管, 弁) ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 二酸化炭素吸収装置 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型エリアモニタ ・可搬型モニタリングポスト ・酸素濃度計 ・二酸化炭素濃度計 ・差圧計 	⑤
11	1.18.1(2)a.(a)	1.18-8	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の居住性を確保するための設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)遮蔽 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)室内遮蔽 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機用仮設ダクト ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンペ, 配管・弁) ・可搬型エリアモニタ(待機場所) ・酸素濃度計(待機場所) ・二酸化炭素濃度計(待機場所) ・差圧計(待機場所) 	—	②(K5TSC設計進捗)
12	1.18.1(2)a.(a)	1.18-9	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策所の必要な情報を把握できる設備, 必要な通信連絡を行うための設備及び資機材は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))※3 ・データ伝送設備※4 ・衛星電話設備(常設, 可搬型) ・無線連絡設備(常設, 可搬型) ・統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 <p>※3 必要な情報を把握できる設備とは, 主にデータ伝送装置, 緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置から構成される安全パラメータ表示システム(SPDS)を示す。</p> <p>※4 データ伝送設備とは, 安全パラメータ表示システム(SPDS)のうち緊急時対策支援システム伝送装置を示す。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
13	1.18.1(2)a.(a)	1.18-9	<ul style="list-style-type: none"> 安全パラメータ表示システム(SPDS)※3 無線連絡設備(常設, 可搬型) 携帯型音声呼出電話設備 衛星電話設備(常設, 可搬型) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))※3 データ伝送設備※4 衛星電話設備(常設, 可搬型) 無線連絡設備(常設, 可搬型) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 	②(K5TSC設計進捗)
14	1.18.1(2)a.(a)	1.18-9	<ul style="list-style-type: none"> 無線通信装置(常設) 無線連絡設備(屋外アンテナ)(常設) 衛星電話設備(屋外アンテナ)(常設) 衛星無線通信装置(常設) 有線(建屋内)(常設) 	-	②(K5TSC設計進捗)
15	1.18.1(2)a.(a)	1.18-10	<ul style="list-style-type: none"> 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 可搬ケーブル 負荷変圧器 交流分電盤 軽油タンク タンクローリ(4kL) 軽油タンク出口ノズル・弁 	<ul style="list-style-type: none"> 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 可搬ケーブル 負荷変圧器 交流分電盤 軽油タンク タンクローリ(4kL) 	②(K5TSC設計進捗)
16	1.18.1(2)a.(a)	1.18-10	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策所の代替電源設備からの給電を確保するための設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用地下貯油タンク 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用受電盤 免震重要棟内緊急時対策所 電源車 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機-電源車切替断路器 軽油タンク タンクローリ(16kL) タンクローリ(4kL) 	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
17	1.18.1(2)a.(b)	1.18-11	審査基準及び基準規則に要求される5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)高気密室, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)遮蔽, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機用仮設ダクト, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型外気取入送風機, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンプ, 配管・弁), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)二酸化炭素吸収装置, 可搬型エリアモニタ(対策本部), 5号炉屋外緊急連絡用インターフォン, 可搬型モニタリングポスト, 酸素濃度計(対策本部), 差圧計(対策本部), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)遮蔽, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)室内遮蔽, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機用仮設ダクト, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンプ, 配管・弁), 可搬型エリアモニタ(待機場所), 酸素濃度計(待機場所), 差圧計(待機場所), 安全パラメータ表示システム(SPDS), 無線連絡設備(常設, 可搬型), 携帯型音声呼出電話設備, 衛星電話設備(常設, 可搬型), 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備, 無線通信装置, 無線連絡設備(屋外アンテナ)(常設), 衛星電話設備(屋外アンテナ)(常設), 衛星無線通信装置(常設), 有線(建屋内)(常設)は, 重大事故等対処設備と位置付ける。	審査基準及び基準規則に要求される緊急時対策所遮蔽, 免震重要棟内緊急時対策所(待避室)遮蔽, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所遮蔽, 緊急時対策所可搬型陽圧化空調機, 免震重要棟内緊急時対策所給排気隔離ダンパ, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンプ陽圧化装置(空気ポンプ, 配管・弁), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所二酸化炭素吸収装置, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ, 可搬型モニタリングポスト, 地震観測装置, 酸素濃度計, 差圧計, 必要な情報を把握できる設備(SPDS), データ伝送設備(緊急時対策支援システム伝送装置), 衛星電話設備(常設, 可搬型), 無線連絡設備(常設, 可搬型)及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備は, 重大事故等対処設備と位置付ける。	②(K5TSC設計進捗、免震重要棟の自主化)
18	1.18.1(2)a.(b)	1.18-12	二酸化炭素濃度計(対策本部)及び二酸化炭素濃度計(待機場所)	二酸化炭素濃度計	⑤
19	1.18.1(2)a.(b)	1.18-12	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 可搬ケーブル, 負荷変圧器, 交流分電盤, 軽油タンク, タンクローリ(4kL), 軽油タンク出口ノズル・弁はいずれも重大事故等対処設備と位置付ける。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 交流分電盤, 負荷変圧器, 軽油タンク, タンクローリ(4kL)はいずれも重大事故等対処設備と位置付ける。	②(K5TSC設計進捗)
20	1.18.1(2)a.(b)	1.18-12	以下の設備は自主対策設備と位置付ける。あわせて, その理由を示す。 ・送受話器(警報装置含む) ・電力保安通信用電話設備 ・専用電話設備(ホットライン) ・テレビ会議システム(社内向) ・衛星電話設備(社内向)	以下の設備は代替機能を有する設計基準対処設備と位置付ける。あわせて, その理由を示す。 ・送受話器(ページング) ・電力保安通信用電話設備 ・局線加入電話設備 ・専用電話設備(ホットライン) ・テレビ会議システム ・衛星電話設備(社内向け)※5(自主対策設備) ※5 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のみ設置。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用する場合のみ使用。	⑤
21	1.18.1(2)a.(b)	1.18-13	また, カードル式空気ポンプユニットは, 対策要員の更なる被ばく線量低減として, 陽圧化時間の延長を可能とするために自主対策設備として配備する。 さらに, 移動式待機所は, 事故対応の柔軟性と対策要員の放射線安全, 労働環境向上を図るために自主対策設備として設置する。	-	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
22	1.18.1(2)b.	1.18-13	これらの手順は、本部長 ^{※5} 、号機班 ^{※6} 、復旧班 ^{※7} 、保安班 ^{※8} 、総務班 ^{※9} の対応として、緊急時対策本部運営要領、多様なハザード対応手順等に定める。	これらの手順は、本部長 ^{※6} 、号機班 ^{※7} 、復旧班 ^{※8} 、保安班 ^{※9} 及び総務班 ^{※10} の対応として、緊急時対策所立ち上げの手順、重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順、必要な情報を把握できる設備(SPDS)によるプラントパラメータ等の監視手順、放射線管理に関する手順、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動手順等に定める。	⑤
23	1.18.2.1	1.18-15	環境に放射性物質等が放出された場合、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタにより、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に向かって放出される放射性物質による放射線量を測定及び監視し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンプ)による希ガス等の放射性物質の侵入を防止することで、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員等を防護する。	環境に放射性物質等が放出された場合、緊急時対策所可搬型陽圧化空調機によりヨウ素類の放射性物質の侵入を防止することで、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員等を防護する。	⑤
24	1.18.2.1	1.18-15	また、万が一、希ガス等の放射物質が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内に侵入した場合においても、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタにて監視、測定することにより、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内への放射性物質の侵入を低減する。	—	⑤
25	1.18.2.1	1.18-16	削除	(1) 免震重要棟内緊急時対策所から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動判断並びに移動のための手順 免震構造を有した建物は、発電施設等に大きな影響が生じる可能性がある短周期地震に対して優位性を有しており、免震重要棟は建築基準法の告示で規定される地震動を1.5倍した地震力に対応した設計がなされている。一方、非常に大きな長周期成分を含む一部の基準地震動に対しては通常の免震設計クライテリアを満足しない場合がある。	②(免震重要棟の自主化)
26	1.18.2.1	1.18-16	削除	そのため、免震重要棟の建物上屋の変位が免震装置の設計目標値の変位量(75cm)を超えていたかを識別することができる措置を講じた設計としている。そのイメージ図は図1.18.3のとおりである。 一方、大きな地震が生じた後にはそれが更に大規模な地震を誘発する可能性を排除できないことから、上記の変位量識別用ポール(75cm)に加え、免震重要棟基礎部に設置する地震計により連続的に地震観測を行うことで、免震重要棟内緊急時対策所の使用可否の判断を行う。	②(免震重要棟の自主化)
27	1.18.2.1	1.18-16	削除	発電所立地地域に震度6弱以上(気象庁発表)の地震が発生した場合に、重大事故等に対処するための要員が免震重要棟入口近傍に参集の後、免震重要棟内緊急時対策所の使用可否を判断し、使用可能と判断できない場合は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ移動するための手順を整備する。(使用可否の判断基準については添付資料1.18.2.(1)参照) (a) 手順着手の判断基準 発電所立地地域に震度6弱(気象庁発表)以上の地震が発生した場合。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
28	1.18.2.1	1.18-16	削除	(b) 手順 免震重要棟内緊急時対策所の使用可否判断をした後, 必要に応じて5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ移動するための手順は以下のとおり。手順のタイムチャートを図1.18.4に示す。 ① 初動対応要員は, 免震重要棟の入口に一時参集する。 ② 総務統括は, 作業着手の判断基準に基づき, 総務班長に免震重要棟の建物上屋の変位と免震重要棟基礎部に設置する地震計の震度を確認するよう指示する。 ③ 総務班は, 免震重要棟の周辺の「変位量識別用ポール(75cm)」の異常の有無を確認するとともに, 免震重要棟基礎部に設置する地震計の震度を確認する。 ④ 総務班長は, 「変位量識別用ポール(75cm)」と地震計の震度の確認結果を, 総務統括を経由して本部長に報告する。 ⑤ 本部長は, 上記の確認結果の報告を受け, 変位量識別用ポール(75cm)が損傷しておらず, 地震計が震度7未満の場合は, 免震重要棟内緊急時対策所の使用を判断する。②～④の所要時間は約10分である。 一方, 変位量識別用ポール(75cm)が損傷していた場合(以下, 「ケース1」という。), 変位量識別用ポール(75cm)が損傷しておらず, 地震計が震度7であった場合(以下, 「ケース2」という。)は, 本部長は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動を判断する。 ⑥ 免震重要棟内緊急時対策所を使用中に, 更に建物に影響があるような地震が発生した場合は, 上記②～⑤の要領で免震重要棟の建物上屋の変位量及び免震重要棟基礎部の地震計の震度を確認し, 本部長は免震重要棟内緊急時対策所の継続使用, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動を判断する。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
29	1.18.2.1	1.18-16	削除	<p>(以下、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ移動すると判断した場合)</p> <p>⑦ 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動する際、基本的に必要最小限の要員を免震重要棟又はその近傍に残し、本部長はその要員を指名する。</p> <p>⑧ 保安班は、屋外が放射性物質で汚染している場合は、緊急時対策要員に必要な保護具を着用させる。</p> <p>⑨ 本部長を含めた初動対応要員は、必要最小限の要員をケース1の場合は免震重要棟の近傍、ケース2の場合は免震重要棟内緊急時対策所に残して、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する。その際のアクセスルートについては、図1.18-5のとおり。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動時間は96分程度である。</p> <p>その間、ケース1の場合は、免震重要棟の近傍に残った要員は、免震重要棟又は宿泊場所から持ち出した通信連絡設備(衛星電話設備(可搬型)、無線連絡設備(可搬型))で、各中央制御室と連絡を取り合い、プラントの状況を把握し、必要に応じ本部長の代行として指揮をとる。</p> <p>ケース2の場合は、免震重要棟内緊急時対策所に残った要員が通信連絡設備を使用し、各中央制御室と連絡を取り合い、プラントの状況を把握し、必要に応じて本部長の代行として指揮をとる。</p>	②(免震重要棟の自主化)
30	1.18.2.1	1.18-16	削除	<p>⑩ 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の通信連絡設備、必要な情報を把握できる設備等へは、通常、5号炉の共通用高圧母線、及び6号炉もしくは7号炉の非常用高圧母線より行われるが、5号炉の共通用高圧母線、及び6号炉もしくは7号炉の非常用高圧母線から受電できない場合は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備から給電する。本部長は、同電源車の起動する要員について、現場対応を妨げることがないよう、現場対応できない要員の中から指名する。本部及び主要な機能班の机等は予め配備されており、本部立ち上げに要する要員は5名程度で可能である。免震重要棟の使用可否判断、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動、遮断器切替も含めて96分程度で対応可能である。</p> <p>⑪ 本部長は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の本部立ち上げ後に、免震重要棟又はその近傍に残った要員から移動中に収集されたプラント状況等の報告を受ける。</p> <p>⑫ 免震重要棟又はその近傍に残った要員は、本部長への報告の後に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に向けて移動し、合流する。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
31	1.18.2.1	1.18-16	削除	(c) 成立性 本部及び主要な機能班の机等は予め配備されており, 本部立ち上げは短時間で可能であり, 作業着手指示から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動, 緊急時対策所の立ち上げまで約96分である。 暗所においても円滑に対応できるよう, ヘッドライト等を配備する。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への移動の際も, 免震重要棟又はその近傍に残った要員により緊急時対策所の機能を維持することで, 指揮命令系統が途絶えることはない。	②(免震重要棟の自主化)
32	1.18.2.1(1)	1.18-16	削除	なお, 緊急時対策所の立ち上げについては, 緊急時対策所の設置位置が緊急時対策要員の執務室・宿直室に近いこと, 利便性が高いこと, 迅速な緊急時対策所拠点立ち上げが可能であることから, 免震重要棟緊急時対策所2階を優先的に立ち上げることとし, 非常に大きな長周期成分を含む一部の基準地震動に対しては免震重要棟の通常の免震設計クライテリアを満足しない場合があるため, 免震重要棟内緊急時対策所の使用可能と判断ができない場合は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ移動する。	②(免震重要棟の自主化)
33	1.18.2.1(1)	1.18-16	※14 原子力警戒態勢又は緊急事態勢が発令され, 対策本部が設置される場合として, 運転時の異常な過渡変化, 設計基準事故も含める。	※15 緊急事態勢が発令され, 発電所緊急時対策本部が設置される場合として, 運転時の異常な過渡変化, 設計基準事故も含める。	⑤
34	1.18.2.1(1)	1.18-16	削除	a. 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機運転手順 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)を使用するにあたり, 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を起動し, 必要な換気を確保するとともに, 同空調機フィルタを通気することにより放射性物質の侵入を低減するための手順を整備する。(添付資料1.18.2(3)) 所内電源の全交流動力電源喪失時は, 代替交流電源設備からの給電により, 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を起動する。	②(免震重要棟の自主化)
35	1.18.2.1(1)	1.18-16	削除	(a) 手順着手の判断基準 当直副長が, 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生したと判断した後, 保安班長が, 事象進展の状況, 参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して, 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の起動を行うと判断した場合。(保安班の緊急時対応の例については, 添付資料1.18.5(8) 10.「保安班の緊急時対応のケーススタディー」に示す。)	②(免震重要棟の自主化)
36	1.18.2.1(1)	1.18-16	削除	(b) 操作手順 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の使用に先立ち, 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を運転する手順は以下のとおり。免震重要棟内緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転の概略系統図を図1.18.6に, 手順のタイムチャートを図1.18.7に, 可搬型陽圧化空調機及び活性炭フィルタの保管・設置場所を図1.18.12に示す。 ① 保安班長は, 作業着手の判断基準に基づき, 保安班に免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の起動を指示する。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
37	1.18.2.1(1)	1.18-16	削除	④ 保安班は, 3台の免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の活性炭フィルタを装着し, 仮設ダクトを差込口に接続して, 電源を接続する。 ⑤ 保安班は, 3台の免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を起動する。 ⑥ 保安班は, 差圧計で室内の圧力を微正圧(20Pa以上)であることを確認する。一度同空調機を起動した後は, 基本的に継続的な調整は不要である。 (c) 操作の成立性 上記の対応は免震重要棟内において保安班2名で行い, 一連の操作完了まで約96分を要する。	②(免震重要棟の自主化)
38	1.18.2.1(1)	1.18-16	原子力警戒態勢又は緊急時態勢が発令された場合, 緊急時対策本部要員は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を拠点として活動を開始する。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で活動する緊急時対策本部要員の必要な換気量の確保及び被ばくの低減のため, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を起動する。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を起動し, 必要な換気を確保するとともに, 可搬型陽圧化空調機フィルタを通気することにより放射性物質の侵入を低減するための手順を整備する。	⑤
39	1.18.2.1(1)a.	1.18-17	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備(対策本部)系統概略図(ブルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)を第1.18.2図に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機運転手順のタイムチャートを第1.18.3図に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備(待機場所)系統概略図(ブルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)を第1.18.4図に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機運転手順のタイムチャートを第1.18.5図に, 可搬型陽圧化空調機及び陽圧化装置(空気ポンプ)(対策本部)設置場所を第1.18.6図に, 可搬型陽圧化空調機及び陽圧化装置(空気ポンプ)(待機場所)設置場所を第1.18.7図, 第1.18.8図に示す。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転の概略系統図を図1.18.8に, 手順のタイムチャートを図1.18.9に, 可搬型陽圧化空調機及び空気ポンプ陽圧化装置設置場所を図1.18.15に示す。	⑤
40	1.18.2.1(1)a.	1.18-18	【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機操作手順】 ① 計画・情報統括は, 手順着手の判断基準に基づき, 保安班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機の起動を指示する。	① 計画・情報統括は, 作業着手の判断基準に基づき, 保安班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の起動を指示する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
41	1.18.2.1(1)a.	1.18-19	<p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機操作手順】</p> <p>①号機統括は, 手順着手の判断基準に基づき, 復旧班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の起動を指示する。</p> <p>②復旧班は, 5号炉中央制御室換気空調系給排気口に閉止板を取り付ける。</p> <p>③復旧班は, 活性炭フィルタ保管場所に移動し, 活性炭フィルタ保管容器から活性炭フィルタを取出した後, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機設置場所に移動する。</p> <p>④復旧班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の活性炭フィルタを装着し, 仮設ダクトを差込口に接続して, 電源を接続する。</p> <p>⑤復旧班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機を起動する。</p> <p>⑥復旧班は, 差圧計で室内の圧力を微正圧(20Pa以上)であることを確認する。一度同空調機を起動した後は, 基本的に継続的な調整は不要である。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
42	1.18.2.1(1)a.	1.18-20	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機は保安班2名で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機は復旧班2名で行い, 一連の操作完了まで約60分を要する。	保安班2名で行い, 一連の操作完了まで約48分を要する。	②(K5TSC設計進捗)
43	1.18.2.1(1)a.	1.18-20	円滑に作業ができるように, アクセスルートを確認し, 防護具, 可搬型照明, 通信設備を整備する。	—	⑤
44	1.18.2.1(1)b.	1.18-20	b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	d. 緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	⑤
45	1.18.2.1(1)b.	1.18-20	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の使用を開始した場合, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性確保の観点から, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定を行う。酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定を行う手順を整備する。	緊急時対策所の居住性確保の観点から, 緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定を行う手順を整備する。	⑤
46	1.18.2.1(1)b.	1.18-20	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の使用を開始した場合。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用している場合は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を運転した場合。	②(K5TSC設計進捗, 免震重要棟の自主化)
47	1.18.2.1(1)b.	1.18-20	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順の概要は以下のとおり。	緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定を行う手順は以下のとおり。	②(K5TSC設計進捗, 免震重要棟の自主化)
48	1.18.2.1(1)b.	1.18-21	上記の対応は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内において,	上記の対応は緊急時対策所内において,	②(K5TSC設計進捗, 免震重要棟の自主化)
49	1.18.2.1(1)b.	1.18-21	速やかに対応が可能である。	短時間で対応が可能である。	⑤
50	1.18.2.1(2)a.	1.18-21	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性の確認(線量率の測定)を行うため, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)に	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内への放射性物質等の侵入量を微量のうちを検知し, 陽圧化の判断を行うため, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所対策本部に	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
51	1.18.2.1(2)a.	1.18-22	作業開始を判断してから約20分で可能である。	作業開始を判断してから約30分で可能である。	⑤
52	1.18.2.1(2)b.	1.18-22	b. その他の手順項目にて考慮する手順 可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定手順は、「1.17 監視測定等に関する手順等」で整備する。	—	⑤
53	1.18.2.1(3)a.	1.18-23	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所にとどまる緊急時対策要員は、 重大事故等に対処するために必要な指示を行う6号及び7号炉に係る要員52名に1～5号炉に係る要員2名を加えた54名と、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員75名のうち6号及び7号炉中央制御室にとどまる運転員18名を除く57名の合計111名、5号炉運転員8名と保安検査官2名をあわせて、121名と想定している(添付4-2, 添付4-3)。このうち、重大事故等に対処するために必要な指示を行う6号及び7号炉に係る要員52名、1～5号炉に係る要員2名、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員のうちの17名及び保安検査官2名の合計73名が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)にとどまり、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員のうち残りの40名及び5号炉運転員8名の合計48名が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)にとどまる。	緊急時対策所にとどまる緊急時対策要員は、 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員52名と、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員35名のうち6号及び7号炉中央制御室にとどまる運転員18名を除く17名の合計69名と想定している。	⑤
54	1.18.2.1(3)a.	1.18-23	ブルーム放出のおそれがある場合、本部長は、この要員数を目安とし、最大収容可能人数(約180名)の範囲で5号炉原子炉建屋内緊急時対策所にとどまる要員を判断する。	—	⑤
55	1.18.2.1(3)a.	1.18-24	削除	b. 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動の手順 格納容器ベントのおそれがある場合に備え、免震重要棟内緊急時対策所2階から免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動及びパラメータの監視強化の手順を整備する。	②(免震重要棟の自主化)
56	1.18.2.1(3)	1.18-24	削除	(a) 手順着手の判断基準 ・計画班が実施する事象進展予測から、炉心損傷後※16の格納容器ベントの実施予測時刻が2時間後以内になると判明した場合。 ・計画班が実施する事象進展予測から、炉心損傷後※16の格納容器ベントより先に格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が可燃限界に近づき、水素ガス・酸素ガスの放出の実施予測時刻が2時間後以内になると判明した場合で、放出される放射性物質質量、風向き等から、本部長が待避室への移動が必要と判断した場合。 ・事象進展の予測ができず、炉心損傷後※16の格納容器ベントに備え、本部長が待避室への移動が必要と判断した場合。 ・不測の事態が発生し、放射性物質の放出に備え、本部長が待避室への移動が必要と判断した場合。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
58	1.18.2.1(3)	1.18-24	削除	(b) 操作手順 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動及びパラメータの監視強化の手順は以下のとおり。免震重要棟内緊急時対策所2階と同1階(待避室)の見取り図をそれぞれ図1.18.11, 図1.18.12に, タイムチャートを図1.18.13に示す。 ① 本部長は, 作業着手の判断基準に基づき, 格納容器ベントに備え, 免震重要棟内緊急時対策所にとどまる要員の免震重要棟内緊急時対策所1階(待避所)への移動及びとどまる必要のない要員の発電所からの一時退避に関する判断を行う。	②(免震重要棟の自主化)
59	1.18.2.1(3)	1.18-24	削除	② 本部長は同1階(待避室)の立ち上げ要員として5名程度を指名し立ち上げを指示し, プルーム放出中に免震重要棟内緊急時対策所にとどまる要員と, 発電所から一時退避する要員とを明確にする。計画・情報統括は, 保安班長へ可搬型陽圧化空調機の運転状態の確認とパラメータの監視強化を指示する。(免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の運転手順は, 1.18.2.1(2) a.参照) ③ 同1階(待避室)の立ち上げ終了後に, 本部長の指示の下, とどまる要員(現場に出ている要員を除く)のうち, 一部を同1階(待避室)に移動し, 準備が完了次第, 残りの要員が同1階(待避室)に移動する。通信連絡設備は順次切り替えを行い, これにより指揮機能の空白を作らないようにする。(図1.18.14参照)	②(免震重要棟の自主化)
60	1.18.2.1(3)	1.18-24	削除	④ 本部長は, 発電所から一時退避するための要員の退避に係る体制, 連絡手段, 移動手段を確保させ, 同1階(待避室)への要員の移動に合わせて, 放射性物質による影響の少ないと想定される場所(原子力事業所災害対策支援拠点等)への退避を指示する。 ⑤ 保安班は, 免震重要棟内緊急時対策所換気空調系設備の送風機及び排風機を停止, 給気隔離ダンパ(屋上)及び排気隔離ダンパ(屋上)を閉止し, 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の運転状態と差圧計で室内の圧力を微正圧(20Pa以上)であることを確認した後, 可搬型モニタリングポスト等の監視強化を行う。 ⑥ 号機統括は, 同1階(待避室)に移動の後は, 給油作業等の屋外作業に出る復旧班現場要員に対して, 退避に係る移動手段, 連絡手段を再確認させた上で, 作業時間と退避に係る時間を考慮し, 時間的な余裕をもって現場出勤を指示する。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
61	1.18.2.1(3)	1.18-24	削除	⑦ 本部長は、格納容器ベント実施の前には、現場要員が全て同1階(待避室)に戻って来ていることの確認を行う。 (c) 操作の成立性 上記の②の対応は免震重要棟内緊急時対策所内において保安班2名で行う。着手判断から待避室への要員移動完了、室内差圧確認完了までに約40分で可能である。	②(免震重要棟の自主化)
62	1.18.2.1(3)b.	1.18-24	b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントを実施する場合の対応の手順	c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントのおそれがある場合の対応の手順	⑤
63	1.18.2.1(3)b.	1.18-24	格納容器ベントを実施する場合に備え、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)への移動の手順、及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)に切り替えることにより、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)への外気の流入を遮断する手順を整備す	放射性ブルーム通過時においては、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機から空気ポンペ陽圧化装置に切替えることにより、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への外気の流入を遮断する。	⑤
64	1.18.2.1(3)b.	1.18-25	6号又は7号炉において炉心損傷 ^{※15} 後に格納容器ベントの実施を判断した	6号炉又は7号炉にて炉心損傷後に格納容器ベント判断	⑤
65	1.18.2.1(3)b.	1.18-25	6号又は7号炉にて炉心損傷 ^{※15} 後に格納容器破損徴候が発生した場合	6号炉又は7号炉にて炉心損傷後に格納容器破損徴候が発生	⑤
66	1.18.2.1(3)b.	1.18-25	※15 格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)で格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)が使用できない場合に、原子炉圧力容器温度計で300°C以上を確認した場合。(添付2-1)	—	⑤
67	1.18.2.1(3)b.	1.18-25	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)への現場要員の移動手順、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)の起動、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の停止手順は以下のとおり。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備系統概略図(ブルーム通過中:陽圧化装置(空気ポンペ)による陽圧化)を第1.18.11図に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)における手順のタイムチャートを第1.18.12図に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備系統概略図(ブルーム通過中:陽圧化装置(空気ポンペ)による陽圧化)を第1.18.13図に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)における手順のタイムチャートを第1.18.14図に示す。また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の見取り図を第1.18.15図に	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンペ陽圧化装置の起動、及び、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の停止手順は以下のとおり。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転の概略系統図を図1.18.17に、手順のタイムチャートを図1.18.18に示す。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
68	1.18.2.1(3)b.	1.18-26	<p>① 本部長は、計画班が実施する事象進展予測等から、格納容器ベントに備え、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)にとどまる現場要員の移動及びとどまる必要のない要員の発電所からの一時退避に関する判断を行う^{※16}。</p> <p>※16・計画班が実施する事象進展予測から、炉心損傷後^{※15}の格納容器ベントの実施予測時刻が2時間後以内になると判明した場合。</p> <p>・計画班が実施する事象進展予測から、炉心損傷後^{※15}の格納容器ベントより先に格納容器内の水素濃度及び酸素濃度が可燃限界に近づき、水素ガス・酸素ガスの放出の実施予測時刻が2時間後以内になると判明した場合で、放出される放射性物質、風向き等から本部長が退避が必要と判断した場合。</p> <p>・事象進展の予測ができず、炉心損傷後^{※15}の格納容器ベントに備え、本部長が退避が必要と判断した場合。</p> <p>・不測の事態が発生し、放射性物質の放出に備え、本部長が退避が必要と判断した場合。</p> <p>※15 格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)で格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)が使用できない場合に、原子炉圧力容器温度計で300℃以上を確認した場合。(添付2-1)</p>	—	⑤
69	1.18.2.1(3)b.	1.18-27	<p>② 本部長は、ブルーム放出中に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)にとどまる要員と、発電所から一時退避する要員とを明確にする。</p> <p>③ 本部長は、発電所から一時退避するための要員の退避に係る体制、連絡手段、移動手段を確保させ、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)への現場要員の移動にあわせて、放射性物質による影響の少ないと想定される場所(原子力事業所災害対策支援拠点等)への退避を指示する。</p> <p>④ 本部長は、手順着手の判断に基づき、計画・情報統括へ5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンペ)の起動及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機の停止を、号機統括へ5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンペ)の起動及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の停止を指示する。</p> <p>⑤ 本部長は、格納容器ベント実施の前には、現場要員が全て5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)に戻って来ていることの確認を行う。</p>	—	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
70	1.18.2.1(3)b.	1.18-28	<p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の手順】</p> <p>① 保安班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを切離し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)への給気口に閉止板を取付けるとともに、陽圧化装置(空気ポンペ)空気給気弁の開操作、差圧調整用排気弁(陽圧化装置(空気ポンペ))の開操作及び差圧調整用排気弁(可搬型陽圧化空調機)の開操作を行い、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の陽圧化を開始する。</p> <p>② 保安班は、陽圧化状態の差圧確認後に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の外側に設置する5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機を停止する。</p> <p>③ 保安班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)において、差圧確認後に二酸化炭素濃度上昇を防止するために、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所二酸化炭素吸収装置を起動する。</p>	<p>① 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを切離し、可搬型陽圧化空調機給気口に閉止板を取付けるとともに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンペ陽圧化装置空気給気弁を開操作し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化を開始する。</p> <p>陽圧化の開始操作については、全て5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内から操作可能とすることにより、速やかな切り替え操作を可能とする。</p> <p>② 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の二酸化炭素濃度上昇を防止するために、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所二酸化炭素吸収装置を起動する。</p> <p>③ 陽圧化状態の差圧確認後に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所外の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を停止する。</p>	②(K5TSC設計進捗)
71	1.18.2.1(3)b.	1.18-29	<p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の手順】</p> <p>① 復旧班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを切離し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)への給気口に閉止板を取付けるとともに、陽圧化装置(空気ポンペ)空気給気弁の開操作を行い^{※17}、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の陽圧化を開始する。</p> <p>② 復旧班は、陽圧化状態の差圧確認後に、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の外側に設置する5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機を停止する。</p> <p>※17 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)は通常時において空気ポンペの元弁は開とし、ポンペラックごとに隔離弁を設置し通常運転時に閉としておく。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)使用時には、各々のポンペラックの隔離弁を事故発生後24時間以内に開操作した後、加圧判断を受けて、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)内に設置する給気弁を開操作することで5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)による陽圧化開始可能な設計とする。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
72	1.18.2.1(3)b.	1.18-30	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)は保安班3名で、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)は復旧班3名で行う。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)による陽圧化状態の確認完了まで約2分で可能である。また、陽圧化状態の確認後、可搬型陽圧化空調機を停止し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)では、二酸化炭素吸収装置を起動するまで、約5分である。</p>	<p>保安班2名で行う。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンペ陽圧化装置による陽圧化状態の確認完了までに約2分で可能である。</p>	②(K5TSC設計進捗)
73	1.18.2.1(3)c.	1.18-31	<p>c. カードル式空気ポンペユニットによる5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の陽圧化のための準備手順</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
74	1.18.2.1(3)c.	1.18-31	<p>(a) 手順着手の判断基準 炉心損傷を判断した場合^{※15}で、6号及び7号炉の同時でない格納容器ベント操作を実施する場合。 ※15 格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)で格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル計(GAMS)が使用できない場合に、原子炉圧力容器温度計で300℃以上を確認した場合。(添付2-1)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
75	1.18.2.1(3)c.	1.18-31	<p>(b) 操作手順 カードル式空気ポンベユニットによる5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の陽圧化のための準備手順の概要は以下のとおり。</p> <p>【カードル式空気ポンベユニットの準備操作】</p> <p>① 本部長は、手順着手の判断基準に基づき、号機統括に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の陽圧化のためのカードル式空気ポンベユニットの準備を指示する。 ② 号機統括は、緊急時対策要員にカードル式空気ポンベユニットの準備を指示する。 ③ 緊急時対策要員は、5号炉原子炉建屋近傍へカードル式空気ポンベユニットを移動させる。 ④ 緊急時対策要員は、カードル式空気ポンベユニットをホースにて接続し、さらに5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置配管と接続するため、5号炉原子炉建屋接続口へホースを接続する。 ⑤ 緊急時対策要員は、カードル式空気ポンベユニットのポンベ元弁を開操作し、カードル式空気ポンベユニット建屋接続外弁を開操作する。 ⑥ 緊急時対策要員は、カードル式空気ポンベユニットの準備完了を号機統括へ報告する。</p> <p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の陽圧化】</p> <p>① 本部長は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンベ)による陽圧化時間の延長が必要になった場合、号機統括へカードル式空気ポンベユニットによる陽圧化を指示する。 ② 号機統括は、緊急時対策要員にカードル式空気ポンベユニットによる陽圧化を指示し、緊急時対策要員は、5号炉原子炉建屋内でカードル式空気ポンベユニット建屋接続内弁を開操作することで5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)を陽圧化する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
76	1.18.2.1(2)c.	1.18-33	(c) 操作の成立性 カードル式空気ポンプユニットによる5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の加圧準備操作は, 緊急時対策要員7名で実施し, 約150分に対応可能である。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の加圧操作は, 緊急時対策要員2名で実施し, 約5分に対応可能である。 カードル式空気ポンプユニットの準備操作は, 参集した緊急時対策要員によって行う。なお, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)が建屋内の空気ポンプによって陽圧化されている時に, カードル式空気ポンプユニットによる空気の供給を開始した場合も, 空気ポンプの下流側に設置されている圧力調整ユニットにより系統圧力が制御されているため, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)に影響がでることはない。	—	②(K5TSC設計進捗)
77	1.18.2.1(3)d.	1.18-33	d. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンプ)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機への切替え手順 周辺環境中の放射性物質が十分減少した場合にブルーム通過後の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンプ)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機への切替え手順を整備する。	—	②(K5TSC設計進捗)
78	1.18.2.1(3)d.	1.18-34	(a) 手順着手の判断基準 ・発電所敷地内に重大事故等対処設備として設置する可搬型モニタリングポスト及び機能喪失していない場合には自主対策設備であるモニタリングポストの指示値により周辺環境中の放射性物質が十分減少した場合(ブルームの影響により可搬型モニタリングポスト等の線量率が上昇した後に線量率が減少に転じ, 更に線量率が安定的な状態になって, 5号炉原子炉建屋上階の階段室近傍(可搬型外気取入送風機の外気吸込場所)に設置する可搬型モニタリングポストの値が0.2mGy/h ^{※18} を下回った場合) ※18 保守的に0.2mGy/hを0.2mSv/hとして換算し, 仮に7日間被ばくし続けたとしても, 0.2mSv/h × 168h=33.6mSv ≒ 34mSv程度と100mSvに対して十分余裕があり, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の居住性評価である約58mSvに加えた場合でも100mSvを超えることのない値として設定	—	②(K5TSC設計進捗)
79	1.18.2.1(3)d.	1.18-34	(b) 操作手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の陽圧化について, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンプ)による給気から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機への切替え手順の概要は以下のとおり。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備系統概略図(ブルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)を第1.18.2図に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)における手順のタイムチャートを第1.18.16図に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)における手順のタイムチャートを第1.18.17図に示す。	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
80	1.18.2.1(3)d.	1.18-35	<p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の手順】</p> <p>① 計画・情報統括は, 手順着手の判断基準に基づき, 保安班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機の起動及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンペ)の停止を指示する。</p> <p>② 保安班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の外側において, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)給気口と接続する。</p> <p>③ 保安班は, ブルーム通過後に建屋内の雰囲気線量が屋外より高い場合(5号炉近傍に設置する可搬型モニタリングポストの値と建屋内雰囲気線量の測定結果から判断)には, 屋外から直接, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機を用いて外気取り入れを可能とするために仮設ダクトを敷設する。</p> <p>④ 保安班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の内側において, 給気口の閉止板を取外し5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)内に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機による給気を開始する。</p> <p>⑤ 保安班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の内側において, 差圧調整用排気弁(可搬型陽圧化空調機)を開操作し, 差圧調整用排気弁(陽圧化装置(空気ポンペ))を閉操作し, 陽圧化装置(空気ポンペ)空気給気弁を閉操作する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
81	1.18.2.1(3)d.	1.18-36	<p>【5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の手順】</p> <p>① 号機統括は, 手順着手の判断基準に基づき, 復旧班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の起動及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンペ)の停止を指示する。</p> <p>② 復旧班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の外側において, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)給気口と接続する。</p> <p>③ 復旧班は, プルーム通過後に建屋内の雰囲気線量が屋外より高い場合(5号炉近傍に設置する可搬型モニタリングポストの値と建屋内雰囲気線量の測定結果から判断)には, 屋外から直接, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機を用いて外気取り入れを可能とするために仮設ダクトを敷設する。</p> <p>④ 復旧班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の内側において, 給気口の閉止板を外し5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)内に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機による給気を開始する。</p> <p>⑤ 復旧班は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の内側において, 陽圧化装置(空気ポンペ)空気給気弁を閉操作する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
82	1.18.2.1(3)d.	1.18-37	<p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の対応は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内及びその近傍において, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)は保安班2名で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)は復旧班2名で行う。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の起動及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化装置(空気ポンペ)の停止まで約30分(プルーム通過後に建屋内の雰囲気線量が屋外より高い場合(5号炉近傍に設置する可搬型モニタリングポストの値と建屋内雰囲気線量の測定結果から判断)における, 屋外から直接に可搬型陽圧化空調機を用いて外気取入を可能とするための仮設ダクト敷設及び可搬型陽圧化空調機の起動操作(10分), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機起動失敗を想定した場合の予備機への切替え操作(10分)を含む)で可能である。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
83	1.18.2.1(3)e.	1.18-38	<p>e. 5号炉原子炉建屋内可搬型外気取入送風機による通路部のパージ手順</p> <p>建屋内の雰囲気線量が屋外より高い場合においては, 通路部の雰囲気のパージを行うために5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型外気取入送風機による通路部のパージの手順を整備する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
84	1.18.2.1(3)e.	1.18-38	(a) 手順着手の判断基準 建屋内の雰囲気線量(電離箱サーベイメータで測定)が屋外より高いことが、5号炉近傍に設置する可搬型モニタリングポストの値との比較から確認された場合。	—	②(K5TSC設計進捗)
85	1.18.2.1(3)e.	1.18-38	(b) 操作手順 5号炉原子炉建屋内可搬型外気取入送風機による通路部のパージ手順は、以下のとおり。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所通路部可搬型外気取入送風機系統概略図を第1.18.18図に、手順のタイムチャートを第1.18.19図に示す。 ① 計画・情報統括は、手順着手の判断基準に基づき、保安班に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型外気取入送風機による通路部のパージを実施するよう指示する。 ② 保安班は、屋上から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型外気取入送風機へ仮設ダクトを敷設し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型外気取入送風機を起動する。 ③ 保安班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型外気取入送風機の運転状態を確認する。	—	②(K5TSC設計進捗)
86	1.18.2.1(3)e.	1.18-39	(c) 操作の成立性 上記の対応は、保安班2名で行い、一連の操作完了まで予備機への切替え操作を想定した場合、約30分で可能である。	—	②(K5TSC設計進捗)
87	1.18.2.1(3)f.	1.18-39	f. 移動式待機所を使用する手順 事故対応の柔軟性と対策要員の放射線安全、労働環境改善を図るために、移動式待機所を、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために現場にて対応を行う要員を防護できる手段として使用することを考慮する。 そこで、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の現場要員がとどまることができる待機場所として、換気設備、電源設備及び通信連絡設備等を有する移動式待機所を使用し、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために現場にて対応を行う要員を收容するための移動式待機所の使用手順を整備する。	—	②(K5TSC設計進捗)
88	1.18.2.1(3)f.	1.18-40	(a) 手順着手の判断基準 以下の線量率であり、本部長が移動式待機所の使用が必要と判断した場合。 ・プルーム通過時間(格納容器ベント実施後10時間)経過後に、1mSv/h以下 ・事故発生後7日(168時間)時点で0.2mSv/h以下	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
89	1.18.2.1(3)f.	1.18-40	<p>(b) 操作手順 移動式待機所を使用する手順は次のとおり。移動式待機所の保管及び使用場所を第1.18.20図に、移動式待機所の外観図を第1.18.21図に、移動式待機所の使用準備のタイムチャートを第1.18.22図に示す。</p> <p>① 号機統括及び計画・情報統括は手順着手の判断基準に基づき、号機統括は復旧班に、計画・情報統括は保安班に移動式待機所の使用を指示する。</p> <p>② 復旧班及び保安班は、移動式待機所の保管及び使用場所である荒浜側高台保管場所に移動する。</p> <p>③ 復旧班及び保安班は、移動式待機所の床及び壁面に汚染が確認された場合は、除染を行う。</p> <p>④ 復旧班は、移動式待機所に設置する可搬型電源設備を起動した上で、可搬型陽圧化空調機を起動し、陽圧化を実施する。</p> <p>⑤ 復旧班及び保安班は、可搬型エリアモニタ及びチェンジングエリアを設置する。</p> <p>⑥ 復旧班は、差圧計で室内の圧力が微正圧(20Pa以上)であることを確認する。</p> <p>⑦ 復旧班は、移動式待機所の使用準備完了を号機統括へ報告する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
90	1.18.2.1(3)f.	1.18-41	<p>(c) 操作の成立性 上記の対応は、移動式待機所の使用場所において、復旧班2名及び保安班1名で行い、一連の操作完了まで約90分と想定する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
91	1.18.2.2(1)	1.18-42	<p>(b) 操作手順 安全パラメータ表示システム(SPDS)のうちSPDS表示装置を起動し、監視する手順の概要は以下のとおり。安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備の概要を第1.18.23図に示す。</p> <p>なお、緊急時対策支援システム伝送装置については、常時、伝送が行われており、操作は必要ない。</p>	<p>(b) 操作手順 緊急時対策支援システム伝送装置については、常時伝送を行う。安全パラメータ表示システム(SPDS)のうちSPDS表示装置を起動し、監視する手順は以下のとおり。緊急時対策所データ伝送設備を図1.18.19に示す。</p>	⑤
92	1.18.2.2(2)	1.18-43	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に配備し、	緊急時対策所に配備し、	⑤
93	1.18.2.2(3)	1.18-43	重大事故等対処に係る通信連絡設備一覧を第1.18.4表に、データ伝送設備の概要を第1.18.23図に示す。	緊急時対策所の通信連絡設備を表1.18.7に示す。	⑤
94	1.18.2.3	1.18-44	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所には、	緊急時対策所は、	⑤
95	1.18.2.3	1.18-44	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)に86名、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)に90名の合計176名を収容する。 なお、ブルーム通過中において、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)にとどまる要員は73名、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)にとどまる要員は48名である。	最大180名を収容する。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
96	1.18.2.3(1)a.	1.18-44	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所には、7日間外部からの支援がなくとも緊急時対策要員が使用する十分な数量の装備(汚染防護服、個人線量計、全面マスク等)及びチェンジングエリア用資機材を配備するとともに、通常時から維持、管理し、重大事故等時には、防護具等の使用及び管理を適切に運用し、十分な放射線管理を行う。	放射線安全及び放射線管理グループマネージャーは、7日間外部からの支援がなくとも緊急時対策要員が使用する十分な数量の装備(汚染防護服、個人線量計、全面マスク等)及びチェンジングエリア用資機材を配備するとともに、通常時から維持、管理する。	⑤
97	1.18.2.3(1)b.	1.18-45	放射性物質による要員や物品の汚染を確認する	放射性物質による汚染を確認する	⑤
98	1.18.2.3(1)b.	1.18-45	保安班等が汚染検査及び除染を	保安班2名が身体サーベイ(必要に応じ物品等を含む)及び汚染している現場作業を行う要員等の除染を	⑤
99	1.18.2.3(1)b.	1.18-46	また、チェンジングエリア設置場所付近の全照明が消灯した場合は、乾電池内蔵型照明を設置する。	—	⑤
100	1.18.2.3(1)b.	1.18-46	事象進展の状況(格納容器雰囲気放射線レベル計(CAMS)等により炉心損傷 ^{※15} を判断した場合等)。	事象進展の状況、	⑤
101	1.18.2.3(1)b.	1.18-46	※15 格納容器内雰囲気放射線レベル計(CAMS)で格納容器内のガンマ線線量率が、設計基準事故相当のガンマ線線量率の10倍を超えた場合、又は格納容器内雰囲気放射線レベル計(CAMS)が使用できない場合に、原子炉圧力容器温度計で300℃以上を確認した場合。(添付2-1)	—	⑤
102	1.18.2.3(1)b.	1.18-46	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置(南側アクセスルート)のタイムチャート及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置(北東側アクセスルート)のタイムチャートを第1.18.24図に示す。なお、チェンジングエリアは、使用する5号炉原子炉建屋内緊急時対策所とアクセスルートに応じて1箇所設置する。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のタイムチャートを図1.18.21に示す。	②(K5TSC設計進捗)
103	1.18.2.3(1)b.	1.18-47	② 保安班は、チェンジングエリア設置場所の照明が確保されていない場合、乾電池内蔵型照明を設置し、照明を確保する。	—	②(K5TSC設計進捗)
104	1.18.2.3(1)b.	1.18-47	作業開始から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(南側アクセスルート)は約60分、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(北東側アクセスルート)は約90分で対応可能である。	一連の操作完了まで、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所は約40分で可能で	②(K5TSC設計進捗)
105	1.18.2.3(1)c.	1.18-47	c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の切替え手順	c. 緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の切替え手順	⑤
106	1.18.2.3(1)c.	1.18-47	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機フィルタユニットは、7日間は交換なしで連続使用できる設計であるが、故障する等、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の切替えが必要となった場合に、待機側を起動し、切替えを実施する手順を整備する。	緊急時対策所可搬型陽圧化空調機フィルタユニットは、7日間は交換なしで連続使用できる設計であるが、故障するなど緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の切り替えが必要となった場合に、待機側を起動し、切り替えを実施する手順を整備する。	⑤
107	1.18.2.3(1)c.	1.18-48	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)近傍に設置する1台及び予備の1台を配備し、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)近傍に設置する2台及び予備の1台を配備しており、故障等を考慮しても、切替え等を行うことにより数ヶ月間使用可能とする。	可搬型陽圧化空調機は、緊急時対策所近傍に設置する3系統及び予備の3系統を配備しており、故障等を考慮しても、切り替え等を行うことにより数ヶ月間使用可能とする。	⑤
108	1.18.2.3(1)c.	1.18-48	運転中の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機が故障する等、切替えが必要となった場合。	運転中の緊急時対策所可搬型陽圧化空調機が故障する等、切り替えが必要となった場合。	⑤
109	1.18.2.3(1)c.	1.18-48	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を待機側に	緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を待機側に	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
110	1.18.2.3(1)c.	1.18-49	※19 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の場合。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の場合は、号機統括。 ※20 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の場合。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の場合は、復旧班。	—	⑤
111	1.18.2.3(1)c.	1.18-50	上記の対応は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所近傍において保安班※202名で行い、着手の判断から一連の操作完了まで約75分で可能である。 円滑に作業ができるように、アクセスルートを確認し、防護具、可搬型照明、通信設備を整備する。 ※20 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)の場合。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の場合は、復旧班。	上記の対応は緊急時対策所近傍において保安班2名で行い、着手判断から一連の操作完了まで約72分で可能である。	⑤
112	1.18.2.3(2)	1.18-50	保安班長は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内での	保安班長は、緊急時対策所内での	⑤
113	1.18.2.3(2)	1.18-50	ただし、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の	ただし、緊急時対策所内の	⑤
114	1.18.2.3(2)	1.18-51	また、重大事故等が発生した場合、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内の室温・湿度が維持できるよう予備のエアコン等を保管し、管理を適切に行う。	—	②(K5TSC設計進捗)
115	1.18.2.3(2)	1.18-51	(1) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備による給電	(1) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源設備による給電	⑤
116	1.18.2.4(1)a.	1.18-51	原子力警戒態勢又は緊急時態勢が発令された場合、緊急時対策本部要員は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策本部を拠点として活動を開始する。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の必要な負荷は、5号炉の共通用高圧母線、及び6号炉若しくは7号炉の非常用高圧母線より受電されるが、同母線より受電できない場合は、可搬型代替交流電源設備である5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源設備から給電する。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所で、可搬型代替交流電源設備である5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用電源設備を立ち上げる場合の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の起動手順を整備する。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所立ち上げ時の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の起動手順を整備する。	⑤
117	1.18.2.4(1)a.	1.18-52	5号炉の共通用高圧母線、及び6号炉若しくは7号炉の非常用高圧母線より受電できない場合で、早期の電源回復が不能の場合。	5号炉全交流動力電源喪失時、早期の電源回復が不能の場合。	⑤
118	1.18.2.4(1)a.	1.18-52	① 号機統括は、手順着手の判断基準に基づき、復旧班に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所電源供給作業開始を指示する。 ② 復旧班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の配備場所まで移動し、燃料油量を確認した上で、ケーブルを接続の上、可搬型電源設備を起動する。 ③ 復旧班は、出力遮断器を「入」とする。 ④ 復旧班は、負荷変圧器配置場所に移動し、受電遮断器を切り替えて給電を開始する。	① 本部長は、作業着手の判断基準に基づき、緊急時対策要員のうち、復旧班現場要員を除く、本部付、号機班に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所電源供給作業開始を指示する。 ② 本部付は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の配備場所まで移動し、可搬型電源設備を起動する。 ③ 本部付は、同電源設備の出力電圧、周波数を確認し、出力遮断器を「入」とする。 ④ 本部付は、負荷変圧器配置場所に移動し、遮断器切り替えて給電を開始する。	②(K5TSC設計進捗)
119	1.18.2.4(1)a.	1.18-52	上記の現場対応は、現場要員でない復旧班2名で行い、着手の判断から一連の操作完了まで約25分で可能である。 円滑に作業ができるように、アクセスルートを確認し、防護具、可搬型照明、通信設備を整備する。	上記の対応は、本部付2名で行い、着手判断から一連の操作完了まで約15分で可能である。暗所においても円滑に対応できるよう、ヘッドライト等を配備する。	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
120	1.18.2.4(1)b.	1.18-53	<p>b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順 5号炉の共通用高圧母線, 及び6号炉若しくは7号炉の非常用高圧母線より受電できない場合において, 早期の電源回復が不能の場合で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した際は, 燃料給油のため同電源設備を切り替える必要があり, その手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 燃料給油等のため, 運転中の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の停止が必要となった場合。</p> <p>(b) 操作手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順の概要は以下のとおり。タイムチャートを第1.18.28図に示す。 ① 号機統括は, 手順着手の判断基準に基づき, 復旧班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え作業開始を指示する。 ② 復旧班は, 電源設備の配置場所へ移動し, 待機側の電源設備を起動し, 起動後の確認を実施する。 ③ 復旧班は, 待機側の同電源設備に接続されている遮断器を「入」にする。 ④ 復旧班は, 負荷変圧器配置場所へ移動し, 受電遮断機を切り替える。 ⑤ 復旧班は, 使用側の同電源設備の配置場所へ移動し, 出力遮断器を「切」とし, 使用側の同電源設備を停止する。</p> <p>(c) 操作の成立性 上記の現場対応は, 現場要員でない復旧班2名で行い, 着手の判断から一連の操作完了まで約30分で可能である。 円滑に作業ができるように, アクセスルートを確保し, 防護具, 可搬型照明, 通信設備を整備する。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
121	1.18.2.4(1)c.	1.18-54	<p>c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の燃料タンクへの燃料給油手順 5号炉の共通用高圧母線, 及び6号炉若しくは7号炉の非常用高圧母線より受電できない場合で, 早期の電源回復が不能の場合で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した際は, 燃料給油が必要となる。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備には, 軽油タンクエリアからタンクローリ(4kL)へ燃料を給油し, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備に給油する。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の燃料タンクへ給油する手順を整備する。 また, 重大事故等時7日間運転を継続するために必要な燃料の備蓄量として, 6号炉軽油タンク及び7号炉軽油タンク(合計2,040kL)を管理する。</p>	<p>d. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備燃料タンクへの燃料給油手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備燃料タンクへ給油する手順を整備する。</p> <p>なお, 重大事故等時7日間運転継続するために必要な燃料の備蓄量として, 6号炉軽油タンク及び7号炉軽油タンク(合計2,040kl)を管理する。</p>	⑤
122	1.18.2.4(1)c.	1.18-55	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した場合において, 同電源設備の燃料油量を確認した上で運転開始後, 負荷運転時における燃料給油手順着手時間^{※21}に達した場合。</p>	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した場合において, 同電源車の燃料が規定油量以上あることを確認した上で運転開始後, 負荷運転時における燃料補給手順着手時間^{※18}に達した場合。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
123	1.18.2.4(1)c.	1.18-55	燃料給油手順の概要は以下のとおり。概略系統図を第1.18.29図に、	燃料給油手順の概要は以下のとおり。タンクローリ(4kL)によるアクセスルートを第1.18.29図に、	②(K5TSC設計進捗)
124	1.18.2.4(1)c.	1.18-56	1回の給油の所要時間は、約130分で可能である。なお、タンクローリ(4kL)に残油がある場合には、約55分で可能である。	1回の給油の所要時間は、約124分で可能である。なお、タンクローリ(4kL)に残油がある場合には、約49分で可能である。	⑤
125	1.18.2.4(1)c.	1.18-56	円滑に作業ができるように、アクセスルートを確認し、防護具、可搬型照明、通信設備を整備する。	—	⑤
126	1.18.2.4(1)d.	1.18-56	d. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の待機運転手順 格納容器ベントに備える必要がある場合に備え、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の待機側電源設備の無負荷運転を行うため、その待機運転の手順を整備する。 (a) 手順着手の判断基準 本部長が格納容器ベントに備え、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)にとどまる要員の移動が必要と判断した場合。なお、具体的な判断基準は、「1.18.2.1(2)b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントを実施する場合の対応の手順」に示す。 (b) 操作手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の待機運転手順の概要は以下のとおり。タイムチャートを第1.18.31図に示す。 ① 号機統括は、手順着手の判断基準に基づき、復旧班長に5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の待機側無負荷運転を指示する。 ② 復旧班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の配置場所へ移動し、運転側の同電源設備に燃料の給油を行うため、待機側の同電源設備に切り替える。 なお、具体的手順は「1.18.2.4(1)b. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順」に示す。 ③ 復旧班は、運転側の同電源設備を停止し、燃料の給油を行う。 ④ 復旧班は、燃料給油が完了した同電源設備を起動し、出力遮断器を「入」とし、無負荷運転とする。	—	②(K5TSC設計進捗)
127	1.18.2.4(1)d.	1.18-58	(c) 操作の成立性 上記の現場対応は、同電源設備の切替え、再起動、無負荷運転操作は復旧班2名で行い、燃料給油操作は復旧班2名で行い、一連の操作完了まで約45分で可能である。 円滑に作業ができるように、アクセスルートを確認し、防護具、可搬型照明、通信設備を整備する。	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
128	1.18.2.4(1)e.	1.18-57	e. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)の切替え手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した場合で, 同電源設備が2台損傷した際は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)との切替えが必要となる。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備が2台損傷した場合の大湊側高台保管場所に配備する5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)の切替え手順を整備する。	c. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替手順 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備2台の損傷による大湊側高台保管場所に配備する5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)の切替手順を整備する。	⑤
129	1.18.2.4(1)e.	1.18-59	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を運転した場合で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備2台の損傷のため5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)への切替えが必要となった場合。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備2台の損傷のため5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)への切替が必要となった場合。	⑤
130	1.18.2.4(1)e.	1.18-59	号機統括は, 手順着手の判断基準に基づき,	本部長は, 手順着手の判断基準に基づき,	⑤
131	1.18.2.4(1)e.	1.18-60	上記の対応は, 復旧班2名で行い, 一連の操作完了まで約170分で可能である。 円滑に作業ができるように, アクセスルートを確認し, 防護具, 可搬型照明, 通信設備を整備する。	上記の対応は, 復旧班2名で行い, 一連の操作完了まで約180分で可能である。 暗所においても円滑に対応できるように, ヘッドライト等を配備する。	⑤
132	1.18.2.5	1.18-60	削除	1.18.2.5 現場要員の待避手順 (1) 気象状況の急変, 爆発等の不測の事態が発生した場合における現場要員の待避手順 a. 緊急時対策所, 一時待避場所への待避手順 気象状況の急変, 爆発等の不測の事態が発生し, 現場から復旧班現場要員が待避する必要が生じた場合において, 緊急時対策所, 一時待避場所への待避の手順を整備する。 (a) 手順着手の判断基準 気象状況の急変, 爆発等の不測の事態が発生し, 現場からの待避が必要となる場合。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
133	1.18.2.5	1.18-60	削除	(b) 対応手順 6号及び7号炉近傍の一時待避場所は, 以下のとおりであり, 緊急時対策所, 一時待避場所への待避手順は以下のとおり。一時待避場所の配置図を図1.18.32, 緊急時対策所, 一時待避場所への待避ルートを図1.18.33に示す。 <一時待避場所> ・5号炉原子炉建屋 ・5号炉海水熱交換器建屋 ・大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ建屋 ・地下電気洞道(大湊側) ・大湊側出入管理建屋	②(免震重要棟の自主化)
134	1.18.2.5	1.18-60	削除	① 復旧班現場要員は, 気象状況の急変, 爆発等の不測の事態が発生し現場からの待避が必要となった場合, 人身安全を確保しながら, 緊急時対策所への待避が可能な状況か確認し, 基本的に以下の優先順位で緊急時対策所に向けて待避を行う。 ・現場周辺に使用可能な車両が存在する場合は, 車両で緊急時対策所へ待避することを最優先とする。移動に当たっては危険性の少ないルートを選択する。 ・車両での移動ができない場合, 現場に携行した通信連絡設備(無線連絡設備等)により緊急時対策本部復旧班に対して, 待避を開始すること, 使用ルート, 車両による応援要請を行うことを連絡し, ルート途中で応援車両と合流して, 極力短時間で待避できるようにする。 ・短時間で待避できる最適な徒歩ルートを選択し徒歩にて待避する。6号及び7号炉近傍からの待避の場合, 山側徒歩ルート又は地下電気洞道を通行することを基本とする。 ② 緊急時対策所へ待避する時間的な余裕がない場合, 上記の一時待避場所のうち最寄りの一時待避場所ですべて一時待避し, 移動できる状況になり次第, 車両により緊急時対策所に向けて待避を行う。移動に当たっては危険性の少ないルートを選択する。 車両が使えない場合は, 現場に携行した通信連絡設備(無線連絡設備等)により, 緊急時対策本部復旧班に対して車両による応援を要請し, 応援車両で緊急時対策所に待避することを基本とする。	②(免震重要棟の自主化)
135	1.18.2.5	1.18-60	削除	(c) 成立性 上記の対応を行うことにより, 復旧班現場要員は適切な方法により緊急時対策所へ待避することが可能である。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
136	1.18.2.5	1.18-60	削除	(2) 放射性物質が放出した場合における現場要員の待避手順 a. 緊急時対策所への待避手順 放射性物質が放出するような不測の事態が発生し, 現場から復旧班現場要員が待避する必要がある場合において, 緊急時対策所への待避の手順を整備する。 (a) 手順着手の判断基準 放射性物質が放出するような不測の事態が発生し, 現場からの待避が必要となる場合。 (b) 対応手順 緊急時対策所への待避手順は以下のとおり。緊急時対策所への待避ルートを図1.18.33に示す。	②(免震重要棟の自主化)
137	1.18.2.5	1.18-60	削除	① 復旧班現場要員は, 緊急時対策本部復旧班等からの放射性物質が放出するような不測の事態が発生した旨の連絡を受けるなど, 現場からの待避が必要となった場合, 復旧班現場要員は放射線被ばく低減の観点から, 人身安全を確保の上, 以下の優先順位で緊急時対策所へ待避を行う。 ・現場周辺に使用可能な車両が存在する場合は, 車両で緊急時対策所へ待避することを最優先とする。移動に当たっては風向などを考慮し放射線量の少ないルートを選択する。 ・車両での移動ができない場合, 現場に携行した通信連絡設備(無線連絡設備等)により, 緊急時対策本部復旧班に対して, 待避を開始すること, 使用ルート, 車両による応援要請を行うことを連絡し, ルート途中で応援車両と合流して, 極力短時間で待避できるようにする。 ・短時間で待避できる適切な徒歩ルートを選択し徒歩にて待避する。6号及び7号炉近傍からの待避の場合, 放射線影響に対し低減効果が期待できる地下電気洞道による通行を優先する。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																									
138	—	1.18-60	削除	<p>表1.18.1 重大事故等対処設備等と整備する手順(免震重要棟内緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手続書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">—</td> <td rowspan="10">居住性の確保</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所 遮断</td> <td rowspan="10">緊急時対策所本邦標準仕様</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所 (改修) 窓敷</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所 可搬空調機</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所 給排気設備</td> </tr> <tr> <td>地震監視装置</td> </tr> <tr> <td>解凍機</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td>遮汗計</td> </tr> <tr> <td>必要な情報を把握できる設備 (安全バクメータ異常システム (SPDS))</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">送電設備 (ベージング)</td> <td rowspan="4">必要な備品及び通信連絡</td> <td>蓄電設備(常設, 可搬型)</td> <td rowspan="4">原子力災害予防対策 マニュアル</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備(常設, 可搬型)</td> </tr> <tr> <td>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム, I-P-電 話機, I-P-FAX)</td> </tr> <tr> <td>対策の検討に必要な資料*</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">必要の経費</td> <td>放射線管理用資機材**</td> <td rowspan="2">緊急時対策所本邦標準仕様</td> </tr> <tr> <td>飲料水, 食料等**</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">免震重要棟内緊急時対策所 全交流動力電線</td> <td rowspan="6">代替電源設備からの給電</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機</td> <td rowspan="6">緊急時対策所本邦標準仕様</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用地下貯油タンク</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用燃料供給システム</td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用発電機</td> </tr> <tr> <td>電源車</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ (16tL)</td> <td rowspan="2">多様なハザード対応要領</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ (4tL)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1 「対策の検討に必要な資料」については、資機材であるため重大事故等対処設備としない。 *2 「放射線管理用資機材」、「飲料水, 食料等」については、資機材であるため重大事故等対処設備としない。</p>	機能喪失を想定する設計基準対処設備	対応手段	対応設備	手続書	—	居住性の確保	免震重要棟内緊急時対策所 遮断	緊急時対策所本邦標準仕様	免震重要棟内緊急時対策所 (改修) 窓敷	免震重要棟内緊急時対策所 可搬空調機	免震重要棟内緊急時対策所 給排気設備	地震監視装置	解凍機	二酸化炭素濃度計	遮汗計	必要な情報を把握できる設備 (安全バクメータ異常システム (SPDS))	データ伝送設備	送電設備 (ベージング)	必要な備品及び通信連絡	蓄電設備(常設, 可搬型)	原子力災害予防対策 マニュアル	無線連絡設備(常設, 可搬型)	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム, I-P-電 話機, I-P-FAX)	対策の検討に必要な資料*	—	必要の経費	放射線管理用資機材**	緊急時対策所本邦標準仕様	飲料水, 食料等**	免震重要棟内緊急時対策所 全交流動力電線	代替電源設備からの給電	免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機	緊急時対策所本邦標準仕様	免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用地下貯油タンク	免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用燃料供給システム	免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用発電機	電源車	軽油タンク	タンクローリ (16tL)	多様なハザード対応要領	タンクローリ (4tL)	②(免震重要棟の自主化)
機能喪失を想定する設計基準対処設備	対応手段	対応設備	手続書																																											
—	居住性の確保	免震重要棟内緊急時対策所 遮断	緊急時対策所本邦標準仕様																																											
		免震重要棟内緊急時対策所 (改修) 窓敷																																												
		免震重要棟内緊急時対策所 可搬空調機																																												
		免震重要棟内緊急時対策所 給排気設備																																												
		地震監視装置																																												
		解凍機																																												
		二酸化炭素濃度計																																												
		遮汗計																																												
		必要な情報を把握できる設備 (安全バクメータ異常システム (SPDS))																																												
		データ伝送設備																																												
送電設備 (ベージング)	必要な備品及び通信連絡	蓄電設備(常設, 可搬型)	原子力災害予防対策 マニュアル																																											
		無線連絡設備(常設, 可搬型)																																												
		統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム, I-P-電 話機, I-P-FAX)																																												
		対策の検討に必要な資料*																																												
—	必要の経費	放射線管理用資機材**	緊急時対策所本邦標準仕様																																											
		飲料水, 食料等**																																												
免震重要棟内緊急時対策所 全交流動力電線	代替電源設備からの給電	免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機	緊急時対策所本邦標準仕様																																											
		免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用地下貯油タンク																																												
		免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用燃料供給システム																																												
		免震重要棟内緊急時対策所用ガス タービン発電機用発電機																																												
		電源車																																												
		軽油タンク																																												
タンクローリ (16tL)	多様なハザード対応要領																																													
タンクローリ (4tL)																																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																
139	—	1.18-61	<p>第1.18.1表 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</td> <td rowspan="15">-</td> <td rowspan="15">-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 高気圧室</td> <td rowspan="15">緊急時対策本部運営要領</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 遮蔽</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機用取扱マニュアル</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型外気取入空調機</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ(対策本部)</td> </tr> <tr> <td>5号炉建屋内緊急時対策用インターフォン</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタングポスト</td> </tr> <tr> <td>酸素濃度計(対策本部)</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計(対策本部)</td> </tr> <tr> <td>遮圧計(対策本部)</td> </tr> <tr> <td>カード式空気ボンベユニット</td> <td>多様なヘザード対応手順</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 遮蔽</td> <td rowspan="15">緊急時対策本部運営要領</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 室内遮蔽</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ(特設場所)</td> </tr> <tr> <td>酸素濃度計(特設場所)</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計(特設場所)</td> </tr> <tr> <td>遮圧計(特設場所)</td> </tr> <tr> <td>移動式特設所</td> <td>多様なヘザード対応手順</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</td> <td rowspan="4">-</td> <td rowspan="4">-</td> <td>緊急パラメータ表示システム(SFR)</td> <td rowspan="4">緊急時対策本部運営要領</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備(変設、可搬型)</td> </tr> <tr> <td>携帯型音声呼出電話設備</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備(変設、可搬型)</td> </tr> <tr> <td colspan="5">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	-	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 高気圧室	緊急時対策本部運営要領	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 遮蔽	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機用取扱マニュアル	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型外気取入空調機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 二酸化炭素濃度計	可搬型エリアモニタ(対策本部)	5号炉建屋内緊急時対策用インターフォン	可搬型モニタングポスト	酸素濃度計(対策本部)	二酸化炭素濃度計(対策本部)	遮圧計(対策本部)	カード式空気ボンベユニット	多様なヘザード対応手順	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 遮蔽	緊急時対策本部運営要領	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 室内遮蔽	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)	可搬型エリアモニタ(特設場所)	酸素濃度計(特設場所)	二酸化炭素濃度計(特設場所)	遮圧計(特設場所)	移動式特設所	多様なヘザード対応手順	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	-	-	緊急パラメータ表示システム(SFR)	緊急時対策本部運営要領	無線連絡設備(変設、可搬型)	携帯型音声呼出電話設備	衛星電話設備(変設、可搬型)	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備					<p>表1.18.2 重大事故等対応設備等と整備する手順(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td rowspan="10">居住性の確保</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 遮蔽</td> <td rowspan="10">緊急時対策所本部運営要領</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型臨圧化空調機</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(空気ポンプ)</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(配管・弁)</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型エリアモニタ</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>酸素濃度計</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>遮圧計</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>カード式空気ボンベユニット</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">必要な指示及び通信連絡</td> <td rowspan="2">-</td> <td>必要情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SFR))</td> <td rowspan="2">原子力災害予防対策マニュアル</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備(変設、可搬型)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">必要な物資</td> <td rowspan="2">-</td> <td>放射線管理用資機材^{※1}</td> <td rowspan="2">資機材</td> </tr> <tr> <td>飲料水、食料等^{※2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">代替電源設備からの</td> <td rowspan="4">-</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> <td rowspan="4">重大事故等対応設備</td> </tr> <tr> <td>交流分電盤</td> </tr> <tr> <td>負荷変圧器</td> </tr> <tr> <td>静電タンク</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>タンクローリ(6L)</td> <td>多様なヘザード対応要領</td> </tr> </tbody> </table>	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	-	居住性の確保	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 遮蔽	緊急時対策所本部運営要領	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型臨圧化空調機	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(空気ポンプ)	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(配管・弁)	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 二酸化炭素濃度計	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型エリアモニタ	-	酸素濃度計	-	二酸化炭素濃度計	-	遮圧計	-	カード式空気ボンベユニット	必要な指示及び通信連絡	-	必要情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SFR))	原子力災害予防対策マニュアル	無線連絡設備(変設、可搬型)	必要な物資	-	放射線管理用資機材 ^{※1}	資機材	飲料水、食料等 ^{※2}	代替電源設備からの	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	重大事故等対応設備	交流分電盤	負荷変圧器	静電タンク			タンクローリ(6L)	多様なヘザード対応要領	②(K5TSC設計進捗)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																																																																																																	
機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	-	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 高気圧室	緊急時対策本部運営要領																																																																																																	
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 遮蔽																																																																																																		
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機																																																																																																		
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型臨圧化空調機用取扱マニュアル																																																																																																		
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 可搬型外気取入空調機																																																																																																		
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)																																																																																																		
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部) 二酸化炭素濃度計																																																																																																		
			可搬型エリアモニタ(対策本部)																																																																																																		
			5号炉建屋内緊急時対策用インターフォン																																																																																																		
			可搬型モニタングポスト																																																																																																		
			酸素濃度計(対策本部)																																																																																																		
			二酸化炭素濃度計(対策本部)																																																																																																		
			遮圧計(対策本部)																																																																																																		
			カード式空気ボンベユニット		多様なヘザード対応手順																																																																																																
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 遮蔽		緊急時対策本部運営要領																																																																																																
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機																																																																																																					
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 可搬型臨圧化空調機																																																																																																					
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 室内遮蔽																																																																																																					
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(特設場所) 臨圧化設備(空気ポンプ、配管・弁)																																																																																																					
可搬型エリアモニタ(特設場所)																																																																																																					
酸素濃度計(特設場所)																																																																																																					
二酸化炭素濃度計(特設場所)																																																																																																					
遮圧計(特設場所)																																																																																																					
移動式特設所	多様なヘザード対応手順																																																																																																				
機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	-	-	緊急パラメータ表示システム(SFR)	緊急時対策本部運営要領																																																																																																	
			無線連絡設備(変設、可搬型)																																																																																																		
			携帯型音声呼出電話設備																																																																																																		
			衛星電話設備(変設、可搬型)																																																																																																		
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備																																																																																																					
機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																																																																																																		
-	居住性の確保	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 遮蔽	緊急時対策所本部運営要領																																																																																																		
-		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型臨圧化空調機																																																																																																			
-		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(空気ポンプ)																																																																																																			
-		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 空気ボンベ・臨圧化設備(配管・弁)																																																																																																			
-		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 二酸化炭素濃度計																																																																																																			
-		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型エリアモニタ																																																																																																			
-		酸素濃度計																																																																																																			
-		二酸化炭素濃度計																																																																																																			
-		遮圧計																																																																																																			
-		カード式空気ボンベユニット																																																																																																			
必要な指示及び通信連絡	-	必要情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SFR))	原子力災害予防対策マニュアル																																																																																																		
		無線連絡設備(変設、可搬型)																																																																																																			
必要な物資	-	放射線管理用資機材 ^{※1}	資機材																																																																																																		
		飲料水、食料等 ^{※2}																																																																																																			
代替電源設備からの	-	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	重大事故等対応設備																																																																																																		
		交流分電盤																																																																																																			
		負荷変圧器																																																																																																			
		静電タンク																																																																																																			
		タンクローリ(6L)	多様なヘザード対応要領																																																																																																		

*1 「対策の検討に必要な資料」については、資機材であるため重大事故等対応設備としない。
*2 「放射線管理用資機材」及び「飲料水、食料等」については資機材であるため重大事故等対応設備としない。

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																									
140	—	1.18-62	<p>第1.18.1表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">—</td> <td rowspan="10">—</td> <td rowspan="10">必要な指示及び通信機器</td> <td>無線通信装置 (常設)</td> <td rowspan="5">重大事故等対処設備</td> <td rowspan="10">—</td> </tr> <tr> <td>無線通信設備 (屋外アンテナ) (常設)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (屋外アンテナ) (常設)</td> </tr> <tr> <td>衛星無線通信装置 (常設)</td> </tr> <tr> <td>有線 (建屋内) (常設)</td> </tr> <tr> <td>送受信器 (警報装置を含む)</td> <td rowspan="5">自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>電力保安通信用電話設備</td> </tr> <tr> <td>専用電話設備 (ホットライン)</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議システム (社内向)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (社内向)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">必要な板の要員の配置</td> <td>対策の検討に必要な資料■</td> <td>資機材</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>放射線管理用資機材■ 飲料水, 食料等■</td> <td>資機材</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">5号伊原子伊達管内緊急時対策所 全交流動力電源</td> <td rowspan="7">—</td> <td rowspan="7">代替電源設備からの給電</td> <td>S号伊原子伊達管内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> <td rowspan="7">重大事故等対処設備</td> <td rowspan="7">多様なハザード対応手順</td> </tr> <tr> <td>可搬ケーブル</td> </tr> <tr> <td>負荷変圧器</td> </tr> <tr> <td>交流分電盤</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> </tr> <tr> <td>タンクローリ (4t)</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク 出口ノズル・弁</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	—	—	必要な指示及び通信機器	無線通信装置 (常設)	重大事故等対処設備	—	無線通信設備 (屋外アンテナ) (常設)	衛星電話設備 (屋外アンテナ) (常設)	衛星無線通信装置 (常設)	有線 (建屋内) (常設)	送受信器 (警報装置を含む)	自主対策設備	電力保安通信用電話設備	専用電話設備 (ホットライン)	テレビ会議システム (社内向)	衛星電話設備 (社内向)	—	—	必要な板の要員の配置	対策の検討に必要な資料■	資機材	—	放射線管理用資機材■ 飲料水, 食料等■	資機材	5号伊原子伊達管内緊急時対策所 全交流動力電源	—	代替電源設備からの給電	S号伊原子伊達管内緊急時対策所用可搬型電源設備	重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順	可搬ケーブル	負荷変圧器	交流分電盤	軽油タンク	タンクローリ (4t)	軽油タンク 出口ノズル・弁	—	②(K5TSC設計進捗)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																										
—	—	必要な指示及び通信機器	無線通信装置 (常設)	重大事故等対処設備	—																																									
			無線通信設備 (屋外アンテナ) (常設)																																											
			衛星電話設備 (屋外アンテナ) (常設)																																											
			衛星無線通信装置 (常設)																																											
			有線 (建屋内) (常設)																																											
			送受信器 (警報装置を含む)	自主対策設備																																										
			電力保安通信用電話設備																																											
			専用電話設備 (ホットライン)																																											
			テレビ会議システム (社内向)																																											
			衛星電話設備 (社内向)																																											
—	—	必要な板の要員の配置	対策の検討に必要な資料■	資機材	—																																									
			放射線管理用資機材■ 飲料水, 食料等■	資機材																																										
5号伊原子伊達管内緊急時対策所 全交流動力電源	—	代替電源設備からの給電	S号伊原子伊達管内緊急時対策所用可搬型電源設備	重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順																																									
			可搬ケーブル																																											
			負荷変圧器																																											
			交流分電盤																																											
			軽油タンク																																											
			タンクローリ (4t)																																											
			軽油タンク 出口ノズル・弁																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																												
141	—	1.18-62	削除	<p>表1.18.3 重大事故等対処に係る監視計器(免震重要棟内緊急時対策所)監視計器一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.18.2.1 居住性を確保するための手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(1) 免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子伊原堂内緊急時対策所への移動用装置(β)に移動のための手順</td> <td>初期基準</td> <td>免震重要棟上階建物 位置量 免震重要棟基礎変位 地盤観測装置(変位量識別用ゲージ) 地盤観測装置(加速度検出器, 震度差示計)</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 a. 免震重要棟内緊急時対策所可搬型扇状化空調機運転手順</td> <td>基準値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 c. 緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順</td> <td>基準値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>緊急時対策所内の環境監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(3) 重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順等 b. 免震重要棟内緊急時対策所待避室への移動の手順</td> <td>初期基準</td> <td>原子炉格納容器内の放射線量率 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) D/W, S/C放射能 原子炉圧力容器温度 原子炉圧力容器温度 格納容器内酸素濃度 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) 酸素濃度</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(1) 放射線管理に関する手順について c. 緊急時対策所可搬型扇状化空調機の切替手順</td> <td>基準値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 免震重要棟内緊急時対策所電源車による給電 a. 免震重要棟内緊急時対策所電源車起動手順</td> <td>基準値</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>電源 免震重要棟内緊急時対策所電源車 電圧計, 電流計, 周波数計</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.18.2.1 居住性を確保するための手順等			(1) 免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子伊原堂内緊急時対策所への移動用装置(β)に移動のための手順	初期基準	免震重要棟上階建物 位置量 免震重要棟基礎変位 地盤観測装置(変位量識別用ゲージ) 地盤観測装置(加速度検出器, 震度差示計)	操作	—	(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 a. 免震重要棟内緊急時対策所可搬型扇状化空調機運転手順	基準値	—	操作	免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計	(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 c. 緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	基準値	—	操作	緊急時対策所内の環境監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計	(3) 重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順等 b. 免震重要棟内緊急時対策所待避室への移動の手順	初期基準	原子炉格納容器内の放射線量率 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) D/W, S/C放射能 原子炉圧力容器温度 原子炉圧力容器温度 格納容器内酸素濃度 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) 酸素濃度	操作	—	操作	—	1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等			(1) 放射線管理に関する手順について c. 緊急時対策所可搬型扇状化空調機の切替手順	基準値	—	操作	免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計	1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順			(2) 免震重要棟内緊急時対策所電源車による給電 a. 免震重要棟内緊急時対策所電源車起動手順	基準値	—	操作	電源 免震重要棟内緊急時対策所電源車 電圧計, 電流計, 周波数計	②(免震重要棟の自主化)
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																															
1.18.2.1 居住性を確保するための手順等																																																	
(1) 免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子伊原堂内緊急時対策所への移動用装置(β)に移動のための手順	初期基準	免震重要棟上階建物 位置量 免震重要棟基礎変位 地盤観測装置(変位量識別用ゲージ) 地盤観測装置(加速度検出器, 震度差示計)																																															
	操作	—																																															
(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 a. 免震重要棟内緊急時対策所可搬型扇状化空調機運転手順	基準値	—																																															
	操作	免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計																																															
(2) 緊急時対策所立ち上げの手順 c. 緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	基準値	—																																															
	操作	緊急時対策所内の環境監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計																																															
(3) 重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順等 b. 免震重要棟内緊急時対策所待避室への移動の手順	初期基準	原子炉格納容器内の放射線量率 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) D/W, S/C放射能 原子炉圧力容器温度 原子炉圧力容器温度 格納容器内酸素濃度 格納容器内空気放射線レベル計(CAMS) 酸素濃度																																															
	操作	—																																															
	操作	—																																															
1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等																																																	
(1) 放射線管理に関する手順について c. 緊急時対策所可搬型扇状化空調機の切替手順	基準値	—																																															
	操作	免震重要棟内緊急時対策所室内圧計監視 圧計計																																															
1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順																																																	
(2) 免震重要棟内緊急時対策所電源車による給電 a. 免震重要棟内緊急時対策所電源車起動手順	基準値	—																																															
	操作	電源 免震重要棟内緊急時対策所電源車 電圧計, 電流計, 周波数計																																															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																				
142	—	1.18-63	<p>第1.18.2表 重大事故等対処に係る監視計器一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.18.2.1 居住性を確保するための手順等</td> </tr> <tr> <td>(1)緊急時対策所立ち上げの手順 a.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視</td> </tr> <tr> <td>(1)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視</td> </tr> <tr> <td>(2)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 k.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントを実施する場合の対応の手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>空間線量率 ガンマ線線量率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ 格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)</td> </tr> <tr> <td>(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 c.カード式空気ボンベユニットによる5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部)の備圧化のための準備手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>ガンマ線線量率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)</td> </tr> <tr> <td>(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 4.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所備圧化装置 (空気ボンベ)から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機への切替手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>空間線量率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>可搬型モニタリングポスト</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等</td> </tr> <tr> <td>(1)放射線管理 c.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.18.2.1 居住性を確保するための手順等			(1)緊急時対策所立ち上げの手順 a.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順	制 御 基 準	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視	(1)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	制 御 基 準	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視	(2)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 k.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントを実施する場合の対応の手順	制 御 基 準	空間線量率 ガンマ線線量率		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ 格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)	(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 c.カード式空気ボンベユニットによる5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部)の備圧化のための準備手順	制 御 基 準	ガンマ線線量率		操 作	格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)	(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 4.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所備圧化装置 (空気ボンベ)から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機への切替手順	制 御 基 準	空間線量率		操 作	可搬型モニタリングポスト	1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等			(1)放射線管理 c.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順	制 御 基 準	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視	<p>表1.18.4 重大事故等対処に係る監視計器 (5号伊原子炉建屋内緊急時対策所)監視計器一覧 (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.18.2.1 居住性を確保するための手順等</td> </tr> <tr> <td>(1)免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所への移動前並びに移動のための手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>免震重要棟上階乗降位置 免震重要棟基礎移動度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>地震観測装置 (変位量専用用ポール) 地震観測装置 (加速度検出器, 震度表示計)</td> </tr> <tr> <td>(2)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順</td> <td>基 御 準 則</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視</td> </tr> <tr> <td>(2)緊急時対策所立ち上げの手順 c.緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順</td> <td>基 御 準 則</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計</td> </tr> <tr> <td>(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 e.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントのおそれがある場合の対応の手順</td> <td>制 御 基 準</td> <td>空間線量率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>可搬型モニタリングポスト 5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等</td> </tr> <tr> <td>(1)放射線管理に関する手順について c.緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順</td> <td>基 御 準 則</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>操 作</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.18.2.1 居住性を確保するための手順等			(1)免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所への移動前並びに移動のための手順	制 御 基 準	免震重要棟上階乗降位置 免震重要棟基礎移動度		操 作	地震観測装置 (変位量専用用ポール) 地震観測装置 (加速度検出器, 震度表示計)	(2)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順	基 御 準 則	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視	(2)緊急時対策所立ち上げの手順 c.緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	基 御 準 則	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計	(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 e.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントのおそれがある場合の対応の手順	制 御 基 準	空間線量率		操 作	可搬型モニタリングポスト 5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ	1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等			(1)放射線管理に関する手順について c.緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順	基 御 準 則	—		操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視	②(K5TSC設計進捗)
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																							
1.18.2.1 居住性を確保するための手順等																																																																																									
(1)緊急時対策所立ち上げの手順 a.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順	制 御 基 準	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視																																																																																							
(1)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	制 御 基 準	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視																																																																																							
(2)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 k.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントを実施する場合の対応の手順	制 御 基 準	空間線量率 ガンマ線線量率																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ 格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)																																																																																							
(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 c.カード式空気ボンベユニットによる5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部)の備圧化のための準備手順	制 御 基 準	ガンマ線線量率																																																																																							
	操 作	格納容器内空気放射線レベル計 (CAMS)																																																																																							
(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 4.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所備圧化装置 (空気ボンベ)から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機への切替手順	制 御 基 準	空間線量率																																																																																							
	操 作	可搬型モニタリングポスト																																																																																							
1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等																																																																																									
(1)放射線管理 c.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順	制 御 基 準	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視																																																																																							
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																							
1.18.2.1 居住性を確保するための手順等																																																																																									
(1)免震重要棟内緊急時対策所から5号伊原子炉建屋内緊急時対策所への移動前並びに移動のための手順	制 御 基 準	免震重要棟上階乗降位置 免震重要棟基礎移動度																																																																																							
	操 作	地震観測装置 (変位量専用用ポール) 地震観測装置 (加速度検出器, 震度表示計)																																																																																							
(2)緊急時対策所立ち上げの手順 b.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型備圧化空調機運転手順	基 御 準 則	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視																																																																																							
(2)緊急時対策所立ち上げの手順 c.緊急時対策所内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	基 御 準 則	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所内の増設監視 酸素濃度計 二酸化炭素濃度計																																																																																							
(3)重大事故等が発生した場合の放射線防護等に関する手順 e.5号伊原子炉建屋内緊急時対策所での格納容器ベントのおそれがある場合の対応の手順	制 御 基 準	空間線量率																																																																																							
	操 作	可搬型モニタリングポスト 5号伊原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エアモニタ																																																																																							
1.18.2.3 必要な数の要員の収容に係る手順等																																																																																									
(1)放射線管理に関する手順について c.緊急時対策所可搬型備圧化空調機の切替手順	基 御 準 則	—																																																																																							
	操 作	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所室内差圧監視																																																																																							

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																		
143	—	1.18-63	削除	表1.18.4 重大事故等対処に係る監視計器(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)監視計器一覧(2/2) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順</td> </tr> <tr> <td>(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電</td> <td>高圧停断</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>a.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内用可搬型電源設備起動手順</td> <td>操作</td> <td>電錶</td> </tr> <tr> <td>(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電</td> <td>高圧停断</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>b.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替手順</td> <td>操作</td> <td>電錶</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順			(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電	高圧停断	—	a.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内用可搬型電源設備起動手順	操作	電錶	(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電	高圧停断	—	b.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替手順	操作	電錶	②(K5TSC設計進捗)
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																					
1.18.2.4 代替電源設備からの給電手順																							
(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電	高圧停断	—																					
a.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内用可搬型電源設備起動手順	操作	電錶																					
(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備による給電	高圧停断	—																					
b.5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替手順	操作	電錶																					
144	—	1.18-63	削除	表1.18.5 審査基準における要求事項毎の給電対象設備(免震重要棟内緊急時対策所) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所充電器</td> </tr> <tr> <td>SPDS表示装置</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線	【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機	免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置	緊急時対策支援システム伝送装置	免震重要棟内緊急時対策所充電器	SPDS表示装置	免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置	②(免震重要棟の自主化)								
対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線																					
【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機	免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置																					
	緊急時対策支援システム伝送装置	免震重要棟内緊急時対策所充電器																					
	SPDS表示装置	免震重要棟内緊急時対策所無停電電源装置																					

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																						
145	—	1.18-64	<p>第1.18.3表 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素吸収装置</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> <tr> <td>SPDS表示装置</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線	【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機	交流分電盤①	二酸化炭素吸収装置	交流分電盤①	緊急時対策支援システム伝送装置	交流分電盤①	SPDS表示装置	交流分電盤①	<p>表1.18.6 審査基準における要求事項毎の給電対象設備(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> <tr> <td>SPDS表示装置</td> <td>交流分電盤①</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線	【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機	交流分電盤①	緊急時対策支援システム伝送装置	交流分電盤①	SPDS表示装置	交流分電盤①	②(K5TSC設計進捗)
対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線																									
【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機	交流分電盤①																									
	二酸化炭素吸収装置	交流分電盤①																									
	緊急時対策支援システム伝送装置	交流分電盤①																									
	SPDS表示装置	交流分電盤①																									
対象条文	供給対象設備	給電元 給電母線																									
【1.18】 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型扇圧化空調機	交流分電盤①																									
	緊急時対策支援システム伝送装置	交流分電盤①																									
	SPDS表示装置	交流分電盤①																									
146	—	1.18-64	<p>削除</p>	<p>図1.18.1 免震重要棟内緊急時対策所 全交流動力電源喪失の機能喪失要因と対処設備</p>	②(免震重要棟の自主化)																						

まとめ資料変更箇所リスト

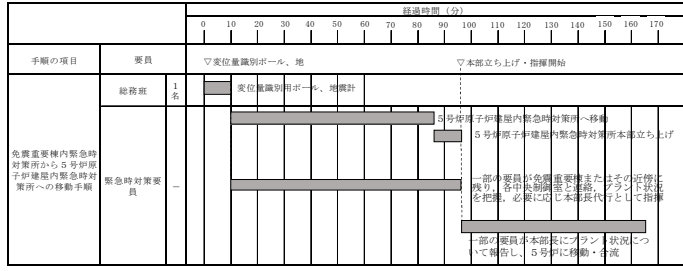
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
147	—	1.18-65	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所全交流動力電源喪失</p> <p>代替電源による給電 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備)</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 ・可搬ケーブル ・負荷変圧器 ・交流分電盤 ・軽油タンク ・タンクローリ (4kL) ・軽油タンク出口ノズル・弁</p> <p>凡例 ◡ : AND条件 → : 代替電源による回復操作による対応</p> <p>6号炉非常用高圧母線電源喪失</p> <p>7号炉非常用高圧母線電源喪失</p> <p>※1</p> <p>非常用ディーゼル発電機機能喪失</p> <p>外部電源喪失</p> <p>第1.18.1図 機能喪失原因対策分析(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所全交流動力電源喪失)</p>	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所全交流動力電源喪失</p> <p>凡例 ◡ : AND条件 ◡ : OR条件</p> <p>5号炉共通用高圧母線, 6号炉/7号炉非常用高圧母線機能喪失又は接続不可</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備機能喪失</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備(予備)機能喪失</p> <p>図1.18.2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 全交流動力電源喪失の機能喪失要因と対処設備</p>	②(K5TSC設計進捗)
148	—	1.18-65	削除	<p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p> <p>図1.18.3 免震重要棟 建物変位識別用ポール イメージ図</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
149	—	1.18-65	削除	 <p>図1.18.4 免震重要棟内緊急時対策所から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動を判断並びに移動するための手順タイムチャート</p>	②(免震重要棟の自主化)
150	—	1.18-65	削除	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 150px; margin: 10px 0;"></div> <p>図1.18.5 免震重要棟内緊急時対策所から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する際のアクセスルート</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
151	—	1.18-65	削除	<p>図1.18.6 免震重要棟内緊急時対策所 可搬型陽圧化空調機運転の概略系統図</p>	②(免震重要棟の自主化)
152	—	1.18-65	削除	<p>図1.18.7 免震重要棟内緊急時対策所 可搬型陽圧化空調機運転タイムチャート</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
153	—	1.18-66	<p>第1.18.2図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備 系統概略図(ブルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)</p>	<p>図1.18.8 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備 系統概略図(ブルーム通過前後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化時)</p>	②(K5TSC設計進捗)
154	—	1.18-67	<p>第1.18.4図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備 系統概略図(ブルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】


- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
155	—	1.18-67	削除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 150px; margin-bottom: 10px;"></div> 図1.18.11 免震重要棟内緊急時対策所2階 見取り図	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																				
156	—	1.18-67	削除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div>  <p>図1.18.12 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室) 見取り図</p>	②(免震重要棟の自主化)																																																																				
157	—	1.18-67	削除	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="7">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>30</th> <th>35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手順の項目</td> <td>要員</td> <td colspan="8">▽移動指示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="8">▽本部要員 移動開始</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="8">▽可搬型モニタリングポスト線量監視開始</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動手順</td> <td>緊急時対策要員</td> <td colspan="8"> 緊急時対策要員の一部分が1階(待避室)へ移動 1階対策本部立ち上げ 2階対策本部から1階対策本部に本部要員が順次移動, 通信連絡機器等を順次切り替え </td> </tr> <tr> <td>保安班</td> <td colspan="8"> 可搬型国王空調機設置の運転状態確認 差圧計確認 放射線量監視(可搬型エリアモニタ等) </td> </tr> </tbody> </table> <p>図1.18.13 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動手順タイムチャート</p>			経過時間(分)									0	5	10	15	20	25	30	35	手順の項目	要員	▽移動指示										▽本部要員 移動開始										▽可搬型モニタリングポスト線量監視開始								免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動手順	緊急時対策要員	緊急時対策要員の一部分が1階(待避室)へ移動 1階対策本部立ち上げ 2階対策本部から1階対策本部に本部要員が順次移動, 通信連絡機器等を順次切り替え								保安班	可搬型国王空調機設置の運転状態確認 差圧計確認 放射線量監視(可搬型エリアモニタ等)								②(免震重要棟の自主化)
		経過時間(分)																																																																							
		0	5	10	15	20	25	30	35																																																																
手順の項目	要員	▽移動指示																																																																							
		▽本部要員 移動開始																																																																							
		▽可搬型モニタリングポスト線量監視開始																																																																							
免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)への移動手順	緊急時対策要員	緊急時対策要員の一部分が1階(待避室)へ移動 1階対策本部立ち上げ 2階対策本部から1階対策本部に本部要員が順次移動, 通信連絡機器等を順次切り替え																																																																							
	保安班	可搬型国王空調機設置の運転状態確認 差圧計確認 放射線量監視(可搬型エリアモニタ等)																																																																							

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																			
158	—	1.18-67	削除	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>事故前</th> <th>0</th> <th>12</th> <th>24</th> <th>36</th> <th>48</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事象</td> <td></td> <td>災害発生</td> <td></td> <td>▼1階(待避室)移動, ブルーム通過中(10時間)(※)</td> <td>所外一時退避判断</td> <td></td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所1階</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策所2階(待避室)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▼待避室立ち上げ, 一部要員移動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▼残りの要員移動, 不要な要員所外一時退避</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>図1.18.14 免震重要棟内緊急時対策所2階から同1階(待避室)への移動タイムチャート</p> <p>※:「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」に基づく事象進展時間</p>	時間	事故前	0	12	24	36	48	事象		災害発生		▼1階(待避室)移動, ブルーム通過中(10時間)(※)	所外一時退避判断		免震重要棟内緊急時対策所1階							免震重要棟内緊急時対策所2階(待避室)				▼待避室立ち上げ, 一部要員移動							▼残りの要員移動, 不要な要員所外一時退避			②(免震重要棟の自主化)
時間	事故前	0	12	24	36	48																																		
事象		災害発生		▼1階(待避室)移動, ブルーム通過中(10時間)(※)	所外一時退避判断																																			
免震重要棟内緊急時対策所1階																																								
免震重要棟内緊急時対策所2階(待避室)				▼待避室立ち上げ, 一部要員移動																																				
				▼残りの要員移動, 不要な要員所外一時退避																																				

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
159	—	1.18-68	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</div> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div> <p>第1.18.6図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機, 陽圧化装置(空気ポンプ) 配置図</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</div> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div> <p>図1.18.15 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 見取り図</p>	②(K5TSC設計進捗)


まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
160	—	1.18-69	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 2px solid black; width: 200px; height: 150px; margin: 0 auto;"></div> <p>第1.18.7図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)可搬型陽圧化空調機, 陽圧化装置(空気ポンペ) 配置図(5号炉原子炉建屋 地上3階)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																															
161	—	1.18-70	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div>  <p>第1.18.8図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンプ)配置図(5号炉原子炉建屋 地上2階)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)																																																															
162	—	1.18-70	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順</td> <td rowspan="2">保安班 2名</td> <td colspan="2">▽設置指示</td> <td colspan="4">▽可搬型エリアモニタ測定開始</td> </tr> <tr> <td>移動・設置(対策本部) 起動</td> <td>移動・設置(待機場所) 起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>第1.18.9図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型エリアモニタ設置手順タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	5	10	15	20	25	30	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順	保安班 2名	▽設置指示		▽可搬型エリアモニタ測定開始				移動・設置(対策本部) 起動	移動・設置(待機場所) 起動					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>30</th> <th>35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順</td> <td rowspan="2">保安班 2名</td> <td colspan="6">▽起動指示</td> <td colspan="2">可搬型エリアモニタ測定開始▽</td> </tr> <tr> <td>移動・設置(陽圧化装置) 起動</td> <td>移動・設置(チェン징エリア) 起動</td> <td>移動・設置(現場要員待機場所) 起動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: チェン징エリア及び現場要員待機場所に設置する可搬型エリアモニタは、資機材であり自主的な対応である。</p> <p>図1.18.10 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	5	10	15	20	25	30	35	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順	保安班 2名	▽起動指示						可搬型エリアモニタ測定開始▽		移動・設置(陽圧化装置) 起動	移動・設置(チェン징エリア) 起動	移動・設置(現場要員待機場所) 起動					※1	⑤
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																		
		0	5	10	15	20	25	30																																																												
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順	保安班 2名	▽設置指示		▽可搬型エリアモニタ測定開始																																																																
		移動・設置(対策本部) 起動	移動・設置(待機場所) 起動																																																																	
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																		
		0	5	10	15	20	25	30	35																																																											
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型エリアモニタ設置手順	保安班 2名	▽起動指示						可搬型エリアモニタ測定開始▽																																																												
		移動・設置(陽圧化装置) 起動	移動・設置(チェン징エリア) 起動	移動・設置(現場要員待機場所) 起動					※1																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																														
163	—	1.18-72	<p>第1.18.11図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備 系統概略図(ブルーム通過中:陽圧化装置(空気ポンベ)による陽圧化)</p>	<p>図1.18.17 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備 系統概略図(ブルーム通過中:空気ポンベ陽圧化装置による陽圧化時)</p>	②(K5TSC設計進捗)																																																																														
164	—	1.18-72	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8">▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機停止手順</td> <td>保安班 2名</td> <td></td> <td>給気口から仮設ダクト取外し(対策本部内作業)</td> <td>高気密室給気口に閉止板取付け(対策本部内作業)</td> <td>室内差圧確認(対策本部内作業)</td> <td>通路(可搬型空調機設置場所)へ移動</td> <td>空調機停止(対策本部外作業)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンベ)起動手順</td> <td>保安班 1名</td> <td></td> <td>空気ポンベ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作(対策本部内作業)</td> <td>差圧調整用排気弁の切替(対策本部内作業)</td> <td>室内差圧確認(対策本部内作業)</td> <td></td> <td>二酸化炭素吸収装置起動</td> </tr> </tbody> </table> <p>第1.18.12図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機停止及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンベ)起動手順タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	1	2	3	4	5	6	▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止								5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機停止手順	保安班 2名		給気口から仮設ダクト取外し(対策本部内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け(対策本部内作業)	室内差圧確認(対策本部内作業)	通路(可搬型空調機設置場所)へ移動	空調機停止(対策本部外作業)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンベ)起動手順	保安班 1名		空気ポンベ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作(対策本部内作業)	差圧調整用排気弁の切替(対策本部内作業)	室内差圧確認(対策本部内作業)		二酸化炭素吸収装置起動	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8">▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機停止手順</td> <td>保安班 2名</td> <td></td> <td>給気口から可搬型陽圧化空調機仮設ダクト取外し(高気密室内作業)</td> <td>高気密室給気口に閉止板取付け(高気密室内作業)</td> <td>室内差圧確認(高気密室内作業)</td> <td>空調機設置場所へ移動</td> <td>空調機停止(高気密室外作業)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンベ陽圧化装置起動手順</td> <td>保安班 1名</td> <td></td> <td>空気ポンベ陽圧化装置給気第一/第二弁開操作(高気密室内作業)</td> <td>差圧調整用排気弁の切替(高気密室内作業)</td> <td>室内差圧確認(高気密室内作業)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>図1.18.18 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機停止, 及び, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンベ陽圧化装置起動手順のタイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	1	2	3	4	5	6	▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了								5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機停止手順	保安班 2名		給気口から可搬型陽圧化空調機仮設ダクト取外し(高気密室内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け(高気密室内作業)	室内差圧確認(高気密室内作業)	空調機設置場所へ移動	空調機停止(高気密室外作業)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンベ陽圧化装置起動手順	保安班 1名		空気ポンベ陽圧化装置給気第一/第二弁開操作(高気密室内作業)	差圧調整用排気弁の切替(高気密室内作業)	室内差圧確認(高気密室内作業)			②(K5TSC設計進捗)
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																																	
		0	1	2	3	4	5	6																																																																											
▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止																																																																																			
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)可搬型陽圧化空調機停止手順	保安班 2名		給気口から仮設ダクト取外し(対策本部内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け(対策本部内作業)	室内差圧確認(対策本部内作業)	通路(可搬型空調機設置場所)へ移動	空調機停止(対策本部外作業)																																																																												
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンベ)起動手順	保安班 1名		空気ポンベ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作(対策本部内作業)	差圧調整用排気弁の切替(対策本部内作業)	室内差圧確認(対策本部内作業)		二酸化炭素吸収装置起動																																																																												
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																																	
		0	1	2	3	4	5	6																																																																											
▽可搬型エリアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンベ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了																																																																																			
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機停止手順	保安班 2名		給気口から可搬型陽圧化空調機仮設ダクト取外し(高気密室内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け(高気密室内作業)	室内差圧確認(高気密室内作業)	空調機設置場所へ移動	空調機停止(高気密室外作業)																																																																												
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所空気ポンベ陽圧化装置起動手順	保安班 1名		空気ポンベ陽圧化装置給気第一/第二弁開操作(高気密室内作業)	差圧調整用排気弁の切替(高気密室内作業)	室内差圧確認(高気密室内作業)																																																																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																											
165	—	1.18-73	<p>第1.18.13図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 換気設備 系統概略図 (ブルーム通過中: 陽圧化装置 (空気ポンプ) による陽圧化)</p>	—	② (K5TSC設計進捗)																																											
166	—	1.18-73	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="7">経過時間 (分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="7">▽可搬型エアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンプ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 可搬型陽圧化空調機停止手順</td> <td>復旧班 2名</td> <td></td> <td>給気口から仮設ダクト取外し (待機場所内作業)</td> <td>高気密室給気口に閉止板取付け (待機場所内作業)</td> <td>室内差圧確認 (待機場所内作業)</td> <td>通路 (可搬型空調機設備場所) へ移動</td> <td>空調機停止 (待機場所外作業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 陽圧化装置 (空気ポンプ) 起動手順</td> <td>復旧班 1名</td> <td></td> <td>空気ポンプ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作 (待機場所内作業)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>室内差圧確認</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>第1.18.14図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 可搬型陽圧化空調機停止及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 陽圧化装置 (空気ポンプ) 起動手順タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間 (分)							0	1	2	3	4	5	6			▽可搬型エアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンプ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止							5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 可搬型陽圧化空調機停止手順	復旧班 2名		給気口から仮設ダクト取外し (待機場所内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け (待機場所内作業)	室内差圧確認 (待機場所内作業)	通路 (可搬型空調機設備場所) へ移動	空調機停止 (待機場所外作業)		5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 陽圧化装置 (空気ポンプ) 起動手順	復旧班 1名		空気ポンプ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作 (待機場所内作業)				室内差圧確認		—	② (K5TSC設計進捗)
手順の項目	要員	経過時間 (分)																																														
		0	1	2	3	4	5	6																																								
		▽可搬型エアモニタの警報発生 ▽可搬型陽圧化空調機切離し/空気ポンプ陽圧化装置起動 ▽陽圧化状態の確認完了 ▽可搬型陽圧化空調機停止																																														
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 可搬型陽圧化空調機停止手順	復旧班 2名		給気口から仮設ダクト取外し (待機場所内作業)	高気密室給気口に閉止板取付け (待機場所内作業)	室内差圧確認 (待機場所内作業)	通路 (可搬型空調機設備場所) へ移動	空調機停止 (待機場所外作業)																																									
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (待機場所) 陽圧化装置 (空気ポンプ) 起動手順	復旧班 1名		空気ポンプ陽圧化装置空気供給第一/第二弁開操作 (待機場所内作業)				室内差圧確認																																									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
167	—	1.18-74	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 2px solid black; height: 300px; width: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p style="text-align: center; color: blue;">第1.18.15図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 見取り図</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
168	—	1.18-74	<p>第1.18.16図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)陽圧化装置(空気ポンペ)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機への切替え手順タイムチャート</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
169	—	1.18-75	<p>第1.18.17図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)陽圧化装置(空気ポンペ)から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機への切替え手順タイムチャート</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
170	—	1.18-75	<p>第1.18.18図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型外気取入送風機系統概略図</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
171	—	1.18-76	<p>第1.18.19図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型外気取入送風機の起動手順タイムチャート</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
172	—	1.18-76	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 2px solid black; width: 250px; height: 250px; margin: 0 auto; margin-bottom: 10px;"></div> <p style="text-align: center; color: blue;">第1.18.20図 移動式待機所の保管及び使用場所</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

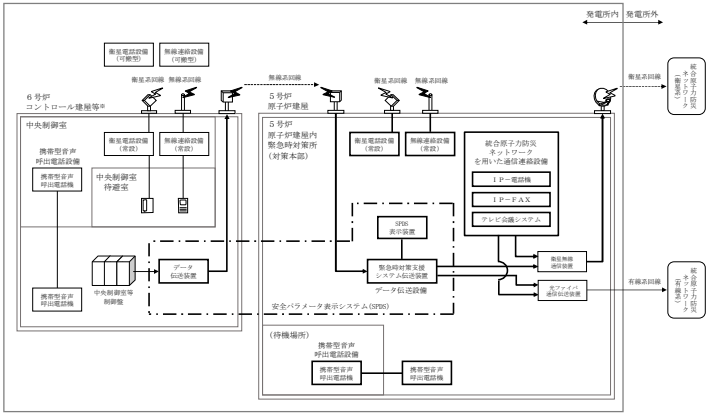
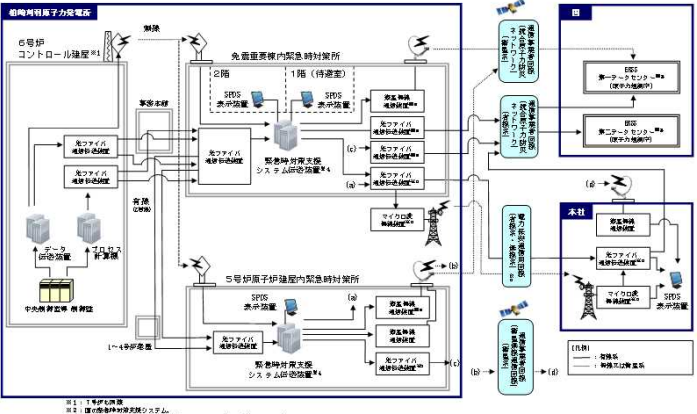
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																									
173	—	1.18-77	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 2px solid black; width: 200px; height: 150px; margin: 0 auto;"></div> <p style="text-align: center;">第1.18.21図 移動式待機所の外観図</p>	—	②(K5TSC設計進捗)																																																																																									
174	—	1.18-77	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="11">経過時間 (分)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>0</th><th>10</th><th>20</th><th>30</th><th>40</th><th>50</th><th>60</th><th>70</th><th>80</th><th>90</th><th>100</th><th>110</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手順の項目</td> <td>要員</td> <td colspan="11" style="text-align: center;">▽ 移動式待機所の使用指示</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移動式待機所の使用準備手順</td> <td>復旧班 保安班 3名</td> <td colspan="11" style="text-align: center;">使用準備完了▽</td> </tr> <tr> <td>保安班 1名</td> <td colspan="11" style="text-align: center;">(床及び壁面に汚染が確認された場合の) 除染</td> </tr> <tr> <td>復旧班 2名</td> <td colspan="11" style="text-align: center;">可搬型電源設備の起動</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="11" style="text-align: center;">可搬型高圧化空調機起動</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第1.18.22図 移動式待機所の使用準備手順タイムチャート</p>			経過時間 (分)													0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	手順の項目	要員	▽ 移動式待機所の使用指示											移動式待機所の使用準備手順	復旧班 保安班 3名	使用準備完了▽											保安班 1名	(床及び壁面に汚染が確認された場合の) 除染											復旧班 2名	可搬型電源設備の起動												可搬型高圧化空調機起動											—	②(K5TSC設計進捗)
		経過時間 (分)																																																																																												
		0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110																																																																																	
手順の項目	要員	▽ 移動式待機所の使用指示																																																																																												
移動式待機所の使用準備手順	復旧班 保安班 3名	使用準備完了▽																																																																																												
	保安班 1名	(床及び壁面に汚染が確認された場合の) 除染																																																																																												
	復旧班 2名	可搬型電源設備の起動																																																																																												
		可搬型高圧化空調機起動																																																																																												

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

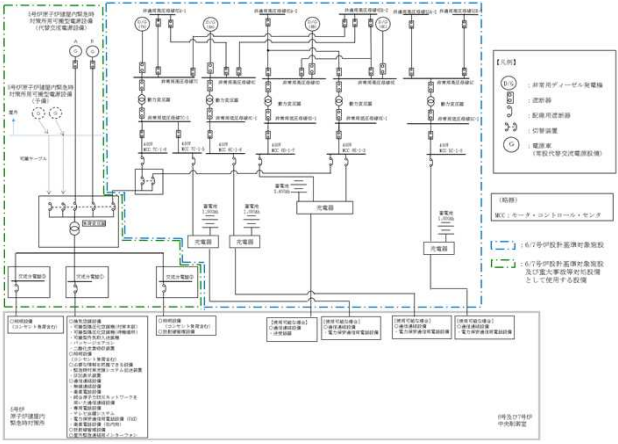
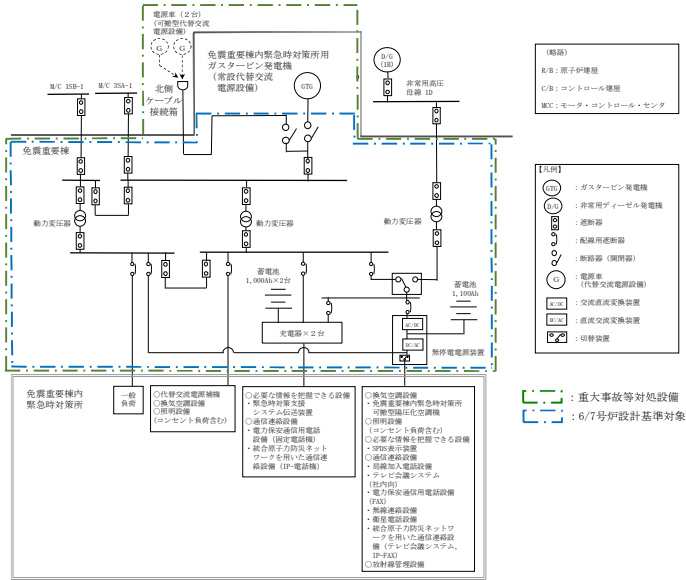
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																									
175	—	1.18-78	 <p>第1.18.23図 安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備の概要</p>	 <p>図1.18.19 緊急時対策所における安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備の概要</p>	②(K5TSC設計進捗、免震重要棟の自主化)																																																																																									
176	—	1.18-78	<table border="1" data-bbox="448 949 1164 1173"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th rowspan="2">▽設置指示</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>60</th> <th>70</th> <th>80</th> <th>90</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順</td> <td>南側アクセスルート</td> <td>保安班 2名</td> <td>▽設置指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>北東側アクセスルート</td> <td>保安班 2名</td> <td>▽設置指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※チェンジングエリアは、南側か北東側アクセスルートのいずれかを設置する。</p> <p>第1.18.24図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順タイムチャート</p>	手順の項目		要員	▽設置指示	経過時間(分)						0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順	南側アクセスルート	保安班 2名	▽設置指示												北東側アクセスルート	保安班 2名	▽設置指示												<table border="1" data-bbox="1220 965 1904 1173"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th rowspan="2">▽設置指示</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>10</th> <th>20</th> <th>30</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>60</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順</td> <td>チェンジングエリア設置完了</td> <td>保安班 2名</td> <td>▽設置指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>チェンジングエリア</td> <td></td> <td>チェンジングエリア</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>図1.18.21 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順タイムチャート</p>	手順の項目		要員	▽設置指示	経過時間(分)						0	10	20	30	40	50	60	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順	チェンジングエリア設置完了	保安班 2名	▽設置指示									チェンジングエリア		チェンジングエリア									②(K5TSC設計進捗)
手順の項目		要員	▽設置指示					経過時間(分)																																																																																						
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90																																																																																	
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順	南側アクセスルート	保安班 2名	▽設置指示																																																																																											
	北東側アクセスルート	保安班 2名	▽設置指示																																																																																											
手順の項目		要員	▽設置指示	経過時間(分)																																																																																										
				0	10	20	30	40	50	60																																																																																				
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア設置手順	チェンジングエリア設置完了	保安班 2名	▽設置指示																																																																																											
	チェンジングエリア		チェンジングエリア																																																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																
177	-	1.18-79	 <p style="text-align: center; color: blue;">第1.18.26図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 給電系統概要図</p>	 <p style="text-align: center;">図1.18.28 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 給電系統概要図</p>	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																
178	-	1.18-80	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="font-size: small;">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">復旧班 2名</td> <td colspan="2">▽電源設備起動指示</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6" style="text-align: center;">電源設備からの受電完了</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6"> 電源設備配置場所へ移動 ケーブル接続 電源設備起動・起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; color: blue;">第1.18.27図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 起動操作手順タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	5	10	15	20	30	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順	復旧班 2名	▽電源設備起動指示										電源設備からの受電完了								電源設備配置場所へ移動 ケーブル接続 電源設備起動・起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替														<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間(分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="font-size: small;">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">本部分 2名</td> <td colspan="2">▽電源設備起動指示</td> <td colspan="6"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6" style="text-align: center;">電源設備からの受電完了</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6"> 電源設備配置場所へ移動 発電機起動 起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="6"></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">図1.18.29 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 起動操作タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間(分)						0	5	10	15	20	30	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順	本部分 2名	▽電源設備起動指示										電源設備からの受電完了								電源設備配置場所へ移動 発電機起動 起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替														②(K5TSC設計進捗)
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																																																			
		0	5	10	15	20	30																																																																																														
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順	復旧班 2名	▽電源設備起動指示																																																																																																			
				電源設備からの受電完了																																																																																																	
				電源設備配置場所へ移動 ケーブル接続 電源設備起動・起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替																																																																																																	
手順の項目	要員	経過時間(分)																																																																																																			
		0	5	10	15	20	30																																																																																														
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備起動操作手順	本部分 2名	▽電源設備起動指示																																																																																																			
				電源設備からの受電完了																																																																																																	
				電源設備配置場所へ移動 発電機起動 起動後確認・出力遮断器「入」 負荷変圧器配置場所へ移動 遮断器切替																																																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

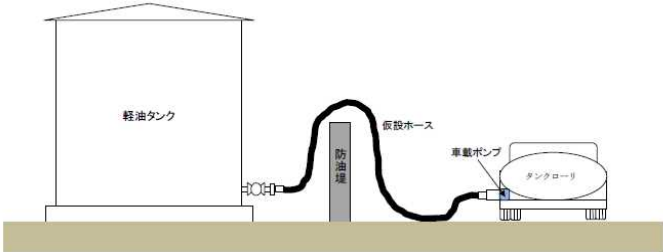

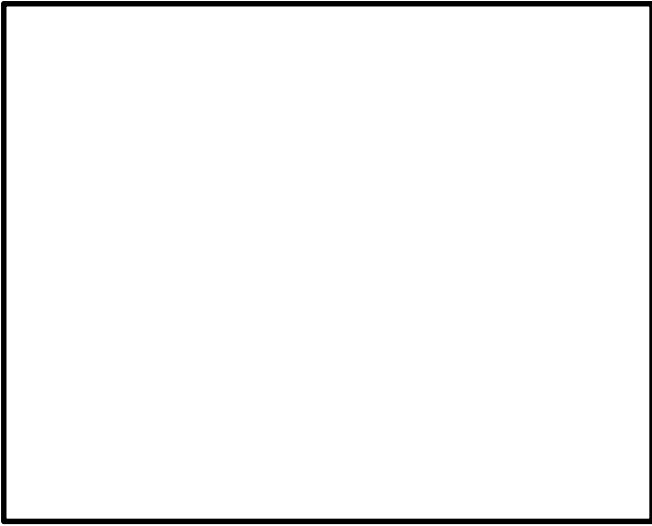
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																	
179	—	1.18-80	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">手順の項目</th> <th rowspan="2">要員</th> <th colspan="6">経過時間 (分)</th> </tr> <tr> <th>0</th> <th>5</th> <th>10</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順</td> <td rowspan="7">復旧班 2名</td> <td>▽電源設備切替え指示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電源設備配置場所へ移動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>待機側の電源設備起動, 起動後確認</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電源設備 (待機側) 遮断機「入」</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>負荷変圧器配置場所へ移動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受電遮断器閉鎖</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電源設備配置場所へ移動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用側の発電機停止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>▽電源設備からの切替え完了</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>第1.18.28図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備切替え手順タイムチャート</p>	手順の項目	要員	経過時間 (分)						0	5	10	15	20	25	30	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順	復旧班 2名	▽電源設備切替え指示							電源設備配置場所へ移動							待機側の電源設備起動, 起動後確認							電源設備 (待機側) 遮断機「入」							負荷変圧器配置場所へ移動							受電遮断器閉鎖							電源設備配置場所へ移動							使用側の発電機停止									▽電源設備からの切替え完了						—	②(K5TSC設計進捗)
手順の項目	要員	経過時間 (分)																																																																																				
		0	5	10	15	20	25	30																																																																														
5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の切替え手順	復旧班 2名	▽電源設備切替え指示																																																																																				
		電源設備配置場所へ移動																																																																																				
		待機側の電源設備起動, 起動後確認																																																																																				
		電源設備 (待機側) 遮断機「入」																																																																																				
		負荷変圧器配置場所へ移動																																																																																				
		受電遮断器閉鎖																																																																																				
		電源設備配置場所へ移動																																																																																				
使用側の発電機停止																																																																																						
		▽電源設備からの切替え完了																																																																																				

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
180	—	1.18-81	<p>タンクローリへの給油</p>  <p>軽油タンク</p> <p>仮設ホース</p> <p>防油堤</p> <p>車載ポンプ</p> <p>タンクローリ</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備への給油</p>  <p>5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用 可搬型電源設備</p> <p>仮設ホース</p> <p>車載ポンプ</p> <p>タンクローリ</p> <p>第1.18.29図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備への燃料給油概略系統図</p>	<p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>  <p>図1.18.24 タンクローリによるアクセスルート図</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
181	—	1.18-81	削除	<p>図1.18.25 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機燃料補給作業タイムチャート</p> <p>※タンクローリー (16kL) は荒浜側高台保管庫に配備</p>	②(免震重要棟の自主化)
182	—	1.18-81	削除	<p>図1.18.26 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機から電源車への切替えのタイムチャート</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
183	—	1.18-81	削除	<p>図1.18.27 タンクローリ(4kL)から電源車への給油のタイムチャート</p>	②(免震重要棟の自主化)
184	—	1.18-81	<p>第1.18.30図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 燃料給油手順タイムチャート</p>	<p>図1.18.31 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 燃料補給作業タイムチャート</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
185	—	1.18-82	<p>第1.18.31図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の待機運転手順タイムチャート</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
186	—	1.18-82	<p>第1.18.32図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 復旧手順タイムチャート</p>	<p>図1.18.30 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 復旧タイムチャート</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
187	—	1.18-82	削除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 150px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図1.18.32 一時待避場所の配置図</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
188	—	1.18-82	削除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 150px; margin-bottom: 10px;"></div> 図1.18.33 緊急時対策所, 一時待避場所への待避に関するアクセスルート 図	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																														
189	-	1.18-82	削除	<p>重大事故等対処設備及び自主対策設備整理表(免震重要棟内緊急時対策所)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備名</th> <th rowspan="2">設備内容</th> <th rowspan="2">設備の概要</th> <th rowspan="2">設備の機能</th> <th colspan="2">設備の仕様</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種別</th> <th>位置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対応用照明</td> <td>緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>照明</td> <td>緊急時対応用照明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急時対応用放送機</td> <td>緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>放送機</td> <td>緊急時対応用放送機</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急時対応用非常用電源</td> <td>緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。</td> <td>非常用電源</td> <td>緊急時対応用非常用電源</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設備名	設備内容	設備の概要	設備の機能	設備の仕様		備考	種別	位置	緊急時対応用照明	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	照明	緊急時対応用照明		緊急時対応用放送機	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	放送機	緊急時対応用放送機		緊急時対応用非常用電源	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	非常用電源	緊急時対応用非常用電源		<p>②(免震重要棟の自主化)</p>
設備名	設備内容	設備の概要	設備の機能	設備の仕様					備考																										
				種別	位置																														
緊急時対応用照明	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用照明は、地震発生時に、照明設備の電源が正常に供給されることにより、避難経路を確保することとなる。	照明	緊急時対応用照明																														
緊急時対応用放送機	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用放送機は、地震発生時に、放送機が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	放送機	緊急時対応用放送機																														
緊急時対応用非常用電源	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	緊急時対応用非常用電源は、地震発生時に、非常用電源が正常に動作することにより、避難経路を確保することとなる。	非常用電源	緊急時対応用非常用電源																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																	
190	添付資料 1.18.1	1.18-83	<p>審査基準、基準規則と対応設備との対応表(1/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>技術的能力審査基準(1.18)</th> <th>番号</th> <th>設置許可基準規則(61条)</th> <th>技術基準規則(76条)</th> <th>番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【本文】 発電用原子炉設置者において、緊急時対策所に対し、重大事故等が発生した場合においても、重大事故等に対処するために必要な指示を行う必要の手順等が適切に整備されていること、又は整備される方針が適切に示されていること。</p> </td> <td>本文</td> <td> <p>【本文】 第三十四条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するため適切な措置が講じられるよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 発電用原子炉施設の外内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な設備を設けたものであること。 四 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p> </td> <td> <p>【本文】 第四十六条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p> </td> <td>本文</td> </tr> <tr> <td> <p>【解説】 1 「現地対策本部としての機能を維持するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための手順等以外のものをいう。</p> </td> <td>—</td> <td> <p>【解説】 1 第1項及び第2項の要件を満たす緊急時対策所とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための設備を備えたものをいう。</p> </td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> <p>a) 重大事故が発生した場合においても、放射能防護措置等により、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまらなければならない手順等を整備すること。</p> </td> <td>①</td> <td> <p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p> </td> <td> <p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p> </td> <td>①</td> </tr> <tr> <td> <p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p> </td> <td>②</td> <td> <p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p> </td> <td> <p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p> </td> <td>②</td> </tr> <tr> <td> <p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p> </td> <td>③</td> <td> <p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p> </td> <td> <p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p> </td> <td>③</td> </tr> <tr> <td> <p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p> </td> <td>④</td> <td> <p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p> </td> <td> <p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p> </td> <td>④</td> </tr> <tr> <td> <p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> </td> <td>⑤</td> <td> <p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> </td> <td> <p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p> </td> <td>⑤</td> </tr> </tbody> </table>	技術的能力審査基準(1.18)	番号	設置許可基準規則(61条)	技術基準規則(76条)	番号	<p>【本文】 発電用原子炉設置者において、緊急時対策所に対し、重大事故等が発生した場合においても、重大事故等に対処するために必要な指示を行う必要の手順等が適切に整備されていること、又は整備される方針が適切に示されていること。</p>	本文	<p>【本文】 第三十四条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するため適切な措置が講じられるよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 発電用原子炉施設の外内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な設備を設けたものであること。 四 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p>	<p>【本文】 第四十六条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p>	本文	<p>【解説】 1 「現地対策本部としての機能を維持するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための手順等以外のものをいう。</p>	—	<p>【解説】 1 第1項及び第2項の要件を満たす緊急時対策所とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための設備を備えたものをいう。</p>	—	—	<p>a) 重大事故が発生した場合においても、放射能防護措置等により、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまらなければならない手順等を整備すること。</p>	①	<p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p>	<p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p>	①	<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	②	<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	②	<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	③	<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	③	<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	④	<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	④	<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	⑤	<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	⑤	<p>重大事故等対応設備及び自主対策設備整理表(5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設備名称</th> <th rowspan="2">設置場所</th> <th rowspan="2">設置時期</th> <th rowspan="2">設置理由</th> <th rowspan="2">設置内容</th> <th colspan="4">重大事故等対応設備</th> <th colspan="4">自主対策設備(月3回点検)</th> <th rowspan="2">点検項目</th> <th rowspan="2">点検頻度</th> <th rowspan="2">点検担当者</th> </tr> <tr> <th>機材名</th> <th>型式</th> <th>規格</th> <th>数量</th> <th>機材名</th> <th>型式</th> <th>規格</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射線監視装置</td> <td>原子炉建屋</td> <td>2011年</td> <td>放射線監視</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> <td>放射線監視装置</td> </tr> <!-- Additional rows would follow the same pattern, capturing the dense data in the image --> </tbody> </table>	設備名称	設置場所	設置時期	設置理由	設置内容	重大事故等対応設備				自主対策設備(月3回点検)				点検項目	点検頻度	点検担当者	機材名	型式	規格	数量	機材名	型式	規格	数量	放射線監視装置	原子炉建屋	2011年	放射線監視	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	⑤
			技術的能力審査基準(1.18)	番号	設置許可基準規則(61条)	技術基準規則(76条)	番号																																																																															
<p>【本文】 発電用原子炉設置者において、緊急時対策所に対し、重大事故等が発生した場合においても、重大事故等に対処するために必要な指示を行う必要の手順等が適切に整備されていること、又は整備される方針が適切に示されていること。</p>	本文	<p>【本文】 第三十四条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するため適切な措置が講じられるよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 発電用原子炉施設の外内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な設備を設けたものであること。 四 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p>	<p>【本文】 第四十六条の規定により設置される緊急時対策所は、重大事故等が発生した場合においても当該重大事故等に処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、次に掲げるものでなければならない。 一 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまることができよう、適切な措置を講じたものであること。 二 重大事故等に対処するために必要な指示があるよう、重大事故等に処するために必要な情報を把握できる設備を設けたものであること。 三 緊急時対策所は、重大事故等に対処するために必要な要員を収容することができるものでなければならない。</p>	本文																																																																																		
<p>【解説】 1 「現地対策本部としての機能を維持するために必要な手順等」とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための手順等以外のものをいう。</p>	—	<p>【解説】 1 第1項及び第2項の要件を満たす緊急時対策所とは、以下に掲げる措置又はこれらと同程度の効果を有する措置を行うための設備を備えたものをいう。</p>	—	—																																																																																		
<p>a) 重大事故が発生した場合においても、放射能防護措置等により、重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員がとまらなければならない手順等を整備すること。</p>	①	<p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p>	<p>a) 基準機能喪失による電力に対し、危険機器等により、緊急時対策所の機能を喪失しないようにとともに、基準機能に影響を受けにくいこと。</p>	①																																																																																		
<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	②	<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	<p>b) 緊急時対策所と原子炉制御室は共同運用により同時に機能喪失しないこと。</p>	②																																																																																		
<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	③	<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	<p>c) 緊急時対策所は、代用交電機からの給電を可能とすること。また、当該代用電源線を含めて緊急時対策所の電源線は、多量性又は多様性を有すること。</p>	③																																																																																		
<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	④	<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	<p>d) 緊急時対策所の居住性が確保されるようには、適切な遮蔽設計及び換気設計を行うこと。</p>	④																																																																																		
<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	⑤	<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	<p>e) 緊急時対策所の居住性については、次の要件を満たすものであること。 ① 想定する放射性物質の放出量等は東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とすること。 ② プールム透過時等に特別な防護措置を講じる場合を除き、対策要員は緊急時対策所内のマスクの着用なしとして評価すること。 ③ 交代要員体制、安定ヨウ素剤の服用、被服設備等を考慮してよい。ただし、その場合は、防護服の着用を考慮すること。 ④ 判断基準は、対策要員の被曝量が7日間で100mSvを超えないこと。</p>	⑤																																																																																		
設備名称	設置場所	設置時期	設置理由	設置内容	重大事故等対応設備				自主対策設備(月3回点検)				点検項目	点検頻度	点検担当者																																																																							
					機材名	型式	規格	数量	機材名	型式	規格	数量																																																																										
放射線監視装置	原子炉建屋	2011年	放射線監視	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置	放射線監視装置																																																																						

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																														
191	添付資料 1.18.1	1.18-84	<p>審査基準, 基準規則と対処設備との対応表(2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>技術的能力審査基準 (1.18)</th> <th>番号</th> <th>設置許可基準規則 (61条)</th> <th>技術基準規則 (76条)</th> <th>番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4) 作業要員の装備(除塵計及びマスク等)が配備され、放射線管理が十分できること。</td> <td>㊸</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4) 資機材及び対策の検閲に必要な資料を整備すること。</td> <td>㊹</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6) 少なくとも外部からの支援なしに1週間、活動するための飲料水及び食料等を備蓄すること。</td> <td>㊺</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。</td> <td>1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。</td> <td>㊻</td> </tr> <tr> <td>2 「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。</td> <td>—</td> <td>2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。</td> <td>2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	技術的能力審査基準 (1.18)	番号	設置許可基準規則 (61条)	技術基準規則 (76条)	番号	4) 作業要員の装備(除塵計及びマスク等)が配備され、放射線管理が十分できること。	㊸				4) 資機材及び対策の検閲に必要な資料を整備すること。	㊹				6) 少なくとも外部からの支援なしに1週間、活動するための飲料水及び食料等を備蓄すること。	㊺						1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。	1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。	㊻	2 「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	—	2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	—	—	⑤
技術的能力審査基準 (1.18)	番号	設置許可基準規則 (61条)	技術基準規則 (76条)	番号																															
4) 作業要員の装備(除塵計及びマスク等)が配備され、放射線管理が十分できること。	㊸																																		
4) 資機材及び対策の検閲に必要な資料を整備すること。	㊹																																		
6) 少なくとも外部からの支援なしに1週間、活動するための飲料水及び食料等を備蓄すること。	㊺																																		
		1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。	1) 緊急時対策所の外圍が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設けること。	㊻																															
2 「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	—	2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	2 第2項に規定する「重大事故等に対処するために必要な数の要員」とは、第1項第1号に規定する「重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員」に加え、少なくとも原子炉格納容器の破損等による工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含むものとする。	—																															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																		
193	添付資料 1.18.1	1.18-86	<p>審査基準、基準規則と対処設備との対応表(4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">基準解釈対応手順</th> </tr> <tr> <th>機能</th> <th>整備する手順</th> <th>基準解釈対応</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要な指示及び通信連絡</td> <td>1.18.2.2(2) 重大事故等に対処するための対策の検討に必要な資料の整備</td> <td>本文 ⑦</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">必要な委員の取容</td> <td>1.18.2.3(1)b. チェンジングエリアの設置及び運用手順</td> <td rowspan="2">本文 ⑧ ⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1.18.2.3(2) 飲料水、食料等</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準解釈対応手順				機能	整備する手順	基準解釈対応	備考	必要な指示及び通信連絡	1.18.2.2(2) 重大事故等に対処するための対策の検討に必要な資料の整備	本文 ⑦		必要な委員の取容	1.18.2.3(1)b. チェンジングエリアの設置及び運用手順	本文 ⑧ ⑨		1.18.2.3(2) 飲料水、食料等		—	⑤
基準解釈対応手順																							
機能	整備する手順	基準解釈対応	備考																				
必要な指示及び通信連絡	1.18.2.2(2) 重大事故等に対処するための対策の検討に必要な資料の整備	本文 ⑦																					
必要な委員の取容	1.18.2.3(1)b. チェンジングエリアの設置及び運用手順	本文 ⑧ ⑨																					
	1.18.2.3(2) 飲料水、食料等																						
194	—	1.18-86	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策所の耐震性と使用可否判断について 免震重要棟は新潟県中越沖地震(2007年7月)での被災経験を経て設置したもので、建築基準法告示で規定される地震動を1.5倍した地震力に対応した耐震設計がなされた、免震構造を有する建物であり、新潟県中越沖地震の地震力を上まわる震度7クラスの地震力にも耐えうる施設となっている。そのため、原子炉建屋等発電設備に大きな影響が生じる可能性がある短周期地震に対しては有利な特徴を兼ね備える一方、非常に大きな長周期成分を含む一部の基準地震動に対する評価としては通常の免震設計クライテリアを満足しない場合があり、その際には構造物・設備の損傷が発生する可能性があるとして想定される。 具体的には概略評価として基準地震動を免震重要棟基礎面に直接入力した評価を行い、免震装置(積層ゴム)の設計目標値(75cm)を超える変位が発生し、建屋上屋側面と基礎部分が干渉(クリアランスは85cm)すると評価している。 建屋と基礎との干渉が発生すると建屋上屋が損傷し、干渉に伴う衝撃力が建物に内蔵する設備に作用することで機能が喪失する可能性があるものと考えており、長期に亘り災害対策拠点として使用するに適さなくなる(補足)。図1に免震重要棟建物上屋と基礎の干渉イメージを示す。</p>	②(免震重要棟の自主化)																		

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
195	—	1.18-86	削除	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 150px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図1 免震重要棟 断面図, 拡大図(NS方向)</p>	②(免震重要棟の自主化)
196	—	1.18-86	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策所の使用可否判断については、免震装置(積層ゴム)の設計目標値(75cm)を超える変位があったかどうかを識別することができる措置(以下、「変位量識別用ポール(75cm)」)というを講じた設計とすることで、参集後に特別な判定作業を必要とせず直ちに判断が可能である。一方、大きな地震が生じた後にはそれが更に大規模な地震を誘発する可能性を排除できないことから、上記の変位量識別用ポール(75cm)に加え、免震重要棟基礎部に設置する地震計により連続的に地震観測を行うことで、免震重要棟内緊急時対策所の使用可否の判断を行う。使用可否の判断のフローチャートは図2のとおりであり、以下の3パターンとなる。</p> <p>① 変位量識別用ポール(75cm)が損傷していた場合 免震重要棟の建屋上屋側面と基礎部分が干渉し建屋上屋が損傷、通信連絡設備等収納設備が損傷した可能性が高いと判断し、免震重要棟を基本的に使用禁止とし、本部長は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する判断を行う。</p> <p>本部長を含めた初動対応要員は、必要最小限の要員を免震重要棟の近傍に残して、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動することとし、免震重要棟の近傍に残った要員は、免震重要棟又は宿泊所から持ち出した通信連絡設備(衛星電話設備(可搬型)、無線連絡設備(可搬型))で、各中央制御室と連絡を取り合い、プラントの状況を把握し、必要に応じて本部長の代行として指揮をとる。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の本部立ち上げ後に、本部長に対してプラント状況等の報告を行った後、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
197	—	1.18-86	削除	<p>② 変位量識別用ポール(75cm)が損傷しておらず, 地震計が震度7であった場合 免震重要棟は損傷していないものの, 新潟県中越沖地震の地震力を上まわる震度7の地震があったことから, この地震が更に大規模な地震を誘発する可能性を排除できないとして, 本部長は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する判断を行う。 本部長を含めた初動対応要員は, 必要最小限の要員を免震重要棟内緊急時対策所に残して, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動することとし, 免震重要棟内緊急時対策所に残った要員は, 同緊急時対策所内の通信連絡設備で, 各中央制御室と連絡を取り合い, プラントの状況を把握し, 必要に応じて本部長の代行として指揮をとる。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の本部立ち上げ後に, 本部長に対してプラント状況等の報告を行った後, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に移動する。</p> <p>③ 変位量識別用ポール(75cm)が損傷しておらず, 地震計が震度7未満の場合 免震重要棟内緊急時対策所を緊急時対策所として活用することとする。 更に免震重要棟内緊急時対策所にて事故対応を行っている最中に地震が発生した際にも同様に使用可否判断フローチャートに従った判断を行うこととする。 なお, 免震重要棟内緊急時対策所にて事故号炉の重大事故等対応を行っているところに, 更に基準地震動クラスの地震被災を想定し, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に拠点を移すことは非常に希であると考えられるが, そのような場合においては, 緊急時対策要員に外部放射線環境に応じた保護具を着用させた上で, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に拠点を移すこととする。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
198	—	1.18-86	削除	<p>図2 免震重要棟内緊急時対策所 使用可否判断フローチャート</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
199	—	1.18-86	削除	<p>(補足) 地震後に建屋上屋側面と基礎部分とが干渉しない場合は, 免震装置により免震重要棟内緊急時対策所の機能が維持される。 居住性については, 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の気密壁は免震重要棟の構造部材に固定する設計とすることから, 免震装置により緩和された地震力により生じる建物の層間変形へ追従することで健全性の確保が期待できる。その際の緊急時対策所本部エリア気密に関する健全性について以下の通り評価を行った。 軽量鉄骨下地ボード張り間仕切り壁の地震による損傷は, 文献*1では実大試験の結果から, 建屋の層間変形角1/300程度からボード表面の微小なシワとして確認され始めることが報告されている。 免震重要棟内緊急時対策所を設置する免震重要棟において, 免震装置(積層ゴム)の設計目標値(75cm)が発生した場合の層間変形角を設計時の評価結果から, 1/5,000未満と推定され, 間仕切り壁の損傷が1/300程度から始まることを踏まえると, 間仕切り壁には損傷は生じることなく気密性は確保されることが判断できる。 (*1) 軽量鉄骨下地間仕切り壁の静的加力試験 田村他 日本建築学会 大会学術講演梗概集(関東)2006年9月</p>	②(免震重要棟の自主化)
200	添付2-2	1.18-88	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策所 可搬型陽圧化空調機運転操作について 1. 操作概要 免震重要棟内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機フィルタを通気することにより放射性物質の侵入を低減し, 必要な換気を確保するため, 可搬型陽圧化空調機を起動する。 2. 必要要員数・実施可能時間 (1)必要要員数:保安班2名 (2)実施可能時間:約96分(訓練実績に基づく) 3. 系統構成 免震重要棟内緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転の概略系統は図1のとおり。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

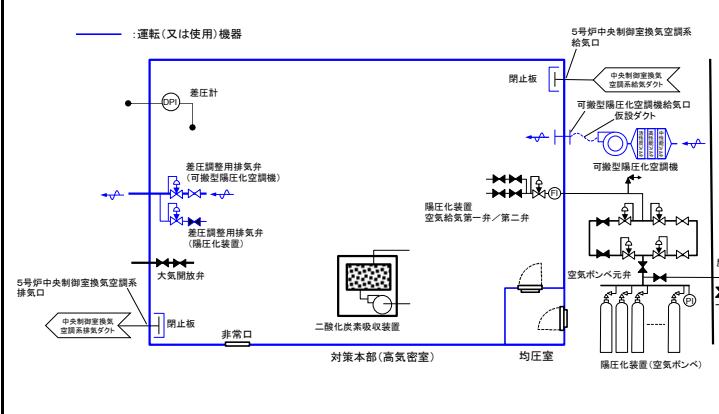
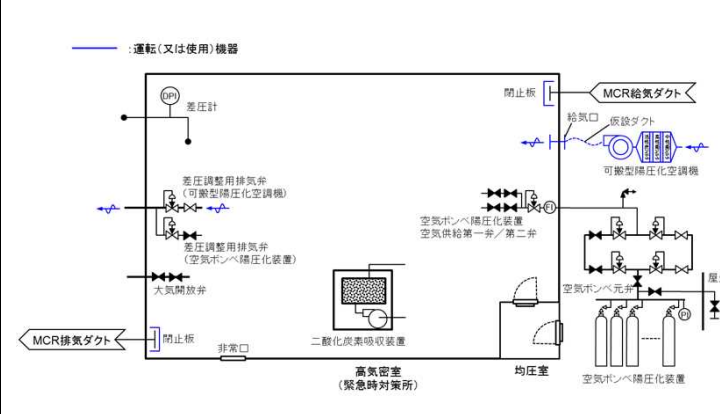
【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
201	添付2-2	1.18-88	削除	<p>図1 免震重要棟内緊急時対策所 可搬型陽圧化空調機運転の概略系統図</p>	②(免震重要棟の自主化)
202	添付2-2	1.18-88	削除	<p>4. 手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 免震重要棟内緊急時対策所の空調を停止した後、1階（待避室）の給排気隔離ダンパ（手動）を閉止する。 ② 活性炭フィルタ保管場所に移動し、保管容器から活性炭フィルタを取り出した後、可搬型陽圧化空調機設置場所に移動する。 ③ 3台の可搬型陽圧化空調機の活性炭フィルタを装着し、仮設ダクトを差込口に接続し、電源を接続する。 ④ 3台の可搬型陽圧化空調機を起動する。 ⑤ 差圧計で室内の圧力を微正圧（20Pa以上）であることを確認する。 <p>なお、免震重要棟内緊急時対策所2階から1階（待避室）に移動する際に合わせて、免震重要棟内緊急時対策所換気空調系の送風機及び排風機を停止、給気隔離ダンパ（屋上）及び排気隔離ダンパ（屋上）を閉止する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
203	添付2-2	1.18-89	<p>添付2-2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機運転操作について</p> <p>1. 操作概要 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機フィルタを通気することにより放射性物質の侵入を低減し、必要な換気を確保するため、可搬型陽圧化空調機を起動する。また、放射性ブルーム通過時においては、可搬型陽圧化空調機から陽圧化装置(空気ポンプ)に切り替えることにより、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所への外気の流入を遮断する。</p> <p>2. 必要要員数・実施可能時間 (1)必要要員数:保安班2名(対策本部)、復旧班2名(待機場所) (2)実施可能時間(可搬型陽圧化空調機の起動):約60分(訓練実績に基づく) (陽圧化装置(空気ポンプ)による加圧):約2分</p> <p>3. 系統構成 プルーム通過前及び通過後の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備の系統概略図を第1図に、プルーム通過前及び通過後の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備の系統概略図を第2図に、プルーム通過中の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備の系統概略図を第3図に、プルーム通過中の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備の系統概略図を第4図に示す。</p>	<p>添付資料1.18.2(3) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 可搬型陽圧化空調機運転操作について</p> <p>1. 操作概要 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機フィルタを通気することにより放射性物質の侵入を低減し、必要な換気を確保するため、可搬型陽圧化空調機を起動する。</p> <p>2. 必要要員数・実施可能時間 (1)必要要員数:保安班2名 (2)実施可能時間 :約48分(訓練実績に基づく)</p> <p>3. 系統構成 プルーム通過前後の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備の系統概略図を図1に、ブルーム通過中の5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備の系統概略図を図2に示す。</p>	<p>②(K5TSC設計進捗)</p>
204	添付2-2	1.18-89	 <p>第1図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備 系統概略図 (プルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)</p>	 <p>図1 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備 系統概略図(プルーム通過前後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化時)</p>	<p>②(K5TSC設計進捗)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

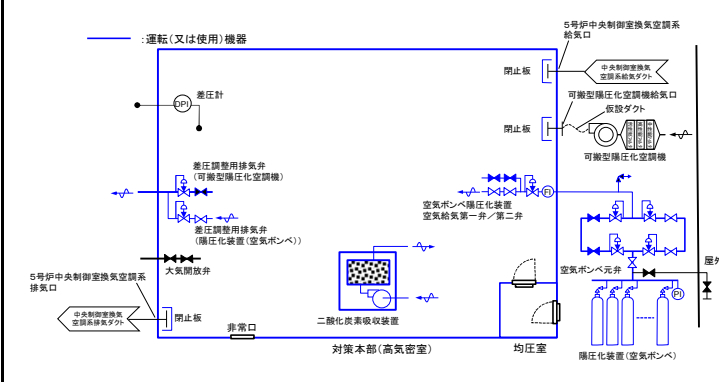
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
205	添付2-2	1.18-90	<p>第2図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備 系統概略図 (プルーム通過前及び通過後:可搬型陽圧化空調機による陽圧化)</p>	<p>図2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所換気設備 系統概略図 (プルーム通過中:空気ポンベ陽圧化装置による陽圧化時)</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
206	添付2-2	1.18-90	 <p>第3図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)換気設備 系統概略図 (プルーム通過中:陽圧化装置(空気ポンベ)による陽圧化)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
207	添付2-2	1.18-91	<p>第4図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)換気設備 系統概略図 (プルーム通過中: 陽圧化装置(空気ポンプ)による陽圧化)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
208	添付2-2	1.18-91	<p>4. 手順</p> <p>(1) ブルーム通過前及び通過後</p> <p>① 5号炉中央制御室換気空調系の送風機及び排風機の停止とMCR排気ダンパ, MCR外気取入ダンパ及びMCR非常時外気取入ダンパが閉していることを確認し, 全交流動力電源喪失等の場合でこれらのダンパが閉まっていなかった場合は, 手動で閉める。また, 5号炉中央制御室換気空調系給排気口に閉止板を取り付ける。</p> <p>② 活性炭フィルタ保管場所に移動し, 保管容器から活性炭フィルタを取り出した後, 可搬型陽圧化空調機設置場所に移動する。</p> <p>③ 可搬型陽圧化空調機の活性炭フィルタを装着し, 仮設ダクトを差込口に接続して, 電源を接続する。</p> <p>④ 可搬型陽圧化空調機を起動する。</p> <p>⑤ 差圧計で室内の圧力を微正圧 (20Pa以上) であることを確認する。</p> <p>(2) ブルーム通過中</p> <p>① 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の仮設ダクトを切離し, 給気口に閉止板を取付けるとともに, 陽圧化装置 (空気ポンプ) 空気給気弁を開操作, 差圧調整用排気弁 (陽圧化装置 (空気ポンプ)) を開操作^{※1}, 差圧調整用排気弁 (可搬型陽圧化装置) を開操作^{※1}し, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の陽圧化を開始する。※1: 対策本部のみ実施</p> <p>② 陽圧化状態の差圧確認後に, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の外側に設置するの5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機を停止する。</p> <p>③ 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 内の二酸化炭素濃度上昇を防止するために, 二酸化炭素吸収装置を起動する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>4. 手順</p> <p>(1) ブルーム通過前後</p> <p>① 5号炉中央制御室換気空調系の送風機及び排風機が停止していることとMCR排気ダンパ, MCR外気取入ダンパ及びMCR非常時外気取入ダンパが閉していることを確認し, 全交流動力電源喪失等の場合で3つのダンパが閉まっていなかった場合は, 手動で閉める。また, MCR給排気口に閉止板を取り付ける。</p> <p>② 活性炭フィルタ保管場所に移動し, 保管容器から活性炭フィルタを取り出した後, 可搬型陽圧化空調機設置場所に移動する。</p> <p>③ 可搬型陽圧化空調機の活性炭フィルタを装着し, 仮設ダクトを差込口に接続して, 電源を接続する。</p> <p>④ 可搬型陽圧化空調機を起動する。</p> <p>⑤ 差圧計で室内の圧力を微正圧 (20Pa以上) であることを確認する。</p> <p>(2) ブルーム通過中</p> <p>① 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所可搬型陽圧化空調機の給気口から可搬型陽圧化空調機仮設ダクトを取り外し, 当該給気口に閉止板を取り付ける。また, これと並行して, 空気ポンプ陽圧化装置給気第一弁/第二弁を開操作したうえで, 差圧調整用排気弁を切替える。</p> <p>② 差圧計で室内の圧力を微正圧 (20Pa以上) であることを確認する。</p> <p>③ 可搬型陽圧化空調機を停止し, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所二酸化炭素吸収装置を起動する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由												
209	添付2-3	1.18-92	<p>添付2-3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の必要換気流量について</p> <p>1. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）</p> <p>(1) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機</p> <p>①設備仕様</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）の可搬型陽圧化空調機は、第1表に示す数量、仕様であり、可搬型陽圧化空調機1台により、必要換気流量を確保している。</p> <p>第1表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）可搬型陽圧化空調機換気設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>数量</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型陽圧化空調機</td> <td>1台 (予備1台)</td> <td>風量：600m³/h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>②必要換気量の考え方</p> <p>a. 収容人数</p> <p>5号炉原子炉建屋緊急時対策所（対策本部）の換気設備は、重大事故等時において、収容人数として下記の「①ブルーム通過前及び通過後」及び「②ブルーム通過中」の最大人数となる86名を収容可能な設計とする。</p> <p>(a)ブルーム通過前及び通過後</p> <ul style="list-style-type: none"> 収容対策要員人数：86名 (6号及び7号炉要員：72名, 1～5号炉要員：12名, 保安検査官：2名) <p>(b)ブルーム通過中</p> <ul style="list-style-type: none"> 収容対策要員人数：73名 (6号及び7号炉要員：69名, 1～5号炉要員：2名, 保安検査官：2名) 	設備名称	数量	仕様	可搬型陽圧化空調機	1台 (予備1台)	風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上	<p>添付資料1.18.2(5) 免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の必要換気流量について</p> <p>1. 設備仕様</p> <p>緊急時対策所可搬型陽圧化空調機は、表1のような数量、仕様であり、可搬型陽圧化空調機3台により、必要換気流量を確保している。</p> <p>表1 緊急時対策所 換気設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>数量</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型陽圧化空調機</td> <td>100%×3台 (+予備3台)</td> <td>風量：600m³/h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 必要換気量の考え方</p> <p>緊急時対策所においては、重大事故発生後のブルーム通過時からブルーム通過後の長期間に亘り最大想定174人（1～7号炉対応の緊急時対策要員164人, 自衛消防隊10人）に余裕を持った収容人数180人に対して許容二酸化炭素濃度及び許容酸素濃度を確保可能な設計とする。</p> <p>3. 許容二酸化炭素濃度, 許容酸素濃度</p> <p>許容二酸化炭素濃度は、JEAC4622-2009「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規定」に定める0.5%以下とする。許容酸素濃度は、労働安全衛生法 酸素欠乏防止規則に定める18%以上とする。</p> <p>4. 二酸化炭素濃度基準に基づく必要換気量 Q1</p> <ul style="list-style-type: none"> M 二酸化炭素発生量：0.030^{※1} (m³/h/人) n 収容人数：180 (人) C 許容二酸化炭素濃度：0.5 (%) C0 初期二酸化炭素濃度：0.039^{※2} (%) <p>※1：軽作業時の二酸化炭素発生量（空気調和衛生工学便覧, 軽作業時のCO₂吐出量） ※2：標準大気中の二酸化炭素濃度（JIS W 0201） ※3：二酸化炭素基準の必要換気量（空気調和衛生工学便覧）</p> <p>・Q₁ 必要換気量：$Q_1 = \frac{100Mn}{C - C_0}$ (m³/h) Q1=100×0.030×180÷(0.5-0.039)=1171≒<u>1,180 (m³/h)</u></p>	設備名称	数量	仕様	可搬型陽圧化空調機	100%×3台 (+予備3台)	風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上	②(K5TSC設計進捗)
設備名称	数量	仕様															
可搬型陽圧化空調機	1台 (予備1台)	風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上															
設備名称	数量	仕様															
可搬型陽圧化空調機	100%×3台 (+予備3台)	風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
210	添付2-3	1.18-92	<p>b. 許容二酸化炭素濃度, 許容酸素濃度 許容二酸化炭素濃度は, JEAC4622-2009「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規定」に定める0.5%以下とする。許容酸素濃度は, 労働安全衛生法 酸素欠乏防止規則に定める18%以上とする。</p> <p>c. 必要換気量の計算式 (a) 二酸化炭素濃度基準に基づく必要換気量 (Q₁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収容人数 : n 名 ・ 許容二酸化炭素濃度 : C=0.5% (JEAC4622-2009) ・ 大気二酸化炭素濃度 : C₀=0.039% (標準大気二酸化炭素濃度) 	<p>5. 酸素濃度基準に基づく必要換気量 Q₂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ n 収容人数 : 180 (人) ・ a 吸気酸素濃度 : 20.95^{※4} (%) ・ b 許容酸素濃度 : 18.0 (%) ・ c 成人の呼吸量 : 0.48^{※5} (m³/h) ・ d 乾燥空気換算酸素濃度 : 16.4^{※5} (%) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>※4: 標準大気酸素濃度 (JIS W 0201) ※5: 成人呼吸気酸素濃度 (空気調和衛生工学便覧) ※6: 酸素基準の必要換気量 (空気調和衛生工学便覧)</p> </div> <p>・ Q₂ 必要換気量 : $Q_2 = \frac{c(a-d)n}{a-b}$ (m³/h) Q₂=0.48×(20.95-16.4)×180÷(20.95-18.0)=133.3≒134 (m³/h)</p> <p>6. 必要換気量 上記より, 窒息防止に必要な換気量は, 二酸化炭素濃度基準の必要換気量が制限となることから, 1,180m³/hに余裕をもたせた600m³/h/台×3台=1,800m³/hを確保する。 以 上</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
211	添付2-3	1.18-93	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化炭素発生量 : $M=0.030\text{m}^3/\text{h}/\text{名}$ (空気調和・衛生工学便覧の軽作業の作業程度の吐出し量) ・ 必要換気量 : $Q_1=100\times M\times n\div(C-C_0)$ m^3/h (空気調和・衛生工学便覧の二酸化炭素濃度基準必要換気量 $Q_1 = 100\times 0.030\times n\div(0.5-0.039)=6.51\times n$ [m^3/h]) (b) 酸素濃度基準に基づく必要換気量 (Q_2) ・ 収容人数 : n 名 ・ 吸気酸素濃度 : $a=20.95\%$ (標準大気酸素濃度) ・ 許容酸素濃度 : $b=18\%$ (労働安全衛生法, 酸素欠乏症等防止規則) ・ 成人の呼吸量 : $c=0.48\text{m}^3/\text{h}/\text{名}$ (空気調和・衛生工学便覧) ・ 乾燥空気換算呼吸酸素濃度 : $d=16.4\%$ (空気調和・衛生工学便覧) ・ 必要換気量 : $Q_2=c\times(a-d)\times n\div(a-b)$ m^3/h (空気調和・衛生工学便覧の酸素濃度基準必要換気量) $Q_2 = 0.48\times(20.95-16.4)\times n\div(20.95-18.0)=0.741\times n$ [m^3/h] d. 必要換気量 (a) ブルーム通過前及び通過後 (可搬型陽圧化空調機の必要換気量) ブルーム通過前及び通過後における可搬型陽圧化空調機運転時の必要換気量は, 重大事故等時における最大の収容人数である86名に対して, 二酸化炭素吸収装置を運転しないことから二酸化炭素濃度上昇が支配的となった場合において窒息防止に必要な換気量を有する設計とする。 よって必要換気量は, 二酸化炭素濃度基準の必要換気量の計算式を用いると $Q_1=6.51\times 86=560$ [m^3/h]以上(6号及び7号炉要員:469 [m^3/h], 1~5号炉要員:78 [m^3/h], 保安検査官:13 [m^3/h])となる。 	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由						
212	添付2-3	1.18-93	<p>(b)ブルーム通過中（陽圧化装置の必要換気量） ブルーム通過中における5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置運転時の必要換気量は、重大事故等時における最大の収容人数である86名に対して、二酸化炭素吸収装置により二酸化炭素濃度の上昇を抑えており酸素濃度低下が支配的となった場合において窒息防止に必要な換気量を有する設計とする。</p> <p>よって必要換気量は、酸素濃度基準の計算式を用いると $Q_2 = 0.741 \times 86 = 64 [\text{m}^3/\text{h}]$ 以上（6号及び7号炉要員：53[m³/h]、1～5号炉要員：9[m³/h]、保安検査官：2[m³/h]）となる。</p> <p>(2) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンペ） ①設備仕様 必要ポンペ容量としては、下記に示す「(a)ブルーム通過中に必要となるポンペ容量」117本に加えて、「(b)陽圧化切替え操作時に必要な空気ポンペ容量」6本を考慮し、合計で123本以上を確保する設計とする。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置（空気ポンペ）換気設備仕様を第2表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第2表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）陽圧化装置 （空気ポンペ）換気設備仕様</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>数量(本)</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陽圧化装置(空気ポンペ)</td> <td>123本以上</td> <td>ポンペ容量：約47L/本 ポンペ充填圧力：約16MPa</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	数量(本)	仕様	陽圧化装置(空気ポンペ)	123本以上	ポンペ容量：約47L/本 ポンペ充填圧力：約16MPa	-	②(K5TSC設計進捗)
設備名称	数量(本)	仕様									
陽圧化装置(空気ポンペ)	123本以上	ポンペ容量：約47L/本 ポンペ充填圧力：約16MPa									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
213	添付2-3	1.18-94	<p>②必要ポンペ容量</p> <p>(a) ブルーム通過中に必要となるポンペ本数 対策本部を 10 時間陽圧化する必要最低限のポンペ本数は, 陽圧化装置 (空気ポンペ) 運用時の必要換気量である 64m³/h (6 号及び 7 号炉要員: 53[m³/h], 1~5 号炉要員: 9[m³/h], 保安検査官: 2[m³/h]) に対するポンペ供給可能空気量 5.50m³/本から下記のとおり 117 本 (6 号及び 7 号炉要員: 98 本, 1~5 号炉要員: 16 本, 保安検査官: 3 本) となる。なお, 現場に設置するポンペ本数については, 現場運用を考慮し別途決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンペ初期充填圧力 : 14.7MPa (at 35℃) ・ポンペ内容積 : 46.7L ・圧力調整弁最低制御圧力 : 0.89MPa ・ポンペ供給可能空気量 : 5.50m³/本 (at -4℃) <p>以上より, 必要ポンペ本数は下記のとおり 117 本以上となる。 64m³/h ÷ 5.50m³/本 × 10 時間 = 117 本</p> <p>(b) 陽圧化切替操作時に必要なポンペ本数 ブルーム通過後は, 高気密室の陽圧化を, 陽圧化装置 (空気ポンペ) による給気から可搬型陽圧化空調機による給気に切り替える。切替操作の間, 陽圧化装置 (空気ポンペ) の給気と可搬型陽圧化空調機の給気を並行して行うことにより, 高気密室の陽圧化状態を損なわない設計とする。 以上より, 陽圧化切替操作時に必要なポンペ本数として, (a) ブルーム通過中に必要となるポンペ容量の計算式を用い, 以下のとおり 6 本以上を確保する設計とする。 64m³/h ÷ 5.50m³/本 × 30 分 = 6 本</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由						
214	添付2-3	1.18-95	<p>2. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） (1) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）可搬型陽圧化空調機 ①設備仕様 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の可搬型陽圧化空調機は、第3表に示す数量、仕様であり、可搬型陽圧化空調機2台により、必要換気風量を確保している。</p> <p>第3表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）（可搬型陽圧化空調機）換気設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>数量</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可搬型陽圧化空調機</td> <td>2台 (予備1台)</td> <td>ブロワ風量：600m³/h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 設計方針 a. 収容人数 5号炉原子炉建屋緊急時対策所（待機場所）の換気設備は、重大事故等時において、収容人数として下記の「①ブルーム通過前及び通過後」及び「②ブルーム通過中」のうち、最大人数となる98名を収容可能な設計とする。</p> <p>① ブルーム通過前及び通過後 ・収容要員人数：98名 （6号及び7号炉対策要員：90名、5号炉運転員：8名）</p> <p>② ブルーム通過中 ・収容要員人数：65名 （6号及び7号炉対策要員：57名、5号炉運転員：8名）</p>	設備名称	数量	仕様	可搬型陽圧化空調機	2台 (予備1台)	ブロワ風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上	—	②(K5TSC設計進捗)
設備名称	数量	仕様									
可搬型陽圧化空調機	2台 (予備1台)	ブロワ風量：600m ³ /h/台 高性能フィルタ捕集効率：99.9%以上 活性炭フィルタ捕集効率：99.9%以上									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
215	添付2-3	1.18-95	<p>b. 必要換気量の計算式</p> <p>窒息防止に必要な換気風量としては、ブルーム通過前及び通過後の5号炉原子炉建屋緊急時対策所(待機場所)の必要換気量の考え方は、5号炉原子炉建屋緊急時対策所(対策本部)と同様に、二酸化炭素濃度上昇が必要換気量の支配的要因となることから、二酸化炭素濃度基準の必要換気量に配慮した設計とする。</p> <p>○二酸化炭素濃度基準に基づく必要換気量 (Q_1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容人数 : n 名 ・許容二酸化炭素濃度 : $C=0.5\%$ (JEAC4622-2009) ・大気二酸化炭素濃度 : $C_0=0.039\%$ (標準大気二酸化炭素濃度) ・二酸化炭素発生量 : $M=0.030\text{m}^3/\text{h}/\text{名}$ (空気調和・衛生工学便覧の軽作業の作業程度の吐出し量) ・必要換気量 : $Q_1=100 \times M \times n \div (C - C_0) \text{ m}^3/\text{h}$ (空気調和・衛生工学便覧の二酸化炭素濃度基準必要換気量) $Q_1 = 100 \times 0.030 \times n \div (0.5 - 0.039) = 6.51 \times n \text{ [m}^3/\text{h]}$ <p>c. 必要換気量</p> <p>可搬型陽圧化空調機運転時の必要換気量は、重大事故等時における最大の収容人数である98名に対して、二酸化炭素濃度上昇が支配的となった場合において窒息を防止可能な設計とする。</p> <p>よって必要換気量は、二酸化炭素濃度基準の必要換気量の計算式を用いると $Q_1=6.51 \times 98=638\text{[m}^3/\text{h]}$以上(6号及び7号炉要員: $586\text{[m}^3/\text{h]}$, 5号炉運転員: $52\text{[m}^3/\text{h}]$)となる。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
216	添付2-3	1.18-96	<p>d. 設計漏洩量</p> <p>(a) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）を陽圧化するための必要差圧</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）は、配置上、風の影響を直接受けない屋内に設置されているため、室内へのインリークは隣接区画との温度差によって生じる空気密度の差に起因する差圧によるものと考えられる。</p> <p>よって、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）を陽圧化するための必要差圧は、下記の計算式より、$\Delta P_3 = 12.1 \text{ Pa}$ に余裕をもった20Pa以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 待機場所の階高H: $H \leq 4.9 \text{ m}$ 外気（大気圧）の乾燥空気密度: ρ_0 隣接区画（高温/低温）の乾燥空気密度: ρ_1, ρ_2 <p>隣接区画（高温） $\rho_1 = 1.127 \text{ [kg/m}^3\text{]}$（設計最高温度 40℃想定） 隣接区画（低温） $\rho_2 = 1.378 \text{ [kg/m}^3\text{]}$（外気最低温度-17℃想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接区画（高温/低温）に対して生じる差圧: $\Delta P_1, \Delta P_2$ <p>隣接区画（高温） $\Delta P_1 = (\rho_0 - \rho_1) \times H$ 隣接区画（低温） $\Delta P_2 = (\rho_2 - \rho_0) \times H$</p> <ul style="list-style-type: none"> 室内へのインリークを防止するための必要差圧: ΔP_3 $\begin{aligned} \Delta P_3 &= \Delta P_2 - \Delta P_1 \\ &= (\rho_1 - \rho_2) \times H \\ &= (1.378 - 1.127) \times 4.9 \\ &= 1.230 \text{ [kg/m}^3\text{]} (= 12.1 \text{ [Pa]}) \end{aligned}$	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
217	添付2-3	1.18-97	<p>(b) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の設計漏洩量 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）は5号炉原子炉建屋地上3階の既設の部屋を流用することから、20Pa 陽圧化した状態における気密性について、JIS A 2201に基づく気密性能試験により確認を実施した。</p> <p>気密性能試験結果として、3回の測定結果から求まる回帰曲線（気密特性式）を第2図に示す。第2図より、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）を20Pa 陽圧化した場合の設計漏洩量は938m³/hとなる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p> </div> <div style="border: 2px solid black; height: 150px; margin: 10px 0;"> </div> <p>第2図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）の気密性能試験結果（回帰曲線）</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由						
218	添付2-3	1.18-97	<p>以上より、「c. 必要換気量」の638m³/h、及び「d. 設計漏洩量」の938m³/hに対して十分な余裕を持たせることとし、可搬型陽圧化空調機は、定格風量600m³/h/台の機器を2台確保する設計とする。</p> <p>(2) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）陽圧化装置（空気ポンペ） ①設備仕様 必要ポンペ本数としては、下記に示す「(a) プルーム通過中に必要となるポンペ本数」に必要となる1706本に加えて、「(b) 陽圧化切替え時に必要な空気ポンペ本数」に必要となる86本を考慮し、合計で1792本以上確保する設計とする。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）（空気ポンペ）換気設備仕様を第4表に示す。</p> <p>第4表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所）（空気ポンペ）換気設備仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備名称</th> <th>数量</th> <th>仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陽圧化装置（空気ポンペ）</td> <td>1792本以上</td> <td>容量 : 約47L/本 充填圧力 : 約15MPa</td> </tr> </tbody> </table>	設備名称	数量	仕様	陽圧化装置（空気ポンペ）	1792本以上	容量 : 約47L/本 充填圧力 : 約15MPa		②(K5TSC設計進捗)
設備名称	数量	仕様									
陽圧化装置（空気ポンペ）	1792本以上	容量 : 約47L/本 充填圧力 : 約15MPa									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
219	添付2-3	1.18-98	<p>(a) ブルーム通過中に必要となるポンペ本数</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)を10時間陽圧化する必要最低限のポンペ本数は、陽圧化装置(空気ポンペ)運用時の必要換気量である938m³/hに対するポンペ供給可能空気量5.50m³/本から下記のとおり1706本となる。なお、現場に設置するポンペ本数については、待機場所に対する陽圧化試験を実施し必要ポンペ容量が10時間陽圧化維持するのに十分であることの確認を実施し、余裕分のポンペ容量については現場運用を考慮し別途決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンペ初期充填圧力 : 14.7MPa (at 35℃) ・ポンペ内容積 : 46.7L ・圧力調整弁最低制御圧力 : 0.89MPa ・ポンペ供給可能空気量 : 5.50m³/本 (at -4℃) <p>以上より、必要ポンペ本数は下記のとおり1706本以上となる。 $938\text{m}^3/\text{h} \div 5.50\text{m}^3/\text{本} \times 10\text{時間} \approx 1706\text{本}$</p> <p>(b) 陽圧化切替え操作時に必要な空気ポンペ本数</p> <p>ブルーム通過後において、陽圧化装置(空気ポンペ)による給気から可搬型陽圧化装置による給気に切り替える。切替え操作を行っている間陽圧化装置(空気ポンペ)の給気と可搬型陽圧化空調機の給気を並行して行うことにより、陽圧化を維持した状態で切替え操作が可能な設計とする。</p> <p>陽圧化切替え操作時に必要な空気ポンペ本数は、(a)ブルーム通過中に必要となるポンペ本数の計算式を用い、以下のとおり86本以上を確保する設計とする。 $938\text{m}^3/\text{h} \div 5.50\text{m}^3/\text{本} \times 30\text{分} \approx 86\text{本}$</p> <p style="text-align: center;">以上</p>		②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

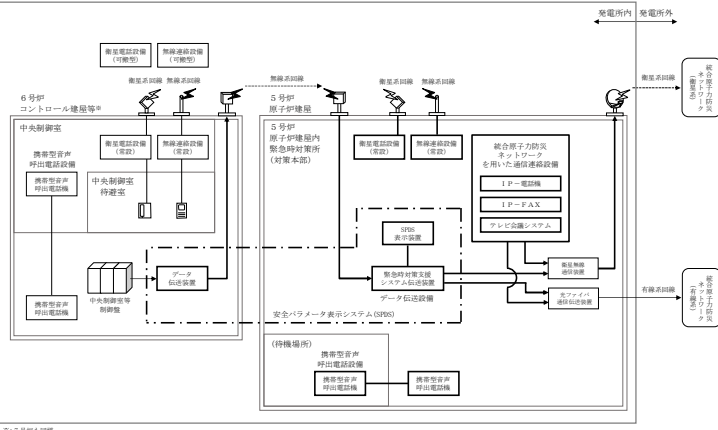
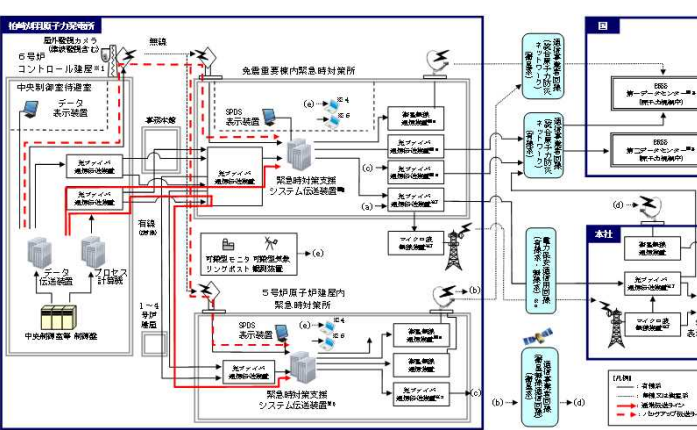
【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
220	添付3-1	1.18-99	<p>必要な情報を把握するための手順等の説明について</p> <p>添付3-1 SPDS表示装置にて確認できるパラメータについて 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、6号及び7号炉のコントロール建屋に設置するデータ伝送装置からデータを収集し、SPDS表示装置にて確認できる設計とする。 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置に入力されるパラメータ(SPDSパラメータ)は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所において、データを確認することができる。 通常データ伝送ラインである有線系回線が使用できない場合、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、主なERSS伝送パラメータ※をバックアップ伝送ラインである無線系回線により6号及び7号炉のコントロール建屋に設置するデータ伝送装置からデータを収集し、SPDS表示装置にて確認できる設計とする。 安全パラメータ表示システム(SPDS)等のデータ伝送の概要を第1図に示す。</p>	<p>SPDS表示装置にて確認できるパラメータについて</p> <p>通常、免震重要棟内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、6号炉及び7号炉のコントロール建屋に設置するプロセス計算機からデータを収集し、SPDS表示装置にて確認できる設計とする。また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、6号炉及び7号炉のコントロール建屋に設置するデータ伝送装置からデータを収集し、SPDS表示装置にて確認できる設計とする。 免震重要棟及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置に入力されるパラメータ(SPDSパラメータ)は、各緊急時対策所において、データを確認(主要なバルブの開閉表示も確認可能である)することができるとともに、国の緊急時対策支援システム(ERSS)へ伝送できる設計とする。 また、国の緊急時対策支援システム(ERSS)への伝送については、免震重要棟内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置の両方から同じパラメータを伝送する設計とする。 通常データ伝送ラインが使用できない場合、免震重要棟及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、主なERSS伝送パラメータ※をバックアップ伝送ラインにより6号炉及び7号炉のコントロール建屋に設置するデータ伝送装置からデータを収集し、SPDS表示装置にて確認できる設計とする。</p>	<p>②(K5TSC設計進捗、免震重要棟の自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
221	添付3-1	1.18-100	 <p>第1図 安全パラメータ表示システム(SPDS)等のデータ伝送の概要</p>	 <p>図1 必要な情報を把握できる設備(SPDS)のデータ伝送の概要</p>	<p>②(K5TSC設計進捗、免震重要棟の自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
222	添付3-1	1.18-101	<p>第1表 SPDS表示装置で確認できるパラメータ 6号炉(1/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ISIS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>A P R M 平均値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (D)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (A) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (B) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (C) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (D) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (E) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (F) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (G) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (H) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (J) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (L) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (A) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (B) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (C) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (D) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (E) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (F) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (G) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (H) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (J) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (L) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (広帯域) (B V)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (広帯域) P H V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ISIS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		A P R M 平均値	○	○	○		A P R M (A)	○	—	○		A P R M (B)	○	—	○		A P R M (C)	○	—	○		A P R M (D)	○	—	○		S R N M (A) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (B) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (C) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (D) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (E) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (F) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (G) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (H) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (J) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (L) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (A) 針数率高	○	○	○		S R N M (B) 針数率高	○	○	○		S R N M (C) 針数率高	○	○	○		S R N M (D) 針数率高	○	○	○		S R N M (E) 針数率高	○	○	○		S R N M (F) 針数率高	○	○	○		S R N M (G) 針数率高	○	○	○		S R N M (H) 針数率高	○	○	○		S R N M (J) 針数率高	○	○	○		S R N M (L) 針数率高	○	○	○		原子炉圧力 (広帯域) (B V)	○	○	○		原子炉圧力 (A)	○	—	○		原子炉圧力 (B)	○	—	○		原子炉圧力 (C)	○	—	○		原子炉圧力 (S A)	○	—	○		原子炉水位 (広帯域) P H V	○	○	○	<p>表1 SPDS表示装置で確認できるパラメータ 6号炉(1/9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ISIS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>A P R M 平均値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>A P R M (D)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (A) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (B) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (C) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (D) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (E) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (F) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (G) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (H) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (J) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (L) 別数料数率出力</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (A) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (B) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (C) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (D) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (E) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (F) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (G) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (H) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (J) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R N M (L) 針数率高</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (広帯域) (B V)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (広帯域) P H V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (広帯域) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (広帯域) (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (広帯域) (F)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (燃料) P H V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (燃料) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (燃料) (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (S A) (ブロー)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (S A) (ブロー)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>炉内温度 P H V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>過し安全弁 開</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ISIS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		A P R M 平均値	○	○	○		A P R M (A)	○	—	○		A P R M (B)	○	—	○		A P R M (C)	○	—	○		A P R M (D)	○	—	○		S R N M (A) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (B) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (C) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (D) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (E) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (F) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (G) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (H) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (J) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (L) 別数料数率出力	○	○	○		S R N M (A) 針数率高	○	○	○		S R N M (B) 針数率高	○	○	○		S R N M (C) 針数率高	○	○	○		S R N M (D) 針数率高	○	○	○		S R N M (E) 針数率高	○	○	○		S R N M (F) 針数率高	○	○	○		S R N M (G) 針数率高	○	○	○		S R N M (H) 針数率高	○	○	○		S R N M (J) 針数率高	○	○	○		S R N M (L) 針数率高	○	○	○		原子炉圧力 (広帯域) (B V)	○	○	○		原子炉圧力 (A)	○	—	○		原子炉圧力 (B)	○	—	○		原子炉圧力 (C)	○	—	○		原子炉圧力 (S A)	○	—	○		原子炉水位 (広帯域) P H V	○	○	○		原子炉水位 (広帯域) (A)	○	—	○		原子炉水位 (広帯域) (C)	○	—	○		原子炉水位 (広帯域) (F)	○	—	○		原子炉水位 (燃料) P H V	○	○	○		原子炉水位 (燃料) (A)	○	—	○		原子炉水位 (燃料) (B)	○	—	○		原子炉水位 (S A) (ブロー)	○	—	○		原子炉水位 (S A) (ブロー)	○	—	○		炉内温度 P H V	○	○	○		過し安全弁 開	○	○	○	②(K5TSC設計進捗)
			目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ISIS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	A P R M 平均値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (D)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (A) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (B) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (C) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (D) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (E) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (F) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (G) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (H) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (J) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (L) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (A) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (B) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (C) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (D) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (E) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (F) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (G) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (H) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (J) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (L) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (広帯域) (B V)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (広帯域) P H V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ISIS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M 平均値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	A P R M (D)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (A) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (B) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (C) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (D) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (E) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (F) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (G) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (H) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (J) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (L) 別数料数率出力	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (A) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (B) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (C) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (D) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (E) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (F) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (G) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (H) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (J) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	S R N M (L) 針数率高	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (広帯域) (B V)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉圧力 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (広帯域) P H V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (広帯域) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (広帯域) (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (広帯域) (F)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (燃料) P H V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (燃料) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (燃料) (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (S A) (ブロー)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	原子炉水位 (S A) (ブロー)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	炉内温度 P H V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	過し安全弁 開	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																					
223	添付3-1	1.18-102	<p style="text-align: center;">6号炉(2/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDS パラメータ</th> <th>ISIS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="15">炉心冷却の仕様</td><td>原子炉水位 (広帯域) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (広帯域) (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (広帯域) (F)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (燃料罐) P B V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (燃料罐) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (燃料罐) (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (S A) (ワイド)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位 (S A) (ナロー)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>炉水温度 P B V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>送し安全弁 開</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (A) 温度 (監視)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (A) 温度 (操作)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (A) 温度 (熱分配)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (B) 温度 (監視)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (B) 温度 (操作)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉水位制御機構 (B) 温度 (熱分配)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ISIS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	炉心冷却の仕様	原子炉水位 (広帯域) (A)	○	—	○	原子炉水位 (広帯域) (C)	○	—	○	原子炉水位 (広帯域) (F)	○	—	○	原子炉水位 (燃料罐) P B V	○	○	○	原子炉水位 (燃料罐) (A)	○	—	○	原子炉水位 (燃料罐) (B)	○	—	○	原子炉水位 (S A) (ワイド)	○	—	○	原子炉水位 (S A) (ナロー)	○	—	○	炉水温度 P B V	○	○	○	送し安全弁 開	○	○	○	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (監視)	○	—	○	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (操作)	○	—	○	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (熱分配)	○	—	○	原子炉水位制御機構 (B) 温度 (監視)	○	—	○	原子炉水位制御機構 (B) 温度 (操作)	○	—	○	原子炉水位制御機構 (B) 温度 (熱分配)	○	—	○	<p style="text-align: center;">6号炉(2/9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDS パラメータ</th> <th>ISIS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="30">炉心冷却の仕様</td><td>H P C F (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>H P C F (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>R C 1 C 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>減圧代替水系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>R H B (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>R H B (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>R H B (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (A) 出口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (B) 出口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (C) 出口温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉補給冷却水系 (A) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉補給冷却水系 (B) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉補給冷却水系 (C) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td rowspan="15">機器</td><td>6. 9 k V 6 A 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 A 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 B 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 B 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 S A 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 S A 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 S B 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 S B 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 C 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 D 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 9 k V 6 E 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>D/G 6 A 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>D/G 6 B 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>D/G 6 C 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>(原子炉圧力容器下翼上側温度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>深水域給水系統流量 (原子炉圧力容器)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>(R P V 注水流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>深水域貯留水位 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ISIS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	炉心冷却の仕様	H P C F (B) 系統流量	○	○	○	H P C F (C) 系統流量	○	○	○	R C 1 C 系統流量	○	○	○	減圧代替水系統流量	○	—	○	R H B (A) 系統流量	○	○	○	R H B (B) 系統流量	○	○	○	R H B (C) 系統流量	○	○	○	滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (A) 出口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (B) 出口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (C) 出口温度	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○	滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○	原子炉補給冷却水系 (A) 系統流量	○	—	○	原子炉補給冷却水系 (B) 系統流量	○	—	○	原子炉補給冷却水系 (C) 系統流量	○	—	○	機器	6. 9 k V 6 A 1 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 A 2 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 B 1 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 B 2 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 S A 1 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 S A 2 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 S B 1 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 S B 2 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 C 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 D 母線電圧	○	○	○	6. 9 k V 6 E 母線電圧	○	○	○	D/G 6 A 遮断器 投入	○	○	○	D/G 6 B 遮断器 投入	○	○	○	D/G 6 C 遮断器 投入	○	○	○	原子炉圧力容器温度	○	—	○	(原子炉圧力容器下翼上側温度)	○	—	○	深水域給水系統流量 (原子炉圧力容器)	○	—	○	(R P V 注水流量)	○	—	○	深水域貯留水位 (S A)	○	—	○	②(K5TSC設計進捗)
目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ISIS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																						
炉心冷却の仕様	原子炉水位 (広帯域) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (広帯域) (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (広帯域) (F)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (燃料罐) P B V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (燃料罐) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (燃料罐) (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (S A) (ワイド)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位 (S A) (ナロー)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	炉水温度 P B V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	送し安全弁 開	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (監視)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (操作)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位制御機構 (A) 温度 (熱分配)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位制御機構 (B) 温度 (監視)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉水位制御機構 (B) 温度 (操作)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
原子炉水位制御機構 (B) 温度 (熱分配)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																							
目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ISIS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																						
炉心冷却の仕様	H P C F (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	H P C F (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	R C 1 C 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	減圧代替水系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	R H B (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	R H B (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	R H B (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (A) 出口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (B) 出口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (C) 出口温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	滞留熱除去系熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉補給冷却水系 (A) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉補給冷却水系 (B) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	原子炉補給冷却水系 (C) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
	機器	6. 9 k V 6 A 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 A 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 B 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 B 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 S A 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 S A 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 S B 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 S B 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 C 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 D 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
		6. 9 k V 6 E 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																					
D/G 6 A 遮断器 投入		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
D/G 6 B 遮断器 投入		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
D/G 6 C 遮断器 投入		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																						
原子炉圧力容器温度		○	—	○																																																																																																																																																																																																																																						
(原子炉圧力容器下翼上側温度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																							
深水域給水系統流量 (原子炉圧力容器)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																							
(R P V 注水流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																							
深水域貯留水位 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																							

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																			
224	添付3-1	1.18-103	<p style="text-align: center;">6号炉(3/10) -</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SIPS パラメータ</th> <th>DBS 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>HPCF (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>HPCF (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉心冷却水 (B) ポンプ吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉心冷却水 (C) ポンプ吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R C I C 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子代替冷却水系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H H (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H H (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H H (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (A) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (B) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (C) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (A) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (B) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (C) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (A) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (B) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系統交換部 (C) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉補機冷却水 (A) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉補機冷却水 (B) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉補機冷却水 (C) 系統流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 A 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 A 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 B 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 B 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 S A 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 S A 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 S B 1 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 S B 2 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 C 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 D 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>6. 9 kV 6 E 母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>D/G 6 A 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>D/G 6 B 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>D/G 6 C 遮断器 投入</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源子炉圧力制御設定 (源子炉圧力制御下層上経高度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源水補給水系統量 (R H H A 源代替水系統量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>源水貯蔵槽水位 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SIPS パラメータ	DBS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		HPCF (B) 系統流量	○	○	○		HPCF (C) 系統流量	○	○	○		源子炉心冷却水 (B) ポンプ吐出圧力	○	—	○		源子炉心冷却水 (C) ポンプ吐出圧力	○	—	○		R C I C 系統流量	○	○	○		源子代替冷却水系統流量	○	—	○		R H H (A) 系統流量	○	○	○		R H H (B) 系統流量	○	○	○		R H H (C) 系統流量	○	○	○		滞留熱除去系統交換部 (A) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (B) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (C) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (A) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (B) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (C) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (A) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (B) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去系統交換部 (C) 入口冷却水流量	○	—	○		源子炉補機冷却水 (A) 系統流量	○	—	○		源子炉補機冷却水 (B) 系統流量	○	—	○		源子炉補機冷却水 (C) 系統流量	○	—	○		6. 9 kV 6 A 1 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 A 2 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 B 1 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 B 2 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 S A 1 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 S A 2 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 S B 1 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 S B 2 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 C 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 D 母線電圧	○	○	○		6. 9 kV 6 E 母線電圧	○	○	○		D/G 6 A 遮断器 投入	○	○	○		D/G 6 B 遮断器 投入	○	○	○		D/G 6 C 遮断器 投入	○	○	○		源子炉圧力制御設定 (源子炉圧力制御下層上経高度)	○	—	○		源水補給水系統量 (R H H A 源代替水系統量)	○	—	○		源水貯蔵槽水位 (S A)	○	—	○		②(K5TSC設計進捗)
目的	対象パラメータ	SIPS パラメータ	DBS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																				
	HPCF (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	HPCF (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉心冷却水 (B) ポンプ吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉心冷却水 (C) ポンプ吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	R C I C 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	源子代替冷却水系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	R H H (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	R H H (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	R H H (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (A) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (B) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (C) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (A) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (B) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (C) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (A) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (B) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	滞留熱除去系統交換部 (C) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉補機冷却水 (A) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉補機冷却水 (B) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉補機冷却水 (C) 系統流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 A 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 A 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 B 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 B 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 S A 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 S A 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 S B 1 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 S B 2 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 C 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 D 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	6. 9 kV 6 E 母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	D/G 6 A 遮断器 投入	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	D/G 6 B 遮断器 投入	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	D/G 6 C 遮断器 投入	○	○	○																																																																																																																																																																																																				
	源子炉圧力制御設定 (源子炉圧力制御下層上経高度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源水補給水系統量 (R H H A 源代替水系統量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																				
	源水貯蔵槽水位 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																				

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
225	添付3-1	1.18-104	6号炉(4/10)	6号炉(3/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDR パラメータ</th> <th>ERSS伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>CAMS (A) D/W放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) D/W放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) S/C放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) S/C放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル圧力 (広帯域) (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内圧力 (D/W)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッションチェンバ圧力 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内圧力 (S/C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R P Vベロシール試験辺速度 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッションプル水位 - B V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水位</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S / T水温度 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内の状態確認</td><td>CAMS (A) 水素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) 水素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) 酸素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) 酸素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) サンプル切替 (D/W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) サンプル切替 (D/W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水流量 (R H R - B系代替給水流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDR パラメータ	ERSS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		CAMS (A) D/W放射能	○	○	○		CAMS (B) D/W放射能	○	○	○		CAMS (A) S/C放射能	○	○	○		CAMS (B) S/C放射能	○	○	○		ドライケル圧力 (広帯域) (最大)	○	○	○		格納容器内圧力 (D/W)	○	—	○		サブプレッションチェンバ圧力 (最大)	○	○	○		格納容器内圧力 (S/C)	○	—	○		R P Vベロシール試験辺速度 (最大)	○	○	○		サブプレッションプル水位 - B V	○	○	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水位	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度	○	—	○		S / T水温度 (最大)	○	○	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○	格納容器内の状態確認	CAMS (A) 水素濃度	○	○	○		CAMS (B) 水素濃度	○	○	○		格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)	○	—	○		格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)	○	—	○		CAMS (A) 酸素濃度	○	○	○		CAMS (B) 酸素濃度	○	○	○		CAMS (A) サンプル切替 (D/W)	○	○	○		CAMS (B) サンプル切替 (D/W)	○	○	○		R H R (A) 系統流量	○	○	○		R H R (B) 系統流量	○	○	○		R H R (C) 系統流量	○	○	○		R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外	○	○	○		R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外	○	○	○		残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○		残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)	○	—	○		ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)	○	—	○		復水補給水流量 (R H R - B系代替給水流量)	○	—	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDR パラメータ</th> <th>ERSS伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>CAMS (A) D/W放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) D/W放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) S/C放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) S/C放射能</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル圧力 (広帯域) (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内圧力 (D/W)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ圧力 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内圧力 (S/C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R P Vベロシール試験辺速度 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッションプル水位 - B V</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水位</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S / T水温度 (最大)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内の状態確認</td><td>CAMS (A) 水素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) 水素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) 酸素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) 酸素濃度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) サンプル切替 (D/W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) サンプル切替 (D/W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水流量 (原予イ格納容器) (ドライケル注水流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDR パラメータ	ERSS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		CAMS (A) D/W放射能	○	○	○		CAMS (B) D/W放射能	○	○	○		CAMS (A) S/C放射能	○	○	○		CAMS (B) S/C放射能	○	○	○		ドライケル圧力 (広帯域) (最大)	○	○	○		格納容器内圧力 (D/W)	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ圧力 (最大)	○	○	○		格納容器内圧力 (S/C)	○	—	○		R P Vベロシール試験辺速度 (最大)	○	○	○		サブプレッションプル水位 - B V	○	○	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水位	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度	○	—	○		S / T水温度 (最大)	○	○	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○		サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○	格納容器内の状態確認	CAMS (A) 水素濃度	○	○	○		CAMS (B) 水素濃度	○	○	○		格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)	○	—	○		格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)	○	—	○		CAMS (A) 酸素濃度	○	○	○		CAMS (B) 酸素濃度	○	○	○		CAMS (A) サンプル切替 (D/W)	○	○	○		CAMS (B) サンプル切替 (D/W)	○	○	○		R H R (A) 系統流量	○	○	○		R H R (B) 系統流量	○	○	○		R H R (C) 系統流量	○	○	○		R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外	○	○	○		R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外	○	○	○		残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○		残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)	○	—	○		ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)	○	—	○	
目的	対象パラメータ	SPDR パラメータ	ERSS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) D/W放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) D/W放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) S/C放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) S/C放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル圧力 (広帯域) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内圧力 (D/W)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッションチェンバ圧力 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内圧力 (S/C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R P Vベロシール試験辺速度 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッションプル水位 - B V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水位	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	S / T水温度 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
格納容器内の状態確認	CAMS (A) 水素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) 水素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) 酸素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) 酸素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) サンプル切替 (D/W)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) サンプル切替 (D/W)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	復水補給水流量 (R H R - B系代替給水流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
目的	対象パラメータ	SPDR パラメータ	ERSS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) D/W放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) D/W放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) S/C放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) S/C放射能	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル圧力 (広帯域) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内圧力 (D/W)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ圧力 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内圧力 (S/C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R P Vベロシール試験辺速度 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッションプル水位 - B V	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水位	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ乾燥速度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	S / T水温度 (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	サブプレッショシ・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
格納容器内の状態確認	CAMS (A) 水素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) 水素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内水素濃度 (SA) (D/W)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	格納容器内水素濃度 (SA) (S/C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) 酸素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) 酸素濃度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (A) サンプル切替 (D/W)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	CAMS (B) サンプル切替 (D/W)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R格納容器冷卻ライン隔離弁B 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	R H R格納容器冷卻ライン隔離弁C 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	残留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル帯戻気風度(上段ドライケルフランジ部帯戻気風度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	ドライケル帯戻気風度(下段ドライケルリターンライン上段帯戻気風度)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	復水補給水流量 (原予イ格納容器) (ドライケル注水流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																
226	添付3-1	1.18-105	6号炉(5/10)	6号炉(4/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFD5 パラメータ</th> <th>K5TSC 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">格納容器内の状態監視</td> <td>復水移送ポンプ(A) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水移送ポンプ(B) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水移送ポンプ(C) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水補給水流量(代管循環弁前)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">放射能隔離の状態監視</td> <td>排気筒排気放射線 (1-C) (最大)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>PC1S隔離 内部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>PC1S隔離 外部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>MS1V (内部) 閉</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">標準の標準値</td> <td>SGTS (A) 作動 (1高)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS (B) 作動 (1高)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス乾燥器 (B) 排気流量</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離外気源圧 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離外気源圧 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離外気源圧 (C)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離外気源圧 (D)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6号機 遠水モニタ (指差タイプ)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ バックアップ伝送ラインを越えず、SFD5 表示装置にて確認できる。</p>	目的		対象パラメータ	SFD5 パラメータ	K5TSC 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	格納容器内の状態監視	復水移送ポンプ(A) 吐出圧力	○	—	○	復水移送ポンプ(B) 吐出圧力	○	—	○	復水移送ポンプ(C) 吐出圧力	○	—	○	復水補給水流量(代管循環弁前)	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	放射能隔離の状態監視	排気筒排気放射線 (1-C) (最大)	○	○	○	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)	○	○	○	PC1S隔離 内部	○	○	○	PC1S隔離 外部	○	○	○	MS1V (内部) 閉	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外	○	○	○	標準の標準値	SGTS (A) 作動 (1高)	○	○	○	SGTS (B) 作動 (1高)	○	○	○	SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)	○	○	○	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○	非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量	○	—	○	非常用ガス乾燥器 (B) 排気流量	○	—	○	原子炉隔離外気源圧 (A)	○	—	○	原子炉隔離外気源圧 (B)	○	—	○	原子炉隔離外気源圧 (C)	○	—	○	原子炉隔離外気源圧 (D)	○	—	○	6号機 遠水モニタ (指差タイプ)	○	○	—*	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFD5 パラメータ</th> <th>K5TSC 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">格納容器内の状態監視</td> <td>復水移送ポンプ(A) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水移送ポンプ(B) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水移送ポンプ(C) 吐出圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>復水補給水流量(代管循環弁前)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">放射能隔離の状態監視</td> <td>排気筒排気放射線 (1-C) (最大)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>PC1S隔離 内部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>PC1S隔離 外部</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>MS1V (内部) 閉</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">標準の標準値</td> <td>SGTS (A) 作動 (1高)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS (B) 作動 (1高)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非常用ガス乾燥器 (B) 排気流量</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ バックアップ伝送ラインを越えず、SFD5 表示装置にて確認できる。</p>	目的	対象パラメータ	SFD5 パラメータ	K5TSC 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	格納容器内の状態監視	復水移送ポンプ(A) 吐出圧力	○	—	○	復水移送ポンプ(B) 吐出圧力	○	—	○	復水移送ポンプ(C) 吐出圧力	○	—	○	復水補給水流量(代管循環弁前)	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○	放射能隔離の状態監視	排気筒排気放射線 (1-C) (最大)	○	○	○	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)	○	○	○	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)	○	○	○	PC1S隔離 内部	○	○	○	PC1S隔離 外部	○	○	○	MS1V (内部) 閉	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外	○	○	○	主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外	○	○	○	標準の標準値	SGTS (A) 作動 (1高)	○	○	○	SGTS (B) 作動 (1高)	○	○	○	SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)	○	○	○	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○	非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量	○	—	○
目的	対象パラメータ	SFD5 パラメータ	K5TSC 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																	
格納容器内の状態監視	復水移送ポンプ(A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水移送ポンプ(B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水移送ポンプ(C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水補給水流量(代管循環弁前)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
放射能隔離の状態監視	排気筒排気放射線 (1-C) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	PC1S隔離 内部	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	PC1S隔離 外部	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	MS1V (内部) 閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																		
標準の標準値	SGTS (A) 作動 (1高)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS (B) 作動 (1高)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	非常用ガス乾燥器 (B) 排気流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	原子炉隔離外気源圧 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	原子炉隔離外気源圧 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	原子炉隔離外気源圧 (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	原子炉隔離外気源圧 (D)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	6号機 遠水モニタ (指差タイプ)	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																	
	目的	対象パラメータ	SFD5 パラメータ	K5TSC 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																
格納容器内の状態監視	復水移送ポンプ(A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水移送ポンプ(B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水移送ポンプ(C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	復水補給水流量(代管循環弁前)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	格納容器下部水位(4-デスタル水位差 (2a))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
放射能隔離の状態監視	排気筒排気放射線 (1-C) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	排気筒排気 (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (1)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (2)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (3)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気管放射線 (スクラム) 区分 (4)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	PC1S隔離 内部	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	PC1S隔離 外部	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	MS1V (内部) 閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (A) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (B) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	主蒸気内側隔離弁 (C) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
主蒸気内側隔離弁 (D) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																		
標準の標準値	SGTS (A) 作動 (1高)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS (B) 作動 (1高)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス放射線 (1-C) (最大)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	SGTS排ガス (S-C1N) 放射線 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	非常用ガス乾燥器 (A) 排気流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	
	非常用ガス乾燥器 (B) 排気流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
227	添付3-1	1.18-106	6号炉(6/10)	6号炉(5/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 1 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 2 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 3 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 4 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 5 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 6 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 7 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 8 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 9 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 1 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 2 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 3 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 4 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 5 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 6 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 7 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 8 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 9 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向8.5m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向16.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速8.5m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速16.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>大気安定度</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 1 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 2 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 3 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 4 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 5 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 6 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 7 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 8 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 9 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 1 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 2 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 3 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 4 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 5 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 6 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">* バックアップ伝送ラインを経由せず、SPDS表示装置にて確認できる。</p>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 7 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 8 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 9 低線異常	○	○	—*		風向2.0m	○	○	—*		風向8.5m	○	○	—*		風向16.0m	○	○	—*		風速2.0m	○	○	—*		風速8.5m	○	○	—*		風速16.0m	○	○	—*		大気安定度	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 1 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 2 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 3 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 4 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 5 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 6 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 7 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 8 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 9 高線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 1 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 2 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 3 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 4 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 5 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 6 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 7 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 8 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキリングボストNo. 9 低線異常</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向8.5m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風向16.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速8.5m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>風速16.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>大気安定度</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 1 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 2 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 3 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 4 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 5 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 6 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 7 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 8 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 9 高線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 1 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 2 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 3 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 4 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 5 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>可動型セキリングボストNo. 6 低線異常</td><td>○</td><td>—</td><td>—*</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">* バックアップ伝送ラインを経由せず、SPDS表示装置にて確認できる。</p>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 7 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 8 低線異常	○	○	—*		セキリングボストNo. 9 低線異常	○	○	—*		風向2.0m	○	○	—*		風向8.5m	○	○	—*		風向16.0m	○	○	—*		風速2.0m	○	○	—*		風速8.5m	○	○	—*		風速16.0m	○	○	—*		大気安定度	○	○	—*		可動型セキリングボストNo. 1 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 2 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 3 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 4 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 5 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 6 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 7 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 8 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 9 高線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 1 低線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 2 低線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 3 低線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 4 低線異常	○	—	—*		可動型セキリングボストNo. 5 低線異常	○	—	—*	
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 7 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 8 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 9 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向2.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向8.5m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向16.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速2.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速8.5m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速16.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	大気安定度	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 1 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 2 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 3 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 4 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 5 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 6 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 7 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 8 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 9 高線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 1 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 2 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 3 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 4 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 5 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 6 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 7 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 8 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	セキリングボストNo. 9 低線異常	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向2.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向8.5m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風向16.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速2.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速8.5m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	風速16.0m	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	大気安定度	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 1 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 2 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 3 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 4 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 5 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 6 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 7 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 8 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 9 高線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 1 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 2 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 3 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 4 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 5 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	可動型セキリングボストNo. 6 低線異常	○	—	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																													
228	添付3-1	1.18-107	6号炉(7/10)	6号炉(6/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																													
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ESBS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">標準の情報線 類</td> <td>可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>風向(可搬型)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>風速(可搬型)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>大気安定度(可搬型)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等</td> <td>ADS A 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ADS B 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RCC 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(A) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(A) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(B) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(C) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全制御棒全挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>減縮水流量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ バックアップ伝送ラインを bypass せず、SPDS 表示装置にて確認できる。</p>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ESBS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	標準の情報線 類	可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率	○	○	—*	可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率	○	○	—*	可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率	○	○	—*	風向(可搬型)	○	○	—*	風速(可搬型)	○	○	—*	大気安定度(可搬型)	○	○	—*	非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等	ADS A 作動	○	○	○	ADS B 作動	○	○	○	RCC 作動	○	○	○	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○	RHR投入弁(A) 全開以外	○	○	○	RHR投入弁(B) 全開以外	○	○	○	RHR投入弁(C) 全開以外	○	○	○	全制御棒全挿入	○	○	○	減縮水流量	○	○	○	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="6">標準の情報線 類</td> <td>可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>風向(可搬型)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>風速(可搬型)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td>大気安定度(可搬型)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—*</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等</td> <td>ADS A 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ADS B 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RCC 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(A) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(A) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(B) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(C) 全開以外</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全制御棒全挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>減縮水流量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ バックアップ伝送ラインを bypass せず、SPDS 表示装置にて確認できる。</p>	標準の情報線 類	可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率	○	—	—*	可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率	○	—	—*	可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率	○	—	—*	風向(可搬型)	○	—	—*	風速(可搬型)	○	—	—*	大気安定度(可搬型)	○	—	—*	非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等	ADS A 作動	○	○	○	ADS B 作動	○	○	○	RCC 作動	○	○	○	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○	RHR投入弁(A) 全開以外	○	○	○	RHR投入弁(B) 全開以外	○	○	○	RHR投入弁(C) 全開以外	○	○	○	全制御棒全挿入	○	○	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ESBS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																														
標準の情報線 類	可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率	○	○	—*																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率	○	○	—*																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率	○	○	—*																																																																																																																																																														
	風向(可搬型)	○	○	—*																																																																																																																																																														
	風速(可搬型)	○	○	—*																																																																																																																																																														
	大気安定度(可搬型)	○	○	—*																																																																																																																																																														
非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等	ADS A 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	ADS B 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RCC 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHR投入弁(A) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHR投入弁(B) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHR投入弁(C) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																														
	全制御棒全挿入	○	○	○																																																																																																																																																														
	減縮水流量	○	○	○																																																																																																																																																														
	標準の情報線 類	可搬型モニタリングポストNo. 7 記録量率	○	—	—*																																																																																																																																																													
可搬型モニタリングポストNo. 8 記録量率		○	—	—*																																																																																																																																																														
可搬型モニタリングポストNo. 9 記録量率		○	—	—*																																																																																																																																																														
風向(可搬型)		○	—	—*																																																																																																																																																														
風速(可搬型)		○	—	—*																																																																																																																																																														
大気安定度(可搬型)		○	—	—*																																																																																																																																																														
非常用炉心冷却 系(ECCS) の状態等	ADS A 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	ADS B 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RCC 作動	○	○	○																																																																																																																																																														
	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHR投入弁(A) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																														
	RHR投入弁(B) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																														
RHR投入弁(C) 全開以外	○	○	○																																																																																																																																																															
全制御棒全挿入	○	○	○																																																																																																																																																															
減縮水流量	○	○	○																																																																																																																																																															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																
229	添付3-1	1.18-108	6号炉(8/10)	6号炉(7/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">使用後燃料プールの状態確認</td> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	○	-	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">使用後燃料プールの状態確認</td> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																	
使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	○	-	○																																																																																																	
	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																
	使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プールエリア 常設気風速)	○	-	○																																																																																																
		使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+6000mm))	○	-	○																																																																																																
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+5000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+4000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+3000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+2000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層+1000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール水位・濃度 (S A) (使用後燃料貯蔵プール濃度 (燃料ラック上層 -1000mm))		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)		○	-	○																																																																																																	
使用後燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)		○	-	○																																																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																				
230	添付3-1	1.18-109	6号炉(9/10)	6号炉(8/9)	⑤																																																																																																																																				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDIS パラメータ</th> <th>ESDS伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">使用液燃料プールの状態確認</td> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +7155mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -4540mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ESDS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用液燃料プールの状態確認	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +7155mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -4540mm))	○	-	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDIS パラメータ</th> <th>ESDS伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">使用液燃料プールの状態確認</td> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プールエリア警備化深度)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +2000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (プールの底部分))</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ESDS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用液燃料プールの状態確認	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プールエリア警備化深度)	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +2000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))	○	-	○
目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ESDS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																					
使用液燃料プールの状態確認	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +7155mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -4540mm))	○	-	○																																																																																																																																						
目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ESDS伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																					
使用液燃料プールの状態確認	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プールエリア警備化深度)	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6735mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6500mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +6000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +4000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +3000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +2000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 +1000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層))	○	-	○																																																																																																																																					
	使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -1000mm))	○	-	○																																																																																																																																					
使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上層 -3000mm))	○	-	○																																																																																																																																						
使用液燃料貯蔵プール水位、深度 (S A広域) (使用液燃料貯蔵プール深度 (プールの底部分))	○	-	○																																																																																																																																						

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																						
231	添付3-1	1.18-110	6号炉(10/10)	6号炉(9/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>EISS 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能</td> <td>フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置入口圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置スクラバ水pH</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能</td> <td>原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定C)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	EISS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○	フィルタ設置入口圧力	○	—	○	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○	フィルタ設置スクラバ水pH	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○	水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定C)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)	○	—	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>EISS 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能</td> <td>フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置入口圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置スクラバ水pH</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="13">水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能</td> <td>原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	EISS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○	フィルタ設置入口圧力	○	—	○	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○	フィルタ設置スクラバ水pH	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○	水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)	○	—	○	原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)	○	—	○	熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)	○	—	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	EISS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																							
水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置入口圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置スクラバ水pH	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																						
原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定C)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	EISS 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																						
水素爆発による 格納容器の破壊 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置入口圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置スクラバ水pH	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																							
	水素爆発による 原子炉隔離の操 業防止機能	原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																						
原子炉隔離水深測定 (R/Bオペアフロ水深測定B)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル専用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (上部ドライウェル機器搬入用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (シブレーション・チェンバ/出入口)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル専用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
原子炉隔離水深測定 (下部ドライウェル機器搬入用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							
熱的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南面F A 比空気口風度)		○	—	○																																																																																																																																																																																																							

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
232	添付3-1	1.18-111	<p>第2表 SPDS表示装置で確認できるパラメータ 7号炉(1/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>APRM (平均値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (D)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (A) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (B) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (C) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (D) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (E) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (F) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (G) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (H) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (J) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (L) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM A 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM B 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM C 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM D 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM E 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM F 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM G 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM H 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM J 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM L 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		APRM (平均値)	○	○	○		APRM (A)	○	—	○		APRM (B)	○	—	○		APRM (C)	○	—	○		APRM (D)	○	—	○		SRNM (A) 計数率	○	○	○		SRNM (B) 計数率	○	○	○		SRNM (C) 計数率	○	○	○		SRNM (D) 計数率	○	○	○		SRNM (E) 計数率	○	○	○		SRNM (F) 計数率	○	○	○		SRNM (G) 計数率	○	○	○		SRNM (H) 計数率	○	○	○		SRNM (J) 計数率	○	○	○		SRNM (L) 計数率	○	○	○		SRNM A 計数率異常	○	○	○		SRNM B 計数率異常	○	○	○		SRNM C 計数率異常	○	○	○		SRNM D 計数率異常	○	○	○		SRNM E 計数率異常	○	○	○		SRNM F 計数率異常	○	○	○		SRNM G 計数率異常	○	○	○		SRNM H 計数率異常	○	○	○		SRNM J 計数率異常	○	○	○		SRNM L 計数率異常	○	○	○	<p>表2 SPDS表示装置で確認できるパラメータ 7号炉(1/9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>APRM (平均値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>APRM (D)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (A) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (B) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (C) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (D) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (E) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (F) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (G) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (H) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (I) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (J) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM (L) 計数率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM A 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM B 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM C 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM D 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM E 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM F 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM G 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM H 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM J 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRNM L 計数率異常</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (SA)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (WA) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (異常値) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (異常値) (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (異常値) (F)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (F)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (燃料室) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (燃料室) (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (SA) (ワイド)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位 (SA) (ナロー)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CUW再生熱交換器入口温度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SRV開 (CRT)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		APRM (平均値)	○	○	○		APRM (A)	○	—	○		APRM (B)	○	—	○		APRM (C)	○	—	○		APRM (D)	○	—	○		SRNM (A) 計数率	○	○	○		SRNM (B) 計数率	○	○	○		SRNM (C) 計数率	○	○	○		SRNM (D) 計数率	○	○	○		SRNM (E) 計数率	○	○	○		SRNM (F) 計数率	○	○	○		SRNM (G) 計数率	○	○	○		SRNM (H) 計数率	○	○	○		SRNM (I) 計数率	○	○	○		SRNM (J) 計数率	○	○	○		SRNM (L) 計数率	○	○	○		SRNM A 計数率異常	○	○	○		SRNM B 計数率異常	○	○	○		SRNM C 計数率異常	○	○	○		SRNM D 計数率異常	○	○	○		SRNM E 計数率異常	○	○	○		SRNM F 計数率異常	○	○	○		SRNM G 計数率異常	○	○	○		SRNM H 計数率異常	○	○	○		SRNM J 計数率異常	○	○	○		SRNM L 計数率異常	○	○	○		原子炉圧力 A	○	○	○		原子炉圧力 (A)	○	—	○		原子炉圧力 (B)	○	—	○		原子炉圧力 (C)	○	—	○		原子炉圧力 (SA)	○	—	○		原子炉水位 (WA) A	○	○	○		原子炉水位 (異常値) (A)	○	—	○		原子炉水位 (異常値) (C)	○	—	○		原子炉水位 (異常値) (F)	○	—	○		原子炉水位 (F)	○	○	○		原子炉水位 (燃料室) (A)	○	—	○		原子炉水位 (燃料室) (B)	○	—	○		原子炉水位 (SA) (ワイド)	○	—	○		原子炉水位 (SA) (ナロー)	○	—	○		CUW再生熱交換器入口温度	○	○	○		SRV開 (CRT)	○	○	○	②(K5TSC設計進捗)
			目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	APRM (平均値)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (D)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (A) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (B) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (C) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (D) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (E) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (F) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (G) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (H) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (J) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (L) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM A 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM B 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM C 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM D 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM E 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM F 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM G 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM H 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM J 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM L 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (平均値)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	APRM (D)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (A) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (B) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (C) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (D) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (E) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (F) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (G) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (H) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (I) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (J) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM (L) 計数率	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM A 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM B 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM C 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM D 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM E 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM F 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM G 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM H 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM J 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRNM L 計数率異常	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉圧力 A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉圧力 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉圧力 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉圧力 (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉圧力 (SA)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (WA) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (異常値) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (異常値) (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (異常値) (F)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (F)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (燃料室) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (燃料室) (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (SA) (ワイド)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	原子炉水位 (SA) (ナロー)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	CUW再生熱交換器入口温度	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	SRV開 (CRT)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
233	添付3-1	1.18-112	7号炉(2/10)	7号炉(2/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SIPDS パラメータ</th> <th>ERSB 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (A)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (W) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (広帯域) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (広帯域) (C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (広帯域) (F)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (F)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (燃料箱) (A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (燃料箱) (B)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (S A) (ワイヤ)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力 (S A) (フュー)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>C L W 両生熱交換器入口流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>S R V 閥 (C H T)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>H P C F (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>H P C F (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R C I C 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SIPDS パラメータ	ERSB 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		原子炉圧力 (A)	○	○	○		原子炉圧力 (A)	○	—	○		原子炉圧力 (B)	○	—	○		原子炉圧力 (C)	○	—	○		原子炉圧力 (S A)	○	—	○		原子炉圧力 (W) A	○	○	○		原子炉圧力 (広帯域) (A)	○	—	○		原子炉圧力 (広帯域) (C)	○	—	○		原子炉圧力 (広帯域) (F)	○	—	○		原子炉圧力 (F)	○	○	○		原子炉圧力 (燃料箱) (A)	○	—	○		原子炉圧力 (燃料箱) (B)	○	—	○		原子炉圧力 (S A) (ワイヤ)	○	—	○		原子炉圧力 (S A) (フュー)	○	—	○		C L W 両生熱交換器入口流量	○	○	○		S R V 閥 (C H T)	○	○	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)	○	—	○		H P C F (B) 系統流量	○	○	○		H P C F (C) 系統流量	○	○	○		原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		R C I C 系統流量	○	○	○		原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		R H R (A) 系統流量	○	○	○		R H R (B) 系統流量	○	○	○		R H R (C) 系統流量	○	○	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SIPDS パラメータ</th> <th>ERSB 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>H P C F (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>H P C F (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R C I C 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>H P C F (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>H P C F (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R C I C 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>R H R (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>原子炉圧力制御棒 (R P V) 下流上部流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>炉水補給水系統 (原子炉圧力容器)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>[R H R (A)] 注水配管流量</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>炉水貯留槽水位 (S A)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SIPDS パラメータ	ERSB 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		H P C F (B) 系統流量	○	○	○		H P C F (C) 系統流量	○	○	○		R C I C 系統流量	○	○	○		原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		R H R (A) 系統流量	○	○	○		R H R (B) 系統流量	○	○	○		R H R (C) 系統流量	○	○	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)	○	—	○		原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)	○	—	○		H P C F (B) 系統流量	○	○	○		H P C F (C) 系統流量	○	○	○		原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		R C I C 系統流量	○	○	○		原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		R H R (A) 系統流量	○	○	○		R H R (B) 系統流量	○	○	○		R H R (C) 系統流量	○	○	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○		滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○		原子炉圧力制御棒 (R P V) 下流上部流量	○	—	○		炉水補給水系統 (原子炉圧力容器)	○	—	○		[R H R (A)] 注水配管流量	○	—	○	
目的	対象パラメータ	SIPDS パラメータ	ERSB 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (W) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (広帯域) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (広帯域) (C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (広帯域) (F)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (F)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (燃料箱) (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (燃料箱) (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (S A) (ワイヤ)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力 (S A) (フュー)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	C L W 両生熱交換器入口流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	S R V 閥 (C H T)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R C I C 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
目的	対象パラメータ	SIPDS パラメータ	ERSB 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R C I C 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (監視用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (操作用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (A) 流量 (制御用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (監視用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (操作用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉水位制御棒 (B) 流量 (制御用)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	H P C F (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R C I C 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉心注水ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	R H R (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 出口流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (A) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (B) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	滞留熱除去熱交換器 (C) 入口冷却水流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	原子炉圧力制御棒 (R P V) 下流上部流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	炉水補給水系統 (原子炉圧力容器)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	[R H R (A)] 注水配管流量	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	炉水貯留槽水位 (S A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																						
234	添付3-1	1.18-113	7号炉(3/10)	7号炉(3/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSR 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="17">炉心冷却の状 態確認</td><td>原子炉補給冷却水系(A)系統流量</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉補給冷却水系(B)系統流量</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉補給冷却水系(C)系統流量</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7A1母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7A2母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7B1母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7B2母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 6SA1母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 6SA2母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 6SB1母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 6SB2母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7C母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7D母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>6.9kV 7E母線電圧</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>M/C 7C D/G受電遮断器閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>M/C 7D D/G受電遮断器閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>M/C 7E D/G受電遮断器閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉圧力容器温度 (RPV下盤上盤温度)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>復水補給水系流量 (RHR A系代替復水流量)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>復水貯留槽水位 (SA)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td rowspan="13">格納容器内の状 態確認</td><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>ドライケル圧力 (W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内圧力 (D/W)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/C圧力 (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内圧力 (S/C)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>D/W温度 (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/P水温度最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/P水位 (W) (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSR 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	炉心冷却の状 態確認	原子炉補給冷却水系(A)系統流量	○	-	○	原子炉補給冷却水系(B)系統流量	○	-	○	原子炉補給冷却水系(C)系統流量	○	-	○	6.9kV 7A1母線電圧	○	○	○	6.9kV 7A2母線電圧	○	○	○	6.9kV 7B1母線電圧	○	○	○	6.9kV 7B2母線電圧	○	○	○	6.9kV 6SA1母線電圧	○	○	○	6.9kV 6SA2母線電圧	○	○	○	6.9kV 6SB1母線電圧	○	○	○	6.9kV 6SB2母線電圧	○	○	○	6.9kV 7C母線電圧	○	○	○	6.9kV 7D母線電圧	○	○	○	6.9kV 7E母線電圧	○	○	○	M/C 7C D/G受電遮断器閉	○	○	○	M/C 7D D/G受電遮断器閉	○	○	○	M/C 7E D/G受電遮断器閉	○	○	○	原子炉圧力容器温度 (RPV下盤上盤温度)	○	-	○	復水補給水系流量 (RHR A系代替復水流量)	○	-	○	復水貯留槽水位 (SA)	○	-	○	格納容器内の状 態確認	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C	○	○	○	ドライケル圧力 (W)	○	○	○	格納容器内圧力 (D/W)	○	-	○	S/C圧力 (最大値)	○	○	○	格納容器内圧力 (S/C)	○	-	○	D/W温度 (最大値)	○	○	○	S/P水温度最大値	○	○	○	S/P水位 (W) (最大値)	○	○	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSR 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="27">格納容器内の状 態確認</td><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>ドライケル圧力 (W)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内圧力 (D/W)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/C圧力 (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内圧力 (S/C)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>D/W温度 (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/P水温度最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>S/P水位 (W) (最大値)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>サブプレッション・チェンバ・プール水位</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>サブプレッション・チェンバ・プール気体温度</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上層)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下層)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下層)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td rowspan="10">格納容器内の状 態確認</td><td>格納容器内水温度 (A)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内水温度 (B)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内水温度 (SA) (D/W)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内水温度 (SA) (S/C)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内水温度 (A)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>格納容器内水温度 (B)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>CAMS (A) D/W測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>CAMS (B) D/W測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>CAMS (A) S/C測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>CAMS (B) S/C測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>RHR (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>RHR (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>RHR (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>PCVスプレイン (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>PCVスプレイン (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>換気熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>換気熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>換気熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>ドライケル蒸気温度 (上盤口/W内蒸気温度)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>ドライケル蒸気温度 (下盤口/W内蒸気温度)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSR 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	格納容器内の状 態確認	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C	○	○	○	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C	○	○	○	ドライケル圧力 (W)	○	○	○	格納容器内圧力 (D/W)	○	-	○	S/C圧力 (最大値)	○	○	○	格納容器内圧力 (S/C)	○	-	○	D/W温度 (最大値)	○	○	○	S/P水温度最大値	○	○	○	S/P水位 (W) (最大値)	○	○	○	サブプレッション・チェンバ・プール水位	○	-	○	サブプレッション・チェンバ・プール気体温度	○	-	○	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上層)	○	-	○	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下層)	○	-	○	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下層)	○	-	○	格納容器内の状 態確認	格納容器内水温度 (A)	○	○	○	格納容器内水温度 (B)	○	○	○	格納容器内水温度 (SA) (D/W)	○	-	○	格納容器内水温度 (SA) (S/C)	○	-	○	格納容器内水温度 (A)	○	○	○	格納容器内水温度 (B)	○	○	○	CAMS (A) D/W測定中	○	○	○	CAMS (B) D/W測定中	○	○	○	CAMS (A) S/C測定中	○	○	○	CAMS (B) S/C測定中	○	○	○	RHR (A) 系統流量	○	○	○	RHR (B) 系統流量	○	○	○	RHR (C) 系統流量	○	○	○	PCVスプレイン (B) 全閉	○	○	○	PCVスプレイン (C) 全閉	○	○	○	換気熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	-	○	換気熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	-	○	換気熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	-	○	ドライケル蒸気温度 (上盤口/W内蒸気温度)	○	-	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSR 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																							
炉心冷却の状 態確認	原子炉補給冷却水系(A)系統流量	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	原子炉補給冷却水系(B)系統流量	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	原子炉補給冷却水系(C)系統流量	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7A1母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7A2母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7B1母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7B2母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 6SA1母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 6SA2母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 6SB1母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 6SB2母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7C母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7D母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	6.9kV 7E母線電圧	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	M/C 7C D/G受電遮断器閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	M/C 7D D/G受電遮断器閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	M/C 7E D/G受電遮断器閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
原子炉圧力容器温度 (RPV下盤上盤温度)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
復水補給水系流量 (RHR A系代替復水流量)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
復水貯留槽水位 (SA)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
格納容器内の状 態確認	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	ドライケル圧力 (W)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	格納容器内圧力 (D/W)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	S/C圧力 (最大値)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	格納容器内圧力 (S/C)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	D/W温度 (最大値)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	S/P水温度最大値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	S/P水位 (W) (最大値)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSR 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	格納容器内の状 態確認	格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) D/W	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) D/W		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器内蒸気放射計線モニタ (A) S/C		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器内蒸気放射計線モニタ (B) S/C		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ドライケル圧力 (W)		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器内圧力 (D/W)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
S/C圧力 (最大値)		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器内圧力 (S/C)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
D/W温度 (最大値)		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
S/P水温度最大値		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
S/P水位 (W) (最大値)		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッション・チェンバ・プール水位		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッション・チェンバ・プール気体温度		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上層)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下層)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下層)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
格納容器内の状 態確認		格納容器内水温度 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		格納容器内水温度 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		格納容器内水温度 (SA) (D/W)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		格納容器内水温度 (SA) (S/C)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		格納容器内水温度 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		格納容器内水温度 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		CAMS (A) D/W測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		CAMS (B) D/W測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		CAMS (A) S/C測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		CAMS (B) S/C測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																						
RHR (A) 系統流量		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
RHR (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
RHR (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
PCVスプレイン (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
PCVスプレイン (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
換気熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
換気熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
換気熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
ドライケル蒸気温度 (上盤口/W内蒸気温度)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
ドライケル蒸気温度 (下盤口/W内蒸気温度)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
235	添付3-1	1.18-114	<p style="text-align: center;">7号炉(4/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>サブプレッション・チェンバ・プール水位</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッション・チェンバ気体温度</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下段)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水層温度 (A)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水層温度 (B)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水層温度 (S A) (D/W)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内水層温度 (S A) (S/C)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内層温度 (A)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器内層温度 (B)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) D/W測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) D/W測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (A) S/C測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>CAMS (B) S/C測定中</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>RHR (A) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>RHR (B) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>RHR (C) 系統流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>PCVスプレイヤ (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>PCVスプレイヤ (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>滞留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライウェル帯戻気流量 (上段D/W内帯戻気流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>ドライウェル帯戻気流量 (下段D/W内帯戻気流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水系統流量 (RHR B 系代替復水流量)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水温度 (代替復水内部)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水系統流量 (格納容器下排水系統)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		サブプレッション・チェンバ・プール水位	○	—	○		サブプレッション・チェンバ気体温度	○	—	○		サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○		サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○		サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○		格納容器内水層温度 (A)	○	○	○		格納容器内水層温度 (B)	○	○	○		格納容器内水層温度 (S A) (D/W)	○	—	○		格納容器内水層温度 (S A) (S/C)	○	—	○		格納容器内層温度 (A)	○	○	○		格納容器内層温度 (B)	○	○	○		CAMS (A) D/W測定中	○	○	○		CAMS (B) D/W測定中	○	○	○		CAMS (A) S/C測定中	○	○	○		CAMS (B) S/C測定中	○	○	○		RHR (A) 系統流量	○	○	○		RHR (B) 系統流量	○	○	○		RHR (C) 系統流量	○	○	○		PCVスプレイヤ (B) 全閉	○	○	○		PCVスプレイヤ (C) 全閉	○	○	○		滞留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○		滞留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		滞留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		ドライウェル帯戻気流量 (上段D/W内帯戻気流量)	○	—	○		ドライウェル帯戻気流量 (下段D/W内帯戻気流量)	○	—	○		復水補給水系統流量 (RHR B 系代替復水流量)	○	—	○		復水降速ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○		復水降速ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		復水降速ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		復水補給水温度 (代替復水内部)	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))	○	—	○		復水補給水系統流量 (格納容器下排水系統)	○	—	○	<p style="text-align: center;">7号炉(4/9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (RHR (B) 系代替復水)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (A) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (B) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水降速ポンプ (C) 吐出圧力</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水温度 (代替復水内部)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (下段D/W排水系統)</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>排気放熱機セキチ (IC) 最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>排気放熱機セキチ (S C I N) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>排気放熱機セキチ (S C I N) B</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>区分I 主蒸気管放射熱流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>区分II 主蒸気管放射熱流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>区分III 主蒸気管放射熱流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>区分IV 主蒸気管放射熱流量</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>PCI S隔離 内側</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>PCI S隔離 外側</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SGT S (A) 作動</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SGT S (B) 作動</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SGT S放射熱セキチ (IC) 最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) B</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td>7号機 海水セキチ (指差タイプ)</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 1 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 2 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 3 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 4 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 5 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> <tr><td></td><td>セキチリングボストNo. 6 蒸餾流量</td><td>○</td><td>○</td><td>—*</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">* バックアップ伝送ラインを懸出せず、SFDS 表示位置にて確認できる。</p>	目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (RHR (B) 系代替復水)	○	—	○		復水降速ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○		復水降速ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○		復水降速ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○		復水補給水温度 (代替復水内部)	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))	○	—	○		格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))	○	—	○		復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (下段D/W排水系統)	○	—	○		排気放熱機セキチ (IC) 最大値	○	○	○		排気放熱機セキチ (S C I N) A	○	○	○		排気放熱機セキチ (S C I N) B	○	○	○		区分I 主蒸気管放射熱流量	○	○	○		区分II 主蒸気管放射熱流量	○	○	○		区分III 主蒸気管放射熱流量	○	○	○		区分IV 主蒸気管放射熱流量	○	○	○		PCI S隔離 内側	○	○	○		PCI S隔離 外側	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉	○	○	○		主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉	○	○	○		SGT S (A) 作動	○	○	○		SGT S (B) 作動	○	○	○		SGT S放射熱セキチ (IC) 最大値	○	○	○		SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) A	○	○	○		SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) B	○	○	○		7号機 海水セキチ (指差タイプ)	○	○	—*		セキチリングボストNo. 1 蒸餾流量	○	○	—*		セキチリングボストNo. 2 蒸餾流量	○	○	—*		セキチリングボストNo. 3 蒸餾流量	○	○	—*		セキチリングボストNo. 4 蒸餾流量	○	○	—*		セキチリングボストNo. 5 蒸餾流量	○	○	—*		セキチリングボストNo. 6 蒸餾流量	○	○	—*	②(K5TSC設計進捗)
目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	サブプレッション・チェンバ・プール水位	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	サブプレッション・チェンバ気体温度	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間上段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (中間下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	サブプレッション・チェンバ・プール水温度 (下段)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内水層温度 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内水層温度 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内水層温度 (S A) (D/W)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内水層温度 (S A) (S/C)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内層温度 (A)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器内層温度 (B)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	CAMS (A) D/W測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	CAMS (B) D/W測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	CAMS (A) S/C測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	CAMS (B) S/C測定中	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	RHR (A) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	RHR (B) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	RHR (C) 系統流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	PCVスプレイヤ (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	PCVスプレイヤ (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	滞留熱除去系ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	滞留熱除去系ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	滞留熱除去系ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ドライウェル帯戻気流量 (上段D/W内帯戻気流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ドライウェル帯戻気流量 (下段D/W内帯戻気流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水系統流量 (RHR B 系代替復水流量)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水温度 (代替復水内部)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水系統流量 (格納容器下排水系統)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (RHR (B) 系代替復水)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (A) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (B) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水降速ポンプ (C) 吐出圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水温度 (代替復水内部)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (3m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (2m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	格納容器下排水位 (D/W下排水位 (1m))	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	復水補給水系統流量 (原子炉格納容器) (下段D/W排水系統)	○	—	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	排気放熱機セキチ (IC) 最大値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	排気放熱機セキチ (S C I N) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	排気放熱機セキチ (S C I N) B	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	区分I 主蒸気管放射熱流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	区分II 主蒸気管放射熱流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	区分III 主蒸気管放射熱流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	区分IV 主蒸気管放射熱流量	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	PCI S隔離 内側	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	PCI S隔離 外側	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (全弁全閉)	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (A) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	主蒸気内側隔離弁 (D) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	SGT S (A) 作動	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	SGT S (B) 作動	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	SGT S放射熱セキチ (IC) 最大値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	SGT S排ガス放射熱セキチ (S C I N) B	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	7号機 海水セキチ (指差タイプ)	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 1 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 2 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 3 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 4 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 5 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セキチリングボストNo. 6 蒸餾流量	○	○	—*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指図書事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
236	添付3-1	1.18-115	7号炉(5/10)	7号炉(5/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>K5TSC パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="28">放射線照射の状 態確認</td><td>炉気筒放射線モニタ (IC) 最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>炉気筒放射線モニタ (SCIN) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>炉気筒放射線モニタ (SCIN) B</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>区分I主気筒管放射線測定</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>区分II主気筒管放射線測定</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>区分III主気筒管放射線測定</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>区分IV主気筒管放射線測定</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>PCI S隔離 内側</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>PCI S隔離 外側</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒内面隔離弁 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒内面隔離弁 (A) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒内面隔離弁 (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒内面隔離弁 (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒内面隔離弁 (D) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒外面隔離弁 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒外面隔離弁 (A) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒外面隔離弁 (B) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒外面隔離弁 (C) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>主気筒外面隔離弁 (D) 全閉</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td rowspan="16">機種の情報確認</td><td>SGTS (A) 作動</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>SGTS (B) 作動</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>SGTS放射線モニタ (IC) 最大値</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) B</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>炉筒管ガス純度計 (A) 検気流量</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>炉筒管ガス純度計 (B) 検気流量</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉隔離気体圧 (A)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉隔離気体圧 (B)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉隔離気体圧 (C)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>原子炉隔離気体圧 (D)</td><td>○</td><td>-</td><td>○</td></tr> <tr><td>予警備 過水モニタ (指数タイプ)</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 1 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 2 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 3 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 4 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 5 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 6 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※ バックアップ伝送ラインを離出せず、SPDS 表示装置にて確認できる。</p>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	K5TSC パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	放射線照射の状 態確認	炉気筒放射線モニタ (IC) 最大値	○	○	○	炉気筒放射線モニタ (SCIN) A	○	○	○	炉気筒放射線モニタ (SCIN) B	○	○	○	区分I主気筒管放射線測定	○	○	○	区分II主気筒管放射線測定	○	○	○	区分III主気筒管放射線測定	○	○	○	区分IV主気筒管放射線測定	○	○	○	PCI S隔離 内側	○	○	○	PCI S隔離 外側	○	○	○	主気筒内面隔離弁 全閉	○	○	○	主気筒内面隔離弁 (A) 全閉	○	○	○	主気筒内面隔離弁 (B) 全閉	○	○	○	主気筒内面隔離弁 (C) 全閉	○	○	○	主気筒内面隔離弁 (D) 全閉	○	○	○	主気筒外面隔離弁 全閉	○	○	○	主気筒外面隔離弁 (A) 全閉	○	○	○	主気筒外面隔離弁 (B) 全閉	○	○	○	主気筒外面隔離弁 (C) 全閉	○	○	○	主気筒外面隔離弁 (D) 全閉	○	○	○	機種の情報確認	SGTS (A) 作動	○	○	○	SGTS (B) 作動	○	○	○	SGTS放射線モニタ (IC) 最大値	○	○	○	SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) A	○	○	○	SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) B	○	○	○	炉筒管ガス純度計 (A) 検気流量	○	-	○	炉筒管ガス純度計 (B) 検気流量	○	-	○	原子炉隔離気体圧 (A)	○	-	○	原子炉隔離気体圧 (B)	○	-	○	原子炉隔離気体圧 (C)	○	-	○	原子炉隔離気体圧 (D)	○	-	○	予警備 過水モニタ (指数タイプ)	○	○	-*	モニタリングポストNo. 1 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 2 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 3 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 4 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 5 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 6 高線量率	○	○	-*	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>K5TSC パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="38">機種の情報確認</td><td>モニタリングポストNo. 7 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 8 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 9 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 1 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 2 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 3 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 4 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 5 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 6 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 7 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 8 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>モニタリングポストNo. 9 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 2.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 3.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 1.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 2.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 3.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 1.0 m</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>大気安定度</td><td>○</td><td>○</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 1 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 2 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 3 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 4 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 5 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 6 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 7 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 8 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 9 高線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 1 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 2 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 3 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 4 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 5 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 6 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 7 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 8 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>可搬型モニタリングポストNo. 9 低線量率</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速 (可搬型)</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>風速</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> <tr><td>大気安定度 (可搬型)</td><td>○</td><td>-</td><td>-*</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">※ バックアップ伝送ラインを離出せず、SPDS 表示装置にて確認できる。</p>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	K5TSC パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	機種の情報確認	モニタリングポストNo. 7 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 8 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 9 高線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 1 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 2 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 3 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 4 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 5 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 6 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 7 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 8 低線量率	○	○	-*	モニタリングポストNo. 9 低線量率	○	○	-*	風速 2.0 m	○	○	-*	風速 3.0 m	○	○	-*	風速 1.0 m	○	○	-*	風速 2.0 m	○	○	-*	風速 3.0 m	○	○	-*	風速 1.0 m	○	○	-*	大気安定度	○	○	-*	可搬型モニタリングポストNo. 1 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 2 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 3 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 4 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 5 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 6 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 7 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 8 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 9 高線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 1 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 2 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 3 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 4 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 5 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 6 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 7 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 8 低線量率	○	-	-*	可搬型モニタリングポストNo. 9 低線量率	○	-	-*	風速 (可搬型)	○	-	-*	風速	○	-	-*
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	K5TSC パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
放射線照射の状 態確認	炉気筒放射線モニタ (IC) 最大値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	炉気筒放射線モニタ (SCIN) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	炉気筒放射線モニタ (SCIN) B	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	区分I主気筒管放射線測定	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	区分II主気筒管放射線測定	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	区分III主気筒管放射線測定	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	区分IV主気筒管放射線測定	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	PCI S隔離 内側	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	PCI S隔離 外側	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒内面隔離弁 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒内面隔離弁 (A) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒内面隔離弁 (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒内面隔離弁 (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒内面隔離弁 (D) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒外面隔離弁 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒外面隔離弁 (A) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒外面隔離弁 (B) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒外面隔離弁 (C) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	主気筒外面隔離弁 (D) 全閉	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	機種の情報確認	SGTS (A) 作動	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		SGTS (B) 作動	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		SGTS放射線モニタ (IC) 最大値	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) A	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		SGTS炉筒ガス放射線モニタ (SCIN) B	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		炉筒管ガス純度計 (A) 検気流量	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		炉筒管ガス純度計 (B) 検気流量	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		原子炉隔離気体圧 (A)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		原子炉隔離気体圧 (B)	○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
原子炉隔離気体圧 (C)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
原子炉隔離気体圧 (D)		○	-	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
予警備 過水モニタ (指数タイプ)		○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
モニタリングポストNo. 1 高線量率		○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
モニタリングポストNo. 2 高線量率		○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
モニタリングポストNo. 3 高線量率		○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
モニタリングポストNo. 4 高線量率		○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
モニタリングポストNo. 5 高線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
モニタリングポストNo. 6 高線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	K5TSC パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
機種の情報確認	モニタリングポストNo. 7 高線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 8 高線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 9 高線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 1 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 2 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 3 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 4 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 5 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 6 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 7 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 8 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	モニタリングポストNo. 9 低線量率	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 2.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 3.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 1.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 2.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 3.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 1.0 m	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	大気安定度	○	○	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 1 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 2 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 3 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 4 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 5 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 6 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 7 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 8 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 9 高線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 1 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 2 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 3 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 4 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 5 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 6 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 7 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 8 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	可搬型モニタリングポストNo. 9 低線量率	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	風速 (可搬型)	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
風速	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
大気安定度 (可搬型)	○	-	-*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																													
237	添付3-1	1.18-116	7号炉(6/10)ー																																																																																																																																																																																																															
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDS パラメータ</th> <th>K&S 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 7 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 8 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 9 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 1 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 2 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 3 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 4 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 5 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 6 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 7 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 8 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>セキシリングボストNo. 9 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風向 2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風向 8.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風向 1.00m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風速 2.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風速 8.0m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風速 1.00m</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>大気安定度</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 1 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 2 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 3 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 4 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 5 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 6 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 7 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 8 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 9 高線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 1 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 2 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 3 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 4 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 5 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 6 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 7 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 8 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>可搬型セキシリングボストNo. 9 低線量率</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風向 (可搬型)</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>風速 (可搬型)</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> <tr><td></td><td>大気安定度 (可搬型)</td><td>○</td><td>○</td><td>ー</td></tr> </tbody> </table>			目的	対象パラメータ	SFDS パラメータ	K&S 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ		セキシリングボストNo. 7 高線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 8 高線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 9 高線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 1 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 2 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 3 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 4 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 5 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 6 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 7 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 8 低線量率	○	○	ー		セキシリングボストNo. 9 低線量率	○	○	ー		風向 2.0m	○	○	ー		風向 8.0m	○	○	ー		風向 1.00m	○	○	ー		風速 2.0m	○	○	ー		風速 8.0m	○	○	ー		風速 1.00m	○	○	ー		大気安定度	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 1 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 2 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 3 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 4 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 5 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 6 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 7 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 8 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 9 高線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 1 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 2 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 3 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 4 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 5 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 6 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 7 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 8 低線量率	○	○	ー		可搬型セキシリングボストNo. 9 低線量率	○	○	ー		風向 (可搬型)	○	○	ー		風速 (可搬型)	○	○	ー		大気安定度 (可搬型)	○	○	ー
			目的	対象パラメータ		SFDS パラメータ	K&S 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 7 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 8 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 9 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 1 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 2 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 3 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 4 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 5 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 6 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 7 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 8 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				セキシリングボストNo. 9 低線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風向 2.0m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風向 8.0m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風向 1.00m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風速 2.0m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風速 8.0m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				風速 1.00m		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				大気安定度		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 1 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 2 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 3 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 4 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 5 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 6 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 7 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
				可搬型セキシリングボストNo. 8 高線量率		○	○	ー																																																																																																																																																																																																										
	可搬型セキシリングボストNo. 9 高線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 1 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 2 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 3 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 4 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 5 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 6 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 7 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 8 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	可搬型セキシリングボストNo. 9 低線量率	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	風向 (可搬型)	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	風速 (可搬型)	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
	大気安定度 (可搬型)	○	○	ー																																																																																																																																																																																																														
※ バックアップ伝送ラインを bypass せず, SFDS 表示装置にて確認できる。																																																																																																																																																																																																																		
					②(K5TSC設計 進捗)																																																																																																																																																																																																													

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																											
238	添付3-1	1.18-117	7号炉(7/10)	7号炉(6/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等</td> <td>ADS A 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ADS B 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RCIC起動状態(CRT)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(A) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(A) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(B) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(C) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全炉圍障全挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全炉水流量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等	ADS A 作動	○	○	○	ADS B 作動	○	○	○	RCIC起動状態(CRT)	○	○	○	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○	RHR投入弁(A) 全開	○	○	○	RHR投入弁(B) 全開	○	○	○	RHR投入弁(C) 全開	○	○	○	全炉圍障全挿入	○	○	○	全炉水流量	○	○	○	<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="14">非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等</td> <td>ADS A 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ADS B 作動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RCIC起動状態(CRT)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>HPCFポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(A) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(B) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHRポンプ(C) 起動</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(A) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(B) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>RHR投入弁(C) 全開</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全炉圍障全挿入</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>全炉水流量</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等	ADS A 作動	○	○	○	ADS B 作動	○	○	○	RCIC起動状態(CRT)	○	○	○	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○	RHR投入弁(A) 全開	○	○	○	RHR投入弁(B) 全開	○	○	○	RHR投入弁(C) 全開	○	○	○	全炉圍障全挿入	○	○	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																												
非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等	ADS A 作動	○	○	○																																																																																																												
	ADS B 作動	○	○	○																																																																																																												
	RCIC起動状態(CRT)	○	○	○																																																																																																												
	HPCFポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																												
	HPCFポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																												
	RHRポンプ(A) 起動	○	○	○																																																																																																												
	RHRポンプ(B) 起動	○	○	○																																																																																																												
	RHRポンプ(C) 起動	○	○	○																																																																																																												
	RHR投入弁(A) 全開	○	○	○																																																																																																												
	RHR投入弁(B) 全開	○	○	○																																																																																																												
	RHR投入弁(C) 全開	○	○	○																																																																																																												
	全炉圍障全挿入	○	○	○																																																																																																												
	全炉水流量	○	○	○																																																																																																												
	非常用炉心冷却系(ECCS)の仕様等	ADS A 作動	○	○	○																																																																																																											
ADS B 作動		○	○	○																																																																																																												
RCIC起動状態(CRT)		○	○	○																																																																																																												
HPCFポンプ(B) 起動		○	○	○																																																																																																												
HPCFポンプ(C) 起動		○	○	○																																																																																																												
RHRポンプ(A) 起動		○	○	○																																																																																																												
RHRポンプ(B) 起動		○	○	○																																																																																																												
RHRポンプ(C) 起動		○	○	○																																																																																																												
RHR投入弁(A) 全開		○	○	○																																																																																																												
RHR投入弁(B) 全開		○	○	○																																																																																																												
RHR投入弁(C) 全開		○	○	○																																																																																																												
全炉圍障全挿入		○	○	○																																																																																																												
全炉水流量		○	○	○																																																																																																												

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																
239	添付3-1	1.18-118	7号炉(8/10)	7号炉(7/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">使用済燃料プールの状態確認</td> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用済燃料プールの状態確認	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	○	-	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">使用済燃料プールの状態確認</td> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用済燃料プールの状態確認	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																	
使用済燃料プールの状態確認	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	○	-	○																																																																																																																	
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																	
使用済燃料プールの状態確認	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プールエリア警固気圧)	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+6000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール水位・深度 (S A) (使用済燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端+1000mm))	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	○	-	○																																																																																																																	
	使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	○	-	○																																																																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																
240	添付3-1	1.18-119	7号炉(9/10)	7号炉(8/9)	②(K5TSC設計進捗)																																																																																																																																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDIS パラメータ</th> <th>ERSR 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="16">使用後燃料プールの状態確認</td> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +710mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +150mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的		対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ERSR 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +710mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +150mm))	○	-	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SFDIS パラメータ</th> <th>ERSR 伝達 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="16">使用後燃料プールの状態確認</td> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール水位アラーム動作基準) (燃料ラック上端 +710mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +150mm))</td> <td>○</td> <td>-</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ERSR 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール水位アラーム動作基準) (燃料ラック上端 +710mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))	○	-	○	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))	○	-	○
目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ERSR 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																	
使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +710mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +150mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	目的	対象パラメータ	SFDIS パラメータ	ERSR 伝達 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																
使用後燃料プールの状態確認	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール水位アラーム動作基準) (燃料ラック上端 +710mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +670mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +630mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +590mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +550mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +510mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +470mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +430mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +390mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +350mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +310mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +270mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +230mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +190mm))	○	-	○																																																																																																																																	
	使用後燃料貯蔵プール水位、深度 (S.A広域) (使用後燃料貯蔵プール深度 (燃料ラック上端 +150mm))	○	-	○																																																																																																																																	

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																										
241	添付3-1	1.18-120	<p style="text-align: center;">7号炉(10/10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">水素導管による 格納容器の破損 防止機能</td> <td>フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置入口圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置スクラバpH</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能</td> <td>原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定C)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	水素導管による 格納容器の破損 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○	フィルタ設置入口圧力	○	—	○	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○	フィルタ設置スクラバpH	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○	水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定C)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)	○	—	○	<p style="text-align: center;">7号炉(9/9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>対象パラメータ</th> <th>SPDS パラメータ</th> <th>ERSS 伝送 パラメータ</th> <th>バック アップ対象 パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">水素導管による 格納容器の破損 防止機能</td> <td>フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置出口放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置入口圧力</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置水位 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置スクラバpH</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系放射線モニタ (B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能</td> <td>原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ	水素導管による 格納容器の破損 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○	フィルタ設置入口圧力	○	—	○	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○	フィルタ設置スクラバpH	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○	水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)	○	—	○	原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)	○	—	○	静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)	○	—	○	②(K5TSC設計 進捗)
目的	対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																											
水素導管による 格納容器の破損 防止機能	フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置入口圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置スクラバpH	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																										
		原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																										
原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定C)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
目的		対象パラメータ	SPDS パラメータ	ERSS 伝送 パラメータ	バック アップ対象 パラメータ																																																																																																																																																																																																										
水素導管による 格納容器の破損 防止機能		フィルタ設置水深測定 (格納容器圧力逃がし装置水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																										
	フィルタ設置水深測定 (フィルタベント設置出口水深測定)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置出口放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置出口放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置入口圧力	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置水位 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置水位 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置スクラバpH	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	フィルタ設置金属フィルタ差圧 (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	副圧強化ベント系放射線モニタ (A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	副圧強化ベント系放射線モニタ (B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																											
	水素導管による 原子炉建屋の破 壊防止機能	原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定A)	○	—	○																																																																																																																																																																																																										
		原子炉建屋水深測定 (R/Bオオパフロ水深測定B)	○	—	○																																																																																																																																																																																																										
原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル両側用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (上経ドライウェル機器側用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (サブプレッション・ジェンパ出入口)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル両側用エアロック)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
原子炉建屋水深測定 (下経ドライウェル機器側用ハッチ)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (北側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
静的熱媒式水素再結合部 動作監視装置 (南側F A H 静気口風速)		○	—	○																																																																																																																																																																																																											
242		添付3-2	1.18-121	添付3-2 原子力災害対策活動で使用する主な資料 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に以下の資料を保管する。	3. 原子力災害対策活動で使用する主な資料 免震重要棟内緊急時対策所, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のそれぞ れに以下の資料を保管する。	②(免震重要棟 の自主化)																																																																																																																																																																																																									
243		添付4-1	1.18-122	なお, 各統括, 班長が権限を持つ作業が人身安全を脅かす状態となる場合 においては, 本部長へ作業の可否判断を求めることとする。	—	⑤																																																																																																																																																																																																									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ① 指摘事項対応による変更・修正
- ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③ 評価進捗による変更・修正
- ④ 前提条件変更による修正
- ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
244	添付4-1	1.18-127	<p>第1図 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉共運転中の場合) 交替要員も考慮して, ①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員52名(6号及び7号炉対応要員)と1~5号炉対応要員2名をあわせた54名と, ②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員75名のうち, 中央制御室待避室にとどまる運転員18名を除く57名の合計111名を想定している。</p>	<p>図1 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉共運転中の場合) 交代要員も考慮して, ①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員52名と, ②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員35名のうち, 中央制御室待避室にとどまる運転員18名を除く17名の合計69名を想定している。</p>	⑤
245	添付4-2	1.18-131	<p>第1図 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉共運転中の場合) 交替要員も考慮して, ①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員52名(6号及び7号炉対応要員)と1~5号炉対応要員2名をあわせた54名と, ②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員75名のうち, 中央制御室待避室にとどまる運転員18名を除く57名の合計111名を想定している。</p>	<p>図1 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉共運転中の場合) 交代要員も考慮して, ①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員52名と, ②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するために必要な要員35名のうち, 中央制御室待避室にとどまる運転員18名を除く17名の合計69名を想定している。</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																
246	添付4-2	1.18-131	<p>1. 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要員</th> <th>考え方</th> <th>人数</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部長・統括他</td> <td>緊急時対策本部を指揮・統括する本部長, 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者2名, 本部付2名, 1~5号統括は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる。</td> <td>11名</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td>各班長・班員</td> <td>各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。</td> <td>16名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交替要員</td> <td>上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交替要員については11名, 班長, 班員クラスの交替要員については16名を確保する。</td> <td>27名</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	要員	考え方	人数	合計	本部長・統括他	緊急時対策本部を指揮・統括する本部長, 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者2名, 本部付2名, 1~5号統括は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる。	11名	54名	各班長・班員	各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。	16名		交替要員	上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交替要員については11名, 班長, 班員クラスの交替要員については16名を確保する。	27名		<p>1. 重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>要員</th> <th>考え方</th> <th>人数</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部長・統括他</td> <td>緊急時対策本部を指揮・統括する本部長(所長), 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者及び本部付2名は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる</td> <td>10名</td> <td>52名</td> </tr> <tr> <td>各班長・班員</td> <td>各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。</td> <td>16名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交代要員</td> <td>上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交代要員については10名, 班長, 班員クラスの交代要員については16名を確保する。</td> <td>26名</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	要員	考え方	人数	合計	本部長・統括他	緊急時対策本部を指揮・統括する本部長(所長), 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者及び本部付2名は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる	10名	52名	各班長・班員	各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。	16名		交代要員	上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交代要員については10名, 班長, 班員クラスの交代要員については16名を確保する。	26名		⑤
要員	考え方	人数	合計																																		
本部長・統括他	緊急時対策本部を指揮・統括する本部長, 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者2名, 本部付2名, 1~5号統括は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる。	11名	54名																																		
各班長・班員	各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。	16名																																			
交替要員	上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交替要員については11名, 班長, 班員クラスの交替要員については16名を確保する。	27名																																			
要員	考え方	人数	合計																																		
本部長・統括他	緊急時対策本部を指揮・統括する本部長(所長), 本部長を補佐する計画・情報統括, 6号統括, 7号統括, 対外対応統括, 総務統括, 原子炉主任技術者及び本部付2名は, 重大事故等において, 指揮をとる要員として緊急時対策所にとどまる	10名	52名																																		
各班長・班員	各班については, 本部長からの指揮を受け, 重大事故等に対処するため, 最低限必要な要員を残して, 緊急時対策所にとどまる。その際, 各班長の業務を必要に応じその上司である統括が兼務する。	16名																																			
交代要員	上記, 本部長(所長), 各統括, 原子炉主任技術者及び本部付の交代要員については10名, 班長, 班員クラスの交代要員については16名を確保する。	26名																																			
247	添付4-2	1.18-132	<p>ブルーム通過後に実施する作業は, 重大事故等対策の有効性評価の重大事故シーケンスのうち, 格納容器破損防止(雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過圧・過温破損), 水素燃焼)を参考とし, 重大事故対応に加えて, 放射性物質拡散防止のための放水操作等が可能な要員数を確保する。また, 設備故障等の不測事態への対応を考慮する。交替要員については, 順次, 構外に待機している要員を当てる。</p>	<p>ブルーム通過後に実施する作業は, 重大事故等対策の有効性評価の重大事故シーケンスのうち, 格納容器破損防止(雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過圧・過温破壊), 水素燃焼)を参考とし, 重大事故等対応に加えて, 放射性物質拡散防止のための放水操作等が可能な要員数を確保する。交代要員については, 順次, 構外に待機している要員を当てる。</p>	②(K5TSC設計進捗)																																

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																								
248	添付4-2	1.18-132	<table border="1"> <thead> <tr> <th>要員</th> <th>作業項目</th> <th>作業に必要な人数</th> <th>人数</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運転員 (当直)</td> <td>ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に待避する。</td> <td>—</td> <td>18名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">復旧班要員</td> <td>事故後の設備監視、給油作業等</td> <td>6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 可搬型代替注水ポンプによる復水貯蔵槽への注水監視</td> <td>2名/ (6号及び7号炉) 2名/ (6号及び7号炉)</td> <td>2名 2名</td> <td rowspan="10">32名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>燃料給油(燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、可搬型代替注水ポンプへの燃料給油)</td> <td>4名/ (6号及び7号炉)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>放射性物質拡散抑制対応(放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開)</td> <td>4名/ (6号及び7号炉)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>格納容器圧力逃がし装置対応 フィルタ装置排水ポンプ水張り</td> <td>2名/ (6号及び7号炉) =</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フィルタ装置の排水</td> <td>4名/ (6号及び7号炉) =</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フィルタ装置への薬液注入</td> <td>12名/ (6号及び7号炉)</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フィルタ装置の排水ラインの窒素パージ</td> <td>4名/ (6号及び7号炉)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">設備故障等の不測事象への対応</td> <td>可搬型代替注水ポンプの予備機への交換 (1台故障を想定)</td> <td>3名/台</td> <td>3名</td> <td rowspan="3">22名</td> </tr> <tr> <td>代替原子炉補機冷却系の予備機への交換 (1台故障を想定)</td> <td>13名/台</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>ガスタービン発電機等の電源復旧 (1基故障を想定)</td> <td>6名/基</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>保安班要員</td> <td>作業現場の放射線モニタリング</td> <td>3名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 要員数については、今後の訓練等の結果より人数を見直す可能性がある。 ※2 フィルタ装置排水ポンプ水張り(作業A)は格納容器ベント実施前の作業で、フィルタ装置の排水(作業B)は格納容器ベント実施後の作業であるため、各号炉単位で同時に発生することがない。加えてこれら二つの作業は作業時間帯に十分な間隔があるため、作業A完了後に作業Bを実施することとし、作業Aと作業B合計で作業本部内に4名の現場要員を確保するものとした。</p>	要員	作業項目	作業に必要な人数	人数	合計	運転員 (当直)	ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に待避する。	—	18名	18名	復旧班要員	事故後の設備監視、給油作業等	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 可搬型代替注水ポンプによる復水貯蔵槽への注水監視	2名/ (6号及び7号炉) 2名/ (6号及び7号炉)	2名 2名	32名		燃料給油(燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、可搬型代替注水ポンプへの燃料給油)	4名/ (6号及び7号炉)	4名		放射性物質拡散抑制対応(放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開)	4名/ (6号及び7号炉)	4名		格納容器圧力逃がし装置対応 フィルタ装置排水ポンプ水張り	2名/ (6号及び7号炉) =	2名		フィルタ装置の排水	4名/ (6号及び7号炉) =	2名		フィルタ装置への薬液注入	12名/ (6号及び7号炉)	12名		フィルタ装置の排水ラインの窒素パージ	4名/ (6号及び7号炉)	4名	設備故障等の不測事象への対応	可搬型代替注水ポンプの予備機への交換 (1台故障を想定)	3名/台	3名	22名	代替原子炉補機冷却系の予備機への交換 (1台故障を想定)	13名/台	13名	ガスタービン発電機等の電源復旧 (1基故障を想定)	6名/基	6名	保安班要員	作業現場の放射線モニタリング	3名	3名	3名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>要員</th> <th>考え方</th> <th>人数</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運転員 (当直)</td> <td>ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に退避する。</td> <td>18名</td> <td rowspan="2">35名</td> </tr> <tr> <td>復旧班要員</td> <td>6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 消防車による復水貯蔵槽への注水監視 燃料補給 格納容器圧力逃がし装置対応 放射性物質拡散抑制対応</td> <td>6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視を監視 消防車による復水貯蔵槽への注水を監視 燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、消防車等への燃料補給 フィルタ装置内スクラバ水補給、水位調整 放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開</td> <td>2名 2名 2名 4名 4名</td> </tr> <tr> <td>保安班要員</td> <td>作業現場モニタリング</td> <td>作業現場の放射線モニタリング</td> <td>3名</td> </tr> </tbody> </table>	要員	考え方	人数	合計	運転員 (当直)	ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に退避する。	18名	35名	復旧班要員	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 消防車による復水貯蔵槽への注水監視 燃料補給 格納容器圧力逃がし装置対応 放射性物質拡散抑制対応	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視を監視 消防車による復水貯蔵槽への注水を監視 燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、消防車等への燃料補給 フィルタ装置内スクラバ水補給、水位調整 放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開	2名 2名 2名 4名 4名	保安班要員	作業現場モニタリング	作業現場の放射線モニタリング	3名	②(K5TSC設計進捗)
要員	作業項目	作業に必要な人数	人数	合計																																																																									
運転員 (当直)	ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に待避する。	—	18名	18名																																																																									
復旧班要員	事故後の設備監視、給油作業等	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 可搬型代替注水ポンプによる復水貯蔵槽への注水監視	2名/ (6号及び7号炉) 2名/ (6号及び7号炉)	2名 2名	32名																																																																								
		燃料給油(燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、可搬型代替注水ポンプへの燃料給油)	4名/ (6号及び7号炉)	4名																																																																									
		放射性物質拡散抑制対応(放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開)	4名/ (6号及び7号炉)	4名																																																																									
		格納容器圧力逃がし装置対応 フィルタ装置排水ポンプ水張り	2名/ (6号及び7号炉) =	2名																																																																									
		フィルタ装置の排水	4名/ (6号及び7号炉) =	2名																																																																									
		フィルタ装置への薬液注入	12名/ (6号及び7号炉)	12名																																																																									
		フィルタ装置の排水ラインの窒素パージ	4名/ (6号及び7号炉)	4名																																																																									
	設備故障等の不測事象への対応	可搬型代替注水ポンプの予備機への交換 (1台故障を想定)	3名/台	3名		22名																																																																							
		代替原子炉補機冷却系の予備機への交換 (1台故障を想定)	13名/台	13名																																																																									
		ガスタービン発電機等の電源復旧 (1基故障を想定)	6名/基	6名																																																																									
保安班要員	作業現場の放射線モニタリング	3名	3名	3名																																																																									
要員	考え方	人数	合計																																																																										
運転員 (当直)	ブルーム通過時には、運転員については中央制御室待避室に退避する。	18名	35名																																																																										
復旧班要員	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視 消防車による復水貯蔵槽への注水監視 燃料補給 格納容器圧力逃がし装置対応 放射性物質拡散抑制対応	6号及び7号炉ガスタービン発電機の運転監視を監視 消防車による復水貯蔵槽への注水を監視 燃料タンクからタンクローリへの軽油移し替え、消防車等への燃料補給 フィルタ装置内スクラバ水補給、水位調整 放射性物質の拡散を抑制するための原子炉建屋への放水操作の再開		2名 2名 2名 4名 4名																																																																									
保安班要員	作業現場モニタリング	作業現場の放射線モニタリング	3名																																																																										

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗、設備変更による変更・修正
- ③評価進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
249	添付4-2	1.18-133	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 72名</p> <p>②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 106名</p> <p>③6号及び7号炉中央制御室にて対応・現場にて対応を行う復旧班要員・現場にて対応を行う保安班要員・現場にて対応を行う保安班要員 (初期消火対応) 106名</p> <p>④重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 72名</p> <p>⑤原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 106名</p>	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 72名</p> <p>②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 106名</p> <p>③6号及び7号炉中央制御室にて対応・現場にて対応を行う復旧班要員・現場にて対応を行う保安班要員・現場にて対応を行う保安班要員 (初期消火対応) 106名</p> <p>④重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 72名</p> <p>⑤原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 106名</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③評価進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
250	添付4-2	1.18-134	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 28名</p> <p>凡例: 初動活動では統括が兼務する部課</p> <p>本部幹部 9名 本部長 1名 本部長 3名 6号伊原子母主 1名 任技者 1名 7号伊原子母主 1名 任技者 1名 ①緊急決定・指揮機能 ②情報収集・計測立案機能 ③現場対応機能 ④現場対応機能 ⑤現場対応機能 ⑥現場対応機能 ⑦現場対応機能 ⑧現場対応機能 ⑨現場対応機能 ⑩現場対応機能 ⑪現場対応機能 ⑫現場対応機能 ⑬現場対応機能 ⑭現場対応機能 ⑮現場対応機能 ⑯現場対応機能 ⑰現場対応機能 ⑱現場対応機能 ⑲現場対応機能 ⑳現場対応機能 ㉑現場対応機能 ㉒現場対応機能 ㉓現場対応機能 ㉔現場対応機能 ㉕現場対応機能 ㉖現場対応機能 ㉗現場対応機能 ㉘現場対応機能 ㉙現場対応機能 ㉚現場対応機能 ㉛現場対応機能 ㉜現場対応機能 ㉝現場対応機能 ㉞現場対応機能 ㉟現場対応機能 ㊱現場対応機能 ㊲現場対応機能 ㊳現場対応機能 ㊴現場対応機能 ㊵現場対応機能 ㊶現場対応機能 ㊷現場対応機能 ㊸現場対応機能 ㊹現場対応機能 ㊺現場対応機能 ㊻現場対応機能 ㊼現場対応機能 ㊽現場対応機能 ㊾現場対応機能 ㊿現場対応機能</p> <p>②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 44名</p> <p>6号及び7号炉中央制御室にて対応・現場にて対応を行う要員 運転員 18名 復旧班現場要員 14名 保安班現場要員 2名 保安班消防隊 10名</p> <p>※上記①, ②の要員については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 28名</p> <p>凡例: 初動活動では統括が兼務する部課</p> <p>本部幹部 9名 本部長 1名 本部長 3名 6号伊原子母主 1名 任技者 1名 7号伊原子母主 1名 任技者 1名 ①緊急決定・指揮機能 ②情報収集・計測立案機能 ③現場対応機能 ④現場対応機能 ⑤現場対応機能 ⑥現場対応機能 ⑦現場対応機能 ⑧現場対応機能 ⑨現場対応機能 ⑩現場対応機能 ⑪現場対応機能 ⑫現場対応機能 ⑬現場対応機能 ⑭現場対応機能 ⑮現場対応機能 ⑯現場対応機能 ⑰現場対応機能 ⑱現場対応機能 ⑲現場対応機能 ⑳現場対応機能 ㉑現場対応機能 ㉒現場対応機能 ㉓現場対応機能 ㉔現場対応機能 ㉕現場対応機能 ㉖現場対応機能 ㉗現場対応機能 ㉘現場対応機能 ㉙現場対応機能 ㉚現場対応機能 ㉛現場対応機能 ㉜現場対応機能 ㉝現場対応機能 ㉞現場対応機能 ㉟現場対応機能 ㊱現場対応機能 ㊲現場対応機能 ㊳現場対応機能 ㊴現場対応機能 ㊵現場対応機能 ㊶現場対応機能 ㊷現場対応機能 ㊸現場対応機能 ㊹現場対応機能 ㊺現場対応機能 ㊻現場対応機能 ㊼現場対応機能 ㊽現場対応機能 ㊾現場対応機能 ㊿現場対応機能</p> <p>②原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散防止を抑制するために必要な要員 44名</p> <p>7号炉中央制御室にて対応・現場にて対応を行う要員 運転員 18名 復旧班現場要員 14名 保安班現場要員 2名 保安班消防隊 10名</p> <p>※上記①, ②の要員については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③評価進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
251	添付4-2	1.18-135	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 52名</p> <p>凡例： ：本部署内での対応 ：プルーフ通過時は総括が兼務する班長</p> <p>②重大事故等による要員削減等による要員削減の抑制防止を行う要員 75名</p> <p>凡例： ：本部署内での対応 ：プルーフ通過時は総括が兼務する班長</p> <p>・6号及び7号伊中隊訓練室にて対応 ・現場にて対応を行う要員 ・現場にて対応を行う要員</p> <p>※上記①、②の要員については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	<p>①重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員 52名</p> <p>凡例： ：本部署内での対応 ：プルーフ通過時は総括が兼務する班長</p> <p>②原子炉格納容器の破損等による要員削減等による要員削減の抑制防止を行う要員 55名</p> <p>凡例： ：本部署内での対応 ：プルーフ通過時は総括が兼務する班長</p> <p>・6, 7号伊中隊訓練室にて対応 ・現場にて対応を行う要員 ・現場にて対応を行う要員</p> <p>※上記①、②の要員については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性がある。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
252	添付4-2	1.18-136	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所、中央制御室 事故発生からブルーム通過までの要員の動き</p> <p>※要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性があります。 ※1:1~5号炉に係る対応要員、※2:1~5号炉に係る対応要員(保安検査室の人数)</p>	<p>免震重要棟内緊急時対策所、中央制御室 事故発生からブルーム通過までの要員の動き</p> <p>※要員数については、今後の訓練等の結果により人数を見直す可能性があります。 ※1:1~5号炉に係る対応要員、※2:1~5号炉に係る対応要員(保安検査室の人数)</p>	<p>②(K5TSC設計進捗、免震重要棟の自主化)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
253	添付4-3	1.18-137	<p>添付4-3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所レイアウトについて 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所は, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)を設けており, 基準地震動による地震被災対応のため, 及び重大事故のブルーム通過時以外の対応のため, 約180名の緊急時対策要員が活動することを想定している。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)には, 必要な各作業用の机や設備等を配置しても, 活動に必要な広さを十分有している。 また, ブルーム通過中においても, 6号及び7号炉に係る重大事故等に対処するために必要な指示を行う要員に加え, 原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員としての69名, 1~5号炉に係る要員2名及び保安検査官の2名の合計73名が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)で, 現場要員40名と5号炉運転員8名の合計48名が5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)で活動することを想定し, 十分な広さと機能を有している。 第1図に示す要員のスペースにて, 休憩・仮眠を行う。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
254	添付4-3	1.18-138	<p>(b) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（待機場所） (注)レイアウトについては、1～5号炉対応要員も含めており、訓練等で有効性を確認し適宜見直していく。 自衛消防隊は状況に応じて緊急時対策本部に入る。</p> <p>第1図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所レイアウトイメージ</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
255	添付4-4	1.18-139	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に以下の数量を 配備 する。	免震重要棟内緊急時対策所, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所それぞれに以下の数量を 保管 する。	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																								
256	添付4-4	1.18-139	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>配備数*</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不織布カバーオール</td> <td>1,890着</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>靴下</td> <td>1,890足</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>帽子</td> <td>1,890着</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>綿手袋</td> <td>1,890双</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>ゴム手袋</td> <td>3,780双</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780</td> </tr> <tr> <td>全面マスク (電動ファン付き全面マスクを含む)</td> <td>810個</td> <td>180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810</td> </tr> <tr> <td>チャコールフィルタ</td> <td>3,780個</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780</td> </tr> <tr> <td>アノラック</td> <td>945着</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945</td> </tr> <tr> <td>汚染区域用靴</td> <td>40足</td> <td>80名(現場復旧要員65名+保安要員15名)×0.5(現場要員の半数)</td> </tr> <tr> <td>高線量対応防護服 (タンダステンベスト)</td> <td>14着</td> <td>14名(ブルーム通過直後に対応する現場復旧要員14名)</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>4台</td> <td>初期対応用3台+予備1台</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む(今後、訓練等で見直しを行う)</p>	品名	配備数*	考え方	不織布カバーオール	1,890着	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890	靴下	1,890足	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	帽子	1,890着	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	綿手袋	1,890双	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	ゴム手袋	3,780双	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780	全面マスク (電動ファン付き全面マスクを含む)	810個	180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810	チャコールフィルタ	3,780個	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780	アノラック	945着	180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945	汚染区域用靴	40足	80名(現場復旧要員65名+保安要員15名)×0.5(現場要員の半数)	高線量対応防護服 (タンダステンベスト)	14着	14名(ブルーム通過直後に対応する現場復旧要員14名)	セルフエアセット	4台	初期対応用3台+予備1台	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数*</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不織布カバーオール</td> <td>1,890着</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>靴下</td> <td>1,890足</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>帽子</td> <td>1,890着</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>綿手袋</td> <td>1,890双</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)=1,890</td> </tr> <tr> <td>ゴム手袋</td> <td>3,780双</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780</td> </tr> <tr> <td>全面マスク</td> <td>810個</td> <td>180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810</td> </tr> <tr> <td>チャコールフィルタ</td> <td>3,780個</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780</td> </tr> <tr> <td>アノラック</td> <td>945着</td> <td>180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945</td> </tr> <tr> <td>汚染区域用靴</td> <td>40足</td> <td>80名(現場復旧要員65名+放射線管理要員15名)×0.5(現場要員の半数)</td> </tr> <tr> <td>タンダステンベスト</td> <td>14着</td> <td>14名(ブルーム通過後現場復旧要員14名)</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>4台</td> <td>初期対応用3台+予備1台</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む(今後、訓練等で見直しを行う)</p>	品名	保管数*	考え方	不織布カバーオール	1,890着	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890	靴下	1,890足	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	帽子	1,890着	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	綿手袋	1,890双	180名×7日×1.5(余裕)=1,890	ゴム手袋	3,780双	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780	全面マスク	810個	180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810	チャコールフィルタ	3,780個	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780	アノラック	945着	180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945	汚染区域用靴	40足	80名(現場復旧要員65名+放射線管理要員15名)×0.5(現場要員の半数)	タンダステンベスト	14着	14名(ブルーム通過後現場復旧要員14名)	セルフエアセット	4台	初期対応用3台+予備1台	⑤
品名	配備数*	考え方																																																																											
不織布カバーオール	1,890着	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
靴下	1,890足	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
帽子	1,890着	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
綿手袋	1,890双	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
ゴム手袋	3,780双	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780																																																																											
全面マスク (電動ファン付き全面マスクを含む)	810個	180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810																																																																											
チャコールフィルタ	3,780個	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780																																																																											
アノラック	945着	180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945																																																																											
汚染区域用靴	40足	80名(現場復旧要員65名+保安要員15名)×0.5(現場要員の半数)																																																																											
高線量対応防護服 (タンダステンベスト)	14着	14名(ブルーム通過直後に対応する現場復旧要員14名)																																																																											
セルフエアセット	4台	初期対応用3台+予備1台																																																																											
品名	保管数*	考え方																																																																											
不織布カバーオール	1,890着	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕。以下同様)×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
靴下	1,890足	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
帽子	1,890着	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
綿手袋	1,890双	180名×7日×1.5(余裕)=1,890																																																																											
ゴム手袋	3,780双	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780																																																																											
全面マスク	810個	180名×3日(除染による再使用を考慮)×1.5(余裕)=810																																																																											
チャコールフィルタ	3,780個	180名×7日×1.5(余裕)×2=3,780																																																																											
アノラック	945着	180名×7日×1.5(余裕)×50%(年間降水日数を考慮)=945																																																																											
汚染区域用靴	40足	80名(現場復旧要員65名+放射線管理要員15名)×0.5(現場要員の半数)																																																																											
タンダステンベスト	14着	14名(ブルーム通過後現場復旧要員14名)																																																																											
セルフエアセット	4台	初期対応用3台+予備1台																																																																											
257	添付4-4	1.18-140	<p>○計測器 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に以下の数量を配備する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>配備数*</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計 電子式線量計</td> <td>180台</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)</td> </tr> <tr> <td>計 ガラスバッヂ</td> <td>180台</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)</td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>5台</td> <td>緊急時対策所のモニタリング及びチェンジングエリアにて使用</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>8台</td> <td>緊急時対策所のモニタリングに使用</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ</td> <td>3台</td> <td>各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む(今後、訓練等で見直しを行う)</p>	品名	配備数*	考え方	個人線量計 電子式線量計	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)	計 ガラスバッヂ	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)	GM汚染サーベイメータ	5台	緊急時対策所のモニタリング及びチェンジングエリアにて使用	電離箱サーベイメータ	8台	緊急時対策所のモニタリングに使用	可搬型エリアモニタ	3台	各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に	<p>○計測器 免震重要棟内緊急時対策所, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所それぞれに以下の数量を保管する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数*</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人線量計 電子式線量計</td> <td>180台</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分</td> </tr> <tr> <td>計 ガラスバッヂ</td> <td>180台</td> <td>180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分</td> </tr> <tr> <td>GM汚染サーベイメータ</td> <td>5台</td> <td>チェンジングエリアにて使用</td> </tr> <tr> <td>電離箱サーベイメータ</td> <td>8台</td> <td>現場作業時に使用</td> </tr> <tr> <td>可搬型エリアモニタ</td> <td>4台</td> <td>各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む(今後、訓練等で見直しを行う)</p>	品名	保管数*	考え方	個人線量計 電子式線量計	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分	計 ガラスバッヂ	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分	GM汚染サーベイメータ	5台	チェンジングエリアにて使用	電離箱サーベイメータ	8台	現場作業時に使用	可搬型エリアモニタ	4台	各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に	②(免震重要棟の自主化, K5TSC設計進捗)																																				
品名	配備数*	考え方																																																																											
個人線量計 電子式線量計	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)																																																																											
計 ガラスバッヂ	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)																																																																											
GM汚染サーベイメータ	5台	緊急時対策所のモニタリング及びチェンジングエリアにて使用																																																																											
電離箱サーベイメータ	8台	緊急時対策所のモニタリングに使用																																																																											
可搬型エリアモニタ	3台	各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に																																																																											
品名	保管数*	考え方																																																																											
個人線量計 電子式線量計	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分																																																																											
計 ガラスバッヂ	180台	180名(1~7号炉対策要員164名+白衛消防隊10名+余裕)分																																																																											
GM汚染サーベイメータ	5台	チェンジングエリアにて使用																																																																											
電離箱サーベイメータ	8台	現場作業時に使用																																																																											
可搬型エリアモニタ	4台	各エリアにて使用。設置のタイミングは、チェンジングエリア設置と同時に																																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																								
258	添付4-5	1.18-141	基本的な考え方とする。 なお、チェンジングエリアは6号及び7号炉共用とする。	基本的な考え方とする。	⑤																								
259	添付4-5	1.18-141	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化バウンダリに隣接するとともに、要員の被ばく低減の観点から5号炉原子炉建屋内に設置する。	免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に併設するとともに、緊急時対策要員の被ばく低減の観点からそれぞれ免震重要棟内及び5号炉原子炉建屋内に設置する。	②(免震重要棟の自主化、K5TSC設計進捗)																								
260	添付4-5	1.18-142	<p>第1表 チェンジングエリアの概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>5号炉原子炉建屋 3階</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント</td> </tr> </table> </td> <td>緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。</td> </tr> <tr> <td> <p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況(格納容器券囲気放射線レベル計(CAMS)等)により炉心損傷を判断した場合等、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p> </td> <td>緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。</td> </tr> <tr> <td> <p>実施者</p> <p>保安班</p> </td> <td>チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班が設営を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	理由	<table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>5号炉原子炉建屋 3階</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント</td> </tr> </table>	設営場所	5号炉原子炉建屋 3階	設営形式	エアータント	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。	<p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況(格納容器券囲気放射線レベル計(CAMS)等)により炉心損傷を判断した場合等、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p>	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。	<p>実施者</p> <p>保安班</p>	チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班が設営を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> </table> </td> <td>緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。</td> </tr> <tr> <td> <p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p> </td> <td>緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。</td> </tr> <tr> <td> <p>実施者</p> <p>保安班</p> </td> <td>チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班員が設営を行う。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	理由	<table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> </table>	設営場所	免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)	設営形式	エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。	<p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p>	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。	<p>実施者</p> <p>保安班</p>	チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班員が設営を行う。	②(免震重要棟の自主化、K5TSC設計進捗)
項目	理由																												
<table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>5号炉原子炉建屋 3階</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント</td> </tr> </table>	設営場所	5号炉原子炉建屋 3階	設営形式	エアータント	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。																								
設営場所	5号炉原子炉建屋 3階																												
設営形式	エアータント																												
<p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況(格納容器券囲気放射線レベル計(CAMS)等)により炉心損傷を判断した場合等、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p>	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。																												
<p>実施者</p> <p>保安班</p>	チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班が設営を行う。																												
項目	理由																												
<table border="1"> <tr> <td>設営場所</td> <td>免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> <tr> <td>設営形式</td> <td>エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)</td> </tr> </table>	設営場所	免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)	設営形式	エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、緊急時対策所への汚染の持ち込みを防止するため、モニタリング及び作業服の着替え等を行うための区画を設ける。																								
設営場所	免震重要棟 1階エントランス (免震重要棟内緊急時対策所) 5号炉原子炉建屋 3階 (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)																												
設営形式	エアータント (免震重要棟内緊急時対策所) 通路区画(常設) (5号炉原子炉建屋内緊急時対策所)																												
<p>手順着手の判断基準</p> <p>原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後、保安班長が、事象進展の状況、参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して、チェンジングエリア設営を行うと判断した場合。</p>	緊急時対策所の外側が放射性物質により汚染するようなおそれが発生した場合、チェンジングエリアの設営を行う。																												
<p>実施者</p> <p>保安班</p>	チェンジングエリアを速やかに設営できるよう定期的に訓練を行っている保安班員が設営を行う。																												
261	添付4-5	1.18-143	チェンジングエリアは、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所陽圧化バウンダリに隣接した場所に設置する。チェンジングエリアの設営場所及び屋内のアクセスルートは、第1図～第2図のとおり。 なお、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所対策本部及び待機場所に入室するアクセスルートは2ルート設けることから、使用するアクセスルートに応じてチェンジングエリアを設営する。	チェンジングエリアは、免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に併設する。チェンジングエリアの設営場所及び屋内のアクセスルートは、図1、2のとおり。	②(免震重要棟の自主化、K5TSC設計進捗)																								

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
262	添付4-5	1.18-143	削除	<p>図1 免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリアの設置場所及び屋内のアクセスルート</p> <p>枠囲みの内容は標榜事項に属しますので公開できません。</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
263	添付4-5	1.18-144	<p>a. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア (a) 5号炉原子炉建屋南側アクセスルートを使用する場合</p> <p>5号炉原子炉建屋 3階</p> <p>【凡例】 入室ルート 退室ルート ★ 乾電池内蔵型照明 可搬型 空気浄化装置 陽圧化バウンダリ</p> <p>第1図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリアの 設営場所及び屋内のアクセスルート (5号炉原子炉建屋南側アクセスルート)</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	<p>5号炉原子炉建屋 3階</p> <p>【凡例】 入室ルート 退室ルート ★ 乾電池内蔵型照明 可搬型 空気浄化装置</p> <p>図2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリアの 設営場所及び屋内のアクセスルート</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
264	添付4-5	1.18-145	<p>(b) 5号炉原子炉建屋北東側アクセスルートを使用する場合</p>	-	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
265	添付4-5	1.18-146	<p>チェンジングエリアの設営は, 保安班員2名で, 南側アクセスルートを使用する場合は約60分, 北東側アクセスルートを使用する場合は約90分を想定する。なお, チェンジングエリアが速やかに設営できるよう定期的に訓練を行い, 設営時間の短縮及び更なる改善を図ることとしている。</p> <p>チェンジングエリアの設営は, 原子力防災組織の緊急時対策要員(夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外))の保安班2名, 又は参集要員(10時間後までに参集)のうち, チェンジングエリアの設営に割り当てることができる要員で行う。設営の着手は, 保安班長が, 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後, 事象進展の状況(格納容器雰囲気放射線レベル計(CAMS)等により炉心損傷を判断した場合等), 参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して判断し, 速やかに実施する。</p>	<p>チェンジングエリアの設営は, 保安班員2名で免震重要棟内緊急時対策所では約60分, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所では通路等により, 区画を常設化しており, 付属品類の設営のみであることから約40分を想定する。</p> <p>なお, チェンジングエリアが速やかに設営できるよう定期的に訓練を行い, 設営時間の短縮及び更なる改善を図ることとしている。チェンジングエリアの設営は, 原子力防災組織の要員(夜間・休祭日)の保安班2名, 又は参集要員(10時間後までに参集)のうち, チェンジングエリアの設営に割り当てることができる要員で行う。設営の着手は, 保安班長が, 原子力災害対策特別措置法第10条特定事象が発生した後, 事象進展の状況, 参集済みの要員数及び保安班が実施する作業の優先順位を考慮して判断し, 速やかに実施する。</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
266	添付4-5	1.18-146	削除	<p>図4 免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリア</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
267	添付4-5	1.18-147	<p>(a) 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 ①5号炉原子炉建屋南側アクセスルートを使用する場合</p> <p>第4図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア (5号炉原子炉建屋南側アクセスルート)</p>	<p>第5図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
268	添付4-5	1.18-148	<p>②5号伊原子伊雑壘北東側アクセスルートを使用する場合 5号伊原子伊雑壘3階 チェンジングエリア</p> <p>約2.5m 約2.2m フェンス区画</p> <p>対策本部 約1.5m</p> <p>可搬型空気浄化装置 (循環) チェンジングエリア付近の空気を循環させ、空気中の放射性物質を低減する</p> <p>脱着シャワー 身体に付着した放射性物質の除去は、原則試みを行わずに実施する。試みられない場合を考慮し、あらかじめ作業する</p> <p>待機場所 約2m</p> <p>チェンジングエリア 約2.5m</p> <p>機外 約1.1m</p> <p>可搬型空気浄化装置 (機外) 機外エリアの空気を連続的に浄化することで、汚染拡大を防止する</p> <p>エアータンク 放射性物質の積塵を防止するために設置</p> <p>防護マット 靴に付着した放射性物質を押し込まないように設置</p> <p>ヘルメット掛け</p> <p>第5図 5号伊原子伊雑壘内緊急時対策所チェンジングエリア (5号伊原子伊雑壘北東側アクセスルート)</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
269	添付4-5	1.18-149	<p>チェンジングエリア用資機材については、運用開始後のチェンジングエリアの補修や汚染によるシート張替え等も考慮して、第2表のとおりとする。チェンジングエリア用資機材は、チェンジングエリア付近に保管する。なお、アクセスルートに応じてチェンジングエリアを設営するため、チェンジングエリア用資機材は南側アクセスルート又は北東側アクセスルートのチェンジングエリア設営に必要な最大数を保管する。</p>	<p>チェンジングエリア用資機材については、運用開始後のチェンジングエリアの補修や汚染によるシート張替え等も考慮して、表2, 3のとおりとする。</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																										
270	添付4-5	1.18-149	削除	<p>表2 免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリア用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量 (6/7号戸共用)</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エアータント</td><td>1式</td><td rowspan="16">チェンジングエリア設営に必要な数量</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>3巻</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>6個</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>20枚</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>4枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ゴミ箱</td><td>14個</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>40枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>20巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>6個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>2台 (予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>4台 (予備1台)</td></tr> </tbody> </table>	名称	数量 (6/7号戸共用)	根拠	エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量	養生シート	3巻	バリア	6個	フェンス	20枚	粘着マット	4枚	ヘルメット掛け	1式	ゴミ箱	14個	ポリ袋	40枚	テープ	20巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10巻	はさみ	6個	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	2台 (予備1台)	乾電池内蔵型照明	4台 (予備1台)	②(免震重要棟の自主化)
名称	数量 (6/7号戸共用)	根拠																																													
エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量																																													
養生シート	3巻																																														
バリア	6個																																														
フェンス	20枚																																														
粘着マット	4枚																																														
ヘルメット掛け	1式																																														
ゴミ箱	14個																																														
ポリ袋	40枚																																														
テープ	20巻																																														
ウエス	2箱																																														
ウェットティッシュ	10巻																																														
はさみ	6個																																														
マジック	2本																																														
簡易シャワー	1台																																														
簡易タンク	1台																																														
トレイ	1個																																														
バケツ	2個																																														
可搬型空気浄化装置	2台 (予備1台)																																														
乾電池内蔵型照明	4台 (予備1台)																																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】


- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																
271	添付4-5	1.18-149	<p>第2表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量(6号及び7号炉共用)</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エアータント(南側ルート)</td><td>1式</td><td rowspan="18">チェンジングエリア 設営に必要な数量</td></tr> <tr><td>エアータント(北東側ルート)</td><td>1式</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>3巻</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>4個</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>28枚</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>25枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>5巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>6個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>3台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>7台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table>	名称	数量(6号及び7号炉共用)	根拠	エアータント(南側ルート)	1式	チェンジングエリア 設営に必要な数量	エアータント(北東側ルート)	1式	養生シート	3巻	バリア	4個	フェンス	28枚	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	25枚	テープ	5巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10巻	はさみ	6個	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	3台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	7台(予備1台)	<p>表3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリア用資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>数量(6/7号炉共用)</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>養生シート</td><td>3巻</td><td rowspan="18">チェンジングエリア設営に 必要な数量</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>4個</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>9枚</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>25枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>5巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>6個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>2台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>2台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table>	名称	数量(6/7号炉共用)	根拠	養生シート	3巻	チェンジングエリア設営に 必要な数量	バリア	4個	フェンス	9枚	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	25枚	テープ	5巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10巻	はさみ	6個	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)	②(K5TSC設計進捗)
名称	数量(6号及び7号炉共用)	根拠																																																																																			
エアータント(南側ルート)	1式	チェンジングエリア 設営に必要な数量																																																																																			
エアータント(北東側ルート)	1式																																																																																				
養生シート	3巻																																																																																				
バリア	4個																																																																																				
フェンス	28枚																																																																																				
粘着マット	2枚																																																																																				
ヘルメット掛け	1式																																																																																				
ポリ袋	25枚																																																																																				
テープ	5巻																																																																																				
ウエス	2箱																																																																																				
ウェットティッシュ	10巻																																																																																				
はさみ	6個																																																																																				
マジック	2本																																																																																				
簡易シャワー	1台																																																																																				
簡易タンク	1台																																																																																				
トレイ	1個																																																																																				
バケツ	2個																																																																																				
可搬型空気浄化装置	3台(予備1台)																																																																																				
乾電池内蔵型照明	7台(予備1台)																																																																																				
名称	数量(6/7号炉共用)	根拠																																																																																			
養生シート	3巻	チェンジングエリア設営に 必要な数量																																																																																			
バリア	4個																																																																																				
フェンス	9枚																																																																																				
粘着マット	2枚																																																																																				
ヘルメット掛け	1式																																																																																				
ポリ袋	25枚																																																																																				
テープ	5巻																																																																																				
ウエス	2箱																																																																																				
ウェットティッシュ	10巻																																																																																				
はさみ	6個																																																																																				
マジック	2本																																																																																				
簡易シャワー	1台																																																																																				
簡易タンク	1台																																																																																				
トレイ	1個																																																																																				
バケツ	2個																																																																																				
可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)																																																																																				
乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)																																																																																				
272	添付4-5		1.18-153	<p>空气中放射性物質濃度の測定を実施し、必要に応じチェンジングエリアの除染を実施する。なお、測定及び除染を行った要員は、脱衣エリアにて脱衣を行う。 ただし、5号炉原子炉建屋北東側アクセスルートのチェンジングエリアの北西側通路で測定及び除染を行った要員が、北東側の脱衣エリアまで移動できない場合は、北西側通路近傍に汚染拡大防止のための簡易的なエリアを区画し、脱衣を行う。</p>	<p>空气中放射性物質濃度の測定を実施する。</p>	②(K5TSC設計進捗)																																																																															
273	添付4-5	1.18-155	<p>チェンジングエリアは、</p>	<p>免震重要棟チェンジングエリアは、</p>	②(免震重要棟の自主化)																																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
274	添付4-5	1.18-155	削除	<p>c. チェンジングエリアへの空気の流れ</p> <p>(a) 免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリア</p> <p>免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリアは、一定の気密性が確保された免震重要棟内の1階エントランスに設置し、図9のように、汚染の区分ごとに空間を区画し、汚染を管理する。</p> <p>また、更なる被ばく低減のため、可搬型空気浄化装置を2台設置する。1台は1階エントランス内を循環運転することにより1階エントランス空間全体の放射性物質を低減し、もう1台は、脱衣を行うホットエリアの空気を吸い込み浄化し、チェンジングエリアに図9のように空気の流れをつくることで脱衣による汚染拡大を防止する。</p>  <p>図9 免震重要棟内緊急時対策所チェンジングエリアの空気の流れ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	②(免震重要棟の自主化)
275	添付4-5	1.18-156	5号炉原子炉建屋南側アクセスルートを使用する場合は第9図, 5号炉原子炉建屋北東側アクセスルートを使用する場合は第10図のように、汚染の区分ごとにエリアを区画し、汚染を管理する。	図9のように、汚染の区分ごとに空間を区画し、汚染を管理する。	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

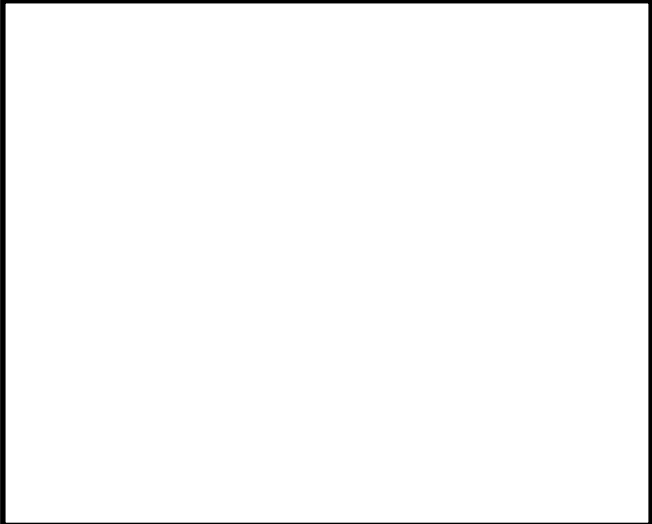
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
276	添付4-5	1.18-156	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; margin-top: 10px;"></div> <p>第9図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリアの空気の流れ (5号炉原子炉建屋南側アクセスルート)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。 </div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; margin-top: 10px;"></div> <p>図5.1-10 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェンジングエリアの空気の流れ</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

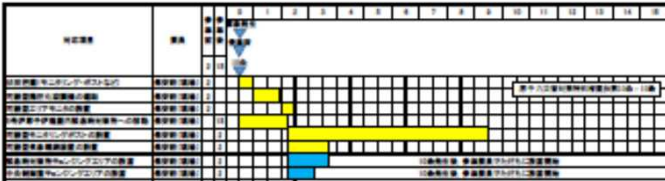
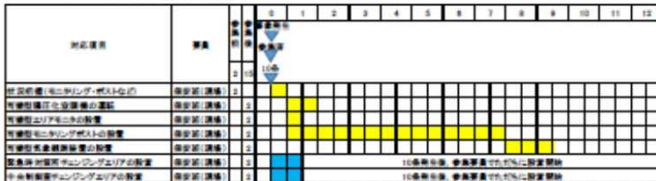
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
277	添付4-5	1.18-157	 <p>第10図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所チェン징エリアの空気の流れ (5号炉原子炉建屋北東側アクセスルート)</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	—	②(K5TSC設計進捗)
278	添付4-5	1.18-160	<p>9. チェン징エリアのスペースについて 緊急時対策所における現場作業を行う要員は、ブルーム通過直後に作業を行うことを想定している要員数14名を考慮し, 同時に14名の要員がチェン징エリア内に収容できる設計とする。チェン징エリアに同時に14名の要員が来た場合, 全ての要員が緊急時対策所に入りきるまで約30分であり, 全ての要員が汚染している場合でも約56分であることを確認している。 また, 仮に想定人数以上の要員が同時にチェン징エリアに来た場合でもチェン징エリアは建屋内に設置しており, 屋外での待機はなく不要な被ばくを防止することができる。</p>	<p>9. チェン징エリアのスペースについて 緊急時対策所における現場作業を行う要員は、ブルーム通過時現場復旧班要員である14名を想定し, 同時に14名の要員がチェン징エリア内に収容できる設計とする。チェン징エリアに同時に14名の要員が来た場合, 全ての要員が緊急時対策所に入りきるまで約30分であり, 全ての要員が汚染している場合でも約56分であることを確認している。 また, 仮に想定人数以上の要員が同時にチェン징エリアに来た場合でもチェン징エリアは建屋内に設置しており, 屋外での待機はなく不要な被ばくを防止することができる。</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
279	添付4-5	1.18-160	<p>10. 保安班の緊急時対応のケーススタディー 保安班は、チェンジングエリアの設営以外に、緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転(約60分)、可搬型エリアモニタの設置(20分)、可搬型モニタリングポストの設置(最大435分)、可搬型気象観測装置の設置(90分)を行うことを想定している。これら対応項目の優先順位については、保安班長が状況に応じ判断する。以下にタイムチャートの例を示す。なお、緊急時対策所のチェンジングエリアは、北東側ルートを設営した場合(90分)を想定する。 例えば、平日の勤務時間帯に事故が発生した場合(ケース①)には、全ての対応を並行して実施することになる。また、夜間・休日(平日の勤務時間帯以外)に事故が発生した場合で、原子力災害対策特別措置法第10条発生直後から周辺環境が汚染してしまうような事象が発生した場合(ケース②)は、原子力防災組織の緊急時対策要員の保安班2名で、チェンジングエリアの設営を優先し、次に可搬型モニタリングポスト等の設置を行うことになる。</p>	<p>10. 保安班の緊急時対応のケーススタディー 保安班は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を使用することが決定した場合、チェンジングエリアの設置以外に、緊急時対策所の可搬型陽圧化空調機運転(約48分)、可搬型エリアモニタの設置(30分)、可搬型モニタリングポストの設置(最大420分)、可搬型気象観測装置の設置(90分)を行うことを技術的能力にて説明している。これら対応項目の優先順位については、保安班長が状況に応じ判断する。以下にタイムチャートを示す。 例えば、平日昼間に事故が発生した場合(ケース①)には、すべての対応を並行して実施することになる。また、夜間・休日に事故が発生した場合で、10条発生直後から周辺環境が汚染してしまうような事象が発生した場合(ケース②)は、原子力防災組織の要員の保安班2名で、チェンジングエリアの設営を優先し、次に可搬型モニタリングポスト等の設置を行うことになる。</p>	⑤
280	添付4-5	1.18-161	<p>・ケース①(平日の勤務時間帯の場合)</p> 	<p>・ケース①(平日昼間の場合)</p> 	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

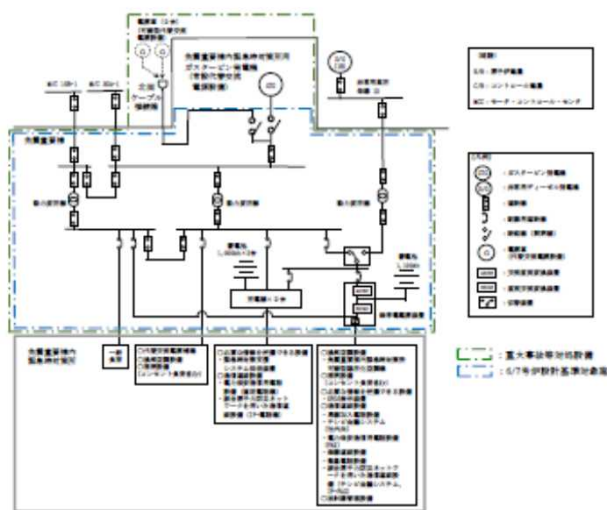
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																										
281	添付4-5	1.18-161	<p>・ケース②（夜間・休日（平日の勤務時間帯以外）に事故が発生した場合）</p> <p>※可搬型モニタリングポストの設置の前に、保安班長の判断によりチェンジングエリアの設置を優先。</p>	<p>・ケース②（夜間・休祭日）に大規模損壊事象が発生した場合）</p> <p>※可搬型モニタリングポストの設置の前に、保安班長の判断によりチェンジングエリアの設置を優先。</p>	⑤																																										
282	添付4-6	1.18-162	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に以下の数量を保管する。	免震重要棟内緊急時対策所、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のそれぞれに以下の数量を保管する。	②(免震重要棟の自主化)																																										
283	添付4-6	1.18-162	2. その他資機材 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に以下の数量を保管する。	2. その他資機材 免震重要棟内緊急時対策所、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のそれぞれに以下の数量を保管する。	②(免震重要棟の自主化)																																										
284	添付4-6	1.18-162	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td>3台</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td>3台</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ（回線、機器）</td> <td>1式</td> <td>報道や気象情報等を入手するため</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン（回線、機器）</td> <td>1式</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため</td> </tr> <tr> <td>簡易トイレ</td> <td>1式</td> <td>ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>1,440錠</td> <td>180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）</td> </tr> </tbody> </table>	品名	保管数	考え方	酸素濃度計	3台	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）	二酸化炭素濃度計	3台	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）	一般テレビ（回線、機器）	1式	報道や気象情報等を入手するため	社内パソコン（回線、機器）	1式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため	簡易トイレ	1式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため	ヨウ素剤	1,440錠	180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td>2台</td> <td>予備を含む</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td>2台</td> <td>予備を含む</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ（回線、機器）</td> <td>1式</td> <td>報道や気象情報等を入手するため</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン（回線、機器）</td> <td>1式</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため</td> </tr> <tr> <td>簡易トイレ</td> <td>1式</td> <td>ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>1,440錠</td> <td>180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）</td> </tr> </tbody> </table>	品名	保管数	考え方	酸素濃度計	2台	予備を含む	二酸化炭素濃度計	2台	予備を含む	一般テレビ（回線、機器）	1式	報道や気象情報等を入手するため	社内パソコン（回線、機器）	1式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため	簡易トイレ	1式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため	ヨウ素剤	1,440錠	180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）	②(K5TSC設計進捗)
品名	保管数	考え方																																													
酸素濃度計	3台	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）																																													
二酸化炭素濃度計	3台	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部、待機場所）に設置（予備含む）																																													
一般テレビ（回線、機器）	1式	報道や気象情報等を入手するため																																													
社内パソコン（回線、機器）	1式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため																																													
簡易トイレ	1式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため																																													
ヨウ素剤	1,440錠	180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）																																													
品名	保管数	考え方																																													
酸素濃度計	2台	予備を含む																																													
二酸化炭素濃度計	2台	予備を含む																																													
一般テレビ（回線、機器）	1式	報道や気象情報等を入手するため																																													
社内パソコン（回線、機器）	1式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため																																													
簡易トイレ	1式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要がないようにするため																																													
ヨウ素剤	1,440錠	180名（1～7号炉対応の緊急時対策要員164名＋自衛消防隊10名＋余裕）×（初日2錠＋2日目以降1錠/日×6日）																																													

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
285	添付5-1	1.18-162	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油操作について</p> <p>1. 電源系統</p> <p>免震重要棟内緊急時対策所の電源系統図は図1のとおり。</p>  <p>図1. 免震重要棟内緊急時対策所 電源構成</p>	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
286	添付5-1	1.18-162	削除	<p>2. 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミングについて (格納容器ベント成功の場合)</p> <p>免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機は、免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機用地下貯油タンク (30kL) の燃料を満杯にすることにより、免震重要棟内緊急時対策所 1 階 (待避室) の実負荷時には約 90 時間の連続運転が可能である。</p> <p>免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミングを図 2 に示す。</p> <p>格納容器ベント前に予め免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機用地下貯油タンクへの給油を行い、格納容器ベント失敗に備え、燃料を満杯にしたタンクローリ (16kL) 1 台とタンクローリ (4kL) 1 台を地下貯油タンク付近に駐車しておき、格納容器ベント成功をもってタンクローリ (16kL) 1 台のみを使用することとし、事象発生後約 110 時間後及び 160 時間後給油を行うことで、7 日間運転可能である。(連続運転時間については後述の 3. 参照)</p> <p>なお、給油については、可搬型モニタリング設備及び格納容器の圧力等を監視し、適切なタイミングで行うこととする。給油作業にかかる被ばく量は表 1 のとおり。</p> <p>図 2 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミング (格納容器ベント成功の場合)</p> <p><被ばく量の評価条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災プラント：6号炉及び7号炉 ・ソースルーム：6号炉格納容器ベント実施、7号炉代替蒸発冷却成功 ・評価点：6号炉可搬型代替注水ポンプ (防大水槽取水) の設置箇所 	②(免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由								
287	添付5-1	1.18-162	削除	<p>(補給のために免震重要棟よりも原発プラントに近い6号炉及び7号炉軽油タンクエリアに移動することから、保守的に選定。配置見直し等により、今後見直す可能性がある。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気拡散条件：原発プラント周辺現場作業エリアのうち厳しい評価結果を与える作業場所の相対濃度及び相対線量を参照 ・評価時間：合計75分(作業場所への移動：10分、作業：55分、作業場所からの移動：10分) <p>(57条補足説明資料 57-11「燃料補給に関する補足説明資料」に記載した現場作業時間55分(訓練実績、ポンプ性能を用いた机上検討等から算定)に、保守的に移動時間中も同じ線量率で被ばくするものとして往復20分(発電所内移動時間の実績から算定)を加えたもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遮蔽：考慮しない ・マスクによる防護係数：50 ・被ばく経路：以下を考慮 <ul style="list-style-type: none"> 二次格納施設内に浮遊する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく。 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく。 放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばく。 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく。 格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びに配管内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく <p>表1 6号炉放出時における燃料補給に伴う単位時間当たり被ばく量 (6号炉と7号炉からの寄与の和) (μSv)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">格納容器ベント開始後経過時間[h]</th> </tr> <tr> <th>110</th> <th>160</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給出作業に伴う被ばく量</td> <td>約38</td> <td>約28</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 連続運転時間及び要求される負荷 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機の仕様は、表2のとおり。 また、免震重要棟内緊急時対策所2階の必要な負荷は表3、免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の必要な負荷は表4のとおり。</p>		格納容器ベント開始後経過時間[h]		110	160	給出作業に伴う被ばく量	約38	約28	②(免震重要棟の自主化)
	格納容器ベント開始後経過時間[h]												
	110	160											
給出作業に伴う被ばく量	約38	約28											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																															
288	添付5-1	1.18-162	削除	<p>表2 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機</th> <th>(参考)5号炉の非常用 ディーゼル発電機</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>容量</td> <td>約1,000kVA</td> <td>約8,250kVA</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>6.9kV</td> <td>6.9kV</td> </tr> <tr> <td>力率</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>表3 免震重要棟内緊急時対策所2階 必要な負荷</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>負荷名称</th> <th>負荷容量(kVA)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代替交流電源補機</td> <td>約20kVA</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備</td> <td>約240kVA</td> </tr> <tr> <td>照明設備(コンセント負荷含む)</td> <td>約80kVA</td> </tr> <tr> <td>必要な情報を把握できる設備, 通信連絡設備</td> <td>約115kVA</td> </tr> <tr> <td>放射線管理設備</td> <td>約55kVA</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約510kVA</td> </tr> </tbody> </table> <p>表4 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室) 必要な負荷</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>負荷名称</th> <th>負荷容量(kVA)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>代替交流電源補機</td> <td>約20kVA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>換気空調設備</td> <td>約5kVA</td> <td></td> </tr> <tr> <td>照明設備 (コンセント負荷含む)</td> <td>約80kVA</td> <td>免震重要棟床面積約4,100m²が 給電対象</td> </tr> <tr> <td>必要な情報を把握できる 設備, 通信連絡設備</td> <td>約115kVA</td> <td>テレビ会議システム及び 重大事故等時に必要な負荷^{※1} : 約35kVA</td> </tr> <tr> <td>放射線管理設備</td> <td>約55kVA</td> <td>重大事故等時に必要な負荷^{※2} : 約10kVA</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約275kVA</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 重大事故等時に必要な負荷: 無線連絡設備, 衛星電話設備, 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備, 緊急時対策支援システム伝送装置, SPDS表示装置</p> <p>※2 重大事故等時に必要な負荷: モニタリングポスト及び気象データを監視する装置, 原子力発電所周辺線量予測評価システム, 個人線量計用充電器, 可搬型空気浄化装置(チェンジングエリア用)</p>		免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機	(参考)5号炉の非常用 ディーゼル発電機	容量	約1,000kVA	約8,250kVA	電圧	6.9kV	6.9kV	力率	0.8	0.8	負荷名称	負荷容量(kVA)	代替交流電源補機	約20kVA	換気空調設備	約240kVA	照明設備(コンセント負荷含む)	約80kVA	必要な情報を把握できる設備, 通信連絡設備	約115kVA	放射線管理設備	約55kVA	合計	約510kVA	負荷名称	負荷容量(kVA)	備考	代替交流電源補機	約20kVA		換気空調設備	約5kVA		照明設備 (コンセント負荷含む)	約80kVA	免震重要棟床面積約4,100m ² が 給電対象	必要な情報を把握できる 設備, 通信連絡設備	約115kVA	テレビ会議システム及び 重大事故等時に必要な負荷 ^{※1} : 約35kVA	放射線管理設備	約55kVA	重大事故等時に必要な負荷 ^{※2} : 約10kVA	合計	約275kVA		②(免震重要棟の自主化)
	免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機	(参考)5号炉の非常用 ディーゼル発電機																																																		
容量	約1,000kVA	約8,250kVA																																																		
電圧	6.9kV	6.9kV																																																		
力率	0.8	0.8																																																		
負荷名称	負荷容量(kVA)																																																			
代替交流電源補機	約20kVA																																																			
換気空調設備	約240kVA																																																			
照明設備(コンセント負荷含む)	約80kVA																																																			
必要な情報を把握できる設備, 通信連絡設備	約115kVA																																																			
放射線管理設備	約55kVA																																																			
合計	約510kVA																																																			
負荷名称	負荷容量(kVA)	備考																																																		
代替交流電源補機	約20kVA																																																			
換気空調設備	約5kVA																																																			
照明設備 (コンセント負荷含む)	約80kVA	免震重要棟床面積約4,100m ² が 給電対象																																																		
必要な情報を把握できる 設備, 通信連絡設備	約115kVA	テレビ会議システム及び 重大事故等時に必要な負荷 ^{※1} : 約35kVA																																																		
放射線管理設備	約55kVA	重大事故等時に必要な負荷 ^{※2} : 約10kVA																																																		
合計	約275kVA																																																			

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由									
289	添付5-1	1.18-162	削除	<p>免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の燃料消費率は表5のとおりである。免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の運用に必要な負荷容量は約275kVA(力率を0.8として220kW)であり, 220kWの負荷に対して, 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機用地下貯油タンク(30kL)により約90時間以上の連続運転が可能である。</p> <p>表5 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機 燃費</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機 燃料消費率(1/h)</th> <th>運転連続時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>800kW(100%負荷)</td> <td></td> <td>約68時間</td> </tr> <tr> <td>220kW(実負荷)</td> <td></td> <td>約103時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】地下貯油タンク容量 30,000リットル</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>		免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機 燃料消費率(1/h)	運転連続時間	800kW(100%負荷)		約68時間	220kW(実負荷)		約103時間	②(免震重要棟の自主化)
	免震重要棟内緊急時対策 所用ガスタービン発電機 燃料消費率(1/h)	運転連続時間												
800kW(100%負荷)		約68時間												
220kW(実負荷)		約103時間												

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																														
290	添付5-1	1.18-162	削除	<p>【補足】免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミングと被ばく線量について（格納容器破損の場合）</p> <p>緊急時対策所の居住性評価で想定する格納容器が破損した場合の免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミングを図3に示す。</p> <p>格納容器ベント前に予め免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機用地下貯油タンクへの給油を行い、格納容器ベント失敗に備え、燃料を満杯にしたタンクローリー（16kL）1台とタンクローリー（4kL）1台を地下貯油タンク付近に駐車しておき、給油員は免震重要棟内緊急時対策所1階（待避室）に退避する。本ケースでは格納容器ベントに失敗し、格納容器が破損することから、格納容器ベント成功ケースとは異なり、駐車しておいたタンクローリー（16kL）1台とタンクローリー（4kL）1台をそのまま使用する。</p> <p>格納容器が破損した場合、事故発生から110時間後に地下貯油タンク近傍に駐車してあったタンクローリー（16kL）から地下貯油タンクに給油を行うことで、約50時間の運転が可能である。また、事故発生から160時間後に地下貯油タンク近傍に駐車してあったタンクローリー（4kL）から地下貯油タンクに給油することにより、約12時間運転することが可能である。これにより7日間の連続運転が可能である。（連続運転時間については前述の3.参照）</p> <p>また、給油作業は発電所外からの作業員が行うこととする。給油作業にかかる被ばく線量は表5のとおり。給油は2名1組で対応することから、給油時は1名で行い、残る1名は線量影響の少ない免震重要棟内緊急時対策所に待避して、交代で対応するなど被ばく低減に努める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>事故前</th> <th>0</th> <th>24</th> <th>48</th> <th>72</th> <th>96</th> <th>120</th> <th>144</th> <th>168</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事故</td> <td></td> <td>↓ 事故発生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機</td> <td></td> <td>↑</td> <td>▲ (16kL)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▲ (4kL)</td> <td>▲ (4kL)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※：「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド」に基づく事故進展時間</p> <p>図3 免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機の給油タイミング（格納容器が破損した場合）</p>	時間	事故前	0	24	48	72	96	120	144	168	事故		↓ 事故発生								免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機		↑	▲ (16kL)				▲ (4kL)	▲ (4kL)		②(免震重要棟の自主化)
時間	事故前	0	24	48	72	96	120	144	168																										
事故		↓ 事故発生																																	
免震重要棟内緊急時対策用ガスタービン発電機		↑	▲ (16kL)				▲ (4kL)	▲ (4kL)																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由						
291	添付5-1	1.18-162	削除	<p><被ばく線量の評価条件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災プラント：6号炉及び7号炉 ・ ソースターム：福島第一原子力発電所事故と同等 ・ 大気拡散条件：免震重要棟内緊急時対策所を評価点とした場合の相対濃度を参照（6号炉放出時：$5.8 \times 10^{-4} (\text{g}/\text{m}^3)$、7号炉放出時：$6.5 \times 10^{-4} (\text{g}/\text{m}^3)$） ・ 評価時間 <ul style="list-style-type: none"> - 1度目の給油時：合計75分（作業場所への移動：10分、作業：55分、作業場所からの移動：10分） - 2度目の給油時：合計75分（作業場所への移動：10分、作業：55分、作業場所からの移動：10分） ・ 遮蔽：考慮しない ・ 被ばく経路：影響が支配的となる、地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばくを考慮 <p>表5 給油作業に係る被ばく線量（6号炉と7号炉からの寄与の和）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業開始時間 （事故発生後の経過時間）(h)</th> <th>110</th> <th>160</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業に係る被ばく線量 (mSv)</td> <td>約 98</td> <td>約 73</td> </tr> </tbody> </table>	作業開始時間 （事故発生後の経過時間）(h)	110	160	作業に係る被ばく線量 (mSv)	約 98	約 73	②(免震重要棟の自主化)
作業開始時間 （事故発生後の経過時間）(h)	110	160									
作業に係る被ばく線量 (mSv)	約 98	約 73									

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

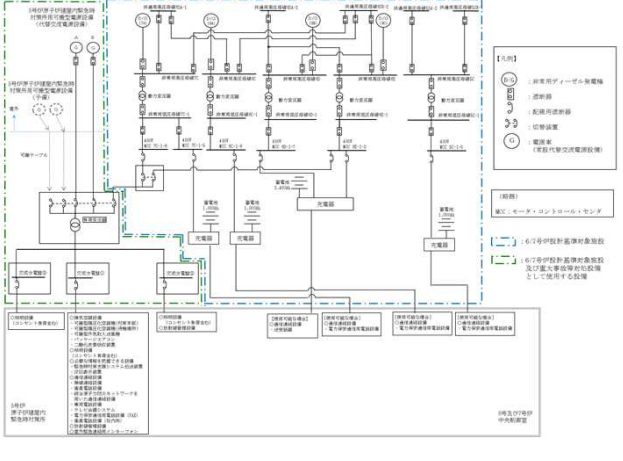
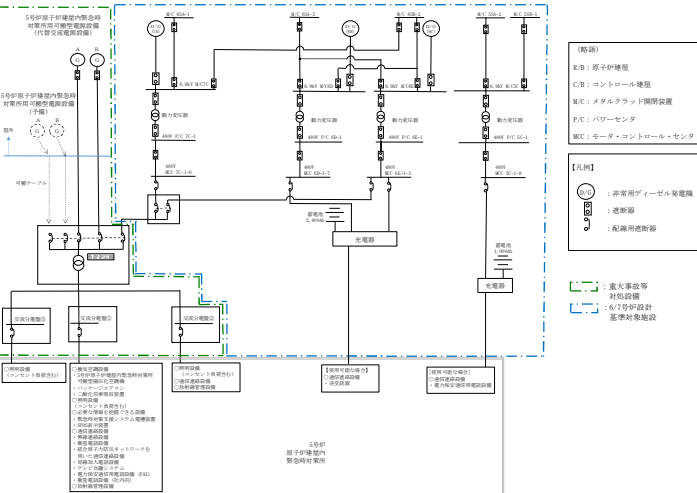
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
292	添付5-1	1.18-163	<p>1. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の起動及び受電操作概要</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を起動したのち、負荷変圧器の遮断機操作により、通常時に使用する所内電源設備から5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備からの受電に切り替える。</p> <p>2. 必要要員数・実施可能時間</p> <p>(1) 必要要員数：復旧班2名（現場要員ではなく、本部要員から選任）</p> <p>(2) 実施可能時間：約25分</p> <p>3. 系統構成</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の電源構成は第1図のとおり。</p> <p>4. 手順</p> <p>① ケーブルを接続の上、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を起動する。</p> <p>② 電源設備の出力遮断器を「入」とする。</p> <p>③ 負荷変圧器配置場所へ移動し、受電遮断器を切り替えて給電を開始する。</p>	<p>1. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の起動及び受電操作概要</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を起動したのち、負荷変圧器の遮断機操作により、通常時に使用する所内電源設備から原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備からの受電に切り替える。</p> <p>2. 必要要員数・実施可能時間</p> <p>(1) 必要要員数：本部付2名（現場要員ではなく、本部要員から選任）</p> <p>(2) 実施可能時間：約15分</p> <p>3. 系統構成</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の電源構成は図1のとおり。</p> <p>4. 手順</p> <p>① 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備を起動する。</p> <p>② 電源設備の出力電圧、周波数を確認し、出力遮断器を「入」とする。</p> <p>③ 負荷変圧器の遮断機操作により、通常時に使用する所内電源設備から原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備からの受電に切り替え、給電を開始する。</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
293	添付5-1	1.18-164	 <p data-bbox="537 853 1075 885">第1図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 電源構成</p>	 <p data-bbox="1310 853 1825 885">図1 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 電源構成</p>	<p data-bbox="1960 582 2105 638">②(K5TSC設計進捗)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
294	添付5-1	1.18-165	<p>第2図 有効性評価タイムチャート(格納容器過圧・過温破壊)上の可搬型電源設備起動タイミング</p>	<p>図2 有効性評価タイムチャート(格納容器過圧・過温破壊)上の可搬型電源設備起動タイミング</p>	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																
295	添付5-1	1.18-166	<p>5. 連続運転時間および要求される負荷 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の仕様は、第1表のとおり。また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の必要な負荷は第2表のとおり。</p> <p>第1表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の仕様</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型電 源設備</td> <td>(参考) 6号及び7号炉の非常用 ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>約200kVA</td> <td>約6,250kVA</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>440V</td> <td>6.9kV</td> </tr> <tr> <td>力率</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> </tr> </table> <p>第2表 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 必要な負荷</p> <table border="1"> <tr> <td>負荷名称</td> <td>負荷容量(kVA)</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備</td> <td>約21kVA</td> </tr> <tr> <td>照明設備(コンセント負荷含む)</td> <td>約12kVA</td> </tr> <tr> <td>安全パラメータ表示システム(SPOIS)、通信連絡設備*</td> <td>約13kVA</td> </tr> <tr> <td>放射線管理設備</td> <td>約14kVA</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約60kVA</td> </tr> </table> <p>※ 電力保安通信用電話設備及び送受話器は除く</p>		5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型電 源設備	(参考) 6号及び7号炉の非常用 ディーゼル発電機	容量	約200kVA	約6,250kVA	電圧	440V	6.9kV	力率	0.8	0.8	負荷名称	負荷容量(kVA)	換気空調設備	約21kVA	照明設備(コンセント負荷含む)	約12kVA	安全パラメータ表示システム(SPOIS)、通信連絡設備*	約13kVA	放射線管理設備	約14kVA	合計	約60kVA	<p>5. 連続運転時間および要求される負荷 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の仕様は、表1のとおり。また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の必要な負荷は表2のとおり。</p> <p>表1 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備の仕様</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型 電源設備</td> <td>(参考) 5号炉の非常用 ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>約200kVA</td> <td>約6,250kVA</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>440V</td> <td>6.9kV</td> </tr> <tr> <td>力率</td> <td>0.8</td> <td>0.8</td> </tr> </table> <p>表2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 必要な負荷</p> <table border="1"> <tr> <td>負荷名称</td> <td>負荷容量(kVA)</td> </tr> <tr> <td>換気空調設備</td> <td>約13kVA</td> </tr> <tr> <td>照明設備(コンセント負荷含む)</td> <td>約19kVA</td> </tr> <tr> <td>必要な情報を把握できる設備、通信連絡設備*</td> <td>約17kVA</td> </tr> <tr> <td>放射線管理設備</td> <td>約11kVA</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約60kVA</td> </tr> </table> <p>※ 電力保安通信用電話設備及び送受話器は除く</p>		5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型 電源設備	(参考) 5号炉の非常用 ディーゼル発電機	容量	約200kVA	約6,250kVA	電圧	440V	6.9kV	力率	0.8	0.8	負荷名称	負荷容量(kVA)	換気空調設備	約13kVA	照明設備(コンセント負荷含む)	約19kVA	必要な情報を把握できる設備、通信連絡設備*	約17kVA	放射線管理設備	約11kVA	合計	約60kVA	②(K5TSC設計進捗)
	5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型電 源設備	(参考) 6号及び7号炉の非常用 ディーゼル発電機																																																			
容量	約200kVA	約6,250kVA																																																			
電圧	440V	6.9kV																																																			
力率	0.8	0.8																																																			
負荷名称	負荷容量(kVA)																																																				
換気空調設備	約21kVA																																																				
照明設備(コンセント負荷含む)	約12kVA																																																				
安全パラメータ表示システム(SPOIS)、通信連絡設備*	約13kVA																																																				
放射線管理設備	約14kVA																																																				
合計	約60kVA																																																				
	5号炉原子炉建屋内 緊急時対策所用可搬型 電源設備	(参考) 5号炉の非常用 ディーゼル発電機																																																			
容量	約200kVA	約6,250kVA																																																			
電圧	440V	6.9kV																																																			
力率	0.8	0.8																																																			
負荷名称	負荷容量(kVA)																																																				
換気空調設備	約13kVA																																																				
照明設備(コンセント負荷含む)	約19kVA																																																				
必要な情報を把握できる設備、通信連絡設備*	約17kVA																																																				
放射線管理設備	約11kVA																																																				
合計	約60kVA																																																				
296	添付5-1	1.18-168	・マスクによる防護係数:1000	・マスクによる防護係数:50	②(K5TSC設計進捗)																																																
297	添付5-1	1.18-168	格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びに よう素フィルタ 内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び よう素フィルタ 並びに配管内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	⑤																																																
298	添付5-1	1.18-168	<p>第3表 6号炉放出時における燃料給油に伴う被ばく量 (6号炉と7号炉からの寄与の和) (mSv)</p> <table border="1"> <tr> <td>作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)</td> <td>102</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>作業に係る被ばく線量</td> <td>約28</td> <td>約23</td> </tr> </table>	作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	102	147	作業に係る被ばく線量	約28	約23	<p>表3 6号炉放出時における燃料補給に伴う被ばく量 (6号炉と7号炉からの寄与の和) (mSv)</p> <table border="1"> <tr> <td>作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)</td> <td>102</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>作業に係る被ばく線量</td> <td>約15</td> <td>約12</td> </tr> </table>	作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	102	147	作業に係る被ばく線量	約15	約12	②(K5TSC設計進捗)																																				
作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	102	147																																																			
作業に係る被ばく線量	約28	約23																																																			
作業開始時間 (事故発生後の経過時間)(h)	102	147																																																			
作業に係る被ばく線量	約15	約12																																																			

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
299	添付資料 1.18.6	1.18-170	2. 1.18.2.1(2)b. その他の手順項目にて考慮する手順 <リンク先> 1.17.2.1(1) モニタリング・ポストによる放射線量の測定 1.17.2.1(2) 可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定 3. 1.18.2.2(3) 通信連絡に関する手順等 <リンク先> 1.19.2.1(1) 発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 1.19.2.2(1) 発電所外(社内外)の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 1.19.2.3 代替電源設備から給電する手順等	2. 1.18.2.2(3) 通信連絡に関わる手順等 <リンク先> 1.19.2.1(1) 発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 1.19.2.2(1) 発電所外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 1.19.2.3 代替電源設備から給電する手順等	②(K5TSC設計進捗)

まとめ資料変更箇所リスト

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について
 章/項番号: 1.19 通信連絡に関する手順等

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
1	目次	1.19-1	1.19.1 対応手段と設備の選定 (1) 対応手段と設備の選定の考え方 (2) 対応手段と設備の選定の結果	1.19.1 対応手段と設備の選定 (1) 対応手段と設備の選定の考え方 (2) 対応手段と設備の選定の結果 a. 発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な対応手段及び設備 b. 発電所外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な対応手段及び設備 c. 手順等	⑤
2	目次	1.19-1	1.19.2.1 発電所内の通信連絡 (1) 発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 (2) 計測等を行った特に重要なパラメータを発電所内の必要な場所で共有する手順等	1.19.2.1 発電所内の通信連絡 (1) 発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 a. 手順着手の判断基準 b. 操作手順 c. 操作の成立性 d. 優先順位 (2) 計測等を行った特に重要なパラメータを発電所内の必要な場所で共有する手順等 a. 手順着手の判断基準 b. 操作手順 c. 操作の成立性 d. 優先順位	⑤
3	目次	1.19-1	1.19.2.2 発電所外(社内外)との通信連絡 (1) 発電所外(社内外)の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 (2) 計測等を行った特に重要なパラメータを発電所外(社内外)の必要な場所で共有する手順等	1.19.2.2 発電所外との通信連絡 (1) 発電所外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うための手順等 a. 手順着手の判断基準 b. 操作手順 c. 操作の成立性 d. 優先順位 (2) 計測等を行った特に重要なパラメータを発電所外の必要な場所で共有する手順等 a. 手順着手の判断基準 b. 操作手順 c. 操作の成立性 d. 優先順位	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
4	目次	1.19-2	添付資料1.19.1 重大事故等時に使用する通信連絡設備の対処手段・設備 添付資料1.19.2 審査基準, 基準規則と対処設備との対応表 添付資料1.19.3 重大事故等対処設備における点検頻度 添付資料1.19.4 通信連絡設備の一覧 添付資料1.19.5 通信連絡設備の概要 添付資料1.19.6 多様性を確保した通信回線 添付資料1.19.7 通信連絡設備の電源設備 添付資料1.19.8 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の通信連絡設備に係る耐震措置について 添付資料1.19.9 機能ごとに必要な通信連絡設備 添付資料1.19.10 携帯型音声呼出電話設備等の使用方法及び使用場所 添付資料1.19.11 各重大事故シーケンスで使用する通信連絡設備の台数 添付資料1.19.12 機能ごとに必要な通信連絡設備の優先順位及び設備種別 添付資料1.19.13 手順のリンク先について	添付資料1.19.1 重大事故等時に使用する通信連絡設備の対処手段・設備 添付資料1.19.2 審査基準, 基準規則と対処設備との対応表 添付資料1.19.3 重大事故等対処設備における点検頻度 添付資料1.19.4 通信連絡設備の一覧 添付資料1.19.5 通信連絡設備の概要 添付資料1.19.6 機能ごとに必要な通信連絡設備の優先順位及び設備種別 添付資料1.19.7 手順のリンク先について	⑤
5	1.19.1(1)	1.19-4	※1 自主対策設備:技術基準上の全ての要求事項を満たすことや全てのプラント状況において使用することは困難であるが, プラント状況によっては, 事故対応に有効な設備。	※1 自主対策設備:技術基準上全ての要求事項を満たすことや全てのプラント状況で使用することは困難であるが, プラント状況によっては, 事故対応に有効な設備(設計基準対象施設を含む)	⑤
6	1.19.1(2)	1.19-4	なお, 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備, 対応に使用する重大事故等対処設備, 自主対策設備及び整備する手順についての関係を第1.19.1表, 第1.19.2表に示す。	なお, 機能喪失を想定する自主対策設備及び設計基準事故対処設備, 対応に使用する重大事故等対処設備, 自主対策設備及び整備する手順についての関係を表1.19.1, 表1.19.2に示す。	⑤
7	1.19.1(2)a.(a)	1.19-5	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星電話設備(常設) ・衛星電話設備(可搬型) ・無線連絡設備(常設) ・無線連絡設備(可搬型) ・携帯型音声呼出電話設備 ・安全パラメータ表示システム(SPDS)※2 ・無線連絡設備(屋外アンテナ) ・衛星電話設備(屋外アンテナ) ・無線通信装置 ・有線(建屋内) ・送受話器(警報装置を含む。) ・電力保安通信用電話設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星電話設備(常設) ・衛星電話設備(可搬型) ・無線連絡設備(常設) ・無線連絡設備(可搬型) ・携帯型音声呼出電話設備 ・必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))※1 ・無線連絡設備(屋外アンテナ) ・衛星電話設備(屋外アンテナ) ・無線通信装置 ・有線(建屋内) ・送受話器(ページング) ・電力保安通信用電話設備 	⑤
8	1.19.1(2)a.(a)	1.19-5	※2:安全パラメータ表示システム(SPDS)は, データ伝送装置, 緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置により構成される。	※1 必要な情報を把握できる設備とは, 主にデータ伝送装置, 緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置から構成される安全パラメータ表示システムを示す。	⑤
9	1.19.1(2)a.(a)	1.19-5	(削除)	なお, 給電が必要となる設備について表1.19.3に示す。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
10	1.19.1(2)a.(a)	1.19-6	<ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・可搬型代替交流電源設備 ・燃料補給設備 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 ・交流分電盤 ・負荷変圧器 ・可搬ケーブル 	<ul style="list-style-type: none"> ・常設代替交流電源設備 ・可搬型交流電源設備 ・燃料補給設備 ・5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 ・交流分電盤 ・負荷変圧器 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用地下貯油タンク ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用受電盤 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機-電源車切替断路器 ・電源車 	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>
11	1.19.1(2)a.(a)	1.19-6	また, 重大事故等時に使用する重大事故等対処設備(設計基準拡張)としては, 非常用交流電源設備がある。	また, 重大事故等時に使用する重大事故等対処設備(設計基準拡張)としては, 非常用ディーゼル発電機がある。	⑤
12	1.19.1(2)a.(b)	1.19-6	審査基準及び基準規則に要求される発電所内の通信連絡を行うための設備のうち衛星電話設備(常設), 衛星電話設備(可搬型), 無線連絡設備(常設), 無線連絡設備(可搬型), 携帯型音声呼出電話設備, 安全パラメータ表示システム(SPDS), 無線連絡設備(屋外アンテナ), 衛星電話設備(屋外アンテナ), 無線通信装置, 有線(建屋内), 常設代替交流電源設備, 可搬型代替交流電源設備, 燃料補給設備, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 交流分電盤, 負荷変圧器及び可搬ケーブルは, 重大事故等対処設備として位置付ける(第1.19.1図)。	審査基準及び基準規則に要求される発電所内の通信連絡を行うための設備のうち衛星電話設備, 無線連絡設備, 携帯型音声呼出電話設備, 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS)), 無線連絡設備(屋外アンテナ), 衛星電話設備(屋外アンテナ), 無線通信装置, 有線(建屋内), 常設代替交流電源設備, 燃料補給設備, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 交流分電盤, 負荷変圧器, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用地下貯油タンク, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用受電盤, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機-電源車切替断路器及び電源車は, 重大事故等対処設備と位置づける。	⑤
13	1.19.1(2)a.(b)	1.19-7	設計基準事故対処設備である, 非常用交流電源設備は重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置付ける。	設計基準事故対処設備である, 非常用ディーゼル発電機は重大事故等対処設備(設計基準拡張)と位置づける。	⑤
14	1.19.1(2)a.(b)	1.19-7	・送受話器(警報装置を含む。)	・送受話器(ページング)	⑤
15	1.19.1(2)a.(b)	1.19-7	上記の設備は, 設計基準対象施設であり基準地震動による地震力に対して十分な耐震性を有していないが, 設備が健全である場合は, 発電所内の通信連絡を行うための手段として有効である。	上記の設備は, 基準地震動による地震力に対して十分な耐震性を有していないが, 基準地震が発生した場合においても設備が健全である場合は, 発電所内の通信連絡を行うための手段として有効である。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
16	1.19.1(2)b.(a)	1.19-8	<ul style="list-style-type: none"> 衛星電話設備(常設) 衛星電話設備(可搬型) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 データ伝送設備※3 衛星電話設備(屋外アンテナ) 衛星無線通信装置 有線(建屋内) テレビ会議システム 専用電話設備 衛星電話設備(社内向) 	<ul style="list-style-type: none"> 衛星電話設備(常設) 衛星電話設備(可搬型) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 データ伝送設備※2 衛星電話設備(屋外アンテナ) 衛星無線通信装置 有線(建屋内) 局線加入電話設備 電力保安通信用電話設備 テレビ会議システム(社内向) 専用電話設備(ホットライン) 衛星電話設備(社内向)※3 	② (免震重要棟の自主化) ⑤
17	1.19.1(2)b.(a)	1.19-8	(削除)	※3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のみ	② (免震重要棟の自主)
18	1.19.1(2)b.(a)	1.19-8	(削除)	なお, 給電が必要となる設備について表1.19.3に示す。	⑤
19	1.19.1(2)b.(a)	1.19-8	<ul style="list-style-type: none"> 常設代替交流電源設備 可搬型代替交流電源設備 燃料補給設備 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 交流分電盤 負荷変圧器 可搬ケーブル 	<ul style="list-style-type: none"> 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 交流分電盤 負荷変圧器 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用地下貯油タンク 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用受電盤 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機-電源車切替断路器 燃料補給設備 電源車 	② (免震重要棟の自主化) ⑤
20	1.19.1(2)b.(a)	1.19-8	また, 重大事故等時に使用する重大事故等対処設備(設計基準拡張)としては, 非常用交流電源設備がある。	また, 重大事故等時に使用する重大事故等対処設備(設計基準拡張)としては, 非常用ディーゼル発電機がある。	⑤
21	1.19.1(2)b.(b)	1.19-9	審査基準及び基準規則に要求される発電所外(社内外)との通信連絡を行うための設備のうち衛星電話設備(常設), 衛星電話設備(可搬型), 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備, データ伝送設備, 衛星電話設備(屋外アンテナ), 衛星無線通信装置, 有線(建屋内), 常設代替交流電源設備, 可搬型代替交流電源設備, 燃料補給設備, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 交流分電盤, 負荷変圧器及び可搬ケーブルは, 重大事故等対処設備として位置付ける(第1.19.1図)。	審査基準及び基準規則に要求される発電所外との通信連絡を行うための設備のうち衛星電話設備, 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備, データ伝送設備, 衛星電話設備(屋外アンテナ), 衛星無線通信装置, 有線(建屋内), 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備, 交流分電盤, 負荷変圧器, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用地下貯油タンク, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機用受電盤, 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機-電源車切替断路器, 燃料補給設備及び電源車は, 重大事故等対処設備として位置づける。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
22	1.19.1(2)b.(b)	1.19-9	設計基準事故対処設備である, 非常用交流電源設備は重大事故等対処設備(設計基準拡張)として位置付ける。	設計基準事故対処設備である, 非常用ディーゼル発電機は重大事故等対処設備(設計基準拡張)と位置づける。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
23	1.19.1(2)b.(b)	1.19-9	・テレビ会議システム ・専用電話設備 ・衛星電話設備(社内向)	・局線加入電話設備 ・電力保安通信用電話設備 ・テレビ会議システム(社内向) ・専用電話設備(ホットライン) ・衛星電話設備(社内向)※3	② (免震重要棟の自主化) ⑤
24	1.19.1(2)b.(b)	1.19-9	(削除)	※3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のみ	② (免震重要棟の自主化)
25	1.19.1(2)b.(b)	1.19-9	上記の設備は、設計基準対象施設であり基準地震動による地震力に対して十分な耐震性を有していないが、設備が健全である場合は、発電所外の通信連絡を行うための手段として有効である。	上記の設備は、基準地震動による地震力に対して十分な耐震性を有していないが、基準地震が発生した場合においても設備が健全である場合は、発電所外の通信連絡を行うための手段として有効である。	⑤
26	1.19.1(2)c.	1.19-9	上記a.及びb.により選定した対応手段に係る手順を整備する。	上記「a.発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な対応手段及び設備」及び「b.発電所外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行うために必要な対応手段及び設備」により選定した対応手段に係る手順を整備する。	⑤
27	1.19.2.1(1)	1.19-10	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所内)により、発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う。	-	⑤
28	1.19.2.1(1)	1.19-10	また、安全パラメータ表示システム(SPDS)により、発電所内の必要場所へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送し、パラメータを共有する。	-	⑤
29	1.19.2.1(1)	1.19-10	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所内)により、運転員及び緊急時対策要員が、中央制御室、中央制御室待避室、屋内外の現場、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)との間で相互に通信連絡を行うために、衛星電話設備、無線連絡設備、携帯型音声呼出電話設備、送受話器(警報装置を含む。)及び電力保安通信用電話設備を使用する手順を整備する。	重大事故等が発生した場合において、運転員及び緊急時対策要員が、中央制御室、建屋内外の作業場所、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所との間で相互に通信連絡を行うために、衛星電話設備、無線連絡設備、携帯型音声呼出電話設備、送受話器(ページング)、電力保安通信用電話設備を使用する手順を整備する。	② (免震重要棟の自主化) (K5TSC設計進捗による変更) ⑤
30	1.19.2.1(1)	1.19-10	また、安全パラメータ表示システム(SPDS)により、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送し、パラメータを共有するために、安全パラメータ表示システム(SPDS)を使用する手順を整備する。	また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所へ、重大事故等に対処するために必要なデータを伝送し、パラメータを共有するために、必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))を使用する手順を整備する。	⑤
31	1.19.2.1(1)a.	1.19-11	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所内)及び安全パラメータ表示システム(SPDS)により、発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う場合。	重大事故等が発生した場合において、発電所内の通信連絡を行うための設備により、発電所内の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う場合。	⑤
32	1.19.2.1(1)b.(a)	1.19-11	中央制御室又は中央制御室待避室の運転員及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(常設)を使用する。現場(屋外)の運転員及び緊急時対策要員並びに放射能観測車でモニタリングを行う緊急時対策要員は、衛星電話設備(可搬型)を使用する。これらの衛星電話設備を用いて相互に通信連絡を行うための対応として、以下の手順がある。	中央制御室の運転員及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(常設)を使用する。屋外の緊急時対策要員は、衛星電話設備(可搬型)を使用する。これらの衛星電話設備を用いて相互に通信連絡を行うため、以下の手順がある。切替え手順のタイムチャートを図1.19.1に示す。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
33	1.19.2.1(1)b.(a) i.	1.19-11	(削除)	② 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合、緊急時対策要員は、切替えスイッチにより免震重要棟内緊急時対策所2階の衛星電話設備(常設)から免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の衛星電話設備(常設)へ切替えを行う。	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
34	1.19.2.1(1)b.(a) ii.	1.19-11	①手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 屋外 で電源を「入」操作し, 電波の受信状態を確認する。 ②充電式電池の残量が少ない場合は, ほか の端末と交換する。 ③一般の携帯型電話機と同様の操作により, 通信先の電話番号をダイヤルし, 連絡する。 ④使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は, 充電を行うとともに, ほか の端末を使用する。 ⑤使用後は, 屋外で電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 電源を「入」操作し, 屋外で電波の受信状態を確認する。 ② 充電式電池の残量が少ない場合, 他の端末若しくは予備の充電式電池と交換する。 ③ 一般の携帯型電話機と同様の操作により, 通信先の電話番号をダイヤルし, 連絡する。 ④ 使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は, 充電を行うとともに, 他の端末若しくは予備の充電式電池を使用する。 ⑤ 使用後は, 屋外で電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)
35	1.19.2.1(1)b.(b)	1.19-12	中央制御室 又は中央制御室待避室 の運転員及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は, 無線連絡設備(常設)を使用する。 現場(屋外)の運転員及び緊急時対策要員は, 無線連絡設備(可搬型)を使用する。 これらの無線連絡設備を用いて相互に通信連絡を行うための 対応として , 以下の手順がある。	中央制御室の運転員及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は, 無線連絡設備(常設)を使用する。 屋外の緊急時対策要員は, 無線連絡設備(可搬型)を使用する。これらの無線連絡設備を用いて相互に通信連絡を行うため, 以下の手順がある。切替え手順のタイムチャートを図1.19.1に示す。	⑤
36	1.19.2.1(1)b.(b) i.	1.19-12	①手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 電源を「入」 操作し, 使用前に取り決めた 通話チャンネルに設定した上で通話ボタンを押し, 連絡する。 ②中央制御室待避室で使用する場合は, 運転員は, 切替スイッチにより 中央制御室待避室側 へ切替えを行う。	① 手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 電源スイッチを「入」にし, 通話チャンネルの設定が適切であることを確認した上で通話ボタンを押し, 連絡する。 ② 中央制御室待避室で使用する場合は, 運転員は, 切替スイッチにより無線連絡設備(常設)から無線連絡設備(常設)(待避室)へ切替えを行う。免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合は, 緊急時対策要員は, 切替スイッチにより免震重要棟内緊急時対策所2階の無線連絡設備(常設)から免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の無線連絡設備(常設)へ切替えを行う。	② (免震重要棟の自主化) ⑤ (手順の変更)
37	1.19.2.1(1)b.(b) ii.	1.19-12	①手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 屋外 で電源を「入」操作し, 電波の受信状態を確認する。 ②充電式電池の残量が少ない場合は, ほか の端末と交換する。 ③ 使用前に取り決めた 通話チャンネルに設定した上で, 通話ボタンを押し, 連絡する。 ④使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は, 充電を行うとともに, ほか の端末を使用する。 ⑤使用後は, 屋外で電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 電源を「入」操作し, 屋外で電波の受信状態を確認する。 ② 充電式電池の残量が少ない場合, 他の端末若しくは予備の充電式電池と交換する。 ③ 通話チャンネルの設定が適切であることを確認した上で, 通話ボタンを押し, 連絡する。 ④ 使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は, 充電を行うとともに, 他の端末若しくは予備の充電式電池を使用する。 ⑤ 使用後は, 屋外で電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)
38	1.19.2.1(1)b.(c)	1.19-13	中央制御室の運転員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の運転員及び緊急時対策要員並びに現場(屋内)の運転員及び緊急時対策要員は, 携帯型音声呼出電話機を使用する。 これらの携帯型音声呼出電話機を用いて相互に通信連絡を行うための 対応として , 以下の手順がある。	中央制御室及び建屋内の運転員は, 携帯型音声呼出電話設備を使用し, 相互に通信連絡を行うため, 以下の手順がある。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
39	1.19.2.1(1)b.(c) i.	1.19-13	①手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 使用する携帯型音声呼出電話機とともに予備の乾電池を携行する。 ②使用場所にて, 最寄りの壁面に設置されている専用接続箱より接続ケーブルを引き出し, 携帯型音声呼出電話機へ接続する。通信連絡を必要とする場所が専用接続箱と遠い場合は, 必要に応じて中継用ケーブルドラムを使用する。 ③携帯型音声呼出電話機の手話器を持ち上げ, 本体又は手話器の手話ボタンを押しながら音声にて相手先を呼び出し, 連絡する。 ④使用中に乾電池の残量が少なくなった場合は, 予備の乾電池と交換する。	① 中央制御室の壁面に設置されている専用接続箱より接続ケーブルを引出し, 携帯型音声呼出電話機へ接続する。 ② 現場(建屋内)の壁面に設置されている専用接続箱より接続ケーブルを引出し, 携帯型音声呼出電話機へ接続する。通信連絡を必要とする場所が専用接続箱と遠い場合は, 必要に応じて中継用ケーブルドラムを使用する。 ③ 携帯型音声呼出電話機の手話器を持ち上げ, 本体又は手話器の手話ボタンを押しながら音声にて相手先を呼び出し, 連絡する。 ④ 使用中に乾電池の残量が少なくなった場合は, 予備の乾電池と交換する。	⑤ (手順の変更)
40	1.19.2.1(1)b.(d)	1.19-13	(d) 安全パラメータ表示システム(SPDS)	(d) 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))	⑤
41	1.19.2.1(1)b.(d)	1.19-13	データ伝送装置及び緊急時対策支援システム伝送装置により, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所のSPDS表示装置へ, 必要なデータの伝送を行うための対応として, 以下の手順がある。	必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))により, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所及び免震重要棟緊急時対策所のSPDS表示装置へ, 必要なデータの伝送を行うため, 以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化)
42	1.19.2.1(1)b.(d)	1.19-14	i. データ伝送装置及び緊急時対策支援システム伝送装置 常時伝送を行うため, 通常操作は必要ない。なお, 中央制御室等で警報を常時監視する。 ii. SPDS表示装置 操作手順は, 「1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等」にて整備する。	i. 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS)) 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))のうち, データ伝送装置及び緊急時対策支援システム伝送装置については常時伝送を行うため, 通常操作は必要ない。 なお, 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))のうち, SPDS表示装置の操作手順については, 「1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等」にて整備する。	⑤
43	1.19.2.1(1)b.(e)	1.19-14	(e) 送受話器(警報装置を含む。)	(e) 送受話器(ページング)	⑤
44	1.19.2.1(1)b.(e)	1.19-14	中央制御室の運転員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の運転員及び緊急時対策要員並びに現場(屋内外)の運転員及び緊急時対策要員は, ハンドセットを使用する。これらのハンドセットを用いて, 相互に通信連絡を行うための対応として, 以下の手順がある。	中央制御室の運転員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員及び屋内外の緊急時対策要員は, ハンドセットを使用し, 相互に通信連絡を行うため, 以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
45	1.19.2.1(1)b.(f)	1.19-14	中央制御室の運転員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)の運転員及び緊急時対策要員並びに現場(屋内外)の運転員及び緊急時対策要員は, 電力保安通信用電話設備である固定電話機, PHS端末及びFAXを使用する。これらの固定電話機, PHS端末及びFAXを用いて相互に通信連絡を行うための対応として, 以下の手順がある。	中央制御室の運転員, 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員及び屋内外の緊急時対策要員は, 固定電話機, PHS端末及びFAXを使用し, 相互に通信連絡を行うため, 以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
46	1.19.2.1(1)b.(f) i.	1.19-15	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、一般の電話機、携帯型電話機又はFAXと同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤル又は短縮ダイヤルボタンを押し、連絡する。 ②PHS端末の充電式電池の残量がなくなった場合は、 充電を行うとともに、ほかの端末を使用する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、一般の電話機、携帯型電話機又はFAXと同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤル又は短縮ダイヤルボタンを押し、連絡する。 ② PHS端末の充電式電池の残量がなくなった場合は、他の端末若しくは予備の充電式電池を使用する。	⑤ (手順の変更)
47	1.19.2.1(1)c.	1.19-15	衛星電話設備、無線連絡設備、送受話器(警報装置を含む。)及び電力保安通信用電話設備は、特別な技量を要することなく、容易に操作が可能であるとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。 無線連絡設備を中央制御室待避室で使用する場合は、切替スイッチにより容易に切り替えることが可能であり、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。切替え操作は、 1分程度の切替スイッチ操作のみであり 、中央制御室待避室で使用する場合は運転員1名での対応が可能である。	衛星電話設備、無線連絡設備、送受話器(ページング)及び電力保安通信用電話設備は、特別な技量を要することなく、容易に操作が可能であるとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。また、衛星電話設備を免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合及び無線連絡設備を中央制御室待避室、免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合、切替スイッチにより容易に切り替えることが可能であり、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。切替えは、切替スイッチ操作のみであることから、中央制御室待避室で使用する場合は運転員1名、免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合は緊急時対策要員1名で行い、所要時間は5分程度で可能である。	② (免震重要棟の自主化) ⑤ (操作所要時間に関する変更)
48	1.19.2.1(1)c.	1.19-15	携帯型音声呼出電話設備は、使用場所において 携帯型音声呼出電話機と中継用ケーブルドラム及び専用接続箱内の端子 を容易かつ確実に接続可能とするとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。	携帯型音声呼出電話設備は、使用場所において携帯型音声呼出電話機と専用接続箱を容易かつ確実に接続可能とするとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。	⑤
49	1.19.2.1(1)d.	1.19-16	d.重大事故等時の対応手段の選択	d. 優先順位	⑤
50	1.19.2.1(1)d.	1.19-16	運転員及び緊急時対策要員が、中央制御室、中央制御室待避室、屋内外の現場、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)との間で操作・作業等の通信連絡を行う場合は、屋内外で使用が可能であり、通常時から使用する自主対策設備の送受話器(警報装置を含む。)及び電力保安通信用電話設備を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備、無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。	中央制御室の運転員、建屋内外の緊急時対策要員は、操作、作業等の通信連絡を行う場合、建屋内外で使用が可能であり、通常時から使用する設計基準対象施設の送受話器(ページング)及び電力保安通信用電話設備の使用を優先する。設計基準対象施設が使用できない場合は、衛星電話設備、無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。	⑤
51	1.19.2.1(1)d.	1.19-16	また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、重大事故等に対処するために必要なパラメータを共有する場合は、 安全パラメータ表示システム(SPDS) を使用する。	また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、重大事故等に対処するために必要なパラメータを共有する場合、必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))を使用する。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
52	1.19.2.1(1)d.	1.19-16	なお、優先順位については、今後、訓練等を通して見直しを行う。	-	⑤
53	1.19.2.1(2)	1.19-16	特に重要なパラメータを計測し、その結果を発電所内の必要場所で共有するため、通信連絡設備(発電所内)を使用する。	-	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
54	1.19.2.1(2)	1.19-16	直流電源喪失時等、可搬型の計測器にて、炉心損傷防止及び格納容器破損防止に必要なパラメータ、使用済燃料プール水位、使用済燃料プール周辺線量率、発電所周辺の放射線量等の特に重要なパラメータを計測し、その結果を通信連絡設備(発電所内)により発電所内の必要な場所で共有する場合は、現場(屋内)と中央制御室との連絡には送受話器(警報装置を含む。)、電力保安通信用電話設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。現場(屋外)と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡には送受話器(警報装置を含む。)、電力保安通信用電話設備及び無線連絡設備を使用する。中央制御室と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡には送受話器(警報装置を含む。)、電力保安通信用電話設備、衛星電話設備及び無線連絡設備を使用する。中央制御室待避室と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡には衛星電話設備及び無線連絡設備を使用する。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所(待機場所)との連絡には送受話器(警報装置を含む。)、電力保安通信用電話設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。また、放射能観測車と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所との連絡には衛星電話設備を使用する手順を整備する。	直流電源喪失時等、可搬型の計測器にて、炉心損傷防止及び格納容器破損防止に必要なパラメータ、使用済燃料プール水位、使用済燃料プール周辺線量率、発電所周辺の放射線量等の特に重要なパラメータを計測し、その結果を通信連絡設備(発電所内)により発電所内の必要な場所で共有する場合は、現場(屋内)と中央制御室との連絡には携帯型音声呼出電話設備を使用し、現場(屋外)又は中央制御室と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所との連絡には衛星電話設備、無線連絡設備を使用する手順を整備する。	⑤
55	1.19.2.1(2)a.	1.19-17	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を通信連絡設備(発電所内)により、発電所内の必要な場所で共有する場合。	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を発電所内の通信連絡を行うための設備により、発電所内の必要な場所で共有する場合。	⑤
56	1.19.2.1(2)c.	1.19-17	通信連絡設備(発電所内)により、特に重要なパラメータを発電所内の必要な場所で共有することを可能とする。	発電所内の通信連絡を行うための設備により、特に重要なパラメータを発電所内の必要な場所での共有を可能とする。	⑤
57	1.19.2.1(2)d.	1.19-18	d. 重大事故等時の対応手段の選択	d. 優先順位	⑤
58	1.19.2.1(2)d.	1.19-18	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を通信連絡設備(発電所内)により発電所内の必要な場所で共有する場合は、屋内外で使用が可能であり、通常時から使用する自主対策設備の送受話器(警報装置を含む。)及び電力保安通信用電話設備を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備、無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を発電所内の通信連絡を行うための設備により発電所内の必要な場所で共有する場合、建屋内外で使用が可能であり、通常時から使用する設計基準対象施設の送受話器(ページング)及び電力保安通信用電話設備の使用を優先する。設計基準対象施設が使用できない場合は、衛星電話設備、無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備を使用する。	⑤
59	1.19.2.1(2)d.	1.19-18	なお、優先順位については、今後、訓練等を通して見直しを行う。	-	⑤
60	1.19.2.2(1)	1.19-18	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所外)により、発電所外(社内外)の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う。	-	⑤
61	1.19.2.2(1)	1.19-18	また、データ伝送設備により、国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ、必要なデータを伝送し、パラメータを共有する。	-	⑤
62	1.19.2.2(1)	1.19-18	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所外)により、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員が、本社、国、自治体、その他関係機関等及び所外関係箇所(社内向)との間で通信連絡を行うために、衛星電話設備、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、テレビ会議システム、専用電話設備及び衛星電話設備(社内向)を使用する手順を整備する。	重大事故等が発生した場合において、緊急時対策要員が、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所と本社、国、自治体、その他関係機関等との間で通信連絡を行うために、衛星電話設備、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、局線加入電話設備、電力保安通信用電話設備、テレビ会議システム(社内向)、専用電話設備(ホットライン)及び衛星電話設備(社内向)を使用する手順を整備する。	② (免震重要棟の自主化) ⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
63	1.19.2.2(1)	1.19-18	また、データ伝送設備により、国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ、必要なデータを伝送し、パラメータを共有するために、データ伝送設備を使用する手順を整備する。	また、国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ、必要なデータを伝送し、パラメータを共有するために、データ伝送設備を使用する手順を整備する。	⑤
64	1.19.2.2(1)a.	1.19-19	重大事故等が発生した場合において、通信連絡設備(発電所外)及びデータ伝送設備により、発電所外(社内外)の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う場合。	重大事故等が発生した場合において、発電所外との通信連絡を行うための設備により、発電所外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡を行う場合。	⑤
65	1.19.2.2(1)b.(a)	1.19-19	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(常設)を使用し、本社、国、自治体、その他関係機関等及び所外関係箇所(社内向)へ通信連絡を行う。また、所外関係箇所(社内向)の緊急時対策要員は、衛星電話設備(可搬型)を使用し5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ通信連絡を行う。これらの衛星電話設備を用いて相互に通信連絡を行うための対応として、以下の手順がある。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(常設)を使用し、本社、国、自治体、その他関係機関等へ通信連絡を行うため、以下の手順がある。切替え手順のタイムチャートを図1.19.1に示す。 所外関係箇所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(可搬型)を使用し5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所へ通信連絡を行うため、以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
66	1.19.2.2(1)b.(a) i.	1.19-19	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、一般の電話機と同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤルし、連絡する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、一般の電話機と同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤルし、連絡する。 ② 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合、緊急時対策要員は、切替スイッチにより免震重要棟内緊急時対策所2階の衛星電話設備(常設)から免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の衛星電話設備(常設)へ切替えを行う。	② (免震重要棟の自主化)
67	1.19.2.2(1)b.(a) ii.	1.19-19	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、屋外で電源を「入」操作し、電波の受信状態を確認する。 ②充電式電池の残量が少ない場合は、ほかの端末と交換する。 ③一般の携帯型電話機と同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤルし、連絡する。 ④使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は、充電を行うとともに、ほかの端末を使用する。 ⑤使用後は、屋外で電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、電源を「入」操作し、屋外で電波の受信状態を確認する。 ② 充電式電池の残量が少ない場合、他の端末若しくは予備の充電式電池と交換する。 ③ 一般の携帯型電話機と同様の操作により、通信先の電話番号をダイヤルし、連絡する。 ④ 使用中に充電式電池の残量が少なくなった場合は、充電を行うとともに、他の端末若しくは予備の充電式電池を使用する。 ⑤ 使用後は、屋外で電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)
68	1.19.2.2(1)b.(b)	1.19-20	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、統合原子力防災ネットワークを用いたテレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAXを使用し、本社、国及び自治体へ通信連絡を行う。これらの統合原子力防災ネットワークを用いたテレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAXを用いて相互に通信連絡を行うための対応として、以下の手順がある。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、統合原子力防災ネットワークを用いたテレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAXを使用し、本社、国及び自治体へ通信連絡を行うため、以下の手順がある。切替え手順のタイムチャートを図1.19.1に示す。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
69	1.19.2.2(1)b.(b) i.	1.19-20	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ②リモコン操作により、通信先と接続する。 ③使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ② 操作端末により、通信先と接続する。社外関係機関と通信を行う場合は、通信先からの呼び出し後、リモコン操作により通信先と接続する。 ③ 使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
70	1.19.2.2(1)b.(b)	1.19-20	(削除)	iv. 待避室側への切替え ① 免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合, 緊急時対策要員は, 切替スイッチにより免震重要棟内緊急時対策所2階の統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備から免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)の統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備へ切替えを行う。	② (免震重要棟の自主化)
71	1.19.2.2(1)b.(c)	1.19-21	緊急時対策支援システム伝送装置により, 国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ, 必要なデータの伝送を行うための対応として, 以下の手順がある。	データ伝送設備により, 緊急時対策支援システム(ERSS)等へ, 必要なデータの伝送を行うため, 以下の手順がある。	⑤
72	1.19.2.2(1)b.(c) i.	1.19-21	常時伝送を行うため, 通常操作は必要ない。なお, 中央制御室等で警報を常時監視する。	緊急時対策支援システム(ERSS)等への必要なデータの伝送については, 免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の両方から同じパラメータを常時伝送しており, 通常操作並びに発電所立地地域で震度6弱以上の地震発生に伴い免震重要棟内緊急時対策所の使用ができないと判断した場合における切替え操作は必要ない。	② ⑤ (免震重要棟の自主化)
73	1.19.2.2(1)b.	1.19-21	(削除)	(d) 局線加入電話設備 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は, 加入電話機, 加入FAXを使用し, 本社, 国, 自治体, その他関係機関等へ通信連絡を行うため, 以下の手順がある。 i. 加入電話機, 加入FAX ① 手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 一般の電話機, FAXと同様の操作により, 通信先の電話番号をダイヤル又は短縮ダイヤルボタンを押し, 連絡する。	② (免震重要棟の自主化)
74	1.19.2.2(1)b.	1.19-21	(削除)	(e) 電力保安通信用電話設備 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は, 固定電話機, PHS端末, FAXを使用し, 本社等へ通信連絡を行うため, 以下の手順がある。 i. 固定電話機, PHS端末, FAX ① 手順着手の判断基準に基づき, 通信連絡を行う場合は, 一般の電話機, 携帯型電話機又はFAXと同様の操作により, 通信先の電話番号をダイヤル又は短縮ダイヤルボタンを押し, 連絡する。 ② PHS端末の充電式電池の残量がなくなった場合は, 他の端末若しくは予備の充電式電池を使用する。	② (免震重要棟の自主化)
75	1.19.2.2(1)b.(d)	1.19-21	テレビ会議システム	テレビ会議システム(社内向)	⑤
76	1.19.2.2(1)b.(d)	1.19-21	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は, テレビ会議システム(社内向)を使用し, 本社へ通信連絡を行う。テレビ会議システム(社内向)を用いて, 相互に通信連絡を行うための対応として, 以下の手順がある。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は, テレビ会議システム(社内向)により, 本社等へ通信連絡を行うため, 以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
77	1.19.2.2(1)b.(d) i.	1.19-21	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待ち受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ②リモコン操作又は端末操作により、通信先と接続する。 ③使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待ち受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ② 操作端末により、通信先と接続する。 ③ 使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)
78	1.19.2.2(1)b.(e)	1.19-22	専用電話設備	専用電話設備(ホットライン)	⑤
79	1.19.2.2(1)b.(e)	1.19-22	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、専用電話設備(ホットライン)を使用し、自治体、その他関係機関等へ通信連絡を行う。専用電話設備(ホットライン)を用いて、相互に通信連絡を行うための対応として、以下の手順がある。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、専用電話設備(ホットライン)により、本社、自治体、その他関係機関等へ通信連絡を行うため、以下の手順がある。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
80	1.19.2.2(1)b.(f)	1.19-22	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(社内向)を使用し、本社へ通信連絡を行う。衛星電話設備(社内向)を用いて、相互に通信連絡を行うための対応として、以下の手順がある。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、衛星電話設備(社内向)により、本社へ通信連絡を行うため、以下の手順がある。	⑤
81	1.19.2.2(1)b.(f) ii.	1.19-22	①手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待ち受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ②リモコン操作又は端末操作により、通信先と接続する。 ③使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、テレビ会議システムとモニタの電源を「入」操作後、テレビ会議システムの待ち受け画面を確認し、通信が可能な状態とする。 ② 操作端末により、通信先と接続する。 ③ 使用後は、テレビ会議システムとモニタの電源を「切」操作する。	⑤ (手順の変更)
82	1.19.2.2(1)b.(f)	1.19-23	(削除)	iii. FAX(社内向) ① 手順着手の判断基準に基づき、通信連絡を行う場合は、一般のFAXと同様の操作により、通信先の電話番号等をダイヤルし、連絡する。	⑤
83	1.19.2.2(1)c.	1.19-23	衛星電話設備、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、テレビ会議システム、専用電話設備及び衛星電話設備(社内向)は、特別な技量を要することなく、容易に操作が可能であるとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。	衛星電話設備、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、局線加入電話設備、電力保安通信用電話設備、テレビ会議システム(社内向)、専用電話設備(ホットライン)及び衛星電話設備(社内向)は、特別な技量を要することなく、容易に操作が可能であるとともに、必要な個数を設置又は保管することにより、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。衛星電話設備及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を免震重要棟内緊急時対策所1階(待避室)で使用する場合、切替スイッチにより容易に切り替えることが可能であり、使用場所において通信連絡をする必要のある場所と確実に接続及び通信連絡を行うことを可能とする。切替は、切替スイッチ操作のみであることから、緊急時対策要員1名で行い、所要時間は5分程度で可能である。	② (免震重要棟の自主化)
84	1.19.2.2(1)d.	1.19-23	d.重大事故等時の対応手段の選択	d.優先順位	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
85	1.19.2.2(1)d.	1.19-23	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員が本社との間で通信連絡を行う場合は、自主対策設備のテレビ会議システム又は衛星電話設備(社内向)を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備又は統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を使用する。国との間で通信連絡を行う場合は、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備又は衛星電話設備を使用する。自治体、その他関係機関等との間で通信連絡を行う場合は、自主対策設備の専用電話設備を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備又は衛星電話設備を使用する。所外関係箇所(社内向)との間で通信連絡を行う場合は、衛星電話設備を使用する。	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員が、本社、国、自治体、その他関係機関等との間で通信連絡を行う場合、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備並びに設計基準対象施設の電力保安通信用電話設備、局線加入電話設備、テレビ会議システム(社内向)、専用電話設備(ホットライン)又は自主対策設備の衛星電話設備(社内向)の使用を優先する。設計基準対象施設及び自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備を使用する。 なお、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備については、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の立ち上げ時から使用する。テレビ会議システム(社内向)は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所と本社等との通信連絡用として使用する。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
86	1.19.2.2(1)d.	1.19-23	また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の緊急時対策要員は、国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送し、パラメータを共有する場合は、データ伝送設備を使用する。	また、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の緊急時対策要員は、国の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送し、パラメータを共有する場合、データ伝送設備を使用する。	② (免震重要棟の自主化)
87	1.19.2.2(1)d.	1.19-24	なお、優先順位については、今後、訓練等を通して見直しを行う。	-	⑤
88	1.19.2.2(2)	1.19-24	特に重要なパラメータを計測し、その結果を発電所外(社内外)の必要な場所で共有するため、通信連絡設備(発電所外)を使用する。	-	⑤
89	1.19.2.2(2)	1.19-24	直流電源喪失時等、可搬型の計測器にて、炉心損傷防止及び格納容器破損防止に必要なパラメータ、使用済燃料プール水位、使用済燃料プール周辺線量率、発電所周辺の放射線量等の特に重要なパラメータを計測し、その結果を通信連絡設備(発電所外)により発電所外(社内外)の必要な場所で共有する場合は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所と本社との連絡にはテレビ会議システム、衛星電話設備(社内向)、衛星電話設備及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を使用する。自治体、その他関係機関等との連絡には専用電話設備、衛星電話設備及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を使用する。所外関係箇所(社内向)との連絡には衛星電話設備を使用する手順を整備する。	直流電源喪失時等、可搬型の計測器にて、炉心損傷防止及び格納容器破損防止に必要なパラメータ、使用済燃料プール水位、使用済燃料プール周辺線量率、発電所周辺の放射線量等の特に重要なパラメータを計測し、その結果を通信連絡設備(発電所外)により発電所外の必要な場所で共有する場合、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所と本社、国、自治体、その他関係機関等との連絡には衛星電話設備及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を使用する手順を整備する。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
90	1.19.2.2(2)d.	1.19-25	d.重大事故等時の対応手段の選択	d.優先順位	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
91	1.19.2.2(2)d.	1.19-25	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を通信連絡設備(発電所外)により発電所外(社内外)の必要な場所で共有する場合、本社との間で通信連絡を行う場合は、自主対策設備のテレビ会議システム又は衛星電話設備(社内向)を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備又は統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を使用する。国との間で通信連絡を行う場合は、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備又は衛星電話設備を使用する。自治体、その他関係機関等との間で通信連絡を行う場合は、自主対策設備の専用電話設備を優先して使用する。自主対策設備が使用できない場合は、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備又は衛星電話設備を使用する。所外関係箇所(社内向)との間で通信連絡を行う場合は、衛星電話設備を使用する。	特に重要なパラメータを可搬型の計測器にて計測し、その結果を発電所外との通信連絡を行うための設備により発電所外の必要な場所で共有する場合、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備並びに設計基準対象施設の電力保安通信用電話設備、局線加入電話設備、テレビ会議システム(社内向)及び専用電話設備(ホットライン)又は自主対策設備の衛星電話設備(社内向)の使用を優先する。設計基準対象施設及び自主対策設備が使用できない場合は、衛星電話設備を使用する。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
92	1.19.2.2(2)d.	1.19-25	なお、優先順位については、今後、訓練等を通して見直しを行う。	-	⑤
93	1.19.2.3	1.19-26	全交流動力電源喪失時は、代替電源設備により、衛星電話設備(常設)、無線連絡設備(常設)、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備へ給電する。	全交流動力電源喪失時は、代替電源設備により、衛星電話設備、無線連絡設備、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備、必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))、データ伝送設備へ給電する。	⑤
94	1.19.2.3	1.19-26	充電式電池を用いるものについては、ほかの端末若しくは予備の充電式電池と交換することにより継続して通話を可能とし、使用後の充電式電池は、中央制御室又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の電源から充電する。乾電池を用いるものについては、予備の乾電池と交換することにより7日間以上継続して通話を可能とする。	充電式電池を用いるものについては、他の端末若しくは予備の充電式電池と交換することにより継続して通話を可能とし、使用後の充電式電池は、中央制御室又は5号炉原子炉建屋内緊急時対策所又は免震重要棟内緊急時対策所の電源から充電する。 乾電池を用いるものについては、予備の乾電池と交換することにより7日間以上継続して通話を可能とする。	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																												
95	1.19.1(2)	1.19-27	<p>第 1.19.1 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (発電所内の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td>業務用電話設備 (内線) **</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (外線) **</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td>無線中継機 (無線機)</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 代替電話設備から転電する。 ※2: 手順は「1.18 緊急時対策本部の対応体制に関する手順書」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電力の確保に関する手順書」にて整備する。</p>	区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書	機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書	業務用電話設備 (外線) **	業務用電話設備 (内線)	業務用電話設備 (内線)	業務用電話設備 (内線)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	<p>表 1.19.1 機能喪失を想定する自主対策設備及び設計基準事故対処設備と整備する手順 (発電所内の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td>業務用電話設備 (内線) **</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (外線) **</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td>無線中継機 (無線機)</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 代替電話設備から転電する。 ※2: 手順は「1.18 緊急時対策本部の対応体制に関する手順書」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電力の確保に関する手順書」にて整備する。</p>	区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書	機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書	業務用電話設備 (外線) **	業務用電話設備 (内線)	業務用電話設備 (内線)	業務用電話設備 (内線)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>
区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書																																																														
機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書																																																														
		業務用電話設備 (外線) **																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応																																																														
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書																																																														
機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書																																																														
		業務用電話設備 (外線) **																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応																																																														
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
96	1.19.1(2)	1.19-28	<p>第 1.19.2 表 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (発電所外 (社内外) の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td>業務用電話設備 (内線) **</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (外線) **</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td>無線中継機 (無線機)</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 代替電話設備から転電する。 ※2: 手順は「1.18 緊急時対策本部の対応体制に関する手順書」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電力の確保に関する手順書」にて整備する。</p>	区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書	機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書	業務用電話設備 (外線) **	業務用電話設備 (内線)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	<p>表 1.19.2 機能喪失を想定する自主対策設備及び設計基準事故対処設備と整備する手順 (発電所外の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td rowspan="10">機内通信設備</td> <td>業務用電話設備 (内線) **</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (外線) **</td> </tr> <tr> <td>業務用電話設備 (内線)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td rowspan="10">全交差動力電線</td> <td>無線中継機 (無線機)</td> <td rowspan="10">緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> <tr> <td>無線中継機 (無線機)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 代替電話設備から転電する。 ※2: 手順は「1.18 緊急時対策本部の対応体制に関する手順書」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電力の確保に関する手順書」にて整備する。</p>	区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書	機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書	業務用電話設備 (外線) **	業務用電話設備 (内線)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	無線中継機 (無線機)	<p>② (免震重要棟の自主化) (電源設計の進捗による変更) ⑤</p>
区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書																																																														
機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書																																																														
		業務用電話設備 (外線) **																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応																																																														
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
区分	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応設備	手順書																																																														
機内通信設備	機内通信設備	業務用電話設備 (内線) **	緊急時対策本部要員要請 AR 運用手順の手続き 中央監視室の監視運用手順書																																																														
		業務用電話設備 (外線) **																																																															
		業務用電話設備 (内線)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
全交差動力電線	全交差動力電線	無線中継機 (無線機)	緊急時対策本部要員要請 無線ネットワーク対応手順 AR 運用手順の手続き 多様なハードウェア対応																																																														
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															
		無線中継機 (無線機)																																																															

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																											
97	1.19.1(2)c.	1.19-29	<p>第 1.19.3 表 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象本文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">[1.19] 通信連絡に関する手続等</td> <td rowspan="2">緊急電話設備 (常設)</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用給電母線 70-1</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備 (常設)</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">データ伝送設備</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策支援システム伝送設備 (SPS)</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援システム伝送設備</td> <td>非常用給電母線 40-1</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送設備</td> <td>非常用給電母線 70-1</td> </tr> </tbody> </table>	対象本文	供給対象設備	給電元 給電母線	[1.19] 通信連絡に関する手続等	緊急電話設備 (常設)	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	無線連絡設備 (常設)	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	データ伝送設備	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	緊急時対策支援システム伝送設備 (SPS)	非常用給電母線 40-1	非常用給電母線 70-1	データ伝送設備	緊急時対策支援システム伝送設備	非常用給電母線 40-1	緊急時対策支援システム伝送設備	非常用給電母線 70-1	<p>表 1.19.3 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象本文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元 給電母線</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">[1.19] 通信連絡に関する手続等</td> <td rowspan="2">緊急電話設備 (常設)</td> <td>6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線^② 1号伊非常用C系母線^②</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備 (常設)</td> <td>6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線^② 1号伊非常用C系母線^②</td> </tr> <tr> <td>総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線^② 1号伊非常用C系母線^②</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> <td>6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SPS 表示装置</td> <td rowspan="2">緊急時対策支援システム伝送設備</td> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線^② 1号伊非常用C系母線^②</td> </tr> <tr> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線^② 1号伊非常用C系母線^②</td> </tr> </tbody> </table> <p>②1 通常時, ボスタービーム電機及び電機業使用時 ②2 非常用アークセル電機使用時</p>	対象本文	供給対象設備	給電元 給電母線	[1.19] 通信連絡に関する手続等	緊急電話設備 (常設)	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②	無線連絡設備 (常設)	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②	総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②	データ伝送設備	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線	SPS 表示装置	緊急時対策支援システム伝送設備	5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②	5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②	<p>② ⑤ (免震重要棟の自主化)</p>
対象本文	供給対象設備	給電元 給電母線																																														
[1.19] 通信連絡に関する手続等	緊急電話設備 (常設)	非常用給電母線 40-1																																														
		非常用給電母線 40-1																																														
	非常用給電母線 70-1	非常用給電母線 40-1																																														
		非常用給電母線 70-1																																														
	無線連絡設備 (常設)	非常用給電母線 40-1																																														
		非常用給電母線 70-1																																														
	総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	非常用給電母線 40-1																																														
		非常用給電母線 70-1																																														
	データ伝送設備	非常用給電母線 40-1																																														
		非常用給電母線 70-1																																														
緊急時対策支援システム伝送設備 (SPS)	非常用給電母線 40-1																																															
	非常用給電母線 70-1																																															
データ伝送設備	緊急時対策支援システム伝送設備	非常用給電母線 40-1																																														
	緊急時対策支援システム伝送設備	非常用給電母線 70-1																																														
対象本文	供給対象設備	給電元 給電母線																																														
[1.19] 通信連絡に関する手続等	緊急電話設備 (常設)	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②																																														
		無線連絡設備 (常設)	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線 5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②																																													
	総合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②																																														
	データ伝送設備	6号伊:非常用C系母線 7号伊:非常用C系母線																																														
SPS 表示装置	緊急時対策支援システム伝送設備	5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②																																														
		5号伊原子炉建屋内緊急時対策用; 6号伊非常用C系母線 7号伊非常用C系母線 免震重要棟内緊急時対策用; 3号及び1号伊非常用母線 ^② 1号伊非常用C系母線 ^②																																														
98	1.19.1(2)b.(b)	1.19-30	<p>第 1.19.1 図 通信連絡設備の系統概要図</p>	<p>—</p>	<p>⑤</p>																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③評価進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
99			(削除)	<p>図 1.19.1 衛星電話設備 (常設), 無線連絡設備 (常設) 及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備の待避室側への切替えタイムチャート</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p> <p>⑤ (資料内での記載方法の統一)</p> <p>通信連絡設備の一部である切替スイッチの手順等は本文に記載し、タイムチャートは削除</p>
100	添付資料 1.19.1	1.19-31	<p>添付資料 1.19.1</p> <p>重大事故等時に使用する通信連絡設備の対処手段・設備</p>	<p>添付資料 1.19.1</p> <p>重大事故等時に使用する通信連絡設備の対処手段・設備</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p> <p>(K5TSC設計進捗による変更)</p> <p>(第2GTGの自主設備化)</p> <p>(電源設計の進捗による変更)</p> <p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																											
103	添付資料 1.19.3	1.19-34	<p style="text-align: center;">添付資料 1.19.3</p> <p style="text-align: center;">重大事故等対処設備における点検頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重大事故等対処設備</th> <th>点検項目</th> <th>点検頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備</td> <td>衛星電話設備 (常設)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (常設)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備 (可搬型)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>携帯型音声呼出電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム</td> <td>外観点検 通信確認</td> </tr> <tr> <td>IP-電話機</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>IP-FAX</td> <td>外観点検 通信確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">安全パラメータ表示システム (SPDS)</td> <td>データ伝送装置</td> <td>外観点検 機能確認 1回/年</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>外観点検 機能確認 1回/年</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>外観点検 機能確認 1回/年</td> </tr> <tr> <td>SPDS表示装置</td> <td>外観点検 機能確認 1回/年</td> </tr> </tbody> </table>	重大事故等対処設備	点検項目	点検頻度	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	衛星電話設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	無線連絡設備	無線連絡設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	無線連絡設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	テレビ会議システム	外観点検 通信確認	IP-電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	IP-FAX	外観点検 通信確認	安全パラメータ表示システム (SPDS)	データ伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年	緊急時対策支援システム伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年	データ伝送設備	緊急時対策支援システム伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年	SPDS表示装置	外観点検 機能確認 1回/年	<p style="text-align: center;">添付資料 1.19.3</p> <p style="text-align: center;">重大事故等対処設備における点検頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重大事故等対処設備</th> <th>点検項目</th> <th>点検頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備</td> <td>衛星電話設備 (常設)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (常設)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備 (可搬型)</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">携帯型音声呼出電話設備</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>TV会議システム</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>IP-電話機</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td>IP-FAX</td> <td>外観点検 通信確認 1回/6ヶ月</td> </tr> <tr> <td colspan="2">必要な情報を把握できる設備 (安全パラメータ表示システム (SPDS))</td> <td>外観点検 機能確認 1回/年</td> </tr> </tbody> </table>	重大事故等対処設備	点検項目	点検頻度	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	衛星電話設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	無線連絡設備	無線連絡設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	無線連絡設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	携帯型音声呼出電話設備		外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	TV会議システム	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	IP-電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	IP-FAX	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月	必要な情報を把握できる設備 (安全パラメータ表示システム (SPDS))		外観点検 機能確認 1回/年	⑤
重大事故等対処設備	点検項目	点検頻度																																																														
衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	衛星電話設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
無線連絡設備	無線連絡設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	無線連絡設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	テレビ会議システム	外観点検 通信確認																																																														
	IP-電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	IP-FAX	外観点検 通信確認																																																														
安全パラメータ表示システム (SPDS)	データ伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年																																																														
	緊急時対策支援システム伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年																																																														
データ伝送設備	緊急時対策支援システム伝送装置	外観点検 機能確認 1回/年																																																														
	SPDS表示装置	外観点検 機能確認 1回/年																																																														
重大事故等対処設備	点検項目	点検頻度																																																														
衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	衛星電話設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
無線連絡設備	無線連絡設備 (常設)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	無線連絡設備 (可搬型)	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
携帯型音声呼出電話設備		外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	TV会議システム	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	IP-電話機	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
	IP-FAX	外観点検 通信確認 1回/6ヶ月																																																														
必要な情報を把握できる設備 (安全パラメータ表示システム (SPDS))		外観点検 機能確認 1回/年																																																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ① 指摘事項対応による変更・修正
- ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③ 評価進捗による変更・修正
- ④ 前提条件変更による修正
- ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																
104	添付資料 1.19.4	1.19-35 1.19-36	<p>通信連絡設備 (発電所内) の一覧 (1/2)</p> <p>添付資料 1.19.4</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所*</th> <th>電源設備 (連続利用時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>送受設備 (警報装置を含む)</td> <td>ハンドセット 合計 約 310 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 計 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 300台 他: 約 30台</td> <td>・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>スピーカー</td> <td>合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 920台 他: 約 40台</td> <td>・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>電力保安設備用電話設備</td> <td>固定電話機 合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 14台 (共用) ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台</td> <td>・5号, 6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **</td> </tr> <tr> <td>PHS端末</td> <td>合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 200台</td> <td>・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>FAX</td> <td>合計 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台</td> <td>・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備</td> </tr> <tr> <td>携帯型音声呼出電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台</td> <td>・充電器 (連続約4時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>中継用ケーブルシステム</td> <td>合計 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 5台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 1号伊予子伊達管内緊急時対策用は連続約16時間使用可能。6号及び7号伊予中央制御室は連続約12時間使用可能。 ※3 13号の機材若しくは予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能であり、使用後の充電式電池は代替電話設備にて充電可能。 ※4 必要不備の機材を保有し、予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</p> <p>通信連絡設備 (発電所内) の一覧 (2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所*</th> <th>電源設備 (連続利用時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急電話設備</td> <td>緊急電話設備 (可搬型) 合計 11台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)</td> <td>・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>緊急電話設備 (可搬型)</td> <td>緊急電話設備 (可搬型) 合計 30台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 16台 ・伊予機組 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台</td> <td>・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (可搬型) 合計 7台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)</td> <td>・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備 (可搬型)</td> <td>無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・警報機ほか: 10台</td> <td>・充電式電池 (連続約12時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>緊急バックアップ表示システム (SFB)</td> <td>バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室</td> <td>・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約12時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム (SFB)</td> <td>緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用</td> <td>・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型電話</td> <td>可搬型電話 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用</td> <td>・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 1号伊予子伊達管内緊急時対策用は連続約16時間使用可能。6号及び7号伊予中央制御室は連続約12時間使用可能。 ※3 13号の機材若しくは予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能であり、使用後の充電式電池は代替電話設備にて充電可能。 ※4 必要不備の機材を保有し、予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。 ※5 保守点検又は故障時のバックアップ用として、自動的に1式を保管する。</p>	主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)	送受設備 (警報装置を含む)	ハンドセット 合計 約 310 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 計 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 300台 他: 約 30台	・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)	スピーカー	合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 920台 他: 約 40台	・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)	電力保安設備用電話設備	固定電話機 合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 14台 (共用) ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台	・5号, 6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **	PHS端末	合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 200台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **	FAX	合計 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備	携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台	・充電器 (連続約4時間使用可能) **	中継用ケーブルシステム	合計 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 5台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台	-	主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)	緊急電話設備	緊急電話設備 (可搬型) 合計 11台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能)	緊急電話設備 (可搬型)	緊急電話設備 (可搬型) 合計 30台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 16台 ・伊予機組 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **	無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 7台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能) **	無線連絡設備 (可搬型)	無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・警報機ほか: 10台	・充電式電池 (連続約12時間使用可能) **	緊急バックアップ表示システム (SFB)	バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約12時間使用可能) **	緊急時対策支援システム (SFB)	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備	可搬型電話	可搬型電話 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備	<p>通信連絡設備 (発電所内) の一覧 (1/3)</p> <p>添付資料 1.19.4</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所*</th> <th>電源設備 (連続利用時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>送受設備 (バーベジック)</td> <td>ハンドセット 合計 約 347 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 300台 他: 約 20台</td> <td>・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・充電器 (連続約4時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>スピーカー</td> <td>合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 1,000台 他: 約 40台</td> <td>・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 (連続約4時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>電力保安設備用電話設備</td> <td>固定電話機 合計 約 147 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 15台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台</td> <td>・5号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>PHS端末</td> <td>合計 約 117台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 100台</td> <td>・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **</td> </tr> <tr> <td>FAX</td> <td>合計 約 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台</td> <td>・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 5号伊予子伊達管内緊急時対策用は連続約16時間使用可能。充電器 (連続約5.5時間使用可能)。 ※3 充電器 (連続約5.5時間使用可能) 1台を交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</p> <p>通信連絡設備 (発電所内) の一覧 (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所*</th> <th>電源設備 (連続利用時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>携帯型音声呼出電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台</td> <td>・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</td> </tr> <tr> <td>緊急電話設備</td> <td>緊急電話設備 (可搬型) 合計 23台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)</td> <td>・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (可搬型) 合計 63台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 19台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 20台 ・警報機 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台</td> <td>・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (可搬型) 合計 15台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)</td> <td>・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・充電器 (連続約12時間使用可能): 10台</td> <td>・充電式電池 (連続約12時間使用可能) ** 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 充電器 (連続約5.5時間使用可能) 1台を交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。 ※3 充電器 (連続約5.5時間使用可能) 1台を交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。</p> <p>通信連絡設備 (発電所内) の一覧 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所*</th> <th>電源設備 (連続利用時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要な機材を必要とする設備</td> <td>バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室</td> <td>・6号, 7号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予実用用内電話設備</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム (SFB)</td> <td>緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用</td> <td>・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備</td> </tr> <tr> <td>SFD S表示装置</td> <td>1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用</td> <td>・充電器 ・充電器 (遠隔型) **</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 充電器 (連続約5.5時間使用可能) 1台を交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。 ※3 充電器 (連続約5.5時間使用可能) 1台を交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。 ※4 保守点検又は故障時のバックアップ用として、自動的に1式を保管する。</p>	主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)	送受設備 (バーベジック)	ハンドセット 合計 約 347 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 300台 他: 約 20台	・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・充電器 (連続約4時間使用可能)	スピーカー	合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 1,000台 他: 約 40台	・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 (連続約4時間使用可能)	電力保安設備用電話設備	固定電話機 合計 約 147 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 15台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台	・5号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)	PHS端末	合計 約 117台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 100台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **	FAX	合計 約 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **	主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)	携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。	緊急電話設備	緊急電話設備 (可搬型) 合計 23台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)	無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 63台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 19台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 20台 ・警報機 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。	無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 15台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)	無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・充電器 (連続約12時間使用可能): 10台	・充電式電池 (連続約12時間使用可能) ** 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。	主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)	必要な機材を必要とする設備	バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室	・6号, 7号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予実用用内電話設備	緊急時対策支援システム (SFB)	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備	SFD S表示装置	1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・充電器 ・充電器 (遠隔型) **	<p>② (免震重要棟の自主化) (通信設備設計の進捗による変更) (電源設計の進捗による変更) (第2GTGの自主設備化) ⑤</p>
主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)																																																																																																			
送受設備 (警報装置を含む)	ハンドセット 合計 約 310 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 計 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 300台 他: 約 30台	・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)																																																																																																			
スピーカー	合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達13号: 約 920台 他: 約 40台	・6号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)																																																																																																			
電力保安設備用電話設備	固定電話機 合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 14台 (共用) ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台	・5号, 6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **																																																																																																			
PHS端末	合計 約 200 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 200台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **																																																																																																			
FAX	合計 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備																																																																																																			
携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台	・充電器 (連続約4時間使用可能) **																																																																																																			
中継用ケーブルシステム	合計 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 5台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台	-																																																																																																			
主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)																																																																																																			
緊急電話設備	緊急電話設備 (可搬型) 合計 11台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能)																																																																																																			
緊急電話設備 (可搬型)	緊急電話設備 (可搬型) 合計 30台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 16台 ・伊予機組 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **																																																																																																			
無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 7台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・伊予用電話装置 (連続約12時間使用可能) **																																																																																																			
無線連絡設備 (可搬型)	無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・警報機ほか: 10台	・充電式電池 (連続約12時間使用可能) **																																																																																																			
緊急バックアップ表示システム (SFB)	バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室	・6号及び7号伊予実用用内電話設備 ・伊予用ダイヤル式発電機 ・第一ガスタービン発電機 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約12時間使用可能) **																																																																																																			
緊急時対策支援システム (SFB)	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備																																																																																																			
可搬型電話	可搬型電話 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備																																																																																																			
主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)																																																																																																			
送受設備 (バーベジック)	ハンドセット 合計 約 347 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 11台 ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 300台 他: 約 20台	・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・充電器 (連続約4時間使用可能)																																																																																																			
スピーカー	合計 約 1,000 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 2台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・中央制御室: 21台 (6号伊予), 18台 (7号伊予) ・6号及び7号伊予子伊達機組: 約 1,000台 他: 約 40台	・6号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 (連続約4時間使用可能)																																																																																																			
電力保安設備用電話設備	固定電話機 合計 約 147 台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 15台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 1台 ・警報機・指示台機組ほか: 約 200台	・5号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)																																																																																																			
PHS端末	合計 約 117台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 30台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 17台 (共用) ・充電器ほか: 約 100台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) **																																																																																																			
FAX	合計 約 4台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 1台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) **																																																																																																			
主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)																																																																																																			
携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機 合計 20台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 10台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 6台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。																																																																																																			
緊急電話設備	緊急電話設備 (可搬型) 合計 23台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 9台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 12台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約4時間使用可能)																																																																																																			
無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 63台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 19台 ・充電器 (連続約4時間使用可能): 20台 ・警報機 (4台伊予, 他機組2台伊予ほか): 24台	・充電式電池 (連続約4時間使用可能) 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。																																																																																																			
無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 15台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 4台 ・6号及び7号伊予中央制御室: 各 1台 (機材庫を含む)	・6号, 7号及び8号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備 ・充電器 ・充電器 (遠隔型) (連続約5.5時間使用可能)																																																																																																			
無線連絡設備	無線連絡設備 (可搬型) 合計 100台 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用: 90台 ・充電器 (連続約12時間使用可能): 10台	・充電式電池 (連続約12時間使用可能) ** 伊予機組の充電器は予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通信が可能。																																																																																																			
主要設備	台数・保管場所*	電源設備 (連続利用時間)																																																																																																			
必要な機材を必要とする設備	バックアップ装置 1式 ・6号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室 ・7号伊予 コントロール機室 プロセス計算機室	・6号, 7号伊予実用用内電話設備 ・第一ガスタービン発電機及び第二ガスタービン発電機 ・5号伊予実用用内電話設備																																																																																																			
緊急時対策支援システム (SFB)	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・5号伊予子伊達管内緊急時対策用用可搬型電話設備																																																																																																			
SFD S表示装置	1式 ・5号伊予子伊達管内緊急時対策用	・充電器 ・充電器 (遠隔型) **																																																																																																			

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																											
105	添付資料 1.19.4	1.19-37	<p>通信連絡設備（発電所外）の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所^{※1}</th> <th>電源設備（連続利用時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テレビ会議システム （社内用）</td> <td>1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> </tr> <tr> <td>専用電話設備 （ボットライク）</td> <td>7台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台</td> <td>・充電机（連続的10日間使用可能）^{※2}</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 （常設）</td> <td>衛星電話設備（常設） 衛星電話設備（可搬型）</td> <td>発電所内と同様</td> </tr> <tr> <td>統合原子力防災ネット ワークを用いた通信 連絡設備</td> <td>IP-電話機 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 2台（有線系：1台、衛星系：1台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議システム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備（社内用）</td> <td>衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 移動発電又は予備の充電機と交換することで連続時間を延長可能。</p>	主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）	テレビ会議システム （社内用）	1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	専用電話設備 （ボットライク）	7台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台	・充電机（連続的10日間使用可能） ^{※2}	衛星電話設備 （常設）	衛星電話設備（常設） 衛星電話設備（可搬型）	発電所内と同様	統合原子力防災ネット ワークを用いた通信 連絡設備	IP-電話機 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 2台（有線系：1台、衛星系：1台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議システム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	衛星電話設備（社内用）	衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	データ伝送設備	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	<p>通信連絡設備（発電所外）の一覧（L1/3）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所^{※1}</th> <th>電源設備（連続利用時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>局線加入電話 設備</td> <td>加入電話機 合計 4台（2台）^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台）^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：2台（1台）^{※4} ・6号及び7号伊達中央部屋（1号）（高層） 加入FAX 合計 4台（4台）^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台）^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（3台）^{※4}</td> <td>・通信事業者回線からの給電 ・通信事業者回線からの給電 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置^{※5}</td> </tr> <tr> <td>電力保安通信用 電話設備接続</td> <td>合計 79回線（49回線）^{※2} ・免震重要棟内緊急時対策所：79回線（48回線）^{※4}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議 システム</td> <td>テレビ会議 システム （社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置^{※5}</td> </tr> <tr> <td>専用電話設備 （ボットライ ク）</td> <td>専用電話設備 合計 14台 （自由体他向） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台 ・免震重要棟内緊急時対策所：7台</td> <td>・充電機1具（連続的10日間使用可能） 伊予動発電又は予備の充電機と交換するこ とで連続時間を延長可能。</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 （常設）</td> <td>衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 連続的7日間使用可能（免震重要棟内緊急時対策所のみ）。 ※3 免震重要棟内緊急時対策所は連続的1時間使用可能。 ※4 1は災害時優先契約あり電話の回線数。 ※5 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。</p>	主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）	局線加入電話 設備	加入電話機 合計 4台（2台） ^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台） ^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：2台（1台） ^{※4} ・6号及び7号伊達中央部屋（1号）（高層） 加入FAX 合計 4台（4台） ^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台） ^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（3台） ^{※4}	・通信事業者回線からの給電 ・通信事業者回線からの給電 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}	電力保安通信用 電話設備接続	合計 79回線（49回線） ^{※2} ・免震重要棟内緊急時対策所：79回線（48回線） ^{※4}	—	テレビ会議 システム	テレビ会議 システム （社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}	専用電話設備 （ボットライ ク）	専用電話設備 合計 14台 （自由体他向） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台 ・免震重要棟内緊急時対策所：7台	・充電機1具（連続的10日間使用可能） 伊予動発電又は予備の充電機と交換するこ とで連続時間を延長可能。	衛星電話設備 （常設）	衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備	<p>通信連絡設備（発電所外）の一覧（L2/3）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所^{※1}</th> <th>電源設備（連続利用時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統合原子力防 災ネットワー クを用いた通信 連絡設備</td> <td>IP-電話機 合計 12台（有線系：8台、衛星系：4台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所 4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 合計 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議シ ステム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置^{※5} ・充電機^{※6} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置^{※5}</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 （社内用）</td> <td>衛星社内電話機 合計 2台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：2台 FAX（社内用） 1台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台 テレビ会議シ ステム（社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置^{※5}</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装 置 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置^{※5}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。 ※2 連続的7日間使用可能（免震重要棟内緊急時対策所のみ）。 ※3 免震重要棟内緊急時対策所は連続的1時間使用可能。 ※4 1は災害時優先契約あり電話の回線数。 ※5 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。</p>	主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）	統合原子力防 災ネットワー クを用いた通信 連絡設備	IP-電話機 合計 12台（有線系：8台、衛星系：4台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所 4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 合計 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議シ ステム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5} ・充電機 ^{※6} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}	衛星電話設備 （社内用）	衛星社内電話機 合計 2台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：2台 FAX（社内用） 1台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台 テレビ会議シ ステム（社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置 ^{※5}	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装 置 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置 ^{※5}	<p>通信連絡設備（発電所外）の一覧（L3/3）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>台数・保管場所^{※1}</th> <th>電源設備（連続利用時間）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力保安通信用 電話設備</td> <td>固定電話機 持ち帰り FAX</td> <td>発電所内と同様</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 台数については今後訓練等を通じて見直しを行う。</p>	主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）	電力保安通信用 電話設備	固定電話機 持ち帰り FAX	発電所内と同様	<p>② （免震重要棟の自主 化） （通信設備設計進捗 による変更） （電源設計の進捗によ る変更） ⑤</p>
主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）																																																														
テレビ会議システム （社内用）	1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備																																																														
専用電話設備 （ボットライク）	7台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台	・充電机（連続的10日間使用可能） ^{※2}																																																														
衛星電話設備 （常設）	衛星電話設備（常設） 衛星電話設備（可搬型）	発電所内と同様																																																														
統合原子力防災ネット ワークを用いた通信 連絡設備	IP-電話機 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 2台（有線系：1台、衛星系：1台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議システム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備																																																														
衛星電話設備（社内用）	衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備																																																														
データ伝送設備	緊急時対策支援システム 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備																																																														
主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）																																																														
局線加入電話 設備	加入電話機 合計 4台（2台） ^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台） ^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：2台（1台） ^{※4} ・6号及び7号伊達中央部屋（1号）（高層） 加入FAX 合計 4台（4台） ^{※2} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（1台） ^{※3} ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（3台） ^{※4}	・通信事業者回線からの給電 ・通信事業者回線からの給電 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}																																																														
電力保安通信用 電話設備接続	合計 79回線（49回線） ^{※2} ・免震重要棟内緊急時対策所：79回線（48回線） ^{※4}	—																																																														
テレビ会議 システム	テレビ会議 システム （社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}																																																														
専用電話設備 （ボットライ ク）	専用電話設備 合計 14台 （自由体他向） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：7台 ・免震重要棟内緊急時対策所：7台	・充電機1具（連続的10日間使用可能） 伊予動発電又は予備の充電機と交換するこ とで連続時間を延長可能。																																																														
衛星電話設備 （常設）	衛星社内電話機 4台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用電気設備 ・非常用ジェネラ発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備																																																														
主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）																																																														
統合原子力防 災ネットワー クを用いた通信 連絡設備	IP-電話機 合計 12台（有線系：8台、衛星系：4台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：4台（有線系）、 2台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所 4台（有線系）、 2台（衛星系） IP-FAX 合計 6台（有線系：4台、衛星系：2台） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台（有線系）、 1台（衛星系） ・免震重要棟内緊急時対策所：3台（有線系）、 1台（衛星系） テレビ会議シ ステム 1式（有線系・衛星系 共用） ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所 ・免震重要棟内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5} ・充電機 ^{※6} ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・無停電電源装置 ^{※5}																																																														
衛星電話設備 （社内用）	衛星社内電話機 合計 2台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：2台 FAX（社内用） 1台 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所：1台 テレビ会議シ ステム（社内用） 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置 ^{※5}																																																														
データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装 置 1式 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用ガスタービン 発電機 ・5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型 電源設備 ・無停電電源装置 ^{※5}																																																														
主要設備	台数・保管場所 ^{※1}	電源設備（連続利用時間）																																																														
電力保安通信用 電話設備	固定電話機 持ち帰り FAX	発電所内と同様																																																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

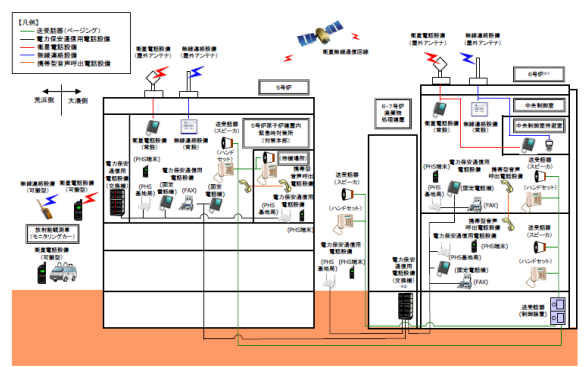
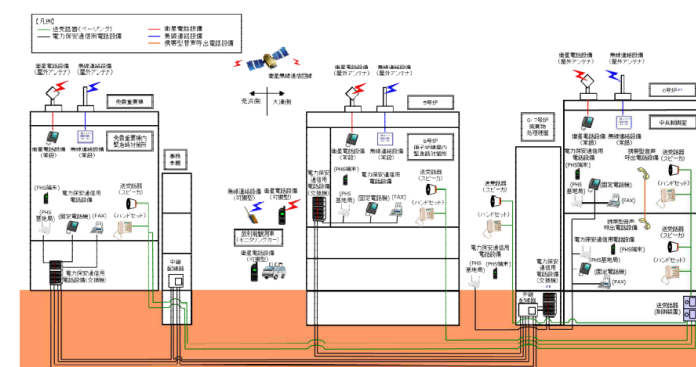
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
106	添付資料 1.19.5 1.	1.19-38	<p>(1) 通信連絡設備(発電所内) 中央制御室等から建屋内外各所の者に対し、必要な操作、作業又は退避の指示等の連絡を行う。</p> <p>(2) 通信連絡設備(発電所外) 発電所外の必要箇所へ事故の発生等に係る連絡を音声等により行う。</p> <p>(3) 安全パラメータ表示システム(SPDS) 重大事故等時に対処するために必要な情報(プラントパラメータ)を把握するため、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へデータを伝送する。</p> <p>(4) データ伝送設備 発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送する。</p>	<p>(1) 通信連絡設備(発電所内) 中央制御室、緊急時対策所等から建屋内外各所の者に対し、相互に必要な操作、作業、退避の指示及び連絡を行う。</p> <p>(2) 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS)) 重大事故等時に対処するために必要な情報(プラントパラメータ)を把握するために、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所及び免震重要棟内緊急時対策所へデータを伝送する。</p> <p>(3) 通信連絡設備(発電所外) 発電所外の必要箇所と事故の発生等に係る連絡を行う。</p> <p>(4) データ伝送設備 発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送する。</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>
107	添付資料 1.19.5 1.	1.19-39	<p>第1図 通信連絡設備の概要</p>	<p>図1 通信連絡設備の概要</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>
108	添付資料 1.19.5 2.	1.19-40	<p>中央制御室等から人が立ち入る可能性のある原子炉建屋、タービン建屋等の建屋内外各所の者への必要な操作、作業又は退避の指示等の連絡を行うことができる設備として、送受信器(警報装置を含む。)、電力保安通信用電話設備、携帯型音声呼出電話設備、無線連絡設備及び衛星電話設備の多様性を確保した通信連絡設備(発電所内)を設置又は保管する設計とする。概要を第2図に示す。</p>	<p>中央制御室、緊急時対策所等から人が立ち入る可能性のある建屋内外各所の者に対し、相互に必要な操作、作業、退避の指示及び連絡を行うことができるよう、送受信器(ベージング)、電力保安通信用電話設備、衛星電話設備、無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備を設置し、重大事故等時においても使用し、多様性を確保する設計とする。概要を図2に示す。</p>	<p>⑤</p>
109	添付資料 1.19.5 2.	1.19-40	<p>通信連絡設備(発電所内)の多様性を第1表に示す。</p>	<p>—</p>	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
110	添付資料 1.19.5 2.	1.19-40	また, 通信連絡設備(発電所内)のうち, 重大事故等対処設備である衛星電話設備, 無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備は, 重大事故等時においても使用し , 重大事故等が発生した場合においても機能維持を図る設計とする。	また, 通信連絡設備(発電所内)のうち, 重大事故等対処設備である衛星電話設備, 無線連絡設備及び携帯型音声呼出電話設備は, 重大事故等が発生した場合においても機能維持を図る設計とする。	⑤
111	添付資料 1.19.5 2.	1.19-40	電力保安通信用電話設備における建屋間の有線系回線の構成は, 6号及び7号炉に設置する電力保安通信用電話設備(交換機)と5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内に設置する固定電話機を接続する設計とする。	電力保安通信用電話設備における建屋間の有線系回線の構成は, 免震重要棟を中心としたスター形とし, 免震重要棟と5号炉間, 免震重要棟と6号及び7号炉間の有線系回線は2回線化する設計とする。	② (免震重要棟の自主化)
112	添付資料 1.19.5 2.	1.19-40	通信連絡設備(発電所内)については, 定期的な外観点検及び通信連絡の確認により適切な保守管理を行い, 常時使用できることを確認する。	-	⑤
113	添付資料 1.19.5 2.	1.19-41	 <p>第2図 通信連絡設備(発電所内)の概要</p>	 <p>図2 発電所内の通信連絡設備の概要</p>	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																														
114	添付資料 1.19.5 2.	1.19-42	<p>第1表 通信連絡設備（発電所内）の多様性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主要設備</th> <th>機能</th> <th>通信回線種別</th> <th>通信連絡の場所^{※1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>送受話器 (警報装置を含む。)</td> <td>ハンドセット・ スピーカ</td> <td>電話</td> <td>有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電力保安通信用 電話設備</td> <td>固定電話機</td> <td>電話</td> <td>有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内)</td> </tr> <tr> <td>PHS 端末</td> <td>電話</td> <td>有線系 /無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外) ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)</td> </tr> <tr> <td>FAX</td> <td>FAX</td> <td>有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備</td> <td>衛星電話設備(常設)、 衛星電話設備(可搬型)</td> <td>電話</td> <td>衛星系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備(常設)、 無線連絡設備(可搬型)</td> <td>電話</td> <td>無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)</td> </tr> <tr> <td>携帯型音声呼出 電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機</td> <td>電話</td> <td>有線系回線 ・中央制御室-現場(屋内) ・緊急時対策所^{※2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 緊急時対策所：5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 中央制御室：6号及び7号炉中央制御室 現場(屋内)：コントロール建屋、原子炉建屋、タービン建屋、廃棄物処理建屋 ※2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の対策本部と持機場所間の通信連絡を行う。</p>	主要設備	機能	通信回線種別	通信連絡の場所 ^{※1}	送受話器 (警報装置を含む。)	ハンドセット・ スピーカ	電話	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)	電力保安通信用 電話設備	固定電話機	電話	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内)	PHS 端末	電話	有線系 /無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外) ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)	FAX	FAX	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室	衛星電話設備	衛星電話設備(常設)、 衛星電話設備(可搬型)	電話	衛星系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)	無線連絡設備	無線連絡設備(常設)、 無線連絡設備(可搬型)	電話	無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)	携帯型音声呼出 電話設備	携帯型音声呼出電話機	電話	有線系回線 ・中央制御室-現場(屋内) ・緊急時対策所 ^{※2}	-	⑤
主要設備	機能	通信回線種別	通信連絡の場所 ^{※1}																																
送受話器 (警報装置を含む。)	ハンドセット・ スピーカ	電話	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)																																
電力保安通信用 電話設備	固定電話機	電話	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・中央制御室-現場(屋内)																																
	PHS 端末	電話	有線系 /無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外) ・中央制御室-現場(屋内) ・中央制御室-現場(屋外)																																
	FAX	FAX	有線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室																																
衛星電話設備	衛星電話設備(常設)、 衛星電話設備(可搬型)	電話	衛星系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)																																
無線連絡設備	無線連絡設備(常設)、 無線連絡設備(可搬型)	電話	無線系回線 ・緊急時対策所-中央制御室 ・緊急時対策所-現場(屋外)																																
携帯型音声呼出 電話設備	携帯型音声呼出電話機	電話	有線系回線 ・中央制御室-現場(屋内) ・緊急時対策所 ^{※2}																																
115	添付資料 1.19.5 3.	1.19-43	<p>発電所外の必要箇所と事故の発生等に係る連絡を行うため、通信連絡設備(発電所外)として、テレビ会議システム、専用電話設備、衛星電話設備(社内向)、衛星電話設備及び統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備を設置又は保管する設計とし、有線系回線又は衛星系回線による通信方式の多様性を確保した専用通信回線に接続し、輻輳等による制限を受けることなく常時使用できる設計とする。概要を第3, 4, 5図に示す。</p>	<p>発電所外の必要箇所と事故の発生等に係る連絡を行うため、以下の通信連絡設備を設置し、多様性を確保した専用通信回線に接続し、輻輳等による制限を受けることなく常時使用できる設計とする。概要を図3, 4, 5に示す。</p>	⑤																														

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

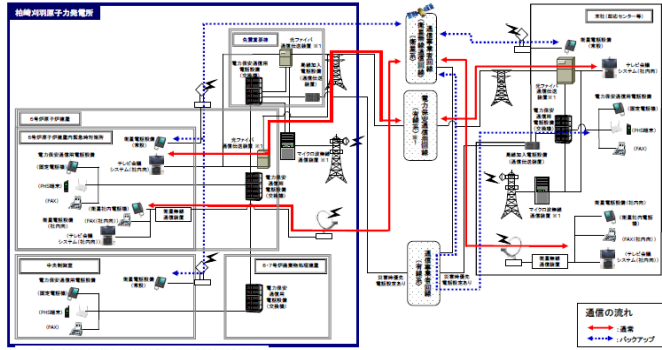
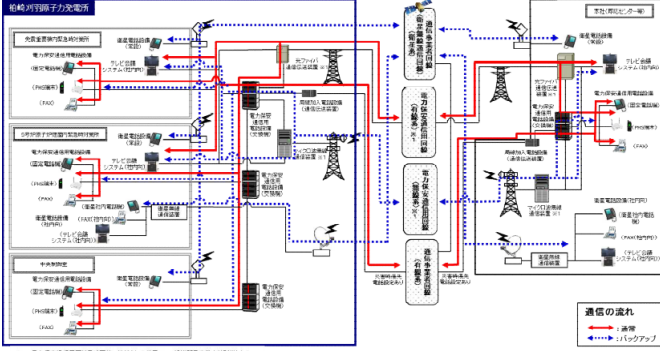
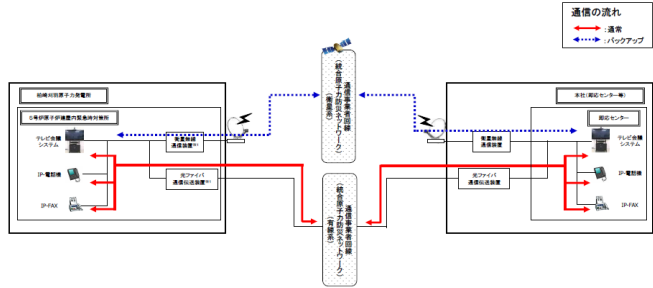
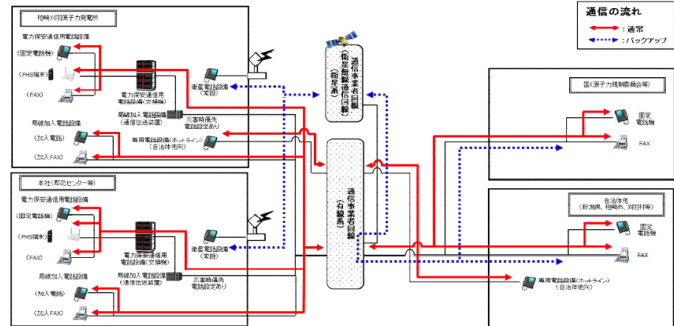
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
116	添付資料 1.19.5 3.	1.19-43	<p>(1) テレビ会議システム 専用の電力保安通信用回線(有線系)に接続しているテレビ会議システム(社内向)</p> <p>(2) 専用電話設備 通信事業者が提供する専用通信回線(有線系)に接続する専用電話設備</p> <p>(3) 衛星電話設備(社内向) 通信事業者が提供する衛星無線通信回線(衛星系)に接続しているテレビ会議システム(社内向)及び衛星社内電話機</p> <p>(4) 衛星電話設備 通信事業者が提供する衛星無線通信回線(衛星系)に接続している衛星電話設備(常設), 衛星電話設備(可搬型)</p> <p>(5) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 通信事業者が提供する特定顧客専用の統合原子力防災ネットワーク(有線系及び衛星系)を用いたIP-電話機, IP-FAX, テレビ会議システム</p>	<p>(1) 電力保安通信用電話設備 専用の電力保安通信用回線(有線系及び無線系)に接続している固定電話機, PHS端末, FAX</p> <p>(2) テレビ会議システム(社内向) 専用の電力保安通信用回線(有線系及び無線系)に接続しているテレビ会議システム</p> <p>(3) 局線加入電話設備 通信事業者が提供する災害時優先加入契約された通信事業者回線(有線系)に接続している加入電話機及び加入FAX</p> <p>(4) 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 通信事業者が提供する特定顧客専用の統合原子力防災ネットワーク(有線系及び衛星系)を用いたIP-電話機, IP-FAX, テレビ会議システム</p> <p>(5) 専用電話設備(ホットライン) 通信事業者が提供する専用通信回線(有線系)に接続する専用電話設備</p> <p>(6) 衛星電話設備 通信事業者が提供する衛星無線通信回線(衛星系)に接続している衛星電話設備(常設), 衛星電話設備(可搬型)</p> <p>(7) 衛星電話設備(社内向) 通信事業者が提供する専用の衛星無線通信回線(衛星系)に接続している衛星社内電話機, FAX(社内向), テレビ会議システム(社内向)</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>
117	添付資料 1.19.5 3.	1.19-43	<p>なお, 専用の電力保安通信用回線は, 送電鉄塔に配備する有線系回線によって構成し, 発電所外の必要箇所と通信連絡する設計とする。万が一, 電力保安通信用回線による通信連絡の機能が喪失した場合, 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備等の衛星系回線により, 発電所外の必要箇所との通信連絡が可能な設計とする。</p>	<p>なお, 専用の電力保安通信用回線は, 送電鉄塔に配備する有線系回線及び無線鉄塔に配備する無線系回線によって構成し, 多様性を確保する設計とする。さらに, 有線系回線及び無線系回線は, 発電所外の必要箇所と通信連絡する経路を, それぞれ2回線化する設計とする。 万一, 電力保安通信用回線による通信連絡の機能が喪失した場合, 統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備等の衛星系回線により, 発電所外の必要箇所との通信連絡が可能な設計とする。</p>	<p>② (免震重要棟の自主化)</p>
118	添付資料 1.19.5 3.	1.19-43	<p>通信連絡設備(発電所外)については, 定期的な外観点検及び通信連絡の確認により適切な保守管理を行い, 常時使用できることを確認する。</p>	-	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
119	添付資料 1.19.5 3.	1.19-44	 <p>第3図 通信連絡設備（発電所外〔社内関係箇所〕）の概要（その1） （テレビ会議システム（社内向）、衛星電話設備（社内向）、衛星電話設備）</p>	 <p>図3 通信連絡設備（発電所外〔社内関係箇所〕）の概要</p>	② （免震重要棟の自主化）
120	添付資料 1.19.5 3.	1.19-45	 <p>第4図 通信連絡設備（発電所外〔社内関係箇所〕）の概要（その2） （統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備）</p>	 <p>図4 通信連絡設備（発電所外〔社外関係箇所〕）の概要（その1）</p>	② （免震重要棟の自主化）

まとめ資料変更箇所リスト

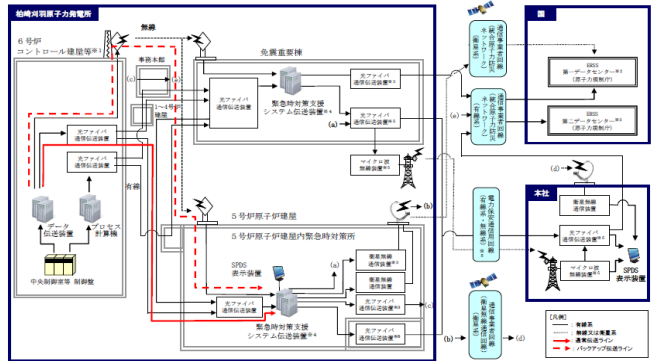
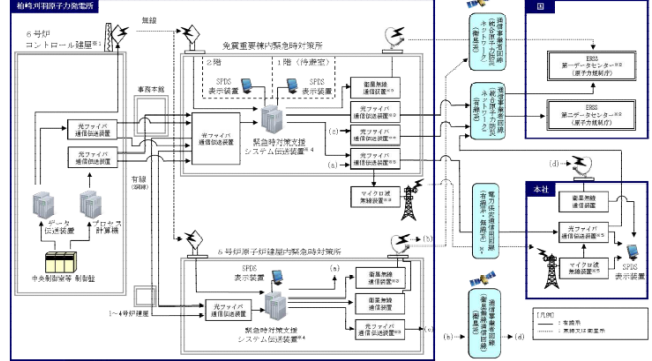
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
121	添付資料 1.19.5 3.	1.19-46	<p>第5図 通信連絡設備（発電所外〔社内関係箇所〕）の概要 （衛星電話設備、専用電話設備（ホットライン）、統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備）</p>	<p>第5図 通信連絡設備（発電所外〔社外関係箇所〕）の概要（その2）</p>	② （免震重要棟の自主化）
122	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	4. 安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備	1. 3 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備)の概要	⑤
123	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ 事故状態等の把握 に必要なデータを伝送できる設備として、データ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置で構成する 安全パラメータ表示システム(SPDS) を設置する設計とする。また、発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送できる設備として、 緊急時対策支援システム伝送装置 で構成する データ伝送設備 を設置する設計とする。	免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ、重大事故等時に対処するために必要なデータを伝送できる設備として、主にデータ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置から構成される必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))を構築する設計とする。 免震重要棟内緊急時対策所及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所に設置する緊急時対策支援システム伝送装置は、データ伝送設備として、発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送可能な設計とする。	② （免震重要棟の自主化） ⑤
124	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	データ伝送設備は、データ伝送装置からデータを収集し、緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送可能な設計とし、常時使用できるよう、通信事業者が提供する特定顧客専用の統合原子力防災ネットワーク(有線系及び衛星系)に接続し多様性を確保するとともに、専用の電力保安通信回線(有線系)及び通信事業者が提供する専用の衛星無線通信回線(衛星系)にも接続し多様性を確保する設計とする。概要を第6図に示す。	また、データ伝送設備は、常時使用できるよう、通信事業者が提供する特定顧客専用の統合原子力防災ネットワーク(有線系及び衛星系)に接続し多様性を確保するとともに、専用の電力保安通信回線(有線系及び無線系)及び通信事業者が提供する専用の衛星無線通信回線にも接続し多様性を確保する設計とする。概要を図6に示す。	⑤
125	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	なお、安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備のうち、重大事故等対処設備であるデータ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置は、重大事故等時においても使用し、重大事故等が発生した場合においても機能維持を図る設計とする。	なお、必要な情報を把握するための設備及びデータ伝送設備のうち、重大事故等対処設備であるデータ伝送装置、緊急時対策支援システム伝送装置及びSPDS表示装置は、重大事故等時においても使用し、重大事故等が発生した場合においても機能維持を図る設計とする。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
126	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	安全パラメータ表示システム(SPDS)における発電所内建屋間の有線系回線の構成は、6号及び7号炉と5号炉間を直接接続する設計とする。	必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))における発電所内建屋間の有線系回線の構成は、免震重要棟を中心としたスター形とし、6号及び7号炉と免震重要棟間、6号及び7号炉と5号炉間の有線系回線は2回線化する設計とする。	② (免震重要棟の自主化) ⑤
127	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	万一、有線系回線に損傷が発生し有線系回線によるデータ伝送の機能が喪失した場合、無線通信装置により、発電所内建屋間のデータ伝送が継続可能な設計とする。	万一、1回線に損傷が発生した場合、有線系回線によるデータ伝送は継続されるが、有線系回線が集中する免震重要棟が損傷し、有線系回線によるデータ伝送の機能が喪失した場合、無線通信装置により、発電所内建屋間のデータ伝送が継続可能な設計とする。	② (免震重要棟の自主化)
128	添付資料 1.19.5 4.	1.19-47	安全パラメータ表示システム(SPDS)及びデータ伝送設備については、定期的な外観点検及び通信連絡の確認により適切な保守管理を行い、常時使用できることを確認する。	-	⑤
129	添付資料 1.19.5 4.	1.19-48	 <p>第6図 安全パラメータ表示システム (SPDS) 及びデータ伝送設備の概要</p>	 <p>図6 必要な情報を把握できる設備(安全パラメータ表示システム(SPDS))及びデータ伝送設備の概要</p>	② (免震重要棟の自主化) ⑤
130	添付資料 1.19.6	1.19-49	通信連絡設備(発電所外)及びデータ伝送設備については、有線系回線又は衛星系回線による通信方式の多様性を確保した通信回線に接続し、輻輳等による制限を受けることなく常時使用できる設計とする。主要設備ごとに接続する通信回線種別を第2表に記載するとともに、概要を第7図に示す。	発電所外との通信連絡設備及びデータ伝送設備については、有線系回線、無線系回線又は衛星系回線により多様性を確保した通信回線に接続し、輻輳等による制限を受けることなく常時使用できる設計とする。主要設備ごとに接続する通信回線種別について表1に記載するとともに、概要を図7に示す。	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

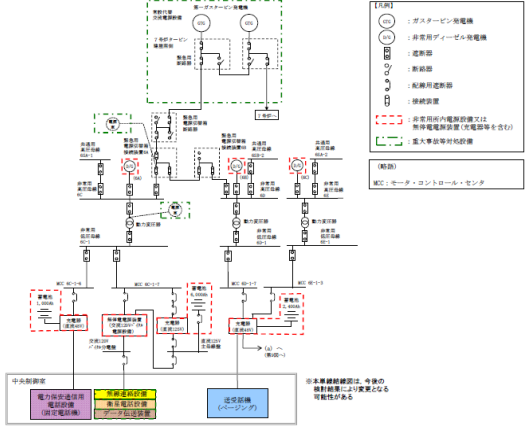
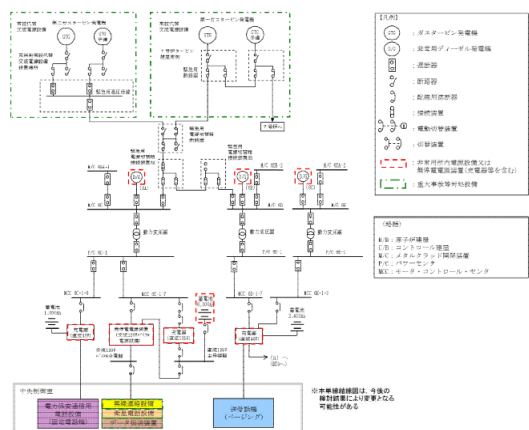
- ① 指摘事項対応による変更・修正
- ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③ 評価進捗による変更・修正
- ④ 前提条件変更による修正
- ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																												
131	添付資料 1.19.6	1.19-49	<p>第2表 多様性を確保した通信回線</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信回線種別</th> <th>主要設備</th> <th>機能</th> <th>専用</th> <th>通信の制限^{※1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">電力保安 通信回線^{※2}</td> <td>有線系回線 (光ファイバ)</td> <td>テレビ会議 システム データ伝送設備</td> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>衛星電話設備 (常設, 可搬型)</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">通信事業者 回線</td> <td>衛星系回線</td> <td>衛星電話設備 (社内用)</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線</td> <td>専用電話設備 (ホットライン) (自治体指向)</td> <td>専用電話機</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>有線系回線 (光ファイバ)</td> <td>IP-電話機</td> <td>電話</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>IP-FAX</td> <td>FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム テレビ会議機</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>IP-電話機 IP-FAX</td> <td>電話 FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>データ伝送</td> <td>○ ◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 通信の制限とは、輻輳のほか、災害発生時の通信事業者による通信規制を想定 ※2: 電力保安通信回線及び回線に接続される装置は、一般送配電事業者所管となる。</p> <p>【凡例】・専用 ○: 専用回線 -: 非専用回線 ・輻輳 ◎: 制限なし ○: 制限のおそれ少ない ×: 制限のおそれある</p>	通信回線種別	主要設備	機能	専用	通信の制限 ^{※1}	電力保安 通信回線 ^{※2}	有線系回線 (光ファイバ)	テレビ会議 システム データ伝送設備	テレビ会議システム (社内用)	○ ◎	衛星系回線	衛星電話設備 (常設, 可搬型)	緊急時対策支援 システム伝送装置	○ ◎	通信事業者 回線	衛星系回線	衛星電話設備 (社内用)	緊急時対策支援 システム伝送装置	○ ◎	有線系回線	専用電話設備 (ホットライン) (自治体指向)	専用電話機	○ ◎	通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	有線系回線 (光ファイバ)	IP-電話機	電話	○ ◎	衛星系回線	IP-FAX	FAX	○ ◎	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備	テレビ会議システム テレビ会議機	○ ◎	衛星系回線	IP-電話機 IP-FAX	電話 FAX	○ ◎	衛星系回線	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎	<p>表1 接続する通信回線種別一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信回線種別</th> <th>主要設備</th> <th>機能</th> <th>専用</th> <th>通信の制限^{※1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">電力保安 通信回線^{※2}</td> <td>電力保安通信用 電話機^{※3}</td> <td>固定電話機, PB, 端末</td> <td>電話</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (光ファイバ)</td> <td>FAX</td> <td>FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議 システム (社内用)</td> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>テレビ会議</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>データ伝送</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">衛星系回線 (衛星系)</td> <td>電力保安通信用 電話機^{※3}</td> <td>固定電話機, PB, 端末</td> <td>電話</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (光ファイバ)</td> <td>FAX</td> <td>FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議 システム (社内用)</td> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>テレビ会議</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>データ伝送</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">通信事業者 回線</td> <td>有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>加入電話機</td> <td>電話</td> <td>- ○</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>加入FAX</td> <td>FAX</td> <td>- ○</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>加入電話機</td> <td>電話</td> <td>- ×</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>加入FAX</td> <td>FAX</td> <td>- ×</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>衛星系回線</td> <td>衛星電話設備 (有線), 衛星電話設備 (有線)</td> <td>電話</td> <td>- ○</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (社内用)</td> <td>衛星社内電話機 FAX (社内用)</td> <td>電話 FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (社内用)</td> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>テレビ会議</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>専用電話設備</td> <td>専用電話機</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>有線系回線 (光ファイバ)</td> <td>統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム テレビ会議機</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>IP-電話機</td> <td>電話</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)</td> <td>IP-FAX</td> <td>FAX</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>テレビ会議システム テレビ会議機</td> <td>テレビ会議</td> <td>○ ◎</td> </tr> <tr> <td>衛星系回線</td> <td>データ伝送設備</td> <td>緊急時対策支援 システム伝送装置</td> <td>データ伝送</td> <td>○ ◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 輻輳/通信の制限は、輻輳のほか、災害発生時の通信事業者による通信規制を想定 ※2: 通信の制限とは、輻輳のほか、災害発生時の通信事業者による通信規制を想定 ※3: 電力保安通信回線及び回線に接続される装置は、一般送配電事業者所管となる。</p> <p>【凡例】・専用 ○: 専用回線 -: 非専用回線 ・輻輳 ◎: 制限なし ○: 制限のおそれ少ない ×: 制限のおそれある</p>	通信回線種別	主要設備	機能	専用	通信の制限 ^{※1}	電力保安 通信回線 ^{※2}	電力保安通信用 電話機 ^{※3}	固定電話機, PB, 端末	電話	○ ◎	有線系回線 (光ファイバ)	FAX	FAX	○ ◎	テレビ会議 システム (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎	衛星系回線 (衛星系)	電力保安通信用 電話機 ^{※3}	固定電話機, PB, 端末	電話	○ ◎	有線系回線 (光ファイバ)	FAX	FAX	○ ◎	テレビ会議 システム (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎	通信事業者 回線	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	加入電話機	電話	- ○	衛星系回線	加入FAX	FAX	- ○	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	加入電話機	電話	- ×	衛星系回線	加入FAX	FAX	- ×	通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	衛星系回線	衛星電話設備 (有線), 衛星電話設備 (有線)	電話	- ○	有線系回線 (社内用)	衛星社内電話機 FAX (社内用)	電話 FAX	○ ◎	有線系回線 (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	専用電話設備	専用電話機	○ ◎	通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	有線系回線 (光ファイバ)	統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備	テレビ会議システム テレビ会議機	○ ◎	衛星系回線	IP-電話機	電話	○ ◎	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	IP-FAX	FAX	○ ◎	衛星系回線	テレビ会議システム テレビ会議機	テレビ会議	○ ◎	衛星系回線	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎	② (免震重要棟の自主 化)
通信回線種別	主要設備	機能	専用	通信の制限 ^{※1}																																																																																																																																													
電力保安 通信回線 ^{※2}	有線系回線 (光ファイバ)	テレビ会議 システム データ伝送設備	テレビ会議システム (社内用)	○ ◎																																																																																																																																													
	衛星系回線	衛星電話設備 (常設, 可搬型)	緊急時対策支援 システム伝送装置	○ ◎																																																																																																																																													
通信事業者 回線	衛星系回線	衛星電話設備 (社内用)	緊急時対策支援 システム伝送装置	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線	専用電話設備 (ホットライン) (自治体指向)	専用電話機	○ ◎																																																																																																																																													
通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	有線系回線 (光ファイバ)	IP-電話機	電話	○ ◎																																																																																																																																													
	衛星系回線	IP-FAX	FAX	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備	テレビ会議システム テレビ会議機	○ ◎																																																																																																																																													
	衛星系回線	IP-電話機 IP-FAX	電話 FAX	○ ◎																																																																																																																																													
衛星系回線	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎																																																																																																																																													
通信回線種別	主要設備	機能	専用	通信の制限 ^{※1}																																																																																																																																													
電力保安 通信回線 ^{※2}	電力保安通信用 電話機 ^{※3}	固定電話機, PB, 端末	電話	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (光ファイバ)	FAX	FAX	○ ◎																																																																																																																																													
	テレビ会議 システム (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎																																																																																																																																													
	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎																																																																																																																																													
衛星系回線 (衛星系)	電力保安通信用 電話機 ^{※3}	固定電話機, PB, 端末	電話	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (光ファイバ)	FAX	FAX	○ ◎																																																																																																																																													
	テレビ会議 システム (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎																																																																																																																																													
	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎																																																																																																																																													
通信事業者 回線	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	加入電話機	電話	- ○																																																																																																																																													
	衛星系回線	加入FAX	FAX	- ○																																																																																																																																													
	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	加入電話機	電話	- ×																																																																																																																																													
	衛星系回線	加入FAX	FAX	- ×																																																																																																																																													
通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	衛星系回線	衛星電話設備 (有線), 衛星電話設備 (有線)	電話	- ○																																																																																																																																													
	有線系回線 (社内用)	衛星社内電話機 FAX (社内用)	電話 FAX	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (社内用)	テレビ会議システム (社内用)	テレビ会議	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	専用電話設備	専用電話機	○ ◎																																																																																																																																													
通信事業者 回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	有線系回線 (光ファイバ)	統合原子力防災 ネットワークを用 いた通信連絡設備	テレビ会議システム テレビ会議機	○ ◎																																																																																																																																													
	衛星系回線	IP-電話機	電話	○ ◎																																																																																																																																													
	有線系回線 (統合原子力 防災ネット ワーク)	IP-FAX	FAX	○ ◎																																																																																																																																													
	衛星系回線	テレビ会議システム テレビ会議機	テレビ会議	○ ◎																																																																																																																																													
衛星系回線	データ伝送設備	緊急時対策支援 システム伝送装置	データ伝送	○ ◎																																																																																																																																													
132	添付資料 1.19.6	1.19-50	<p>第7図 多様性を確保した通信回線の概要</p>	<p>図7 多様性を確保した通信回線の概要</p>	② (免震重要棟の自主 化)																																																																																																																																												

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
133	添付資料 1.19.7	1.19-51	<p>1. 6号及び7号炉中央制御室 6号及び7号炉中央制御室における通信連絡設備は, 外部電源喪失時, 非常用所内電源設備である非常用ディーゼル発電機又は無停電電源装置(充電器等を含む。)から受電可能な設計とする。 さらに, 6号及び7号炉中央制御室における通信連絡設備は, 代替電源設備として常設代替交流電源設備である第一ガスタービン発電機又は可搬型代替交流電源設備である電源車から受電可能な設計とする。概要を第8図及び第9図に示す。 また, 通信連絡設備の電源設備を第3表, 第4表及び第5表に示す。</p>	<p>通信連絡設備及び緊急時対策支援システム(ERSS)等へ必要なデータを伝送できる設備は, 非常用所内電源設備又は無停電電源装置又は代替電源設備(電池等の予備電源設備を含む)から給電可能としている。単線結線図を図8~11に示し, 接続電源の一覧を表2, 3, 4に記載する。</p>	<p>② (電源設計の進捗による変更) ⑤</p>
134	添付資料 1.19.7	1.19-51	 <p>第8図 中央制御室における通信連絡設備の電源構成(6号炉)</p>	 <p>図8 中央制御室における通信連絡設備の単線結線図(6号炉)</p>	<p>② (第2GTGの自主設備化) (電源設計の進捗による変更)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

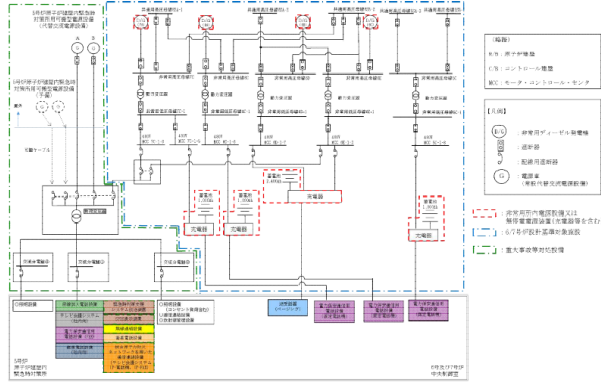
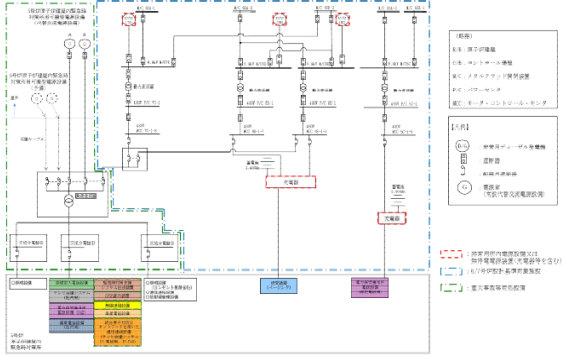
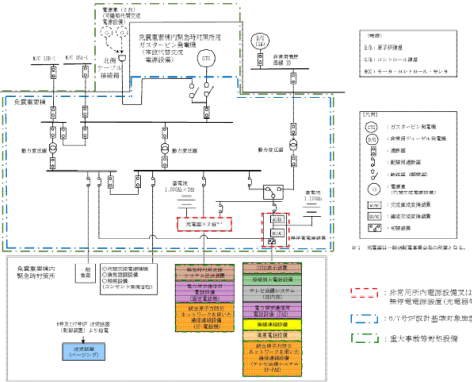
【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
135	添付資料 1.19.7	1.19-52	<p>図9 中央制御室における通信連絡設備の単線結線図 (7号炉)</p>	<p>第9図 中央制御室における通信連絡設備の電源構成 (7号炉)</p>	<p>② (第2GTGの自主設備化) (電源設計の進捗による変更)</p>
136	添付資料 1.19.7	1.19-53	<p>2. 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備は、外部電源喪失時、非常用所内電源設備である非常用ディーゼル発電機又は無停電電源装置(充電器等を含む。)から受電可能な設計とする。 さらに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備は、代替電源設備として代替交流電源設備である5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備から受電可能な設計とする。概要を第10図に示す。 また、通信連絡設備の電源設備を第3表、第4表及び第5表に示す。</p>	-	<p>⑤</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
137	添付資料 1.19.7	1.19-53	 <p>第10図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備の電源構成</p>	 <p>図11 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備の単線結線図</p>	② (電源設計の進捗による変更)
138			(削除)	 <p>図10 免震重要棟内緊急時対策所における通信連絡設備の単線結線図</p>	② (免震重要棟の自主化)

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																		
139	添付資料 1.19.7	1.19-54	<p style="text-align: center;">第3表 通信連絡設備（発電所内）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">携帯型音声呼出電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機</td> <td>6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>乾電池^{※1}</td> </tr> <tr> <td>送受話器 （警報装置を含む）</td> <td>6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備（常設）</td> <td>6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備（可搬型）</td> <td>5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備^{※3} （代替交流電源設備）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">電力保安通信用電話設備</td> <td>固定電話機</td> <td>6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PDS 端末</td> <td>6号及び7号 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）</td> </tr> <tr> <td>5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>充電式電池（本体内蔵）^{※4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>6号及び7号 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備^{※3} （代替交流電源設備）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 乾電池により約4日間の連続通話が可能。また、必要な予備の乾電池を保持し、予備の乾電池と交換することにより7日間以上継続しての通話が可能。 ※2 GTG：ガスタービン発電機 ※3 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 ※4 充電式電池により約12時間の連続通話が可能。また、ほかの端末若しくは予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通話が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。 ※5 充電式電池により約4時間の通話が可能。また、ほかの端末若しくは予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通話が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。</p>	通信種別	主要施設	非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備	携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	乾電池 ^{※1}	送受話器 （警報装置を含む）	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）	無線連絡設備	無線連絡設備（常設）	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	無線連絡設備（可搬型）	5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備 ^{※3} （代替交流電源設備）	電力保安通信用電話設備	固定電話機	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）	PDS 端末	6号及び7号 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）	5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	充電式電池（本体内蔵） ^{※4}	FAX	6号及び7号 中央制御室	非常用ディーゼル発電機	5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備 ^{※3} （代替交流電源設備）	<p style="text-align: center;">表2 通信連絡設備（発電所内）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">携帯型音声呼出電話設備</td> <td>携帯型音声呼出電話機</td> <td>6号及び7号 中央制御室</td> <td>乾電池^{※1}</td> </tr> <tr> <td>送受話器 （警報装置を含む）</td> <td>6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">無線連絡設備</td> <td>無線連絡設備（常設）</td> <td>6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>無線連絡設備（可搬型）</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電式電池（本体内蔵）^{※4}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 乾電池により約4日間の連続通話が可能。また、必要な予備の乾電池を保持し、予備の乾電池と交換することにより7日間以上継続しての通話が可能。 ※2 GTG：ガスタービン発電機 ※3 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所用可搬型電源設備 ※4 充電式電池により約12時間の連続通話が可能。また、他の端末若しくは予備の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての通話が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。</p>	通信種別	主要施設	非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備	携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	6号及び7号 中央制御室	乾電池 ^{※1}	送受話器 （警報装置を含む）	6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）	無線連絡設備	無線連絡設備（常設）	6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	無線連絡設備（可搬型）	免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電式電池（本体内蔵） ^{※4}	<p style="text-align: center;">② （第2GTGの自主設備 化） （免震重要棟の自主 化） （電源設計の進捗による 変更） ⑤</p>
通信種別	主要施設	非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備																																																				
携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	乾電池 ^{※1}																																																				
	送受話器 （警報装置を含む）	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）																																																				
無線連絡設備	無線連絡設備（常設）	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																				
	無線連絡設備（可搬型）	5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備 ^{※3} （代替交流電源設備）																																																				
電力保安通信用電話設備	固定電話機	6号及び7号 中央制御室 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）																																																				
	PDS 端末	6号及び7号 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）																																																				
		5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	充電式電池（本体内蔵） ^{※4}																																																				
	FAX	6号及び7号 中央制御室	非常用ディーゼル発電機																																																				
		5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 可搬型電源設備 ^{※3} （代替交流電源設備）																																																				
通信種別	主要施設	非常用所内電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備																																																				
携帯型音声呼出電話設備	携帯型音声呼出電話機	6号及び7号 中央制御室	乾電池 ^{※1}																																																				
	送受話器 （警報装置を含む）	6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電器（蓄電池）																																																				
無線連絡設備	無線連絡設備（常設）	6号及び7号 中央制御室 免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																				
	無線連絡設備（可搬型）	免震重要棟内緊急時対策所 5号伊原子伊達屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機 充電式電池（本体内蔵） ^{※4}																																																				

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ① 指摘事項対応による変更・修正
- ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③ 評価進捗による変更・修正
- ④ 前提条件変更による修正
- ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																									
140	添付資料 1.19.7	1.19-55	<p style="text-align: center;">第4表 通信連絡設備（発電所内及び発電所外）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用内用電源設備又は無停電電源装置</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">発電所内外</td> <td rowspan="3">データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)</td> <td>6号炉 プロセス計算機室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>7号炉 プロセス計算機室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">データ伝送装置</td> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>SPBS 表示装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>SPBS 表示装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">衛星電話設備</td> <td>衛星電話設備 (常設)</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置</td> <td>第一GTG^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 GTG: ボクスタービン発電機。 ※2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備。 ※3 充電式電池により約4時間の運転が可能。また、ほかの備案若しくは手操の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての運転が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。 : 重大事故等対応設備</p>	通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備	発電所内外	データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)	6号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	7号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)	緊急時対策支援システム伝送装置	充電器 (蓄電池)	データ伝送装置	緊急時対策支援システム伝送装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置	第一GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	<p style="text-align: center;">表3 通信連絡設備（発電所内及び発電所外）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用内用電源設備又は無停電電源装置</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">発電所内外</td> <td rowspan="6">電力保安設備用 電話設備</td> <td rowspan="3">固定電話機</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置等</td> </tr> <tr> <td>充電器 (蓄電池)</td> <td>第一GTG^{※1}及び第二GTG^{※2} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">FAX 端末</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> <td>第一GTG^{※1}及び第二GTG^{※2} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>充電式電池 (本体内蔵)^{※3}</td> <td>充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>第一GTG^{※1}及び第二GTG^{※2} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">衛星電話設備</td> <td rowspan="3">衛星電話設備 (常設)</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> <td>第一GTG^{※1}及び第二GTG^{※2} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 本機は電圧200V以下で稼働し、運転が可能。また、他の備案若しくは手操の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての運転が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。 ※2 GTG: ボクスタービン発電機。 ※3 5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備。 ※4 充電式電池により約4時間の運転が可能。また、ほかの備案若しくは手操の充電式電池と交換することにより7日間以上継続しての運転が可能であり、使用後の充電式電池は代替電源設備にて充電可能。 : 重大事故等対応設備</p>	通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備	発電所内外	電力保安設備用 電話設備	固定電話機	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置等	充電器 (蓄電池)	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	充電器 (蓄電池)	FAX 端末	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	充電式電池 (本体内蔵) ^{※3}	充電器 (蓄電池)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	衛星電話設備 (可搬型)	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	<p style="text-align: center;">② (第2GTG)の自主設備化) (免震重要棟の自主化) (電源設計の進捗) ⑤</p>
通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備																																																																											
発電所内外	データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)	6号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																																											
		7号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)																																																																											
		緊急時対策支援システム伝送装置	充電器 (蓄電池)																																																																											
	データ伝送装置	緊急時対策支援システム伝送装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
		SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
		SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置	第一GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)																																																																											
	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																											
	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																											
通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備																																																																											
発電所内外	電力保安設備用 電話設備	固定電話機	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置等																																																																										
			充電器 (蓄電池)	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)																																																																										
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	充電器 (蓄電池)																																																																										
		FAX 端末	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)																																																																									
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	充電式電池 (本体内蔵) ^{※3}	充電器 (蓄電池)																																																																									
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)																																																																									
	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																																										
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																																										
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																																										
		衛星電話設備 (可搬型)	6号及び7号炉 中央制御室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	第一GTG ^{※1} 及び第二GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備)																																																																									
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																									
			5号炉原子炉建屋内緊急時対策用	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																									
			<p style="text-align: center;">第4表 通信連絡設備（発電所内及び発電所外）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用内用電源設備又は無停電電源装置</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">発電所内外</td> <td rowspan="3">データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)</td> <td>6号炉 プロセス計算機室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>7号炉 プロセス計算機室</td> <td>非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>充電器 (蓄電池)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">データ伝送装置</td> <td>緊急時対策支援システム伝送装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>SPBS 表示装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>SPBS 表示装置</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (常設代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">衛星電話設備</td> <td>衛星電話設備 (常設)</td> <td>6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置</td> <td>第一GTG^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (可搬型)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 GTG: ボクスタービン発電機。 ※2 5号炉原子炉建屋内緊急時対策用可搬型電源設備。 : 重大事故等対応設備</p>	通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備	発電所内外	データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)	6号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置	7号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)	緊急時対策支援システム伝送装置	充電器 (蓄電池)	データ伝送装置	緊急時対策支援システム伝送装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)	衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置	第一GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																											
通信種別	主要施設	非常用内用電源設備又は無停電電源装置	代替電源設備																																																																											
発電所内外	データ伝送装置 安全パラメータ表示システム(SPBS)	6号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 無停電電源装置																																																																											
		7号炉 プロセス計算機室	非常用ディーゼル発電機 充電器 (蓄電池)																																																																											
		緊急時対策支援システム伝送装置	充電器 (蓄電池)																																																																											
	データ伝送装置	緊急時対策支援システム伝送装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
		SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
		SPBS 表示装置	非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (常設代替交流電源設備)																																																																										
衛星電話設備	衛星電話設備 (常設)	6号及び7号炉 中央制御室 無停電電源装置	第一GTG ^{※2} (常設代替交流電源設備) 電線車 (可搬型代替交流電源設備)																																																																											
	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																											
	衛星電話設備 (可搬型)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策用 非常用ディーゼル発電機	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																											

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

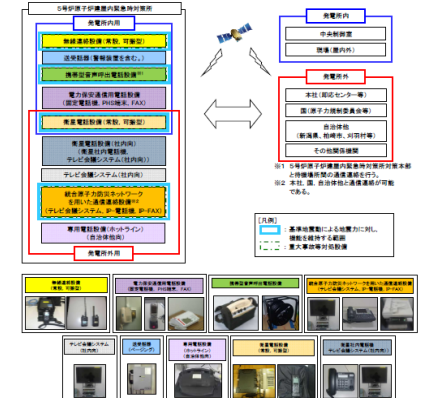
- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																
141	添付資料 1.19.7	1.19-56	<p style="text-align: center;">第5表 通信連絡設備（発電所外）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">発電所外</td> <td>統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>IP-電話機 (有線系, 衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>IP-FAX (有線系, 衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>乾電池^{※2}</td> </tr> <tr> <td>専用電話設備 (ネットワーク)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>可搬型電源設備^{※1} (代替交流電源設備)</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備 (社内用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>衛星社内電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※1: 乾電池による10日以上の連続運用が可能。また、手動発電又は予備の乾電池と交換することにより運用時間を延長可能。 ※2: 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備</small></p>	通信種別	主要施設	非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備	発電所外	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	IP-電話機 (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	IP-FAX (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	乾電池 ^{※2}	専用電話設備 (ネットワーク)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)	テレビ会議システム (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	衛星電話設備 (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	<p style="text-align: center;">表4 通信連絡設備（発電所外）の電源設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th>主要施設</th> <th>非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等</th> <th>代替電源設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム (有線系, 衛星系 共用)</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所</td> <td>無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>IP-電話機 (有線系, 衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>IP-FAX (有線系, 衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>専用電話設備 (ネットワーク)</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所</td> <td>無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">追加加入電話設備</td> <td>加入電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>通信事業者回線からの給電</td> </tr> <tr> <td>加入FAX</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>通信事業者回線からの給電</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">専用電話設備</td> <td>専用電話設備 (ネットワーク)</td> <td>免震重要棟内緊急時対策所</td> <td>無停電電源装置</td> </tr> <tr> <td>テレビ会議システム (社内用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備 (社内用)</td> <td>衛星社内電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> <tr> <td>FAX (社内用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td>非常用ディーゼル発電機</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>※1: 乾電池による10日以上の連続運用が可能。また、手動発電又は予備の乾電池と交換することにより運用時間を延長可能。 ※2: GTS, ガスタービン発電機。 ※3: 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備。 ※4: 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所用可搬型電源設備。</small></p>	通信種別	主要施設	非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	テレビ会議システム (有線系, 衛星系 共用)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置	IP-電話機 (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	IP-FAX (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	専用電話設備 (ネットワーク)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置	追加加入電話設備	加入電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	通信事業者回線からの給電	加入FAX	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	通信事業者回線からの給電	専用電話設備	専用電話設備 (ネットワーク)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置	テレビ会議システム (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	衛星電話設備 (社内用)	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	FAX (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機	② (免震重要棟の自主化)
通信種別	主要施設	非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備																																																																		
発電所外	統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																		
	IP-電話機 (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
	IP-FAX (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	乾電池 ^{※2}																																																																		
	専用電話設備 (ネットワーク)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	可搬型電源設備 ^{※1} (代替交流電源設備)																																																																		
テレビ会議システム (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																			
衛星電話設備 (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																			
衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																			
通信種別	主要施設	非常用内用電源設備 又は無停電電源装置等	代替電源設備																																																																		
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備	テレビ会議システム (有線系, 衛星系 共用)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置																																																																		
	IP-電話機 (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
	IP-FAX (有線系, 衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
	専用電話設備 (ネットワーク)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置																																																																		
追加加入電話設備	加入電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	通信事業者回線からの給電																																																																		
	加入FAX	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	通信事業者回線からの給電																																																																		
専用電話設備	専用電話設備 (ネットワーク)	免震重要棟内緊急時対策所	無停電電源装置																																																																		
	テレビ会議システム (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
衛星電話設備 (社内用)	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
	FAX (社内用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所	非常用ディーゼル発電機																																																																		
142	添付資料 1.19.8	1.19-57	添付資料1.19.8 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の通信連絡設備に係る耐震措置について	4. 緊急時対策所に設置する通信連絡設備及び重大事故等に対処するために必要な情報を把握する設備に係る耐震設計	⑤																																																																
143	-	-	-	(1)免震重要棟内緊急時対策所 免震重要棟内緊急時対策所では、免震構造の採用により、上部構造の加速度応答及び収納設備に生じる慣性力を低減させること、並びに通信連絡設備の転倒防止の措置を施すことで免震重要棟の設計地震動による機器設置床面の応答加速度に対して機能を喪失しない設計とする。	② (免震重要棟の自主化)																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

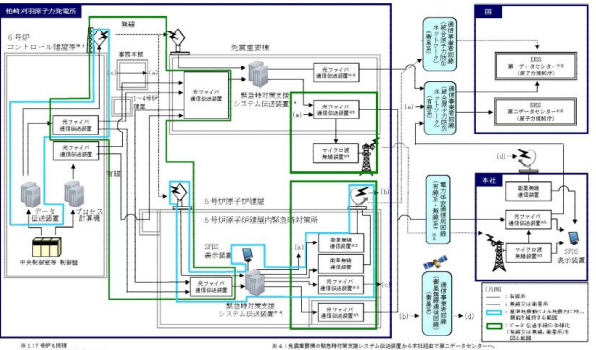
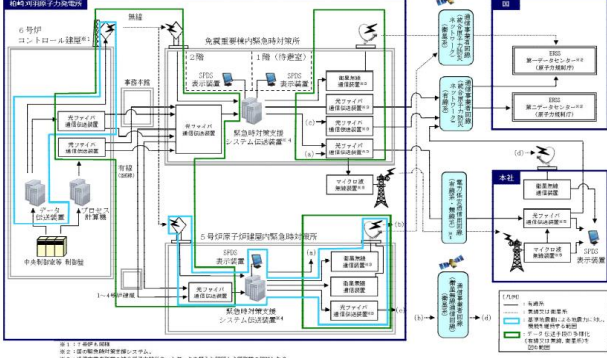

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
144	添付資料 1.19.8	1.19-57	<p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内に設置又は保管する通信連絡設備は、転倒防止措置等を施す設計とする。さらに、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内に設置又は保管する重大事故等対処設備は、転倒防止措置等を施すとともに加振試験等により基準地震動による地震力に対して機能を喪失しない設計とする。</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へ事故状態等の把握に必要なデータを伝送するための安全パラメータ表示システム (SPDS) 及び5号炉原子炉建屋内緊急時対策所内におけるデータ伝送設備については、転倒防止措置等を施すとともに加振試験等により基準地震動による地震力に対して機能を喪失しない設計とする。</p> <p>また、建屋間の伝送ルートは、無線系回線により基準地震動による地震力に対する耐震性を確保する設計とし、有線系回線については可とう性を有するとともに、余長を確保することにより、地震力による影響を低減する設計とする。</p> <p>概要を第11図及び第12図に示す。(SPDS表示装置については、「1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等」にて整理する。)</p>	<p>(2)5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備及びデータ伝送設備については、転倒防止措置等を施すことで、基準地震動による地震力に対して機能を喪失しない設計とする。</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所における通信連絡設備及びデータ伝送設備に関わる耐震措置の概要図12、13に示す。(SPDS表示装置については、「第34条 緊急時対策所」にて整理する。)</p>	⑤
145	添付資料 1.19.8	1.19-58	 <p>第11図 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の通信連絡設備に関わる耐震措置の概要</p>	 <p>図12 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の通信連絡設備に関わる耐震措置の概要</p>	⑤

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由							
147	添付資料 1.19.8	1.19-59	 <p>第12図 安全パラメータ表示システム (SPDS) 及びデータ伝送設備に関する耐震装置の概要</p>	 <p>図13 必要な情報を把握できる設備 (安全パラメータ表示システム (SPDS) 及びデータ伝送設備) に関する耐震装置の概要</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ⑤</p>							
148	添付資料 1.19.9	1.19-61	<table border="1" data-bbox="470 869 1120 1244"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>使用する通信連絡設備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">免電所内 退避の指示</td> <td> 5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 4台、スピーカ: 4台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 19台、PHS端末: 30台) ・衛星電話設備 (常設): 9台 ・無線連絡設備 (常設): 4台 </td> <td> 中央制御室 (6号炉)※ ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 11台、スピーカ: 21台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 14台、PHS端末: 17台) ・衛星電話設備 (常設): 3台 ・無線連絡設備 (常設): 3台 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> 現場 (屋内)※1 ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機、PHS端末) 現場 (屋外) ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (PHS端末) ・衛星電話設備 (可搬型) ・無線連絡設備 (可搬型) </td> </tr> </tbody> </table> <p>○設置台数 ・送受話器: 約370台 ・固定電話機: 約280台 ・PHS端末: 約250台 ・衛星電話設備 (可搬型): 39台 ・無線連絡設備 (可搬型): 180台</p> <p>※1: コントロール棟、原子炉建屋、タービン建屋等 ※2: 7号炉も同様 (一部6号炉と共用設備あり)</p> <p>・台数については、配備台数を示す。また、今後、訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第13図 「避避の指示」における通信連絡の指揮系統図</p>	機能	使用する通信連絡設備	免電所内 退避の指示	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 4台、スピーカ: 4台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 19台、PHS端末: 30台) ・衛星電話設備 (常設): 9台 ・無線連絡設備 (常設): 4台	中央制御室 (6号炉)※ ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 11台、スピーカ: 21台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 14台、PHS端末: 17台) ・衛星電話設備 (常設): 3台 ・無線連絡設備 (常設): 3台		現場 (屋内)※1 ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機、PHS端末) 現場 (屋外) ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (PHS端末) ・衛星電話設備 (可搬型) ・無線連絡設備 (可搬型)	 <p>図14 「避避の指示」における指揮系統図</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ② (通信設備設計進捗による変更)</p>
機能	使用する通信連絡設備											
免電所内 退避の指示	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所 ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 4台、スピーカ: 4台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 19台、PHS端末: 30台) ・衛星電話設備 (常設): 9台 ・無線連絡設備 (常設): 4台	中央制御室 (6号炉)※ ・送受話器 (ページング) (ハンドセット: 11台、スピーカ: 21台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機: 14台、PHS端末: 17台) ・衛星電話設備 (常設): 3台 ・無線連絡設備 (常設): 3台										
		現場 (屋内)※1 ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機、PHS端末) 現場 (屋外) ・送受話器 (ページング) ・電力保安通信用電話設備 (PHS端末) ・衛星電話設備 (可搬型) ・無線連絡設備 (可搬型)										

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ① 指摘事項対応による変更・修正 ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③ 評価進捗による変更・修正
 ④ 前提条件変更による修正 ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																								
149	添付資料 1.19.9	1.19-61	<p>機 能</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 送受話器及び電力保安通信用電話設備(固定電話機, PHS端末)が使用できる場合</p> <p>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 ・送受話器(ベージング) (ハンドセット:4台, スピーカ:4台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台, PHS端末:30台) ・衛星電話設備(常設):9台</p> <p>中央制御室(6号炉)^{※2} ・送受話器(ベージング) (ハンドセット:11台, スピーカ:21台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台, PHS端末:17台)</p> <p>現場(屋内)^{※1} ・送受話器(ベージング) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機, PHS端末)</p> <p>現場(屋外)^{※3} ・送受話器(ベージング) ・電力保安通信用電話設備 (PHS端末)</p> <p>放射能観測車(モニタリングカー) ・衛星電話設備(可搬型):1台</p> <p>○ 設置台数 ・送受話器:約370台 ・固定電話機:約280台 ・PHS端末:約250台</p> <p>※1:コントロール建屋, 原子伊建屋, タービン建屋等 ※2:7号炉も同様(一部6号炉と共用設備あり) ※3:モニタリングに係る作業を含む</p> <p>・台数については, 配備台数を示す。また, 今後, 訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第14図 「操作・作業の連絡」における通信連絡の指揮系統図(1/2)</p>	<p>機 能</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 送受話器及び電力保安通信用電話設備(固定電話機, PHS端末)が使用できる場合</p> <p>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 ・送受話器(ベージング) (ハンドセット:4台, スピーカ:4台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台, PHS端末:30台) ・衛星電話設備(常設):9台</p> <p>中央制御室(6号炉)^{※2} ・送受話器(ベージング) (ハンドセット:11台, スピーカ:21台) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台, PHS端末:17台)</p> <p>現場(屋内)^{※1} ・送受話器(ベージング) ・電力保安通信用電話設備 (固定電話機, PHS端末)</p> <p>現場(屋外)^{※3} ・送受話器(ベージング) ・電力保安通信用電話設備 (PHS端末)</p> <p>放射能観測車(モニタリングカー) ・衛星電話設備(可搬型):1台</p> <p>○ 設置台数 ・送受話器:約370台 ・固定電話機:約280台 ・PHS端末:約250台</p> <p>※1:コントロール建屋, 原子伊建屋, タービン建屋等 ※2:7号炉も同様(一部6号炉と共用設備あり) ※3:モニタリングに係る作業を含む</p> <p>・台数については, 配備台数を示す。また, 今後, 訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第15図 「操作・作業の連絡」における通信連絡の指揮系統図(1/2)</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ② (通信設備設計進捗による変更)</p>																								
150	添付資料 1.19.9	1.19-61	<p>機 能</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 送受話器及び電力保安通信用電話設備(固定電話機, PHS端末)が使用できない場合</p> <p>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 対策本部 ・衛星電話設備(常設):1台 ・無線連絡設備(常設):4台 ・携帯型音声呼出電話機^{※4}:2台</p> <p>中央制御室(6号炉)^{※2} ・衛星電話設備(常設):1台 ・携帯型音声呼出電話機:1台</p> <p>現場(屋内)^{※1} ・携帯型音声呼出電話機:7台</p> <p>現場(屋外) ・無線連絡設備(可搬型):16台^{※3} ・放射能観測車(モニタリングカー) ・衛星電話設備(可搬型):1台</p> <p>※1:コントロール建屋, 原子伊建屋, タービン建屋等 ※2:7号炉も同様 ※3:モニタリングに係る作業に追加で1台必要 ※4:5号伊原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)と(待機場所)間の通信連絡を行うために設置する。</p> <p>重大事故等が発生した場合においても, 現在, 配備している通信連絡設備により十分に対応できる。 重大事故等が発生した場合(全交直動力電源喪失時及び炉内圧力・温度による熱的負荷(格納容器過圧・過温破壊)(代替循環冷却を使用する場合)における必要な通信連絡設備は以下の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>無線連絡設備(常設)</th> <th>衛星電話設備(常設)</th> <th>無線連絡設備(可搬型)</th> <th>携帯型音声呼出電話機</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台</td> <td>6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台</td> <td>現場(屋外) :16台</td> <td>6号炉及び7号炉中央制御室 :16台</td> </tr> <tr> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・台数については, 今後, 訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第15図 「操作・作業の連絡」における通信連絡の指揮系統図(2/2)</p>	無線連絡設備(常設)	衛星電話設備(常設)	無線連絡設備(可搬型)	携帯型音声呼出電話機	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台	6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台	現場(屋外) :16台	6号炉及び7号炉中央制御室 :16台	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台				<p>機 能</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 送受話器及び電力保安通信用電話設備(固定電話機, PHS端末)が使用できない場合</p> <p>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 待機場所 ・携帯型音声呼出電話機^{※4}:2台</p> <p>現場(屋内)^{※1} ・携帯型音声呼出電話機:7台</p> <p>現場(屋外) ・無線連絡設備(可搬型):16台^{※3} ・放射能観測車(モニタリングカー) ・衛星電話設備(可搬型):1台</p> <p>※1:コントロール建屋, 原子伊建屋, タービン建屋等 ※2:7号炉も同様 ※3:モニタリングに係る作業に追加で1台必要 ※4:5号伊原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)と(待機場所)間の通信連絡を行うために設置する。</p> <p>重大事故等が発生した場合においても, 現在, 配備している通信連絡設備により十分に対応できる。 重大事故等が発生した場合(全交直動力電源喪失時及び炉内圧力・温度による熱的負荷(格納容器過圧・過温破壊)(代替循環冷却を使用する場合)における必要な通信連絡設備は以下の通りである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>無線連絡設備(常設)</th> <th>衛星電話設備(常設)</th> <th>無線連絡設備(可搬型)</th> <th>携帯型音声呼出電話機</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台</td> <td>6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台</td> <td>現場(屋外) :16台</td> <td>6号炉及び7号炉中央制御室 :16台</td> </tr> <tr> <td>5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・台数については, 今後, 訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第16図 「操作・作業の連絡」における通信連絡の指揮系統図(2/2)</p>	無線連絡設備(常設)	衛星電話設備(常設)	無線連絡設備(可搬型)	携帯型音声呼出電話機	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台	6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台	現場(屋外) :16台	6号炉及び7号炉中央制御室 :16台	5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台				<p>② (免震重要棟の自主化) ② (通信設備設計進捗による変更)</p>
無線連絡設備(常設)	衛星電話設備(常設)	無線連絡設備(可搬型)	携帯型音声呼出電話機																										
5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台	6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台	現場(屋外) :16台	6号炉及び7号炉中央制御室 :16台																										
5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台																													
無線連絡設備(常設)	衛星電話設備(常設)	無線連絡設備(可搬型)	携帯型音声呼出電話機																										
5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :4台	6号炉及び7号炉中央制御室 :各1台	現場(屋外) :16台	6号炉及び7号炉中央制御室 :16台																										
5号伊原子炉建屋内緊急時対策所 :1台																													

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ① 指摘事項対応による変更・修正 ② 設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③ 評価進捗による変更・修正
 ④ 前提条件変更による修正 ⑤ 記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由
151	添付資料 1.19.9	1.19-63	<p>機能 発電所外 連絡・通報等</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 衛星電話設備(社内向)及び専用電話設備(ホットライン)(自治体他向)が使用できる場合</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</p> <p>本社(即応センター)</p> <p>衛星電話設備(社内向) (テレビ会議システム(社内向):1式、衛星社内電話機:4台)</p> <p>衛星電話設備(社内向) (テレビ会議システム(社内向):1式、衛星社内電話機:4台)</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):4台、IP-FAX(有線系):1台)</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):5台、IP-FAX(有線系):4台)</p> <p>テレビ会議システム(社内向):1式</p> <p>専用電話設備(ホットライン)(自治体他向):7台</p> <p>衛星電話設備(常設):9台</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:4台、スピーカ:4台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台、PHS端末:30台)</p> <p>中央制御室(6号炉)※1</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:11台、スピーカ:21台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台、PHS端末:17台)</p> <p>国(原子力規制委員会等)</p> <p>自治体他(新潟県、柏崎市、刈羽村等)</p> <p>所外関係箇所(社内向)</p> <p>衛星電話設備(可搬型)</p> <p>※1:7号炉も同様(一部6号炉と共用設備あり)</p> <p>・台数については、配線台数を示す。また、今後、訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第16図 「連絡・通報の連絡」における通信連絡の指揮系統図(1/2)</p>	<p>機能 発電所外 連絡・通報等</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 電力保安通信用電話設備(固定電話機、PHS端末)が使用できる場合</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</p> <p>本社(即応センター)</p> <p>衛星電話設備(常設)</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):2台、IP-FAX(有線系):1台)</p> <p>衛星電話設備(常設):5台</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):5台、IP-FAX(有線系):4台)</p> <p>テレビ会議システム(社内向):1式</p> <p>専用電話設備(ホットライン)(自治体他向):7台</p> <p>衛星電話設備(常設):9台</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:4台、スピーカ:4台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台、PHS端末:30台)</p> <p>中央制御室(6号炉)※1</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:11台、スピーカ:21台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台、PHS端末:17台)</p> <p>国(原子力規制委員会等)</p> <p>自治体他(新潟県、柏崎市、刈羽村等)</p> <p>所外関係箇所(社内向)</p> <p>衛星電話設備(可搬型)</p> <p>※1:7号炉も同様</p> <p>・台数については、今後、訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第17図 「連絡・通報の連絡」における通信連絡の指揮系統図(2/2)</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ② (通信設備設計進捗による変更)</p>
152	添付資料 1.19.9	1.19-63	<p>機能 発電所外 連絡・通報等</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 衛星電話設備(社内向)及び専用電話設備(ホットライン)(自治体他向)が使用できない場合</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</p> <p>本社(即応センター)</p> <p>衛星電話設備(常設)</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):2台、IP-FAX(有線系):1台)</p> <p>衛星電話設備(常設):5台</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):5台、IP-FAX(有線系):4台)</p> <p>テレビ会議システム(社内向):1式</p> <p>専用電話設備(ホットライン)(自治体他向):7台</p> <p>衛星電話設備(常設):9台</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:4台、スピーカ:4台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台、PHS端末:30台)</p> <p>中央制御室(6号炉)※1</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:11台、スピーカ:21台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台、PHS端末:17台)</p> <p>国(原子力規制委員会等)</p> <p>自治体他(新潟県、柏崎市、刈羽村等)</p> <p>所外関係箇所(社内向)</p> <p>衛星電話設備(可搬型)</p> <p>※1:7号炉も同様</p> <p>・台数については、今後、訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第17図 「連絡・通報の連絡」における通信連絡の指揮系統図(2/2)</p>	<p>機能 発電所外 連絡・通報等</p> <p>使用する通信連絡設備</p> <p>○ 電力保安通信用電話設備(固定電話機、PHS端末)が使用できない場合</p> <p>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</p> <p>本社(即応センター)</p> <p>衛星電話設備(常設)</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):2台、IP-FAX(有線系):1台)</p> <p>衛星電話設備(常設):5台</p> <p>統合原子炉防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム:1式、IP-電話機(有線系):5台、IP-FAX(有線系):4台)</p> <p>テレビ会議システム(社内向):1式</p> <p>専用電話設備(ホットライン)(自治体他向):7台</p> <p>衛星電話設備(常設):9台</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:4台、スピーカ:4台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:19台、PHS端末:30台)</p> <p>中央制御室(6号炉)※1</p> <p>送受話器(ページング) (ハンドセット:11台、スピーカ:21台)</p> <p>電力保安通信用電話設備 (固定電話機:14台、PHS端末:17台)</p> <p>国(原子力規制委員会等)</p> <p>自治体他(新潟県、柏崎市、刈羽村等)</p> <p>所外関係箇所(社内向)</p> <p>衛星電話設備(可搬型)</p> <p>※1:7号炉も同様</p> <p>・台数については、今後、訓練等を通して見直しを行う。</p> <p>第18図 「連絡・通報等」における通信連絡の指揮系統図(送受話器(ページング)及び電力保安通信用電話設備が使用できない場合)</p>	<p>② (免震重要棟の自主化) ② (通信設備設計進捗による変更)</p>

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗、設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充、適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																												
153	添付資料 1.19.10	1.19-64	中央制御室に保管する携帯型音声呼出電話設備は、通常使用している所内の通信連絡設備が使用できない場合において、6号及び7号炉中央制御室と各現場間に敷設している専用通信線を用い、携帯型音声呼出電話機を専用接続箱に接続するとともに、必要時に中継用ケーブルを敷設することにより必要な通信連絡を行うことが可能な設計とする。	携帯型音声呼出電話設備は、通常使用している所内の通信連絡設備が使用できない場合において、6号及び7号炉中央制御室と各現場間に布設している専用通信線を用い、携帯型音声呼出電話機を専用接続箱に接続するとともに、必要時に中継用ケーブルを布設することにより必要な通信連絡を行う。	⑤																																																																												
154	添付資料 1.19.10	1.19-64	なお、専用接続箱については、地震起因による溢水の影響を受けない箇所に設置し、溢水時においても使用可能な設計とする。	なお、専用接続箱については、地震起因による溢水の影響を受けない箇所に設置しており、溢水時においても使用できる。	⑤																																																																												
155	添付資料 1.19.10	1.19-65	<p>第6表 携帯型音声呼出電話機を使用する通話場所の例 (重大事故シーケンス 全交流動力電源喪失時 (7号炉) の例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業・操作内容</th> <th colspan="2">作業・操作場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蓄電池切替</td> <td>コントロール建屋 地下1階</td> <td>計測制御電源盤室</td> </tr> <tr> <td>受電操作</td> <td>原子炉建屋 地下1階</td> <td>非常用電気品室</td> </tr> <tr> <td>MUWC 弁操作</td> <td colspan="2">廃棄物処理建屋 地下3階 MUWC ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>MUWC ポンプ起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋 地下2階 通路</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">代替原子炉冷却系 系統構成</td> <td>原子炉建屋 1階</td> <td>通路、非常用D/G室</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 2階</td> <td>FPC 熱交換器室近傍</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋 地下2階</td> <td>HECW 室</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋 1階</td> <td>CWP レイダウンエリア</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋 地下1階</td> <td>RCW 熱交換器室</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)</td> <td>原子炉建屋 中3階</td> <td>非常用D/G(B)送風機室</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 3階</td> <td>通路</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 地下1階</td> <td>通路</td> </tr> <tr> <td>RCIC 起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋 地下3階 RCIC ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>RHR ポンプ(A) 起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋 地下3階 RHR ポンプ(A)室</td> </tr> </tbody> </table>	作業・操作内容	作業・操作場所		蓄電池切替	コントロール建屋 地下1階	計測制御電源盤室	受電操作	原子炉建屋 地下1階	非常用電気品室	MUWC 弁操作	廃棄物処理建屋 地下3階 MUWC ポンプ室		MUWC ポンプ起動確認	原子炉建屋 地下2階 通路		代替原子炉冷却系 系統構成	原子炉建屋 1階	通路、非常用D/G室	原子炉建屋 2階	FPC 熱交換器室近傍	コントロール建屋 地下2階	HECW 室	タービン建屋 1階	CWP レイダウンエリア	タービン建屋 地下1階	RCW 熱交換器室	原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)	原子炉建屋 中3階	非常用D/G(B)送風機室	原子炉建屋 3階	通路	原子炉建屋 地下1階	通路	RCIC 起動確認	原子炉建屋 地下3階 RCIC ポンプ室		RHR ポンプ(A) 起動確認	原子炉建屋 地下3階 RHR ポンプ(A)室		<p>表5 携帯型音声呼出電話機を使用する通話場所の例 (重要事故シーケンス 全交流動力電源喪失時 (7号炉) の例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業・操作内容</th> <th colspan="2">作業・操作場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蓄電池切替</td> <td>コントロール建屋 地下1階</td> <td>計測制御電源盤室</td> </tr> <tr> <td>受電操作</td> <td>原子炉建屋地下1階</td> <td>非常用電気品室</td> </tr> <tr> <td>MUWC 弁操作</td> <td colspan="2">廃棄物処理建屋地下3階 MUWC ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>MUWC ポンプ起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋 地下2階 通路</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">代替原子炉冷却系 系統構成</td> <td>原子炉建屋 1階</td> <td>通路、非常用D/G室</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 2階</td> <td>FPC 熱交換器室近傍</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋 地下2階</td> <td>HECW 室</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋 地下1階</td> <td>RCW 熱交換器室</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 中3階</td> <td>非常用D/G(B)排風機室</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)</td> <td>原子炉建屋 3階</td> <td>通路</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 地下1階</td> <td>通路</td> </tr> <tr> <td>RCIC 起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋地下3階 RCIC ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>RHR ポンプ(A) 起動確認</td> <td colspan="2">原子炉建屋地下3階 RHR ポンプ(A)室</td> </tr> </tbody> </table>	作業・操作内容	作業・操作場所		蓄電池切替	コントロール建屋 地下1階	計測制御電源盤室	受電操作	原子炉建屋地下1階	非常用電気品室	MUWC 弁操作	廃棄物処理建屋地下3階 MUWC ポンプ室		MUWC ポンプ起動確認	原子炉建屋 地下2階 通路		代替原子炉冷却系 系統構成	原子炉建屋 1階	通路、非常用D/G室	原子炉建屋 2階	FPC 熱交換器室近傍	コントロール建屋 地下2階	HECW 室	タービン建屋 地下1階	RCW 熱交換器室	原子炉建屋 中3階	非常用D/G(B)排風機室	原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)	原子炉建屋 3階	通路	原子炉建屋 地下1階	通路	RCIC 起動確認	原子炉建屋地下3階 RCIC ポンプ室		RHR ポンプ(A) 起動確認	原子炉建屋地下3階 RHR ポンプ(A)室		⑤
作業・操作内容	作業・操作場所																																																																																
蓄電池切替	コントロール建屋 地下1階	計測制御電源盤室																																																																															
受電操作	原子炉建屋 地下1階	非常用電気品室																																																																															
MUWC 弁操作	廃棄物処理建屋 地下3階 MUWC ポンプ室																																																																																
MUWC ポンプ起動確認	原子炉建屋 地下2階 通路																																																																																
代替原子炉冷却系 系統構成	原子炉建屋 1階	通路、非常用D/G室																																																																															
	原子炉建屋 2階	FPC 熱交換器室近傍																																																																															
	コントロール建屋 地下2階	HECW 室																																																																															
	タービン建屋 1階	CWP レイダウンエリア																																																																															
	タービン建屋 地下1階	RCW 熱交換器室																																																																															
原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)	原子炉建屋 中3階	非常用D/G(B)送風機室																																																																															
	原子炉建屋 3階	通路																																																																															
	原子炉建屋 地下1階	通路																																																																															
RCIC 起動確認	原子炉建屋 地下3階 RCIC ポンプ室																																																																																
RHR ポンプ(A) 起動確認	原子炉建屋 地下3階 RHR ポンプ(A)室																																																																																
作業・操作内容	作業・操作場所																																																																																
蓄電池切替	コントロール建屋 地下1階	計測制御電源盤室																																																																															
受電操作	原子炉建屋地下1階	非常用電気品室																																																																															
MUWC 弁操作	廃棄物処理建屋地下3階 MUWC ポンプ室																																																																																
MUWC ポンプ起動確認	原子炉建屋 地下2階 通路																																																																																
代替原子炉冷却系 系統構成	原子炉建屋 1階	通路、非常用D/G室																																																																															
	原子炉建屋 2階	FPC 熱交換器室近傍																																																																															
	コントロール建屋 地下2階	HECW 室																																																																															
	タービン建屋 地下1階	RCW 熱交換器室																																																																															
	原子炉建屋 中3階	非常用D/G(B)排風機室																																																																															
原子炉格納容器 ベント操作(S/C側)	原子炉建屋 3階	通路																																																																															
	原子炉建屋 地下1階	通路																																																																															
	RCIC 起動確認	原子炉建屋地下3階 RCIC ポンプ室																																																																															
RHR ポンプ(A) 起動確認	原子炉建屋地下3階 RHR ポンプ(A)室																																																																																

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正
- ②設計進捗, 設備変更による変更・修正
- ③評価進捗による変更・修正
- ④前提条件変更による修正
- ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
156	添付資料 1.19.11	1.19-66	<p>添付資料 1.19.11</p> <p>第7表 各重大事故シナキセスで使用する通信連絡設備の台数 (携帯型音声呼出電話設備)</p> <p>添付資料 1.19.11</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用場所</th> <th colspan="6">コントロール棟</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>中央制御室</th> <th>6号</th> <th>7号</th> <th>6号</th> <th>7号</th> <th>6号</th> <th>7号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各重大事故シナキセス</td> <td>①-1</td> <td>高圧・低圧止水機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-2</td> <td>高圧注水・高圧機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-1</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-2</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-3</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-4</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-4-1</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-4-2</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>5</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-5</td> <td>原子炉停止機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-6</td> <td>LOCA停止機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-7</td> <td>格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>重大事故 (格納容器破損防止)</td> <td>②-1-1</td> <td>高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-1-2</td> <td>高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-2</td> <td>高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-3</td> <td>原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-4</td> <td>水素燃焼</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>4</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-5</td> <td>格納容器/コンタリット相互作用</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (SPR破損防止)</td> <td>③-1</td> <td>想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③-2</td> <td>想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)</td> <td>④-1</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-2</td> <td>全交流動力電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>4</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-3</td> <td>原子炉冷却材の喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-4</td> <td>反応度の喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：①～⑦号の事故については、今後、訓練等を通じて見直しを行う。* 携帯型音声呼出電話は、6号炉(7号炉)の中央制御室に設置が予定されている。 ②：7号炉において事故が発生した場合の台数を示す。6号炉においては必要台数の多い運転中に全交流動力電源喪失事故が発生した場合の台数を示す。</p>	使用場所	コントロール棟						計	中央制御室	6号	7号	6号	7号	6号	7号	各重大事故シナキセス	①-1	高圧・低圧止水機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		①-2	高圧注水・高圧機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		①-3-1	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-2	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-3	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-4	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-4-1	燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)	1*	1	1*	-	-	-	0*	3	12		①-4-2	燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	1*	1	1*	1	-	-	0*	5	15		①-5	原子炉停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		①-6	LOCA停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	10		①-7	格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	8	重大事故 (格納容器破損防止)	②-1-1	高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合	1*	1	1*	1	-	-	0*	2	12		②-1-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		②-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8		②-3	原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		②-4	水素燃焼	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13		②-5	格納容器/コンタリット相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9	使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (SPR破損防止)	③-1	想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		③-2	想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11	運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)	④-1	燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		④-2	全交流動力電源喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13		④-3	原子炉冷却材の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		④-4	反応度の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8	<p>添付資料 1.19.11</p> <p>表6 各重要事故シナキセスで使用する携帯型音声呼出電話設備の台数</p> <p>添付資料 1.19.11</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用場所</th> <th colspan="6">コントロール棟</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>中央制御室</th> <th>6号</th> <th>7号</th> <th>6号</th> <th>7号</th> <th>6号</th> <th>7号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各重要事故シナキセス</td> <td>①-1</td> <td>高圧・低圧止水機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-2</td> <td>高圧注水・高圧機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-1</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-2</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-3</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-3-4</td> <td>全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-4-1</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>3</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-4-2</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>5</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-5</td> <td>原子炉停止機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-6</td> <td>LOCA停止機能喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①-7</td> <td>格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>重大事故 (格納容器破損防止)</td> <td>②-1-1</td> <td>高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-1-2</td> <td>高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-2</td> <td>高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-3</td> <td>原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-4</td> <td>水素燃焼</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>4</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-5</td> <td>格納容器直接接続 (シェルアップタック)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②-6</td> <td>格納炉心・コンタリット相互作用</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (全炉冷卻防止)</td> <td>③-1</td> <td>想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③-2</td> <td>想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)</td> <td>④-1</td> <td>燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-2</td> <td>全交流動力電源喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>4</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-3</td> <td>原子炉冷却材の喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④-4</td> <td>反応度の喪失</td> <td>1*</td> <td>1</td> <td>1*</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0*</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：①～⑦号の事故については、今後、訓練等を通じて見直しを行う。* 6号及び7号炉の中央制御室に設置が予定されている。 ②：7号炉において事故が発生した場合の台数を示す。6号炉においては必要台数の多い運転中に全交流動力電源喪失事故が発生した場合の台数を示す。</p>	使用場所	コントロール棟						計	中央制御室	6号	7号	6号	7号	6号	7号	各重要事故シナキセス	①-1	高圧・低圧止水機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		①-2	高圧注水・高圧機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		①-3-1	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-2	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-3	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-3-4	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16		①-4-1	燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)	1*	1	1*	-	-	-	0*	3	12		①-4-2	燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	1*	1	1*	1	-	-	0*	5	15		①-5	原子炉停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		①-6	LOCA停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	10		①-7	格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	8	重大事故 (格納容器破損防止)	②-1-1	高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合	1*	1	1*	1	-	-	0*	2	12		②-1-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		②-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8		②-3	原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		②-4	水素燃焼	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13		②-5	格納容器直接接続 (シェルアップタック)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9		②-6	格納炉心・コンタリット相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9	使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (全炉冷卻防止)	③-1	想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10		③-2	想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11	運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)	④-1	燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		④-2	全交流動力電源喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13		④-3	原子炉冷却材の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11		④-4	反応度の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8	<p>⑤</p>
			使用場所		コントロール棟							計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
中央制御室	6号	7号		6号	7号	6号	7号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
各重大事故シナキセス	①-1	高圧・低圧止水機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-2	高圧注水・高圧機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-1	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-2	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-3	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-4	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-4-1	燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)	1*	1	1*	-	-	-	0*	3	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-4-2	燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	1*	1	1*	1	-	-	0*	5	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-5	原子炉停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-6	LOCA停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-7	格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
重大事故 (格納容器破損防止)	②-1-1	高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合	1*	1	1*	1	-	-	0*	2	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-1-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-3	原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-4	水素燃焼	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-5	格納容器/コンタリット相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (SPR破損防止)	③-1	想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	③-2	想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)	④-1	燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-2	全交流動力電源喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-3	原子炉冷却材の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-4	反応度の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
使用場所	コントロール棟						計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	中央制御室	6号	7号	6号	7号	6号		7号																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
各重要事故シナキセス	①-1	高圧・低圧止水機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-2	高圧注水・高圧機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-1	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-2	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+RCC未設	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-3	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+直流電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-3-4	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG喪失)+DC電源喪失	1*	1	1*	1	-	-	0*	6	16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-4-1	燃焼熱除去機能喪失 (残熱除去系が故障した場合)	1*	1	1*	-	-	-	0*	3	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-4-2	燃焼熱除去機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	1*	1	1*	1	-	-	0*	5	15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-5	原子炉停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-6	LOCA停止機能喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	①-7	格納容器パスバスの (インターフェイスシステム)LOCA	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
重大事故 (格納容器破損防止)	②-1-1	高圧注水・高圧による静的負荷 (格納容器過圧・過温破損) 代償機能劣化を使用する場合	1*	1	1*	1	-	-	0*	2	12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-1-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱 代償機能劣化を使用しない場合	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-2	高圧格納物放出/格納容器昇気直接加熱	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-3	原子炉圧力容器外の格納燃料-冷却材相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-4	水素燃焼	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-5	格納容器直接接続 (シェルアップタック)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	②-6	格納炉心・コンタリット相互作用	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故 (全炉冷卻防止)	③-1	想定事故1 (使用済燃料プールの冷却機能又は止水機能が喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	1	10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	③-2	想定事故2 (オフショア現象等により使用済燃料プールの小規模な喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故 (停止中原子炉の燃焼機能防止)	④-1	燃焼熱除去機能喪失 (防炎装置による停止時冷卻機能喪失)	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-2	全交流動力電源喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	4	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-3	原子炉冷却材の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	2	11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	④-4	反応度の喪失	1*	1	1*	-	-	-	0*	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
157	添付資料 1.19.12	1.19-68	<p>添付資料 1.19.12</p> <p>機能ごとに必要な通信連絡設備 (発電所内) の優先順位及び設備種別</p> <p>添付資料 1.19.12</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機能</th> <th colspan="2">通信実地場所</th> </tr> <tr> <th>使用する通信連絡設備 (発電所内)</th> <th>使用する通信連絡設備 (発電所内)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室*</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>中央制御室**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>機作・作業の連絡</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：①～⑦号及び7号炉の緊急時対策用。凡例：優先順位 * 6号炉原子炉格納容器緊急時対策用。凡例：優先順位 ** 緊急時対策用。凡例：優先順位 * 優先順位 ** 優先順位 ①～⑤：自主計算設備 ⑥～⑦：自主計算設備</p>	機能	通信実地場所		使用する通信連絡設備 (発電所内)	使用する通信連絡設備 (発電所内)	中央制御室*	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	中央制御室**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	機作・作業の連絡	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	<p>添付資料 1.19.12</p> <p>機能ごとに必要な通信連絡設備 (発電所内) の優先順位及び設備種別</p> <p>添付資料 1.19.12</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機能</th> <th colspan="2">通信実地場所</th> </tr> <tr> <th>使用する通信連絡設備 (発電所内)</th> <th>使用する通信連絡設備 (発電所内)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央制御室*</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>中央制御室**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>機作・作業の連絡</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用**</td> <td>①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> <td>緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：①～⑦号炉原子炉格納容器緊急時対策用又は地震重要棟内緊急時対策用。凡例：優先順位 * 優先順位 ** 優先順位 ①～⑤：自主計算設備 ⑥～⑦：自主計算設備</p>	機能	通信実地場所		使用する通信連絡設備 (発電所内)	使用する通信連絡設備 (発電所内)	中央制御室*	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	中央制御室**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	機作・作業の連絡	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	<p>② (地震重要棟の自主化) (K5TSC設計進捗による変更) ⑤</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
			機能		通信実地場所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
使用する通信連絡設備 (発電所内)	使用する通信連絡設備 (発電所内)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
中央制御室*	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
中央制御室**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
機作・作業の連絡	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
機能	通信実地場所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	使用する通信連絡設備 (発電所内)	使用する通信連絡設備 (発電所内)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
中央制御室*	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
中央制御室**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
機作・作業の連絡	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	現場 (機内) ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
緊急時対策用**	①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)	緊急時対策用** ①電力保安通信用電話設備 (固定電話機) ②電力保安通信用電話設備 (FIS 機能) ③緊急連絡 (無線) ④緊急連絡 (無線) ⑤携帯型音声呼出電話設備 (携帯型)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

まとめ資料変更箇所リスト

【変更理由の類型化】
 ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
 ④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	変更後	変更前	変更理由																																																																																																																																																																																					
158	添付資料 1.19.12	1.19-69	<p>機能ごとに必要な通信連絡設備（発電所外）の優先順位及び設備種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>種別</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所内）</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">アラビ 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ② アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アラビ 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アラビ 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: 5号原子炉施設内緊急時対策用 注2: 統合原子炉施設ネットワークを用いた通信連絡設備 ・優先順位については、今後、動線等を通じて見直しを行う。 凡例 丸印: 優先順位 角印: 重大事故等対応設備 青印: 自主対策設備</p>	機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）	アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ② アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)	アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)	アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)	<p>機能ごとに必要な通信連絡設備（発電所外）の優先順位及び設備種別 (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>種別</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所内）</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">TV 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① TV会議システム ② TV会議システム** ③ TV会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ TV会議システム** ⑥ TV会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ② 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機) ③ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機) ④ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ⑥ 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アラビ 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: 5号原子炉施設内緊急時対策用又は免震重要棟内緊急時対策用 注2: 統合原子炉施設ネットワークを用いた通信連絡設備 注3: 5号原子炉施設内緊急時対策用のみ 凡例 丸印: 優先順位 角印: 重大事故等対応設備 青印: 自主対策設備</p>	機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）	TV 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① TV会議システム ② TV会議システム** ③ TV会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ TV会議システム** ⑥ TV会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ② 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機) ③ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機) ④ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ⑥ 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機)	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	<p>機能ごとに必要な通信連絡設備（発電所外）の優先順位及び設備種別 (2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能</th> <th>種別</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所内）</th> <th>使用する通信連絡設備（発電所外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">アラビ 会議</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急時対策**</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電話</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FAX</td> <td>①</td> <td>① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム</td> <td>① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: 5号原子炉施設内緊急時対策用又は免震重要棟内緊急時対策用 注2: 統合原子炉施設ネットワークを用いた通信連絡設備 注3: 5号原子炉施設内緊急時対策用のみ 凡例 丸印: 優先順位 角印: 重大事故等対応設備 青印: 自主対策設備</p>	機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）	アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**	緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**	電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)	FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)	<p>② (免震重要棟の自主 化) ⑤</p>
機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）																																																																																																																																																																																							
アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ② アラビ会議システム (テレビ会議システム 含む) ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-電話機** (有線系) ⑥ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ IP-FAX** (有線系) ⑥ IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）																																																																																																																																																																																							
TV 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① TV会議システム ② TV会議システム** ③ TV会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ TV会議システム** ⑥ TV会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ② 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機) ③ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機) ④ 電力用伝送専用電話 設備 (IP-電話機)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 電力用伝送専用電話 設備 (固定電話機) ⑥ 電力用伝送専用電話 設備 (移動電話機)																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
機能	種別	使用する通信連絡設備（発電所内）	使用する通信連絡設備（発電所外）																																																																																																																																																																																							
アラビ 会議	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① アラビ会議システム ② アラビ会議システム ③ アラビ会議システム** ④ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ アラビ会議システム** ⑥ アラビ会議システム**																																																																																																																																																																																							
緊急時対策**	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ 無線LANシステム** ④ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	⑤ 無線LANシステム** ⑥ 無線LANシステム**																																																																																																																																																																																							
電話	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ② 無線LANシステム (無線LANシステム 含む) ③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	③ IP-電話機** (有線系) ④ IP-電話機** (無線系)																																																																																																																																																																																							
FAX	①	① 無線LANシステム ② 有線LANシステム ③ 無線LANシステム ④ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
	⑤	⑤ 無線LANシステム ⑥ 有線LANシステム	① IP-FAX** (有線系) ② IP-FAX** (無線系)																																																																																																																																																																																							
159	添付資料 1.19.13	1.19-70	1. 1.19.2.1(1)(d)iii SPDS表示装置 <リンク先> 1.18.2.2(1) 安全パラメータ表示システム(SPDS)による プラントパラメータ等の監視手順	1. 1.19.2.1(1)(d) 安全パラメータ表示システム(SPDS) <リンク先> 1.18.2.2(1) 緊急時対策所データ伝送設備によるプラントパラ メータ等の監視手順	⑤																																																																																																																																																																																					
160	添付資料 1.19.13	1.19-70	(削除)	1.18.2.4(1) 免震重要棟内緊急時対策所用ガスタービン発電機による給電	② (免震重要棟の自主																																																																																																																																																																																					

主要修正箇所一覧表

資料名 : 「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を施すために必要な技術的能力に係る審査基準」への適合状況について

2. 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムへの対応
2.1 可搬型設備等による対応

章/項番号: 本文及び添付資料

【変更理由の類型化】

- ①指摘事項対応による変更・修正 ②設計進捗, 設備変更による変更・修正 ③評価進捗による変更・修正
④前提条件変更による修正 ⑤記載の拡充, 適正化

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
1		2.1-2	添付資料2.1.3 設計基準を超える低温事象(凍結)に対する事故シーケンス抽出	添付資料2.1.3 設計基準を超える低温事象(凍結)に対する事故シーケンス抽出	⑤
2	2.1	2.1-3	大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設の大規模な損壊(以下「大規模損壊」という。)が発生するおそれがある場合又は発生するおそれがある場合又は発生した場合における体制の整備に関し, 次の項目に関する手順書を適切に整備し, また, 当該手順書にしたがって活動を行うための体制及び資機材を整備する。ここでは, 発電用原子炉施設にとって過酷な大規模損壊が発生するおそれがある場合又は発生した場合においても, 当該の手順書等を活用した対策によって緩和措置を講じることができることを説明する。	大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設(以下「原子炉施設」という。)の大規模な損壊(以下「大規模損壊」という。)が発生した場合における体制の整備に関し, 次の項目に関する手順書を適切に整備し, また, 当該手順書にしたがって活動を行うための体制及び資機材を整備する。ここでは, 原子炉施設にとって過酷な大規模損壊が発生した場合においても, 当該の手順書等を活用した対策によって緩和措置を講じることができることを説明する。	審査基準の改正
3	2.1.1.1	2.1-4	大規模損壊発生時の手順書を整備するに当たっては, 大規模損壊を発生させる可能性のある外部事象として, 設計基準を超えるような規模の自然災害及び故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムを想定する。ただし, 特定の事象の発生や検知がなくても, 緊急時対応手順の延長で対応可能なよう配慮する。 また, 発電用原子炉施設の被災状況を把握するための手順及び被災状況を踏まえた優先実施事項の実行判断を行うための手順を整備する。 大規模損壊が発生するおそれがある場合又は発生した場合は, 当直副長の指揮の下で事故時運転操作手順書(事象ベース, 徴候ベース及びシビアアクシデント)に基づいて対応操作することを基本とする。このことは, 自然災害が大規模な場合であっても同様であるが, 常設の設備では事故収束が行えない場合は, 緊急時対策本部の支援を受け, 可搬型設備による対応を中心とした多様性及び柔軟性を有する手順(以下, 「多様なハザード対応手順」という。)等を使用した対応操作を行う。	大規模損壊発生時の手順書を整備するに当たっては, 大規模損壊を発生させる可能性のある外部事象として, 設計基準を超えるような規模の自然災害及び故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムを想定する。ただし, 特定の自然災害や人為事象の発生や検知がなくても, 緊急時対応手順の延長で対応可能なよう配慮する。 また, 原子炉施設の被災状況を把握するための手順及び被災状況を踏まえた優先実施事項の実行判断を行うための手順を整備する。 自然災害又は人為事象が発生した場合は, 当直副長の指揮の下で事故時運転操作手順書(事象ベース, 徴候ベース及びシビアアクシデント)に基づいて対応操作することを基本とする。このことは, 自然災害や人為事象が大規模な場合であっても同様であるが, 常設の設備では事故収束が行えない場合は, 緊急時対策本部の支援を受け, 可搬型設備による対応を中心とした多様性及び柔軟性を有する手順(以下, 「多様なハザード対応手順」という。)等を使用した対応操作を行う。	⑤
4	2.1.1.2	2.1-6	大規模損壊の発生に備えた発電所対策本部及び本社緊急時対策本部(以下「本社対策本部」という。)の体制は, 重大事故等対処のための体制と同様, 指揮命令系統, 及び各機能班・スタッフの役割を明確にすることを基本とする。また, 重大事故等を超えるような状況を想定した大規模損壊対応のための体制を整備, 充実するために大規模損壊対応に係る必要な計画の策定並びに運転員, 緊急時対策要員及び自衛消防隊に対する教育及び訓練を付加して実施し体制の整備を図る。	大規模損壊の発生に備えた発電所対策本部及び本社対策本部の体制は, 重大事故等対処のための体制と同様, 指揮命令系統, 及び各機能班・スタッフの役割を明確にすることを基本としつつ, 重大事故等を超えるような状況を想定した大規模損壊対応のための体制を整備, 充実するために大規模損壊対応に係る必要な計画の策定並びに運転員, 緊急時対策要員及び自衛消防隊に対する教育及び訓練を付加して実施する。	⑤
5	2.1.1.2	2.1-6	さらに, 運転員及び緊急時対策要員の役割に応じて付与される力量に加え, 流動性をもって柔軟に対応できるような力量を確保していくことにより, 本来の役割を担う要員以外の要員でも対応できるよう教育及び訓練の充実を図る。	さらに, 運転員及び緊急時対策要員の役割に応じて付与される力量に加え, 流動性をもって柔軟に対応できるような力量を確保していくことにより, 本来の役割を担う要員以外の要員でも対応できるよう教育の充実を図る。	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
6	2.1.1.2	2.1-7	(2) 大規模損壊発生時の体制 大規模損壊発生時の体制については、重大事故等対策に係る体制を基本とするが、大規模損壊の発生により、要員の被災等による非常時の体制が部分的に機能しない場合(中央制御室の機能喪失含む)においても流動性を持って柔軟に対応できる体制を整備する。	(2) 大規模損壊発生時の体制 技術的能力1.0で整備する発電所対策本部体制を基本とするが、大規模損壊の発生により、要員の被災等による非常時の体制が部分的に機能しない場合(中央制御室の機能喪失含む)でも流動性を持って柔軟に対応できる体制を整備する。	⑤
7	2.1.1.2	2.1-7	発電所構内に緊急時対策要員50名、運転員40名、自衛消防隊10名を常時100名確保し、大規模損壊発生時は本部長代行が初動の指揮を執る体制を整備する。 さらに、大規模な自然災害が発生した場合には、上述100名の中に被災者が発生する可能性があることに加え、	発電所構内に緊急時対策要員50名、運転員39名、自衛消防隊10名を常時99名確保し、大規模損壊発生時は本部長代行が初動の指揮を執る体制を整備する。 さらに、大規模な自然災害が発生した場合には、上述99名の中に被災者が発生する可能性があることに加え、	②(他まとめ資料との整合)
8	2.1.1.2	2.1-8	(4) 大規模損壊発生時の支援体制の確立 a. 本社緊急時対策本部体制の確立 大規模損壊発生時における本社緊急時対策本部(以下「本社対策本部」という。)の設置による発電所への支援体制は、技術的能力1.0で整備する支援体制と同様である。 b. 外部支援体制の確立 大規模損壊発生時における外部支援体制は、技術的能力1.0で整備する原子力災害発生時の外部支援体制と同様である。	(4) 大規模損壊発生時の支援体制の確立 a. 本社緊急時対策本部体制の確立 原子力災害発生時における本社緊急時対策本部(以下「本社対策本部」という。)の設置による発電所への支援体制は、技術的能力1.0で整備する。 b. 外部支援体制の確立 原子力災害発生時における外部支援体制は、技術的能力1.0で整備する。	⑤
9	2.1.	2.1-9	発電用原子炉設置者において、大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設の大規模な損壊(以下「大規模損壊」という。)が発生するおそれがある場合又は発生した場合における体制の整備に関し、以下の項目についての手順書が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。また、当該手順書に従って活動を行うための体制及び資機材が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。	発電用原子炉設置者において、大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる発電用原子炉施設の大規模な損壊(以下「大規模損壊」という。)が発生した場合における体制の整備に関し、以下の項目についての手順書が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。また、当該手順書に従って活動を行うための体制及び資機材が適切に整備されているか、又は整備される方針が適切に示されていること。	審査基準の改正
10	2.1.2.1	2.1-10	(1) 大規模損壊のケーススタディで扱う自然現象の選定について 大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象を網羅的に抽出するため、柏崎刈羽原子力発電所及びその周辺での発生実績に関わらず、国内で一般に発生し得る事象に加え、国内外の基準で示されている外部事象を抽出した。 各事象(重量を含む)について、設計基準を超えるような苛酷な状況を想定した場合のプラントへの影響度を評価し、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象を選定し、さらに大規模損壊のケーススタディとして扱う事象をその中から選定した。 検討プロセスをフローで示したものを図2.1.11に示す。また検討内容について以下に示す。	(1) 大規模損壊のケーススタディで扱う自然現象・人為事象の選定について 大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象・人為事象を網羅的に抽出するため、柏崎刈羽原子力発電所及びその周辺での発生実績に関わらず、国内で一般に発生し得る事象に加え、国内外の基準で示されている外部事象を抽出した。 各事象(重量を含む)について、設計基準を超えるような苛酷な状況を想定した場合のプラントへの影響度を評価し、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象・人為事象を選定し、さらに大規模損壊のケーススタディとして扱う事象をその中から選定した。 検討プロセスをフローで示したものを図2.1.11に示す。また検討内容について以下に示す。	⑤
11	2.1.2.1	2.1-11	a. 自然現象の網羅的な抽出 国内外の基準を参考に、網羅的に自然現象を抽出・整理し、自然現象44事象を抽出した。(添付資料2.1.1 参照)	a. 自然現象・人為事象の網羅的な抽出 国内外の基準を参考に、網羅的に自然現象・人為事象を抽出・整理し、自然現象44事象、人為事象20事象(合計64事象)を抽出した。(添付資料2.1.1 参照)	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
12	2.1.2.1	2.1-11	<p>b. 特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象の選定 各自然現象について、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合にプラントの安全性が損なわれる可能性について評価を実施し、発生し得るプラント状態(起因事象)を特定した。 プラント状態を特定するに当たっては、イベントツリーによる事象進展評価又は定性的な評価を実施した。 主要な事象(検討した結果、特にプラントの安全性に影響を与える可能性があると整理された事象)の影響を整理した結果を表2.1.1、表2.1.2及び図2.1.2にそれぞれ示す。その他の事象を含む全事象に対する検討内容については添付資料2.1.1に示す。検討した結果、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象としては以下が選定されたものは次のとおり。</p>	<p>b. 特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象・人為事象の選定 各自然現象・人為事象について、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合にプラント安全性が損なわれる可能性について評価を実施し、発生し得るプラント状態(起因事象)を特定した。 プラント状態を特定するに当たっては、イベントツリーによる事象進展評価又は定性的な評価を実施した。 主要な事象(検討した結果、特にプラントの安全性に影響を与える可能性があると整理された事象)の影響を整理した結果を表2.1.1(自然現象)、表2.1.2(重畳)、表2.1.3(人為事象)及び図2.1.2(イベントツリーによる整理)にそれぞれ示す。その他の事象を含む全事象に対する検討内容については添付資料2.1.1に示す。検討した結果、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象・人為事象としては以下が選定された。</p>	⑤
13	2.1.2.1	2.1-11	<ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風(台風) ・竜巻 ・低温(凍結) ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石 	<p>【自然現象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風(台風) ・竜巻 ・低温(凍結) ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石 <p>【人為事象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機落下 ・火災、爆発(森林火災、近隣工場の火災・爆発等) ・有毒ガス ・船舶の衝突 ・電磁的障害 ・軍事活動によるミサイル飛来 ・内部溢水 ・第三者の不法な接近 ・航空機衝突(意図的) ・妨害破壊行為(内部脅威含む) ・サイバーテロ 	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
14	2.1.2.1	2.1-12	<p>c. ケーススタディの対象シナリオ選定 上記で選定された自然現象について、それぞれで特定した起因事象・シナリオを基に、大規模損壊のケーススタディとして想定することが適切な事象を選定する。</p> <p>上記b.での整理から、プラントの最終状態は次の3項目に類型化することができ、表1-3に事象ごとに整理した結果を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大事故対策で想定していない事故シーケンス(大規模損壊) ・重大事故対策で想定している事故シーケンス ・設計基準事故で想定している事故シーケンス <p>表2.1.3に示すとおり、発電用原子炉施設において大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象は、地震、津波、地震と津波の重畳、降水、積雪、落雷、火山及び隕石の8事象となる。</p> <p>また、大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象のうち、以下の事象については、次に示す通り他の事象のシナリオに代表させることができる。</p>	<p>c. ケーススタディの対象シナリオ選定 上記で選定された自然現象・人為事象について、それぞれで特定した起因事象・シナリオを基に、大規模損壊のケーススタディとして想定することが適切な事象を選定する。</p> <p>上記b.での整理から、プラントの最終状態は次の3項目に類型化することができ、表2.1.4に事象ごとに整理した結果を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模損壊(重大事故を上回る状態) ・重大事故又は重大事故に至るおそれがある事故 ・設計基準事故等 <p>表2.1.3及び表2.1.4に示すとおり、原子炉施設において大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象は、地震、津波、地震と津波の重畳、降水、積雪、落雷、火山及び隕石の8事象、人為事象は、航空機落下、内部溢水、航空機衝突(意図的)の3事象となる。</p> <p>また、大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象及び人為事象のうち、以下の事象については、次に示す通り他の事象のシナリオに代表させることができる。</p>	⑤
15	2.1.2.1	2.1-12	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失となる。積雪については大型航空機の衝突と異なり事象進展がある程度遅いことから、事前に除雪等の対応が可能となる。非常に苛酷な状況を考慮した場合にも、除雪の対象を限定し最小限必要な設備(原子炉建屋やアクセスルート等)について健全性を維持させるといった対応により損傷範囲を抑制することが可能であることから、大型航空機の衝突や津波のシナリオに代表させる事象として整理した。 ・落雷 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失+計測・制御系喪失となるが、地震と津波の重畳のシナリオ又は大型航空機の衝突に代表させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失となる。積雪については航空機衝突(意図的)と異なり事象進展がある程度遅いことから、事前に除雪等の対応が可能となる。非常に苛酷な状況を考慮した場合にも、除雪の対象を限定し最小限必要な設備(原子炉建屋やアクセスルート等)について健全性を維持させるといった対応により損傷範囲を抑制することが可能であることから、航空機衝突(意図的)や津波のシナリオに代表させる事象として整理した。 ・落雷 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失+計測・制御系喪失となるが、地震と津波の重畳のシナリオ又は航空機衝突(意図的)に代表させることができる。 	⑤
16	2.1.2.1	2.1-13	<ul style="list-style-type: none"> ・隕石 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷については、大型航空機の衝突のシナリオに代表させることができる。 発電所敷地への隕石落下に伴う振動の発生については、地震のシナリオに代表させることができる。 また、隕石の発電所近海への落下に伴う津波については、津波のシナリオに代表させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隕石 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷及び発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波の発生については、航空機衝突(意図的)のシナリオに代表させることができる。 また、隕石の発電所近海への落下に伴う津波については、津波のシナリオに代表させることができる。 	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
17	2.1.2.1	2.1-13	<p>以上より、自然現象として、地震、津波及び地震と津波の重畳の3事象をケーススタディとして選定する。</p>	<p>・航空機落下 航空機衝突(意図的)のシナリオに代表させることができる。</p> <p>・電磁的障害 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失+計測・制御系喪失となるが、地震と津波の重畳のシナリオ又は航空機衝突(意図的)に代表させることができる。</p> <p>・軍事活動によるミサイル飛来 航空機衝突(意図的)のシナリオに代表させることができる。</p> <p>・内部溢水 津波のシナリオにおいて、建屋地下階が浸水するシナリオを想定していることから、津波のシナリオに代表させることができる。</p> <p>・第三者の不法な接近 第三者の不法な接近により、妨害破壊行為を行った場合、航空機衝突(意図的)のシナリオに代表させることができる。</p> <p>・妨害破壊行為(内部脅威含む) 航空機衝突(意図的)のシナリオに代表させることができる。</p> <p>・サイバーテロ 最も過酷なケースは全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失+計測・制御系喪失となるが、地震と津波の重畳のシナリオ又は航空機衝突(意図的)に代表させることができる。</p> <p>以上より、自然現象及び人為事象として、地震、津波、地震と津波の重畳、及び航空機衝突(意図的)の4事象をケーススタディとして選定する。</p>	⑤
18	2.1.2.1	2.1-13	<p>(2) 故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムへの対応における考慮について テロリズムには様々な状況が想定されるが、中でも施設の広範囲にわたる損壊、多数の機器の機能喪失及び大規模な火災が発生して発電用原子炉施設に大きな影響を与える故意による大型航空機の衝突をケーススタディとして選定する。 なお、爆発等の人為事象による発電用原子炉施設への影響については、故意による大型航空機の衝突に代表させることができる。</p> <p>以上より、大規模損壊発生時の対応手順書の整備に当たっては、(1)項及び(2)項において整理した大規模損壊の発生によって、多量の放射性物質が環境中に放出されるような万一の事態に至る可能性も想定し、発電用原子炉施設において使える可能性のある設備、資機材及び要員を最大限に活用した多様性及び柔軟性を有する手段を構築する。</p>	(記載なし)	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
19	2.1.2.1	2.1-14	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (1/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①地震</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性がある。 原子炉補機冷却系熱交換器の構造損傷の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備に </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①地震	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性がある。 原子炉補機冷却系熱交換器の構造損傷の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備に 	<ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (1/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①地震</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉の圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規又はそれに準じた基準を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①地震	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉の圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規又はそれに準じた基準を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①地震	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性がある。 原子炉補機冷却系熱交換器の構造損傷の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備に 	<ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①地震	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、現在確立した手法が存在しないことから、予兆なく発生する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 送電電設備の端子等の損傷により、外部電源喪失の可能性が。また、これにより、非常用ディーゼル発電機の冷却水が喪失することで、非常用ディーゼル発電機が停止し、外部電源喪失と相まって全交流動力電源喪失の重大事故に至る可能性がある。 原子炉格納容器内の複数の配管が損傷し、原子炉冷却材喪失の可能性が。大口径配管の破断や破損箇所が多い場合、原子炉の圧力は急速に減圧し、全交流動力電源喪失時には、原子炉冷却材喪失分を補う注水が確保できない可能性がある。 モニタリング・ポストの監視機能が喪失する可能性がある。 保管している危険物による火災の発生可能性がある。 斜面の崩壊、地盤の陥没等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ポストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【基準地動規又はそれに準じた基準を超える地震を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 原子炉格納容器内配管 残留熱除去系の配管サポート及び弁駆動部 残留熱除去系ポンプ（停止時冷却モード）隔離弁 主蒸気系の配管サポート 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震強化サポート 原子炉補機冷却系配管 外部電源設備全般の端子基礎ボルト 高圧炉心注水系弁駆動部 高圧窒素ガス供給系の配管サポート モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋損傷 原子炉格納容器・原子炉圧力容器損傷 格納容器バイパス 原子炉冷却材喪失と注水機能喪失の同時発生 計画・制御系喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		
20	2.1.2.1	2.1-15	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (2/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②津波</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 直流電源 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	②津波	<ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 直流電源 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (2/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②津波</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	②津波	<ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 	⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
②津波	<ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 直流電源 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 																		
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
②津波	<ul style="list-style-type: none"> 屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 【影響評価に当たっての考慮事項】 発電所近海での震源による地震を考慮、地震発生後、10分程度で津波が襲来すると想定する。 基準津波を超える規模として、防波堤の高さ(15m)を上回る高さの津波を想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 屋外の低起動変圧器が津波により冠水し、外部電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋：タービン建屋、コントロール建屋及び廃棄物処理建屋の防護扉が波力又は浸水により損傷の可能性が。 コントロール建屋内への津波による浸水により、直流125V主母線盤が冠水し、直流電源が喪失する可能性がある。 原子炉建屋内への津波による浸水により、原子炉隔離時冷却系制御盤が冠水し、制御不能に至る可能性がある。(運転状態であった場合は、その状態のまま継続) また、非常用高圧母線の冠水により、外部電源が喪失している場合には全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理建屋内への津波による浸水により、復水補給水系ポンプが冠水し、復水補給水系が機能喪失に至る可能性がある。 タービン建屋内への津波による浸水により、原子炉補機冷却系ポンプが冠水し、原子炉補機冷却系が機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【防波堤を超える高さの津波を想定した場合に喪失する可能性のある機器】 低起動変圧器 125V直流電源 原子炉隔離時冷却系 非常用高圧母線 復水補給水系 原子炉補機冷却系 軽油タンク モニタリング・ポスト 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 高圧炉心冷却機能喪失 最終ヒートシンク喪失 																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																								
21	2.1.2.1	2.1-16	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (3/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 至る可能性がある。 モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 がれき等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> 至る可能性がある。 モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 がれき等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 			<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (3/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 瓦礫等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 瓦礫等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 			⑤								
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
	<ul style="list-style-type: none"> 至る可能性がある。 モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 がれき等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 火災が発生した場合は、化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 																												
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング・ボストの摩滅による冠水により、監視機能が喪失する可能性がある。 瓦礫等によりアクセスルートの通行が困難となり、事故の対策に影響を及ぼす可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 モニタリング・ボストが使用できない場合は、可搬型放射線測定器により測定及び監視を行う。 化学消防自動車等の消火設備による消火を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 																												
22	2.1.2.1	2.1-17	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (4/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③風(台風含む)</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク 取水口 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 </td> </tr> <tr> <td>④電巻</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された </td> <td> <p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	③風(台風含む)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク 取水口 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 	④電巻	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (4/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>③風(台風含む)</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>④電巻</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された </td> <td> <p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	③風(台風含む)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	④電巻	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	④(他まとめ資料との整合)
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
③風(台風含む)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク 取水口 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 																										
④電巻	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 最終ヒートシンク喪失 																										
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
③風(台風含む)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えないよう、あらかじめ体制を強化して対策（飛散防止措置の確認等）を実施する。 基準風速40.1m/s(地上高10m、10分間平均)を超える強風を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 台風による漂流物により取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 送電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										
④電巻	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電巻注意情報が発表された場合は、屋外でのクレーン転倒防止等の最低限の対応を行った上で作業を中断し、屋内の安全な場所へ退避する。 発電所敷地内又は周辺で著しく大きな電巻が目撃された 	<p>【設計基準を超える最大風速を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> タービン建屋 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																								
23	2.1.2.1	2.1-18	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (5/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 軽油タンク 電気品室換気空調系 取水口 原子炉建屋ブローアウトパネル </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽油タンク 電気品室換気空調系 取水口 原子炉建屋ブローアウトパネル 		<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (5/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 電気品室換気空調系 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 電気品室換気空調系 		④(他まとめ資料との整合)								
			自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																							
	<ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽油タンク 電気品室換気空調系 取水口 原子炉建屋ブローアウトパネル 																											
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
	<ul style="list-style-type: none"> 場合あるいはその情報を入手した場合は、対応可能であれば懸念前にプラント停止の措置を取る。 設計電圧を超える規模の電圧を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン及び発電機に影響が及んでタービントリップに至る可能性がある。 風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等が損傷し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで全交流動力電源が喪失する可能性がある。 電圧による資機材又は車両等が飛散して、取水口周辺の海に入り、取水口が閉塞し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上に通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 電気品室換気空調系 																											
24	2.1.2.1	2.1-19	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (6/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑤ 低 温 (凍結)</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 </td> <td> <p>【設計基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑥ 降 水</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター </td> <td> <p>【設計基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	⑤ 低 温 (凍結)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	⑥ 降 水	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター 	<p>【設計基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (6/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑤ 低 温 (凍結)</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 </td> <td> <p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑥ 降 水</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター </td> <td> <p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	⑤ 低 温 (凍結)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	⑥ 降 水	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 	⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
⑤ 低 温 (凍結)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										
⑥ 降 水	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター 	<p>【設計基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																										
⑤ 低 温 (凍結)	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予断が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、事前に保溫、電熱線ヒータによる加温等の凍結防止対策を実施することができる。 低温における基準温度-15.2℃を超える規模の低温を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線や母線に着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク等内の軽油が凍結することで非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇し、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の凍結防止対策 (連続ブロー、循環運転等) を行う。 可搬型重大事故等対処設備等による給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える低温を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 送変電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										
⑥ 降 水	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準降水量101.3mm/hを超える規模の降水を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にター 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える降水を想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送変電設備 非常用ディーゼル発電設備 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部電源喪失 全交流動力電源喪失 																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
25	2.1.2.1	2.1-20	<p>表 2.1.1 自然現象が常置用原子炉施設へ与える影響評価 (7/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に損傷を受けることにより、あるいは浸水若しくは取水することにより、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に損傷を受けることにより、あるいは浸水若しくは取水することにより、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 			<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (7/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 			⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
	<ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に損傷を受けることにより、あるいは浸水若しくは取水することにより、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 																				
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
	<ul style="list-style-type: none"> ピンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合、浸水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が雨水荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至る可能性がある。 廃棄物処理棟屋上の天井が崩落した場合、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却水系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 降水の影響により地滑りが発生し、屋外の送電電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（ディタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和設備を用いて対応する。 																				
26	2.1.2.1	2.1-21	<p>表 2.1.1 自然現象が常置用原子炉施設へ与える影響評価 (8/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①積雪</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク 非常用ディーゼル発電機空調 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①積雪	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク 非常用ディーゼル発電機空調 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (8/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①積雪</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①積雪	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	④(他まとめ資料との整合)
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①積雪	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク 非常用ディーゼル発電機空調 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①積雪	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を及ぼすことがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を実施することができる。 基準積雪量107cmを超える規模の積雪を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、積雪（雪融け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。 タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合、積雪（雪融け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール棟屋上が積雪荷重により崩落した場合、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は雪融け水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る可能性がある。その後、中央制御室下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し、機能喪失に至る可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 直流電源 送電電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
27	2.1.2.1	2.1-22	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (9/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、冷媒圧降下ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、冷媒圧降下ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 			<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (9/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電機（アイタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態		<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電機（アイタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 			⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、冷媒圧降下ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 																				
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理線路上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調機常用冷却塔が凍害（電撃け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電機（アイタンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・送電線や導子に電が着氷することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 ・中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 ・非常用ディーゼル発電機空調系給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電機が機能喪失に至るような場合において、外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ体制を強化して対策（除雪）を行う。 ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 ・屋外アクセスルート上通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 																				
28	2.1.2.1	2.1-23	<p>表 2.1.1 自然現象が発電用原子炉施設へ与える影響評価 (10/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩落雷</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測・制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 </td> <td> <p>【設計基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用交流電源設備 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源設備 ・計測・制御系 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	⑩落雷	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測・制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用交流電源設備 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源設備 ・計測・制御系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (10/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩落雷</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 </td> <td> <p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	⑩落雷	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 	⑤
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
⑩落雷	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測・制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用交流電源設備 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源設備 ・計測・制御系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 																		
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
⑩落雷	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報が発表された場合は、状況に応じて屋外での作業を中断し、屋内に退避する。 ・プラントへの事前対応については実質的に困難であるため想定しない。 ・基準電流値200kAを超える雷サージの影響を想定する。 <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至る可能性がある。 ・屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその格納機事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージにより、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・線間内外への雷による誘導電流の影響により、原子炉補機冷却系、直流電機又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可搬型重大事故等対処設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える雷サージを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
29	2.1.2.1	2.1-24	<p>表 2.1.1 自然現象が原発用原子炉施設へ与える影響評価 (11/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①火山</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機室空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管の閉塞又は、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <p>【設計基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク 中央制御室換気空調系 非常用ディーゼル発電機室空調系 </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①火山	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機室空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管の閉塞又は、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク 中央制御室換気空調系 非常用ディーゼル発電機室空調系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	<p>表 2.1.1 自然現象 10 事象が原子炉施設へ与える影響評価 (11/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価</th> <th>自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①火山</td> <td> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 非常用電気品区域換気空調設備のフィルタ閉塞により、非常用ディーゼル発電機の機能喪失に至った場合、全交流動力電源喪失の可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 </td> <td> <p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態	①火山	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 非常用電気品区域換気空調設備のフィルタ閉塞により、非常用ディーゼル発電機の機能喪失に至った場合、全交流動力電源喪失の可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 	③(他まとめ資料との整合)
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①火山	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 中央制御室換気空調系及び非常用ディーゼル発電機室空調系給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至る可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管の閉塞又は、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク 中央制御室換気空調系 非常用ディーゼル発電機室空調系 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		
自然現象	設計基準を超える自然現象がプラントに与える影響評価	自然現象の想定規模と喪失する可能性のある機器	最終的なプラント状態																		
①火山	<p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予報等により事前の予測が可能であることから、プラントの安全機能に影響を与えることがないよう、あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を実施することができる。 降下火砕物（火山灰）の堆積厚さの基準である30cmを超える程度の堆積厚さを想定する。 【設計基準を超える場合の影響評価】 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している原子炉補機冷却系サージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る可能性がある。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る可能性がある。 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合、建屋最上層に設置している中央制御室が物理的に機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至る可能性がある。 送電網や変圧器に火山灰が付着することによって相間短絡を起こし外部電源喪失に至る可能性がある。さらに、軽油タンク天井が火山灰堆積荷重により崩落した場合、軽油タンク機能が喪失し、非常用ディーゼル発電機の燃料が枯渇することで、全交流動力電源が喪失する可能性がある。 非常用電気品区域換気空調設備のフィルタ閉塞により、非常用ディーゼル発電機の機能喪失に至った場合、全交流動力電源喪失の可能性がある。 海水中の火山灰が高濃度な場合に、熱交換器の伝熱管、海水ポンプの軸受摩耗や海水ストレーナの閉塞により、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 【主な対応】 あらかじめ体制を強化して対策（除灰）を行う。 可搬型重大事故等対策設備等によるプラント状況の把握、給電及び注水を行う。 屋外アクセスルート上には通行不能の影響がある場合は、重機により復旧を行う。 	<p>【設計基準又はそれに準じた基準を超える火山灰堆積厚さを想定した場合に喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子炉補機冷却系 タービン及び発電機 中央制御室 送電設備 軽油タンク 	<p>【次のプラント状態が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 外部電源喪失 最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失 																		
30	2.1.2.1	2.1-25	<p>①隕石</p> <p>【影響評価に当たっての考慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の予測については、行えないものと想定する。 <p>【影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建屋又は屋外設備に隕石が衝突した場合は、当該建屋又は設備が損傷し、機能喪失に至る可能性がある。 発電所敷地に隕石が落下した場合は、震動により安全機能が損傷し、機能喪失に至る可能性がある。 発電所敷地に隕石が落下した場合は、津波により安全機能が冠水し、機能喪失に至る可能性がある。 <p>【主な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建屋に隕石が衝突し、建屋が損傷した場合は、大型航空機衝突と同様に対応する。 発電所敷地に隕石が衝突し、震動が発生した場合は、地震発生時と同様に対応する。 発電所近海に隕石が衝突し、津波が発生した場合は、津波発生時と同様に対応する。 	<p>・具体的な喪失する機能は特定しない</p> <p>・具体的な喪失する機能は特定しない</p>	<p>・具体的な喪失する機能は特定しない</p> <p>・具体的な喪失する機能は特定しない</p>	⑤															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
31	2.1.2.1	旧2.1-31	(削除)	<p>表2.1.3 人為事象が原子炉施設へ与える影響評価 (1/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人為事象</th> <th>設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価</th> <th>人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①航空機落下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)</td> <td> <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、軽油タンクの枯渇により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 </td> <td> <p>【火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等) により喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽油タンク </td> <td> <p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし </td> </tr> <tr> <td>③有毒ガス</td> <td> <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の可動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。 </td> <td> <p>【有毒ガスにより喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 </td> <td> <p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし </td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態	①航空機落下				②火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、軽油タンクの枯渇により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 	<p>【火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等) により喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽油タンク 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	③有毒ガス	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の可動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。 	<p>【有毒ガスにより喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	⑤
人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態																		
①航空機落下																					
②火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、軽油タンクの枯渇により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 	<p>【火災・爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等) により喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽油タンク 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 																		
③有毒ガス	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の可動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。 	<p>【有毒ガスにより喪失する可能性のある主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 																		
32	2.1.2.1	旧2.1-32	(削除)	<p>表2.1.3 人為事象が原子炉施設へ与える影響評価 (2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人為事象</th> <th>設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価</th> <th>人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>④船舶の衝突</td> <td> <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶の衝突により取水設備が損傷し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <p>【船舶の衝突により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水設備 </td> <td> <p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ヒートシンク喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑤電磁的障害</td> <td> <p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁的障害により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至る可能性がある。 ・屋外設備への電磁的障害の影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの電磁的障害により、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・建屋内外への電磁的障害の影響により、原子炉補機冷却系、直流電源又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 </td> <td> <p>【電磁的障害により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 </td> <td> <p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑥軍事活動によるミサイル飛来</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態	④船舶の衝突	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶の衝突により取水設備が損傷し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 	<p>【船舶の衝突により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水設備 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ヒートシンク喪失 	⑤電磁的障害	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁的障害により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至る可能性がある。 ・屋外設備への電磁的障害の影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの電磁的障害により、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・建屋内外への電磁的障害の影響により、原子炉補機冷却系、直流電源又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 	<p>【電磁的障害により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 	⑥軍事活動によるミサイル飛来				⑤
人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態																		
④船舶の衝突	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶の衝突により取水設備が損傷し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性がある。 	<p>【船舶の衝突により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水設備 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終ヒートシンク喪失 																		
⑤電磁的障害	<p>【設計基準を超える場合の影響評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁的障害により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至る可能性がある。 ・屋外設備への電磁的障害の影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至る可能性がある。さらに、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの電磁的障害により、非常用ディーゼル発電機の機能が喪失し、全交流動力電源喪失に至る可能性がある。 ・建屋内外への電磁的障害の影響により、原子炉補機冷却系、直流電源又は計測制御系の機能喪失に至る可能性がある。 	<p>【電磁的障害により喪失する可能性のある機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部電源 ・非常用ディーゼル発電機 ・原子炉補機冷却系 ・直流電源 ・計測制御系 	<p>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御系機能喪失 ・直流電源喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全交流動力電源喪失 																		
⑥軍事活動によるミサイル飛来																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由													
33	2.1.2.1	旧2.1-33	(削除)	<p>表 2.1.3 人為事象が原子炉施設へ与える影響評価 (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人為事象</th> <th>設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価</th> <th>人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑦内部溢水</td> <td>【設計基準を超える場合の影響評価】 ・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系統動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。これらが多数重畳した場合には大規模損傷に至る可能性がある。</td> <td>【内部溢水により喪失する可能性のある主な機能】 ・原子炉補機冷却系 ・タービン及び発電機</td> <td>【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】 ・計測・制御系機能喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全及活動力電源喪失</td> </tr> <tr> <td>⑧第三者の不法な接近</td> <td colspan="3" rowspan="2" style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>⑨航空機衝突 (意図的)</td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態	⑦内部溢水	【設計基準を超える場合の影響評価】 ・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系統動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。これらが多数重畳した場合には大規模損傷に至る可能性がある。	【内部溢水により喪失する可能性のある主な機能】 ・原子炉補機冷却系 ・タービン及び発電機	【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】 ・計測・制御系機能喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全及活動力電源喪失	⑧第三者の不法な接近				⑨航空機衝突 (意図的)	⑤
人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態															
⑦内部溢水	【設計基準を超える場合の影響評価】 ・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系統動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。これらが多数重畳した場合には大規模損傷に至る可能性がある。	【内部溢水により喪失する可能性のある主な機能】 ・原子炉補機冷却系 ・タービン及び発電機	【次のプラント状態等が相乗して発生する可能性がある】 ・計測・制御系機能喪失 ・外部電源喪失 ・最終ヒートシンク喪失 ・全及活動力電源喪失															
⑧第三者の不法な接近																		
⑨航空機衝突 (意図的)																		
34	2.1.2.1	旧2.1-34	(削除)	<p>表 2.1.3 人為事象が原子炉施設へ与える影響評価 (4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>人為事象</th> <th>設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価</th> <th>人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能</th> <th>最終的なプラント状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩妨害破壊行為 (内部脅威含む)</td> <td colspan="3" rowspan="2" style="border: 2px solid black;"></td> </tr> <tr> <td>⑪サイバーテロ</td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態	⑩妨害破壊行為 (内部脅威含む)				⑪サイバーテロ	⑤				
人為事象	設計基準を超える人為事象がプラントに与える影響評価	人為事象の想定規模と喪失する可能性のある機能	最終的なプラント状態															
⑩妨害破壊行為 (内部脅威含む)																		
⑪サイバーテロ																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																
35	2.1.2.1	2.1-29	<p>表 2.1.3 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象 (1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①地震</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 LOCA+外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>②津波</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>③地震と津波の 重畳</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+Excessive LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	①地震	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 LOCA+外部電源喪失 	②津波	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	③地震と津波の 重畳	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+Excessive LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 	<p>表 2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (1/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①地震</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) </td> </tr> <tr> <td>②津波</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 (初期注水成功) 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>③地震と津波の 重畳</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	①地震	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 	②津波	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 (初期注水成功) 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	③地震と津波の 重畳	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 	③(事故シナリオの再評価による見直し)
			自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																															
①地震	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 LOCA+外部電源喪失 																																		
②津波	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
③地震と津波の 重畳	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+Excessive LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (大型航空機衝突シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 																																		
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																																		
①地震	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+LOCA時注水機能喪失 全交流動力電源喪失+LOCA+最終ヒートシンク喪失 計測・制御系喪失 (確率が相対的に小さい) 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 																																		
②津波	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 (初期注水成功) 全交流動力電源喪失+RCIC機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
③地震と津波の 重畳	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+LOCA+計測・制御系喪失 格納容器/バイパス (航空機衝突 (意図的) シナリオで考慮) 原子炉格納容器・圧力容器損傷 (確率が相対的に小さい) 原子炉建屋損傷 (確率が相対的に小さい) Excessive LOCA (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+初期注水失敗 直流電源喪失 (確率が相対的に小さい) 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 																																		
36	2.1.2.1	2.1-30	<p>表 2.1.2 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象 (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>④風 (台風含む)</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑤竜巻</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑥低温 (凍結)</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑦降水</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑧積雪</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑨落雷</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	④風 (台風含む)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	⑤竜巻	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	⑥低温 (凍結)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	⑦降水	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	⑧積雪	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	⑨落雷	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	③(事故シナリオの再評価による見直し)					
自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																																		
④風 (台風含む)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
⑤竜巻	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
⑥低温 (凍結)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
⑦降水	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
⑧積雪	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
⑨落雷	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																																		
			<p>表 2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (2/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>④風 (台風含む)</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑤竜巻</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑥低温 (凍結)</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑦降水</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑧積雪</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>⑨落雷</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	④風 (台風含む)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑤竜巻	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑥低温 (凍結)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑦降水	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑧積雪	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑨落雷	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 						
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																																		
④風 (台風含む)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
⑤竜巻	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
⑥低温 (凍結)	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
⑦降水	<ul style="list-style-type: none"> 計測・制御系機能喪失 直流電源喪失+計測・制御系喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
⑧積雪	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		
⑨落雷	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																								
37	2.1.2.1	2.1-31	<p>表 2.1.3 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象 (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①火山</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>②隕石</td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 </td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	①火山	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	②隕石	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	<p>表 2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (3/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①火山</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 高圧注水機能喪失 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>②隕石</td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 </td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 </td> <td> <p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 高圧注水機能喪失 </td> </tr> </tbody> </table>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	①火山	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 高圧注水機能喪失 外部電源喪失 	②隕石	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 高圧注水機能喪失 	③(事故シナリオの再評価による見直し)
			自然現象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																							
①火山	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																										
②隕石	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常/緊急停止等 外部電源喪失 																										
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																										
①火山	<ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 高圧注水機能喪失 外部電源喪失 																										
②隕石	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高圧・低圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧・低圧注水機能喪失 全交流動力電源喪失+高圧注水・減圧機能喪失 計測・制御系機能喪失 計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失 全交流動力電源喪失+計測・制御系機能喪失+注水機能喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 (外部電源喪失+高圧炉心冷却失敗) 高圧・低圧注水機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失(初期注水成功) 全交流動力電源喪失+原子炉隔離時冷却系機能喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+最終ヒートシンク喪失 崩壊熱除去機能喪失 高圧注水機能喪失 高圧注水機能喪失+崩壊熱除去機能喪失 高圧注水・減圧機能喪失 全交流動力電源喪失 <p>(発電所近海への落下による津波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 通常/緊急停止等 外部電源喪失 	<p>(衝突による荷重の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 高圧注水機能喪失 																										
38	2.1.2.1	旧2.1-38	<p>(削除)</p>	<p>表 2.1.1 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (4/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①航空機落下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②火災、爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> <tr> <td>③有毒ガス</td> <td>—</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) </td> </tr> <tr> <td>④船舶の衝突</td> <td>—</td> <td>—</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) </td> </tr> <tr> <td>⑤電磁的障害</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 </td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	①航空機落下				②火災、爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	③有毒ガス	—	—	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 	④船舶の衝突	—	—	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 	⑤電磁的障害	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 	⑤
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ																										
①航空機落下																													
②火災、爆発 (森林火災、近隣工場の火災・爆発等)	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失 (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																										
③有毒ガス	—	—	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 																										
④船舶の衝突	—	—	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 																										
⑤電磁的障害	<ul style="list-style-type: none"> 全交流動力電源喪失+直流電源喪失 全交流動力電源喪失+直流電源喪失+注水機能喪失 計測・制御系機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊熱除去機能喪失 全交流動力電源喪失 直流電源喪失 直流電源喪失+注水機能喪失 	<ul style="list-style-type: none"> (通常/緊急停止等) 外部電源喪失 																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由									
39	2.1.2.1	旧2.1-39	(削除)	<p>表2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (6/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩ 軍事活動によるミサイル飛来</td> <td colspan="3" rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>⑪ 内部漏水</td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	⑩ 軍事活動によるミサイル飛来				⑪ 内部漏水	⑤
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ											
⑩ 軍事活動によるミサイル飛来														
⑪ 内部漏水														
40	2.1.2.1	旧2.1-40	(削除)	<p>表2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (6/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩ 第三者の不法な接近</td> <td colspan="3" rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	⑩ 第三者の不法な接近					⑤
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ											
⑩ 第三者の不法な接近														
41	2.1.2.1	旧2.1-41	(削除)	<p>表2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (7/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している 事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している 事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩ 航空機衝突 (意図的)</td> <td colspan="3" rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ	⑩ 航空機衝突 (意図的)					⑤
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない 事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している 事故シナリオ	設計基準事故で想定している 事故シナリオ											
⑩ 航空機衝突 (意図的)														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由									
42	2.1.2.1	旧2.1-42	(削除)	<p>表 2.1.4 大規模損壊へ至る可能性のある自然現象・人為事象 (8/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自然現象・人為事象</th> <th>重大事故対策で想定していない事故シナリオ (大規模損壊)</th> <th>重大事故対策で想定している事故シナリオ</th> <th>設計基準事故で想定している事故シナリオ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ④ 妨害破壊行為 (内部脅威含む) </td> <td colspan="3" rowspan="2" style="border: 2px solid blue;"></td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ④ サイバーテロ </td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 図面の内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している事故シナリオ	設計基準事故で想定している事故シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> ④ 妨害破壊行為 (内部脅威含む) 				<ul style="list-style-type: none"> ④ サイバーテロ 	⑤
自然現象・人為事象	重大事故対策で想定していない事故シナリオ (大規模損壊)	重大事故対策で想定している事故シナリオ	設計基準事故で想定している事故シナリオ											
<ul style="list-style-type: none"> ④ 妨害破壊行為 (内部脅威含む) 														
<ul style="list-style-type: none"> ④ サイバーテロ 														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
43	2.1.2.1	2.1-32	<p>① 外部事象の収集 プラントの安全性に影響を与える可能性のある外部事象を網羅的に収集するため、国内外の基準等で示されている外部事象を参考に44事象を収集。</p> <p>↓</p> <p>② 個別の事象に対するプラント安全性への影響度評価（起因事象の特定） 収集した各自然現象について、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合にプラントの安全性が損なわれる可能性について評価を実施し、発生し得るプラント状態（起因事象）を特定。</p> <p>↓</p> <p>③ 特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象の選定 ②の影響度評価により、そもそも柏崎刈羽原子力発電所において発生する可能性があるか、非常に苛酷な状況を想定した場合、プラントの安全性が損なわれる可能性があるか、影響度の大きさから代表事象による評価が可能かといった観点で、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある事象を下記のとおり選定。 ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風（台風） ・竜巻 ・低湿（凍結） ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石</p> <p>↓</p> <p>④ ケーススタディの対象シナリオ選定 上記で選定された事象のプラントへの影響について、重大事故対策で想定している事故シーケンスに包絡されないものを抽出し、さらに他事象での想定シナリオによる代表性を考慮して、大規模損壊のケーススタディの対象とするシナリオを選定。 ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳</p> <p>図2.1.1 大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象の検討プロセスの概要</p>	<p>① 外部事象の収集 プラントの安全性に影響を与える可能性のある外部事象を網羅的に収集するため、国内外の基準等で示されている外部事象を参考に64事象を収集。</p> <p>↓</p> <p>② 個別の事象に対するプラント安全性への影響度評価（起因事象の特定） 収集した各自然現象・各人為事象について、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合にプラントの安全性が損なわれる可能性について評価を実施し、発生し得るプラント状態（起因事象）を特定。</p> <p>↓</p> <p>③ 特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある自然現象・人為事象の選定 ②の影響度評価により、そもそも柏崎刈羽原子力発電所において発生する可能性があるか、非常に苛酷な状況を想定した場合、プラントの安全性が損なわれる可能性があるか、影響度の大きさから代表事象による評価が可能かといった観点で、特にプラントの安全性に影響を与える可能性のある事象を下記のとおり選定。 【自然現象】 ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風（台風） ・竜巻 ・低湿（凍結） ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石 【人為事象】 ・航空機落下 ・火災、爆発（森林火災、近隣工場の火災・爆発等） ・有毒ガス ・船舶の衝突 ・電磁的障害 ・軍事活動によるミサイル飛来 ・内部溢水 ・第三者の不法な接近 ・航空機衝突（意図的） ・妨害破壊行為（内部脅威含む） ・サイバーテロ</p> <p>↓</p> <p>④ ケーススタディの対象シナリオ選定 上記で選定された事象のプラントへの影響について、重大事故対策で想定している事故シーケンスに包絡されないものを抽出し、さらに他事象での想定シナリオによる代表性を考慮して、大規模損壊のケーススタディの対象とするシナリオを選定。 ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・航空機衝突（意図的）</p> <p>図2.1.1 大規模損壊を発生させる可能性のある自然現象・人為事象の検討プロセスの概要</p>	⑤
44	2.1.2.1	2.1-36	<p>a. 大規模損壊発生時の対応手順書の適用条件と判断フロー 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムにより、発電所における緊急時態勢発令に至る事象が発生した場合は、事故時運転操作手順書（事象ベース、微候ベース、シビアアクシデント等）に基づいて対応操作することを基本とする。</p>	<p>a. 大規模損壊発生時の対応手順書の適用条件と判断フロー 自然災害又は人為事象により、発電所における緊急時態勢発令に至る事象が発生した場合は、事故時運転操作手順書（事象ベース、微候ベース及びシビアアクシデント等）に基づいて対応操作することを基本とする。</p>	⑤
45	2.1.2.1	2.1-37	<p>自然災害が大規模になり、常設の設備では事故収束が行えない場合は、緊急時対策本部の支援を受け、多様なハザード対応手順等の技術的能力1.0で判断基準を明確化して整備する手順を使用する。</p>	<p>自然災害や人為事象が大規模になり、常設の設備では事故収束が行えない場合は、緊急時対策本部の支援を受け、多様なハザード対応手順等の技術的能力1.0で判断基準を明確化して整備する手順を使用する。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
46	2.1.2.1	2.1-39	<p>イ. 設定目標: 炉心損傷回避 発電用原子炉の「止める」、「冷やす」機能を優先的に実施する。</p> <p>ロ. 設定目標: 原子炉格納容器の破損回避 基本的に炉心損傷が発生した場合においても、原子炉圧力容器への注水は継続して必要となるが、使用可能な設備や対応可能要員の観点から、一時的に原子炉格納容器の破損回避の対応を優先せざるを得ない状況になることが想定される。この際に「閉じ込め」機能を維持するための個別戦略を実施する。</p> <p>原子炉格納容器の損傷が発生し、原子炉建屋内に放射性物質が漏えいする状況が想定される場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p> <p>ハ. 設定目標: 使用済燃料プール水位確保 使用済燃料プール内の燃料の冷却のための個別戦略を実施する。使用済燃料プール内の燃料損傷が発生し、原子炉建屋内の放射性物質濃度が上昇する状況が想定される場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p> <p>ニ. 設定目標: 放射性物質拡散抑制 炉心損傷が発生するとともに原子炉圧力容器への注水が行えない場合、使用済燃料プール水位の低下が継続している場合又は原子炉建屋が損傷している場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p>	<p>イ. 設定目標: 炉心損傷回避のための原子炉注水 原子炉の「止める」、「冷やす」機能を優先的に実施する。</p> <p>ロ. 設定目標: 格納容器破損回避 基本的に炉心損傷が発生した場合においても、原子炉注水は継続して必要となるが、使用可能な設備や対応可能要員の観点から、一時的に格納容器破損回避の対応を優先せざるを得ない状況になることが想定される。この際に「閉じ込め」機能を維持するための個別戦略を実施する。</p> <p>原子炉格納容器の損傷が発生し、原子炉建屋内に放射性物質が漏えいする状況が想定される場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p> <p>ハ. 設定目標: 使用済燃料プール水位確保 使用済燃料プール内の燃料の冷却のための個別戦略を実施する。使用済燃料プール内の燃料損傷が発生し、原子炉建屋内の放射性物質濃度が上昇する状況が想定される場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p> <p>ニ. 設定目標: 放射性物質拡散抑制 炉心損傷が発生するとともに原子炉格納容器が破損するおそれがある場合又は使用済燃料プール水位が異常に低下するおそれがある場合は、放射性物質拡散抑制戦略を実施する。</p>	<p>④(技術的能力 1.12において放水 砲による放射性 物質の拡散抑制 の判断基準が変 更になったため)</p>
47	2.1.2.1	2.1-48	<p>b. 大規模損壊発生時に活動を行うために必要な手順書 大規模損壊が発生するおそれがある場合又は発生した場合に対応する手順については、(a)項に示す5つの活動を行うための手順を網羅する。</p>	<p>b. 大規模損壊発生時に活動を行うために必要な手順書 大規模損壊が発生した場合に対応する手順については、(a)項に示す5つの活動を行うための手順を網羅する。</p>	<p>審査基準の改正</p>

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
48	2.1.2.1	2.1-54	<p>表 2.1.5 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(1/6)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A 直流 125V 充電器 A</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 非常用交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等	高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A 直流 125V 充電器 A	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 非常用交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等	高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対処設備	<p>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(1/6)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用ディーゼル発電機 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 炉心の著しい損傷を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A ※1 直流 125V 充電器 A</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 非常用ディーゼル発電機 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用ディーゼル発電機 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 炉心の著しい損傷を防止する運転手順	高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A ※1 直流 125V 充電器 A	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 非常用ディーゼル発電機 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等																																											
		高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A 直流 125V 充電器 A	重大事故等対処設備																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 非常用交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「水位確保」等																																											
		高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対処設備																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系 (蒸気系) 配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系 (注水系) 配管・弁・ストレータ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 非常用ディーゼル発電機 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 炉心の著しい損傷を防止する運転手順																																											
		高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 直流 125V 蓄電池 A ※1 直流 125V 充電器 A	重大事故等対処設備																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉隔離時冷却系による 発電用原子炉の冷却	高圧炉心注水系ポンプ 高圧炉心注水系配管・弁・ストレータ・スパージャ 復水補給水系配管・弁 非常用ディーゼル発電機 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																											
		高圧炉心注水系による 発電用原子炉の冷却	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対処設備																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																														
49	2.1.2.1	2.1-55	<p>表 2.1.5 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(2/6)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系</td> <td>高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td>高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器</td> <td>自主対策設備</td> <td>事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等 AM設備別操作手順書 「HPAC現場起動」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	フロントライン系故障時	原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系	高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備	事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等	高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器	自主対策設備	事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等 AM設備別操作手順書 「HPAC現場起動」	<p>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(2/6)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">高圧炉心注水系 原子炉隔離時冷却系</td> <td>高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型代替直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>炉心の著しい損傷を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却</td> <td>高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	高圧炉心注水系 原子炉隔離時冷却系	高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型代替直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備	炉心の著しい損傷を防止する運転手順	高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器	重大事故等対処設備		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																															
フロントライン系故障時	原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系	高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備	事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等																														
		高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器	自主対策設備	事故時運転操作手順書(撤収ベース) 「水位確保」等 AM設備別操作手順書 「HPAC現場起動」																														
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																															
フロントライン系故障時	高圧炉心注水系 原子炉隔離時冷却系	高圧代替注水系の中央制御室からの操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器 常設代替直流電源設備 可搬型代替直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等対処設備	炉心の著しい損傷を防止する運転手順																														
		高圧代替注水系の現場操作による発電用原子炉の冷却	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパージャ 原子炉压力容器	重大事故等対処設備																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																									
50	2.1.2.1	2.1-56	<p><u>表 2.1.5 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2) (3/6)</u></p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源 常設直流電源系統</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系の現場操作</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>事故時運転操作手順書(操作ベース) 「水位確保」等 AM 設備切操作手順書 「BCIC 現場起動」 多様なハザード対応手順 「BCIC 現場起動(排水処理)」</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作</td> <td>水ポンプ ホース 仮設発電機 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備 自主対策</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	全交流動力電源 常設直流電源系統		原子炉隔離時冷却系の現場操作	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	事故時運転操作手順書(操作ベース) 「水位確保」等 AM 設備切操作手順書 「BCIC 現場起動」 多様なハザード対応手順 「BCIC 現場起動(排水処理)」	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等 対処設備	全交流動力電源		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	水ポンプ ホース 仮設発電機 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備	全交流動力電源		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備 自主対策	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備			原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	<p><u>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2) (3/6)</u></p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源 常設直流電源系統</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">可搬型代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電</td> <td>原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 可搬型直流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	全交流動力電源 常設直流電源系統		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等 対処設備	全交流動力電源		代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	全交流動力電源		可搬型代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 可搬型直流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																																										
全交流動力電源 常設直流電源系統		原子炉隔離時冷却系の現場操作	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	事故時運転操作手順書(操作ベース) 「水位確保」等 AM 設備切操作手順書 「BCIC 現場起動」 多様なハザード対応手順 「BCIC 現場起動(排水処理)」																																																										
			復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等 対処設備																																																										
全交流動力電源		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	水ポンプ ホース 仮設発電機 燃料補給設備 ※1	自主対策設備																																																										
			原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備																																																										
全交流動力電源		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備 自主対策																																																										
			原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備																																																										
		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 所内蓄電式直流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備																																																										
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																										
全交流動力電源 常設直流電源系統		原子炉隔離時冷却系(注水系)の現場操作	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備																																																										
			復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等 対処設備																																																										
全交流動力電源		代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備																																																										
			復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備																																																										
全交流動力電源		可搬型代替交流電源設備による原子炉隔離時冷却系への給電	原子炉隔離時冷却系ポンプ 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(注水系)配管・弁・ストレーナ 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ	重大事故等 対処設備																																																										
			復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 可搬型直流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備																																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																	
52	2.1.2.1	2.1-58	<p>表 2.1.5 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(5/6)</p> <p>(監視及び制御)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">監視及び制御</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">監視及び制御</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">高圧代替注水系(現場起動時)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「IPAC 現場起動」</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">監視及び制御</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系(現場起動時)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RCIC 現場起動」</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	監視及び制御	-	高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等	原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位	自主対策設備	監視及び制御	-	高圧代替注水系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「IPAC 現場起動」	原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力	自主対策設備	監視及び制御	-	原子炉隔離時冷却系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RCIC 現場起動」	原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計	自主対策設備	<p>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(5/6)</p> <p>(監視及び制御)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">監視及び制御</td> <td rowspan="4">-</td> <td rowspan="4">高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備 炉心の著しい損傷を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">監視及び制御</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉隔離時冷却系(現場起動時)</td> <td>原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	監視及び制御	-	高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)	重大事故等 対処設備 炉心の著しい損傷を防止する運転手順	原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位	自主対策設備	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備	原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力	自主対策設備	監視及び制御	-	原子炉隔離時冷却系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備	原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																																		
監視及び制御	-	高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位	自主対策設備																																																		
監視及び制御	-	高圧代替注水系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「IPAC 現場起動」																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力	自主対策設備																																																		
監視及び制御	-	原子炉隔離時冷却系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備 事故時運転操作手順書 (巻換ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RCIC 現場起動」																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計	自主対策設備																																																		
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																		
監視及び制御	-	高圧代替注水系の監視計器(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA) 原子炉圧力 原子炉圧力 (SA) 高圧代替注水系統流量 復水貯蔵槽水位 (SA)	重大事故等 対処設備 炉心の著しい損傷を防止する運転手順																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 復水貯蔵槽水位	自主対策設備																																																		
			原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 高圧代替注水系ポンプ吐出圧力 高圧代替注水系タービン入口圧力 高圧代替注水系タービン排気圧力 高圧代替注水系ポンプ吸込圧力	自主対策設備																																																		
監視及び制御	-	原子炉隔離時冷却系(現場起動時)	原子炉水位 (広帯域) 原子炉水位 (燃料域) 原子炉水位 (SA)	重大事故等 対処設備																																																		
			原子炉水位 (狭帯域) 可搬式原子炉水位計 原子炉隔離時冷却系タービン入口圧力 原子炉隔離時冷却系ポンプ吸込圧力 可搬型回転計	自主対策設備																																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																		
53	2.1.2.1	2.1-59	<p>表 2.1.5 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(6/6)</p> <p>(重大事故等の進展抑制)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重大事故等の進展抑制</td> <td rowspan="4">-</td> <td>進展抑制(ほうれん水注入系による)</td> <td>ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「SLCポンプによる原子炉 注水」</td> </tr> <tr> <td>進展抑制(ほうれん水注入系による)</td> <td>第二代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>進展抑制(注水による)</td> <td>ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御機駆動系による 進展抑制</td> <td>制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「QD による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 進展抑制</td> <td>高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「HPCF 緊急注水」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	重大事故等の進展抑制	-	進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「SLCポンプによる原子炉 注水」	進展抑制(ほうれん水注入系による)	第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備		進展抑制(注水による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備		制御機駆動系による 進展抑制	制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「QD による原子炉注水」	高圧炉心注水系による 進展抑制	高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「HPCF 緊急注水」	<p>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.2)(6/6)</p> <p>(重大事故等の進展抑制)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">重大事故等の進展抑制</td> <td rowspan="4">-</td> <td>進展抑制(ほうれん水注入系による)</td> <td>ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>炉心の著しい損傷を防止する 運転手順</td> </tr> <tr> <td>進展抑制(ほうれん水注入系による)</td> <td>ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>制御機駆動系による 進展抑制</td> <td>制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高圧炉心注水系による 進展抑制</td> <td>高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	重大事故等の進展抑制	-	進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	炉心の著しい損傷を防止する 運転手順	進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備		制御機駆動系による 進展抑制	制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備		高圧炉心注水系による 進展抑制	高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																																			
重大事故等の進展抑制	-	進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「SLCポンプによる原子炉 注水」																																																		
		進展抑制(ほうれん水注入系による)	第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備																																																			
		進展抑制(注水による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備																																																			
		制御機駆動系による 進展抑制	制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「QD による原子炉注水」																																																		
高圧炉心注水系による 進展抑制	高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 第二代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (徴 検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「HPCF 緊急注水」																																																				
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																			
重大事故等の進展抑制	-	進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	重大事故等 対処設備	炉心の著しい損傷を防止する 運転手順																																																		
		進展抑制(ほうれん水注入系による)	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系ストロタンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系 消火系 純水補給水系 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備																																																			
		制御機駆動系による 進展抑制	制御機駆動系ポンプ 復水貯蔵槽 制御機駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備																																																			
		高圧炉心注水系による 進展抑制	高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧炉心注水系配管・弁・スパー ジャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※1	自主対策 設備																																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																		
54	2.1.2.1	2.1-62	<p>表2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(1/4)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">自動減圧系</td> <td rowspan="2">原子炉減圧の自動化</td> <td>代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備</td> <td>重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)</td> <td>※1、※2</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※3 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3</td> <td>重大事故等 対応設備 自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁 タービン制御系</td> <td>自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:代替自動減圧機能は、運転員による操作不要の減圧機能である。 ※2:自動減圧系の起動阻止スイッチの手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:想定される重大事故等時の機組条件においても確実に逃がし安全弁を作動させることができるよう、あらかじめ供給圧力を設定している。 ※5:原子炉保護ブローアウトパネルは、開放設定圧力に到達した時点で自動的に開放する設備であり、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	フロントライン系故障時	自動減圧系	原子炉減圧の自動化	代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備	重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)	※1、※2	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※3 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等 対応設備 自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」	タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」	<p>表2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(1/4)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">自動減圧系</td> <td rowspan="2">原子炉減圧の自動化</td> <td>代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備</td> <td>重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)</td> <td rowspan="3">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁(逃がし弁機能) 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 タービンバイパス弁 タービン制御系</td> <td>重大事故等 対応設備 自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁 タービン制御系</td> <td>自主対策 設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	自動減圧系	原子炉減圧の自動化	代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備	重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	逃がし安全弁(逃がし弁機能) 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 タービンバイパス弁 タービン制御系	重大事故等 対応設備 自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」	タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																			
フロントライン系故障時	自動減圧系	原子炉減圧の自動化	代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備	重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)	※1、※2																																		
			逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※3 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等 対応設備 自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」																																		
		タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」																																			
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																			
フロントライン系故障時	自動減圧系	原子炉減圧の自動化	代替自動減圧ロジック(代替自動減圧機能) 自動減圧系の起動阻止スイッチ 逃がし安全弁(自動減圧機能付きC、H、L、Tの4個) 主蒸気系配管・クエンチャ 自動減圧機能用アキュムレータ 非常用交流電源設備	重大事故等 対応設備 重大事故等 対応設備 (設計基準事故)	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																																		
			逃がし安全弁(逃がし弁機能) 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ 所内雷電式直流電源設備 ※1 常設代替交流電源設備 ※1 可搬型代替交流電源設備 ※1 タービンバイパス弁 タービン制御系	重大事故等 対応設備 自主対策 設備		事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」																																	
		タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	事故時運転操作手順書 (豊後ベース) 「減圧冷却」等 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																												
55	2.1.2.1	2.1-63	<p>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(2/4)</p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">常設直流電源系統</td> <td>可搬型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復</td> <td>可搬型直流電源設備 ※3 AM 用切替装置 (SRV) 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復</td> <td>逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」</td> </tr> <tr> <td>代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧</td> <td>高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ</td> <td>自主対策設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「代替 SRV 駆動装置による SRV 開放」</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>高圧蒸気ガス供給系</td> <td>高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「SRV 駆動源確保」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:代替自動減圧機能は、運転員による操作不要の減圧機能である。 ※2:自動減圧系の起動阻止スイッチの手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:想定される重大事故等時の運転条件においても確実に逃がし安全弁を作動させることができるよう、あらかじめ供給圧力を設定している。 ※5:原子炉建屋ブローアウトパネルは、開放設定圧力に到達した時点で自動的に開放する設備であり、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	サポート系故障時	常設直流電源系統	可搬型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復	可搬型直流電源設備 ※3 AM 用切替装置 (SRV) 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」	逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復	逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」	代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧	高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ	自主対策設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「代替 SRV 駆動装置による SRV 開放」	-	高圧蒸気ガス供給系	高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「SRV 駆動源確保」	<p>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(2/4)</p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">サポート系故障時</td> <td rowspan="4">常設直流電源系統</td> <td>可搬型小型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復</td> <td>可搬型小型直流電源設備 ※1 AM 用切替装置 (SRV) 代替所内電気設備 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td rowspan="4">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復</td> <td>逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧</td> <td>高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>高圧蒸気ガス供給系</td> <td>高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	常設直流電源系統	可搬型小型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復	可搬型小型直流電源設備 ※1 AM 用切替装置 (SRV) 代替所内電気設備 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復	逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧	高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ	自主対策設備	高圧蒸気ガス供給系	高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																													
サポート系故障時	常設直流電源系統	可搬型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復	可搬型直流電源設備 ※3 AM 用切替装置 (SRV) 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」																																												
		逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復	逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「AM 用切替装置又はバッテリーによる SRV 開放」																																												
		代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧	高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ	自主対策設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「代替 SRV 駆動装置による SRV 開放」																																												
-	高圧蒸気ガス供給系	高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (澄検ベース) AM 設備別操作手順書 「SRV 駆動源確保」																																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																													
サポート系故障時	常設直流電源系統	可搬型小型直流電源設備による逃がし安全弁機能回復	可搬型小型直流電源設備 ※1 AM 用切替装置 (SRV) 代替所内電気設備 常設代替直流電源設備 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし) 主蒸気系配管・クエンチヤ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																																												
		逃がし安全弁用可搬型蓄電池による逃がし安全弁機能回復	逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) 主蒸気系配管・クエンチヤ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備																																													
		代替逃がし安全弁駆動装置による原子炉減圧	高圧蒸気ガス供給系 (代替逃がし安全弁駆動装置) 逃がし安全弁 (自動減圧機能なし、E、E、U の 4 個) 主蒸気系配管・クエンチヤ	自主対策設備																																													
		高圧蒸気ガス供給系	高圧蒸気ガスレベル 高圧蒸気ガス供給系配管・弁 自動減圧機能用アキュムレータ 逃がし弁機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																													
56	2.1.2.1	2.1-64	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(3/4)</u></p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>-</td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁</td> <td>①-②4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>全交流動力電源 常設直流電源</td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>可搬型直流電源設備 ②3 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②3</td> <td>①-②3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>常設代替交流電源設備 ②3 可搬型代替交流電源設備 ②3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>第二代替交流電源設備 ②3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②1: 代替自動機は、運転員による操作不要の機体構成である。 ②2: 自動機圧力の起動停止スイッチの信頼性は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための信頼等」にて整備する。 ②3: 信頼性は「1.14 電源の確保に関する信頼等」にて整備する。 ②4: 想定される重大事故等時の機体条件においても確実に選がし安全弁を作動させることができるよう、あらかじめ供給圧力を設定している。 ②5: 原子炉降圧ブローアウトパネルは、開放設定圧力に到達した時点で自動的に開放する設備であり、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書		-	高田原発の運転停止	高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁	①-②4		全交流動力電源 常設直流電源	高田原発の運転停止	可搬型直流電源設備 ②3 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②3	①-②3			高田原発の運転停止	常設代替交流電源設備 ②3 可搬型代替交流電源設備 ②3				高田原発の運転停止	第二代替交流電源設備 ②3		<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(3/4)</u></p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>-</td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁</td> <td>①-②4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>常設直流電源 全交流動力電源</td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>可搬型直流電源設備 ②1 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②1</td> <td>①-②3</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>高田原発の運転停止</td> <td>常設代替交流電源設備 ②1 可搬型代替交流電源設備 ②1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②1: 信頼性は「1.14 電源の確保に関する信頼等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類		-	高田原発の運転停止	高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁	①-②4		常設直流電源 全交流動力電源	高田原発の運転停止	可搬型直流電源設備 ②1 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②1	①-②3			高田原発の運転停止	常設代替交流電源設備 ②1 可搬型代替交流電源設備 ②1		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書																																														
	-	高田原発の運転停止	高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁	①-②4																																														
	全交流動力電源 常設直流電源	高田原発の運転停止	可搬型直流電源設備 ②3 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②3	①-②3																																														
		高田原発の運転停止	常設代替交流電源設備 ②3 可搬型代替交流電源設備 ②3																																															
		高田原発の運転停止	第二代替交流電源設備 ②3																																															
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																														
	-	高田原発の運転停止	高田原発ガスボンベ 高田原発ガス供給系配管・弁 主高気圧配管・弁	①-②4																																														
	常設直流電源 全交流動力電源	高田原発の運転停止	可搬型直流電源設備 ②1 直流給電車及び可搬型代替交流電源設備 ②1	①-②3																																														
		高田原発の運転停止	常設代替交流電源設備 ②1 可搬型代替交流電源設備 ②1																																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
57	2.1.2.1	2.1-65	<p><u>表 2.1.6 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(4/4)</u></p> <p>(原子炉格納容器の破損の防止、インターフェイスシステム LOCA 発生時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器の破損の防止</td> <td>-</td> <td>高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止</td> <td>逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/Y 制御」</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">インターフェイスシステム LOCA 発生時</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="2">発電用原子炉の減圧</td> <td>逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁 タービン制御系</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離</td> <td>高圧炉心注水系注入隔離弁</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋ブローアウトパネル ※6</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:代替自動減圧機能は、運転員による操作不要の減圧機能である。 ※2:自動減圧系の起動阻止スイッチの手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:想定される重大事故等時の環境条件においても確実に逃がし安全弁を作動させることができるよう、あらかじめ供給圧力を設定している。 ※6:原子炉建屋ブローアウトパネルは、開放設定圧力に到達した時点で自動的に開放する設備であり、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	原子炉格納容器の破損の防止	-	高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/Y 制御」	インターフェイスシステム LOCA 発生時	-	発電用原子炉の減圧	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離	高圧炉心注水系注入隔離弁	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	原子炉建屋ブローアウトパネル ※6	重大事故等対処設備	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.3)(4/4)</u></p> <p>(原子炉格納容器破損の防止、インターフェイスシステム LOCA 発生時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器破損の防止</td> <td>-</td> <td>高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止</td> <td>逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等対処設備 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">インターフェイスシステム LOCA 発生時</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="2">原子炉冷却材の減圧</td> <td>逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>タービンバイパス弁 タービン制御系</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離</td> <td>高圧炉心注水系注入隔離弁</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	原子炉格納容器破損の防止	-	高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等対処設備 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順	インターフェイスシステム LOCA 発生時	-	原子炉冷却材の減圧	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備	タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備	原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離	高圧炉心注水系注入隔離弁	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																								
原子炉格納容器の破損の防止	-	高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/Y 制御」																																											
インターフェイスシステム LOCA 発生時	-	発電用原子炉の減圧	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備																																											
			タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備																																											
		原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離	高圧炉心注水系注入隔離弁	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																											
原子炉建屋ブローアウトパネル ※6	重大事故等対処設備																																														
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																											
原子炉格納容器破損の防止	-	高圧冷却剤放出/格納容器内圧加熱の防止	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等対処設備 炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順																																											
インターフェイスシステム LOCA 発生時	-	原子炉冷却材の減圧	逃がし安全弁 主蒸気系配管・クエンチャ 逃がし弁機能用アキュムレータ 自動減圧機能用アキュムレータ	重大事故等 対処設備																																											
			タービンバイパス弁 タービン制御系	自主対策 設備																																											
		原子炉冷却材の漏えい箇所の隔離	高圧炉心注水系注入隔離弁	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
58	2.1.2.1	2.1-68	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (1/8)</u></p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ ※6 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備(設 計基準拡張)</td> <td>事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対 処設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td>事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「減圧冷却」等</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対 処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (停止時機銃ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源 (措置) ※6: 残留熱除去系 (低圧注水モード) は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ ※6 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備(設 計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「水位確保」等	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備		重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「減圧冷却」等	原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備	事故時運転操作手順書 (停止時機銃ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」	<p><u>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (1/8)</u></p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対 処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器</td> <td>重大事故等対 処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ ※6 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備(設 計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「水位確保」等																																										
			サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (機銃ベース) 「減圧冷却」等																																										
			原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備	事故時運転操作手順書 (停止時機銃ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」																																										
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(低圧注水モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレナー・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																											
			サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)		残留熱除去系(停止時冷却モード)による緊急用原子炉中の冷却	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																											
			原子炉圧力容器	重大事故等対 処設備																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																							
59	2.1.2.1	2.1-69	<p>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4)(2/8)</p> <p>(発電用原子炉運転中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">残留熱除去系(低圧注水モード)</td> <td rowspan="3">低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「M/WC による原子炉注水」</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置) ※6:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置) ※6:残留熱除去系(低圧注水モード)は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「M/WC による原子炉注水」	重大事故等対処設備	残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策	重大事故等対処設備	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1	重大事故等対処設備	防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策	重大事故等対処設備	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.4)(2/8)</p> <p>(原子炉運転中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">残留熱除去系(低圧注水モード)</td> <td rowspan="3">低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ</td> <td>自主対策</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース M/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ</td> <td>自主対策</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置) ※6:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ	自主対策	重大事故等対処設備	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース M/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ	自主対策	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	整備する手順書の分類																																							
フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「M/WC による原子炉注水」	重大事故等対処設備																																							
			残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策	重大事故等対処設備																																							
			可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1	重大事故等対処設備																																							
防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策	重大事故等対処設備																																										
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																								
フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	低圧代替注水ポンプ(常時)による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																								
			残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ	自主対策	重大事故等対処設備																																							
			可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース M/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(D)配管・弁・スパーージャ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																								
防火水櫃 ※1, ※6 送水貯水池 ※1, ※6 残留熱除去系(C)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパーージャ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパーージャ	自主対策	重大事故等対処設備																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																				
60	2.1.2.1	2.1-70	<p>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (3/8)</p> <p>(発電用原子炉運転中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロントライン系故障時</td> <td>残留熱除去系(低圧注水モード)</td> <td>消火系による発電用原子炉の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (微検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」 自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置) ※6:残留熱除去系(低圧注水モード)は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管を含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	消火系による発電用原子炉の冷却	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (微検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」 自主対策設備	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.4) (3/8)</p> <p>(原子炉運転中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロントライン系故障時</td> <td>残留熱除去系(低圧注水モード)</td> <td>消火系による原子炉の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉燃料容器の破壊を防止する運転手順 自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	消火系による原子炉の冷却	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉燃料容器の破壊を防止する運転手順 自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																					
フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	消火系による発電用原子炉の冷却	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (微検ベース) 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」 自主対策設備																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																					
フロントライン系故障時	残留熱除去系(低圧注水モード)	消火系による原子炉の冷却	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉燃料容器の破壊を防止する運転手順 自主対策設備																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																													
61	2.1.2.1	2.1-71	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (4/8)</u></p> <p>(発電用原子炉運転中のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">全交流動力電源 原子炉補機冷却系</td> <td rowspan="3">代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 重大事故等 （設計基準基準）</td> <td>事故時運転操作手順書 （優先ベース） 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による原子炉注水」 「RHR (B) による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3</td> <td>重大事故等 （設計基準基準）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの吸込ライン（復水貯蔵槽下部の非常用ライン）の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置） ※6:残留熱除去系（低圧注水モード）は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等 （設計基準基準）	事故時運転操作手順書 （優先ベース） 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による原子炉注水」 「RHR (B) による原子炉注水」	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3	重大事故等 （設計基準基準）		第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備		<p><u>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (4/8)</u></p> <p>(原子炉運転中のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">サポート系故障時</td> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2">代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> <td>重大事故等 （設計基準基準） 自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの吸込ライン（復水貯蔵槽下部の非常用ライン）の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	全交流動力電源	代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 （設計基準基準） 自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																														
サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等 （設計基準基準）	事故時運転操作手順書 （優先ベース） 「水位確保」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による原子炉注水」 「RHR (B) による原子炉注水」																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3	重大事故等 （設計基準基準）																														
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																														
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																														
サポート系故障時	全交流動力電源	代替交流電源設備による機器熱除去系（低圧注水モード）の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																														
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 （設計基準基準） 自主対策設備																														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																												
62	2.1.2.1	2.1-72	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (5/8)</u></p> <p>(溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.8 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(積置) ※6: 残留熱除去系(低圧注水モード)は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合	-	低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」	<p><u>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.4) (5/8)</u></p> <p>(溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース B/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.8 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(積置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合	-	低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース B/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																													
溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合	-	低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」																													
			可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1																													
			ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																													
溶融炉心が原子炉圧力容器内に残存する場合	-	低圧代替注水モードによる 残存溶融炉心の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」 AM 設備別操作手順書 「B/WC による原子炉注水」																													
			可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース B/WC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手 順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 ※1																													
			ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージヤ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる原子炉注水」																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																		
63	2.1.2.1	2.1-73	<p>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (6/8)</p> <p>(発電用原子炉停止中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統による発電用原子炉の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパージェ) 機前熱除去系(B)配管・弁 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td>非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準事故時)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却</td> <td>機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却</td> <td>防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>多様なハザード対応手順 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策</td> </tr> <tr> <td>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパージェ) 機前熱除去系(B)配管・弁 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」	非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準事故時)	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2	多様なハザード対応手順 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策	※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.4) (6/8)</p> <p>(原子炉停止中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却</td> <td>機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準事故時)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却</td> <td>機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却</td> <td>防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備	非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準事故時)	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ	自主対策	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策	フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ	自主対策	※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統による発電用原子炉の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系(配管・弁・スパージェ) 機前熱除去系(B)配管・弁 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」																																																			
			非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準事故時)																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策																																																			
			可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書(停止時復従ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ 第二代替交流電源設備 ※2	多様なハザード対応手順 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策																																																			
			※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)																																																				
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統配管・弁 ※4 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備																																																			
			非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準事故時)																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ	自主対策																																																			
			可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 機前熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 機前熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 「消防車による汲水(原子炉注水)」 ※1 自主対策																																																			
フロントライン系故障時	機前熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	低圧代替注水系統(可搬型)による発電用原子炉の冷却	防火水櫃 ※1, ※5 汲水貯水池 ※1, ※5 機前熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系統(C)配管・弁・スパージェ	自主対策																																																			
			※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:復水移送ポンプの送込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替汲水原(掃集)																																																				

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																				
64	2.1.2.1	2.1-74	<p style="text-align: center;">表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (7/8)</p> <p style="text-align: center;">(発電用原子炉停止中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロントライン系故障時</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td>消火系による発電用原子炉の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの移送ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置) ※6: 残留熱除去系(低圧注水モード)は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系故障時	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	消火系による発電用原子炉の冷却	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」	<p style="text-align: center;">表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.4) (7/8)</p> <p style="text-align: center;">(原子炉停止中のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロントライン系故障時</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)</td> <td>消火系による原子炉の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの移送ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	消火系による原子炉の冷却	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																					
フロントライン系故障時	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	消火系による発電用原子炉の冷却	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																					
フロントライン系故障時	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード)	消火系による原子炉の冷却	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(B)配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(A)配管・弁 給水系配管・弁・スパージェ 残留熱除去系(C)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(B)配管・弁・スパージェ 高圧炉心注水系(C)配管・弁・スパージェ 原子炉圧力容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																												
65	2.1.2.1	2.1-75	<p><u>表 2.1.7 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (8/8)</u></p> <p>(発電用原子炉停止中のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">全交流動力電源 原子炉補機冷却系</td> <td rowspan="3">代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧</td> <td>原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td>事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SHR (A) による原子炉除熱」 「SHR (B) による原子炉除熱」</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置) ※6: 残留熱除去系 (低圧注水モード) は熱交換機能に期待しておらず、熱交換器は流路としてのみ用いるため、配管に含むこととする。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧	原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SHR (A) による原子炉除熱」 「SHR (B) による原子炉除熱」	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備		<p><u>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.4) (8/8)</u></p> <p>(原子炉停止中のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">サポート系故障時</td> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2">常設代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧</td> <td>原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td rowspan="2">重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 復水移送ポンプの吸込ライン(復水貯蔵槽下部の非常用ライン)の配管・弁が対象 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	全交流動力電源	常設代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧	原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																													
サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧	原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SHR (A) による原子炉除熱」 「SHR (B) による原子炉除熱」																												
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3																														
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																													
サポート系故障時	全交流動力電源	常設代替交流電源設備による復旧熱除去系 (復旧注水モード)の復旧	原子炉圧力容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・スパーージャ 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備																														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																										
66	2.1.2.1	2.1-77	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(1/5)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1</td> <td>事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」等</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2</td> <td>残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2</td> <td>事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」「PCV 圧力制御」等</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」等	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」「PCV 圧力制御」等	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(1/5)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1</td> <td>残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1</td> <td>炉心の新しい構造及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2</td> <td>残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	炉心の新しい構造及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」等																											
		残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	事故時運転操作手順書(微動ベース)「S/P 温度制御」「PCV 圧力制御」等																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	残留熱除去系(原子炉停止時冷却モード) ※1	炉心の新しい構造及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																											
		残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2	残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・プール冷却モード) ※2 残留熱除去系(格納容器スプレイ冷却モード) ※2																												

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																								
67	2.1.2.1	2.1-78	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(2/5)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉補機冷却系による除熱</td> <td>原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却水ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (巻頭ページ) 「S/P 温度制御」等</td> </tr> <tr> <td>海水貯留庫 スクリーン室 取水路</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉補機冷却系による除熱	原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却水ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (巻頭ページ) 「S/P 温度制御」等	海水貯留庫 スクリーン室 取水路	重大事故等対処設備	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(2/5)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉補機冷却系による除熱</td> <td>原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3</td> <td>炉心の著しい侵襲及び原子炉格納容器の故障を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>海水貯留庫 スクリーン室 取水路</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉補機冷却系による除熱	原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3	炉心の著しい侵襲及び原子炉格納容器の故障を防止する運転手順	海水貯留庫 スクリーン室 取水路	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																									
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉補機冷却系による除熱	原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却水ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (巻頭ページ) 「S/P 温度制御」等																									
			海水貯留庫 スクリーン室 取水路	重大事故等対処設備																									
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																									
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	原子炉補機冷却系による除熱	原子炉補機冷却系海水ポンプ 原子炉補機冷却系中間ループ循環ポンプ 原子炉補機冷却系配管・弁・海水ストレーナ 原子炉補機冷却系サージタンク 原子炉補機冷却系熱交換器 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 非常用交流電源設備 ※3	炉心の著しい侵襲及び原子炉格納容器の故障を防止する運転手順																									
			海水貯留庫 スクリーン室 取水路	重大事故等対処設備																									

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																				
68	2.1.2.1	2.1-79	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5) (3/5)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="2">機密熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td rowspan="2">原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>格納容器圧力逃がし装置</td> <td>事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (D/W)」</td> </tr> <tr> <td>フィルタ装置スクラバ水補給設備</td> <td>多様なヘザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後の N₂ パージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン N₂ パージ」 「ドレンタンク水抜き」</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ポンペ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 原子炉格納容器 (真空破漏弁を含む) 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3</td> <td>事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (D/W)」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	フロントライン系故障時	機密熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレィ冷却モード)	原子炉格納容器内の減圧及び除熱	格納容器圧力逃がし装置	事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (D/W)」	フィルタ装置スクラバ水補給設備	多様なヘザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後の N ₂ パージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン N ₂ パージ」 「ドレンタンク水抜き」			原子炉格納容器内の減圧及び除熱	副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ポンペ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 原子炉格納容器 (真空破漏弁を含む) 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3	事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (D/W)」	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5) (3/5)</p> <p>(フロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">機密熱除去系 (サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード、格納容器スプレィ冷却モード、原子炉停止時冷却モード)</td> <td rowspan="3">原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>格納容器圧力逃がし装置 ※4</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の過熱を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>代替格納容器圧力逃がし装置 ※4 専用空気ポンペ</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 原子炉格納容器 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 真空破漏弁 (S/C-D/W) 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 専用空気ポンペ</td> <td>重大事故等 自主対策 自主対策</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>電源操作</td> <td>遠隔手動弁操作設備 専用空気ポンペ</td> <td>重大事故等 自主対策 自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	機密熱除去系 (サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード、格納容器スプレィ冷却モード、原子炉停止時冷却モード)	原子炉格納容器内の減圧及び除熱	格納容器圧力逃がし装置 ※4	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の過熱を防止する運転手順	代替格納容器圧力逃がし装置 ※4 専用空気ポンペ	自主対策設備	副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 原子炉格納容器 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 真空破漏弁 (S/C-D/W) 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 専用空気ポンペ	重大事故等 自主対策 自主対策			電源操作	遠隔手動弁操作設備 専用空気ポンペ	重大事故等 自主対策 自主対策	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																					
フロントライン系故障時	機密熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード及び格納容器スプレィ冷却モード)	原子炉格納容器内の減圧及び除熱	格納容器圧力逃がし装置	事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (フィルタベント) 使用 (D/W)」																																					
			フィルタ装置スクラバ水補給設備	多様なヘザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後の N ₂ パージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン N ₂ パージ」 「ドレンタンク水抜き」																																					
		原子炉格納容器内の減圧及び除熱	副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ポンペ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 原子炉格納容器 (真空破漏弁を含む) 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3	事故時運転操作手順書 (機密ベース) 「FCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (S/C)」 「炉心損傷前 FCV ベント (副圧強化ライン) 使用 (D/W)」																																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																					
フロントライン系故障時	機密熱除去系 (サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード、格納容器スプレィ冷却モード、原子炉停止時冷却モード)	原子炉格納容器内の減圧及び除熱	格納容器圧力逃がし装置 ※4	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の過熱を防止する運転手順																																					
			代替格納容器圧力逃がし装置 ※4 専用空気ポンペ	自主対策設備																																					
			副圧強化ベント系 (R/W) 配管・弁 副圧強化ベント系 (D/W) 配管・弁 遠隔手動弁操作設備 原子炉格納容器 不活性ガス系配管・弁 非常用ガス処理系配管・弁 真空破漏弁 (S/C-D/W) 主排気筒 (内筒) 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 専用空気ポンペ	重大事故等 自主対策 自主対策																																					
		電源操作	遠隔手動弁操作設備 専用空気ポンペ	重大事故等 自主対策 自主対策																																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																				
69	2.1.2.1	2.1-80	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5) (4/5)</p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フロントライン系故障時</td> <td>残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、ナプレッション・チェンバ・プールの冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード) 全交流動力電源</td> <td>現場操作</td> <td>遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ボタン 遠隔空気駆動弁操作設備 配管・弁</td> <td>事故時運転操作手順書 (推定ベース) 「PCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (D/W))」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後のN_2バージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ラインN_2バージ」 「ドレンタンク水抜き」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	フロントライン系故障時	残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、ナプレッション・チェンバ・プールの冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード) 全交流動力電源	現場操作	遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ボタン 遠隔空気駆動弁操作設備 配管・弁	事故時運転操作手順書 (推定ベース) 「PCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (D/W))」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後の N_2 バージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン N_2 バージ」 「ドレンタンク水抜き」	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5) (4/5)</p> <p>(サポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サポート系故障時</td> <td>原子炉補機冷却系 全交流動力電源</td> <td>北陸電力(株)管内各発電所からの供給</td> <td>熱交換機ユニット 大容量送水車 (熱交換機ユニット用) ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換機 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備※1 可搬型代替交流電源設備※3 燃料補給設備 ※1</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 「燃料系統故障」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	北陸電力(株)管内各発電所からの供給	熱交換機ユニット 大容量送水車 (熱交換機ユニット用) ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換機 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備※1 可搬型代替交流電源設備※3 燃料補給設備 ※1	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 「燃料系統故障」	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																					
フロントライン系故障時	残留熱除去系 (原子炉停止時冷却モード、ナプレッション・チェンバ・プールの冷却モード及び格納容器スプレイ冷却モード) 全交流動力電源	現場操作	遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作ボタン 遠隔空気駆動弁操作設備 配管・弁	事故時運転操作手順書 (推定ベース) 「PCV 圧力制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (S/C))」 「炉心損傷前 PCV ベント (前圧強化ライン使用 (D/W))」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整 (水張り)」 「フィルタベント水位調整 (水抜き)」 「フィルタベント停止後の N_2 バージ」 「フィルタ装置スクラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン N_2 バージ」 「ドレンタンク水抜き」																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																					
サポート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	北陸電力(株)管内各発電所からの供給	熱交換機ユニット 大容量送水車 (熱交換機ユニット用) ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換機 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備※1 可搬型代替交流電源設備※3 燃料補給設備 ※1	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 「燃料系統故障」																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																											
70	2.1.2.1	2.1-81	<p>表 2.1.8 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(5/5)</p> <p>(サボート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">サボート系故障時</td> <td rowspan="2">原子炉補機冷却系 全交流動力電源</td> <td rowspan="2">代替原子炉補機冷却系による冷却</td> <td>熱交換器ユニット 大容量送水車（熱交換器ユニット用） 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換器 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給装置 ※3 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 第二代替交流電源設備 ※3</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「熱交換器ユニットによる補機冷却水確保」</td> </tr> <tr> <td>重大事故等対処設備 自主対策設備</td> <td>事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」</td> </tr> <tr> <td>サボート系故障時</td> <td>原子炉補機冷却系 全交流動力電源</td> <td>代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却</td> <td>大容量送水車（熱交換器ユニット用）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3</td> <td>事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系による冷却	熱交換器ユニット 大容量送水車（熱交換器ユニット用） 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換器 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給装置 ※3 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「熱交換器ユニットによる補機冷却水確保」	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」	サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却	大容量送水車（熱交換器ユニット用）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3	事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.5)(5/5)</p> <p>(サボート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サボート系故障時</td> <td>原子炉補機冷却系 全交流動力電源</td> <td>代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却</td> <td>大容量送水車（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3</td> <td>炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却	大容量送水車（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																												
サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系による冷却	熱交換器ユニット 大容量送水車（熱交換器ユニット用） 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁・サージタンク 残留熱除去系熱交換器 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給装置 ※3 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「熱交換器ユニットによる補機冷却水確保」																												
			重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」																												
サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却	大容量送水車（熱交換器ユニット用）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 常設代替交流電源設備 ※3 第二代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3	事故時運転操作手順書（事故ベース） 「S/P 温度制御」等 AM 設置別操作手順書「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」 多様なハザード対応手順「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる補機冷却水確保」 「大容量送水車による補機冷却水確保」																												
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																												
サボート系故障時	原子炉補機冷却系 全交流動力電源	代替原子炉補機冷却系（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプによる冷却	大容量送水車（熱交換器ユニット型）又は代替原子炉補機冷却海水ポンプ 代替原子炉補機冷却海水ストレーナ ホース 代替原子炉補機冷却系接続口 原子炉補機冷却系配管・弁 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード） ※1 残留熱除去系（サブプレッジョン・チェンバ・プール水冷モード） ※2 残留熱除去系（格納容器スプレッド冷却モード） ※2 海水貯留罐 スクリーン室 取水路 補機冷却用海水取水路 補機冷却用海水取水槽 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 移動式変圧器 燃料補給装置 ※3	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 自主対策設備																												

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																										
71	2.1.2.1	2.1-83	<p><u>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.6) (1/6)</u></p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要なとなる水の供給手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要なとなる水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器	重大事故等対処設備	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)			この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備			この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)			この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備	<p><u>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6) (1/5)</u></p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレィ・ヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>この表の原子炉格納容器内の熱源</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要なとなる水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレィ・ヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)			この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備			この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)			この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
			サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																											
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレィ・ヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
			サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)																																																											
		この表の原子炉格納容器内の熱源	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器	重大事故等対処設備																																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																					
72	2.1.2.1	2.1-84	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.6) (2/6)</p> <p>(炉心損傷前のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td rowspan="3">代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※2 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「MRC による PCV スプレィ」</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「PCV スプレィ」</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※3 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却</td> <td rowspan="3">代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却</td> <td rowspan="3">重大事故等対処設備</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」 多様なハザード対応手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※2 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「MRC による PCV スプレィ」	第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「PCV スプレィ」	ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※3 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」	原子炉格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	重大事故等対処設備	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」 多様なハザード対応手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1	防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1	防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1	<p>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.6) (2/5)</p> <p>(炉心損傷前のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td rowspan="3">代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※1 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 防火水槽 ※1 送水貯水池 ※1 ホース MRC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2	重大事故等対処設備	ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※1 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 防火水槽 ※1 送水貯水池 ※1 ホース MRC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																						
フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※2 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「MRC による PCV スプレィ」																																						
			第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「PCV スプレィ」																																						
			ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※3 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」																																						
原子炉格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	重大事故等対処設備	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 燃料補給設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による PCV スプレィ」 多様なハザード対応手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1																																						
			防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1																																						
			防火水槽 ※3、※4 送水貯水池 ※3、※4 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1																																						
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																						
フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却モードによる原子炉格納容器内の冷却	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2	重大事故等対処設備																																						
			ディーゼル駆動消防ポンプろ過水タンク ※1 消防水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																						
			可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 防火水槽 ※1 送水貯水池 ※1 ホース MRC 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッド 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替炉内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																						

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																												
73	2.1.2.1	2.1-85	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6)(3/6)</p> <p>(炉心損傷前のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">全交流動力電源 原子炉補機冷却系</td> <td rowspan="3">代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧</td> <td>サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「PCV 圧力制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (B) による PCV スプレイ」</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">全交流動力電源 原子炉補機冷却系</td> <td rowspan="3">代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「S/P 温度制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による S/P 除熱」 「RHR (B) による S/P 除熱」</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧	サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「PCV 圧力制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (B) による PCV スプレイ」	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備	サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「S/P 温度制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による S/P 除熱」 「RHR (B) による S/P 除熱」	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備	<p>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6)(3/5)</p> <p>(炉心損傷前のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サポート系故障時</td> <td rowspan="3">全交流動力電源</td> <td rowspan="3">本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">サポート系故障時</td> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2">本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧</td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準仕様)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	全交流動力電源	本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	サポート系故障時	全交流動力電源	本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																													
サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧	サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「PCV 圧力制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (B) による PCV スプレイ」																																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																													
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備																																													
サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による残留熱除去系(サブプレッション・チェンバ・フル水冷封モード)の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「S/P 温度制御」等 AM 設備別操作手順書 「RHR (A) による S/P 除熱」 「RHR (B) による S/P 除熱」																																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																													
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備																																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																													
サポート系故障時	全交流動力電源	本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレイヘッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																													
			サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																													
サポート系故障時	全交流動力電源	本設計基準仕様(1.6)(3/5)の復旧	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準仕様)																																													
			サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																				
74	2.1.2.1	2.1-86	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6) (4/6)</p> <p>(炉心損傷後のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フロントライン系系故障時</td> <td rowspan="2">残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td rowspan="2">代替格納容器スプレィ冷却系(常設)</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による PCV スプ レイ」</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策 自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる PCV スプレィ」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(常設)	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による PCV スプ レイ」	第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 自主対策設備			原子炉格納容器内の冷却	ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる PCV スプレィ」	<p>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6) (4/5)</p> <p>(炉心損傷後のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">フロントライン系系故障時</td> <td rowspan="4">残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td>代替格納容器スプレィ冷却系(常設)</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>可搬型代替淡水ポンプ(A-2線) 防火水槽 ※1 復水貯水池 ※1 クース MWC 設備口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ドライウェル冷却系設備 ドライウェル冷却系冷却器 原子炉補給冷却器 ※5 非常用取水設備 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	フロントライン系系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(常設)	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2	重大事故等対処設備	原子炉格納容器内の冷却	ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備		可搬型代替淡水ポンプ(A-2線) 防火水槽 ※1 復水貯水池 ※1 クース MWC 設備口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備		ドライウェル冷却系設備 ドライウェル冷却系冷却器 原子炉補給冷却器 ※5 非常用取水設備 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																					
フロントライン系系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(常設)	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 非常用交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「MWC による PCV スプ レイ」																																					
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 自主対策設備																																					
		原子炉格納容器内の冷却	ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「SPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる PCV スプレィ」																																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																					
フロントライン系系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(常設)	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※3 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2	重大事故等対処設備																																					
		原子炉格納容器内の冷却	ディーゼル駆動消防ポン プ過水タンク ※3 消防系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																					
			可搬型代替淡水ポンプ(A-2線) 防火水槽 ※1 復水貯水池 ※1 クース MWC 設備口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スプレィヘッダ 原子炉格納容器 非常用交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																					
			ドライウェル冷却系設備 ドライウェル冷却系冷却器 原子炉補給冷却器 ※5 非常用取水設備 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																			
75	2.1.2.1	2.1-87	<p>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6)(5/6)</p> <p>(炉心損傷後のフロントライン系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フロントライン系故障時</td> <td rowspan="3">残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)</td> <td rowspan="2">代替格納容器スプレィ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による PCV ス プレィ」</td> </tr> <tr> <td>非常用交流電源設備 ※2</td> <td>多様なヘザード対応手 順 「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※3, ※4 淡水貯水池 ※3, ※4 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対 処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉格納容器内の代替残熱</td> <td>ドライウエル冷却系送風機 ドライウエル冷却系冷却器 原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「DW クーラ代替残熱 (RCW-A 系)」 「DW クーラ代替残熱 (RCW-B 系)」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による PCV ス プレィ」	非常用交流電源設備 ※2	多様なヘザード対応手 順 「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1	防火水槽 ※3, ※4 淡水貯水池 ※3, ※4 第二代替交流電源設備 ※2	自主対 処設備			原子炉格納容器内の代替残熱	ドライウエル冷却系送風機 ドライウエル冷却系冷却器 原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「DW クーラ代替残熱 (RCW-A 系)」 「DW クーラ代替残熱 (RCW-B 系)」		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																				
フロントライン系故障時	残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)	代替格納容器スプレィ冷却系(可搬型)による原子炉格納容器内の冷却	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁 格納容器スプレィ・ヘッド 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデン ト」 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による PCV ス プレィ」																				
			非常用交流電源設備 ※2	多様なヘザード対応手 順 「消防車による送水 (格納容器スプレィ)」 ※1																				
		防火水槽 ※3, ※4 淡水貯水池 ※3, ※4 第二代替交流電源設備 ※2	自主対 処設備																					
		原子炉格納容器内の代替残熱	ドライウエル冷却系送風機 ドライウエル冷却系冷却器 原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「RPV 制御」「PCV 制 御」 AM 設備別操作手順書 「DW クーラ代替残熱 (RCW-A 系)」 「DW クーラ代替残熱 (RCW-B 系)」																				

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																												
76	2.1.2.1	2.1-88	<p><u>表 2.1.9 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6) (6/6)</u></p> <p>(炉心損傷後のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">サポート系故障時</td> <td rowspan="2">全交流動力電源 原子炉補機冷却系</td> <td rowspan="2">代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)</td> <td>サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 「設計基準拡張」</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP 削減」「PCV 削減」 AM 設備別操作手順書 「RSP(B)による PCV ス プレイ」</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP(A)による S/P 除 熱」 「RSP(B)による S/P 除 熱」</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)	サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 「設計基準拡張」	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP 削減」「PCV 削減」 AM 設備別操作手順書 「RSP(B)による PCV ス プレイ」	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)					第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備					サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP(A)による S/P 除 熱」 「RSP(B)による S/P 除 熱」				残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)					第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備		<p><u>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.6) (5/5)</u></p> <p>(炉心損傷後のサポート系故障時)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">サポート系故障時</td> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2">代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)</td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> <td>重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備</td> <td>重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	サポート系故障時	全交流動力電源	代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備	残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)				サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備				残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																													
サポート系故障時	全交流動力電源 原子炉補機冷却系	代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)	サブプレッション・チェンバ 格納容器スプレイ・ヘッド 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備 「設計基準拡張」	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP 削減」「PCV 削減」 AM 設備別操作手順書 「RSP(B)による PCV ス プレイ」																																																												
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)																																																													
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備																																																													
			サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※1 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「RSP(A)による S/P 除 熱」 「RSP(B)による S/P 除 熱」																																																												
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※1	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)																																																													
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策 設備																																																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																													
サポート系故障時	全交流動力電源	代替交流電源設備による炉内熱除去系 (炉心損傷後スプレッドモードの復旧)	サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備																																																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ・スプレッド 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)																																																													
			サブプレッション・チェンバ 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※3 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等 対処設備																																																													
			残留熱除去系ポンプ 残留熱除去系熱交換器 残留熱除去系配管・弁・ストレーナ 原子炉補機冷却系 ※3 非常用取水設備	重大事故等 対処設備 (設計基準拡張)																																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																					
77	2.1.2.1	2.1-90	<p><u>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.7) (1/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器の過圧保護防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>フィルタ装置 よう素フィルタ ラフチャーディスク ドレン移送ポンプ ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ボンプ 可搬型空素供給装置 スタラバ水 pH 制御設備 フィルタベント遮断壁 配管遮断 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 ホース・接続口 原子炉格納容器（真空破壊を含む） 常設交流代替電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6 淡水貯水池 ※5、※6 ホース・接続口 第二代替交流電源設備 ※3</td> <td>重大事故等対処設備 自主対策設備</td> <td>事故時運転操作手順書 （シビアアクシデント） 「PCV 制御」 「R/D 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (S/C)）」 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (D/W)）」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整（水張り）」 「フィルタベント水位調整（水抜き）」 「フィルタベント停止後の R/D バージ」 「フィルタ装置スタラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン R/D バージ」 「ドレンタンク水抜き」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	原子炉格納容器の過圧保護防止	-	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	フィルタ装置 よう素フィルタ ラフチャーディスク ドレン移送ポンプ ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ボンプ 可搬型空素供給装置 スタラバ水 pH 制御設備 フィルタベント遮断壁 配管遮断 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 ホース・接続口 原子炉格納容器（真空破壊を含む） 常設交流代替電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6 淡水貯水池 ※5、※6 ホース・接続口 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書 （シビアアクシデント） 「PCV 制御」 「R/D 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (S/C)）」 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (D/W)）」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整（水張り）」 「フィルタベント水位調整（水抜き）」 「フィルタベント停止後の R/D バージ」 「フィルタ装置スタラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン R/D バージ」 「ドレンタンク水抜き」	<p><u>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.7) (1/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器の過圧保護防止</td> <td>-</td> <td>格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水素濃度 フィルタ装置スタラバ水 pH ドレンポンプ設備 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 スタラバ水 pH 制御設備 ラフチャーディスク 可搬型空素供給装置 フィルタベント遮断壁 配管遮断 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C→D/W) 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6</td> <td>原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 重大事故等対処設備 自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	原子炉格納容器の過圧保護防止	-	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水素濃度 フィルタ装置スタラバ水 pH ドレンポンプ設備 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 スタラバ水 pH 制御設備 ラフチャーディスク 可搬型空素供給装置 フィルタベント遮断壁 配管遮断 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C→D/W) 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6	原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 重大事故等対処設備 自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																						
原子炉格納容器の過圧保護防止	-	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	フィルタ装置 よう素フィルタ ラフチャーディスク ドレン移送ポンプ ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ボンプ 可搬型空素供給装置 スタラバ水 pH 制御設備 フィルタベント遮断壁 配管遮断 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁 ホース・接続口 原子炉格納容器（真空破壊を含む） 常設交流代替電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6 淡水貯水池 ※5、※6 ホース・接続口 第二代替交流電源設備 ※3	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書 （シビアアクシデント） 「PCV 制御」 「R/D 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (S/C)）」 「炉心損傷後 PCV ベント（フィルタベント使用 (D/W)）」 多様なハザード対応手順 「フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り」 「フィルタベント水位調整（水張り）」 「フィルタベント水位調整（水抜き）」 「フィルタベント停止後の R/D バージ」 「フィルタ装置スタラバ水 pH 調整」 「ドレン移送ライン R/D バージ」 「ドレンタンク水抜き」																					
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																			
原子炉格納容器の過圧保護防止	-	格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水素濃度 フィルタ装置スタラバ水 pH ドレンポンプ設備 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 スタラバ水 pH 制御設備 ラフチャーディスク 可搬型空素供給装置 フィルタベント遮断壁 配管遮断 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C→D/W) 格納容器圧力逃がし装置配管・弁 不活性ガス系配管・弁 耐圧強化ベント系配管・弁 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 防大水槽 ※5、※6	原子炉格納容器の破損を防止する運転手順 重大事故等対処設備 自主対策設備																						

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																						
78	2.1.2.1	2.1-91	<p><u>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.7) (2/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器の過圧保護防止</td> <td rowspan="3">-</td> <td>現場操作</td> <td>遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ポンプ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」</td> </tr> <tr> <td>不活性ガス(窒素ガス)の供給</td> <td>可搬型窒素供給装置 ホース・接続口</td> <td>多様なヘザード対応手順 「フィルタベント停止後の N₂ 供給」</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器負圧の防止</td> <td>可搬型大容量窒素供給装置 ホース 可燃性ガス濃度制御系配管・弁</td> <td>多様なヘザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備による PCV 窒素供給」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	原子炉格納容器の過圧保護防止	-	現場操作	遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ポンプ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」	不活性ガス(窒素ガス)の供給	可搬型窒素供給装置 ホース・接続口	多様なヘザード対応手順 「フィルタベント停止後の N ₂ 供給」	原子炉格納容器負圧の防止	可搬型大容量窒素供給装置 ホース 可燃性ガス濃度制御系配管・弁	多様なヘザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備による PCV 窒素供給」	<p><u>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.7) (2/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器の過圧保護防止</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">現場操作</td> <td>フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水漏検出 フィルタ装置スクラバ水 pH ドレンポンプ装置 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 薬液タンク ラプチャーディスク 可搬型窒素供給装置 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C=0/W) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※5</td> <td>原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>代替格納容器圧力逃し装置 注水 代替格納容器圧力逃し装置配管・弁 排水本機 ⑤5、⑤6</td> <td>重大事故等対処設備 自主対応</td> </tr> <tr> <td>遠隔手動弁操作設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>全交流動力電源</td> <td>現場操作</td> <td>可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>不活性ガス(窒素ガス)の供給</td> <td>可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	原子炉格納容器の過圧保護防止	-	現場操作	フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水漏検出 フィルタ装置スクラバ水 pH ドレンポンプ装置 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 薬液タンク ラプチャーディスク 可搬型窒素供給装置 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C=0/W) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※5	原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	代替格納容器圧力逃し装置 注水 代替格納容器圧力逃し装置配管・弁 排水本機 ⑤5、⑤6	重大事故等対処設備 自主対応	遠隔手動弁操作設備	重大事故等対処設備	全交流動力電源	現場操作	可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口	重大事故等対処設備	-	不活性ガス(窒素ガス)の供給	可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																							
原子炉格納容器の過圧保護防止	-	現場操作	遠隔手動弁操作設備 遠隔空気駆動弁操作用ポンプ 遠隔空気駆動弁操作設備配管・弁	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (S/C))」 「炉心損傷後 PCV ベント (フィルタベント使用 (D/W))」																																							
		不活性ガス(窒素ガス)の供給	可搬型窒素供給装置 ホース・接続口	多様なヘザード対応手順 「フィルタベント停止後の N ₂ 供給」																																							
		原子炉格納容器負圧の防止	可搬型大容量窒素供給装置 ホース 可燃性ガス濃度制御系配管・弁	多様なヘザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備による PCV 窒素供給」																																							
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																							
原子炉格納容器の過圧保護防止	-	現場操作	フィルタ装置 よう素フィルタ フィルタ装置水位 フィルタ装置入口圧力 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置金属フィルタ差圧 フィルタ装置水漏検出 フィルタ装置スクラバ水 pH ドレンポンプ装置 ドレンタンク 遠隔手動弁操作設備 薬液タンク ラプチャーディスク 可搬型窒素供給装置 原子炉格納容器 真空破壊弁 (S/C=0/W) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※5	原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																																							
			代替格納容器圧力逃し装置 注水 代替格納容器圧力逃し装置配管・弁 排水本機 ⑤5、⑤6	重大事故等対処設備 自主対応																																							
			遠隔手動弁操作設備	重大事故等対処設備																																							
全交流動力電源	現場操作	可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口	重大事故等対処設備																																								
-	不活性ガス(窒素ガス)の供給	可搬式窒素供給装置 窒素生成装置接続口	重大事故等対処設備																																								

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																													
79	2.1.2.1	2.1-92	<p>表 2.1.10 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.7) (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器の過圧破壊防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">代替格納容器内の減圧及び発熱</td> <td>復水移送ポンプ 代替原子炉補機冷却系 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 サブプレッション・チェンバ 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器スプレイ・ヘッド ホース 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 燃料補給設備 ※3</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※5, ※6 淡水貯水池 ※6, ※6 第二代替交流電源設備 ※3</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>格納容器内 D/H 制御</td> <td>代替格納容器スプレイ冷却系 (常設) ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後格納容器薬品注入」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (積置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	原子炉格納容器の過圧破壊防止	-	代替格納容器内の減圧及び発熱	復水移送ポンプ 代替原子炉補機冷却系 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 サブプレッション・チェンバ 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器スプレイ・ヘッド ホース 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 燃料補給設備 ※3	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」	防火水槽 ※5, ※6 淡水貯水池 ※6, ※6 第二代替交流電源設備 ※3	自主対策設備			格納容器内 D/H 制御	代替格納容器スプレイ冷却系 (常設) ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後格納容器薬品注入」	<p>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.7) (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器の過圧破壊防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">代替格納容器内の減圧及び発熱</td> <td>復水移送ポンプ サブプレッション・チェンバ 代替格納冷却系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ・スプレイヘッド 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器下部注水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※2 高水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 ホース 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給設備 ※3 防火水槽 ※5, ※6</td> <td>重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」</td> </tr> <tr> <td>代替格納容器スプレイ冷却系 ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。 ※5: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※6: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (積置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	原子炉格納容器の過圧破壊防止	-	代替格納容器内の減圧及び発熱	復水移送ポンプ サブプレッション・チェンバ 代替格納冷却系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ・スプレイヘッド 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器下部注水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※2 高水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 ホース 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給設備 ※3 防火水槽 ※5, ※6	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」	代替格納容器スプレイ冷却系 ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																														
原子炉格納容器の過圧破壊防止	-	代替格納容器内の減圧及び発熱	復水移送ポンプ 代替原子炉補機冷却系 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 サブプレッション・チェンバ 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器スプレイ・ヘッド ホース 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 代替所内電気設備 ※3 燃料補給設備 ※3	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」																														
			防火水槽 ※5, ※6 淡水貯水池 ※6, ※6 第二代替交流電源設備 ※3	自主対策設備																														
		格納容器内 D/H 制御	代替格納容器スプレイ冷却系 (常設) ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「炉心損傷後格納容器薬品注入」																														
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																														
原子炉格納容器の過圧破壊防止	-	代替格納容器内の減圧及び発熱	復水移送ポンプ サブプレッション・チェンバ 代替格納冷却系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・ストレ ーナ・スプレイヘッド 高圧炉心注水系配管・弁 復水補給水系配管・弁 給水系配管・弁・スパージャ 格納容器下部注水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉格納容器 代替原子炉補機冷却系 ※2 高水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ※5 ホース 可搬型代替交流電源設備 ※3 燃料補給設備 ※3 防火水槽 ※5, ※6	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「代替格納冷却系による PCV 内の減圧及び発熱」																														
			代替格納容器スプレイ冷却系 ※1 格納容器下部注水系 (常設) ※4 格納容器 pH 制御設備	自主対策設備																														
80	2.1.2.1	2.1-93	<p>・炉心の著しい損傷が発生した場合において、溶融炉心の原子炉格納容器下部への落下を遅延させる又は防止するため、低圧代替注水系(常設)により原子炉圧力容器に注水する。</p>	(記載なし)	④(他のまとめ資料との整合)																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																											
81	2.1.2.1	2.1-94	<p>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.8) (1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却</td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWCによる下部 D/W注水」</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2">格納容器下部注水(可搬型)による 原子炉格納容器下部への注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による下部 D/W注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」</td> </tr> <tr> <td>防火水層 ※1, ※4 汲水貯水池 ※1, ※4 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉格納容器下部への注水</td> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる下部 D/W注水」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※4: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却		格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWCによる下部 D/W注水」	第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備			格納容器下部注水(可搬型)による 原子炉格納容器下部への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による下部 D/W注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」	防火水層 ※1, ※4 汲水貯水池 ※1, ※4 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備			原子炉格納容器下部への注水	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる下部 D/W注水」	<p>表 2.1.12 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.8) (1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水</td> <td>復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース MWC 接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>防火水層 ※1, ※3 汲水貯水池 ※1, ※3</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>原子炉格納容器下部への注水</td> <td>ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置) ※4: コリウムシールドは、運転員による操作不要の設備である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却		格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース MWC 接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備	防火水層 ※1, ※3 汲水貯水池 ※1, ※3	自主対策設備			原子炉格納容器下部への注水	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																									
原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却		格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWCによる下部 D/W注水」																																												
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																																												
		格納容器下部注水(可搬型)による 原子炉格納容器下部への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による下部 D/W注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」																																												
			防火水層 ※1, ※4 汲水貯水池 ※1, ※4 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																																												
		原子炉格納容器下部への注水	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる下部 D/W注水」																																												
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																												
原子炉格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却		格納容器下部注水系統(常設)による 原子炉格納容器下部への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等 対処設備																																												
			可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース MWC 接続口 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等 対処設備																																												
			防火水層 ※1, ※3 汲水貯水池 ※1, ※3	自主対策設備																																												
		原子炉格納容器下部への注水	ディーゼル駆動消防ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉格納容器 コリウムシールド ※4 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																												

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																						
82	2.1.2.1	2.1-95	<p>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.8) (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> 冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止 </td> <td rowspan="4">-</td> <td> 低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> 復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 </td> <td> 重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」 </td> </tr> <tr> <td> 低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 </td> <td> 重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」 </td> </tr> <tr> <td> 消火系による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデント」 「R/V 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」 </td> </tr> <tr> <td> 自主対策 </td> <td> 自主対策 </td> <td> 自主対策 </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンス高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※4: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替注水(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」	低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」	消火系による原子炉圧力容器への注水	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデント」 「R/V 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」	自主対策	自主対策	自主対策	<p>表 2.1.12 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.8) (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4"> 冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止 </td> <td rowspan="4">-</td> <td> 低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> 復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 </td> <td> 重大事故等対処設備 原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順 </td> </tr> <tr> <td> 低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 </td> <td> 重大事故等対処設備 自主対策 </td> </tr> <tr> <td> 消火系による原子炉圧力容器への注水 </td> <td> ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 </td> </tr> <tr> <td> 自主対策 </td> <td> 自主対策 </td> <td> 自主対策 </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替注水(措置) ※4: コリウムシールドは、運転員による操作不要の設備である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備 原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順	低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策	消火系による原子炉圧力容器への注水	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	自主対策	自主対策	自主対策	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																							
冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「MWC による原子炉注水」																																							
		低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(デブリ冷却)」																																							
		消火系による原子炉圧力容器への注水	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備 AM 設備別操作手順書 「シビアアクシデント」 「R/V 制御」 「R/B 制御」 AM 設備別操作手順書 「消火ポンプによる原子炉注水」																																							
		自主対策	自主対策	自主対策																																							
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																							
冷却炉心の原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	低圧代替注水(常設)による原子炉圧力容器への注水	復水移送ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 高圧炉心注水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備	重大事故等対処設備 原子炉格納容器の破壊を防止する運転手順																																							
		低圧代替注水(可搬型)による原子炉圧力容器への注水	可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース 接続口 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策																																							
		消火系による原子炉圧力容器への注水	ディーゼル駆動消火ポンプ ろ過水タンク ※1 消火系配管・弁 復水補給水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁・スパージヤ 給水系配管・弁・スパージヤ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 代替所内電気設備 燃料補給設備 ※2	自主対策設備																																							
		自主対策	自主対策	自主対策																																							

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																		
83	2.1.2.1	2.1-96	<p>表 2.1.11 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.8) (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止</td> <td rowspan="4">-</td> <td rowspan="4">-</td> <td> 高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 重大事故等対処設備 自主対策設備 </td> <td> 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 ※3 </td> </tr> <tr> <td> 原子炉圧力容器格納へのほうれん水注水 ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 重大事故等対処設備 自主対策設備 </td> <td> 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「SLC ポンプによるほうれん水注入」 </td> </tr> <tr> <td> 制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 </td> <td> 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「CRD による原子炉注水」 ※3 </td> </tr> <tr> <td> 高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 </td> <td> 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「R/PCF 緊急注水」 ※3 </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替注水(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	-	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 ※3	原子炉圧力容器格納へのほうれん水注水 ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「SLC ポンプによるほうれん水注入」	制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「CRD による原子炉注水」 ※3	高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「R/PCF 緊急注水」 ※3	<p>表 2.1.12 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.8) (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">-</td> <td> ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 重大事故等対処設備 </td> </tr> <tr> <td> 制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 </td> </tr> <tr> <td> 高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 </td> <td> 自主対策設備 </td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替注水(措置) ※4:コリウムシールドは、運転員による操作不要の設備である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	-	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																			
注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	-	高圧代替注水系ポンプ 復水貯蔵槽 高圧代替注水系(蒸気系)配管・弁 主蒸気系配管・弁 原子炉隔離時冷却系(蒸気系)配管・弁 高圧代替注水系(注水系)配管・弁 復水補給水系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁 残留熱除去系配管・弁(7号炉のみ) 給水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型交流電源設備 ※2 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 ※3																																		
			原子炉圧力容器格納へのほうれん水注水 ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「SLC ポンプによるほうれん水注入」																																		
			制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「CRD による原子炉注水」 ※3																																		
			高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備	事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/V 制御」、「R/B 制御」 AN 設備別操作手順書「R/PCF 緊急注水」 ※3																																		
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																			
注離炉心原子炉格納容器下部への落下防止・防止	-	-	ほうれん水注入系ポンプ ほうれん水注入系貯蔵タンク ほうれん水注入系配管・弁 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																			
			制御棒駆動系による注水 制御棒駆動ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 制御棒駆動系配管・弁 原子炉圧力容器 原子炉補機冷却系 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																																			
			高圧炉心注水系による注水 高圧炉心注水系ポンプ 復水貯蔵槽 ※1 高圧炉心注水系配管・弁・スパーージャ 復水補給水系配管・弁 原子炉圧力容器 常設代替交流電源設備 ※2	自主対策設備																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																				
84	2.1.2.1	2.1-98	<p>表 2.1.12 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.9) (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止</td> <td>不活性ガス系 ※1</td> <td>※6</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>可搬型格納容器窒素供給設備</td> <td>自主対策設備</td> <td>多様なハザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備によるPCV窒素供給」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">格納容器圧力過剰による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出</td> <td>格納容器圧力過剰装置 ※2, ※3 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置水素濃度</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>事故時運転操作手順書 「シビアアクシデント」 「PCV制御」 AM 設備別操作手順書 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（D/W）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（D/W）」</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・デュンプ 副圧強化ベント系（W/W） ※3 可搬型窒素供給装置 ホース・接続口 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>多様なハザード対応手順 「副圧強化ラインのN₂バージ」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:発電用原子炉運転中は原子炉格納容器内を不活性ガス系により常時不活性化している。 ※2:格納容器圧力過剰装置補機類の手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。 ※3:原子炉格納容器ベント弁駆動源確保（予備ポンプ）の手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※6:不活性ガス系は設計基準対象施設であり、重大事故等時に使用するものではないため、重大事故等対処設備とは位置付けない。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止	不活性ガス系 ※1	※6	※1	可搬型格納容器窒素供給設備	自主対策設備	多様なハザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備によるPCV窒素供給」	水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	格納容器圧力過剰による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出	格納容器圧力過剰装置 ※2, ※3 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	事故時運転操作手順書 「シビアアクシデント」 「PCV制御」 AM 設備別操作手順書 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（D/W）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（D/W）」	サブプレッション・デュンプ 副圧強化ベント系（W/W） ※3 可搬型窒素供給装置 ホース・接続口 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順 「副圧強化ラインのN ₂ バージ」	<p>表 2.1.13 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.9) (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止</td> <td rowspan="4">-</td> <td rowspan="4">原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止</td> <td>不活性ガス系 ※1</td> <td>※4</td> <td>原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転手順</td> </tr> <tr> <td>格納容器圧力過剰装置 ※2 副圧強化ベント系（W/W） 可搬型窒素供給装置 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>代替格納容器圧力過剰装置 ※2</td> <td>自主対策設備</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>可燃性ガス濃度制御系再結合器ブロー 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留酸素計</td> <td>自主対策設備</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">格納容器圧力過剰装置等による水素燃焼防止</td> <td>格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:原子炉運転中は原子炉格納容器内を不活性ガス系により常時不活性化されている。 ※2:手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4:不活性ガス系は設計基準対象施設であり、重大事故等が発生した際に使用するものではないため、重大事故等対処設備とは位置づけけない。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止	不活性ガス系 ※1	※4	原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転手順	格納容器圧力過剰装置 ※2 副圧強化ベント系（W/W） 可搬型窒素供給装置 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	代替格納容器圧力過剰装置 ※2	自主対策設備	自主対策設備	可燃性ガス濃度制御系再結合器ブロー 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留酸素計	自主対策設備	自主対策設備	水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	格納容器圧力過剰装置等による水素燃焼防止	格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																					
水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止	不活性ガス系 ※1	※6	※1																																																				
			可搬型格納容器窒素供給設備	自主対策設備	多様なハザード対応手順 「可搬型格納容器窒素供給設備によるPCV窒素供給」																																																				
水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	格納容器圧力過剰による原子炉格納容器内の水素ガス及び酸素ガスの排出	格納容器圧力過剰装置 ※2, ※3 フィルタ装置出口放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	事故時運転操作手順書 「シビアアクシデント」 「PCV制御」 AM 設備別操作手順書 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（フィルタベント使用（D/W）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（S/C）」 「PCV水素・酸素ガス放出（副圧強化ライン使用（D/W）」																																																				
			サブプレッション・デュンプ 副圧強化ベント系（W/W） ※3 可搬型窒素供給装置 ホース・接続口 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順 「副圧強化ラインのN ₂ バージ」																																																				
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																					
水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	原子炉格納容器内不活性化による水素燃焼防止	不活性ガス系 ※1	※4	原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転手順																																																				
			格納容器圧力過剰装置 ※2 副圧強化ベント系（W/W） 可搬型窒素供給装置 副圧強化ベント系放射線モニタ フィルタ装置水素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備																																																				
			代替格納容器圧力過剰装置 ※2	自主対策設備	自主対策設備																																																				
			可燃性ガス濃度制御系再結合器ブロー 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留酸素計	自主対策設備	自主対策設備																																																				
水素爆発による原子炉格納容器の破壊防止	-	格納容器圧力過剰装置等による水素燃焼防止	格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備																																																				
			格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備																																																				

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																												
85	2.1.2.1	2.1-99	<p><u>表 2.1.12 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.9) (2/2)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水素爆発による原子炉格納容器の破損防止</td> <td>-</td> <td>可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御</td> <td>可燃性ガス濃度制御系再結合器 プロロ 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留熱除去系</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「PCS(A)による格納容器水素制御」 「PCS(B)による格納容器水素制御」</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>水素濃度及び酸素濃度の監視</td> <td>格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>代替電源による必要な設備への給電</td> <td>常設代替交流電源設備 ※4 可搬型代替交流電源設備 ※4 常設代替直流電源設備 ※4 可搬型直流電源設備 ※4 代替所内電気設備 ※4 第二代替交流電源設備 ※4</td> <td>- ※4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 発電用原子炉運転中は原子炉格納容器内を不活性ガス系により常時不活性化している。 ※2: 格納容器圧力逃がし装置補機類の手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。 ※3: 原子炉格納容器ペント弁駆動源確保 (手働ポンペ) の手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※5: 不活性ガス系は設計基準対象施設であり、重大事故等時に使用するものではないため、重大事故等対処設備とは位置付けない。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	水素爆発による原子炉格納容器の破損防止	-	可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御	可燃性ガス濃度制御系再結合器 プロロ 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留熱除去系	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「PCS(A)による格納容器水素制御」 「PCS(B)による格納容器水素制御」	-	水素濃度及び酸素濃度の監視	格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」	-	代替電源による必要な設備への給電	常設代替交流電源設備 ※4 可搬型代替交流電源設備 ※4 常設代替直流電源設備 ※4 可搬型直流電源設備 ※4 代替所内電気設備 ※4 第二代替交流電源設備 ※4	- ※4	<p><u>表 2.1.13 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.9) (2/2)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器の過圧破損防止</td> <td>-</td> <td>代替電源による必要な設備への給電</td> <td>常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3</td> <td>原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転ガス手順 重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 原子炉運転中は原子炉格納容器内を不活性ガス系により常時不活性化されている。 ※2: 手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※4: 不活性ガス系は設計基準対象施設であり、重大事故等が発生した際に使用するものではないため、重大事故等対処設備とは位置づけけない。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	格納容器の過圧破損防止	-	代替電源による必要な設備への給電	常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3	原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転ガス手順 重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																													
水素爆発による原子炉格納容器の破損防止	-	可燃性ガス濃度制御系による原子炉格納容器内の水素濃度制御	可燃性ガス濃度制御系再結合器 プロロ 可燃性ガス濃度制御系再結合装置 可燃性ガス濃度制御系配管・弁 残留熱除去系	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「PCS(A)による格納容器水素制御」 「PCS(B)による格納容器水素制御」																													
	-	水素濃度及び酸素濃度の監視	格納容器内水素濃度 (SA) 格納容器内水素濃度 格納容器内酸素濃度	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「代替 Hx による補機冷却水 (A) 確保」 「代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保」																													
	-	代替電源による必要な設備への給電	常設代替交流電源設備 ※4 可搬型代替交流電源設備 ※4 常設代替直流電源設備 ※4 可搬型直流電源設備 ※4 代替所内電気設備 ※4 第二代替交流電源設備 ※4	- ※4																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																													
格納容器の過圧破損防止	-	代替電源による必要な設備への給電	常設代替交流電源設備 ※3 可搬型代替交流電源設備 ※3 常設代替直流電源設備 ※3 可搬型直流電源設備 ※3	原子炉格納容器内における水素ガスによる爆発を防止する運転ガス手順 重大事故等対処設備																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
86	2.1.2.1	2.1-101	<p>表 2.1.13 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順 (1.10) (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制</td> <td>静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置</td> <td>重大事故等対応設備 - ※1</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水素濃度</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」</td> </tr> <tr> <td>代替電源による必要な設備への給電</td> <td>重大事故等対応設備 - ※2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 ホース・接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉ウエル注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」</td> </tr> <tr> <td>サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「SPC」による原子炉ウエル注水</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 静的触媒式水素再結合器は、運転員による操作不要の原子炉建屋水素濃度抑制設備である。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制	-	静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制	静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置	重大事故等対応設備 - ※1	原子炉建屋水素濃度	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」	代替電源による必要な設備への給電	重大事故等対応設備 - ※2	原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制	-	格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水	可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 ホース・接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉ウエル注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」	サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「SPC」による原子炉ウエル注水	<p>表 2.1.14 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順 (1.10) (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制</td> <td>静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置</td> <td>重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋水素濃度</td> <td>重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制</td> </tr> <tr> <td>代替電源による必要な設備への給電</td> <td>重大事故等対応設備 - ※2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 淡水貯水池 ※3 ホース クエール接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備 自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 静的触媒式水素再結合器は、運転員による操作不要の原子炉建屋水素濃度抑制設備である。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制	-	静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制	静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置	重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制	原子炉建屋水素濃度	重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制	代替電源による必要な設備への給電	重大事故等対応設備 - ※2	原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制	-	格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水	可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 淡水貯水池 ※3 ホース クエール接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 自主対策設備	サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																																											
水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制	-	静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制	静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置	重大事故等対応設備 - ※1																																											
			原子炉建屋水素濃度	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」																																											
			代替電源による必要な設備への給電	重大事故等対応設備 - ※2																																											
原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制	-	格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水	可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 ホース・接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) AM 設備別操作手順書 「消防車による原子炉ウエル注水」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」																																											
			サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「PCV 制御」 AM 設備別操作手順書 「SPC」による原子炉ウエル注水																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																											
水素発生抑制による原子炉建屋内の水素濃度抑制	-	静的触媒式水素再結合器による水素濃度抑制	静的触媒式水素再結合器 ※1 静的触媒式水素再結合器動作監視装置	重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制																																											
			原子炉建屋水素濃度	重大事故等対応設備 原子炉建屋内の水素濃度抑制																																											
			代替電源による必要な設備への給電	重大事故等対応設備 - ※2																																											
原子炉格納容器外への水素ガス漏えい抑制	-	格納容器外部注水による原子炉格納容器への注水	可搬型代替注水ポンプ (A-2 機) ※3 防火水槽 ※3 淡水貯水池 ※3 ホース クエール接続口 格納容器外部注水配管・弁 燃料プールの冷却浄化系配管・弁 原子炉ウエル 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 自主対策設備																																											
			サブプレッションプール浄化系による原子炉ウエルへの注水	自主対策設備																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																				
87	2.1.2.1	2.1-102	<p><u>表 2.1.13 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.10) (2/2)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋等からの放射線防止</td> <td>-</td> <td>原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出</td> <td>原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2</td> <td>事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「R/B 制御」 多様なハザード対応手順 「水素対策 (原子炉建屋トップベント)」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 静的触媒式水素再結合器は、運転員による操作不要の原子炉建屋水素濃度制御設備である。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	原子炉建屋等からの放射線防止	-	原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出	原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「R/B 制御」 多様なハザード対応手順 「水素対策 (原子炉建屋トップベント)」	<p><u>表 2.1.14 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.10) (2/2)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋等からの放射線防止</td> <td>-</td> <td>原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出</td> <td>原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2</td> <td>原子炉建屋内に227の水素ガスによる爆発を防止する運転手順</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 静的触媒式水素再結合器は、運転員による操作不要の原子炉建屋水素濃度制御設備である。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※4: 手順は「1.12 工場等外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	原子炉建屋等からの放射線防止	-	原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出	原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2	原子炉建屋内に227の水素ガスによる爆発を防止する運転手順	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																					
原子炉建屋等からの放射線防止	-	原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出	原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2	事故時運転操作手順書 (シビアアクシデン ト) 「R/B 制御」 多様なハザード対応手順 「水素対策 (原子炉建屋トップベント)」																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																					
原子炉建屋等からの放射線防止	-	原子炉建屋トップベントによる水素ガスの排出	原子炉建屋トップベント 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ※4 ホース ※4 放水砲 ※4 燃料供給設備 ※2	原子炉建屋内に227の水素ガスによる爆発を防止する運転手順																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																		
88	2.1.2.1	2.1-104	<p>表 2.1.14 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順(1.11)(1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時</td> <td rowspan="3">燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系</td> <td rowspan="3">燃料プール代替注水システム(注水)の注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 常設スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 可搬型スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールの注水</td> <td rowspan="2">ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td rowspan="2">自主対策設備</td> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>漏えい抑制</td> <td>タイフオン防止機能 ※4</td> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。 ※4:重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(増置) ※6:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書	使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時	燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系	燃料プール代替注水システム(注水)の注水	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 常設スプレイ)」	防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5	自主対策設備	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 可搬型スプレイ)」	使用済燃料プールの注水	ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	-	-	漏えい抑制	タイフオン防止機能 ※4	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	<p>表 2.1.15 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順(1.11)(1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時</td> <td rowspan="4">燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系</td> <td rowspan="4">燃料プール代替注水システム(注水)の注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>使用済燃料プール内の燃料体及び使用済燃料を冷却する運転手順</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールの注水</td> <td rowspan="2">ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2</td> <td rowspan="2">自主対策設備</td> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>漏えい抑制</td> <td>タイフオン防止機能 ※3</td> <td>重大事故等対応設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替水源(増置) ※5:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時	燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系	燃料プール代替注水システム(注水)の注水	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	使用済燃料プール内の燃料体及び使用済燃料を冷却する運転手順	防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	自主対策設備	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備	防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	自主対策設備	使用済燃料プールの注水	ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	-	-	漏えい抑制	タイフオン防止機能 ※3	重大事故等対応設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書																																																			
使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時	燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系	燃料プール代替注水システム(注水)の注水	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 常設スプレイ)」																																																			
			防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5	自主対策設備																																																			
			可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース・接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なハザード対応手順 「消防車による送水(SFP 可搬型スプレイ)」																																																			
使用済燃料プールの注水	ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																																				
			「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																																				
-	-	漏えい抑制	タイフオン防止機能 ※4	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																																			
分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																			
使用済燃料プールの冷却機能又は注水機能の喪失時又は使用済燃料プールの小規模な漏えい発生時	燃料プール冷却浄化系 残留熱除去系	燃料プール代替注水システム(注水)の注水	可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	使用済燃料プール内の燃料体及び使用済燃料を冷却する運転手順																																																			
			防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	自主対策設備																																																			
			可搬型代替注水ポンプ(A-1線) 可搬型代替注水ポンプ(A-2線) ホース SFP 接続口 燃料プール代替注水配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備																																																			
			防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	自主対策設備																																																			
使用済燃料プールの注水	ディーゼル駆動消防ポンプろ過タンク ※1 消防水配管・弁 残留熱除去系配管・弁 燃料プール冷却浄化系配管・弁 使用済燃料プール 常設代替交流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 燃料補給設備 ※2	自主対策設備	「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「消防ポンプによる SFP 注水」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																																				
			「事故時運転操作手順書(徴収ベース)」「SFP水位・温度制御」 「原子炉監視制御」 「シビアアクシデント」 「R/B制御」 「事故時運転操作手順書(停止時徴収ベース)」「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																																				
-	-	漏えい抑制	タイフオン防止機能 ※3	重大事故等対応設備																																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																											
89	2.1.2.1	2.1-105	<p>表 2.1.14 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順 (1.11) (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時</td> <td rowspan="2">-</td> <td>燃料プール代注水による常設スプレイ</td> <td>可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料プール代注水系配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」</td> </tr> <tr> <td>燃料プールへのスプレイ</td> <td>防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5</td> <td>AM 設備別操作手順書 「洩防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td>漏えい確認</td> <td>シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ</td> <td>事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>漏えい確認</td> <td>新大気への拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 手順は「1.12 発電所内への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。 ※4: 重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※5: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (措置) ※6: 手順は「1.8 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書	使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時	-	燃料プール代注水による常設スプレイ	可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料プール代注水系配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」	燃料プールへのスプレイ	防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5	AM 設備別操作手順書 「洩防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」	-	-	漏えい確認	シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ	事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	漏えい確認	新大気への拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3	<p>表 2.1.15 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順 (1.11) (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">懐検時</td> <td>燃料プール代注水による常設スプレイ</td> <td>可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース SFP 接続口 燃料プール代注水系配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」</td> </tr> <tr> <td>燃料プールへのスプレイ</td> <td>防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4</td> <td>AM 設備別操作手順書 「洩防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">懐検時</td> <td>シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ</td> <td>重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>大気への拡散抑制</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2</td> <td>重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3: 重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※4: 「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (措置) ※5: 手順は「1.8 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時	-	懐検時	燃料プール代注水による常設スプレイ	可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース SFP 接続口 燃料プール代注水系配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」	燃料プールへのスプレイ	防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	AM 設備別操作手順書 「洩防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」	-	-	懐検時	シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」	大気への拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3	④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	手順書																																									
使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時	-	燃料プール代注水による常設スプレイ	可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料プール代注水系配管・弁 常設スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」																																												
		燃料プールへのスプレイ	防火水槽 ※1, ※5 淡水貯水池 ※1, ※5	AM 設備別操作手順書 「洩防車による SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」																																												
-	-	漏えい確認	シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ	事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																												
		漏えい確認	新大気への拡散抑制 大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3																																												
分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																												
使用済燃料プールからの大量の水の漏えい発生時	-	懐検時	燃料プール代注水による常設スプレイ	可搬型代注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代注水ポンプ (A-2 級) ホース SFP 接続口 燃料プール代注水系配管・弁 可搬型スプレイヘッド 使用済燃料プール 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」																																											
			燃料プールへのスプレイ	防火水槽 ※1, ※4 淡水貯水池 ※1, ※4	AM 設備別操作手順書 「洩防車による可搬型 SFP スプレイ」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」 多様なヘザード対応手順 「洩防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」																																											
-	-	懐検時	シール材 接着剤 ステンレス鋼板 吊り降ろしロープ	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (懐検ベース) 「SFP 水位・温度制御」 「原子炉温度制御」 事故時運転操作手順書 (シビアアクシデント) 「R/B 制御」 事故時運転操作手順書 (停止時懐検ベース) 「SFP 原子炉水位・温度制御」 AM 設備別操作手順書 「SFP 漏えい緩和」 「SFP 監視カメラ冷却装置起動」																																												
			大気への拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 燃料補給設備 ※2	重大事故等対応設備 多様なヘザード対応手順 「大容量送水車及び放水砲による大気への拡散抑制」 ※3																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
90	2.1.2.1	2.1-106	<p><u>表 2.1.14 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順(1.11)(3/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視</td> <td rowspan="2">-</td> <td>使用済燃料プールの監視</td> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)</td> <td>重大事故等対処設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> <tr> <td>代替電源による給電</td> <td>常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">重大事故等時における使用済燃料プールの除熱</td> <td rowspan="3">全交流動力電源</td> <td rowspan="3">代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱</td> <td>燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却系 ※6</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準記事)</td> </tr> <tr> <td>第二代替交流電源設備 ※2</td> <td>自主対策設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。 ※4:重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※5:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置) ※6:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対処設備	手順書	使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視	-	使用済燃料プールの監視	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)	重大事故等対処設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」	代替電源による給電	常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	重大事故等時における使用済燃料プールの除熱	全交流動力電源	代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」	原子炉補機冷却系 ※6	重大事故等対処設備 (設計基準記事)	第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」	<p><u>表 2.1.15 機能喪失を想定する設計基準対象施設と整備する手順(1.11)(3/3)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準対象施設</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視</td> <td rowspan="2">-</td> <td>使用済燃料プールの監視</td> <td>使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)</td> <td>重大事故等対処設備 使用済燃料プール内の燃料棒及び使用済燃料を冷却する運転手順</td> </tr> <tr> <td>代替電源による給電</td> <td>常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">重大事故等時における使用済燃料プールの除熱</td> <td rowspan="2">全交流動力電源</td> <td rowspan="2">燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却系 ※6 非常用取水設備</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準記事)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」にて整備する。 ※2:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※3:重大事故等時には現場手動弁による隔離操作を併せて実施する。 ※4:「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置) ※5:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視	-	使用済燃料プールの監視	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)	重大事故等対処設備 使用済燃料プール内の燃料棒及び使用済燃料を冷却する運転手順	代替電源による給電	常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2	重大事故等対処設備	重大事故等時における使用済燃料プールの除熱	全交流動力電源	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」	原子炉補機冷却系 ※6 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準記事)	④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対処設備	手順書																																								
使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視	-	使用済燃料プールの監視	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)	重大事故等対処設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」																																											
		代替電源による給電	常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2 第二代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備																																											
重大事故等時における使用済燃料プールの除熱	全交流動力電源	代替交流電源設備を使用した燃料プール冷却浄化系による使用済燃料プールの除熱	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」																																											
			原子炉補機冷却系 ※6	重大事故等対処設備 (設計基準記事)																																											
			第二代替交流電源設備 ※2	自主対策設備 AM設備別操作手順書「SFP監視カメラ冷却装置起動」																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準対象施設	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																											
使用済燃料プールの監視 重大事故等時における使用済燃料プールの監視	-	使用済燃料プールの監視	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA) 使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA広域) 使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ(高レンジ・低レンジ) 使用済燃料貯蔵プール監視カメラ(使用済燃料貯蔵プール監視カメラ用空冷装置を含む)	重大事故等対処設備 使用済燃料プール内の燃料棒及び使用済燃料を冷却する運転手順																																											
		代替電源による給電	常設代替交流電源設備 ※2 可搬型代替交流電源設備 ※2 所内蓄電式直流電源設備 ※2 可搬型直流電源設備 ※2	重大事故等対処設備																																											
重大事故等時における使用済燃料プールの除熱	全交流動力電源	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2	燃料プール冷却浄化系ポンプ 使用済燃料プール 燃料プール冷却浄化系熱交換器 燃料プール冷却浄化系配管・弁・スキマ サージタンク・ディフューザ 代替原子炉補機冷却系 ※6 常設代替交流電源設備 ※2	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書(シビアアクシデント)「R/B制御」																																											
			原子炉補機冷却系 ※6 非常用取水設備	重大事故等対処設備 (設計基準記事)																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																	
91	2.1.2.1	2.1-107	<p>表 2.1.15 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1</td> <td rowspan="2">多様なハザード対応手順 「大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td>ガンマカメラ サーモカメラ</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉建屋周辺における航空機燃料火災</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">海洋への放射性物質の拡散抑制</td> <td>放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）</td> <td rowspan="2">多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">航空機燃料火災への泡消火</td> <td>大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1</td> <td rowspan="2">多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への泡消火」</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">初期対応における延焼防止処置</td> <td>化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高所放水車</td> <td rowspan="2">自主対策</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷	-	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」	ガンマカメラ サーモカメラ	自主対策	原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	-	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」	自主対策	-	-	航空機燃料火災への泡消火	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への泡消火」	自主対策	-	-	初期対応における延焼防止処置	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高所放水車	自主対策	自主対策	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順(1.12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1</td> <td rowspan="2">格納容器へ放射性物質の拡散を抑制する手順 重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉建屋周辺における航空機燃料火災</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">航空機燃料火災への対応</td> <td>大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1</td> <td rowspan="2">重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高所放水車 泡原液搬送車</td> <td>自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷	-	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1	格納容器へ放射性物質の拡散を抑制する手順 重大事故等対処設備	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）	重大事故等対処設備	原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	-	航空機燃料火災への対応	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1	重大事故等対処設備	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高所放水車 泡原液搬送車	自主対策	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																																		
炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷	-	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1	多様なハザード対応手順 「大容量送水車（原子炉建屋放水設備用）及び放水砲による大気への放射性物質の拡散抑制」																																																		
			ガンマカメラ サーモカメラ		自主対策																																																	
原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	-	海洋への放射性物質の拡散抑制	放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）	多様なハザード対応手順 「放射性物質吸着材による海洋への放射性物質の拡散抑制」 「汚濁防止膜による海洋への放射性物質の拡散抑制」																																																		
			自主対策																																																			
-	-	航空機燃料火災への泡消火	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1	多様なハザード対応手順 「初期対応における延焼防止処置」 「航空機燃料火災への泡消火」																																																		
			自主対策																																																			
-	-	初期対応における延焼防止処置	化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 泡消火薬剤搬送車 大型化学高所放水車	自主対策																																																		
			自主対策																																																			
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																		
炉心の著しい損傷及び原子炉格納容器の破損 使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷	-	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 燃料取扱設備 ※1	格納容器へ放射性物質の拡散を抑制する手順 重大事故等対処設備																																																		
			放射性物質吸着材 汚濁防止膜 小型船舶（汚濁防止膜設置用）		重大事故等対処設備																																																	
原子炉建屋周辺における航空機燃料火災	-	航空機燃料火災への対応	大容量送水車（原子炉建屋放水設備用） ホース 放水砲 泡原液搬送車 泡原液混合装置 燃料取扱設備 ※1	重大事故等対処設備																																																		
			化学消防自動車 水槽付消防ポンプ自動車 高所放水車 泡原液搬送車		自主対策																																																	
92	2.1.2.1	2.1-119	<p>・復水貯蔵槽を水源とした発電用原子炉への注水等の対応を実施している場合、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)により防火水槽を水源とした復水貯蔵槽への補給を実施する。</p>	<p>・復水貯蔵槽を水源とした原子炉への注水等の対応を実施している場合、可搬型代替注水ポンプ(A-2級)による復水貯蔵槽への補給を実施する。</p>	④(他のまとめ資料との整合)																																																	

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																	
93	2.1.2.1	2.1-110	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (1/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="3">サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="3">(原子炉冷却材圧力管理への注水)</td> <td>復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)</td> <td>手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)</td> <td>手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)</td> <td>手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)</td> <td rowspan="2">復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)</td> <td rowspan="2">重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器内の冷却</td> <td rowspan="2">原子炉格納容器内の冷却</td> <td rowspan="2">重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">下部への注水</td> <td rowspan="2">原子炉格納容器下部注水系 (常設) (復水移送ポンプ)</td> <td rowspan="2">重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉冷却材圧力管理への注水</td> <td rowspan="2">サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">自主対策</td> <td>自主対策</td> <td>手順は「1.10 水素発生による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>自主対策</td> <td>自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の喪失に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替注水系 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サブプレッション・チェンバ	サブプレッション・チェンバ	(原子炉冷却材圧力管理への注水)	復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)	復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	自主対策	自主対策	原子炉格納容器内の冷却	原子炉格納容器内の冷却	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。	自主対策	自主対策	下部への注水	原子炉格納容器下部注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	自主対策	自主対策	原子炉冷却材圧力管理への注水	サブプレッション・チェンバ	自主対策	自主対策	手順は「1.10 水素発生による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。	自主対策	自主対策	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (1/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">復水貯蔵槽を水素とした対応手段</td> <td rowspan="6">サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="6">原子炉冷却材圧力管理への注水 (原子炉冷却材圧力管理への注水)</td> <td>復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽 代替格納容器スプレイ冷却系 (復水移送ポンプ)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>下部への注水</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉冷却材圧力管理への注水</td> <td>復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ</td> <td>自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の喪失に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替注水系 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	復水貯蔵槽を水素とした対応手段	サブプレッション・チェンバ	原子炉冷却材圧力管理への注水 (原子炉冷却材圧力管理への注水)	復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)	重大事故等 対処設備	原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)	重大事故等 対処設備	制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)	自主対策	復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備	復水貯蔵槽 代替格納容器スプレイ冷却系 (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備	下部への注水	重大事故等 対処設備	原子炉冷却材圧力管理への注水	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ	自主対策	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																																		
サブプレッション・チェンバ	サブプレッション・チェンバ	(原子炉冷却材圧力管理への注水)	復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																																		
			原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																																		
			制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																																		
(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)	復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																																		
			自主対策	自主対策																																																																		
原子炉格納容器内の冷却	原子炉格納容器内の冷却	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。																																																																		
			自主対策	自主対策																																																																		
下部への注水	原子炉格納容器下部注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																																		
			自主対策	自主対策																																																																		
原子炉冷却材圧力管理への注水	サブプレッション・チェンバ	自主対策	自主対策	手順は「1.10 水素発生による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。																																																																		
			自主対策	自主対策																																																																		
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																																		
復水貯蔵槽を水素とした対応手段	サブプレッション・チェンバ	原子炉冷却材圧力管理への注水 (原子炉冷却材圧力管理への注水)	復水貯蔵槽 高圧代替注水系 (高圧代替注水ポンプ)	重大事故等 対処設備																																																																		
			原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水ポンプ)	重大事故等 対処設備																																																																		
			制振棒駆動系 (制振棒駆動水ポンプ)	自主対策																																																																		
			復水貯蔵槽 低圧代替注水系 (常設) (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備																																																																		
			復水貯蔵槽 代替格納容器スプレイ冷却系 (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備																																																																		
			下部への注水	重大事故等 対処設備																																																																		
原子炉冷却材圧力管理への注水	復水貯蔵槽 サブプレッション・チェンバ	自主対策																																																																				

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																	
94	2.1.2.1	2.1-111	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (2/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サブプレッション・チェンバを本機とした対応</td> <td rowspan="3">復水貯蔵槽</td> <td rowspan="3">(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉格納容器内の除熱</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">原子炉格納容器内の除熱</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本文中【解釈】1.b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	サブプレッション・チェンバを本機とした対応	復水貯蔵槽	(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。	残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)	原子炉格納容器内の除熱	-	原子炉格納容器内の除熱	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。	残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。	代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (2/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">サブプレッション・チェンバを本機とした対応</td> <td rowspan="4">復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器内の除熱</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">原子炉格納容器内の除熱</td> <td>サブプレッション・チェンバ</td> <td rowspan="2">重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等</td> </tr> <tr> <td>残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)</td> <td>重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本文中【解釈】1.b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	サブプレッション・チェンバを本機とした対応	復水貯蔵槽	(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等	原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)	(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等	残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)	原子炉格納容器内の除熱	-	原子炉格納容器内の除熱	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等	残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)	-	-	-	代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																		
サブプレッション・チェンバを本機とした対応	復水貯蔵槽	(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。																																																		
			原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)																																																			
			サブプレッション・チェンバ	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。																																																		
残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)																																																						
原子炉格納容器内の除熱	-	原子炉格納容器内の除熱	サブプレッション・チェンバ	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。																																																		
			残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)																																																			
			サブプレッション・チェンバ	手順は「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。																																																		
代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)																																																						
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																		
サブプレッション・チェンバを本機とした対応	復水貯蔵槽	(原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時)	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等																																																		
			原子炉隔離時冷却系 (原子炉隔離時冷却系ポンプ) 高圧炉心注水系 (高圧炉心注水系ポンプ)																																																			
		(原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時)	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等																																																		
			残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)																																																			
原子炉格納容器内の除熱	-	原子炉格納容器内の除熱	サブプレッション・チェンバ	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等																																																		
			残留熱除去系 (残留熱除去系ポンプ)																																																			
-	-	-	代替循環冷却系 (復水移送ポンプ)	重大事故等 対処設備 (設計基準事故) 重大事故等																																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																												
95	2.1.2.1	2.1-112	<p><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (3/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ろ過水タンクを水源とした対応</td> <td>サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽</td> <td>原子炉圧力容器（パウングリ）に注水（原子炉冷却材圧力方）</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却材圧力パウングリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>下部への注水</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>ブールへの注水</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	ろ過水タンクを水源とした対応	サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽	原子炉圧力容器（パウングリ）に注水（原子炉冷却材圧力方）	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力パウングリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	復水貯蔵槽	原子炉格納容器内の冷却	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。	復水貯蔵槽	下部への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	-	ブールへの注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。	<p><u>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (3/12)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">復水貯蔵槽を水源とした対応</td> <td>サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽</td> <td>可搬型代替注水ポンプによる注水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-1級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1 防火水槽 ※2</td> <td>重大事故等の取戻に必要となる水源を確保する手順 重大事故対応 自主対策</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>原子炉圧力容器への注水（原子炉冷却材圧力方）</td> <td>低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2級）及びホース・接続口） 防火水槽 ※2</td> <td>重大事故対応 自主対策</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>原子炉格納容器への注水（原子炉冷却材圧力方）</td> <td>防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故対応 自主対策</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>格納容器内の冷却</td> <td>防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故対応 自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	復水貯蔵槽を水源とした対応	サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽	可搬型代替注水ポンプによる注水	可搬型代替注水ポンプ (A-1級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1 防火水槽 ※2	重大事故等の取戻に必要となる水源を確保する手順 重大事故対応 自主対策	復水貯蔵槽	原子炉圧力容器への注水（原子炉冷却材圧力方）	低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2級）及びホース・接続口） 防火水槽 ※2	重大事故対応 自主対策	復水貯蔵槽	原子炉格納容器への注水（原子炉冷却材圧力方）	防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1	重大事故対応 自主対策	復水貯蔵槽	格納容器内の冷却	防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1	重大事故対応 自主対策	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																													
ろ過水タンクを水源とした対応	サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽	原子炉圧力容器（パウングリ）に注水（原子炉冷却材圧力方）	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力パウングリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																													
	復水貯蔵槽	原子炉格納容器内の冷却	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。																																													
	復水貯蔵槽	下部への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																													
	-	ブールへの注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。																																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																													
復水貯蔵槽を水源とした対応	サブプレッション・デレンバ 復水貯蔵槽	可搬型代替注水ポンプによる注水	可搬型代替注水ポンプ (A-1級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1 防火水槽 ※2	重大事故等の取戻に必要となる水源を確保する手順 重大事故対応 自主対策																																													
	復水貯蔵槽	原子炉圧力容器への注水（原子炉冷却材圧力方）	低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2級）及びホース・接続口） 防火水槽 ※2	重大事故対応 自主対策																																													
	復水貯蔵槽	原子炉格納容器への注水（原子炉冷却材圧力方）	防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1	重大事故対応 自主対策																																													
	復水貯蔵槽	格納容器内の冷却	防火水槽 可搬型代替注水ポンプ (A-2級) ホース・接続設備 燃料補給設備 ※1	重大事故対応 自主対策																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																	
96	2.1.2.1	2.1-113	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (4/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防火水櫃を水源とした対応</td> <td rowspan="4">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">(A-1 級又は A-2 級) による送水</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウェル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">注水 (原子炉圧力容器への)</td> <td>低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">冷却</td> <td>代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本条文【解釈】1 b) 項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	防火水櫃を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	(A-1 級又は A-2 級) による送水	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウェル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」	防火水櫃 ※2		注水 (原子炉圧力容器への)	低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	防火水櫃 ※2		冷却	代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」にて整備する。	防火水櫃 ※2		<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (4/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防火水櫃を水源とした対応</td> <td rowspan="4">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">燃料補給設備 (燃料)</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">下部の注水設備</td> <td>格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">燃料補給設備 (燃料)</td> <td>防火水櫃 格納容器下部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>重大事故等 対処設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>防火水櫃 ※2</td> <td></td> <td>自主対策 設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本条文【解釈】1 b) 項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	防火水櫃を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	燃料補給設備 (燃料)	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等 対処設備	防火水櫃 ※2	自主対策 設備	下部の注水設備	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等 対処設備	防火水櫃 ※2	自主対策 設備	復水貯蔵槽	燃料補給設備 (燃料)	防火水櫃 格納容器下部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	自主対策 設備	燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等 対処設備		防火水櫃 ※2		自主対策 設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																																		
防火水櫃を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	(A-1 級又は A-2 級) による送水	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウェル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」																																																		
			防火水櫃 ※2																																																			
		注水 (原子炉圧力容器への)	低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																																		
			防火水櫃 ※2																																																			
冷却	代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」にて整備する。																																																				
	防火水櫃 ※2																																																					
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																																		
防火水櫃を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	燃料補給設備 (燃料)	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等 対処設備																																																		
			防火水櫃 ※2	自主対策 設備																																																		
		下部の注水設備	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等 対処設備																																																		
			防火水櫃 ※2	自主対策 設備																																																		
復水貯蔵槽	燃料補給設備 (燃料)	防火水櫃 格納容器下部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	自主対策 設備																																																			
		燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等 対処設備																																																			
	防火水櫃 ※2		自主対策 設備																																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																								
97	2.1.2.1	2.1-114	<p><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (5/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">防火水槽を水源とした対応</td> <td rowspan="2">-</td> <td>フィルタ設置 への補給</td> <td>防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器 下部への注水</td> <td>格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉ウエル への注水</td> <td>防火水槽 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td>使用済燃料プール 注水/スプレイ</td> <td>燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	防火水槽を水源とした対応	-	フィルタ設置 への補給	防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策 設備	原子炉格納容器 下部への注水	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備 設備	原子炉ウエル への注水	防火水槽 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策 設備	-	使用済燃料プール 注水/スプレイ	燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備 設備	<p><u>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (5/12)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">防火水槽を水源とした対応</td> <td rowspan="2">サブレーション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td rowspan="2">重大事故等の収束に必要な なる手順を確保する手順</td> </tr> <tr> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉格納容器 下部への注水 (原子炉ウエル注水)</td> <td rowspan="2">低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口) 防火水槽 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備</td> <td rowspan="2">自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>自主対策 設備</td> </tr> <tr> <td>燃料貯蔵槽 注水</td> <td>防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策 設備</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	防火水槽を水源とした対応	サブレーション・チェンバ 復水貯蔵槽	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等 対処設備	重大事故等の収束に必要な なる手順を確保する手順	自主対策 設備	原子炉格納容器 下部への注水 (原子炉ウエル注水)	低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備	自主対策 設備	自主対策 設備	燃料貯蔵槽 注水	防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	自主対策 設備		④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																						
防火水槽を水源とした対応	-	フィルタ設置 への補給	防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策 設備																																									
		原子炉格納容器 下部への注水	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備 設備																																									
	原子炉ウエル への注水	防火水槽 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策 設備																																										
-	使用済燃料プール 注水/スプレイ	燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備 設備																																										
	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																								
防火水槽を水源とした対応	サブレーション・チェンバ 復水貯蔵槽	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等 対処設備	重大事故等の収束に必要な なる手順を確保する手順																																									
			自主対策 設備																																										
	原子炉格納容器 下部への注水 (原子炉ウエル注水)	低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口) 防火水槽 ※2	重大事故等 対処設備	自主対策 設備																																									
			自主対策 設備																																										
燃料貯蔵槽 注水	防火水槽 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	自主対策 設備																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																									
98	2.1.2.1	2.1-115	<p style="text-align: center;"><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (6/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">淡水貯水池を水源とした対応(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)</td> <td rowspan="3">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="3">(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 淡水貯水池を水源とした送水</td> <td>淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>多様なヘザード対応手順 「貯水池から消防車への送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器への注水 (低圧時)</td> <td>淡水貯水池 ※2 低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>淡水貯水池 ※2 代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>自主対策設備</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	淡水貯水池を水源とした対応(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 淡水貯水池を水源とした送水	淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なヘザード対応手順 「貯水池から消防車への送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」	自主対策設備		原子炉圧力容器への注水 (低圧時)	淡水貯水池 ※2 低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉格納容器内の冷却	淡水貯水池 ※2 代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」のための手順等」にて整備する。	<p style="text-align: center;"><u>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (6/12)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">淡水貯水池を水源とした対応本条</td> <td rowspan="6">-</td> <td rowspan="6">-</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等の収束に必要な淡水源を確保する手順</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>重大事故等の対処設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)</td> <td>重大事故等の対処設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	淡水貯水池を水源とした対応本条	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等の収束に必要な淡水源を確保する手順	淡水貯水池 ※2	自主対策設備	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等の対処設備	淡水貯水池 ※2	自主対策設備	防火水櫃 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	自主対策設備	燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等の対処設備	淡水貯水池 ※2	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																										
淡水貯水池を水源とした対応(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合)	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	(あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合) 淡水貯水池を水源とした送水	淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なヘザード対応手順 「貯水池から消防車への送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SFP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SFP 可搬型スプレイ)」																																										
			自主対策設備																																											
			原子炉圧力容器への注水 (低圧時)	淡水貯水池 ※2 低圧代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却時圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																									
原子炉格納容器内の冷却	淡水貯水池 ※2 代替格納容器スプレイ冷却系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等」のための手順等」にて整備する。																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																										
淡水貯水池を水源とした対応本条	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等の収束に必要な淡水源を確保する手順																																										
			淡水貯水池 ※2	自主対策設備																																										
			格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等の対処設備																																										
			淡水貯水池 ※2	自主対策設備																																										
			防火水櫃 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	自主対策設備																																										
			燃料プール代替注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) 及びホース・接続口)	重大事故等の対処設備																																										
淡水貯水池 ※2	自主対策設備																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																								
99	2.1.2.1	2.1-116	<p><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (7/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">（あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合）</td> <td rowspan="2">-</td> <td>フィルタ設置</td> <td>淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口</td> <td>自主対策設備 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>下部への注水</td> <td>淡水貯水池 ※2 格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）</td> <td>自主対策設備 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉ウエル</td> <td>淡水貯水池 ※2 格納容器頂部注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）</td> <td>自主対策設備 手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>（の注水/スプレー）</td> <td>淡水貯水池 ※2 燃料プール代替注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）</td> <td>自主対策設備 手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	（あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合）	-	フィルタ設置	淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策設備 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。	下部への注水	淡水貯水池 ※2 格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉ウエル	淡水貯水池 ※2 格納容器頂部注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。	（の注水/スプレー）	淡水貯水池 ※2 燃料プール代替注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。	<p><u>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (7/12)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">ろ過水タンクを本拠とした対応手段</td> <td rowspan="2">サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽</td> <td>原子炉圧力容器への注水（原子炉圧力容器への注水）</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>自主対策設備 重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯蔵槽</td> <td>下部への注水</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽</td> <td>燃料プールへの注水</td> <td>ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	ろ過水タンクを本拠とした対応手段	サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽	原子炉圧力容器への注水（原子炉圧力容器への注水）	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備 重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順	原子炉格納容器への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備	淡水貯蔵槽	下部への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備	サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽	燃料プールへの注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																									
（あらかじめ敷設してあるホースが使用できる場合）	-	フィルタ設置	淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策設備 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等」にて整備する。																																									
		下部への注水	淡水貯水池 ※2 格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																									
	原子炉ウエル	淡水貯水池 ※2 格納容器頂部注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。																																										
	（の注水/スプレー）	淡水貯水池 ※2 燃料プール代替注水系（可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等）	自主対策設備 手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。																																										
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																									
ろ過水タンクを本拠とした対応手段	サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽	原子炉圧力容器への注水（原子炉圧力容器への注水）	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備 重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順																																									
		原子炉格納容器への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備																																									
	淡水貯蔵槽	下部への注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備																																									
	サブプレッション・ヴェンバ 淡水貯蔵槽	燃料プールへの注水	ろ過水タンク 消火系（ディーゼル駆動消火ポンプ）	自主対策設備																																									

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																											
100	2.1.2.1	2.1-117	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (8/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">淡水貯水池を水源とした対応手段（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）</td> <td rowspan="4">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="4">淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td rowspan="2">多様なハザード対応手順 「消防車による送水（原子炉注水）」 「消防車による送水（格納容器スプレー）」 「消防車による送水（デブリ冷却）」 「消防車による送水（原子炉ウエル注水）」 「消防車による送水（SFP 常設スプレー）」 「消防車による送水（SFP 可搬型スプレー）」</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）</td> <td>低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 自主対策設備</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2</td> <td>重大事故等対処設備 自主対策設備</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	淡水貯水池を水源とした対応手段（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「消防車による送水（原子炉注水）」 「消防車による送水（格納容器スプレー）」 「消防車による送水（デブリ冷却）」 「消防車による送水（原子炉ウエル注水）」 「消防車による送水（SFP 常設スプレー）」 「消防車による送水（SFP 可搬型スプレー）」	淡水貯水池 ※2	自主対策設備	原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）	低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (8/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">淡水貯水池を水源とした対応手段</td> <td rowspan="4">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="4">淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）</td> <td>可搬型代替注水ポンプ（A-1級） 可搬型代替注水ポンプ（A-2級） 大容量送水車（海水取水用） 淡水貯蔵槽 スクリーン濾 取水箱[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型代替注水ポンプ（A-2級） ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）</td> <td>代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）</td> <td>自主対策設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>燃料プール代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-1級）、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	淡水貯水池を水源とした対応手段	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	可搬型代替注水ポンプ（A-1級） 可搬型代替注水ポンプ（A-2級） 大容量送水車（海水取水用） 淡水貯蔵槽 スクリーン濾 取水箱[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対処設備	低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備	可搬型代替注水ポンプ（A-2級） ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等対処設備	格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備	原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）	代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	自主対策設備	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備	燃料プール代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-1級）、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																												
淡水貯水池を水源とした対応手段（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多様なハザード対応手順 「消防車による送水（原子炉注水）」 「消防車による送水（格納容器スプレー）」 「消防車による送水（デブリ冷却）」 「消防車による送水（原子炉ウエル注水）」 「消防車による送水（SFP 常設スプレー）」 「消防車による送水（SFP 可搬型スプレー）」																																												
			淡水貯水池 ※2		自主対策設備																																											
			原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）	低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンダリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																										
			原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）、ホース・接続口等） 淡水貯水池 ※2	重大事故等対処設備 自主対策設備	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。																																										
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																												
淡水貯水池を水源とした対応手段	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	淡水貯水池を水源とした送水（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	可搬型代替注水ポンプ（A-1級） 可搬型代替注水ポンプ（A-2級） 大容量送水車（海水取水用） 淡水貯蔵槽 スクリーン濾 取水箱[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対処設備																																												
			低圧代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備																																												
			可搬型代替注水ポンプ（A-2級） ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	重大事故等対処設備																																												
			格納容器下部注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備																																												
原子炉圧力容器（原子炉冷却材圧力）	代替格納容器スプレー冷却系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	自主対策設備	重大事故等対処設備	重大事故等対処設備																																												
燃料プール代替注水系（可搬型）（可搬型代替注水ポンプ（A-1級）、可搬型代替注水ポンプ（A-2級）及びホース・接続口）	重大事故等対処設備																																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																									
101	2.1.2.1	2.1-118	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (9/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2"></td> <td>フィルタ設置 (への補給)</td> <td>淡水貯水熱 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口</td> <td>自主対策設備 対処設備</td> <td>手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器下部 (への注水)</td> <td>格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 自主対策 設備</td> <td>手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2"></td> <td>原子炉ウエル (への注水)</td> <td>淡水貯水熱 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>自主対策設備</td> <td>手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>使用済燃料プール (への注水/スプレイ)</td> <td>燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2</td> <td>重大事故等 対処設備 設備 自主対策</td> <td>手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	-		フィルタ設置 (への補給)	淡水貯水熱 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策設備 対処設備	手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。	原子炉格納容器下部 (への注水)	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2	重大事故等 対処設備 自主対策 設備	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	-		原子炉ウエル (への注水)	淡水貯水熱 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策設備	手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。	使用済燃料プール (への注水/スプレイ)	燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2	重大事故等 対処設備 設備 自主対策	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。	(記載なし)	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																										
-		フィルタ設置 (への補給)	淡水貯水熱 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口	自主対策設備 対処設備	手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」及び「1.7 原子炉格納容器の過圧破壊を防止するための手順等」にて整備する。																									
		原子炉格納容器下部 (への注水)	格納容器下部注水系 (可搬型) (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2	重大事故等 対処設備 自主対策 設備	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																									
-		原子炉ウエル (への注水)	淡水貯水熱 ※2 格納容器頂部注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	自主対策設備	手順は「1.10 水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。																									
		使用済燃料プール (への注水/スプレイ)	燃料プール代替注水系 (可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等) 淡水貯水熱 ※2	重大事故等 対処設備 設備 自主対策	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。																									

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																													
102	2.1.2.1	2.1-119	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (10/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">海を水源とした対応</td> <td rowspan="2">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">海を水源とした送水</td> <td>大容量送水車 (海水取水用) 海水貯留槽 スクリーン室 取水路 [海水取水箇所] 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1</td> <td>多線なヘザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SPP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SPP 可搬型スプレイ)」</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力バウンスリ低圧時の注水 (原子炉内の冷却)</td> <td>低圧代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンスリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の冷却</td> <td>代替格納容器スプレイ系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵槽</td> <td>原子炉格納容器下部注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">注水</td> <td rowspan="2">サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽</td> <td rowspan="2">注水</td> <td>格納容器頂部注水系 (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.10 水素燃焼による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>燃料プール代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)</td> <td>手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本文【解釈】1 b) 項を満足するための代替送水車 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	海を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	海を水源とした送水	大容量送水車 (海水取水用) 海水貯留槽 スクリーン室 取水路 [海水取水箇所] 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多線なヘザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SPP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SPP 可搬型スプレイ)」	原子炉圧力バウンスリ低圧時の注水 (原子炉内の冷却)	低圧代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンスリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレイ系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。	復水貯蔵槽	原子炉格納容器下部注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。	注水	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	注水	格納容器頂部注水系 (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.10 水素燃焼による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。	燃料プール代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (9/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">海を水源とした対応</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">-</td> <td>代替原子炉格納容器系 (大容量送水車)</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) 放水路 ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>対処設備 重大事故等</td> </tr> <tr> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) ホース 放水路 発電機冷却車 化学液混合装置 燃料補給設備 ※1</td> <td>対処設備 重大事故等</td> </tr> <tr> <td>ほうほう水注入系貯蔵タンクを ほうほう水注入系貯蔵タンクを</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>ほうほう水注入系貯蔵タンクへの ほうほう水注入</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本文【解釈】1 b) 項を満足するための代替送水車 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	海を水源とした対応	-	-	代替原子炉格納容器系 (大容量送水車)	重大事故等対処設備	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) 放水路 ホース 燃料補給設備 ※1	対処設備 重大事故等	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) ホース 放水路 発電機冷却車 化学液混合装置 燃料補給設備 ※1	対処設備 重大事故等	ほうほう水注入系貯蔵タンクを ほうほう水注入系貯蔵タンクを	-	-	ほうほう水注入系貯蔵タンクへの ほうほう水注入	重大事故等対処設備	④(他のまとめ資料との整合)
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																											
海を水源とした対応	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	海を水源とした送水	大容量送水車 (海水取水用) 海水貯留槽 スクリーン室 取水路 [海水取水箇所] 可搬型代替注水ポンプ (A-1 級) 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 燃料補給設備 ※1	多線なヘザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水 (原子炉注水)」 「消防車による送水 (格納容器スプレイ)」 「消防車による送水 (デブリ冷却)」 「消防車による送水 (原子炉ウエル注水)」 「消防車による送水 (SPP 常設スプレイ)」 「消防車による送水 (SPP 可搬型スプレイ)」																																														
			原子炉圧力バウンスリ低圧時の注水 (原子炉内の冷却)	低圧代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.4 原子炉冷却材圧力バウンスリ低圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」及び「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																													
	原子炉格納容器内の冷却	代替格納容器スプレイ系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」にて整備する。																																															
	復水貯蔵槽	原子炉格納容器下部注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.8 原子炉格納容器下部の溶融炉心を冷却するための手順等」にて整備する。																																															
注水	サブプレッション・チェンバ 復水貯蔵槽	注水	格納容器頂部注水系 (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.10 水素燃焼による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」にて整備する。																																														
			燃料プール代替注水系 (可搬型) (大容量送水車 (海水取水用)、可搬型代替注水ポンプ (A-1 級)、可搬型代替注水ポンプ (A-2 級)、ホース・接続口等)	手順は「1.11 使用済燃料貯蔵槽の冷却等のための手順等」にて整備する。																																														
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																														
海を水源とした対応	-	-	代替原子炉格納容器系 (大容量送水車)	重大事故等対処設備																																														
			大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) 放水路 ホース 燃料補給設備 ※1	対処設備 重大事故等																																														
			大容量送水車 (原子炉建屋放水設備間) ホース 放水路 発電機冷却車 化学液混合装置 燃料補給設備 ※1	対処設備 重大事故等																																														
ほうほう水注入系貯蔵タンクを ほうほう水注入系貯蔵タンクを	-	-	ほうほう水注入系貯蔵タンクへの ほうほう水注入	重大事故等対処設備																																														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																					
103	2.1.2.1	2.1-120	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (11/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">海を利用した対応</td> <td rowspan="3">-</td> <td>最終冷却タンク (海) の代替熱輸送</td> <td>代替原子炉補機冷却系 (大容量送水車 (熱交換器ユニット用))</td> <td>手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>大気への放射性物質の拡散抑制</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 放水砲 ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>航空機燃料火災への消火</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 他原液搬送車 他原液混合装置 燃料補給設備 ※1</td> <td>手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>ほうろく水注入系貯蔵タンクを水鏡とした対応</td> <td>-</td> <td>原子炉圧力容器へのほうろく水注入</td> <td>ほうろく水注入系貯蔵タンク ほうろく水注入系 (ほうろく水注入系ポンプ)</td> <td>手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」及び「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本文【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	海を利用した対応	-	最終冷却タンク (海) の代替熱輸送	代替原子炉補機冷却系 (大容量送水車 (熱交換器ユニット用))	手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。	大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 放水砲 ホース 燃料補給設備 ※1	手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。	航空機燃料火災への消火	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 他原液搬送車 他原液混合装置 燃料補給設備 ※1	手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。	ほうろく水注入系貯蔵タンクを水鏡とした対応	-	原子炉圧力容器へのほうろく水注入	ほうろく水注入系貯蔵タンク ほうろく水注入系 (ほうろく水注入系ポンプ)	手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」及び「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (10/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">海水貯蔵槽への補給</td> <td rowspan="3">-</td> <td>上記の(海水貯蔵槽)の補給 (海水貯蔵槽) (注)</td> <td>可搬型代替海水ポンプ (A-2 類) ホース・接続口 CSP 外配線給配管・弁 海水貯蔵槽 大容量送水車 (海水取水用) 海水貯蔵槽 スタリーン型 取水ポンプ [海水取水装置] 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順</td> </tr> <tr> <td>海水貯蔵槽 (注2)</td> <td>海水貯蔵槽</td> <td>自主対策</td> </tr> <tr> <td>海水貯蔵槽 (注2)</td> <td>海水貯蔵槽</td> <td>自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本文【解釈】1 b) 項を満足するための代替淡水源 (措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	海水貯蔵槽への補給	-	上記の(海水貯蔵槽)の補給 (海水貯蔵槽) (注)	可搬型代替海水ポンプ (A-2 類) ホース・接続口 CSP 外配線給配管・弁 海水貯蔵槽 大容量送水車 (海水取水用) 海水貯蔵槽 スタリーン型 取水ポンプ [海水取水装置] 燃料補給設備 ※1	重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順	海水貯蔵槽 (注2)	海水貯蔵槽	自主対策	海水貯蔵槽 (注2)	海水貯蔵槽	自主対策	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																						
海を利用した対応	-	最終冷却タンク (海) の代替熱輸送	代替原子炉補機冷却系 (大容量送水車 (熱交換器ユニット用))	手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。																																						
		大気への放射性物質の拡散抑制	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) 放水砲 ホース 燃料補給設備 ※1	手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。																																						
		航空機燃料火災への消火	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用) ホース 放水砲 他原液搬送車 他原液混合装置 燃料補給設備 ※1	手順は「1.12 発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための手順等」にて整備する。																																						
ほうろく水注入系貯蔵タンクを水鏡とした対応	-	原子炉圧力容器へのほうろく水注入	ほうろく水注入系貯蔵タンク ほうろく水注入系 (ほうろく水注入系ポンプ)	手順は「1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等」及び「1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」にて整備する。																																						
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																						
海水貯蔵槽への補給	-	上記の(海水貯蔵槽)の補給 (海水貯蔵槽) (注)	可搬型代替海水ポンプ (A-2 類) ホース・接続口 CSP 外配線給配管・弁 海水貯蔵槽 大容量送水車 (海水取水用) 海水貯蔵槽 スタリーン型 取水ポンプ [海水取水装置] 燃料補給設備 ※1	重大事故等の収束に必要な水源を確保する手順																																						
		海水貯蔵槽 (注2)	海水貯蔵槽	自主対策																																						
		海水貯蔵槽 (注2)	海水貯蔵槽	自主対策																																						

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																							
104	2.1.2.1	2.1-121	<p><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順 (1.13) (12/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">復水貯蔵槽へ水を供給するための対応</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="2">防火水槽を水源とした供給 (淡水/海水)</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (巻戻ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」</td> </tr> <tr> <td>防火水槽 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	復水貯蔵槽へ水を供給するための対応	-	防火水槽を水源とした供給 (淡水/海水)	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (巻戻ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」	防火水槽 ※2	自主対策設備	淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	<p><u>表 2.1.17 設計基準事故対応設備と整備する手順(1.13) (11/12)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">防火水槽への補給</td> <td rowspan="6">-</td> <td rowspan="2">防火水槽(淡水/海水)への補給</td> <td>ホース</td> <td>重大事故等対応設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2 防火水槽 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">淡水貯水池(淡水/海水)への補給</td> <td>ろ過水タンク 減水タンク ホース 防火水槽 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>大容量淡水車(海水取水用) 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">淡水貯水池(淡水/海水)への補給</td> <td>防火水槽 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>代替原子炉補給冷却注水ポンプ 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] 海水ホース 防火水槽 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池(淡水/海水)への補給</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 防火水槽 ※2 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	防火水槽への補給	-	防火水槽(淡水/海水)への補給	ホース	重大事故等対応設備	淡水貯水池 ※2 防火水槽 ※2	自主対策設備	淡水貯水池(淡水/海水)への補給	ろ過水タンク 減水タンク ホース 防火水槽 ※2	自主対策設備	大容量淡水車(海水取水用) 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備	淡水貯水池(淡水/海水)への補給	防火水槽 ※2	自主対策設備	代替原子炉補給冷却注水ポンプ 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] 海水ホース 防火水槽 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	淡水貯水池(淡水/海水)への補給	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 防火水槽 ※2 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																																								
復水貯蔵槽へ水を供給するための対応	-	防火水槽を水源とした供給 (淡水/海水)	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 事故時運転操作手順書 (巻戻ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」																																								
			防火水槽 ※2	自主対策設備																																								
		淡水貯水池 ※2 可搬型代替注水ポンプ (A-2 級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	自主対策設備																																									
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																								
防火水槽への補給	-	防火水槽(淡水/海水)への補給	ホース	重大事故等対応設備																																								
			淡水貯水池 ※2 防火水槽 ※2	自主対策設備																																								
		淡水貯水池(淡水/海水)への補給	ろ過水タンク 減水タンク ホース 防火水槽 ※2	自主対策設備																																								
			大容量淡水車(海水取水用) 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備																																								
		淡水貯水池(淡水/海水)への補給	防火水槽 ※2	自主対策設備																																								
			代替原子炉補給冷却注水ポンプ 海水貯蔵槽 スクリーン装置 取水扇[海水取水装置] 海水ホース 防火水槽 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	自主対策設備																																								
淡水貯水池(淡水/海水)への補給	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 防火水槽 ※2 燃料補給設備 ※1	自主対策設備																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																						
105	2.1.2.1	2.1-122	<p style="text-align: center;"><u>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順</u> <u>(1.13) (13/15)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">復水貯蔵槽へ水を供給するための対応</td> <td rowspan="3">-</td> <td>淡水貯水池を水源とした補給(減少/海水) (あらかじめ整備してあるホースが使用できない場合)</td> <td>可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備</td> <td rowspan="2">運転時運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」</td> </tr> <tr> <td></td> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>海を水源とした補給(淡水/海水)</td> <td>大容量送水車(海水取水用) 海水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備</td> </tr> <tr> <td></td> <td>純水補給水系(仮設置電機使用)による補給</td> <td>純水タンク 純水移送ポンプ 純水補給水系配管・弁 復水貯蔵槽 仮設置電機 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主対策設備</td> <td>運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「MWP ポンプによる CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「大規模純水移送ポンプ電源確保」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源(措置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	復水貯蔵槽へ水を供給するための対応	-	淡水貯水池を水源とした補給(減少/海水) (あらかじめ整備してあるホースが使用できない場合)	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備	運転時運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」		淡水貯水池 ※2	自主対策設備	海を水源とした補給(淡水/海水)	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備		純水補給水系(仮設置電機使用)による補給	純水タンク 純水移送ポンプ 純水補給水系配管・弁 復水貯蔵槽 仮設置電機 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「MWP ポンプによる CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「大規模純水移送ポンプ電源確保」		④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																							
復水貯蔵槽へ水を供給するための対応	-	淡水貯水池を水源とした補給(減少/海水) (あらかじめ整備してあるホースが使用できない場合)	可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備	運転時運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「消防車による CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「消防車による CSP への補給(淡水/海水)」																						
			淡水貯水池 ※2	自主対策設備																							
		海を水源とした補給(淡水/海水)	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留庫 スクリーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース・接続口 CSP 外部補給配管・弁 復水貯蔵槽 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備																							
	純水補給水系(仮設置電機使用)による補給	純水タンク 純水移送ポンプ 純水補給水系配管・弁 復水貯蔵槽 仮設置電機 燃料補給設備 ※1	自主対策設備	運転操作手順書(準拠ベース) AM 設備別操作手順書 「MWP ポンプによる CSP への補給」 多様なハザード対応手順 「大規模純水移送ポンプ電源確保」																							

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																						
106	2.1.2.1	2.1-123	<p>表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.13) (14/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">防火水櫃へ水を補給するための対応</td> <td rowspan="5">-</td> <td>防火水櫃からの補給</td> <td>淡水貯水池 ※2 ホース 防火水櫃 ※2</td> <td>白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「淡水貯水池から大機関防火水櫃への補給」</td> </tr> <tr> <td>防火水タンクからの補給</td> <td>ろ過水タンク 純水タンク ホース 防火水櫃 ※2</td> <td>白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「大機関淡水タンクから防火水櫃への補給」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大容量送水車（海水取水用）による防火水櫃への海水補給</td> <td>大容量送水車（海水取水用） 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事象等対策設備</td> <td>多様なヘザード対応手順 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」</td> </tr> <tr> <td>防火水櫃 ※2</td> <td>白土対策設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給</td> <td>代替原子炉補機冷却海水ポンプ 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 防火水櫃 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1</td> <td>白土対策設備</td> <td>多様なヘザード対応手順 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」</td> </tr> <tr> <td>（A-1）と（B）による防火水櫃への海水補給</td> <td>可搬型代替注水ポンプ（A-2 級） ホース 防火水櫃 ※2 燃料補給設備 ※1</td> <td>白土対策設備</td> <td>多様なヘザード対応手順 「消防車による防火水櫃への海水補給」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書	防火水櫃へ水を補給するための対応	-	防火水櫃からの補給	淡水貯水池 ※2 ホース 防火水櫃 ※2	白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「淡水貯水池から大機関防火水櫃への補給」	防火水タンクからの補給	ろ過水タンク 純水タンク ホース 防火水櫃 ※2	白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「大機関淡水タンクから防火水櫃への補給」	大容量送水車（海水取水用）による防火水櫃への海水補給	大容量送水車（海水取水用） 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1	重大事象等対策設備	多様なヘザード対応手順 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」	防火水櫃 ※2	白土対策設備		代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給	代替原子炉補機冷却海水ポンプ 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 防火水櫃 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	白土対策設備	多様なヘザード対応手順 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」	（A-1）と（B）による防火水櫃への海水補給	可搬型代替注水ポンプ（A-2 級） ホース 防火水櫃 ※2 燃料補給設備 ※1	白土対策設備	多様なヘザード対応手順 「消防車による防火水櫃への海水補給」	<p>表 2.1.17 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.13) (12/12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対処設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>淡水タンクへの補給</td> <td>-</td> <td>淡水タンクからの補給</td> <td>淡水貯水池 ※2 ホース ろ過水タンク 純水タンク</td> <td>重大事象等の発生に必要なとなる水源を確保する手順</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2:本条文【解釈】1 b)項を満足するための代替淡水源（措置）</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類	淡水タンクへの補給	-	淡水タンクからの補給	淡水貯水池 ※2 ホース ろ過水タンク 純水タンク	重大事象等の発生に必要なとなる水源を確保する手順	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	手順書																																							
防火水櫃へ水を補給するための対応	-	防火水櫃からの補給	淡水貯水池 ※2 ホース 防火水櫃 ※2	白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「淡水貯水池から大機関防火水櫃への補給」																																							
		防火水タンクからの補給	ろ過水タンク 純水タンク ホース 防火水櫃 ※2	白土対策設備 多様なヘザード対応手順 「大機関淡水タンクから防火水櫃への補給」																																							
		大容量送水車（海水取水用）による防火水櫃への海水補給	大容量送水車（海水取水用） 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1	重大事象等対策設備	多様なヘザード対応手順 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」																																						
			防火水櫃 ※2	白土対策設備																																							
		代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給	代替原子炉補機冷却海水ポンプ 海水貯留渠 スクリーン室 取水路 ホース 防火水櫃 ※2 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	白土対策設備	多様なヘザード対応手順 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」																																						
（A-1）と（B）による防火水櫃への海水補給	可搬型代替注水ポンプ（A-2 級） ホース 防火水櫃 ※2 燃料補給設備 ※1	白土対策設備	多様なヘザード対応手順 「消防車による防火水櫃への海水補給」																																								
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対処設備	整備する手順書の分類																																							
淡水タンクへの補給	-	淡水タンクからの補給	淡水貯水池 ※2 ホース ろ過水タンク 純水タンク	重大事象等の発生に必要なとなる水源を確保する手順																																							

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																													
107	2.1.2.1	2.1-124	<p style="text-align: center;">表 2.1.16 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順 (1.13) (15/15)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">淡水タンクへ水を補給するための事故対応</td> <td rowspan="2">-</td> <td>淡水タンクへの補給</td> <td>淡水貯水池 ※2 ホース ろ過タンク 補水タンク</td> <td>自主加圧設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側淡水タンクへの補給」</td> </tr> <tr> <td>原子炉隔離時冷却系及び原子炉隔離時冷却系切替</td> <td>淡水貯留槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系</td> <td>重大事故等対応設備 重大事故等対応設備 (設計基準事故等)</td> <td>事故時運転操作手順書(原研ベース) 「水位確保」等</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">水を切り替えるための対応</td> <td rowspan="3">-</td> <td>防火水櫃へ供給する水源の切替</td> <td>大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側防火水櫃への補給」 「大後側淡水タンクから防火水櫃への補給」 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>防火水櫃 ※2 淡水タンク 代替原子炉補機冷却海水ポンプ 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1</td> <td>自主加圧設備 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」 「消防車による防火水櫃への海水補給」</td> </tr> <tr> <td>淡水貯水池から海への水源切替</td> <td>大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1</td> <td>重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水(原子炉注水)」 「消防車による送水(精納容器スプレィ)」 「消防車による送水(デブリ冷却)」 「消防車による送水(原子炉ウエル注水)」</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>淡水貯水池 ※2</td> <td>自主加圧設備 「消防車による送水(SPP常設スプレィ)」 「消防車による送水(SPP可搬型スプレィ)」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。 ※2: 本文【解説】1 b)項を満足するための代替淡水源(積置)</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	淡水タンクへ水を補給するための事故対応	-	淡水タンクへの補給	淡水貯水池 ※2 ホース ろ過タンク 補水タンク	自主加圧設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側淡水タンクへの補給」	原子炉隔離時冷却系及び原子炉隔離時冷却系切替	淡水貯留槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系	重大事故等対応設備 重大事故等対応設備 (設計基準事故等)	事故時運転操作手順書(原研ベース) 「水位確保」等	水を切り替えるための対応	-	防火水櫃へ供給する水源の切替	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側防火水櫃への補給」 「大後側淡水タンクから防火水櫃への補給」 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」	淡水貯水池 ※2	防火水櫃 ※2 淡水タンク 代替原子炉補機冷却海水ポンプ 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	自主加圧設備 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」 「消防車による防火水櫃への海水補給」	淡水貯水池から海への水源切替	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水(原子炉注水)」 「消防車による送水(精納容器スプレィ)」 「消防車による送水(デブリ冷却)」 「消防車による送水(原子炉ウエル注水)」			淡水貯水池 ※2	自主加圧設備 「消防車による送水(SPP常設スプレィ)」 「消防車による送水(SPP可搬型スプレィ)」	-	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																														
淡水タンクへ水を補給するための事故対応	-	淡水タンクへの補給	淡水貯水池 ※2 ホース ろ過タンク 補水タンク	自主加圧設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側淡水タンクへの補給」																														
		原子炉隔離時冷却系及び原子炉隔離時冷却系切替	淡水貯留槽 サブプレッション・チェンバ 原子炉隔離時冷却系 高圧炉心注水系	重大事故等対応設備 重大事故等対応設備 (設計基準事故等)	事故時運転操作手順書(原研ベース) 「水位確保」等																													
水を切り替えるための対応	-	防火水櫃へ供給する水源の切替	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「淡水貯水池から大後側防火水櫃への補給」 「大後側淡水タンクから防火水櫃への補給」 「大容量送水車による防火水櫃への海水補給」																														
		淡水貯水池 ※2	防火水櫃 ※2 淡水タンク 代替原子炉補機冷却海水ポンプ 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) 可搬型代替交流電源設備 移動式変圧器 燃料補給設備 ※1	自主加圧設備 「代替原子炉補機冷却海水ポンプによる防火水櫃への海水補給」 「消防車による防火水櫃への海水補給」																														
		淡水貯水池から海への水源切替	大容量送水車(海水取水用) 海水貯留槽 スタラーン室 取水路 可搬型代替注水ポンプ(A-1級) 可搬型代替注水ポンプ(A-2級) ホース 燃料補給設備 ※1	重大事故等対応設備 多様なハザード対応手順 「大容量送水車による消防車への海水送水」 「消防車による送水(原子炉注水)」 「消防車による送水(精納容器スプレィ)」 「消防車による送水(デブリ冷却)」 「消防車による送水(原子炉ウエル注水)」																														
		淡水貯水池 ※2	自主加圧設備 「消防車による送水(SPP常設スプレィ)」 「消防車による送水(SPP可搬型スプレィ)」																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																						
108	2.1.2.1	2.1-127	<p>表 2.1.17 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (1/5)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">非常用交流電源設備による給電</td> <td>非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系 ※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td>直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 C 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 C～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>非常用直流電源設備による給電</td> <td>直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	非常用交流電源設備による給電	非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系 ※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」	軽油タンク	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」	直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 C 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 C～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」			非常用直流電源設備による給電	直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。	<p>表 2.1.18 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (1/4)</p> <p>(重大事故等対処設備 (設計基準拡張))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">重大事故等対処設備 (設計基準拡張)</td> <td rowspan="3">-</td> <td rowspan="3">非常用ディーゼル発電機による給電</td> <td>非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 伊心の著しい損傷、原子炉格納容器の破壊及び使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷を防止する手順</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</td> </tr> <tr> <td>直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>非常用直流電源設備による給電</td> <td>直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</td> </tr> </tbody> </table>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	非常用ディーゼル発電機による給電	非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 伊心の著しい損傷、原子炉格納容器の破壊及び使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷を防止する手順	軽油タンク	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。	直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。			非常用直流電源設備による給電	直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																							
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	非常用交流電源設備による給電	非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系 ※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」																																							
			軽油タンク	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」																																							
			直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 C 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 C～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」																																							
		非常用直流電源設備による給電	直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。																																							
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																							
重大事故等対処設備 (設計基準拡張)	-	非常用ディーゼル発電機による給電	非常用ディーゼル発電機 燃料ディタンク 非常用ディーゼル発電機～非常用高圧母線電路 原子炉補機冷却系※1 燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機燃料移送系配管・弁	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 伊心の著しい損傷、原子炉格納容器の破壊及び使用済燃料プール内燃料体等の著しい損傷を防止する手順																																							
			軽油タンク	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。																																							
			直流 125V 蓄電池 B ※2 直流 125V 蓄電池 C ※2 直流 125V 蓄電池 D ※2 直流 125V 充電器 B 直流 125V 充電器 D 直流 125V 蓄電池及び充電器 B～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 D～直流母線電路	重大事故等対処設備 (設計基準拡張) 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。																																							
		非常用直流電源設備による給電	直流 125V 蓄電池 A ※2 直流 125V 蓄電池 A-2 直流 125V 充電器 A 直流 125V 充電器 A-2 直流 125V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 125V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路	重大事故等対処設備 事故時運転操作手順書 (最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等)にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。																																							

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																												
109	2.1.2.1	2.1-128	<p><u>表 2.1.17 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (2/5)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="2">常設代替交流電源設備による給電</td> <td>第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)</td> <td>事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「M/C C・D 受電」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」</td> </tr> <tr> <td>第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)</td> <td>事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「M/C C・D 受電」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「第二 GTG による常設側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	常設代替交流電源設備による給電	第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「M/C C・D 受電」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」	第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「M/C C・D 受電」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「第二 GTG による常設側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」	<p><u>表 2.1.18 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.14) (2/4)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="3">非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)</td> <td>常設代替交流電源設備による給電</td> <td>第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>第一代替交流電源設備による給電</td> <td>第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>可搬代替交流電源設備による給電</td> <td>電源車 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～AM 用 MCC 電路 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電源車～代替原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)</td> <td>重大事故等対処設備 自主対策</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 125V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)	常設代替交流電源設備による給電	第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	重大事故等対処設備	第一代替交流電源設備による給電	第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	自主対策設備	可搬代替交流電源設備による給電	電源車 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～AM 用 MCC 電路 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電源車～代替原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	重大事故等対処設備 自主対策	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
			分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																										
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	常設代替交流電源設備による給電	第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「M/C C・D 受電」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」																													
			第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	事故時運転操作手順書 (常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時常設ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「M/C C・D 受電」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なハザード対応手順 「第二 GTG による常設側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給油」 「タンクローリから各機器等への給油」																													
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																													
非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失)	常設代替交流電源設備による給電	第一ガスタービン発電機 第一ガスタービン発電機用燃料タンク 第一ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第一ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第一ガスタービン発電機～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第一ガスタービン発電機～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	重大事故等対処設備																													
		第一代替交流電源設備による給電	第二ガスタービン発電機 第二ガスタービン発電機用燃料タンク 第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ 第二ガスタービン発電機用燃料移送系配管・弁 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～大機側緊急用高圧母線～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 第二ガスタービン発電機～常設側緊急用高圧母線～AM 用 MCC 電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	自主対策設備																													
		可搬代替交流電源設備による給電	電源車 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電源車～緊急用電源引替装置接続設備～AM 用 MCC 電路 電源車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電源車～代替原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16tL)	重大事故等対処設備 自主対策																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																										
110	2.1.2.1	2.1-129	<p>表 2.1.17 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (3/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">代給交流電源設備による給電</td> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="2">可搬型直流電源設備による給電</td> <td>電線車 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電線車～代給原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「電線車による P/C C-1・D-1 への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による M/C C・D 受電」 「P/C C-1・D-1 受電 (P/C 動力変圧器～MCC-D 経由)」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 AM 用 MCC 受電</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td>多様なハザード対応手順 「電線車による緊急用緊急用 M/C 受電」 「電線車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」 「電線車による給電 (動力変圧器 C-1 接続)」 「電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">代給交流電源設備による給電</td> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="2">号炉間電力融通ケーブルによる給電</td> <td>号炉間電力融通ケーブル (常設) 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) 号炉間電力融通ケーブル (常設) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路</td> <td>事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) AM 設備別操作手順書 「熱号炉 D/G による M/C C-D への電路構成 (号炉間電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」</td> </tr> <tr> <td>重大事故等対処設備</td> <td>多様なハザード対応手順 「号炉間電力融通ケーブルによる電力融通」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 120V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	代給交流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	可搬型直流電源設備による給電	電線車 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電線車～代給原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「電線車による P/C C-1・D-1 への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による M/C C・D 受電」 「P/C C-1・D-1 受電 (P/C 動力変圧器～MCC-D 経由)」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 AM 用 MCC 受電	自主対策設備	多様なハザード対応手順 「電線車による緊急用緊急用 M/C 受電」 「電線車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」 「電線車による給電 (動力変圧器 C-1 接続)」 「電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」	代給交流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	号炉間電力融通ケーブルによる給電	号炉間電力融通ケーブル (常設) 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) 号炉間電力融通ケーブル (常設) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) AM 設備別操作手順書 「熱号炉 D/G による M/C C-D への電路構成 (号炉間電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」	重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順 「号炉間電力融通ケーブルによる電力融通」	<p>表 2.1.18 設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">代給直流電源設備による給電</td> <td rowspan="3">非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="3">号炉間電力融通ケーブルによる給電</td> <td>直流 120V 蓄電池 A ※2 直流 120V 蓄電池 A-2 AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A 直流 120V 充電器 A-2 AM 用直流 120V 充電器 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td>AM 用直流 120V 蓄電池 AM 用直流 120V 充電器 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>可搬型直流電源設備による給電</td> <td>電線車 AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">代給直流電源設備による給電</td> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">直流給電車による給電</td> <td>直流給電車 直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)</td> <td>自主対策設備</td> </tr> <tr> <td>自主対策設備</td> <td>直流給電車による給電</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 120V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	代給直流電源設備による給電	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	号炉間電力融通ケーブルによる給電	直流 120V 蓄電池 A ※2 直流 120V 蓄電池 A-2 AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A 直流 120V 充電器 A-2 AM 用直流 120V 充電器 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路	重大事故等対処設備	自主対策設備	AM 用直流 120V 蓄電池 AM 用直流 120V 充電器 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路	重大事故等対処設備	可搬型直流電源設備による給電	電線車 AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	重大事故等対処設備	代給直流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	直流給電車による給電	直流給電車 直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	自主対策設備	自主対策設備	直流給電車による給電	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																											
代給交流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	可搬型直流電源設備による給電	電線車 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～動力変圧器 C 系～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用 MCC 電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用 MCC 電路 電線車～代給原子炉補機冷却系電路 ※1 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「緊急用 M/C から M/C C・D への電路構成」 「電線車による P/C C-1・D-1 への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による M/C C・D 受電」 「P/C C-1・D-1 受電 (P/C 動力変圧器～MCC-D 経由)」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 AM 用 MCC 受電																																											
			自主対策設備	多様なハザード対応手順 「電線車による緊急用緊急用 M/C 受電」 「電線車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」 「電線車による給電 (動力変圧器 C-1 接続)」 「電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」																																											
代給交流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	号炉間電力融通ケーブルによる給電	号炉間電力融通ケーブル (常設) 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) 号炉間電力融通ケーブル (常設) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路 号炉間電力融通ケーブル (可搬型) ～非常用高圧母線 C 系及び D 系電路	事故時運転操作手順書 (運転ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時運転ベース) AM 設備別操作手順書 「熱号炉 D/G による M/C C-D への電路構成 (号炉間電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」																																											
			重大事故等対処設備	多様なハザード対応手順 「号炉間電力融通ケーブルによる電力融通」																																											
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																											
代給直流電源設備による給電	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	号炉間電力融通ケーブルによる給電	直流 120V 蓄電池 A ※2 直流 120V 蓄電池 A-2 AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A 直流 120V 充電器 A-2 AM 用直流 120V 充電器 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路	重大事故等対処設備																																											
			自主対策設備	AM 用直流 120V 蓄電池 AM 用直流 120V 充電器 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路	重大事故等対処設備																																										
			可搬型直流電源設備による給電	電線車 AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	重大事故等対処設備																																										
代給直流電源設備による給電	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	直流給電車による給電	直流給電車 直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4tL)	自主対策設備																																											
			自主対策設備	直流給電車による給電																																											

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																														
111	2.1.2.1	2.1-130	<p align="center"><u>表 2.1.17 機能喪失を想定する設計基準事故対処設備と整備する手順 (1.14) (4/5)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電</td> <td>直流 120V 蓄電池 A ※2</td> <td rowspan="2">「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> <td rowspan="2">事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> </tr> <tr> <td>AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A AM 用直流 120V 充電器 A-2 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電</td> <td>AM 用直流 120V 蓄電池</td> <td rowspan="2">「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> <td rowspan="2">事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> </tr> <tr> <td>AM 用直流 120V 充電器 充電器～直流母線電路</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">可変型直流電源設備に関する給電</td> <td>電線車</td> <td rowspan="2">「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> <td rowspan="2">事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> </tr> <tr> <td>AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱 接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～直流母線電路 AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (4kL)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">可変型直流電源設備に関する給電</td> <td>電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成</td> <td rowspan="2">「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」</td> <td rowspan="2">「電線車による緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 「AM 用直流 120V 充電器受電」 多様なハザード対応手順</td> </tr> <tr> <td>電線車による緊急用電源切替箱 A 接続 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">可変型直流電源設備に関する給電</td> <td>電線車</td> <td rowspan="2">「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> <td rowspan="2">事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> </tr> <tr> <td>電線車～直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4kL)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">可変型直流電源設備に関する給電</td> <td>直流給電車</td> <td rowspan="2">「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> <td rowspan="2">事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書</td> </tr> <tr> <td>直流給電車による給電 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 120V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	直流 120V 蓄電池 A ※2	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A AM 用直流 120V 充電器 A-2 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	AM 用直流 120V 蓄電池	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	AM 用直流 120V 充電器 充電器～直流母線電路	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱 接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～直流母線電路 AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (4kL)	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成	「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」	「電線車による緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 「AM 用直流 120V 充電器受電」 多様なハザード対応手順	電線車による緊急用電源切替箱 A 接続 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	電線車～直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4kL)	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	直流給電車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	直流給電車による給電 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」	<p align="center"><u>表 2.1.18 設計基準事故対処設備と整備する手順(1.14) (4/4)</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対処設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>整備する手順書の分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電</td> <td>非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td>号伊間連絡ケーブル</td> <td>「併用電源供給回復」 「併用電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td>非常用併内電気設備</td> <td>緊急用断絡器 緊急用電源切替箱断絡器 緊急用電源切替箱接続装置 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系</td> <td>重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)</td> <td rowspan="2">可変型直流電源設備に関する給電</td> <td>電線車</td> <td>軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (10kL) タンクローリ (4kL)</td> <td>重大事故等対処設備 重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成</td> <td>「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」</td> <td>重大事故等対処設備 重大事故等対処設備</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1:手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2:直流 120V 蓄電池 A, B, C 及び D からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	号伊間連絡ケーブル	「併用電源供給回復」 「併用電源供給回復」	非常用併内電気設備	緊急用断絡器 緊急用電源切替箱断絡器 緊急用電源切替箱接続装置 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (10kL) タンクローリ (4kL)	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備	電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成	「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備	<p>④(他のまとめ資料との整合)</p>
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	手順書																																																															
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	直流 120V 蓄電池 A ※2	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書																																																															
		AM 用直流 120V 蓄電池 直流 120V 充電器 A AM 用直流 120V 充電器 A-2 直流 120V 蓄電池及び充電器 A～直流母線電路 直流 120V 蓄電池及び充電器 A-2～直流母線電路 AM 用直流 120V 蓄電池及び充電器～直流母線電路																																																																	
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	AM 用直流 120V 蓄電池	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書																																																															
		AM 用直流 120V 充電器 充電器～直流母線電路																																																																	
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書																																																															
		AM 用直流 120V 充電器 電線車～緊急用電源切替箱 接続装置～AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 電線車～AM 用動力変圧器～直流母線電路 AM 用直流 120V 充電器～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (4kL)																																																																	
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成	「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」	「電線車による緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 「AM 用直流 120V 充電器受電」 多様なハザード対応手順																																																															
		電線車による緊急用電源切替箱 A 接続 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 電線車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」																																																																	
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書																																																															
		電線車～直流給電車～直流母線電路 軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (4kL)																																																																	
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	直流給電車	「交流/直流電源供給回復」 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書	事故時運転操作手順書 (準拠ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時復旧ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設置別操作手順書																																																															
		直流給電車による給電 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 直流給電車による給電 (AM 用動力変圧器接続) 「非常用 D/G 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」																																																																	
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対処設備	対応手段	対応設備	整備する手順書の分類																																																															
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	併用電源系統 (非常用交流電源設備) に関する給電	非常用ディーゼル発電機 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	号伊間連絡ケーブル	「併用電源供給回復」 「併用電源供給回復」																																																															
		非常用併内電気設備	緊急用断絡器 緊急用電源切替箱断絡器 緊急用電源切替箱接続装置 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備 重大事故等対処設備																																																															
非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失) 非常用直流電源設備 (蓄電池枯渇)	可変型直流電源設備に関する給電	電線車	軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 タンクローリ (10kL) タンクローリ (4kL)	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備																																																															
		電線車～緊急用電源切替箱 A 経由による AM 用 MCC への電路構成	「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「電線車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」	重大事故等対処設備 重大事故等対処設備																																																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																										
112	2.1.2.1	2.1-131	<p>表 2.1.17 機能喪失を想定する設計基準事故対応設備と整備する手順 (1.14) (5/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>機能喪失を想定する設計基準事故対応設備</th> <th>対応手段</th> <th>対応設備</th> <th>手順書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">使用した直流電源</td> <td>非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)</td> <td rowspan="2">使用した直流電源</td> <td>号伊期連絡ケーブル</td> <td>事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td>非常用直流電源設備 (蓄電用枯満)</td> <td></td> <td>事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">代替所内電気設備による給電</td> <td rowspan="2">非常用所内電気設備</td> <td rowspan="2">代替所内電気設備による給電</td> <td>緊急用断路器 緊急用電源切替断路器 緊急用電源切替断路器 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系</td> <td>事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」</td> </tr> <tr> <td>荒浜側緊急用高圧母線 大機側緊急用高圧母線</td> <td>代替所内電気設備による給電</td> <td>「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」</td> </tr> <tr> <td>燃料の供給</td> <td>-</td> <td>燃料供給設備による給電</td> <td>軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16kL) タンクローリ (4kL)</td> <td>多様なヘザード対応手順 「非常用 DG 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1: 手順は「1.6 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等」にて整備する。 ※2: 直流 125V 蓄電用 A, B, C 及び B からの給電は、運転員による操作は不要である。</p>	分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書	使用した直流電源	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	使用した直流電源	号伊期連絡ケーブル	事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」	非常用直流電源設備 (蓄電用枯満)		事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」	代替所内電気設備による給電	非常用所内電気設備	代替所内電気設備による給電	緊急用断路器 緊急用電源切替断路器 緊急用電源切替断路器 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系	事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」	荒浜側緊急用高圧母線 大機側緊急用高圧母線	代替所内電気設備による給電	「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」	燃料の供給	-	燃料供給設備による給電	軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16kL) タンクローリ (4kL)	多様なヘザード対応手順 「非常用 DG 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」	-	④(他のまとめ資料との整合)
分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	手順書																											
使用した直流電源	非常用交流電源設備 (全交流動力電源喪失)	使用した直流電源	号伊期連絡ケーブル	事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」																											
	非常用直流電源設備 (蓄電用枯満)			事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」																											
代替所内電気設備による給電	非常用所内電気設備	代替所内電気設備による給電	緊急用断路器 緊急用電源切替断路器 緊急用電源切替断路器 AM 用動力変圧器 AM 用 MCC AM 用切替盤 AM 用操作盤 非常用高圧母線 C 系 非常用高圧母線 D 系	事故時運転操作手順書 (直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 事故時運転操作手順書 (停止時直供ベース) 「交流/直流電源供給回復」 AM 設備別操作手順書 「第一ガスタービン発電機起動」 「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」																											
			荒浜側緊急用高圧母線 大機側緊急用高圧母線	代替所内電気設備による給電	「第一 GTG から AM 用 MCC への電路構成」 「緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「大機側緊急用 M/C から AM 用 MCC への電路構成」 「他号炉 D/G による AM 用 MCC への電路構成 (号伊期電力融通ケーブル使用)」 「DG (A) (B) による他号炉への電力融通」 「電源車 (AM 用動力変圧器) による AM 用 MCC への電路構成」 「電源車 (緊急用電源切替箱 A 経由) による AM 用 MCC への電路構成」 「AM 用 MCC 受電」 多様なヘザード対応手順 「第二 GTG による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「第二 GTG による大機側緊急用 M/C 受電」 「号伊期電力融通ケーブルによる電力融通」 「電源車による荒浜側緊急用 M/C 受電」 「電源車による給電 (AM 用動力変圧器接続)」 「電源車による給電 (緊急用電源切替箱 A 接続)」																										
燃料の供給	-	燃料供給設備による給電	軽油タンク 軽油タンク出口ノズル・弁 ホース タンクローリ (16kL) タンクローリ (4kL)	多様なヘザード対応手順 「非常用 DG 軽油タンクからタンクローリへの給電」 「タンクローリから各機器等への給電」																											
113	2.1.2.2	2.1-133	<p>・発電所構内に緊急時対策要員、運転員、自衛消防隊合わせて常時100名確保し、分散して待機する。また、故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムの発生により、中央制御室(運転員を含む)が機能しない場合においても、対応できる体制を整備する。</p>	<p>・発電所構内に緊急時対策要員、運転員、自衛消防隊合わせて常時99名確保し、分散して待機する。また、故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムの発生により、中央制御室(運転員を含む)が機能しない場合においても、対応できる体制を整備する。</p>	②(他まとめ資料との整合)																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
114	2.1.2.2	2.1-141	<p>図 2.1.6 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉ともに運転中の場合)</p>	<p>図 2.1.6 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (第2次緊急時態勢・参集要員召集後 6号及び7号炉ともに運転中の場合)</p>	<p>②(他まとめ資料との整合)</p>

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
115	2.1.2.2	2.1-142	<p>図 2.1.7 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)6号及び7号炉ともに運転中の場合)</p>	<p>図 2.1.7 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (夜間及び休日(平日の勤務時間帯以外)6号及び7号炉ともに運転中の場合)</p>	<p>②(他まとめ資料との整合)</p>

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
116	2.1.2.2	2.1-143	<p>図 2.1.8 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (ブルーム通過時)</p>	<p>図 2.1.8 柏崎刈羽原子力発電所 原子力防災組織 体制図 (ブルーム通過時 6号及び7号炉ともに運転中の場合)</p>	②(他まとめ資料との整合)
117	2.1.2.2	2.1-147	<p>発電所構内に緊急時対策要員、運転員及び自衛消防隊合わせて常時100名確保し、大規模損壊発生時は本部長代行が初動の指揮を執る体制を整備する。</p>	<p>発電所構内に緊急時対策要員、運転員、自衛消防隊合わせて常時99名確保し、大規模損壊発生時は本部長代行が初動の指揮を執る体制を整備する。</p>	②(他まとめ資料との整合)
118	2.1.2.2	2.1-148	<p>大規模損壊が発生するおそれがある場合又は発生した場合において、本部長を含む発電所対策本部の緊急時対策要員等が対応を行う拠点は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を基本とする。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の健全性(居住性確保、通信連絡機能等)が確認できない場合は、代替可能なスペース及び必要に応じて風雨を凌ぐための資機材を活用することにより発電所対策本部の指揮命令システムを維持する。</p>	<p>大規模損壊が発生した場合において、本部長を含む発電所対策本部の緊急時対策要員等が対応を行う拠点は、5号炉原子炉建屋内緊急時対策所を基本とする。5号炉原子炉建屋内緊急時対策所の健全性(居住性確保、通信連絡機能等)が確認できない場合は、代替可能なスペース及び必要に応じて風雨を凌ぐための資機材を活用することにより発電所対策本部の指揮命令システムを維持する。</p>	審査基準の改正

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
119	2.1.2.2	2.1-149	(6) 大規模損壊発生時の支援体制の確立 a. 本社緊急時対策本部体制の確立 大規模損壊発生時における本社対策本部の設置による発電所への支援体制は、技術的能力1.0で整備する 支援体制と同様である。 b. 外部支援体制の確立 大規模損壊発生時における外部支援体制は、技術的能力1.0で整備する 原子力災害発生時の外部支援体制と同様である。	(6) 大規模損壊発生時の支援体制の確立 a. 本社緊急時対策本部体制の確立 原子力災害発生時における本社対策本部の設置による発電所への支援体制は、技術的能力1.0で整備する。 b. 外部支援体制の確立 原子力災害発生時における外部支援体制は、技術的能力1.0で整備する。	⑤
120	2.1.2.3	2.1-149	a. 屋外の可搬型重大事故等対処設備は、基準地震動を超える地震動に対して、	a. 可搬型重大事故等対処設備は、基準地震動又はそれに準じた基準を超える地震動に対して、	⑤
121	2.1.2.3	2.1-149	可搬型重大事故等対処設備は、 基準津波 を超える津波に対して裕度を有する高台に保管する。	可搬型重大事故等対処設備は、基準津波又はそれに準じた基準を超える津波に対して裕度を有する高台に保管する。	⑤
122	2.1.3	2.1-152	2.1.3 まとめ 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムにより、プラント監視機能の喪失、建屋の損壊に伴う広範囲な機能の喪失等の大規模な損壊が 発生するおそれがある場合又は 発生した場合の対応措置として、プラント内において有効に機能する運転員を含む人的資源、設計基準事故対処設備、重大事故等対処設備等の物的資源及びその時点で得られる発電所構内外の情報を活用することにより、様々な事態において柔軟に対応できる「手順書の整備」、「体制の整備」及び「設備・資機材の整備」を行う方針とする。	2.1.3 まとめ 大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムにより、プラント監視機能の喪失、建屋の損壊に伴う広範囲な機能の喪失等の大規模な損壊が発生した場合の対応措置として、プラント内において有効に機能する運転員を含む人的資源、設計基準事故対処設備、重大事故等対処設備等の物的資源及びその時点で得られる発電所構内外の情報を活用することにより、様々な事態において柔軟に対応できる「手順書の整備」、「体制の整備」及び「設備・資機材の整備」を行う方針とする。	審査基準の改正
123	添付資料 2.1.1	添 2.1-1	大規模損壊を発生させる可能性のある大規模な自然現象の抽出プロセスについて 1. 外部事象の収集 柏崎刈羽原子力発電所での設計上考慮すべき事象の選定に当たっては、安全性の観点から考慮すべき外部現象を幅広く検討するために、以下の資料を参考に網羅的に自然現象55事象(表1参照)の収集を行った。 類似・随件事象の観点から前述の収集事象を整理した結果、 自然現象44事象(表2参照) を選定した。	大規模損壊を発生させる可能性のある大規模な自然現象・人為事象の抽出プロセスについて 1. 外部事象の収集 柏崎刈羽原子力発電所での設計上考慮すべき事象の選定に当たっては、安全性の観点から考慮すべき外部現象を幅広く検討するために、以下の資料を参考に網羅的に自然現象55事象(表1参照)及び外部人為事象28事象(表2参照)の収集を行った。 類似・随件事象の観点から前述の収集事象を整理した結果、自然現象44事象(表3参照)、外部人為事象20事象(表4参照)を選定した。	⑤
124	添付資料 2.1.1	添 2.1-1	さらに、日本の自然現象における 実例(資料e) や、米国の原子力発電設備の維持基準に引用されている 米国機械学会の規格(資料f) 、また、関連して、FLEXや大規模損壊事象を取り上げている 米国NEIのガイド(資料g,h) で取り上げられている事象を収集することによって、網羅性を確保した。	(記載なし)	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
125	添付資料 2.1.1	添 2.1-2	<p>表1 文献より収集した自然現象 (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">外部事象</th> <th colspan="8">外部事象を抽出した文献等*</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1-1</td><td>凍結</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-2</td><td>降水</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-3</td><td>降水 (豪雨(大雨))</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-4</td><td>河川の迂回</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-5</td><td>砂嵐 (埃を含んだ風)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-6</td><td>砂塵</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-7</td><td>地震活動</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-8</td><td>積雪 (豪雪等)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-9</td><td>土壌の収縮又は膨張</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-10</td><td>高潮</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-11</td><td>津波</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-12</td><td>火山 (火山活動・降灰)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-13</td><td>波浪・高波</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-14</td><td>雪崩</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-15</td><td>生物学的事象</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-16</td><td>海岸侵食</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-17</td><td>干ばつ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-18</td><td>洪水 (外部洪水)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-19</td><td>嵐 (台風) (暴風(台風))</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-20</td><td>竜巻</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-21</td><td>濃霧</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-22</td><td>森林火災</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-23</td><td>霧、白霧</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-24</td><td>草原火災</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-25</td><td>ひょう、あられ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-26</td><td>極寒</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-27</td><td>満潮</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-28</td><td>ハリケーン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-29</td><td>氷結、結氷橋</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-30</td><td>氷晶</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-31</td><td>氷壁</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-32</td><td>土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-33</td><td>落雪</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-34</td><td>潮又は河川の水位低下</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-35</td><td>潮又は河川の水位上昇</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-36</td><td>陥没、地盤沈下、地割れ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-37</td><td>極限的な圧力 (気圧高/低)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-38</td><td>露</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-39</td><td>降雪、積雪</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-40</td><td>地面の隆起</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-41</td><td>動物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-42</td><td>地滑り</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-43</td><td>カルスト</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-44</td><td>地下水 (浸食、多量/枯渇)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-45</td><td>海水面低</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-46</td><td>海水面高</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-47</td><td>水中の地滑り</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-48</td><td>水中の有機物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-49</td><td>太陽フレア、磁気嵐</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-50</td><td>豪風水 (海水面高)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 「○」は外部事象を収集した文献を示す。</p>	No	外部事象	外部事象を抽出した文献等*								a	b	c	d	e	f	g	h	1-1	凍結									1-2	降水									1-3	降水 (豪雨(大雨))									1-4	河川の迂回									1-5	砂嵐 (埃を含んだ風)									1-6	砂塵									1-7	地震活動									1-8	積雪 (豪雪等)									1-9	土壌の収縮又は膨張									1-10	高潮									1-11	津波									1-12	火山 (火山活動・降灰)									1-13	波浪・高波									1-14	雪崩									1-15	生物学的事象									1-16	海岸侵食									1-17	干ばつ									1-18	洪水 (外部洪水)									1-19	嵐 (台風) (暴風(台風))									1-20	竜巻									1-21	濃霧									1-22	森林火災									1-23	霧、白霧									1-24	草原火災									1-25	ひょう、あられ									1-26	極寒									1-27	満潮									1-28	ハリケーン									1-29	氷結、結氷橋									1-30	氷晶									1-31	氷壁									1-32	土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)									1-33	落雪									1-34	潮又は河川の水位低下									1-35	潮又は河川の水位上昇									1-36	陥没、地盤沈下、地割れ									1-37	極限的な圧力 (気圧高/低)									1-38	露									1-39	降雪、積雪									1-40	地面の隆起									1-41	動物									1-42	地滑り									1-43	カルスト									1-44	地下水 (浸食、多量/枯渇)									1-45	海水面低									1-46	海水面高									1-47	水中の地滑り									1-48	水中の有機物									1-49	太陽フレア、磁気嵐									1-50	豪風水 (海水面高)									<p>表1 文献より収集した自然現象 (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">外部事象</th> <th colspan="8">外部事象を抽出した文献等*</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1-1</td><td>凍結</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-2</td><td>降水</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-3</td><td>降水 (豪雨(大雨))</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-4</td><td>河川の迂回</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-5</td><td>砂嵐 (埃を含んだ風)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-6</td><td>砂塵</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-7</td><td>地震活動</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-8</td><td>積雪 (豪雪等)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-9</td><td>土壌の収縮又は膨張</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-10</td><td>高潮</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-11</td><td>津波</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-12</td><td>火山 (火山活動・降灰)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-13</td><td>波浪・高波</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-14</td><td>雪崩</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-15</td><td>生物学的事象</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-16</td><td>海岸侵食</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-17</td><td>干ばつ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-18</td><td>洪水 (外部洪水)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-19</td><td>嵐 (台風) (暴風(台風))</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-20</td><td>竜巻</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-21</td><td>濃霧</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-22</td><td>森林火災</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-23</td><td>霧、白霧</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-24</td><td>草原火災</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-25</td><td>ひょう、あられ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-26</td><td>極高湿</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-27</td><td>満潮</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-28</td><td>ハリケーン</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-29</td><td>氷結、結氷橋</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-30</td><td>氷晶</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-31</td><td>氷壁</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-32</td><td>土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-33</td><td>落雪</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-34</td><td>潮又は河川の水位低下</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-35</td><td>潮又は河川の水位上昇</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-36</td><td>陥没、地盤沈下、地割れ</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-37</td><td>極限的な圧力 (気圧高/低)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-38</td><td>露</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-39</td><td>降雪、積雪</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-40</td><td>地面の隆起</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-41</td><td>動物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-42</td><td>地滑り</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-43</td><td>カルスト</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-44</td><td>地下水 (浸食、多量/枯渇)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-45</td><td>海水面低</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-46</td><td>海水面高</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-47</td><td>水中の地滑り</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-48</td><td>水中の有機物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-49</td><td>太陽フレア、磁気嵐</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1-50</td><td>豪風水 (海水面高)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 「○」は外部事象を収集した文献を示す。</p>	No.	外部事象	外部事象を抽出した文献等*								a	b	c	d	e	f	g	h	1-1	凍結	○								1-2	降水									1-3	降水 (豪雨(大雨))	○	○							1-4	河川の迂回	○								1-5	砂嵐 (埃を含んだ風)									1-6	砂塵									1-7	地震活動	○	○							1-8	積雪 (豪雪等)	○	○							1-9	土壌の収縮又は膨張									1-10	高潮									1-11	津波	○	○							1-12	火山 (火山活動・降灰)	○	○							1-13	波浪・高波									1-14	雪崩									1-15	生物学的事象	○	○							1-16	海岸侵食	○								1-17	干ばつ									1-18	洪水 (外部洪水)	○	○							1-19	嵐 (台風) (暴風(台風))	○	○							1-20	竜巻	○	○							1-21	濃霧									1-22	森林火災	○	○							1-23	霧、白霧									1-24	草原火災									1-25	ひょう、あられ									1-26	極高湿									1-27	満潮									1-28	ハリケーン									1-29	氷結、結氷橋									1-30	氷晶									1-31	氷壁									1-32	土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)									1-33	落雪	○	○							1-34	潮又は河川の水位低下									1-35	潮又は河川の水位上昇									1-36	陥没、地盤沈下、地割れ	○								1-37	極限的な圧力 (気圧高/低)									1-38	露									1-39	降雪、積雪	○								1-40	地面の隆起	○								1-41	動物									1-42	地滑り	○	○							1-43	カルスト									1-44	地下水 (浸食、多量/枯渇)	○								1-45	海水面低									1-46	海水面高									1-47	水中の地滑り	○								1-48	水中の有機物									1-49	太陽フレア、磁気嵐									1-50	豪風水 (海水面高)									④(他まとめ資料との整合)
			No			外部事象	外部事象を抽出した文献等*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
a	b	c		d	e		f	g	h																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1-1	凍結																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-2	降水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-3	降水 (豪雨(大雨))																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-4	河川の迂回																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-5	砂嵐 (埃を含んだ風)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-6	砂塵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-7	地震活動																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-8	積雪 (豪雪等)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-9	土壌の収縮又は膨張																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-10	高潮																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-11	津波																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-12	火山 (火山活動・降灰)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-13	波浪・高波																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-14	雪崩																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-15	生物学的事象																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-16	海岸侵食																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-17	干ばつ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-18	洪水 (外部洪水)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-19	嵐 (台風) (暴風(台風))																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-20	竜巻																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-21	濃霧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-22	森林火災																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-23	霧、白霧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-24	草原火災																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-25	ひょう、あられ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-26	極寒																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-27	満潮																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-28	ハリケーン																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-29	氷結、結氷橋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-30	氷晶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-31	氷壁																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-32	土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-33	落雪																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-34	潮又は河川の水位低下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-35	潮又は河川の水位上昇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-36	陥没、地盤沈下、地割れ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-37	極限的な圧力 (気圧高/低)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-38	露																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-39	降雪、積雪																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-40	地面の隆起																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-41	動物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-42	地滑り																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-43	カルスト																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-44	地下水 (浸食、多量/枯渇)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-45	海水面低																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-46	海水面高																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-47	水中の地滑り																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-48	水中の有機物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-49	太陽フレア、磁気嵐																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-50	豪風水 (海水面高)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
No.	外部事象	外部事象を抽出した文献等*																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		a	b	c	d	e	f	g	h																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1-1	凍結	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-2	降水																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-3	降水 (豪雨(大雨))	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-4	河川の迂回	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-5	砂嵐 (埃を含んだ風)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-6	砂塵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-7	地震活動	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-8	積雪 (豪雪等)	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-9	土壌の収縮又は膨張																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-10	高潮																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-11	津波	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-12	火山 (火山活動・降灰)	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-13	波浪・高波																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-14	雪崩																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-15	生物学的事象	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-16	海岸侵食	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-17	干ばつ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-18	洪水 (外部洪水)	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-19	嵐 (台風) (暴風(台風))	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-20	竜巻	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-21	濃霧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-22	森林火災	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-23	霧、白霧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-24	草原火災																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-25	ひょう、あられ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-26	極高湿																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-27	満潮																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-28	ハリケーン																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-29	氷結、結氷橋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-30	氷晶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-31	氷壁																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-32	土砂崩れ (山崩れ、がけ崩れ)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-33	落雪	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-34	潮又は河川の水位低下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-35	潮又は河川の水位上昇																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-36	陥没、地盤沈下、地割れ	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-37	極限的な圧力 (気圧高/低)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-38	露																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-39	降雪、積雪	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-40	地面の隆起	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-41	動物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-42	地滑り	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1-43	カルスト																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-44	地下水 (浸食、多量/枯渇)	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-45	海水面低																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-46	海水面高																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-47	水中の地滑り	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
1-48	水中の有機物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-49	太陽フレア、磁気嵐																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1-50	豪風水 (海水面高)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
126	添付資料 2.1.1	添 2.1-3	(削除)	<p>表2 文献より収集した人為事象⁴⁾</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">外部事象</th> <th colspan="8">外部事象を抽出した文献等⁵⁾</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2-1</td><td>衛星の落下</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-2</td><td>パイプラインの事故(ガス等)、パイプライン事故によるサイト内燃焼等</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-3</td><td>交通事故(化学物質流出含む)</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-4</td><td>有毒ガス</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-5</td><td>タービンミサイル</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-6</td><td>飛来物(航空機衝突)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>2-7</td><td>工業施設又は船舶の燃焼</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-8</td><td>船舶の衝突(船舶事故)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-9</td><td>自動車又は船舶の燃焼</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-10</td><td>船舶から放出される固体又は液体不純物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-11</td><td>水中の化学物質</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-12</td><td>燃焼(プラント外での燃焼)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-13</td><td>プラント外での化学物質流出</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-14</td><td>サイト貯蔵の化学物質の流出</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>2-15</td><td>軍事施設からのミサイル</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-16</td><td>煙削工事</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-17</td><td>他のユニットからの火災</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-18</td><td>他のユニットからのミサイル</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-19</td><td>他のユニットからの内部溢水</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-20</td><td>電磁的障害</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-21</td><td>ダムの崩壊</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-22</td><td>内部溢水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-23</td><td>火災(石炭工場等の火災)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-24</td><td>第三者の不法な接近</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-25</td><td>航空機衝突(着陸的)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-26</td><td>妨害破壊行為(内部有る含む)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-27</td><td>サイバーテロ</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2-28</td><td>重量物落下</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 「○」は外部事象を収集した文献を示す。</p>	No.	外部事象	外部事象を抽出した文献等 ⁵⁾								a	b	c	d	e	f	g	h	2-1	衛星の落下			○		○				2-2	パイプラインの事故(ガス等)、パイプライン事故によるサイト内燃焼等	○		○			○	○		2-3	交通事故(化学物質流出含む)			○	○		○	○		2-4	有毒ガス	○	○	○			○	○		2-5	タービンミサイル	○	○	○	○		○	○		2-6	飛来物(航空機衝突)	○	○	○	○		○	○	○	2-7	工業施設又は船舶の燃焼			○	○		○	○		2-8	船舶の衝突(船舶事故)	○	○		○			○		2-9	自動車又は船舶の燃焼				○			○		2-10	船舶から放出される固体又は液体不純物						○			2-11	水中の化学物質					○				2-12	燃焼(プラント外での燃焼)	○	○		○					2-13	プラント外での化学物質流出						○			2-14	サイト貯蔵の化学物質の流出			○	○		○	○		2-15	軍事施設からのミサイル					○				2-16	煙削工事					○				2-17	他のユニットからの火災					○				2-18	他のユニットからのミサイル					○				2-19	他のユニットからの内部溢水					○				2-20	電磁的障害	○	○		○					2-21	ダムの崩壊	○	○		○					2-22	内部溢水	○	○	○	○		○			2-23	火災(石炭工場等の火災)	○	○	○	○					2-24	第三者の不法な接近	○	○							2-25	航空機衝突(着陸的)	○	○		○					2-26	妨害破壊行為(内部有る含む)	○	○							2-27	サイバーテロ	○	○							2-28	重量物落下	○	○		○					⑤
No.	外部事象	外部事象を抽出した文献等 ⁵⁾																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		a	b	c	d	e	f	g	h																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
2-1	衛星の落下			○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-2	パイプラインの事故(ガス等)、パイプライン事故によるサイト内燃焼等	○		○			○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-3	交通事故(化学物質流出含む)			○	○		○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-4	有毒ガス	○	○	○			○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-5	タービンミサイル	○	○	○	○		○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-6	飛来物(航空機衝突)	○	○	○	○		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
2-7	工業施設又は船舶の燃焼			○	○		○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-8	船舶の衝突(船舶事故)	○	○		○			○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-9	自動車又は船舶の燃焼				○			○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-10	船舶から放出される固体又は液体不純物						○																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
2-11	水中の化学物質					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-12	燃焼(プラント外での燃焼)	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2-13	プラント外での化学物質流出						○																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
2-14	サイト貯蔵の化学物質の流出			○	○		○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
2-15	軍事施設からのミサイル					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-16	煙削工事					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-17	他のユニットからの火災					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-18	他のユニットからのミサイル					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-19	他のユニットからの内部溢水					○																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
2-20	電磁的障害	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2-21	ダムの崩壊	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2-22	内部溢水	○	○	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
2-23	火災(石炭工場等の火災)	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2-24	第三者の不法な接近	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2-25	航空機衝突(着陸的)	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2-26	妨害破壊行為(内部有る含む)	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2-27	サイバーテロ	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2-28	重量物落下	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
127	添付資料 2.1.2	添 2.1-5	<p>表2 自然現象の整理(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>36</td><td>地下水による浸食</td><td>(1-44)</td></tr> <tr><td>37</td><td>森林火災</td><td>森林火災(1-22)、草原火災(1-24)</td></tr> <tr><td>38</td><td>生物学的事象</td><td>生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)</td></tr> <tr><td>39</td><td>静振</td><td>静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)</td></tr> <tr><td>40</td><td>塩害、塩雲</td><td>(1-39)</td></tr> <tr><td>41</td><td>隕石、衛星の落下</td><td>隕石(1-2)</td></tr> <tr><td>42</td><td>太陽フレア、磁気嵐</td><td>(1-49)</td></tr> <tr><td>43</td><td>土石流</td><td>(1-53)</td></tr> <tr><td>44</td><td>泥湧出</td><td>(1-52)</td></tr> </tbody> </table> <p>※ () 内の番号は「表1 文献より収集した自然現象」における番号</p>	No.	自然現象	備考	36	地下水による浸食	(1-44)	37	森林火災	森林火災(1-22)、草原火災(1-24)	38	生物学的事象	生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)	39	静振	静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)	40	塩害、塩雲	(1-39)	41	隕石、衛星の落下	隕石(1-2)	42	太陽フレア、磁気嵐	(1-49)	43	土石流	(1-53)	44	泥湧出	(1-52)	<p>表3 自然現象の整理(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>38</td><td>生物学的事象</td><td>生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)</td></tr> <tr><td>39</td><td>静振</td><td>静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)</td></tr> <tr><td>40</td><td>塩害、塩雲</td><td>(1-39)</td></tr> <tr><td>41</td><td>隕石、衛星の落下</td><td>隕石(1-2)、衛星の落下(2-1)</td></tr> <tr><td>42</td><td>太陽フレア、磁気嵐</td><td>(1-49)</td></tr> <tr><td>43</td><td>土石流</td><td>(1-53)</td></tr> <tr><td>44</td><td>泥湧出</td><td>(1-52)</td></tr> </tbody> </table> <p>※ () 内の番号は「表1 文献より収集した自然現象」における番号</p>	No.	自然現象	備考	38	生物学的事象	生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)	39	静振	静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)	40	塩害、塩雲	(1-39)	41	隕石、衛星の落下	隕石(1-2)、衛星の落下(2-1)	42	太陽フレア、磁気嵐	(1-49)	43	土石流	(1-53)	44	泥湧出	(1-52)	⑤																																																																																																																																																																																																																																																				
No.	自然現象	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
36	地下水による浸食	(1-44)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
37	森林火災	森林火災(1-22)、草原火災(1-24)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
38	生物学的事象	生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
39	静振	静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
40	塩害、塩雲	(1-39)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
41	隕石、衛星の落下	隕石(1-2)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
42	太陽フレア、磁気嵐	(1-49)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
43	土石流	(1-53)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
44	泥湧出	(1-52)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
No.	自然現象	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
38	生物学的事象	生物学的事象(1-15)、動物(1-41)、水中の有機物(1-48)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
39	静振	静振(1-6)、湖又は河川の水位低下(1-34)、湖又は河川の水位上昇(1-35)、海水面低(1-45)、海水面高(1-46)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
40	塩害、塩雲	(1-39)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
41	隕石、衛星の落下	隕石(1-2)、衛星の落下(2-1)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
42	太陽フレア、磁気嵐	(1-49)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
43	土石流	(1-53)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
44	泥湧出	(1-52)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																															
128	添付資料 2.1.1	添 2.1-6	(削除)	<p style="text-align: center;">表 4 人為事象の整理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>人為事象</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>航空機落下</td> <td>(2-8)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ダムの崩壊</td> <td>(2-21)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>火災・爆発</td> <td>交通事故(化学物質流出含む)(2-3), 爆発(プラント外での爆発)(2-12), 他のユニットからの火災(2-17), 火災(近隣工場等の火災)(2-23)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>有毒ガス</td> <td>(2-4)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>船舶の衝突</td> <td>(2-8)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>電磁的障害</td> <td>(2-20)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パイプライン事故</td> <td>(2-2)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第三者の不法な接近</td> <td>(2-24)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>航空機衝突(意図的)</td> <td>(2-25)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>妨害破壊行為 (内部脅威含む)</td> <td>(2-26)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>サイバーテロ</td> <td>(2-27)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>産業施設の事故</td> <td>工業施設又は船舶の爆発(2-7)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>輸送事故</td> <td>自動車又は船舶の爆発(2-9)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>軍事活動による ミサイルの飛来</td> <td>(2-15)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>サイト内外での掘削</td> <td>(2-16)</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>内部溢水</td> <td>他のユニットからの内部溢水(2-19), 内部溢水(2-22)</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>タービンミサイル</td> <td>タービンミサイル(2-5), 他のユニットからのミサイル(2-18)</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>重量物輸送</td> <td>(2-28)</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>化学物質の放出による 水質悪化</td> <td>船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10), 水中の化学物質(2-11), プラント外での化学物質流出(2-13), サイト貯蔵の化学物質の流出(2-14)</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>油流出</td> <td>船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()内の番号は「表2 文献より収集した人為事象」における番号</p>	No.	人為事象	備考	1	航空機落下	(2-8)	2	ダムの崩壊	(2-21)	3	火災・爆発	交通事故(化学物質流出含む)(2-3), 爆発(プラント外での爆発)(2-12), 他のユニットからの火災(2-17), 火災(近隣工場等の火災)(2-23)	4	有毒ガス	(2-4)	5	船舶の衝突	(2-8)	6	電磁的障害	(2-20)	7	パイプライン事故	(2-2)	8	第三者の不法な接近	(2-24)	9	航空機衝突(意図的)	(2-25)	10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	(2-26)	11	サイバーテロ	(2-27)	12	産業施設の事故	工業施設又は船舶の爆発(2-7)	13	輸送事故	自動車又は船舶の爆発(2-9)	14	軍事活動による ミサイルの飛来	(2-15)	15	サイト内外での掘削	(2-16)	16	内部溢水	他のユニットからの内部溢水(2-19), 内部溢水(2-22)	17	タービンミサイル	タービンミサイル(2-5), 他のユニットからのミサイル(2-18)	18	重量物輸送	(2-28)	19	化学物質の放出による 水質悪化	船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10), 水中の化学物質(2-11), プラント外での化学物質流出(2-13), サイト貯蔵の化学物質の流出(2-14)	20	油流出	船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10)	⑤
No.	人為事象	備考																																																																		
1	航空機落下	(2-8)																																																																		
2	ダムの崩壊	(2-21)																																																																		
3	火災・爆発	交通事故(化学物質流出含む)(2-3), 爆発(プラント外での爆発)(2-12), 他のユニットからの火災(2-17), 火災(近隣工場等の火災)(2-23)																																																																		
4	有毒ガス	(2-4)																																																																		
5	船舶の衝突	(2-8)																																																																		
6	電磁的障害	(2-20)																																																																		
7	パイプライン事故	(2-2)																																																																		
8	第三者の不法な接近	(2-24)																																																																		
9	航空機衝突(意図的)	(2-25)																																																																		
10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	(2-26)																																																																		
11	サイバーテロ	(2-27)																																																																		
12	産業施設の事故	工業施設又は船舶の爆発(2-7)																																																																		
13	輸送事故	自動車又は船舶の爆発(2-9)																																																																		
14	軍事活動による ミサイルの飛来	(2-15)																																																																		
15	サイト内外での掘削	(2-16)																																																																		
16	内部溢水	他のユニットからの内部溢水(2-19), 内部溢水(2-22)																																																																		
17	タービンミサイル	タービンミサイル(2-5), 他のユニットからのミサイル(2-18)																																																																		
18	重量物輸送	(2-28)																																																																		
19	化学物質の放出による 水質悪化	船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10), 水中の化学物質(2-11), プラント外での化学物質流出(2-13), サイト貯蔵の化学物質の流出(2-14)																																																																		
20	油流出	船舶から放出される固体又は液体不純物 (2-10)																																																																		
129	添付資料 2.1.1	添 2.1-6	<p>(1)各事象の影響度評価と選定 各自然現象について、想定される発電所への影響(損傷・機能喪失モード)を踏まえ、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合に考え得る起因事象について評価し、その結果から特にプラントの安全性に影響を与える可能性がある事象を選定した。(表3参照。)</p> <p>選定に当たっては、そもそも柏崎刈羽原子力発電所において発生する可能性はあるか、非常に苛酷な状況を想定した場合、プラントの安全性が損なわれる可能性があるか、影響度の大きさから代表事象による評価が可能かといった観点で確認した。</p>	<p>(1)各事象の影響度評価と選定 各自然現象・各人為事象について、想定される発電所への影響(損傷・機能喪失モード)を踏まえ、設計基準を超えるような非常に苛酷な状況を想定した場合に考え得る起因事象について評価し、その結果から特にプラントの安全性に影響を与える可能性がある事象を選定した。(自然現象については表5、人為事象については表6参照。)</p> <p>選定に当たっては、そもそも柏崎刈羽原子力発電所において発生する可能性はあるか、非常に苛酷な状況を想定した場合、プラントの安全性が損なわれる可能性があるか、影響度の大きさから代表事象による評価が可能かといった観点で確認した。</p>	⑤																																																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
130	添付資料 2.1.1	添 2.1-6	<p>(2)選定結果 上記評価の結果、苛酷な状況となる可能性がある事象であって、影響の程度評価を行うべき外部事象を以下のとおり選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風(台風) ・竜巻 ・低温(凍結) ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石 	<p>(2)選定結果 上記評価の結果、苛酷な状況となる可能性がある事象であって、影響の程度評価を行うべき外部事象を以下のとおり選定した。</p> <p>【自然現象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 ・地震と津波の重畳 ・風(台風) ・竜巻 ・低温(凍結) ・降水 ・積雪 ・落雷 ・火山 ・隕石 <p>※ 森林火災については、出火原因となるのは、たき火やタバコ等の人為によるものが大半であると想定し、人為事象「火災・爆発」に整理した。</p> <p>【人為事象(偶発的)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空機落下※ ・火災、爆発(森林火災、近隣工場の火災・爆発等) ・有毒ガス ・船舶の衝突 ・電磁的障害 ・軍事活動によるミサイル飛来 ・内部溢水 <p>【人為事象(意図的)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者の不法な接近 ・航空機衝突(意図的) ・妨害破壊行為(内部脅威含む) ・サイバーテロ 	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																
131	添付資料 2.1.1	添 2.1-7	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (1/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照</td> <td>①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留</td> <td>・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	1	降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照	①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留	・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (1/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照</td> <td>①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留</td> <td>・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が浸水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が雨水荷重により崩落した場合にタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、冷水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	1	降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照	①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留	・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が浸水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が雨水荷重により崩落した場合にタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、冷水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。	⑤
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																		
1	降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照	①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留	・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。																		
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																		
1	降水 ※詳細は添付資料 2.1.8参照	①浸水 敷地及び建屋内浸水による機器浸水 ②雨重（破壊荷重） 建屋上での雨水排水不可（排水能力超過）による滞留	・降水の影響により屋外の送電設備が機能喪失し、外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが浸水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が浸水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が雨水荷重により崩落した場合にタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、冷水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は浸水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が雨水荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が浸水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。																		
132	添付資料 2.1.1	添 2.1-8	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (2/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照</td> <td>①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水</td> <td>・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。さらに、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンクの天井が積雪荷重により崩落した場合に、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照	①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水	・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。さらに、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンクの天井が積雪荷重により崩落した場合に、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (2/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照</td> <td>①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水</td> <td>・原子炉建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、積雪（雪割け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合に、積雪（雪割け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照	①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水	・原子炉建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、積雪（雪割け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合に、積雪（雪割け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。	⑤
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																		
2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照	①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水	・原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。さらに、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部浸水により機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンクの天井が積雪荷重により崩落した場合に、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。																		
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																		
2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2参照	①雨重（破壊荷重） 建屋及び屋外機器への堆積 ②相間短絡 送電・変電設備の屋外設備への着水	・原子炉建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、積雪（雪割け水含む）の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。 ・タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合に、積雪（雪割け水含む）の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ浸水が伝播し機能喪失に至るシナリオ。 ・廃棄物処理建屋上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプM/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪（雪割け水含む）の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。 ・軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至り、以下④に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備（燃料タンク）の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・送電線や降子へ雪が着水（着水雪）することによって、相間短絡を起し外部電源が喪失するシナリオ。																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																
133	添付資料 2.1.1	添 2.1-9	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (3/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照</td> <td>①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)</td> <td>・非常用ディーゼル発電機 (以下、D/G) 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>雪崩</td> <td>①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重</td> <td>・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ひょう、あられ</td> <td>①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突</td> <td>・竜巻の影響に包絡される。(No.10 参照)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>氷嵐、雨水、みぞれ</td> <td>①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水</td> <td>・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>氷晶</td> <td>①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着</td> <td>・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>霜、霜柱</td> <td>①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成</td> <td>・建物及び屋外機器への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>結氷板、流水、氷壁</td> <td>①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞</td> <td>・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照	①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)	・非常用ディーゼル発電機 (以下、D/G) 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。	3	雪崩	①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重	・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	4	ひょう、あられ	①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突	・竜巻の影響に包絡される。(No.10 参照)	5	氷嵐、雨水、みぞれ	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水	・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)	6	氷晶	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着	・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)	7	霜、霜柱	①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成	・建物及び屋外機器への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	8	結氷板、流水、氷壁	①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞	・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (3/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照</td> <td>①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)</td> <td>・中央制御室換気空調及び D/G 室空調給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至るシナリオ。(ただし、中央制御室換気空調については、外気迎断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>雪崩</td> <td>①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重</td> <td>・D/G 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ひょう、あられ</td> <td>①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突</td> <td>・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>氷嵐、雨水、みぞれ</td> <td>①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水</td> <td>・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>氷晶</td> <td>①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着</td> <td>・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>霜、霜柱</td> <td>①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成</td> <td>・建物や屋外設備への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>結氷板、流水、氷壁</td> <td>①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞</td> <td>・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照	①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)	・中央制御室換気空調及び D/G 室空調給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至るシナリオ。(ただし、中央制御室換気空調については、外気迎断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。)	3	雪崩	①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重	・D/G 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。	4	ひょう、あられ	①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突	・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	5	氷嵐、雨水、みぞれ	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水	・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)	6	氷晶	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着	・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)	7	霜、霜柱	①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成	・建物や屋外設備への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	8	結氷板、流水、氷壁	①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞	・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	⑤
			No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																															
			2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照	①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)	・非常用ディーゼル発電機 (以下、D/G) 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。																																																															
			3	雪崩	①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重	・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			4	ひょう、あられ	①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突	・竜巻の影響に包絡される。(No.10 参照)																																																															
			5	氷嵐、雨水、みぞれ	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水	・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)																																																															
			6	氷晶	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着	・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)																																																															
			7	霜、霜柱	①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成	・建物及び屋外機器への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			8	結氷板、流水、氷壁	①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞	・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																															
			2	積雪 ※詳細は添付資料 2.1.2 参照	①閉塞 (空調) 給排気口の閉塞 (堆積又は付着による給気口閉塞)	・中央制御室換気空調及び D/G 室空調給気口の閉塞により各空調設備が機能喪失に至るシナリオ。(ただし、中央制御室換気空調については、外気迎断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。)																																																															
			3	雪崩	①荷重 (衝突) 雪崩による建屋及び屋外機器への荷重	・D/G 室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。																																																															
			4	ひょう、あられ	①荷重 (衝突) 建屋及び屋外機器へのひょう (又はあられ) の衝突	・建屋周辺に急峻な斜面がないことから、プラントの安全性に影響を与えるような雪崩は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
5	氷嵐、雨水、みぞれ	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への雨水等の着水	・火山及び積雪の影響に包絡される。(火山は No.26、積雪は No.2 参照)																																																																		
6	氷晶	①荷重 (堆積) 建屋及び屋外機器への付着 ②閉塞 (空調) 建屋及び屋外機器への付着	・積雪の影響に包絡される。(No.2 参照)																																																																		
7	霜、霜柱	①- 建屋及び屋外機器への霜の付着、敷地での霜柱生成	・建物や屋外設備への霜付着による影響はなく、霜柱についても発生範囲は土壌内範囲であるため、プラントの安全性が損なわれるような影響は発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																		
8	結氷板、流水、氷壁	①閉塞 (取水) 流水等による取水口閉塞	・抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生せず、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																		
134	添付資料 2.1.1	添 2.1-10	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (4/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9</td> <td>風 (台風含む) ※詳細は添付資料 2.1.6 参照</td> <td>①荷重 (風圧、衝突) 風圧 (又は飛来物衝突) による建屋、設備の損傷 ②閉塞 (取水) 台風による漂流物による取水口閉塞</td> <td>・風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン、発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至るシナリオ。 ・風荷重にて軽油タンク等が損傷し、かつ同時に外部電源喪失が発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ※飛来物衝突影響については竜巻の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>竜巻 ※詳細は添付資料 2.1.7 参照</td> <td>①閉塞 (取水) 竜巻により取水口周辺の海に飛散した資機材等による取水口閉塞</td> <td>・台風による漂流物により取水口が閉塞した場合、原子炉補給機冷却海水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・風荷重及び気圧差荷重によるタービン建屋損傷又は、飛来物が建屋外壁を貫通し、タービンや発電機に衝突することに伴いタービントリップに至るシナリオ。 ・送変電設備損傷に伴い外部電源喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンク等が損傷、かつ外部電源喪失している状況下において、非常用ディーゼル発電設備の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・補給水ポンプが飛来物により損傷し、循環水の真空度が低下することに伴い出力低下又は手動停止に至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>砂嵐</td> <td>①閉塞 (空調) 空調フィルタの閉塞</td> <td>・竜巻や黄砂は抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生していないこと、及び発生を仮定してもその影響は No.26 火山の降下火砕物による「②閉塞 (空調)」事象に包絡されることから、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>霧、露</td> <td>①- 発電所敷地内での霧、露 (もや) の発生による設備等への影響なし</td> <td>・安全施設の機能が損なわれることはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	9	風 (台風含む) ※詳細は添付資料 2.1.6 参照	①荷重 (風圧、衝突) 風圧 (又は飛来物衝突) による建屋、設備の損傷 ②閉塞 (取水) 台風による漂流物による取水口閉塞	・風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン、発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至るシナリオ。 ・風荷重にて軽油タンク等が損傷し、かつ同時に外部電源喪失が発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ※飛来物衝突影響については竜巻の影響に包絡される。	10	竜巻 ※詳細は添付資料 2.1.7 参照	①閉塞 (取水) 竜巻により取水口周辺の海に飛散した資機材等による取水口閉塞	・台風による漂流物により取水口が閉塞した場合、原子炉補給機冷却海水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・風荷重及び気圧差荷重によるタービン建屋損傷又は、飛来物が建屋外壁を貫通し、タービンや発電機に衝突することに伴いタービントリップに至るシナリオ。 ・送変電設備損傷に伴い外部電源喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンク等が損傷、かつ外部電源喪失している状況下において、非常用ディーゼル発電設備の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・補給水ポンプが飛来物により損傷し、循環水の真空度が低下することに伴い出力低下又は手動停止に至るシナリオ。	11	砂嵐	①閉塞 (空調) 空調フィルタの閉塞	・竜巻や黄砂は抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生していないこと、及び発生を仮定してもその影響は No.26 火山の降下火砕物による「②閉塞 (空調)」事象に包絡されることから、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	12	霧、露	①- 発電所敷地内での霧、露 (もや) の発生による設備等への影響なし	・安全施設の機能が損なわれることはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	<p>表6 評価対象人為事象評価結果 (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>人為事象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>妨害破壊行為 (内部脅威含む)</td> <td>①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>サイバーテロ</td> <td>①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>産業施設の事故</td> <td>①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発</td> <td>・発電所敷地周辺に石炭コンテナが設置されていないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>輸送事故</td> <td>①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発</td> <td>・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険境界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても竜巻の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>軍事活動によるミサイルの飛来</td> <td>①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋、屋外設備への熱影響</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>サイト内外での掘削</td> <td>①物理的損傷 発電所内外において地面の掘削工事を行い、設備の一部を損傷</td> <td>・地面の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地震による影響に包絡される。</td> </tr> </tbody> </table>	No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ		11	サイバーテロ	①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作		12	産業施設の事故	①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発	・発電所敷地周辺に石炭コンテナが設置されていないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	13	輸送事故	①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発	・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険境界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても竜巻の影響に包絡される。	14	軍事活動によるミサイルの飛来	①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋、屋外設備への熱影響		15	サイト内外での掘削	①物理的損傷 発電所内外において地面の掘削工事を行い、設備の一部を損傷	・地面の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地震による影響に包絡される。	⑤																
			No	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																															
			9	風 (台風含む) ※詳細は添付資料 2.1.6 参照	①荷重 (風圧、衝突) 風圧 (又は飛来物衝突) による建屋、設備の損傷 ②閉塞 (取水) 台風による漂流物による取水口閉塞	・風荷重によりタービン建屋が損傷し、タービン、発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。 ・風荷重による送変電設備の損傷により外部電源喪失に至るシナリオ。 ・風荷重にて軽油タンク等が損傷し、かつ同時に外部電源喪失が発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ※飛来物衝突影響については竜巻の影響に包絡される。																																																															
			10	竜巻 ※詳細は添付資料 2.1.7 参照	①閉塞 (取水) 竜巻により取水口周辺の海に飛散した資機材等による取水口閉塞	・台風による漂流物により取水口が閉塞した場合、原子炉補給機冷却海水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・風荷重及び気圧差荷重によるタービン建屋損傷又は、飛来物が建屋外壁を貫通し、タービンや発電機に衝突することに伴いタービントリップに至るシナリオ。 ・送変電設備損傷に伴い外部電源喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンク等が損傷、かつ外部電源喪失している状況下において、非常用ディーゼル発電設備の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ・補給水ポンプが飛来物により損傷し、循環水の真空度が低下することに伴い出力低下又は手動停止に至るシナリオ。																																																															
			11	砂嵐	①閉塞 (空調) 空調フィルタの閉塞	・竜巻や黄砂は抽油機羽原子力発電所及びその周辺においては発生していないこと、及び発生を仮定してもその影響は No.26 火山の降下火砕物による「②閉塞 (空調)」事象に包絡されることから、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			12	霧、露	①- 発電所敷地内での霧、露 (もや) の発生による設備等への影響なし	・安全施設の機能が損なわれることはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																															
			10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ																																																																
			11	サイバーテロ	①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作																																																																
			12	産業施設の事故	①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発	・発電所敷地周辺に石炭コンテナが設置されていないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																															
			13	輸送事故	①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発	・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険境界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても竜巻の影響に包絡される。																																																															
			14	軍事活動によるミサイルの飛来	①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋、屋外設備への熱影響																																																																
15	サイト内外での掘削	①物理的損傷 発電所内外において地面の掘削工事を行い、設備の一部を損傷	・地面の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地震による影響に包絡される。																																																																		
<p>※掘削の内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>																																																																					

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																				
135	添付資料 2.1.1	添 2.1-11	<p>表 3 評価対象自然現象評価結果 (5/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13</td> <td>高温</td> <td>①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下</td> <td>空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照</td> <td>①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結</td> <td>雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が発生し、さらに軽油タンク等内の軽油の凍結により非常用ディーゼル発電設備(燃料ディスタック)の燃料が枯渇し全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>高温水 (海水温度高)</td> <td>①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響</td> <td>海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>低温水 (海水温度低)</td> <td>①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし</td> <td>取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>極限的な圧力 (気圧高、気圧低)</td> <td>①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響</td> <td>竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照</td> <td>①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷</td> <td>落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。なお、その他過渡事象については、内部事象レベル1FA等にて考慮されている。</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>高潮</td> <td>①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波の影響に包絡される。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	13	高温	①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下	空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	14	低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照	①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結	雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が発生し、さらに軽油タンク等内の軽油の凍結により非常用ディーゼル発電設備(燃料ディスタック)の燃料が枯渇し全交流動力電源喪失に至るシナリオ。	15	高温水 (海水温度高)	①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響	海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。	16	低温水 (海水温度低)	①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし	取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	17	極限的な圧力 (気圧高、気圧低)	①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響	竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)	18	落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照	①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷	落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。なお、その他過渡事象については、内部事象レベル1FA等にて考慮されている。	19	高潮	①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。	<p>表 5 評価対象自然現象評価結果 (5/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13</td> <td>高温</td> <td>①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下</td> <td>空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照</td> <td>①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結</td> <td>軽油タンク等内の軽油の凍結と雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が同時発生し、非常用ディーゼル発電設備ディスタックの燃料枯渇となり全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>高温水 (海水温度高)</td> <td>①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響</td> <td>海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>低温水 (海水温度低)</td> <td>①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし</td> <td>取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>極限的な圧力 (気圧高/低)</td> <td>①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響</td> <td>竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照</td> <td>①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷</td> <td>落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失となり、その他過渡事象に至るシナリオ。 津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>高潮</td> <td>①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>波浪</td> <td>①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波の影響に包絡される。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	13	高温	①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下	空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	14	低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照	①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結	軽油タンク等内の軽油の凍結と雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が同時発生し、非常用ディーゼル発電設備ディスタックの燃料枯渇となり全交流動力電源喪失に至るシナリオ。	15	高温水 (海水温度高)	①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響	海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。	16	低温水 (海水温度低)	①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし	取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	17	極限的な圧力 (気圧高/低)	①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響	竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)	18	落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照	①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷	落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失となり、その他過渡事象に至るシナリオ。 津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。	19	高潮	①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。	20	波浪	①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。	⑤
			No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																																			
13	高温	①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下	空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
14	低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照	①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結	雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が発生し、さらに軽油タンク等内の軽油の凍結により非常用ディーゼル発電設備(燃料ディスタック)の燃料が枯渇し全交流動力電源喪失に至るシナリオ。																																																																						
15	高温水 (海水温度高)	①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響	海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。																																																																						
16	低温水 (海水温度低)	①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし	取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
17	極限的な圧力 (気圧高、気圧低)	①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響	竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)																																																																						
18	落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照	①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷	落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。なお、その他過渡事象については、内部事象レベル1FA等にて考慮されている。																																																																						
19	高潮	①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。																																																																						
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																																						
13	高温	①外気温度高 外気温度高による機器等の冷却能力低下	空調設計条件を超過する可能性はあるものの、1日の中でも気温の変動があり高温状態が長時間にわたり継続しないこと、空調設備が余裕をもって設計されていること、また、外気温度高により即座停機が確かなることはないことから、安全装置の機能は損なわれることはない。よって、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
14	低温(凍結) ※詳細は添付資料 2.1.3参照	①外気温度低(凍結) 屋外配管・タンクの内部流体凍結	軽油タンク等内の軽油の凍結と雪氷による相間短縮によって外部電源喪失が同時発生し、非常用ディーゼル発電設備ディスタックの燃料枯渇となり全交流動力電源喪失に至るシナリオ。																																																																						
15	高温水 (海水温度高)	①海水温度高(冷却機能低下:海水系) 取水温度高に伴う冷却性能への影響	海水温度高に伴う復水器真空度低下により、タービントリップに至るシナリオ。																																																																						
16	低温水 (海水温度低)	①- 取水温度低に伴う海水系機器への影響なし	取水温度低について冷却性能の劣化につながるが、影響はないため、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
17	極限的な圧力 (気圧高/低)	①荷重(気圧能) 気圧能による空調設備等への影響	竜巻の影響に包絡される。(No.10参照)																																																																						
18	落雷 ※詳細は添付資料 2.1.4参照	①雷サージ及び誘導電流 過電圧による設備損傷	落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントシステムに至るシナリオ。 屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。 屋外設置のタンク類(軽油タンク、酸化窒素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を繋ぐケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失となり、その他過渡事象に至るシナリオ。 津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。																																																																						
19	高潮	①浸水 高潮による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。																																																																						
20	波浪	①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。																																																																						
136	添付資料 2.1.1	添 2.1-12	<p>表 3 評価対象自然現象評価結果 (6/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20</td> <td>波浪</td> <td>①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>風津波</td> <td>①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>洪水</td> <td>①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)</td> <td>津波以外の洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>池・河川の 水位低下</td> <td>①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>河川の迂回</td> <td>①- 河川の迂回による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>干ばつ</td> <td>①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	20	波浪	①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。	21	風津波	①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。	22	洪水	①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)	津波以外の洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	23	池・河川の 水位低下	①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	24	河川の迂回	①- 河川の迂回による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	25	干ばつ	①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	<p>表 5 評価対象自然現象評価結果 (6/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21</td> <td>風津波</td> <td>①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響</td> <td>津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>洪水</td> <td>①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)</td> <td>津波以外の外部洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>池・河川の 水位低下</td> <td>①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>河川の迂回</td> <td>①- 河川の迂回による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>干ばつ</td> <td>①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし</td> <td>柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	21	風津波	①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響	津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。	22	洪水	①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)	津波以外の外部洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	23	池・河川の 水位低下	①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	24	河川の迂回	①- 河川の迂回による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	25	干ばつ	①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	⑤																
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																																						
20	波浪	①浸水 波浪による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。																																																																						
21	風津波	①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響	津波の影響に包絡される。																																																																						
22	洪水	①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)	津波以外の洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
23	池・河川の 水位低下	①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
24	河川の迂回	①- 河川の迂回による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
25	干ばつ	①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																																						
21	風津波	①浸水 風津波による建屋や機器への浸水影響	津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包絡される。																																																																						
22	洪水	①浸水 発電所敷地の浸水による建屋や機器への影響(津波を除く)	津波以外の外部洪水としては、ダムの決壊や河川の氾濫等考えられるが、柏崎刈羽原子力発電所へ影響を及ぼす範囲にダムや河川はない。したがって、本事業によるプラントへの影響はないことから、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
23	池・河川の 水位低下	①- 河川等の水位低下による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
24	河川の迂回	①- 河川の迂回による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						
25	干ばつ	①- 干ばつに伴う河川等からの取水不可による設備等への影響なし	柏崎刈羽原子力発電所は海水を冷却源としていることから、河川等からの取水不可によるプラントへの影響はなく、本事業から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																																						

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																								
137	添付資料 2.1.1	添 2.1-13	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (7/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照</td> <td> ①荷重 (破壊荷重) 建屋等やタンク等上部への降下火砕物の堆積による天开枪落 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞、軽油タンクのベント管の閉塞及び非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続 ④腐食 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 ⑤相間短絡 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 </td> <td> ・原子炉建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービンリフトに至るシナリオ。さらに、原子炉建屋冷却系及び海水系が物理的に損傷し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、海水系ポンプが機能喪失し、復水器真空度底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が物理的に損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクの天开枪が崩落した場合に、軽油タンクの機能喪失に至り、⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備 (燃料ディタンク) の燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の降下火砕物が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・非常用ディーゼル発電機空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・降下火砕物の送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。 </td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	26	火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照	①荷重 (破壊荷重) 建屋等やタンク等上部への降下火砕物の堆積による天开枪落 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞、軽油タンクのベント管の閉塞及び非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続 ④腐食 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 ⑤相間短絡 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡	・原子炉建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービンリフトに至るシナリオ。さらに、原子炉建屋冷却系及び海水系が物理的に損傷し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、海水系ポンプが機能喪失し、復水器真空度底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が物理的に損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクの天开枪が崩落した場合に、軽油タンクの機能喪失に至り、⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備 (燃料ディタンク) の燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の降下火砕物が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・非常用ディーゼル発電機空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・降下火砕物の送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (7/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照</td> <td> ①荷重 (破壊) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。 </td> <td> ・原子炉建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置しているタービン、発電機に影響が及びタービンリフトに至るシナリオ。また、復水器真空度が底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクが火山灰堆積荷重により天开枪落、破損に至り、以下⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の火山灰が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。 </td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	26	火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照	①荷重 (破壊) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。	・原子炉建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置しているタービン、発電機に影響が及びタービンリフトに至るシナリオ。また、復水器真空度が底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクが火山灰堆積荷重により天开枪落、破損に至り、以下⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の火山灰が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。	⑤																																								
			No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																							
26	火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照	①荷重 (破壊荷重) 建屋等やタンク等上部への降下火砕物の堆積による天开枪落 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞、軽油タンクのベント管の閉塞及び非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続 ④腐食 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 ⑤相間短絡 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡	・原子炉建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービンリフトに至るシナリオ。さらに、原子炉建屋冷却系及び海水系が物理的に損傷し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、海水系ポンプが機能喪失し、復水器真空度底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋の天开枪が崩落した場合に、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が物理的に損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクの天开枪が崩落した場合に、軽油タンクの機能喪失に至り、⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備 (燃料ディタンク) の燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の降下火砕物が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・非常用ディーゼル発電機空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・降下火砕物の送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。																																																										
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																										
26	火山 ※詳細は添付資料 2.1.5 参照	①荷重 (破壊) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ②閉塞 (取水) 降下火砕物の取水口及び海水系への取込みによる閉塞 ③閉塞及び断続 降下火砕物による換気空調系の閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。	・原子炉建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している原子炉建屋冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・タービン建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置しているタービン、発電機に影響が及びタービンリフトに至るシナリオ。また、復水器真空度が底からプラントシステムに至るシナリオ。 ・コントロール建屋最上層が火山灰堆積荷重により崩落し、建屋最上層に設置している中央制御室内設備が損傷し、計測制御機能喪失に至るシナリオ。 ・軽油タンクが火山灰堆積荷重により天开枪落、破損に至り、以下⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・海水中の火山灰が高濃度な場合に、駆動機器の伝動管、海水ポンプの軸受の閉塞による異常磨耗や海水ストレーナの自動洗浄能力を上回ることに伴う閉塞により、海水系設備の機能喪失、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ・D/G 空調給気口又は軽油タンクの閉塞若しくは非常用ディーゼル発電設備燃料移送ポンプの軸受断続により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電機喪失に至るシナリオ。 ・腐食の進行は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 ・火山灰が送電網の導子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至るシナリオ。																																																										
138	添付資料 2.1.1	添 2.1-14	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (8/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>地滑り</td> <td>①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突</td> <td> ・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。 </td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>海水中の地滑り</td> <td>①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞</td> <td> ・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。 </td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>地面隆起 (相対的な水位低下)</td> <td>①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷</td> <td> ・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>土地の浸食、カルスト</td> <td>①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷</td> <td> ・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>土の伸縮</td> <td>①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷</td> <td> ・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>海岸浸食</td> <td>①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響</td> <td> ・海岸浸食は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	27	地滑り	①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突	・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。	28	海水中の地滑り	①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞	・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。	29	地面隆起 (相対的な水位低下)	①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	30	土地の浸食、カルスト	①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷	・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	31	土の伸縮	①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷	・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	32	海岸浸食	①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響	・海岸浸食は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (8/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>地滑り</td> <td>①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突</td> <td> ・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。 </td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>海水中の地滑り</td> <td>①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞</td> <td> ・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。 </td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>地面隆起/低水位</td> <td>①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷</td> <td> ・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>土地の浸食、カルスト</td> <td>①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷</td> <td> ・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>土の伸縮</td> <td>①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷</td> <td> ・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>海岸浸食</td> <td>①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響</td> <td> ・海岸浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。 </td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	27	地滑り	①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突	・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。	28	海水中の地滑り	①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞	・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。	29	地面隆起/低水位	①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	30	土地の浸食、カルスト	①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷	・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	31	土の伸縮	①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷	・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	32	海岸浸食	①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響	・海岸浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	⑤
			No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																							
27	地滑り	①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突	・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。																																																										
28	海水中の地滑り	①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞	・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。																																																										
29	地面隆起 (相対的な水位低下)	①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
30	土地の浸食、カルスト	①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷	・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
31	土の伸縮	①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷	・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
32	海岸浸食	①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響	・海岸浸食は時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																																																										
27	地滑り	①荷重 (衝突) 地滑りに伴う土砂等の堆積・屋外設備への衝突	・送電設備については、斜面に設置されているものもあり、地滑りに伴って送電設備が倒壊することで、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・一方、周辺斜面と原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は十分な緩衝距離を有しており、プラントの安全性に影響が及ぶことはない。																																																										
28	海水中の地滑り	①閉塞 (取水) 海水中の地滑りに伴う取水口閉塞	・港湾内については、海底に地滑りの発生し得る起伏がないため、発生可能性がない。 ・港湾外の地滑りに伴い発生可能性のある津波については、津波事象として考慮。																																																										
29	地面隆起/低水位	①地盤安定性 地盤の隆起に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地面隆起は、地震の随伴事象である。原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は岩盤や杭基礎で施工されており、地震時は一体となって変動することから、プラントの安全性に影響が及ぶような部分的な地面隆起は発生せず、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
30	土地の浸食、カルスト	①地盤安定性 土壌の流出による荒廃。地盤沈下に伴う建屋や屋外設備の周辺地面の浸食による設備等の損傷	・土地の浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
31	土の伸縮	①地盤安定性 建屋・屋外設備の周辺地面の変状による設備等の損傷	・原子炉建屋等の基礎となる発電用原子炉施設は、岩盤や杭基礎等の土留に施工されており、土の伸縮による影響を受けにくい。また、土の伸縮は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。 ・よって、本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										
32	海岸浸食	①冷却機能低下: 海水系 海岸線の後退、海底勾配の変化による取水設備性能への影響	・海岸浸食は、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはない。適切な運転管理や保守管理により対処可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオに当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																
139	添付資料 2.1.1	添 2.1-15	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (9/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33</td> <td>地下水 (多量/枯渇)</td> <td>①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇</td> <td>・土壌に地下水が浸透することにより、地湧りや建屋への浸水が考えられるが、地湧りについては、No.27「地湧り」にて考慮し、多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>34</td> <td>地下水による浸食</td> <td>①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入</td> <td>・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	33	地下水 (多量/枯渇)	①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇	・土壌に地下水が浸透することにより、地湧りや建屋への浸水が考えられるが、地湧りについては、No.27「地湧り」にて考慮し、多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	34	地下水による浸食	①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入	・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (9/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33</td> <td>地下水 (多量/枯渇)</td> <td>①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇</td> <td>・多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>34</td> <td>地下水による浸食</td> <td>①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入</td> <td>・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	33	地下水 (多量/枯渇)	①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇	・多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	34	地下水による浸食	①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入	・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	⑤								
			No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																															
33	地下水 (多量/枯渇)	①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇	・土壌に地下水が浸透することにより、地湧りや建屋への浸水が考えられるが、地湧りについては、No.27「地湧り」にて考慮し、多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
34	地下水による浸食	①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入	・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能と判断。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																		
33	地下水 (多量/枯渇)	①浸水 地下水の建屋地下階への流入による設備等の浸水 ②一 地下水の枯渇	・多量の地下水流入については、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・地下水は活用しておらず、安全施設の機能が損なわれることはない。したがって、本事象によるプラントへの影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
34	地下水による浸食	①地盤安定性 建屋・屋外構築物の地下部（地下階、基礎部）土壌浸食 ②浸水 建屋地下部の浸食による建屋内への地下水の流入	・安全上重要な建屋や屋外設備は、岩層や杭基礎等の工法にて施工されており、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・基本的に設備等の機能に影響を及ぼすほどの地下水が建屋内へ流入する可能性は稀である。また、仮に浸食があっても、時間スケールの長い事象であり、発電所の運転に支障をきたす程度の短時間で事象が進展することはないと判断。適切な運転管理や保守管理により対応可能。本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
140	添付資料 2.1.1	添 2.1-16	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (10/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>森林火災</td> <td>①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響</td> <td>・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.20参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>生物学的事象</td> <td>①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等</td> <td>・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。</td> </tr> <tr> <td>37</td> <td>静振</td> <td>①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響</td> <td>・津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	35	森林火災	①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響	・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.20参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	36	生物学的事象	①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等	・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。	37	静振	①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響	・津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (10/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>森林火災</td> <td>①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響</td> <td>・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.26参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>生物学的事象</td> <td>①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等</td> <td>・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。この場合でも事象の影響は地震による影響に包摂される。</td> </tr> <tr> <td>37</td> <td>静振</td> <td>①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響</td> <td>・津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	35	森林火災	①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響	・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.26参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	36	生物学的事象	①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等	・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。この場合でも事象の影響は地震による影響に包摂される。	37	静振	①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響	・津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）	⑤
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																		
35	森林火災	①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響	・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.20参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
36	生物学的事象	①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等	・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。																																		
37	静振	①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響	・津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）																																		
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																		
35	森林火災	①熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響 ②外気取入機器及び人への影響 ばい煙等による閉塞（空調）影響及び人への影響	・森林火災が送電設備に延焼し、外部電源喪失に至るシナリオ。 ・発電所周辺監視区域の境界に沿って森林を伐採しており、境界から延焼する状況に対して一定の効果があると考えられること、敷地境界から出火した場合であっても、防火帯を設定しておりプラントまでの離隔距離が十分あること、防火帯内側への延焼を仮定した場合でも街路樹等が燃えるだけで火災の規模は限定的なため、消火が可能であると考えられること、プラント近傍は非燃生であり、仮に危険物（軽油タンク）に延焼した場合であっても原子炉建屋外壁面が200℃未満であることを評価で確認していることから、原子炉建屋等の基幹となる原子炉施設への影響はなく、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・ばい煙の換気空調系への取込みは、火山の影響に包摂される。(No.26参照) ・ばい煙を取り込むことによる人への影響については、発電所敷地内の林縁とプラント間に十分な離隔距離があることから、影響はないと判断。ばい煙が中央制御室空調外気取入口まで達する仮定した場合でも、再循環運転を行うことで影響を抑えられるため、本事象から大規模損傷シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																		
36	生物学的事象	①閉塞（取水） 海生生物（くらげ等）の襲来による取水口閉塞 ②個別設備の機能喪失 腐蝕類（ネズミ等）によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等	・大量発生したくらげ等の海生生物により、取水口が閉塞した場合に、原子炉補機冷却水ポンプによる取水ができなくなり、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。この場合でも事象の影響は津波による影響に包摂される。 ・ネズミ等腐蝕類によるケーブル類の損傷、電気機器接触による地絡等は、個別機器の不具合というランダム事象に整理される。この場合でも事象の影響は地震による影響に包摂される。																																		
37	静振	①浸水 港内での潮位変動による取水への影響 ②冷却機能低下：海水系 港内での潮位変動による取水への影響	・津波評価において敷地内への浸水を想定しており、津波の影響に包摂される。（浸水影響の最も大きい津波の評価においては、数値シミュレーションを実施しており、その中で静振の影響も考慮されている。）																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																
141	添付資料 2.1.1	添 2.1-17	<p>表3 評価対象自然現象評価結果 (11/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38</td> <td>塩害、塩害</td> <td>①塩害による屋外構築物・設備の腐食</td> <td>・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>39</td> <td>隕石、衛星の落下</td> <td>①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波</td> <td>・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>太陽フレア、磁気嵐</td> <td>①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷</td> <td>・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>41</td> <td>土石流</td> <td>①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重</td> <td>・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>42</td> <td>泥湧出</td> <td>①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷</td> <td>・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	38	塩害、塩害	①塩害による屋外構築物・設備の腐食	・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	39	隕石、衛星の落下	①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波	・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。	40	太陽フレア、磁気嵐	①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷	・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	41	土石流	①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重	・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	42	泥湧出	①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。	<p>表5 評価対象自然現象評価結果 (11/11)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>自然現象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38</td> <td>塩害、塩害</td> <td>①塩害による屋外構築物・設備の腐食</td> <td>・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>39</td> <td>隕石、衛星の落下</td> <td>①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波</td> <td>・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、表6 No.1 航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>太陽フレア、磁気嵐</td> <td>①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷</td> <td>・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>41</td> <td>土石流</td> <td>①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重</td> <td>・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>42</td> <td>泥湧出</td> <td>①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷</td> <td>・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	38	塩害、塩害	①塩害による屋外構築物・設備の腐食	・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	39	隕石、衛星の落下	①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波	・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、表6 No.1 航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。	40	太陽フレア、磁気嵐	①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷	・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	41	土石流	①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重	・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	42	泥湧出	①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。	⑤
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																																		
38	塩害、塩害	①塩害による屋外構築物・設備の腐食	・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
39	隕石、衛星の落下	①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波	・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。																																																		
40	太陽フレア、磁気嵐	①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷	・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
41	土石流	①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重	・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
42	泥湧出	①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。																																																		
No.	自然現象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																																		
38	塩害、塩害	①塩害による屋外構築物・設備の腐食	・腐食は、発電所の運転に支障をきたす時間スケールで事象進展しないことから、安全施設の機能が損なわれるおそれはなく、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
39	隕石、衛星の落下	①荷重（衝突） 隕石衝突に伴う建屋・屋外設備の損傷 ②荷重（衝突） 発電所敷地への隕石落下に伴う衝撃波 ③浸水 隕石の発電所近海への落下に伴う津波	・安全施設の機能に影響が及ぶ規模の隕石等が衝突に至る可能性は、極低頻度の事象ではあるが、被害の影響から大規模損壊の対象とする。 ①、②荷重（衝突）については、表6 No.1 航空機落下と同じ起因事象等が発生する可能性がある。 ③浸水については、津波の影響に包摂される。																																																		
40	太陽フレア、磁気嵐	①誘導電流 太陽フレアの地磁気誘導電流による変圧器の損傷	・磁気嵐により誘導電流が発生し、変圧器等の送電・変電設備の損傷により、外部電源喪失に至るシナリオ。 ただし、磁気嵐の影響を受けるのは、こう長の長い送電線であり、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源母線への影響はなく、プラントの安全性への影響はないと判断。 太陽フレアによる電磁波や放射線については、電圧降下等を引き起こす可能性はあるものの、基本的に大気や磁場により地表面まで到達せず、さらに建屋による遮蔽効果に期待できるため安全設備等への影響については考えにくいことから大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
41	土石流	①荷重（衝突） 土石流による建屋及び屋外機器への荷重	・敷地内に浸流がなく、土石流危険区域に指定されていないことから土石流が敷地内に到達することはない。したがって、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
42	泥湧出	①地盤安定性 地盤の脆弱化に伴う建屋や屋外設備の傾斜等による損傷	・地震による液状化で損傷が想定される機器は、地震動による損傷も想定しており、地震の影響に包摂される。																																																		
142	添付資料 2.1.1	添 2.1-20	(削除)	<p>表6 評価対象人為事象評価結果 (1/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>人為事象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>航空機落下</td> <td>①荷重（衝突） 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋・屋外設備への熱影響</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ダムの崩壊</td> <td>①浸水 ダムの崩壊に伴う洪水による建屋や機器への浸水影響</td> <td>・発電所周辺にダムの崩壊により洪水となる河川はないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>火災・爆発</td> <td>①熱影響、爆風圧 発電所内に保管されている危険物の火災や爆発による影響</td> <td>・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、ダイタンクの結晶により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・個別の設備が火災により損傷した場合、外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、BFS 誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。さらに、複数の設備に火災が発生した場合には大規模損壊に至る可能性がある。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>有毒ガス</td> <td>①中央制御室居住性の低下 有毒ガスが中央制御室内に取り込まれることによる運転操作への影響</td> <td>・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の移動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>特記の内容は機器事項に属しますので公開できません。</p>	No.	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	1	航空機落下	①荷重（衝突） 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋・屋外設備への熱影響		2	ダムの崩壊	①浸水 ダムの崩壊に伴う洪水による建屋や機器への浸水影響	・発電所周辺にダムの崩壊により洪水となる河川はないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。	3	火災・爆発	①熱影響、爆風圧 発電所内に保管されている危険物の火災や爆発による影響	・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、ダイタンクの結晶により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・個別の設備が火災により損傷した場合、外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、BFS 誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。さらに、複数の設備に火災が発生した場合には大規模損壊に至る可能性がある。	4	有毒ガス	①中央制御室居住性の低下 有毒ガスが中央制御室内に取り込まれることによる運転操作への影響	・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の移動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。	⑤																												
No.	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																																																		
1	航空機落下	①荷重（衝突） 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 放射熱による建屋・屋外設備への熱影響																																																			
2	ダムの崩壊	①浸水 ダムの崩壊に伴う洪水による建屋や機器への浸水影響	・発電所周辺にダムの崩壊により洪水となる河川はないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。																																																		
3	火災・爆発	①熱影響、爆風圧 発電所内に保管されている危険物の火災や爆発による影響	・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンクで火災が発生した場合であっても原子炉建屋の温度が許容値以上に上昇しないことを確認。 ・非常用ディーゼル発電設備の軽油タンク全数が焼損した場合は、ダイタンクの結晶により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るが、外部電源と同時に機能喪失することはないため、本事業から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・個別の設備が火災により損傷した場合、外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、BFS 誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至る。さらに、複数の設備に火災が発生した場合には大規模損壊に至る可能性がある。																																																		
4	有毒ガス	①中央制御室居住性の低下 有毒ガスが中央制御室内に取り込まれることによる運転操作への影響	・発電所の近くには、有毒ガスの漏えいにより発電所に影響を及ぼすような石油化学コンビナート等はない。また、タンクローリーやケミカルタンカー等の移動施設についても発電用原子炉施設からの離隔距離が確保されることから影響はない。 ・このため、発電所敷地内施設からの有毒ガスの漏えいを想定する。																																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																												
143	添付資料 2.1.1	添 2.1-21	(削除)	<p>表 6 評価対象人為事象評価結果 (2/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>人為事象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>船舶の衝突</td> <td>①冷却機部低下：海水系 漂流船舶が取水設備を損傷させることによる冷却機部への影響</td> <td>・漂流船舶が発電所敷地内に侵入した場合であっても、カーテンウォールにより直接取水設備を損傷させることはないが、仮に更に内部へ侵入し、取水設備を損傷させた場合は、最終セプトンクが喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は津波による影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>電磁的障害</td> <td>①電磁波によるノイズ 電磁波を放出する機器による計測制御系へのノイズ発生で安全機能の誤動作、誤不動作</td> <td>・携帯電話等の電磁波を放出する機器が中央制御室等の発電所内に誤って偶発的に持ち込まれることによる計測・制御設備への影響が想定される。中央制御室や現場にある操作盤については、電波障害試験により耐性を確認しているが、想定を上回る影響が生じた場合は、計測制御系への外乱が想定される。事象影響としては異常の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>パイプライン事故</td> <td>①熱影響、爆風圧 パイプラインの損傷・破裂による火災、爆風</td> <td>・パイプラインは道床下に埋設されており、埋設深度も法令で定められている。また、緊急時にはガスの遮断が行われるため、爆発が発生したとしても外部に対する影響は限定的である。仮に飛来物が発電所へ届く場合があったとしても、事象影響としては電巻の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第三者の不法な接近</td> <td>①- 原子炉施設内に悪意を持った第三者が侵入</td> <td>・原子炉施設内への侵入だけでは起回事象の発生はない。(原子炉施設への影響はNo.10 妨害破壊行為に包絡)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>航空機衝突 (意図的)</td> <td>①荷重 (衝突) 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>特記の内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	5	船舶の衝突	①冷却機部低下：海水系 漂流船舶が取水設備を損傷させることによる冷却機部への影響	・漂流船舶が発電所敷地内に侵入した場合であっても、カーテンウォールにより直接取水設備を損傷させることはないが、仮に更に内部へ侵入し、取水設備を損傷させた場合は、最終セプトンクが喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は津波による影響に包絡される。	6	電磁的障害	①電磁波によるノイズ 電磁波を放出する機器による計測制御系へのノイズ発生で安全機能の誤動作、誤不動作	・携帯電話等の電磁波を放出する機器が中央制御室等の発電所内に誤って偶発的に持ち込まれることによる計測・制御設備への影響が想定される。中央制御室や現場にある操作盤については、電波障害試験により耐性を確認しているが、想定を上回る影響が生じた場合は、計測制御系への外乱が想定される。事象影響としては異常の影響に包絡される。	7	パイプライン事故	①熱影響、爆風圧 パイプラインの損傷・破裂による火災、爆風	・パイプラインは道床下に埋設されており、埋設深度も法令で定められている。また、緊急時にはガスの遮断が行われるため、爆発が発生したとしても外部に対する影響は限定的である。仮に飛来物が発電所へ届く場合があったとしても、事象影響としては電巻の影響に包絡される。	8	第三者の不法な接近	①- 原子炉施設内に悪意を持った第三者が侵入	・原子炉施設内への侵入だけでは起回事象の発生はない。(原子炉施設への影響はNo.10 妨害破壊行為に包絡)	9	航空機衝突 (意図的)	①荷重 (衝突) 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響		⑤				
No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																														
5	船舶の衝突	①冷却機部低下：海水系 漂流船舶が取水設備を損傷させることによる冷却機部への影響	・漂流船舶が発電所敷地内に侵入した場合であっても、カーテンウォールにより直接取水設備を損傷させることはないが、仮に更に内部へ侵入し、取水設備を損傷させた場合は、最終セプトンクが喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は津波による影響に包絡される。																														
6	電磁的障害	①電磁波によるノイズ 電磁波を放出する機器による計測制御系へのノイズ発生で安全機能の誤動作、誤不動作	・携帯電話等の電磁波を放出する機器が中央制御室等の発電所内に誤って偶発的に持ち込まれることによる計測・制御設備への影響が想定される。中央制御室や現場にある操作盤については、電波障害試験により耐性を確認しているが、想定を上回る影響が生じた場合は、計測制御系への外乱が想定される。事象影響としては異常の影響に包絡される。																														
7	パイプライン事故	①熱影響、爆風圧 パイプラインの損傷・破裂による火災、爆風	・パイプラインは道床下に埋設されており、埋設深度も法令で定められている。また、緊急時にはガスの遮断が行われるため、爆発が発生したとしても外部に対する影響は限定的である。仮に飛来物が発電所へ届く場合があったとしても、事象影響としては電巻の影響に包絡される。																														
8	第三者の不法な接近	①- 原子炉施設内に悪意を持った第三者が侵入	・原子炉施設内への侵入だけでは起回事象の発生はない。(原子炉施設への影響はNo.10 妨害破壊行為に包絡)																														
9	航空機衝突 (意図的)	①荷重 (衝突) 航空機が建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響																															
144	添付資料 2.1.1	添 2.1-22	(削除)	<p>表 6 評価対象人為事象評価結果 (3/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>人為事象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起回事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>妨害破壊行為 (内部脅威含む)</td> <td>①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>サイバーテロ</td> <td>①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>産業施設の事故</td> <td>①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発</td> <td>・発電所敷地周辺に右箇コンピナート施設はないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>輸送事故</td> <td>①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発</td> <td>・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険限界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても電巻の影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>軍事活動によるミサイルの飛来</td> <td>①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>サイト内外での掘削</td> <td>①物理的損傷 発電所内外において地盤の掘削工事を行い、設備の一部を損傷</td> <td>・地盤の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地盤による影響に包絡される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>特記の内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等	10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ		11	サイバーテロ	①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作		12	産業施設の事故	①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発	・発電所敷地周辺に右箇コンピナート施設はないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。	13	輸送事故	①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発	・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険限界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても電巻の影響に包絡される。	14	軍事活動によるミサイルの飛来	①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響		15	サイト内外での掘削	①物理的損傷 発電所内外において地盤の掘削工事を行い、設備の一部を損傷	・地盤の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地盤による影響に包絡される。	⑤
No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起回事象等																														
10	妨害破壊行為 (内部脅威含む)	①衝撃力 爆発物等による衝撃力 ②中央制御室の占拠等 悪意操作、サボタージュ																															
11	サイバーテロ	①制御システムのハッキング 制御システムのハッキングによる悪意操作																															
12	産業施設の事故	①熱影響、爆風圧 発電所外の産業施設の事故による火災、爆発	・発電所敷地周辺に右箇コンピナート施設はないため、本事故から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起回事象の発生はないと判断。																														
13	輸送事故	①熱影響、爆風圧 危険物輸送車両や船舶の発電所敷地周辺における事故による火災、爆発	・危険物輸送車両や船舶にて火災、爆発が発生した場合でも危険限界距離以上離れている。爆風により飛来物を想定した場合であっても電巻の影響に包絡される。																														
14	軍事活動によるミサイルの飛来	①荷重 (衝突) ミサイルが建屋等へ衝突 ②熱影響 輻射熱による建屋・屋外設備への熱影響																															
15	サイト内外での掘削	①物理的損傷 発電所内外において地盤の掘削工事を行い、設備の一部を損傷	・地盤の掘削工事を行う場合は、埋設物の管理図面により事前調査を行い、あらかじめ埋設物の位置を確認する。仮に埋設物を損傷させた場合の影響として、埋設ケーブル切断による外部電源喪失に至るシナリオとなる。 ・また、発電所内外の送電鉄塔を掘削工事により倒壊させた場合も外部電源喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は地盤による影響に包絡される。																														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																								
145	添付資料 2.1.1	添 2.1-23	(削除)	<p>表 6 評価対象人為事象評価結果 (4/4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>人為事象</th> <th>設備等の損傷・機能喪失モードの抽出</th> <th>考え得る起因事象等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16</td> <td>内部溢水</td> <td>①浸水 原子炉施設内の配管等の破損による保有水の漏えいの影響</td> <td>・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至るシナリオとなる。これらが多数重畳した場合には大規模損壊に至る可能性がある。</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>タービンミサイル</td> <td>①荷重 (衝突) タービンの一部が飛来物となって衝突</td> <td>・飛来物衝突影響について航空機衝突 (意図的) に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>重量物輸送</td> <td>①荷重 (落下) 輸送中の燃料集合体の落下による破損 ②荷重 (衝突) 重量物輸送車両やクレーン等の重機の転倒による屋外設備の損壊</td> <td>・燃料取扱機は燃料取扱作業中の燃料集合体落下防止対策 (フェイル・セーフ設計等) がとられているため、燃料集合体の落下事故の発生確率は非常に小さく、さらにその発生を仮定した場合でも破損した燃料からの放射性物質の放出量は僅かであり、外部への影響は小さいことが評価されている。したがって、本事象から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・作業に重機を使用する場合は、転倒防止対策を行うため発生することは考えにくい。仮に重機が転倒した場合は変圧器や軽油タンクの損壊が想定される。これにより、外部電源喪失とダイナミック粘着による非常用ディーゼル発電設備の機能喪失により全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられるが、重機転倒による損傷範囲は重機の入きさに限定されるため、起因事象として考慮する必要はないと判断。(考慮した場合であっても大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象ではない)</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>化学物質の放出による水質悪化</td> <td>①冷却機能低下：海水系 発電所内で保管されている化学物質が港湾内へ放出され、又は船舶事故により化学物質が流出し、海水系の冷却機能へ影響</td> <td>・発電所内で保管している化学物質については、罐の設置や罐屋内保管により漏えい防止対策をしており、港湾内への流出は考えにくい。船舶事故にて流出する可能性は否定できないが、海水系に取水される設備では十分希釈されていると想定できる。したがって、本事象による影響を考慮する必要はないと考えるが、仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>油流出</td> <td>①冷却機能低下：海水系 船舶等から流出した油が海水系の冷却機能へ影響</td> <td>・海水の取水については、カーテンウォールを設置して深層取水を行っており、油が直接海水系に流入することは考えにくい。仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。</td> </tr> </tbody> </table>	No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等	16	内部溢水	①浸水 原子炉施設内の配管等の破損による保有水の漏えいの影響	・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至るシナリオとなる。これらが多数重畳した場合には大規模損壊に至る可能性がある。	17	タービンミサイル	①荷重 (衝突) タービンの一部が飛来物となって衝突	・飛来物衝突影響について航空機衝突 (意図的) に包絡される。	18	重量物輸送	①荷重 (落下) 輸送中の燃料集合体の落下による破損 ②荷重 (衝突) 重量物輸送車両やクレーン等の重機の転倒による屋外設備の損壊	・燃料取扱機は燃料取扱作業中の燃料集合体落下防止対策 (フェイル・セーフ設計等) がとられているため、燃料集合体の落下事故の発生確率は非常に小さく、さらにその発生を仮定した場合でも破損した燃料からの放射性物質の放出量は僅かであり、外部への影響は小さいことが評価されている。したがって、本事象から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・作業に重機を使用する場合は、転倒防止対策を行うため発生することは考えにくい。仮に重機が転倒した場合は変圧器や軽油タンクの損壊が想定される。これにより、外部電源喪失とダイナミック粘着による非常用ディーゼル発電設備の機能喪失により全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられるが、重機転倒による損傷範囲は重機の入きさに限定されるため、起因事象として考慮する必要はないと判断。(考慮した場合であっても大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象ではない)	19	化学物質の放出による水質悪化	①冷却機能低下：海水系 発電所内で保管されている化学物質が港湾内へ放出され、又は船舶事故により化学物質が流出し、海水系の冷却機能へ影響	・発電所内で保管している化学物質については、罐の設置や罐屋内保管により漏えい防止対策をしており、港湾内への流出は考えにくい。船舶事故にて流出する可能性は否定できないが、海水系に取水される設備では十分希釈されていると想定できる。したがって、本事象による影響を考慮する必要はないと考えるが、仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。	20	油流出	①冷却機能低下：海水系 船舶等から流出した油が海水系の冷却機能へ影響	・海水の取水については、カーテンウォールを設置して深層取水を行っており、油が直接海水系に流入することは考えにくい。仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。	⑤
No	人為事象	設備等の損傷・機能喪失モードの抽出	考え得る起因事象等																										
16	内部溢水	①浸水 原子炉施設内の配管等の破損による保有水の漏えいの影響	・外部電源喪失、非隔離事象、隔離事象、全給水喪失、原子炉保護系誤動作、原子炉補機冷却系故障、手動停止等に至るシナリオとなる。これらが多数重畳した場合には大規模損壊に至る可能性がある。																										
17	タービンミサイル	①荷重 (衝突) タービンの一部が飛来物となって衝突	・飛来物衝突影響について航空機衝突 (意図的) に包絡される。																										
18	重量物輸送	①荷重 (落下) 輸送中の燃料集合体の落下による破損 ②荷重 (衝突) 重量物輸送車両やクレーン等の重機の転倒による屋外設備の損壊	・燃料取扱機は燃料取扱作業中の燃料集合体落下防止対策 (フェイル・セーフ設計等) がとられているため、燃料集合体の落下事故の発生確率は非常に小さく、さらにその発生を仮定した場合でも破損した燃料からの放射性物質の放出量は僅かであり、外部への影響は小さいことが評価されている。したがって、本事象から大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象の発生はないと判断。 ・作業に重機を使用する場合は、転倒防止対策を行うため発生することは考えにくい。仮に重機が転倒した場合は変圧器や軽油タンクの損壊が想定される。これにより、外部電源喪失とダイナミック粘着による非常用ディーゼル発電設備の機能喪失により全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられるが、重機転倒による損傷範囲は重機の入きさに限定されるため、起因事象として考慮する必要はないと判断。(考慮した場合であっても大規模損壊シナリオ検討に当たって考慮すべき起因事象ではない)																										
19	化学物質の放出による水質悪化	①冷却機能低下：海水系 発電所内で保管されている化学物質が港湾内へ放出され、又は船舶事故により化学物質が流出し、海水系の冷却機能へ影響	・発電所内で保管している化学物質については、罐の設置や罐屋内保管により漏えい防止対策をしており、港湾内への流出は考えにくい。船舶事故にて流出する可能性は否定できないが、海水系に取水される設備では十分希釈されていると想定できる。したがって、本事象による影響を考慮する必要はないと考えるが、仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。																										
20	油流出	①冷却機能低下：海水系 船舶等から流出した油が海水系の冷却機能へ影響	・海水の取水については、カーテンウォールを設置して深層取水を行っており、油が直接海水系に流入することは考えにくい。仮に影響が生じた場合は最終ヒートシンク喪失に至るシナリオとなる。この場合でも事象の影響は急激による影響に包絡される。																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
146	添付資料 2.1.2	添 2.1-19	<p>① 建屋天井や屋外設備に対する荷重 建屋及び屋外設備に対する積雪荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋の天井が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に損傷し、機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。 ○タービン建屋 タービン建屋の天井が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。さらに、タービン建屋熱交換器エリアの天井が積雪荷重により崩落した場合に、積雪(雪融け水含む)の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ○コントロール建屋 コントロール建屋の天井が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的又は積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部溢水により機能喪失に至るシナリオ。 ○廃棄物処理建屋 廃棄物処理建屋の天井が積雪荷重により崩落した場合に、冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p><屋外設備> ○軽油タンク等 軽油タンクの天井が積雪荷重により崩落した場合に、軽油タンク機能喪失に至り、②項に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備(燃料デイトンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p>	<p>① 建屋天井や屋外設備に対する荷重 建屋及び屋外設備に対する積雪荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、積雪(雪融け水含む)の影響により、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ○タービン建屋 タービン建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。また、タービン建屋熱交換器エリア屋上が積雪荷重により崩落した場合に、積雪(雪融け水含む)の影響により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ○コントロール建屋 コントロール建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的又は積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ溢水が伝播し機能喪失に至るシナリオ。 ○廃棄物処理建屋 廃棄物処理建屋屋上が積雪荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却系が積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p><屋外設備> ○軽油タンク等 軽油タンク天井が積雪荷重により崩落した場合には、軽油タンク機能喪失に至る可能性があり、以下②に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備デイトンクの燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																								
147	添付資料 2.1.2	添 2.1-20	<p>③ 空調給気口の閉塞 D/G室空調給気口閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、②項の外部電源喪失が同時発生した場合に、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>④ 積雪によるアクセス性や作業性の悪化 積雪により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぼす可能性があるものの、設計基準事故対処設備のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外での現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外の作業性へ影響が及んだ場合であっても構内の道路又はアクセスルートについては、除雪を行うことから問題はない。 そのため①～③項の影響評価の結果として、可搬型代替交流電源設備の接続といった屋外での作業が必要になるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	<p>③ 空調給気口の閉塞 中央制御室換気空調及びD/G室空調給気口閉塞により各空調設備が機能喪失に至るシナリオ。(ただし、中央制御室換気空調については、外気遮断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。) 仮にD/G室空調給気口の閉塞により、非常用ディーゼル発電設備が機能喪失に至るような場合において、上記②の外部電源喪失の同時発生を想定した場合、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>④ 積雪によるアクセス性や作業性の悪化 積雪により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぼす可能性があるものの、設計基準対象施設のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外での現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外の作業性へ影響が及んだ場合であっても構内の道路又はアクセスルートについては、除雪を行うことから問題はない。 そのため上記①～③の影響評価の結果として、電源車の接続といった屋外での作業が必要になるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	⑤																																								
148	添付資料 2.1.2	添 2.1-20	<p>なお、各建屋や軽油タンクの天井が崩落するような積雪事象は、年超過確率評価上、10^{-7}/年より小さい事象であること(表1参照)、積雪事象の進展速度の遅さを踏まえると除雪管理が可能であることから、発生可能性は非常に稀であり、有意な頻度又は影響のある事故シーケンスの要因とはなりえないと考えられるため、考慮すべき起因事象としては選定不要であると判断し</p>	<p>なお、各建屋や軽油タンクの天井が崩落するような積雪事象は、年超過確率評価上、10^{-7}/年より小さい事象であること(表1参照)、積雪事象の進展速度の遅さを踏まえると除雪管理が可能であることから、発生可能性は非常に稀である。</p>	⑤																																								
149	添付資料 2.1.2	添 2.1-21	<p>表1-各建屋・タンクの積雪荷重と年超過確率の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋・タンク</th> <th>積雪荷重</th> <th>年超過頻度</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>6号炉 408cm_s 7号炉 408cm_s</td> <td rowspan="2">306cm : 10^{-7}/年未満 10^{-4}/年 : 135.9cm_s 10^{-7}/年 : 213.3cm_s</td> <td rowspan="2">積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋</td> <td>6号炉 340cm_s 7号炉 340cm_s</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋</td> <td>714cm_s</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理建屋</td> <td>306cm_s</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>6号炉 442cm_s 7号炉 442cm_s</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	建屋・タンク	積雪荷重	年超過頻度	結果	原子炉建屋	6号炉 408cm _s 7号炉 408cm _s	306cm : 10^{-7} /年未満 10^{-4} /年 : 135.9cm _s 10^{-7} /年 : 213.3cm _s	積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。	タービン建屋	6号炉 340cm _s 7号炉 340cm _s	コントロール建屋	714cm _s			廃棄物処理建屋	306cm _s			軽油タンク	6号炉 442cm _s 7号炉 442cm _s			<p>表1-各建屋・タンクの積雪荷重と年超過頻度の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋・タンク</th> <th>積雪荷重</th> <th>年超過頻度</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>6号炉 357cm_s 7号炉 361cm_s</td> <td rowspan="2">266cm : 10^{-7}/年未満 10^{-4}/年 : 135.9cm_s 10^{-7}/年 : 213.3cm_s</td> <td rowspan="2">積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋</td> <td>6号炉 266cm_s 7号炉 266cm_s</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋</td> <td>371cm_s</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>6号炉 321cm_s 7号炉 321cm_s</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	建屋・タンク	積雪荷重	年超過頻度	結果	原子炉建屋	6号炉 357cm _s 7号炉 361cm _s	266cm : 10^{-7} /年未満 10^{-4} /年 : 135.9cm _s 10^{-7} /年 : 213.3cm _s	積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。	タービン建屋	6号炉 266cm _s 7号炉 266cm _s	コントロール建屋	371cm _s			軽油タンク	6号炉 321cm _s 7号炉 321cm _s			④(他のまとめ資料との整合)
建屋・タンク	積雪荷重	年超過頻度	結果																																										
原子炉建屋	6号炉 408cm _s 7号炉 408cm _s	306cm : 10^{-7} /年未満 10^{-4} /年 : 135.9cm _s 10^{-7} /年 : 213.3cm _s	積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。																																										
タービン建屋	6号炉 340cm _s 7号炉 340cm _s																																												
コントロール建屋	714cm _s																																												
廃棄物処理建屋	306cm _s																																												
軽油タンク	6号炉 442cm _s 7号炉 442cm _s																																												
建屋・タンク	積雪荷重	年超過頻度	結果																																										
原子炉建屋	6号炉 357cm _s 7号炉 361cm _s	266cm : 10^{-7} /年未満 10^{-4} /年 : 135.9cm _s 10^{-7} /年 : 213.3cm _s	積雪荷重を超えるまでに大きな裕度がある。																																										
タービン建屋	6号炉 266cm _s 7号炉 266cm _s																																												
コントロール建屋	371cm _s																																												
軽油タンク	6号炉 321cm _s 7号炉 321cm _s																																												
150	添付資料 2.1.2	添 2.1-21	(表2にD/G室空調給気口高さを示す。)	(表2にD/G室空調給気口高さを示す。また同表に参考として中央制御室換気空調給気口高さを示す。)	④(他のまとめ資料との整合)																																								

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																								
151	添付資料 2.1.2	添 2.1-22	<p>表2.各空調給排気口の高さと年超過確率の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>空調給排気口</th> <th>設置高さ</th> <th>年超過確率</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D/G室空調(A)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> <td rowspan="8">7.8m：10⁻⁷/年未満、 〔10⁻⁴/年：135.9cm、 10⁻⁷/年：213.3cm〕</td> <td rowspan="8">設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(A)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(B)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(B)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(C)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(C)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> </tbody> </table>	空調給排気口	設置高さ	年超過確率	結果	D/G室空調(A)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	7.8m：10 ⁻⁷ /年未満、 〔10 ⁻⁴ /年：135.9cm、 10 ⁻⁷ /年：213.3cm〕	設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。	D/G室空調(A)排気口	7.8m	D/G室空調(B)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	D/G室空調(B)排気口	7.8m	D/G室空調(C)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	D/G室空調(C)排気口	7.8m	<p>表2.各空調給排気口の高さと年超過頻度の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>空調給排気口</th> <th>設置高さ</th> <th>年超過頻度</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D/G室空調(A)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> <td rowspan="8">4.2m：10⁻⁷/年未満、 〔10⁻⁴/年：135.9cm、 10⁻⁷/年：213.3cm〕</td> <td rowspan="8">設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(A)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(B)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(B)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(C)給気口</td> <td>6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m</td> </tr> <tr> <td>D/G室空調(C)排気口</td> <td>7.8m</td> </tr> <tr> <td>中央制御室換気空調設備給気口</td> <td>4.2m</td> </tr> <tr> <td>中央制御室換気空調設備排気口</td> <td>4.2m</td> </tr> </tbody> </table>	空調給排気口	設置高さ	年超過頻度	結果	D/G室空調(A)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	4.2m：10 ⁻⁷ /年未満、 〔10 ⁻⁴ /年：135.9cm、 10 ⁻⁷ /年：213.3cm〕	設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。	D/G室空調(A)排気口	7.8m	D/G室空調(B)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	D/G室空調(B)排気口	7.8m	D/G室空調(C)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	D/G室空調(C)排気口	7.8m	中央制御室換気空調設備給気口	4.2m	中央制御室換気空調設備排気口	4.2m	④(他のまとめ資料との整合)
空調給排気口	設置高さ	年超過確率	結果																																										
D/G室空調(A)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m	7.8m：10 ⁻⁷ /年未満、 〔10 ⁻⁴ /年：135.9cm、 10 ⁻⁷ /年：213.3cm〕	設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。																																										
D/G室空調(A)排気口	7.8m																																												
D/G室空調(B)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m																																												
D/G室空調(B)排気口	7.8m																																												
D/G室空調(C)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m																																												
D/G室空調(C)排気口	7.8m																																												
空調給排気口	設置高さ			年超過頻度	結果																																								
D/G室空調(A)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m			4.2m：10 ⁻⁷ /年未満、 〔10 ⁻⁴ /年：135.9cm、 10 ⁻⁷ /年：213.3cm〕	設置高さを 超えるまで に大きな裕 度がある。																																								
D/G室空調(A)排気口	7.8m																																												
D/G室空調(B)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m																																												
D/G室空調(B)排気口	7.8m																																												
D/G室空調(C)給気口	6号炉：11.7m、 7号炉：11.5m																																												
D/G室空調(C)排気口	7.8m																																												
中央制御室換気空調設備給気口	4.2m																																												
中央制御室換気空調設備排気口	4.2m																																												
152	添付資料 2.1.2	添 2.1-22	<p>2. 事故シーケンスの特定</p> <p>1. (3)項にて起回事象となり得るシナリオを以下のとおり選定した。</p> <p>○原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、非常用ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>○タービン建屋の天井が崩落した場合にタービンや発電機に影響が及びタービントリップに至るシナリオ。また、原子炉補機冷却水系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p>○コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的又は積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。さらには中央制御室の下階に位置している直流電源設備が内部溢水により機能喪失に至るシナリオ。</p> <p>○廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、RIP M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が積雪(雪融け水含む)の影響により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p>○軽油タンクの天井が崩落した場合で、かつ外部電源喪失が発生している状況下において、非常用ディーゼル発電設備(燃料デイトンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>○送電線や碍子へ雪が着氷することによって、相間短絡を起こし外部電源が喪失するシナリオ。</p> <p>○D/G室空調系給気口閉塞により非常用ディーゼル発電設備が機能喪失、かつ外部電源喪失の同時発生により全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>上記シナリオについては、いずれも運転時の内部事象、地震及び津波レベル1PRAにて考慮しているものであり、追加すべき新たなものはない。</p>	<p>2. 事故シーケンスの特定</p> <p>1. にて設計基準を超える低温事象に対し発生可能性のある起回事象としてタービントリップ、プラントスクラム、全交流動力電源喪失と外部電源喪失及び計測制御系機能喪失を選定したが、いずれも運転時の内部事象や地震、津波レベル1PRAにて考慮していることから、追加すべき新しい事故シーケンスではない。</p>	④(他のまとめ資料との整合)																																								

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
153	添付資料 2.1.2	添 2.1-23	<p>また、1.(4)項での起回事象の特定結果のとおり、上記シナリオのうち、建屋又は軽油タンクの天井崩落やD/G室空調給気口閉塞については、事象の発生頻度が表1及び表2に示したように非常に小さいこと、除雪管理により発生を防止可能なことから、発生自体が非常に稀な事象であり、事故シーケンス抽出に当たって考慮すべき起回事象として選定不要であると判断した。</p> <p>よって、事故シーケンス抽出に当たって考慮すべき起回事象は、外部電源喪失のみとなるが、各建屋及び軽油タンク等の健全性が確保される限り、非常用交流電源等の必要な影響緩和設備の機能維持が図られるため、事故シーケンスに至ることはない。</p> <p>したがって、積雪事象を要因として発生しうる有意な頻度又は影響のある事故シーケンスは生じないと判断した。</p>	<p>また、1.(4)項での起回事象の特定結果のとおり、上記シナリオの内、建屋又は軽油タンクの天井崩落やD/G室空調給気口閉塞については、事象の発生頻度が表1及び表2に示したように非常に小さいこと、除雪管理により発生を防止可能なことから、発生自体が非常に稀な事象である。</p>	④(他のまとめ資料との整合)
154	添付資料 2.1.3	添 2.1-24	<p>添付資料2.1.3 設計基準を超える低温(凍結)事象に対する事故シーケンス抽出</p> <p>1. 起回事象の特定 (1) 構築物、系統及び機器(以下、「設備等」という。)の損傷・機能喪失モードの抽出 柏崎刈羽原子力発電所の立地環境、国外の評価事例や国内で発生したトラブル事例等から低温(凍結)に対する発電所への影響を調査し、その結果、以下のとおり機能喪失モードを抽出した。</p>	<p>添付資料2.1.3 設計基準を超える低温事象に対する事故シーケンス抽出</p> <p>1. 起回事象の特定 (1) 構築物、系統及び機器(以下、設備等)の損傷・機能喪失モードの抽出 柏崎刈羽原子力発電所の立地環境、国外の評価事例や国内で発生したトラブル事例等から低温に対する発電所への影響を調査し、その結果、以下のとおり機能喪失モードを抽出した。</p>	⑤
155	添付資料 2.1.3	添 2.1-24	<p>(3) 起回事象になり得るシナリオの選定 (1)項で抽出した各損傷・機能喪失モードに対して、(2)項で選定した評価対象設備への影響を検討の上、発生可能性のあるシナリオを選定した。</p> <p>①屋外タンク及び配管内流体の凍結 低温(凍結)によって軽油タンク等内の軽油が凍結するとともに、以下③に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備(燃料デイトンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>②ヒートシンク(海水)の凍結 低温(凍結)によって柏崎刈羽原子力発電所周辺の海水が凍結することは起こり得ないと考えられるため、この損傷・機能喪失モードは考慮しない。</p>	<p>(3) 起回事象になり得るシナリオの選定 (1)項で抽出した各損傷・機能喪失モードに対して、(2)項で選定した評価対象設備への影響を検討の上、発生可能性のあるシナリオを選定した。</p> <p>①屋外タンク及び配管内流体の凍結 低温によって軽油タンク等内の軽油が凍結するとともに、以下③に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備(デイトンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>②ヒートシンク(海水)の凍結 低温によって柏崎刈羽原子力発電所周辺の海水が凍結することは起こりえないと考えられるため、この損傷・機能喪失モードは考慮しない。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
156	添付資料 2.1.3	添 2.1-25	<p>(4) 起因事象の特定 (3)項で選定した各シナリオについて、想定を超える低温(凍結)事象に対しての裕度評価(起因事象発生可能性評価)を実施し、事故シーケンスグループ抽出に当たって考慮すべき起因事象の特定を行った。</p> <p>①屋外タンク及び配管内流体の凍結 低温(凍結)に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える低温(凍結)事象に対しては発生を否定できないため、軽油タンク等内の軽油の凍結を想定した場合、外部電源喪失の同時発生時においては、非常用ディーゼル発電設備燃料デイトンクの燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至るシナリオは考えられる。 ただし、軽油タンク等内の軽油は、流動点の低い特3号軽油への交換を実施しており、年超過確率約10^{-7}/年に対する温度の-16.0°Cでは凍結しないことから、起因事象としての発生頻度は十分に低い。</p> <p>②ヒートシンク(海水)の凍結 上述のとおり、この損傷・機能喪失モードは考慮しないため、想定するシナリオはない。</p> <p>③送変電設備の屋外設備への着氷 着氷に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える低温(凍結)事象に対しては発生を否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。</p>	<p>(4) 起因事象の特定 (3)項で選定した各シナリオについて、想定を超える低温事象に対しての裕度評価(起因事象発生可能性評価)を実施し、事故シーケンスグループ抽出に当たって考慮すべき起因事象の特定を行った。</p> <p>①屋外タンク及び配管内流体の凍結 低温に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える低温事象に対しては発生を否定できないため、軽油タンク等内の軽油の凍結を想定した場合、外部電源喪失の同時発生時においては、非常用ディーゼル発電設備デイトンクの燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至るシナリオは考えられる。 ただし、軽油タンク等内の軽油が凍結に至る温度-20°Cは、年超過確率評価上、約10^{-7}/年(10^{-7}/年の年超過頻度に対する温度は-16.0°C)未満となることから、起因事象としての発生頻度は十分に小さく、また、低温は事前の予測が可能であり、凍結防止等の必要な安全措置を講じることができる。</p> <p>②ヒートシンク(海水)の凍結 上述のとおり、この損傷・機能喪失モードは考慮しないため、想定するシナリオはない。</p> <p>③送変電設備の屋外設備への着氷 着氷に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える低温事象に対しては発生を否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。</p>	④(他のまとめ資料との整合)
157	添付資料 2.1.3	添 2.1-25	<p>2. 事故シーケンスの特定 1. にて設計基準を超える低温(凍結)事象に対し発生可能性のある起因事象として全交流動力電源喪失と外部電源喪失を選定したが、いずれも運転時の内部事象、地震及び津波レベルIPRAにて考慮していることから、追加すべき新しい事故シーケンスではない。 また、上述のとおり、軽油タンク等内の軽油が凍結に至る低温事象は、年超過確率評価上、約10^{-7}/年未満と非常に稀な事象であることから、低温(凍結)事象を要因とする全交流動力電源喪失についての詳細評価は不要と考えられる。 よって、事故シーケンス抽出に当たって考慮すべき起因事象は、外部電源喪失のみとなるが、軽油タンク等内の軽油が凍結する可能性の小ささを踏まえると、有意な頻度又は影響のある事故シーケンスは生じないと判断した。</p>	<p>2. 事故シーケンスの特定 1. にて設計基準を超える低温事象に対し発生可能性のある起因事象として全交流動力電源喪失と外部電源喪失を選定したが、いずれも運転時の内部事象や地震、津波レベルIPRAにて考慮していることから、追加すべき新しい事故シーケンスではない。 また、上述のとおり、軽油タンク等内の軽油が凍結に至る低温事象は、年超過確率評価上、約10^{-7}/年と非常に稀な事象であること、低温は事前の予測が可能であり、凍結防止等の必要な安全措置を講じることができることから、低温事象を要因とする全交流動力電源喪失についての詳細評価は不要と考えられる。 よって、事故シーケンス抽出に当たって考慮すべき起因事象は、外部電源喪失のみとなるが、軽油タンク等内の軽油が凍結する可能性の小ささを踏まえると、有意な頻度又は影響のある事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。</p>	⑤
158	添付資料 2.1.4	添 2.1-28	<p>② 落雷により屋外設備に発生する雷サージ 屋外設備のタンク類(軽油タンク、液化素貯槽)のうち、軽油タンクと屋内非常用ディーゼル発電設備制御盤を融通するケーブルへの雷サージによる非常用ディーゼル発電設備機能喪失が外部電源喪失と同時に発生し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>③ 落雷により屋外及び屋内設備に発生する誘導電位 屋外及び屋内設備に発生する誘導電位により、各種設備が機能喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ。</p>	<p>② 落雷により屋外設備に発生する雷サージ 屋外設備(送電線や送電鉄塔、変圧器、屋外設置タンク)への落雷により、当該設備の機能喪失に至るシナリオ。また、外部とのケーブルを融通している建屋内の制御盤・電源盤が機能喪失に至るシナリオ。</p> <p>③ 落雷により屋外及び屋内設備に発生する誘導電位 屋外及び屋内設備に発生する誘導電位により、建屋内設備が機能喪失するシナリオ。</p>	④(他のまとめ資料との整合)

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																		
159	添付資料 2.1.4	添 2.1-29	<p>評価は、過去に実施した雷インパルス試験結果をもとに、雷撃電流により発生する誘導電位が各設備の絶縁耐力値を上回る雷撃電流値を評価し、その雷撃電流値の発生可能性について評価を実施した。具体的には、印加電流とそれにより発生する誘導電位は比例関係にあることが知られていることから、過去の雷インパルス試験結果から印加電流(雷撃電流)に応じて発生する誘導電位を推定し、各設備の絶縁耐力値(計装設備:雷インパルス試験絶縁耐力値1000V、制御設備:雷インパルス試験絶縁耐力値2000V)との比較により機能喪失判断を実施した。6号炉の場合、印加電流に対し発生し得る最大の誘導電圧は200kA換算で709.3Vであるが(表1参照)、この関係から絶縁耐力値1000Vに達する雷撃電流値は282kA(発生頻度は8.7×10^{-6}件/年)で設備損傷と判断する。7号炉の場合、表2より耐力値の低い計装設備で絶縁耐力値1000Vに達する雷撃電流値は789kA(発生頻度3.1×10^{-8}件/年)となる。したがって、安全上重要な設備が損傷に至る雷撃が発生する可能性は非常に小さく、かつ起因事象の発生には複数区分の設備が損傷することが必要となるため、落雷を要因とする上記起因事象の発生は極低頻度事象であるため考慮不要とした。</p>	<p>評価は、過去に実施した雷インパルス試験結果をもとに、雷撃電流により発生する誘導電位が各設備の絶縁耐力値を上回る雷撃電流値を評価し、その雷撃電流値の発生可能性について評価を実施した。具体的には、印加電流とそれにより発生する誘導電位は比例関係にあることが知られていることから、過去の雷インパルス試験結果から印加電流(雷撃電流)に応じて発生する誘導電位を推定し、各設備の絶縁耐力値(設計値が低い計測制御設備:雷インパルス試験絶縁耐力値1000V)との比較により機能喪失判断を実施した。6号炉の場合、印加電流に対し発生し得る最大の誘導電圧は200kA換算で709.3Vであるが(表1参照)、この関係から絶縁耐力値1000Vに達する雷撃電流値は282kA(発生頻度は8.7×10^{-6}件/年)で設備損傷と判断する。7号炉の場合表2より絶縁耐力値1000Vに達する雷撃電流値は620kA(発生頻度1.4×10^{-7}件/年)となる。したがって、安全上重要な設備が損傷に至る雷撃が発生する可能性は非常に小さく、かつ起因事象の発生には複数区分の設備が損傷することが必要となるため、落雷を要因とする上記起因事象の発生は極低頻度事象である。</p>	④(他のまとめ資料との整合)																																																																																		
160	添付資料 2.1.4	添 2.1-30	<p>表1:雷インパルス試験結果によるケーブルへの誘導電圧(6号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発点-着点</th> <th rowspan="3">ケーブル種類</th> <th colspan="4">誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">200kA換算値(V)</th> <th colspan="2">誘導電圧</th> </tr> <tr> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋</td> <td>計装</td> <td>0.6(900)</td> <td>1.06(888)</td> <td>133.3</td> <td>238.7</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(4F東側)ー タービン建屋</td> <td>計装</td> <td>3.22(906)</td> <td>0.012(884)</td> <td>709.3</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋</td> <td>制御</td> <td>0.84(900)</td> <td>0.042(900)</td> <td>186.7</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋2FーB3F</td> <td>計装</td> <td>0.1(888)</td> <td>0.24(896)</td> <td>22.6</td> <td>63.6</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋</td> <td>制御</td> <td>4.24(872)</td> <td>5.0(904)</td> <td>972.5</td> <td>1106.2</td> </tr> </tbody> </table>	発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				200kA換算値(V)		誘導電圧		発点側	着点側	発点側	着点側	原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋	計装	0.6(900)	1.06(888)	133.3	238.7	原子炉建屋(4F東側)ー タービン建屋	計装	3.22(906)	0.012(884)	709.3	2.7	原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋	制御	0.84(900)	0.042(900)	186.7	9.3	原子炉建屋2FーB3F	計装	0.1(888)	0.24(896)	22.6	63.6	原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋	制御	4.24(872)	5.0(904)	972.5	1106.2	<p>表1:雷インパルス試験結果によるケーブルへの誘導電圧(6号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発点-着点</th> <th rowspan="3">ケーブル種類</th> <th colspan="4">誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">200kA換算値(V)</th> <th colspan="2">誘導電圧</th> </tr> <tr> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R/B(FMCRD)ーC/B</td> <td>計装</td> <td>0.6(900)</td> <td>1.06(888)</td> <td>133.3</td> <td>238.7</td> </tr> <tr> <td>R/B(4F東側)ーT/B</td> <td>計装</td> <td>3.22(906)</td> <td>0.012(884)</td> <td>709.3</td> <td>2.7</td> </tr> <tr> <td>R/B(4F東側 以外)ーT/B</td> <td>制御</td> <td>0.84(900)</td> <td>0.042(900)</td> <td>186.7</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>R/B2FーB3F</td> <td>計装</td> <td>0.1(888)</td> <td>0.24(896)</td> <td>22.6</td> <td>63.6</td> </tr> </tbody> </table>	発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				200kA換算値(V)		誘導電圧		発点側	着点側	発点側	着点側	R/B(FMCRD)ーC/B	計装	0.6(900)	1.06(888)	133.3	238.7	R/B(4F東側)ーT/B	計装	3.22(906)	0.012(884)	709.3	2.7	R/B(4F東側 以外)ーT/B	制御	0.84(900)	0.042(900)	186.7	9.3	R/B2FーB3F	計装	0.1(888)	0.24(896)	22.6	63.6	④(他のまとめ資料との整合)
発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)																																																																																					
		200kA換算値(V)				誘導電圧																																																																																	
		発点側	着点側	発点側	着点側																																																																																		
原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋	計装	0.6(900)	1.06(888)	133.3	238.7																																																																																		
原子炉建屋(4F東側)ー タービン建屋	計装	3.22(906)	0.012(884)	709.3	2.7																																																																																		
原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋	制御	0.84(900)	0.042(900)	186.7	9.3																																																																																		
原子炉建屋2FーB3F	計装	0.1(888)	0.24(896)	22.6	63.6																																																																																		
原子炉建屋(PHCRD)ー コントロール建屋	制御	4.24(872)	5.0(904)	972.5	1106.2																																																																																		
発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)																																																																																					
		200kA換算値(V)		誘導電圧																																																																																			
		発点側	着点側	発点側	着点側																																																																																		
R/B(FMCRD)ーC/B	計装	0.6(900)	1.06(888)	133.3	238.7																																																																																		
R/B(4F東側)ーT/B	計装	3.22(906)	0.012(884)	709.3	2.7																																																																																		
R/B(4F東側 以外)ーT/B	制御	0.84(900)	0.042(900)	186.7	9.3																																																																																		
R/B2FーB3F	計装	0.1(888)	0.24(896)	22.6	63.6																																																																																		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																
161	添付資料 2.1.4	添 2.1-30	<p>□表 2-雷インパルス試験結果によるケーブルへの誘導電圧(7号炉)...</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発点-着点</th> <th rowspan="3">ケーブル種類</th> <th colspan="4">誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)</th> <th colspan="2">誘導電圧</th> </tr> <tr> <th colspan="2">200kA 換算値(V)</th> <th colspan="2">200kA 換算値(V)</th> <th colspan="2"></th> </tr> <tr> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋</td> <td>計装</td> <td>1.1(868)</td> <td>0.34(872)</td> <td>263.5</td> <td>78.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(4F 東側)ー タービン建屋</td> <td>計装</td> <td>5.04(876)</td> <td>0.32(868)</td> <td>1150.7</td> <td>73.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋</td> <td>制御</td> <td>1.04(904)</td> <td>1.4(868)</td> <td>230.1</td> <td>322.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋 2FーB3F</td> <td>計装</td> <td>0.12(864)</td> <td>0.66(872)</td> <td>27.8</td> <td>151.4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋</td> <td>制御</td> <td>4.32(872)</td> <td>2.8(852)</td> <td>990.8</td> <td>657.3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※船舶用原子炉建屋7号炉の場合、R/B(4F 東側)ーT/B間で最大約1150V/200kAの誘導電圧が発生するが、当該区間を融通しているのはR/A 外気差圧差センサーのみであり、差圧差センサーにはアレスタ(雷インパルス試験耐電圧値:15kV)が内蔵されており、機器に影響を及ぼすことは無い。</p>	発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				誘導電圧		200kA 換算値(V)		200kA 換算値(V)				発点側	着点側	発点側	着点側	発点側	着点側	原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋	計装	1.1(868)	0.34(872)	263.5	78.0			原子炉建屋(4F 東側)ー タービン建屋	計装	5.04(876)	0.32(868)	1150.7	73.7			原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋	制御	1.04(904)	1.4(868)	230.1	322.6			原子炉建屋 2FーB3F	計装	0.12(864)	0.66(872)	27.8	151.4			原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋	制御	4.32(872)	2.8(852)	990.8	657.3			<p>□表 2-雷インパルス試験結果によるケーブルへの誘導電圧(7号炉)...</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">発点-着点</th> <th rowspan="3">ケーブル種類</th> <th colspan="4">誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)</th> <th colspan="2">誘導電圧</th> </tr> <tr> <th colspan="2">200kA 換算値(V)</th> <th colspan="2">200kA 換算値(V)</th> <th colspan="2"></th> </tr> <tr> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> <th>発点側</th> <th>着点側</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R/B(PNCRD)ーC/B</td> <td>計装</td> <td>1.1(868)</td> <td>0.34(872)</td> <td>263.5</td> <td>78.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R/B(4F 東側)ーT/B</td> <td>計装</td> <td>5.04(876)</td> <td>0.32(868)</td> <td>1150.7</td> <td>73.7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R/B(4F 東側)ー 以外)ーT/B</td> <td>制御</td> <td>1.04(904)</td> <td>1.4(868)</td> <td>230.1</td> <td>322.6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R/B2FーB3F</td> <td>計装</td> <td>0.12(864)</td> <td>0.66(872)</td> <td>27.8</td> <td>151.4</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※船舶用原子炉建屋7号炉の場合、R/B(4F 東側)ーT/B間で最大約1150V/200kAの誘導電圧が発生するが、当該区間を融通しているのはR/A 外気差圧差センサーのみであり、差圧差センサーにはアレスタ(雷インパルス試験耐電圧値:15kV)が内蔵されており、機器に影響を及ぼすことは無い。</p>	発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				誘導電圧		200kA 換算値(V)		200kA 換算値(V)				発点側	着点側	発点側	着点側	発点側	着点側	R/B(PNCRD)ーC/B	計装	1.1(868)	0.34(872)	263.5	78.0			R/B(4F 東側)ーT/B	計装	5.04(876)	0.32(868)	1150.7	73.7			R/B(4F 東側)ー 以外)ーT/B	制御	1.04(904)	1.4(868)	230.1	322.6			R/B2FーB3F	計装	0.12(864)	0.66(872)	27.8	151.4			④(他のまとめ資料との整合)
発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				誘導電圧																																																																																																															
		200kA 換算値(V)				200kA 換算値(V)																																																																																																															
		発点側	着点側	発点側	着点側	発点側	着点側																																																																																																														
原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋	計装	1.1(868)	0.34(872)	263.5	78.0																																																																																																																
原子炉建屋(4F 東側)ー タービン建屋	計装	5.04(876)	0.32(868)	1150.7	73.7																																																																																																																
原子炉建屋(B1F)ー タービン建屋	制御	1.04(904)	1.4(868)	230.1	322.6																																																																																																																
原子炉建屋 2FーB3F	計装	0.12(864)	0.66(872)	27.8	151.4																																																																																																																
原子炉建屋(PNCRD)ー コントロール建屋	制御	4.32(872)	2.8(852)	990.8	657.3																																																																																																																
発点-着点	ケーブル種類	誘導電圧測定値(V) ↓ (□)内は印加電流(A)				誘導電圧																																																																																																															
		200kA 換算値(V)		200kA 換算値(V)																																																																																																																	
		発点側	着点側	発点側	着点側	発点側	着点側																																																																																																														
R/B(PNCRD)ーC/B	計装	1.1(868)	0.34(872)	263.5	78.0																																																																																																																
R/B(4F 東側)ーT/B	計装	5.04(876)	0.32(868)	1150.7	73.7																																																																																																																
R/B(4F 東側)ー 以外)ーT/B	制御	1.04(904)	1.4(868)	230.1	322.6																																																																																																																
R/B2FーB3F	計装	0.12(864)	0.66(872)	27.8	151.4																																																																																																																
162	添付資料 2.1.4	添 2.1-32	<p>2. 事故シーケンスの特定 1. にて設計基準を超える落雷事象に対し発生可能性のあるシナリオ及び起因事象として以下のとおり抽出した。 ○落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至るシナリオ ○屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失、全交流動力電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ ○建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ また、上記シナリオの発生頻度は、1.(4)に示したとおり極低頻度であること、又は発生した場合であっても緩和設備に期待できることから、有意な頻度又は影響をもたらす事故シーケンスには至らないものと判断した。</p>	<p>2. 事故シーケンスの特定 1. にて設計基準を超える落雷事象に対し発生可能性のあるシナリオ及び起因事象として以下のとおり抽出した。 ○落雷により計測制御機器に発生するノイズの影響により、プラントスクラムに至るシナリオ ○屋外設備への雷サージの影響により、外部電源喪失、全交流動力電源喪失及びその他過渡事象に至るシナリオ ○建屋内外への雷による誘導電流の影響により、各種設備が機能喪失に至るシナリオ 上記のシナリオにおける起因事象については、内部事象や地震、津波レベル1PRAにて考慮しており、落雷により追加するべき事故シーケンスはないと判断した。 また、上記シナリオの発生頻度は、1.(4)に示したとおり極低頻度であること、又は発生した場合であっても緩和設備に期待できることから、有意な頻度又は影響をもたらす事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。</p>	⑤																																																																																																																
163	添付資料 2.1.5	添 2.1-33	<p>① 降下火砕物の堆積荷重による建屋天井や屋外設備の崩落 ② 降下火砕物による取水口及び海水系の閉塞 ③ 降下火砕物による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外設備の摩耗 ④ 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 ⑤ 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 ⑥ 降下火砕物によるアクセス性や作業性の悪化 (2)にも同じ記載有り)</p>	<p>① 降下火山灰の堆積荷重による静的荷重 ② 降下火山灰による取水口及び海水系の閉塞 ③ 降下火山灰による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外設備の摩耗 ④ 火山灰に付着している腐食成分による化学的影響 ⑤ 火山灰の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 ⑥ 降下火山灰によるアクセス性や作業性の悪化</p>	⑤																																																																																																																

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
164	添付資料 2.1.5	添 2.1-34	<p>① 降下火砕物の堆積荷重による建屋天井や屋外設備の崩落 建屋及び屋外設備に対する降下火砕物堆積荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋の天井が降下火砕物堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る。 ○タービン建屋 タービン建屋の天井が降下火砕物堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービン、発電機に影響が及び、タービントリップに至る。さらに、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る。 ○コントロール建屋 コントロール建屋の天井が降下火砕物堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室内設備が物理的に損傷し、計測・制御系機能喪失に至る。 <屋外設備> ○軽油タンク 軽油タンクの天井が降下火砕物堆積荷重により崩落した場合に、軽油タンクの機能喪失に至り、⑤項に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備(燃料ディタンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p>	<p>① 降下火山灰の堆積荷重による静的荷重 建屋及び屋外設備に対する降下火山灰堆積荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に損傷、機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る。 ○タービン建屋 タービン建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置しているタービン、発電機に影響が及び、タービントリップに至る。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ○コントロール建屋 コントロール建屋屋上が火山灰堆積荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室内設備が損傷し、計測制御系機能喪失に至る。 <屋外設備> ○軽油タンク 軽油タンクが火山灰堆積荷重により天井崩落、破損に至り、以下⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p>	⑤
165	添付資料 2.1.5	添 2.1-35	② 降下火砕物による取水口及び海水系の閉塞	② 降下火山灰による取水口及び海水系の閉塞	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
166	添付資料 2.1.5	添 2.1-35	<p>③ 降下火砕物による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外機器の摩耗 <屋外に面した設備> 降下火砕物によってD/G室空調給気口閉塞により各空調設備が機能喪失に至る。(ただし、中央制御室換気空調については、外気遮断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。) D/G室空調給気口閉塞により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、⑤項の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電源喪失に至る。 <屋外設備> 軽油タンクのベント管の閉塞や非常用ディーゼル発電設備燃料移送系ポンプの降下火砕物による軸受摩耗により、軽油タンク等が機能喪失し、⑤項に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備(燃料ディタンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>④ 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 降下火砕物が屋外設備に付着することによる腐食については、屋外設備表面には耐食性の塗装(エポキシ等)が施されており腐食の抑制効果が考えられること、腐食の進展速度の遅さを考慮し、適切な安全管理が可能と判断、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。</p> <p>⑤ 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 降下火砕物が送電網の碍子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至る。</p> <p>⑥ 降下火砕物によるアクセス性や作業性の悪化 降下火砕物により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぼす可能性があるものの、設計基準事故対処設備のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外での現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外の作業性へ影響が及んだ場合であっても構内の道路又はアクセスルートについては、除灰を行うことから問題はない。 そのため上記①～⑤の影響評価の結果として、可搬型代替交流電源設備の接続といった屋外での作業が必要になるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	<p>③ 降下火山灰による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外機器の摩耗 (屋外に面した設備) 降下火山灰によって中央制御室換気空調及びD/G室空調給気口閉塞により各空調設備が機能喪失に至る。(ただし、中央制御室換気空調については、外気遮断による再循環運転が可能な設計となっているため、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。) D/G室空調給気口閉塞により、非常用ディーゼル発電設備の機能喪失に至る場合において、以下⑤の外部電源喪失が発生している状況下では、全交流動力電源喪失に至る。 (屋外設備) 軽油タンクのベント管の閉塞や非常用ディーゼル発電設備燃料移送系ポンプの火山灰による軸受摩耗により、軽油タンク等が機能喪失し、以下⑤に示す外部電源喪失が発生している状況下においては、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>④ 火山灰に付着している腐食成分による化学的影響 火山灰が屋外設備に付着することによる腐食については、屋外設備表面には耐食性の塗装(エポキシ等)が施されており腐食の抑制効果が考えられること、腐食の進展速度の遅さを考慮し、適切な安全管理が可能と判断、考慮すべきシナリオとしては抽出不要とする。</p> <p>⑤ 火山灰の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 火山灰が送電網の碍子や変圧器へ付着し、霧や降雨の水分を吸収することによって、相間短絡を起こし外部電源喪失に至る。</p> <p>⑥ 降下火山灰によるアクセス性や作業性の悪化 降下火山灰により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぼす可能性があるものの、設計基準対象施設のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外での現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外の作業性へ影響が及んだ場合であっても構内の道路又はアクセスルートについては、除灰を行うことから問題はない。 そのため上記①～⑤の影響評価の結果として、電源車の接続といった屋外での作業が必要になるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	⑤
167	添付資料 2.1.5	添 2.1-36	<p>① 降下火砕物の堆積荷重による建屋天井や屋外設備の崩落 設計として想定している降下火砕物堆積量35cmは、表4.1に示す各建屋天井及び軽油タンクの許容荷重より小さく、裕度を有しているものの、各建屋及び軽油タンクの許容荷重以上に堆積した場合には、(3)項で選定した各シナリオに至る可能性がある。</p>	<p>① 建屋天井や屋外設備に対する荷重により発生可能性のあるシナリオ 設計として想定している降下火山灰堆積量30cmは、表4.1に示す各建屋天井及び軽油タンクの許容荷重より小さく、裕度を有しているものの、各建屋及び軽油タンクの許容荷重以上に堆積した場合には、(3)項で選定した各シナリオに至る可能性がある。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																				
168	添付資料 2.1.5	添 2.1-37	<p>表4.1-各建屋・タンクの降下火砕物堆積における許容荷重</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋・タンク</th> <th>許容荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>6号炉：81cm 7号炉：81cm</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋</td> <td>6号炉：67cm 7号炉：67cm</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋</td> <td>142cm</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>6号炉：88cm 7号炉：88cm</td> </tr> </tbody> </table>	建屋・タンク	許容荷重	原子炉建屋	6号炉：81cm 7号炉：81cm	タービン建屋	6号炉：67cm 7号炉：67cm	コントロール建屋	142cm	軽油タンク	6号炉：88cm 7号炉：88cm	<p>表4.1-各建屋・タンクの火山灰堆積における許容荷重</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋・タンク</th> <th>許容荷重</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>6号炉：71cm 7号炉：72cm</td> </tr> <tr> <td>タービン建屋</td> <td>6号炉：53cm 7号炉：53cm</td> </tr> <tr> <td>コントロール建屋</td> <td>74cm</td> </tr> <tr> <td>軽油タンク</td> <td>6号炉：64cm 7号炉：64cm</td> </tr> </tbody> </table>	建屋・タンク	許容荷重	原子炉建屋	6号炉：71cm 7号炉：72cm	タービン建屋	6号炉：53cm 7号炉：53cm	コントロール建屋	74cm	軽油タンク	6号炉：64cm 7号炉：64cm	④(他のまとめ資料との整合)
建屋・タンク	許容荷重																								
原子炉建屋	6号炉：81cm 7号炉：81cm																								
タービン建屋	6号炉：67cm 7号炉：67cm																								
コントロール建屋	142cm																								
軽油タンク	6号炉：88cm 7号炉：88cm																								
建屋・タンク	許容荷重																								
原子炉建屋	6号炉：71cm 7号炉：72cm																								
タービン建屋	6号炉：53cm 7号炉：53cm																								
コントロール建屋	74cm																								
軽油タンク	6号炉：64cm 7号炉：64cm																								

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
169	添付資料 2.1.5	添 2.1-37	<p>② 降下火砕物による取水口及び海水系の閉塞 海水中の降下火砕物による海水系への影響については、降下火砕物の性質である硬度を考慮すると、海水中の降下火砕物によって熱交換器の伝熱管や海水ポンプ軸受の異常磨耗は進展しにくく、また、海水ストレーナの自動洗浄機能によって、機能喪失することは考えにくい。しかし、何らかの理由で、海水中の降下火砕物が大量に流入した場合には、海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性はある。ただし、最終ヒートシンク喪失は内部事象、地震及び津波のレベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。</p> <p>③ 降下火砕物による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外設備の摩耗 D/G室空調フィルタへの降下火砕物の影響については、設計基準を超える降下火砕物に対しても、フィルタ交換が可能な構造であることを考慮すると、換気空調系フィルタの閉塞発生可能性が十分に低減されると考えられるが、定量的な裕度評価が困難であり、何らかの理由で大量の降下火砕物が流入した場合は、非常用ディーゼル発電機の機能喪失に至る。ただし、非常用ディーゼル発電機の機能喪失は内部事象、地震及び津波のレベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。 軽油タンク等への降下火砕物の影響については、以下の理由で起因事象は発生しない。軽油タンクのベント管出口は地面側を向いていること、地上10mの高さにあることから閉塞しない。また非常用ディーゼル発電設備燃料移送系ポンプは、軸貫通部に潤滑剤等の漏えいがないよう管理されており、電動機についても内部に降下火砕物が侵入しない構造となっていることから降下火砕物の影響を受けない。</p> <p>④ 降下火砕物に付着している腐食成分による化学的影響 降下火砕物が屋外設備に付着することによる腐食については、屋外設備表面に耐食性の塗装(エポキシ等)が施されており腐食の抑制効果があること、及び腐食の進展速度が遅いことを考慮し、適切な保全管理により発生防止が可能であるため、腐食を要因とする起因事象は考慮不要である。</p>	<p>② 降下火山灰による取水口及び海水系の閉塞 海水中の降下火山灰による海水系への影響については、火山灰の性質である硬度を考慮すると、海水中の降下火山灰によって熱交換器の伝熱管や海水ポンプ軸受の異常磨耗は進展しにくく、また、海水ストレーナの自動洗浄機能によって、機能喪失することは考えにくい。しかし、何らかの理由で、海水中の火山灰が大量に流入した場合には、海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る可能性はある。ただし、最終ヒートシンク喪失は内部事象や地震、津波のレベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。</p> <p>③ 降下火山灰による換気空調系フィルタ及び軽油タンクの閉塞並びに屋外設備の摩耗 D/G室空調フィルタへの降下火山灰の影響については、設計基準を超える降下火山灰に対しても、フィルタ交換が可能な構造であることを考慮すると、換気空調系フィルタの閉塞発生可能性が十分に低減されると考えられるが、定量的な裕度評価が困難であり、何らかの理由で大量の火山灰が流入した場合は、非常用ディーゼル発電機の機能喪失に至る。ただし、非常用ディーゼル発電機の機能喪失は内部事象や地震、津波のレベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。 軽油タンク等への火山灰の影響については、以下の理由で起因事象は発生しない。軽油タンクのベント管出口は地面側を向いていること、地上10mの高さにあることから閉塞しない。また非常用ディーゼル発電設備燃料移送系ポンプは、軸貫通部に潤滑剤等の漏えいがないよう管理されており、電動機についても内部に火山灰が侵入しない構造となっていることから火山灰の影響を受けない。</p> <p>④ 火山灰に付着している腐食成分による化学的影響 火山灰が屋外設備に付着することによる腐食については、屋外設備表面に耐食性の塗装(エポキシ等)が施されており腐食の抑制効果があること、及び腐食の進展速度が遅いことを考慮し、適切な保全管理により発生防止が可能であるため、腐食を要因とする起因事象は考慮不要である。</p>	⑤
170	添付資料 2.1.5	添 2.1-37	<p>⑤ 降下火砕物の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 降下火砕物の影響を受ける可能性がある送変電設備は、発電所内外の広範囲にわたるため、全域における管理が困難なことを踏まえると設備等の不具合による外部電源喪失の発生可能性は否定できない。ただし、外部電源喪失は内部事象や地震、津波でも考慮しており追加のシナリオではない。</p>	<p>⑤ 火山灰の送電網又は変圧器への付着による相間短絡 降下火山灰の影響を受ける可能性がある送変電設備は、発電所内外の広範囲に亘るため、全域における管理が困難なことを踏まえると設備等の不具合による外部電源喪失の発生可能性は否定できない。ただし、外部電源喪失は内部事象や地震、津波でも考慮しており追加のシナリオではない。</p>	
171	添付資料 2.1.5	添 2.1-38	<p>また、上記シナリオのうち、各建屋及び軽油タンクの天井の崩落については、除灰により発生防止を図ることが可能であること、D/G室空調給気閉塞についてもフィルタ交換により発生防止を図ることが可能であることから、それぞれ発生自体が影響のある事故シーケンスとはならないものと判断した。</p>	<p>また、上記シナリオのうち、各建屋及び軽油タンクの天井の崩落については、除灰により発生防止を図ることが可能であること、D/G室空調給気口閉塞についてもフィルタ交換により発生防止を図ることが可能であることから、それぞれの事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
172	添付資料 2.1.6	添 2.1-41	○コントロール建屋 風速については、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速は55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)となるが、コントロール建屋は十分な厚さを有した鉄筋コンクリート造であり、この程度の極めて発生することが稀な風荷重を想定しても建屋の頑健性は維持されと考えられる。	○コントロール建屋 風速については、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速は55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)となるが、コントロール建屋は十分な厚さを有した鉄筋コンクリート造であり、極端な風荷重を想定しても建屋の頑健性は維持されと考えられる。	⑤
173	添付資料 2.1.6	添 2.1-41	○軽油タンク等 風速については、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速は55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)となるが、この程度の極めて発生することが稀な風荷重に対しても軽油タンク等が損傷に至ることはないものの、仮にこれを上回る風荷重に対し軽油タンク等が損傷し、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っているとすると、非常用ディーゼル発電設備(燃料デイトンク)の燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至る。	○軽油タンク等 風速については、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速は55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)となるが、この程度の風荷重に対しても軽油タンク等が損傷に至ることはないものの、仮にこれを上回る風荷重に対し軽油タンク等が損傷し、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っているとすると、非常用ディーゼル発電設備デイトンクの燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至る。	⑤
174	添付資料 2.1.6	添 2.1-42	③強風によるアクセス性や作業性の悪化 強風により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響が及ぶ可能性があるものの、設計基準事故対処設備のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外作業へ影響が及んだ場合であっても問題はない。 そのため上記①の影響評価の結果として、可搬型代替交流電源設備の接続といった屋外での作業が必要となるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。	③“アクセス性や作業性の悪化” 強風により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぶ可能性があるものの、設計基準対象施設のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外作業へ影響が及んだ場合であっても問題はない。 そのため上記①の影響評価の結果として、電源車の接続といった屋外での作業が必要となるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。	⑤
175	添付資料 2.1.6	添 2.1-42	① 風荷重による建屋や設備等の損傷	① 建屋や屋外設備に対する“荷重”により発生可能性のあるシナリオ	⑤
176	添付資料 2.1.6	添 2.1-42	<屋外設備> ○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 風荷重に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える風荷重に対して送変電設備が損傷することは否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。 ○軽油タンク等損傷に伴う全交流動力電源喪失 仮に軽油タンク等が損傷し、かつ外部電源喪失の同時発生を想定すると全交流動力電源喪失に至るが、軽油タンク等は、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)の風荷重が作用した場合であっても損傷に至らないことから、起因事象としての発生頻度は十分低く詳細評価は不要と考えられる。	<屋外設備> ○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 風荷重に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える風荷重に対して発生を否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。 ○軽油タンク等損傷に伴う全交流動力電源喪失 仮に軽油タンク等が損傷し、かつ外部電源喪失の同時発生を想定すると全交流動力電源喪失に至るが、軽油タンク等は、年超過確率評価上、 10^{-7} /年となる風速55.7m/s(地上高10m, 10分間平均風速)の風荷重が作用した場合であっても損傷に至らないことから、起因事象としての発生頻度は十分小さく詳細評価は不要と考えられる。	⑤
177	添付資料 2.1.6	添 2.1-43	また、上記シナリオのうち、全交流動力電源喪失シナリオは、軽油タンク等の損傷可能性(年超過確率評価上、 10^{-7} /年未満)を考慮すると、発生自体が非常に稀な事象であり、起因事象としてはタービントリップと外部電源喪失のみを考慮すればよく、原子炉建屋及びコントロール建屋、軽油タンク等の損傷可能性を踏まえ、これら起因事象から有意な頻度又は影響のある事故シーケンスは生じないと判断した。	また、上記シナリオのうち、全交流動力電源喪失シナリオは、軽油タンク等の損傷可能性(年超過確率評価上、 $<10^{-7}$ /年)を考慮すると、発生自体が非常に稀な事象であり、起因事象としてはタービントリップと外部電源喪失のみを考慮すればよく、原子炉建屋及びコントロール建屋、軽油タンク等の損傷可能性を踏まえ、これら起因事象から有意な頻度又は影響のある事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
178	添付資料 2.1.7	添 2.1-46	<p>○軽油タンク、非常用ディーゼル発電設備燃料移送系(以下「軽油タンク等」という。)</p> <p>竜巻の最大風速については、年超過確率評価上、10-7/年となる風速は90m/s程度となるが、この程度の風荷重に対しても軽油タンク等が損傷に至ることはないものの、仮にこれを上回る風荷重に対し軽油タンク等が損傷した場合で、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っているとすると、非常用ディーゼル発電設備(燃料ディタンク)の燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられる。</p> <p><屋内設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タービン建屋上層部が風荷重及び気圧差荷重により破損に至った場合、タービンや発電機への影響が想定され、シナリオとしてはタービントリップが考えられる。 ・非常用電気品区域換気空調設備は、原子炉建屋内に設置されており風荷重の影響を直接受けないが、気圧差荷重によりダクト、ファン、ダンパ等の損傷が考えられる。それらの設備の損傷により、非常用ディーゼル発電機室の換気が困難になった場合、非常用ディーゼル発電機室温度の上昇に伴い、非常用ディーゼル発電機が機能喪失、交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられる。また、その状況下において、送変電設備の損傷により外部電源喪失にも至っているとすると、全交流動力電源喪失となる。 ・中央制御室換気空調設備は、コントロール建屋に設置されており、気圧差荷重によりダクト、ファン、ダンパ等への影響が考えられる。それら設備の損傷により中央制御室の換気が困難になった場合、中央制御室内の温度が上昇するが、即、中央制御室内の機器へ影響が及ぶことはなく、また、竜巻の影響は一時的であり竜巻襲来後の対応は十分可能であるため計測・制御系喪失により制御不能に至るシナリオは考慮不要とする。 	<p>○軽油タンク、非常用ディーゼル発電設備燃料移送系</p> <p>竜巻の最大風速については、年超過確率評価上、10-7/年となる風速は90m/s程度となるが、この程度の風荷重に対しても軽油タンク等が損傷に至ることはないものの、仮にこれを上回る風荷重に対し軽油タンク等が損傷した場合で、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っているとすると、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられる。</p> <p><屋内設備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タービン建屋上層部が風荷重及び気圧差荷重により破損に至った場合、タービンや発電機への影響が想定され、シナリオとしてはタービントリップが考えられる。 ・非常用電気品区域換気空調設備は、原子炉建屋内に設置されており風荷重の影響を直接受けないが、気圧差荷重によりダクト、ファン、ダンパ等の損傷が考えられる。それらの設備の損傷により、非常用ディーゼル発電機室の換気が困難になった場合、非常用ディーゼル発電機室温度の上昇に伴い、非常用ディーゼル発電機が機能喪失、交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられる。また、その状況下において、送変電設備の損傷により外部電源喪失にも至っているとすると、全交流動力電源喪失となる。 ・中央制御室換気空調設備は、コントロール建屋に設置されており、気圧差荷重によりダクト、ファン、ダンパ等への影響が考えられる。それら設備の損傷により中央制御室の換気が困難になった場合、中央制御室内の温度が上昇するが、即、中央制御室内の機器へ影響が及ぶことはなく、また、竜巻の影響は瞬時であり竜巻襲来後の対応は十分可能であるため計測・制御系喪失により制御不能に至るシナリオは考慮不要とする。 	⑤
179	添付資料 2.1.7	添 2.1-47	<p>○原子炉建屋、コントロール建屋、タービン建屋</p> <p>飛来物が建屋外壁を貫通することにより、屋内設備に波及的影響を及ぼすことが考えられるが、発生可能性のあるシナリオについては、後述の屋内設備で考慮することとする。</p>	<p>○原子炉建屋、コントロール建屋、タービン建屋</p> <p>飛来物が建屋外壁を貫通することにより、屋内設備に波及的影響を及ぼすことが考えられるが、発生可能性のあるシナリオについては、<屋内設備>で考慮することとする。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
180	添付資料 2.1.7	2.1-47	<p>・原子炉建屋1階に設置している非常用ディーゼル発電設備に建屋扉を貫通した飛来物が衝突して全数機能喪失した場合や3階に設置している非常用ディーゼル発電設備空空調給気口に飛来物が衝突して閉塞し、全数機能喪失した場合で、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っていると、全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられる。しかし、非常用ディーゼル発電設備及び空調給気口は多重化されていることに加えて分散配置されているため、非常用ディーゼル発電設備が全数機能喪失する確率は極低頻度であること、さらには、竜巻の襲来確率が極低頻度であることを考慮すると、非常用ディーゼル発電設備の機能が喪失するのは10-7/年より小さくなることから、全交流動力電源喪失に至るシナリオは考慮不要とする。</p> <p>・コントロール建屋最上階に設置している中央制御室内の計測・制御設備に建屋外壁を貫通した飛来物が衝突して安全系設備の制御に関わる設備が全数機能喪失した場合、計測・制御系機能喪失に至るシナリオが考えられるが、飛来物の衝突により安全系設備の制御に関わる設備が全数機能喪失するのは、極低頻度であると考えられることから飛来物による計測・制御系機能喪失シナリオは考慮不要とする。</p> <p>・タービン建屋2階に設置しているタービンや発電機に建屋外壁を貫通した飛来物が衝突した場合のシナリオとしては、タービントリップが考えられる。</p> <p>・タービン建屋地下1階から1階にある循環水ポンプの1階部分に建屋外壁を貫通した飛来物が衝突して全数機能喪失した場合、復水器の真空度が低下し、出力低下又は手動停止に至る。</p> <p>ただし、上記シナリオのうち、タービントリップ以外は、飛来物発生要因である大規模竜巻の発生頻度が極低頻度であり、さらに飛来物が発生し建屋へ衝突、壁を貫通する可能性、壁を貫通したとしてもそれにより屋内設備が機能喪失に至る可能性を考慮すると、発生可能性は極めて小さい。加えて、安全系に関わる設備(原子炉補機冷却系、非常用ディーゼル発電設備燃料ディタンク等)は多重化されており、複数区分の設備が同時に損傷に至らない限り上述の起因事象には至らないことから、極めて稀な事象であり詳細評価不要と判断した。</p>	<p>・原子炉建屋1階に設置している非常用ディーゼル発電設備に建屋扉を貫通した飛来物が衝突して全数機能喪失した場合や3階に設置している非常用ディーゼル発電設備空空調給気口に飛来物が衝突して閉塞し、全数機能喪失した場合で、かつ送変電設備の損傷により外部電源喪失に至っていると、全交流動力電源喪失に至るシナリオが考えられるが、非常用ディーゼル発電設備及び空調給気口は多重化されていることに加えて分散配置されているため、非常用ディーゼル発電設備が全数機能喪失する確率は極低頻度であること、さらには、竜巻の襲来確率が極低頻度であることを考慮すると、非常用ディーゼル発電設備の機能が喪失するのは10-7/年より小さくなることから、全交流動力電源喪失に至るシナリオは考慮不要とする。</p> <p>・コントロール建屋最上階に設置している中央制御室内の計測・制御設備に建屋外壁を貫通した飛来物が衝突して安全系設備の制御に関わる設備が全数機能喪失した場合、計測制御系機能喪失に至るシナリオが考えられるが、飛来物の衝突により安全系設備の制御に係る設備が全数機能喪失するのは、極低頻度であると考えられることから飛来物による計測制御系機能喪失シナリオは考慮不要とする。</p> <p>・タービン建屋2階に設置しているタービンや発電機に建屋外壁を貫通した飛来物が衝突した場合のシナリオとしては、タービントリップが考えられる。</p> <p>・タービン建屋1階に設置している循環水ポンプに建屋外壁を貫通した飛来物が衝突して全数機能喪失した場合、復水器の真空度が低下し、出力低下又は手動停止に至る。</p> <p>ただし、上記シナリオのうち、タービントリップ以外は、飛来物発生要因である大規模竜巻の発生頻度が極低頻度であり、さらに飛来物が発生し建屋へ衝突、壁を貫通する可能性、壁を貫通したとしてもそれにより屋内設備が機能喪失に至る可能性を考慮すると、発生可能性は極めて小さい。加えて、安全系に関わる設備(原子炉補機冷却系、非常用ディーゼル発電設備燃料ディタンク等)は多重化されており、複数区分の設備が同時に損傷に至らない限り上述の起因事象には至らないことから、極めて稀な事象であり詳細評価不要と判断した。</p>	⑤
181	添付資料 2.1.7	添 2.1-49	<p>⑤竜巻襲来後のがれき散乱によるアクセス性や作業性の悪化 竜巻襲来後のがれき散乱により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響が及ぶ可能性があるものの、設計基準事故対処設備のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外作業へ影響がおよんだ場合であっても問題はない。 そのため①～④項の影響評価の結果として、可搬型代替交流電源設備の接続といった屋外での作業が必要となるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	<p>⑤アクセス性や作業性の悪化 竜巻襲来後の瓦礫散乱により屋外現場へのアクセス性や屋外での作業性に影響を及ぶ可能性があるものの、設計基準対象施設のみで対応可能なシナリオであれば基本的に屋外現場対応はなく、仮にアクセス性や屋外作業へ影響が及んだ場合であっても問題はない。 そのため上記①～④の影響評価の結果として、電源車の接続といった屋外での作業が必要となるケースが確認された場合に、別途、詳細検討するものとする。</p>	⑤
182	添付資料 2.1.7	添 2.1-49	① 風荷重及び気圧差荷重による建屋や設備等の損傷	① 建屋や建屋内外設備に対する“風荷重及び気圧差荷重”により発生可能性のあるシナリオ	⑤
183	添付資料 2.1.7	添 2.1-50	○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 風荷重に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える風荷重及び気圧差荷重に対して 送変電設備の損傷 を否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。	○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 風荷重に対して設計上の配慮はなされているものの、設計基準を超える風荷重及び気圧差荷重に対して発生を否定できないため、送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定する。	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
184	添付資料 2.1.7	添 2.1-50	<p>○換気空調系損傷に伴う全交流動力電源喪失 換気空調系(非常用ディーゼル発電機電気品区域換気空調系, 海水熱交換器区域換気空調系)のうち, 気圧差の影響を受けやすいダクトについては, 設計を超える荷重が作用した場合変形する可能性があり, 一定の風量を確保することが困難になる可能性があるため, 換気空調系損傷に伴う非常用ディーゼル発電機の機能喪失(外部電源喪失状況下においては全交流動力電源喪失)がシナリオとしては考えられる。しかし, 内部事象レベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。</p>	<p>○非常用電気品区域換気空調設備損傷に伴う全交流動力電源喪失 非常用電気品区域換気空調設備のうち, 気圧差の影響を受けやすいダクトについては, 設計を超える荷重が作用した場合変形する可能性はあるものの, 一定の風量は確保可能であると考えられるため, 非常用電気品区域換気空調設備損傷に伴う非常用ディーゼル発電設備の機能喪失(外部電源喪失状況下においては全交流動力電源喪失)がシナリオとしては考えられる。しかし, 内部事象レベル1PRAでも考慮しており追加のシナリオではない。</p>	⑤
185	添付資料 2.1.7	添 2.1-51	<p>② 建屋や建屋内外設備に対する飛来物の衝撃荷重により発生する可能性のあるシナリオ <建屋> 原子炉建屋, コントロール建屋及びタービン建屋は, 飛来物が建屋外壁を貫通することにより, 屋内設備に波及的影響を及ぼすが, 発生可能性のあるシナリオは, 後述の屋内設備で考慮することとする。</p> <p><屋外設備> ○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 飛来物の衝撃荷重に対して発生を否定できないため, 送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定するが, 運転時の内部事象, 地震及び津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。 ○軽油タンク等損傷に伴う全交流動力電源喪失 仮に軽油タンク等が損傷し, かつ外部電源喪失の同時発生を想定すると全交流動力電源喪失に至るが, 全交流動力電源喪失は運転時の内部事象, 地震及び津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。</p> <p><屋内設備> ○飛来物がタービンや発電機に衝突することに伴うタービントリップ タービン建屋上層部は鉄骨造であり, 外壁については, 原子炉建屋やコントロール建屋に比べて強度が低い材質であるため飛来物の貫通リスクが高く, タービン建屋2階に設置しているタービンや発電機に飛来物が衝突する可能性は否定できないため, 飛来物がタービンや発電機に衝突することに伴うタービントリップについては考慮すべきシナリオとして選定するが, 運転時の内部事象, 地震及び津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。 ○循環水ポンプが飛来物の衝突により損傷し, 復水器の真空度が低下することに伴い出力低下又は手動停止 タービン建屋の循環水ポンプエリアの外壁には, 開口部(ルーバ)があるため飛来物の侵入リスクが高く, 循環水ポンプに飛来物が衝突し, 循環水ポンプが損傷する可能性がある。その場合の影響としては, 復水器真空度低下に伴う出力低下又は手動停止等の措置が考えられるが, 運転時の内部事象, 地震及び津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。</p>	<p>② 建屋や建屋内外設備に対する“飛来物の衝撃荷重”により発生する可能性のあるシナリオ <建屋> 原子炉建屋, コントロール建屋及びタービン建屋は, 飛来物が建屋外壁を貫通することにより, 屋内設備に波及的影響を及ぼすが, 発生可能性のあるシナリオは, <屋内設備>で考慮することとする。</p> <p><屋外設備> ○送変電設備損傷に伴う外部電源喪失 飛来物の衝撃荷重に対して発生を否定できないため, 送変電設備の損傷に伴う外部電源喪失については考慮すべきシナリオとして選定するが, 運転時の内部事象及び地震, 津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。 ○軽油タンク等損傷に伴う全交流動力電源喪失 仮に軽油タンク等が損傷し, かつ外部電源喪失の同時発生を想定すると全交流動力電源喪失に至るが, 全交流動力電源喪失は運転時の内部事象及び地震, 津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。</p> <p><屋内設備> ○飛来物がタービンや発電機に衝突することに伴うタービントリップ タービン建屋上層部は鉄骨造であり, 外壁については, 原子炉建屋やコントロール建屋に比べて強度が低い材質であるため飛来物の貫通リスクが高く, タービン建屋2階に設置しているタービンや発電機に飛来物が衝突する可能性は否定できないため, 飛来物がタービンや発電機に衝突することに伴うタービントリップについては考慮すべきシナリオとして選定するが, 運転時の内部事象及び地震, 津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。 ○循環水ポンプが飛来物の衝突により損傷し, 復水器の真空度が低下することに伴い出力低下又は手動停止に至るシナリオ タービン建屋1階の循環水ポンプエリアの外壁には, 開口部(ルーバ)があるため飛来物の侵入リスクが高く, 循環水ポンプに飛来物が衝突し, 循環水ポンプが損傷する可能性がある。その場合の影響としては, 復水器真空度低下に伴う出力低下又は手動停止等の措置が考えられるが, 運転時の内部事象及び地震, 津波レベル1PRAでも考慮しているものであり追加のシナリオではない。</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
186	添付資料 2.1.7	添 2.1-52	また、上記シナリオのうち、全交流動力電源喪失シナリオは、軽油タンク等の損傷可能性(年超過確率10-7/年未満)を考慮すると、発生自体が非常に稀な事象であることから 起因事象としてはタービントリップと外部電源喪失のみを考慮すればよく 、原子炉建屋及びコントロール建屋、軽油タンク等の損傷可能性及び飛来物の建屋貫通による屋内設備の損傷可能性を踏まえると、これら起因事象から有意な影響のある炉心損傷事故シーケンスは 生じないと判断した 。	また、上記シナリオのうち、全交流動力電源喪失シナリオは、軽油タンク等の損傷可能性(年超過確率10-7/年未満)を考慮すると、発生自体が非常に稀な事象である。また、原子炉建屋及びコントロール建屋、軽油タンク等の損傷可能性及び飛来物の建屋貫通による屋内設備の損傷可能性を踏まえると、これら起因事象から有意な影響のある炉心損傷事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。	⑤
187	添付資料 2.1.8	添 2.1-54	① 雨水荷重による建屋天井の崩落 建屋に対する雨水荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋の 天井 が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、雨水が下層階へ伝播し、 非常用 ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ○タービン建屋 タービン建屋の 天井 が雨水荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。また、タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、没水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ○コントロール建屋 コントロール建屋の 天井 が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は没水若しくは被水により機能喪失し、計測・制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至るシナリオ。 ○廃棄物処理建屋 廃棄物処理建屋の 天井 が雨水荷重により崩落した場合に、 冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が没水又は被水により機能喪失し、 プラントスクラム に至るシナリオ。	① 建屋天井に対する荷重 建屋に対する雨水荷重により発生可能性のあるシナリオは以下のとおり。 <建屋> ○原子炉建屋 原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している原子炉補機冷却系のサージタンクが物理的に機能喪失することで、原子炉補機冷却系が喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、雨水が下層階へ伝播し、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が没水又は被水により機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。 ○タービン建屋 タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、タービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。また、タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、没水又は被水により原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。 ○コントロール建屋 コントロール建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は没水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備へ雨水が伝播し直流電源喪失に至るシナリオ。 ○廃棄物処理建屋 廃棄物処理建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が没水又は被水により機能喪失し、 プラントスクラム に至るシナリオ。	⑤
188	添付資料 2.1.8	添 2.1-55	③ 建屋内浸水による機器の没水又は被水 本損傷・機能喪失モードにより発生する事故シーケンスは、発生原因が浸水によるものであり、 対策は建屋周辺の止水対策となるため、重大事故防止対策の有効性の確認のためのシーケンスには適さない 。よってこの 損傷・機能喪失モードは考慮しない 。	③ 建屋内浸水による機器の没水又は被水 本損傷・機能喪失モードにより発生する事故シーケンスは、発生原因が浸水によるものであるため、「①建屋天井に対する荷重」のシナリオに代表させる。	④(他のまとめ資料との整合)
189	添付資料 2.1.1	添 2.1-55	① 雨水荷重による建屋天井の崩落	① 建屋天井に対する荷重により発生可能性のあるシナリオ	⑤
190	添付資料 2.1.8	添 2.1-56	この時、原子炉建屋最地下階において原子炉隔離時冷却系が没水により機能喪失する可能性もあることから、 平成4年以降に整備したアクシデントマネジメント策に期待しない場合には、炉心損傷に至る 。	この時、原子炉建屋最地下階において原子炉隔離時冷却系が没水により機能喪失する可能性もあることから アクシデントマネジメント策に期待しない場合には、炉心損傷に至る 。	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
191	添付資料 2.1.8	添 2.1-56	<p>2. 事故シーケンスの特定</p> <p>1. (3)項にて起因事象となり得るシナリオを以下のとおり選定した。</p> <p>○原子炉建屋の天井が崩落した場合に、原子炉補機冷却水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る。また、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至る。</p> <p>○タービン建屋の天井崩落した場合にタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至る。</p> <p>○タービン建屋熱交換器エリア屋上が崩落した場合に、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至る。</p> <p>○タービン建屋熱交換器エリアの天井が崩落した場合に、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至る。</p> <p>○コントロール建屋の天井が崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は没水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至る。さらには、中央制御室の下階に位置している直流電源設備が溢水により機能喪失に至る。</p> <p>○廃棄物処理建屋の天井が崩落した場合に、冷却材再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が没水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至る。</p> <p>○降水の影響により屋外の送変電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが没水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備(燃料ディタンク)の燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至る。</p>	<p>2. 事故シーケンスの特定</p> <p>1. (3)項にて起因事象となり得るシナリオを以下のとおり選定した。</p> <p>○原子炉建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、原子炉補機冷却系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、ディーゼル発電設備及び非常用電源盤が機能喪失し、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p> <p>○タービン建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合にタービンや発電機に影響が及び、タービントリップに至るシナリオ。</p> <p>○タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、原子炉補機冷却系及び同海水系が機能喪失し、最終ヒートシンク喪失に至るシナリオ。また、タービン建屋熱交換器エリア屋上が雨水荷重により崩落した場合に、循環水ポンプが機能喪失し、復水器真空度低からプラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p>○コントロール建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、建屋最上階に設置している中央制御室が物理的に又は没水若しくは被水により機能喪失し、計測制御系機能喪失に至るシナリオ。その後、中央制御室の下階に位置している直流電源設備が溢水により機能喪失に至るシナリオ。</p> <p>○廃棄物処理建屋屋上が雨水荷重により崩落した場合に、再循環ポンプ M/Gセットや換気空調補機常用冷却水系が没水又は被水により機能喪失し、プラントスクラムに至るシナリオ。</p> <p>○降水の影響により屋外の送変電設備が機能喪失し外部電源喪失が発生している状態で、燃料移送ポンプが没水により機能喪失し、非常用ディーゼル発電設備ディタンクの燃料枯渇により、全交流動力電源喪失に至るシナリオ。</p>	⑤
192	添付資料 2.1.8	添 2.1-57	したがって、降水事象を要因として発生し得る有意な頻度又は影響のある事故シーケンスは生じないと判断した。	したがって、降水事象を要因として発生し得る有意な頻度又は影響のある事故シーケンスが実際に発生することは考えにくい。	⑤
193	添付資料 2.1.11	添 2.1-76	<p>2. 緊急時対策本部で使用する対応フロー</p> <p>初動対応フロー</p> <p>緊急時対策本部は、炉心損傷、可燃物、有害物質を含めた発生する異常等を確認し、最大限の努力によって得られる結果を想定して、当該事態に対する目標を設定し、そのために必要な手段を早急及び確実と決定する。</p> <p>※ 当該事態に対する目標設定の考え方は、当該事態発生時の状況に応じて変更される。</p> <p>※ 中央制御室の監視機能又は制御機能が喪失した場合、中央制御室と連絡がとれない場合、中央制御室と連絡がとれない場合、緊急時対策本部の指揮下で対応操作を行う必要があると当該事態が判断した場合</p>	<p>初動対応フロー</p> <p>緊急時対策本部は、炉心損傷、可燃物、有害物質を含めた発生する異常等を確認し、最大限の努力によって得られる結果を想定して、当該事態に対する目標を設定し、そのために必要な手段を早急及び確実と決定する。</p> <p>※ 当該事態に対する目標設定の考え方は、当該事態発生時の状況に応じて変更される。</p> <p>※ 中央制御室の監視機能又は制御機能が喪失した場合、中央制御室と連絡がとれない場合、中央制御室と連絡がとれない場合、緊急時対策本部の指揮下で対応操作を行う必要があると当該事態が判断した場合</p>	④(技術的能力 1.12)において放水砲による放射性物質の拡散抑制の判断基準が変更になったため)

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
194	添付資料 2.1.11	添 2.1-77	<p>「EOP」：事故時運転操作手順書（標準ベース） 「SOP」：事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	<p>「AOP」：事故時運転操作手順書（標準ベース） 「EOP」：事故時運転操作手順書（標準ベース） 「SOP」：事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	<p>④技術的能力 1.10において原子 炉建屋トップベン ト開放の判断基 準が変更になっ たため</p>
195	添付資料 2.1.11	添 2.1-78	<p>個別戦略フロー ①-1 建屋へのアクセスルート確保戦略</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	<p>個別戦略フロー ①-1 建屋へのアクセスルート確保戦略</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	<p>⑤</p>

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
198	添付資料 2.1.11	添 2.1-83	<p>⑤水素爆発防止戦略</p> <p>⑤水素爆発防止戦略</p> <p>■ 重大事故等対策の有効性評価において期待していない設備による対応（有効性評価の範囲を超える対応）</p> <p>注) 手続及び判断基準については、今後の訓練等によって見直し可能性がある</p>	<p>⑤水素爆発防止戦略</p> <p>⑤水素爆発防止戦略</p> <p>■ 重大事故等対策の有効性評価において期待していない設備による対応（有効性評価の範囲を超える対応）</p> <p>注) 手続及び判断基準については、今後の訓練等によって見直し可能性がある</p>	<p>④(技術的能力 1.10において原子炉建屋トップベント開放の判断基準が変更になったため)</p>
199	添付資料 2.1.11	添 2.1-84	<p>⑥-1 格納容器除熱戦略 (炉心損傷前)</p> <p>⑥-1 格納容器除熱戦略 (炉心損傷前)</p> <p>■ 重大事故等対策の有効性評価において期待していない設備による対応（有効性評価の範囲を超える対応）</p> <p>注) 手続及び判断基準については、今後の訓練等によって見直し可能性がある</p>	<p>⑥-1 格納容器除熱戦略 (炉心損傷前)</p> <p>⑥-1 格納容器除熱戦略 (炉心損傷前)</p> <p>■ 重大事故等対策の有効性評価において期待していない設備による対応（有効性評価の範囲を超える対応）</p> <p>注) 手続及び判断基準については、今後の訓練等によって見直し可能性がある</p>	<p>⑤</p>

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
200	添付資料 2.1.11	添 2.1-85	<p>⑥-2 格納容器除熱戦略 (炉心損傷後)</p> <p>⑧ 手順及び判断基準については、今後の訓練等によって見直す可能性がある</p>	<p>⑥-2 格納容器除熱戦略 (炉心損傷後)</p> <p>⑧ 手順及び判断基準については、今後の訓練等によって見直す可能性がある</p>	⑤
201	添付資料 2.1.11	添 2.1-86	<p>⑦ SFP 注水戦略</p> <p>⑧ 手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	<p>⑦ SFP 注水戦略</p> <p>⑧ 手順については、今後の訓練によって見直す可能性がある</p>	⑤

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
202	添付資料 2.1.11	添 2.1-87	<p>⑤使用済燃料除熱戦略</p> <p>事故時運転操作手順書(傳統ベース)SFP 水温度制御</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>	<p>⑤使用済燃料除熱戦略</p> <p>事故時運転操作手順書(傳統ベース)SFP 水温度制御</p> <p>□ 重大事故対策の有効性評価において期待していない設備による対応 (有効性評価の範囲を超える対応)</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>	⑤
203	添付資料 2.1.11	添 2.1-88	<p>④放射性物質拡散抑制のための戦略</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直し可能性がある</p>	<p>④放射性物質拡散抑制のための戦略</p> <p>「緊急時対策本部運営要領」の概要図</p> <p>□ 重大事故対策の有効性評価において期待していない設備による対応 (有効性評価の範囲を超える対応)</p> <p>注)手順については、今後の訓練によって見直し可能性がある</p> <p>図中の内容は機密事項に該当しますので公開できません。</p>	④(技術的能力 1.12)において放水砲による放射性物質の拡散抑制の判断基準が変更になったため)

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																																																																																																
206	添付資料 2.1.11	添 2.1-92	<p>共通 4. 通信関係の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>送受話器 (ページング)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>電力保安通信用電話設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>衛星電話設備 (常設)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>衛星電話設備 (可搬型)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>無線連絡設備 (常設)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>無線連絡設備 (可搬型)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>緊急時対策支援システム伝送装置</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>SPDS 表示装置</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>加入電話機</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>加入 FAX</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>テレビ会議システム</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>専用電話設備 (ホットライン)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>IP-電話機</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>IP-FAX</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>共通 5. 対応可能な要員の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目^{※1}</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>本部長・本部機能(4名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉主任技術者(2名)^{※2}</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>対外対応機能(5名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>情報収集・計画立案機能(4名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>現場対応機能(15名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>ロジスティック・リソース管理機能(2名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>復旧班現場要員(16名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>保安班機能(4名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>自衛消防隊(10名)</td><td>名</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※1 カッコ内は発電所内での必要最低人数 ※2 6号及び7号炉の原子炉主任技術者それぞれ1名は、早期に非常参集が可能なエリアに待機する。</p>	番号	項目	状態	備考	1	送受話器 (ページング)	使用可能・使用不可・不明		2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明		3	衛星電話設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明		4	衛星電話設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明		5	無線連絡設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明		6	無線連絡設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明		7	緊急時対策支援システム伝送装置	使用可能・使用不可・不明		8	SPDS 表示装置	使用可能・使用不可・不明		9	加入電話機	使用可能・使用不可・不明		10	加入 FAX	使用可能・使用不可・不明		11	テレビ会議システム	使用可能・使用不可・不明		12	専用電話設備 (ホットライン)	使用可能・使用不可・不明		13	IP-電話機	使用可能・使用不可・不明		14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明		番号	項目 ^{※1}	状態	備考	1	本部長・本部機能(4名)	名		2	原子炉主任技術者(2名) ^{※2}	名		3	対外対応機能(5名)	名		4	情報収集・計画立案機能(4名)	名		5	現場対応機能(15名)	名		6	ロジスティック・リソース管理機能(2名)	名		7	復旧班現場要員(16名)	名		8	保安班機能(4名)	名		9	自衛消防隊(10名)	名		<p>共通 4. 通信関係の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td colspan="4">4-1. 緊急時対策所</td></tr> <tr><td>1</td><td>送受話器 (ページング)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>電力保安通信用電話設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>衛星電話設備 (常設)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>衛星電話設備 (可搬型)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>無線連絡設備 (常設)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>無線連絡設備 (可搬型)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>緊急時対策支援システム伝送装置</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>SPDS 表示装置</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>加入電話機</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>加入 FAX</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>テレビ会議システム</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>専用電話設備 (ホットライン)</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>IP-電話機</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>IP-FAX</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>共通 5. 対応可能な要員の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目^{※1}</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>本部長(1名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>本部スタッフ(1名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉主任技術者(2名)^{※2}</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>対外対応機能(4名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>情報収集・計画立案機能(5名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>現場対応機能(15名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>ロジスティック・リソース管理機能(2名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>復旧班現場要員(16名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>保安班現場要員(2名)</td><td>名</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>自衛消防隊(10名)</td><td>名</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※1 カッコ内は発電所内での必要最低人数 ※2 6号及び7号炉の原子炉主任技術者それぞれ1名は、早期に非常参集が可能なエリアに待機する。</p>	番号	項目	状態	備考	4-1. 緊急時対策所				1	送受話器 (ページング)	使用可能・使用不可・不明		2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明		3	衛星電話設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明		4	衛星電話設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明		5	無線連絡設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明		6	無線連絡設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明		7	緊急時対策支援システム伝送装置	使用可能・使用不可・不明		8	SPDS 表示装置			9	加入電話機	使用可能・使用不可・不明		10	加入 FAX	使用可能・使用不可・不明		11	テレビ会議システム	使用可能・使用不可・不明		12	専用電話設備 (ホットライン)	使用可能・使用不可・不明		13	IP-電話機	使用可能・使用不可・不明		14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明		番号	項目 ^{※1}	状態	備考	1	本部長(1名)	名		2	本部スタッフ(1名)	名		3	原子炉主任技術者(2名) ^{※2}	名		4	対外対応機能(4名)	名		5	情報収集・計画立案機能(5名)	名		6	現場対応機能(15名)	名		7	ロジスティック・リソース管理機能(2名)	名		8	復旧班現場要員(16名)	名		9	保安班現場要員(2名)	名		10	自衛消防隊(10名)	名		②(他まとめ資料との整合)
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																		
1	送受話器 (ページング)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
3	衛星電話設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
4	衛星電話設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
5	無線連絡設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
6	無線連絡設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
7	緊急時対策支援システム伝送装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
8	SPDS 表示装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
9	加入電話機	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
10	加入 FAX	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
11	テレビ会議システム	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
12	専用電話設備 (ホットライン)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
13	IP-電話機	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
番号	項目 ^{※1}	状態	備考																																																																																																																																																																																																																		
1	本部長・本部機能(4名)	名																																																																																																																																																																																																																			
2	原子炉主任技術者(2名) ^{※2}	名																																																																																																																																																																																																																			
3	対外対応機能(5名)	名																																																																																																																																																																																																																			
4	情報収集・計画立案機能(4名)	名																																																																																																																																																																																																																			
5	現場対応機能(15名)	名																																																																																																																																																																																																																			
6	ロジスティック・リソース管理機能(2名)	名																																																																																																																																																																																																																			
7	復旧班現場要員(16名)	名																																																																																																																																																																																																																			
8	保安班機能(4名)	名																																																																																																																																																																																																																			
9	自衛消防隊(10名)	名																																																																																																																																																																																																																			
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																		
4-1. 緊急時対策所																																																																																																																																																																																																																					
1	送受話器 (ページング)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
2	電力保安通信用電話設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
3	衛星電話設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
4	衛星電話設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
5	無線連絡設備 (常設)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
6	無線連絡設備 (可搬型)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
7	緊急時対策支援システム伝送装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
8	SPDS 表示装置																																																																																																																																																																																																																				
9	加入電話機	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
10	加入 FAX	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
11	テレビ会議システム	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
12	専用電話設備 (ホットライン)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
13	IP-電話機	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
14	IP-FAX	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																			
番号	項目 ^{※1}	状態	備考																																																																																																																																																																																																																		
1	本部長(1名)	名																																																																																																																																																																																																																			
2	本部スタッフ(1名)	名																																																																																																																																																																																																																			
3	原子炉主任技術者(2名) ^{※2}	名																																																																																																																																																																																																																			
4	対外対応機能(4名)	名																																																																																																																																																																																																																			
5	情報収集・計画立案機能(5名)	名																																																																																																																																																																																																																			
6	現場対応機能(15名)	名																																																																																																																																																																																																																			
7	ロジスティック・リソース管理機能(2名)	名																																																																																																																																																																																																																			
8	復旧班現場要員(16名)	名																																																																																																																																																																																																																			
9	保安班現場要員(2名)	名																																																																																																																																																																																																																			
10	自衛消防隊(10名)	名																																																																																																																																																																																																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																																																																																																								
207	添付資料 2.1.11	添 2.1-94	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ</td> <td>運転中・停止中・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大湊側電動消火ポンプ</td> <td>運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>純水移送ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>純水移送ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>純水移送ポンプ(C)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>純水移送ポンプ(D)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-3. 大湊側エリア設備・資機材</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>常設代替交流電源設備 (第一ガスタービン発電機)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第一ガスタービン発電機用燃料タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型直流電源設備 (直流給電車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>仮設発電機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>移動式変圧器</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大湊側緊急用 M/C</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>代替原子炉補機冷却系</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>可搬型窒素供給装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ホース巻巻車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>汚濁防止膜</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>放射性物質吸着材</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>小型船舶</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能艘数 艘</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>タンクローリ (4kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】				1	大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明		2	大湊側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明		3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	6	純水移送ポンプ(D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	7-3. 大湊側エリア設備・資機材				1	常設代替交流電源設備 (第一ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明		2	第一ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明		3	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	4	可搬型直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	5	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	6	移動式変圧器	使用可能・使用不可・不明		7	大湊側緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明		8	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式	10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明		11	大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	13	ホース巻巻車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明		15	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明		16	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘	17	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	18	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ</td> <td>運転中・停止中・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大湊側電動消火ポンプ</td> <td>運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>純水移送ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>純水移送ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>純水移送ポンプ(C)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>純水移送ポンプ(D)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td>5・6・7号炉共用</td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-3. 可搬型設備、消火設備 大湊側エリア</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>常設代替交流電源設備 (ガスタービン発電機)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ガスタービン発電機用燃料タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>仮設発電機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>移動式変圧器</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>大湊側緊急用 M/C</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>代替原子炉補機冷却系</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>可搬型窒素供給装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ホース巻巻車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>汚濁防止膜</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>吸着材</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>タンクローリ (4kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>大型化学高所放水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】				1	大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明		2	大湊側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明		3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	6	純水移送ポンプ(D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用	7-3. 可搬型設備、消火設備 大湊側エリア				1	常設代替交流電源設備 (ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明		2	ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明		3	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	4	可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	5	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	6	移動式変圧器	使用可能・使用不可・不明		7	大湊側緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明		8	可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式	10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明		11	大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	13	ホース巻巻車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明		15	吸着材	使用可能・使用不可・不明		16	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	17	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	18	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	②(他まとめ資料との整合)
			番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																							
			7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】																																																																																																																																																																																																																										
			1	大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			2	大湊側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																							
			4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																							
			5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																							
			6	純水移送ポンプ(D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																							
			7-3. 大湊側エリア設備・資機材																																																																																																																																																																																																																										
			1	常設代替交流電源設備 (第一ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			2	第一ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			3	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																							
			4	可搬型直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																							
			5	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																							
			6	移動式変圧器	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			7	大湊側緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																								
			8	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																							
9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式																																																																																																																																																																																																																										
10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
11	大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
13	ホース巻巻車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
15	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
16	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘																																																																																																																																																																																																																										
17	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
18	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																										
7-2. 消火及び注水設備 大湊側エリア【常設設備】																																																																																																																																																																																																																													
1	大湊側ディーゼル駆動消火ポンプ	運転中・停止中・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
2	大湊側電動消火ポンプ	運転中・停止中・電源なし 使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
3	純水移送ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																										
4	純水移送ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																										
5	純水移送ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																										
6	純水移送ポンプ(D)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明	5・6・7号炉共用																																																																																																																																																																																																																										
7-3. 可搬型設備、消火設備 大湊側エリア																																																																																																																																																																																																																													
1	常設代替交流電源設備 (ガスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
2	ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
3	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
4	可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
5	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
6	移動式変圧器	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
7	大湊側緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
8	可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式																																																																																																																																																																																																																										
10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
11	大容量送水車 (原子炉 建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
13	ホース巻巻車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
15	吸着材	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																											
16	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
17	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										
18	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																																																																																																																												
208	添付資料 2.1.11	添 2.1-95	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19</td> <td>大型化学高所放水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>泡原液搬送車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>泡原液混合装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-4. 荒浜エリア設備・資機材</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>第二代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第二ガスタービン発電機用燃料タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>可搬型直流電源設備 (直流給電車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>緊急用 M/C</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>仮設発電機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>代替原子炉補機冷却系</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>可搬型窒素供給装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>可搬型格納容器窒素供給設備</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ホース展開車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>汚濁防止膜</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>放射性物質吸着材</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>小型船舶</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能艘数 艘</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>タンクローリ (4kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>タンクローリ (16kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>化学消防自動車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>大型化学高所放水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>泡原液搬送車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>泡原液混合装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	19	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	20	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	21	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明		7-4. 荒浜エリア設備・資機材				1	第二代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	2	第二ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明		3	第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明		4	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	5	可搬型直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	6	緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明		7	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	8	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式	10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明		11	可搬型格納容器窒素供給設備	使用可能・使用不可・不明		12	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	13	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	14	ホース展開車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	15	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明		16	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明		17	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘	18	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	19	タンクローリ (16kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	20	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	21	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	22	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	23	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	24	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明		<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19</td> <td>泡原液搬送車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>泡原液混合装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-4. 可搬型設備 消防設備 荒浜エリア</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>常設代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第二ガスタービン発電機用燃料タンク</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>緊急用 M/C</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>仮設発電機</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>代替原子炉補機冷却系</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 式</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>可搬型窒素供給装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>放水砲</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ホース展開車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>汚濁防止膜</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>吸着材</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>タンクローリ (4kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>タンクローリ (16kL)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>ホイールローダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>化学消防自動車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>大型化学高所放水車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>泡原液搬送車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>泡原液混合装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-5. 消防設備 自衛消防隊 結め所</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>化学消防自動車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水槽付消防ポンプ自動車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>泡消火薬刻備蓄車</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>使用可能台数 台</td> </tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	19	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	20	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明		7-4. 可搬型設備 消防設備 荒浜エリア				1	常設代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	2	第二ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明		3	第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明		4	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	5	可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	6	緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明		7	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	8	可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式	10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明		11	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	13	ホース展開車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明		15	吸着材	使用可能・使用不可・不明		16	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	17	タンクローリ (16kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	18	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	19	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	20	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	21	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	22	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明		7-5. 消防設備 自衛消防隊 結め所				1	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	2	水槽付消防ポンプ自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	3	泡消火薬刻備蓄車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台	②(他まとめ資料との整合)
			番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																																											
			19	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			20	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			21	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			7-4. 荒浜エリア設備・資機材																																																																																																																																																																																																																																														
			1	第二代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			2	第二ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			3	第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			4	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			5	可搬型直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			6	緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			7	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			8	可搬型代替注水ポンプ (A-1 級又は A-2 級)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式																																																																																																																																																																																																																																											
			10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			11	可搬型格納容器窒素供給設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			12	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			13	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			14	ホース展開車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
			15	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			16	放射性物質吸着材	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																												
			17	小型船舶	使用可能・使用不可・不明	使用可能艘数 艘																																																																																																																																																																																																																																											
			18	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																											
19	タンクローリ (16kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
20	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
21	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
22	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
23	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
24	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																																																																																																																														
19	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
20	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
7-4. 可搬型設備 消防設備 荒浜エリア																																																																																																																																																																																																																																																	
1	常設代替交流電源設備 (第二ボスタービン発電機)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
2	第二ガスタービン発電機用燃料タンク	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
3	第二ガスタービン発電機用燃料移送ポンプ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
4	可搬型代替交流電源設備 (交流電源車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
5	可搬型代替直流電源設備 (直流給電車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
6	緊急用 M/C	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
7	仮設発電機	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
8	可搬型代替注水ポンプ (消防ポンプ自動車)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
9	代替原子炉補機冷却系	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 式																																																																																																																																																																																																																																														
10	可搬型窒素供給装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
11	大容量送水車 (原子炉建屋放水設備用)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
12	放水砲	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
13	ホース展開車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
14	汚濁防止膜	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
15	吸着材	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
16	タンクローリ (4kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
17	タンクローリ (16kL)	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
18	ホイールローダ	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
19	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
20	大型化学高所放水車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
21	泡原液搬送車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
22	泡原液混合装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																																																																																																																															
7-5. 消防設備 自衛消防隊 結め所																																																																																																																																																																																																																																																	
1	化学消防自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
2	水槽付消防ポンプ自動車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														
3	泡消火薬刻備蓄車	使用可能・使用不可・不明	使用可能台数 台																																																																																																																																																																																																																																														

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																
209	添付資料 2.1.11	添 2.1-97	<p>(2)プラント状態確認項目(6号及び7号炉用個別)</p> <p>個別1. 初期状態の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プラント状況の確認が可能[※]</td> <td>可能・不可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉停止 (確認日時 / :)</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>原子炉水位</td> <td></td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>原子炉圧力</td> <td></td> <td>MPa</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>原子炉格納容器圧力</td> <td></td> <td>kPa[abs]</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>主蒸気隔離弁</td> <td>全開・全閉・一部開・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>SFP 水位</td> <td></td> <td>m</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>SFP 温度</td> <td></td> <td>℃</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ECCS 作動要求</td> <td>作動要求あり・ 作動要求なし・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>外部電源受電</td> <td>受電中・停電中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※中央制御室又は緊急時対策所にてプラント状況の確認を実施する。</p>	番号	項目	状態	備考	1	プラント状況の確認が可能 [※]	可能・不可		2	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明		3	原子炉水位		m	4	原子炉圧力		MPa	5	原子炉格納容器圧力		kPa[abs]	6	主蒸気隔離弁	全開・全閉・一部開・不明		7	SFP 水位		m	8	SFP 温度		℃	9	ECCS 作動要求	作動要求あり・ 作動要求なし・不明		10	外部電源受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明		<p>(2)プラント状態確認項目(6号及び7号炉用個別)</p> <p>個別1. 初期状態の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プラント状況の確認が可能[※]</td> <td>可能・不可</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉停止 (確認日時 / :)</td> <td>成功・失敗・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>原子炉隔離時冷却ポンプ</td> <td>運転中・待機中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高圧代替注水ポンプ</td> <td>運転中・待機中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>復水貯蔵槽</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td>水位 m</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>主蒸気逃がし弁</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>タービンバイパス弁(タービン制御系)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ECCS 作動要求</td> <td>作動要求あり・ 作動要求なし・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>外部電源受電</td> <td>受電中・停電中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非常用ディーゼル発電機(A)</td> <td>運転中・待機中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>非常用ディーゼル発電機(B)</td> <td>運転中・待機中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>非常用ディーゼル発電機(C)</td> <td>運転中・待機中・ 使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※中央制御室又は緊急時対策所にてプラント状況の確認を実施する。</p>	番号	項目	状態	備考	1	プラント状況の確認が可能 [※]	可能・不可		2	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明		3	原子炉隔離時冷却ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明		4	高圧代替注水ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明		5	復水貯蔵槽	使用可能・使用不可・不明	水位 m	6	主蒸気逃がし弁	使用可能・使用不可・不明		7	タービンバイパス弁(タービン制御系)	使用可能・使用不可・不明		8	ECCS 作動要求	作動要求あり・ 作動要求なし・不明		9	外部電源受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明		10	非常用ディーゼル発電機(A)	運転中・待機中・ 使用不可・不明		11	非常用ディーゼル発電機(B)	運転中・待機中・ 使用不可・不明		12	非常用ディーゼル発電機(C)	運転中・待機中・ 使用不可・不明		⑤
番号	項目	状態	備考																																																																																																		
1	プラント状況の確認が可能 [※]	可能・不可																																																																																																			
2	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明																																																																																																			
3	原子炉水位		m																																																																																																		
4	原子炉圧力		MPa																																																																																																		
5	原子炉格納容器圧力		kPa[abs]																																																																																																		
6	主蒸気隔離弁	全開・全閉・一部開・不明																																																																																																			
7	SFP 水位		m																																																																																																		
8	SFP 温度		℃																																																																																																		
9	ECCS 作動要求	作動要求あり・ 作動要求なし・不明																																																																																																			
10	外部電源受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明																																																																																																			
番号	項目	状態	備考																																																																																																		
1	プラント状況の確認が可能 [※]	可能・不可																																																																																																			
2	原子炉停止 (確認日時 / :)	成功・失敗・不明																																																																																																			
3	原子炉隔離時冷却ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明																																																																																																			
4	高圧代替注水ポンプ	運転中・待機中・ 使用不可・不明																																																																																																			
5	復水貯蔵槽	使用可能・使用不可・不明	水位 m																																																																																																		
6	主蒸気逃がし弁	使用可能・使用不可・不明																																																																																																			
7	タービンバイパス弁(タービン制御系)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																			
8	ECCS 作動要求	作動要求あり・ 作動要求なし・不明																																																																																																			
9	外部電源受電	受電中・停電中・ 使用不可・不明																																																																																																			
10	非常用ディーゼル発電機(A)	運転中・待機中・ 使用不可・不明																																																																																																			
11	非常用ディーゼル発電機(B)	運転中・待機中・ 使用不可・不明																																																																																																			
12	非常用ディーゼル発電機(C)	運転中・待機中・ 使用不可・不明																																																																																																			

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																																												
210	添付資料 2.1.11	添 2.1-98	<p>個別4. 建屋アクセス性の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>中央制御室へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>コントロール建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>廃棄物処理建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>サービス建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>海水熱交換器建屋へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>発電所外からのアクセス性</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※建屋の損壊状態を含め、事故対応への支障の有無の観点から確認する。</p> <p>個別5. 施設損壊状態確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>SFP 損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>復水貯蔵槽損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td>水位 m</td></tr> <tr><td>5</td><td>原子炉建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>タービン建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>コントロール建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>サービス建屋損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>非常用取水設備損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>主排気筒損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	1	中央制御室へのアクセス性	可能・不可・不明		2	コントロール建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		3	原子炉建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		4	タービン建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		5	廃棄物処理建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		6	サービス建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		7	海水熱交換器建屋へのアクセス性	可能・不可・不明		8	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性	可能・不可・不明		9	発電所外からのアクセス性	可能・不可・不明		番号	項目	状態	備考	1	SFP 損傷	損傷あり・損傷なし・不明		2	原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)	損傷あり・損傷なし・不明		3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明		4	復水貯蔵槽損傷	損傷あり・損傷なし・不明	水位 m	5	原子炉建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		6	タービン建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		7	コントロール建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		8	廃棄物処理建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		9	サービス建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明		10	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷	損傷あり・損傷なし・不明		11	非常用取水設備損傷	損傷あり・損傷なし・不明		12	主排気筒損傷	損傷あり・損傷なし・不明		<p>個別4. 建屋アクセス性の確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>中央制御室へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>コントロール建屋へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉建屋へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>廃棄物処理建屋へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>サービス建屋へアクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>海水熱交換器建屋アクセス可能</td><td>可能・不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※建屋の損壊状態を含め、事故対応への支障の有無の観点から確認する。</p> <p>個別5. 施設損壊状態確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>項目</th> <th>状態</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>使用済燃料プール損傷</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)</td><td>損傷あり・損傷なし・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	項目	状態	備考	1	中央制御室へアクセス可能	可能・不可・不明		2	コントロール建屋へアクセス可能	可能・不可・不明		3	原子炉建屋へアクセス可能	可能・不可・不明		4	タービン建屋へアクセス可能	可能・不可・不明		5	廃棄物処理建屋へアクセス可能	可能・不可・不明		6	サービス建屋へアクセス可能	可能・不可・不明		7	海水熱交換器建屋アクセス可能	可能・不可・不明		番号	項目	状態	備考	1	使用済燃料プール損傷	損傷あり・損傷なし・不明		2	原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)	損傷あり・損傷なし・不明		3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明		⑤
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																														
1	中央制御室へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
2	コントロール建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
3	原子炉建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
4	タービン建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
5	廃棄物処理建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
6	サービス建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
7	海水熱交換器建屋へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
8	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所へのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
9	発電所外からのアクセス性	可能・不可・不明																																																																																																																																															
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																														
1	SFP 損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
2	原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
4	復水貯蔵槽損傷	損傷あり・損傷なし・不明	水位 m																																																																																																																																														
5	原子炉建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
6	タービン建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
7	コントロール建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
8	廃棄物処理建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
9	サービス建屋損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
10	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
11	非常用取水設備損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
12	主排気筒損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																														
1	中央制御室へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
2	コントロール建屋へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
3	原子炉建屋へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
4	タービン建屋へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
5	廃棄物処理建屋へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
6	サービス建屋へアクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
7	海水熱交換器建屋アクセス可能	可能・不可・不明																																																																																																																																															
番号	項目	状態	備考																																																																																																																																														
1	使用済燃料プール損傷	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
2	原子炉格納容器損傷 (ドライウェル)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
3	原子炉格納容器損傷 (サブプレッション・チェンバ)	損傷あり・損傷なし・不明																																																																																																																																															
211	添付資料 2.1.11	添 2.1-100	<table border="1"> <tbody> <tr><td>31</td><td>号炉間融通設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>32</td><td>代替所内電気設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>33</td><td>大湊側緊急用高圧母線</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>34</td><td>荒浜側緊急用高圧母線</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>35</td><td>可搬型直流電源設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table>	31	号炉間融通設備	使用可能・使用不可・不明		32	代替所内電気設備	使用可能・使用不可・不明		33	大湊側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・不明		34	荒浜側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・不明		35	可搬型直流電源設備	使用可能・使用不可・不明		<table border="1"> <tbody> <tr><td>31</td><td>号機間融通設備</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>32</td><td>緊急用電源切替箱断路器</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> <tr><td>33</td><td>可搬型小型バッテリー</td><td>使用可能・使用不可・不明</td><td></td></tr> </tbody> </table>	31	号機間融通設備	使用可能・使用不可・不明		32	緊急用電源切替箱断路器	使用可能・使用不可・不明		33	可搬型小型バッテリー	使用可能・使用不可・不明		②(他まとめ資料との整合)																																																																																																												
31	号炉間融通設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
32	代替所内電気設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
33	大湊側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
34	荒浜側緊急用高圧母線	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
35	可搬型直流電源設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
31	号機間融通設備	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
32	緊急用電源切替箱断路器	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															
33	可搬型小型バッテリー	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																																															

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後		点検前				変更理由		
			項目	状態	番号	項目	状態	備考			
212	添付資料 2.1.11	添 2.1-101	7	ほう酸水注入系貯蔵タンク	使用可能・使用不可・不明		6	ほう酸水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		②(他まとめ資料 との整合)
			8	制御棒駆動水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		7	ほう酸水タンク	使用可能・使用不可・不明		
			9	制御棒駆動水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		8	制御棒駆動水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		
			10	逃がし安全弁	使用可能・使用不可・不明		9	制御棒駆動水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		
			11	タービンバイパス弁(ター ビン制御系)	使用可能・使用不可・不明		10	逃がし安全弁	使用可能・使用不可・不明		
			12	高圧窒素ガス供給系 (高圧窒素ガスポンペ)	使用可能・使用不可・不明		11	高圧窒素ガス供給系	使用可能・使用不可・不明		
			13	残留熱除去系ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		12	高圧窒素ガスポンペ	使用可能・使用不可・不明		
			14	残留熱除去系ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		13	残留熱除去ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		
			15	残留熱除去系ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		14	残留熱除去ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		
							15	残留熱除去ポンプ(C)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																																																				
213	添付資料 2.1.11	添 2.1-102	<table border="1"> <tr> <td>30</td> <td>電動駆動給水ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>電動駆動給水ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>タービン駆動給水ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>タービン駆動給水ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34</td> <td>格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>耐圧強化ベント</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>格納容器 pH 制御装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>37</td> <td>遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>38</td> <td>空気駆動弁操作作用ポンプ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>39</td> <td>非常用ガス処理系</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>真空破壊弁</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-2. SFP 注水, 除熱機器【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>燃料プール冷却ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料プール冷却ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>サブプレッションプール浄化 系ポンプ</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>常設スプレイヘッダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>可搬型スプレイヘッダ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ステンレス鋼板</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </table>	30	電動駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		31	電動駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		32	タービン駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		33	タービン駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		34	格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)	使用可能・使用不可・不明		35	耐圧強化ベント	使用可能・使用不可・不明		36	格納容器 pH 制御装置	使用可能・使用不可・不明		37	遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)	使用可能・使用不可・不明		38	空気駆動弁操作作用ポンプ	使用可能・使用不可・不明		39	非常用ガス処理系	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		40	真空破壊弁	使用可能・使用不可・不明		7-2. SFP 注水, 除熱機器【常設設備】				1	燃料プール冷却ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		2	燃料プール冷却ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		3	サブプレッションプール浄化 系ポンプ	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		4	常設スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明		5	可搬型スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明		6	ステンレス鋼板	使用可能・使用不可・不明		<table border="1"> <tr> <td>30</td> <td>電動駆動給水ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>電動駆動給水ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>耐圧強化ベント</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34</td> <td>格納容器 pH 制御装置</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>空気駆動弁操作作用ポンプ</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">7-2. 使用済燃料プール注水, 除熱機器【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>燃料プール冷却ポンプ(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>燃料プール冷却ポンプ(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>サブプレッションプール浄化 系ポンプ</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </table>	30	電動駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		31	電動駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		32	格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)	使用可能・使用不可・不明		33	耐圧強化ベント	使用可能・使用不可・不明		34	格納容器 pH 制御装置	使用可能・使用不可・不明		35	遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)	使用可能・使用不可・不明		36	空気駆動弁操作作用ポンプ	使用可能・使用不可・不明		7-2. 使用済燃料プール注水, 除熱機器【常設設備】				1	燃料プール冷却ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		2	燃料プール冷却ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		3	サブプレッションプール浄化 系ポンプ	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		②(他まとめ資料 との整合)
			30	電動駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																				
31	電動駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
32	タービン駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
33	タービン駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
34	格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
35	耐圧強化ベント	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
36	格納容器 pH 制御装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
37	遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
38	空気駆動弁操作作用ポンプ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
39	非常用ガス処理系	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
40	真空破壊弁	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
7-2. SFP 注水, 除熱機器【常設設備】																																																																																																																									
1	燃料プール冷却ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
2	燃料プール冷却ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
3	サブプレッションプール浄化 系ポンプ	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
4	常設スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
5	可搬型スプレイヘッダ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
6	ステンレス鋼板	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
30	電動駆動給水ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
31	電動駆動給水ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
32	格納容器圧力逃がし装置 (フィルタベント)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
33	耐圧強化ベント	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
34	格納容器 pH 制御装置	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
35	遠隔手動弁操作設備 (エクステンション)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
36	空気駆動弁操作作用ポンプ	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
7-2. 使用済燃料プール注水, 除熱機器【常設設備】																																																																																																																									
1	燃料プール冷却ポンプ(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
2	燃料プール冷却ポンプ(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
3	サブプレッションプール浄化 系ポンプ	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
214	添付資料 2.1.11	添 2.1-103	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>再結合器プロア(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>再結合器プロア(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>不活性ガス系</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>原子炉建屋トップベント</td> <td>使用可能・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> </table>	7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】				1	格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		2	再結合器プロア(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		3	再結合器プロア(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		4	静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)	使用可能・使用不可・不明		5	不活性ガス系	使用可能・使用不可・不明		6	原子炉建屋トップベント	使用可能・使用不可・不明		<table border="1"> <tr> <td colspan="4">7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>再結合器プロア(A)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>再結合器プロア(B)</td> <td>運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)</td> <td>使用可能・使用不可・ 不明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>格納容器不活性設備</td> <td>使用可能・使用不可・ 不明</td> <td></td> </tr> </table>	7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】				1	格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		2	再結合器プロア(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		3	再結合器プロア(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明		4	静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)	使用可能・使用不可・ 不明		5	格納容器不活性設備	使用可能・使用不可・ 不明		②(他まとめ資料 との整合)																																																																
7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】																																																																																																																									
1	格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
2	再結合器プロア(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
3	再結合器プロア(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
4	静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
5	不活性ガス系	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
6	原子炉建屋トップベント	使用可能・使用不可・不明																																																																																																																							
7-3. 水素爆発防止設備【常設設備】																																																																																																																									
1	格納容器内雰囲気モニタ 水素・酸素濃度	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
2	再結合器プロア(A)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
3	再結合器プロア(B)	運転中・停止中・ 電源なし・使用不可・不明																																																																																																																							
4	静的触媒式水素再結合装置 (原子炉建屋水素処理設備)	使用可能・使用不可・ 不明																																																																																																																							
5	格納容器不活性設備	使用可能・使用不可・ 不明																																																																																																																							
215	添付資料 2.1.11	添 2.1-104	7-5. 可搬設備接続口	7-5. 可搬設備接続口・その他	⑤																																																																																																																				

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由
219	添付資料 2.1.14	添 2.1-143	<p>3.放水砲の放射方法について 放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できる。 放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できるため、高い放射性物質の除去効果が期待できる。 したがって、プルーム放出時の放水砲の放射方法としては、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所が確認できる場合、原子炉建屋の破損箇所に向けて放水し、噴射ノズルを調整することにより噴霧放射で損壊箇所を最大限覆うことができるように放射する。 ・原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所や放射性物質の放出箇所が確認できない場合、原子炉建屋の中央に向けて放水する。 	<p>3.放水砲の放射方法について 放水砲の放射方法としては、直状放射から噴霧放射への切替えが可能であり、噴霧放射は直状放射に比べ射程距離が短くなるものの、より細かい水滴径が期待できる。 放射性プルーム放出時には、放水砲により放水した水により、放射性プルームに含まれる微粒子状の放射性物質が除去されることが期待できるが、微粒子状の放射性物質の粒子径は、0.1～0.5μmと考えられ、この粒子径の微粒子の水滴による除去機構は、水滴と微粒子の慣性衝突作用(水滴径0.3mmφ前後で最も衝突作用が大きくなる)によるものであり、噴霧放射を活用することで、その衝突作用に期待できる。また、水滴と微粒子の相対速度を大きくし、水の流量を大きくすることで、除去効果の増大が期待できる。 したがって、プルーム放出時の放水砲の放射方法としては、以下のとおりとする。</p> <p>原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所が確認できる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建屋損壊部に向けて放水し、噴射ノズルを調整することにより噴霧放射で損壊箇所を最大限覆うことができるように放射する。 <p>原子炉建屋(原子炉格納容器又は使用済燃料プール)の破損箇所が不明な場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉建屋の中央に向けて放水する。 	②(他まとめ資料との整合)

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																												
220	添付資料 2.1.18	添 2.1-152	<p><u>表 2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための防護具、線量計及び食料等の資機材(2/7)</u></p> <p>c. チェンジングエリア用資機材及び除染資材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>養生シート</td><td>3巻</td><td rowspan="17">チェンジングエリア設置に必要な数量</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>4個</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>9枚</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>25枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>5巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>6個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>2台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>4台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	養生シート	3巻	チェンジングエリア設置に必要な数量	バリア	4個	フェンス	9枚	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	25枚	テープ	5巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10巻	はさみ	6個	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	4台(予備1台)	<p><u>表 2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための防護具、線量計及び食料等の資機材(2/7)</u></p> <p>c. チェンジングエリア用資機材及び除染資材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>養生シート</td><td>3巻</td><td rowspan="17">チェンジングエリア設置に必要な数量</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>4個</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>9枚</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>25枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>5巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>2箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>10巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>6個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1台</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1台</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>2台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>2台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	養生シート	3巻	チェンジングエリア設置に必要な数量	バリア	4個	フェンス	9枚	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	25枚	テープ	5巻	ウエス	2箱	ウェットティッシュ	10巻	はさみ	6個	マジック	2本	簡易シャワー	1台	簡易タンク	1台	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)	②(他まとめ資料との整合)
品名	保管数※	考え方																																																																															
養生シート	3巻	チェンジングエリア設置に必要な数量																																																																															
バリア	4個																																																																																
フェンス	9枚																																																																																
粘着マット	2枚																																																																																
ヘルメット掛け	1式																																																																																
ポリ袋	25枚																																																																																
テープ	5巻																																																																																
ウエス	2箱																																																																																
ウェットティッシュ	10巻																																																																																
はさみ	6個																																																																																
マジック	2本																																																																																
簡易シャワー	1台																																																																																
簡易タンク	1台																																																																																
トレイ	1個																																																																																
バケツ	2個																																																																																
可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)																																																																																
乾電池内蔵型照明	4台(予備1台)																																																																																
品名	保管数※	考え方																																																																															
養生シート	3巻	チェンジングエリア設置に必要な数量																																																																															
バリア	4個																																																																																
フェンス	9枚																																																																																
粘着マット	2枚																																																																																
ヘルメット掛け	1式																																																																																
ポリ袋	25枚																																																																																
テープ	5巻																																																																																
ウエス	2箱																																																																																
ウェットティッシュ	10巻																																																																																
はさみ	6個																																																																																
マジック	2本																																																																																
簡易シャワー	1台																																																																																
簡易タンク	1台																																																																																
トレイ	1個																																																																																
バケツ	2個																																																																																
可搬型空気浄化装置	2台(予備1台)																																																																																
乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)																																																																																

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																									
221	添付資料 2.1.18	添 2.1-153	<p><u>表 2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための防護具、線量計及び食料等の資機材(3/7)</u></p> <p>d. 飲食料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>飲食料</td> <td>3,780 食</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食</td> </tr> <tr> <td>飲料水 (1.5 リットル)</td> <td>2,520 本</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)</td> </tr> <tr> <td>よう素剤</td> <td>1,440 錠</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p> <p>e. その他資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td>3 台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td>3 台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ (回線、機器)</td> <td>1 式</td> <td>報道や気象情報等を入手するため</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン (回線、機器)</td> <td>1 式</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	飲食料	3,780 食	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食	飲料水 (1.5 リットル)	2,520 本	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)	よう素剤	1,440 錠	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)	品名	保管数※	考え方	酸素濃度計	3 台	—	二酸化炭素濃度計	3 台	—	一般テレビ (回線、機器)	1 式	報道や気象情報等を入手するため	社内パソコン (回線、機器)	1 式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため	<p><u>表 2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための防護具、線量計及び食料等の資機材(3/7)</u></p> <p>d. 飲食料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>飲食料</td> <td>3,780 食</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食</td> </tr> <tr> <td>飲料水 (1.5 リットル)</td> <td>2,520 本</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)</td> </tr> <tr> <td>よう素剤</td> <td>1,440 錠</td> <td>180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p> <p>e. その他資機材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素濃度計</td> <td>2 台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>二酸化炭素濃度計</td> <td>2 台</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>一般テレビ (回線、機器)</td> <td>1 式</td> <td>報道や気象情報等を入手するため</td> </tr> <tr> <td>社内パソコン (回線、機器)</td> <td>1 式</td> <td>社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため</td> </tr> <tr> <td>簡易トイレ</td> <td>1 式</td> <td>ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要があるようにするため</td> </tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	飲食料	3,780 食	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食	飲料水 (1.5 リットル)	2,520 本	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)	よう素剤	1,440 錠	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)	品名	保管数※	考え方	酸素濃度計	2 台	—	二酸化炭素濃度計	2 台	—	一般テレビ (回線、機器)	1 式	報道や気象情報等を入手するため	社内パソコン (回線、機器)	1 式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため	簡易トイレ	1 式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要があるようにするため	②(他まとめ資料との整合)
品名	保管数※	考え方																																																												
飲食料	3,780 食	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食																																																												
飲料水 (1.5 リットル)	2,520 本	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)																																																												
よう素剤	1,440 錠	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)																																																												
品名	保管数※	考え方																																																												
酸素濃度計	3 台	—																																																												
二酸化炭素濃度計	3 台	—																																																												
一般テレビ (回線、機器)	1 式	報道や気象情報等を入手するため																																																												
社内パソコン (回線、機器)	1 式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため																																																												
品名	保管数※	考え方																																																												
飲食料	3,780 食	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 3 食																																																												
飲料水 (1.5 リットル)	2,520 本	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × 7 日 × 2 本 (1.5 リットル/本)																																																												
よう素剤	1,440 錠	180 名 (要員数 164 名 + 自衛消防隊 10 名 + 余裕) × (初日 2 錠 + 2 日目以降 1 錠/日 × 6 日)																																																												
品名	保管数※	考え方																																																												
酸素濃度計	2 台	—																																																												
二酸化炭素濃度計	2 台	—																																																												
一般テレビ (回線、機器)	1 式	報道や気象情報等を入手するため																																																												
社内パソコン (回線、機器)	1 式	社内情報共有に必要な資料・書類等を作成するため																																																												
簡易トイレ	1 式	ブルーム通過中に緊急時対策所から退出する必要があるようにするため																																																												

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																														
222	添付資料 2.1.18	添 2.1-156	<p>表2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための 防護具、線量計及び食料等の資機材(6/7)</p> <p>c. チェンジングエリア用資機材及び除染資材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エアータント</td><td>1式</td><td rowspan="17">チェンジングエリア設営に必要な数量</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>4枚</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>2個</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>20枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>1箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1式</td></tr> <tr><td>簡易タンク</td><td>1式</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>1台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>4台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量	養生シート	2巻	フェンス	4枚	バリア	2個	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	20枚	テープ	2巻	ウエス	1箱	ウェットティッシュ	2巻	はさみ	1個	マジック	2本	簡易シャワー	1式	簡易タンク	1式	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	1台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	4台(予備1台)	<p>表2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための 防護具、線量計及び食料等の資機材(6/7)</p> <p>c. チェンジングエリア用資機材及び除染資材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エアータント</td><td>1式</td><td rowspan="17">チェンジングエリア設営に必要な数量</td></tr> <tr><td>養生シート</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>フェンス</td><td>4枚</td></tr> <tr><td>バリア</td><td>2個</td></tr> <tr><td>粘着マット</td><td>2枚</td></tr> <tr><td>ヘルメット掛け</td><td>1式</td></tr> <tr><td>ポリ袋</td><td>20枚</td></tr> <tr><td>テープ</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>ウエス</td><td>1箱</td></tr> <tr><td>ウェットティッシュ</td><td>2巻</td></tr> <tr><td>はさみ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>マジック</td><td>2本</td></tr> <tr><td>簡易シャワー</td><td>1式</td></tr> <tr><td>トレイ</td><td>1個</td></tr> <tr><td>バケツ</td><td>2個</td></tr> <tr><td>可搬型空気浄化装置</td><td>1台(予備1台)</td></tr> <tr><td>乾電池内蔵型照明</td><td>2台(予備1台)</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量	養生シート	2巻	フェンス	4枚	バリア	2個	粘着マット	2枚	ヘルメット掛け	1式	ポリ袋	20枚	テープ	2巻	ウエス	1箱	ウェットティッシュ	2巻	はさみ	1個	マジック	2本	簡易シャワー	1式	トレイ	1個	バケツ	2個	可搬型空気浄化装置	1台(予備1台)	乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)	②(他まとめ資料との整合)
品名	保管数※	考え方																																																																																	
エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量																																																																																	
養生シート	2巻																																																																																		
フェンス	4枚																																																																																		
バリア	2個																																																																																		
粘着マット	2枚																																																																																		
ヘルメット掛け	1式																																																																																		
ポリ袋	20枚																																																																																		
テープ	2巻																																																																																		
ウエス	1箱																																																																																		
ウェットティッシュ	2巻																																																																																		
はさみ	1個																																																																																		
マジック	2本																																																																																		
簡易シャワー	1式																																																																																		
簡易タンク	1式																																																																																		
トレイ	1個																																																																																		
バケツ	2個																																																																																		
可搬型空気浄化装置	1台(予備1台)																																																																																		
乾電池内蔵型照明	4台(予備1台)																																																																																		
品名	保管数※	考え方																																																																																	
エアータント	1式	チェンジングエリア設営に必要な数量																																																																																	
養生シート	2巻																																																																																		
フェンス	4枚																																																																																		
バリア	2個																																																																																		
粘着マット	2枚																																																																																		
ヘルメット掛け	1式																																																																																		
ポリ袋	20枚																																																																																		
テープ	2巻																																																																																		
ウエス	1箱																																																																																		
ウェットティッシュ	2巻																																																																																		
はさみ	1個																																																																																		
マジック	2本																																																																																		
簡易シャワー	1式																																																																																		
トレイ	1個																																																																																		
バケツ	2個																																																																																		
可搬型空気浄化装置	1台(予備1台)																																																																																		
乾電池内蔵型照明	2台(予備1台)																																																																																		
223	添付資料 2.1.18	添 2.1-157	<p>表2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための 防護具、線量計及び食料等の資機材(7/7)</p> <p>d. 飲食料等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>食料</td><td>420食</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食</td></tr> <tr><td>飲料水(1.5リットル)</td><td>280本</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本</td></tr> <tr><td>簡易トイレ</td><td>一式</td><td>—</td></tr> <tr><td>よう素剤</td><td>320錠</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	食料	420食	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食	飲料水(1.5リットル)	280本	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本	簡易トイレ	一式	—	よう素剤	320錠	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代	<p>表2 外部支援が受けられないことを想定した事故対応を行うための 防護具、線量計及び食料等の資機材(7/7)</p> <p>d. 飲食料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品名</th> <th>保管数※</th> <th>考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>食料</td><td>420食</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食</td></tr> <tr><td>飲料水(1.5リットル)</td><td>280本</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本</td></tr> <tr><td>よう素剤</td><td>320錠</td><td>20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代</td></tr> </tbody> </table> <p>※予備を含む。(今後、訓練等で見直しを行う。)</p>	品名	保管数※	考え方	食料	420食	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食	飲料水(1.5リットル)	280本	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本	よう素剤	320錠	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代	②(他まとめ資料との整合)																																																			
品名	保管数※	考え方																																																																																	
食料	420食	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食																																																																																	
飲料水(1.5リットル)	280本	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本																																																																																	
簡易トイレ	一式	—																																																																																	
よう素剤	320錠	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代																																																																																	
品名	保管数※	考え方																																																																																	
食料	420食	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×3食																																																																																	
飲料水(1.5リットル)	280本	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×7日×2本																																																																																	
よう素剤	320錠	20名(6/7号伊運転員18名+余裕)×(初日2錠+2日目以降1錠/1日=8)×2交代																																																																																	

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																
224	添付資料 2.1.18	添 2.1-159	<p align="center">表 3 通信連絡設備の確保(2/2)</p> <p>(3)発電所外の通信連絡設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th colspan="3">主要施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム (有線系、衛星系 共用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IP-電話機 (有線系、衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IP-FAX (有線系、衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専用電話設備</td> <td>専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テレビ会議システム</td> <td>テレビ会議システム (社内向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備 (社内向)</td> <td>テレビ会議システム (社内向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>衛星社内電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	通信種別	主要施設			統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備	テレビ会議システム (有線系、衛星系 共用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		IP-電話機 (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		IP-FAX (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		専用電話設備	専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		テレビ会議システム	テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		衛星電話設備 (社内向)	テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		<p align="center">表 3 通信連絡設備の確保(2/2)</p> <p>(3)発電所外の通信連絡設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通信種別</th> <th colspan="3">主要施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備</td> <td>テレビ会議システム※ (有線系、衛星系 共用)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IP-電話機※ (有線系、衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IP-FAX※ (有線系、衛星系)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">局線加入電話設備</td> <td>加入電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>加入FAX</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専用電話設備</td> <td>専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">衛星電話設備 (社内向)</td> <td>衛星社内電話機</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テレビ会議システム (社内向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>FAX (社内向)</td> <td>5号炉原子炉建屋内緊急時対策所</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p align="right">※通常の通信連絡設備が使用不能な場合</p>	通信種別	主要施設			統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備	テレビ会議システム※ (有線系、衛星系 共用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		IP-電話機※ (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		IP-FAX※ (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		局線加入電話設備	加入電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		加入FAX	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		専用電話設備	専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		衛星電話設備 (社内向)	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		FAX (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所		②(他まとめ資料との整合)
通信種別	主要施設																																																																				
統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備	テレビ会議システム (有線系、衛星系 共用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	IP-電話機 (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	IP-FAX (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
専用電話設備	専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
テレビ会議システム	テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
衛星電話設備 (社内向)	テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
通信種別	主要施設																																																																				
統合原子力防災 ネットワークを用いた 通信連絡設備	テレビ会議システム※ (有線系、衛星系 共用)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	IP-電話機※ (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	IP-FAX※ (有線系、衛星系)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
局線加入電話設備	加入電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	加入FAX	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
専用電話設備	専用電話設備 (ホットライン) (自治体他向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
衛星電話設備 (社内向)	衛星社内電話機	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	テレビ会議システム (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
	FAX (社内向)	5号炉原子炉建屋内緊急時対策所																																																																			
225	添付資料 2.1.20	添 2.1-166	<p align="center">表 1 プラント対応時の装備品</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">着用基準</th> </tr> <tr> <th>炉心損傷の徴候 あり</th> <th>炉心損傷の徴候 なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガラスパッチ</td> <td>現場作業を行っていない間も含め 必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>個人線量計 (電子式線量計)</td> <td>必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>綿手袋・ゴム手袋</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用</td> </tr> <tr> <td>汚染防護服 (不織布カバーオール)</td> <td>緊急を要する作業を除き着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用</td> </tr> <tr> <td>アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)</td> <td>湿潤作業を行う場合に着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用</td> </tr> <tr> <td>高線量対応防護服 (タンクステンベスト)</td> <td>移動を伴わない高放射線量下での 作業を行う場合に着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>全面マスク (電動ファン付全面マスクを含む)</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で内部ばくちのおそれ ある場合に着用</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>酸欠等のおそれがある場合着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>酸素呼吸器</td> <td>酸欠等のおそれがある場合着用</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>	名称	着用基準		炉心損傷の徴候 あり	炉心損傷の徴候 なし	ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め 必ず着用	同左	個人線量計 (電子式線量計)	必ず着用	同左	綿手袋・ゴム手袋	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用	汚染防護服 (不織布カバーオール)	緊急を要する作業を除き着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用	アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)	湿潤作業を行う場合に着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用	高線量対応防護服 (タンクステンベスト)	移動を伴わない高放射線量下での 作業を行う場合に着用	同左	全面マスク (電動ファン付全面マスクを含む)	必ず着用	管理区域内で内部ばくちのおそれ ある場合に着用	セルフエアセット	酸欠等のおそれがある場合着用	同左	酸素呼吸器	酸欠等のおそれがある場合着用	同左	<p align="center">表 1 プラント対応時の装備品</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">着用基準</th> </tr> <tr> <th>炉心損傷の徴候 あり</th> <th>炉心損傷の徴候 なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガラスパッチ</td> <td>現場作業を行っていない間も含め 必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>個人線量計 (電子式線量計)</td> <td>必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>綿手袋・ゴム手袋</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用</td> </tr> <tr> <td>汚染防護服 (タイベック)</td> <td>緊急を要する作業を除き着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用</td> </tr> <tr> <td>アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)</td> <td>湿潤作業を行う場合に着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用</td> </tr> <tr> <td>高線量対応防護服 (タンクステンベスト)</td> <td>移動を伴わない高線量下での作業 を行う場合に着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>全面マスク</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>酸欠等のおそれがある場合着用</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>	名称	着用基準		炉心損傷の徴候 あり	炉心損傷の徴候 なし	ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め 必ず着用	同左	個人線量計 (電子式線量計)	必ず着用	同左	綿手袋・ゴム手袋	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用	汚染防護服 (タイベック)	緊急を要する作業を除き着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用	アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)	湿潤作業を行う場合に着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用	高線量対応防護服 (タンクステンベスト)	移動を伴わない高線量下での作業 を行う場合に着用	同左	全面マスク	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用	セルフエアセット	酸欠等のおそれがある場合着用	同左	②(他まとめ資料との整合)			
名称	着用基準																																																																				
	炉心損傷の徴候 あり	炉心損傷の徴候 なし																																																																			
ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め 必ず着用	同左																																																																			
個人線量計 (電子式線量計)	必ず着用	同左																																																																			
綿手袋・ゴム手袋	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用																																																																			
汚染防護服 (不織布カバーオール)	緊急を要する作業を除き着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用																																																																			
アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)	湿潤作業を行う場合に着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用																																																																			
高線量対応防護服 (タンクステンベスト)	移動を伴わない高放射線量下での 作業を行う場合に着用	同左																																																																			
全面マスク (電動ファン付全面マスクを含む)	必ず着用	管理区域内で内部ばくちのおそれ ある場合に着用																																																																			
セルフエアセット	酸欠等のおそれがある場合着用	同左																																																																			
酸素呼吸器	酸欠等のおそれがある場合着用	同左																																																																			
名称	着用基準																																																																				
	炉心損傷の徴候 あり	炉心損傷の徴候 なし																																																																			
ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め 必ず着用	同左																																																																			
個人線量計 (電子式線量計)	必ず着用	同左																																																																			
綿手袋・ゴム手袋	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用																																																																			
汚染防護服 (タイベック)	緊急を要する作業を除き着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある場合に着用																																																																			
アノラック・汚染作業用長靴 (胴長靴)	湿潤作業を行う場合に着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用																																																																			
高線量対応防護服 (タンクステンベスト)	移動を伴わない高線量下での作業 を行う場合に着用	同左																																																																			
全面マスク	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれ ある湿潤作業を行う場合に着用																																																																			
セルフエアセット	酸欠等のおそれがある場合着用	同左																																																																			



主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																												
226	添付資料 2.1.20	添 2.1-167	<p align="center"><u>表 2 火災対応時の装備品</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">着用基準</th> </tr> <tr> <th>炉心損傷の徴候あり</th> <th>炉心損傷の徴候なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガラスパッチ</td> <td>現場作業を行っていない間も含め必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>個人線量計（電子式線量計）</td> <td>必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>全面マスク（電動ファン付全面マスクを含む）</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で内部被ばくのおそれがある場合着用</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>防火服</td> <td>火災近くでの作業を行う場合着用</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>	名称	着用基準		炉心損傷の徴候あり	炉心損傷の徴候なし	ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め必ず着用	同左	個人線量計（電子式線量計）	必ず着用	同左	全面マスク（電動ファン付全面マスクを含む）	必ず着用	管理区域内で内部被ばくのおそれがある場合着用	セルフエアセット	内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用	同左	防火服	火災近くでの作業を行う場合着用	同左	<p align="center"><u>表 2 火災対応時の装備品</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">着用基準</th> </tr> <tr> <th>炉心損傷の徴候あり</th> <th>炉心損傷の徴候なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガラスパッチ</td> <td>現場作業を行っていない間も含め必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>個人線量計（電子式線量計）</td> <td>必ず着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>全面マスク</td> <td>必ず着用</td> <td>管理区域内で身体汚染のおそれがある作業を行う場合着用</td> </tr> <tr> <td>セルフエアセット</td> <td>内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>防火服</td> <td>火災近くでの作業を行う場合着用</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>	名称	着用基準		炉心損傷の徴候あり	炉心損傷の徴候なし	ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め必ず着用	同左	個人線量計（電子式線量計）	必ず着用	同左	全面マスク	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれがある作業を行う場合着用	セルフエアセット	内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用	同左	防火服	火災近くでの作業を行う場合着用	同左	②(他まとめ資料との整合)																				
			名称		着用基準																																																												
炉心損傷の徴候あり	炉心損傷の徴候なし																																																																
ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め必ず着用	同左																																																															
個人線量計（電子式線量計）	必ず着用	同左																																																															
全面マスク（電動ファン付全面マスクを含む）	必ず着用	管理区域内で内部被ばくのおそれがある場合着用																																																															
セルフエアセット	内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用	同左																																																															
防火服	火災近くでの作業を行う場合着用	同左																																																															
名称	着用基準																																																																
	炉心損傷の徴候あり	炉心損傷の徴候なし																																																															
ガラスパッチ	現場作業を行っていない間も含め必ず着用	同左																																																															
個人線量計（電子式線量計）	必ず着用	同左																																																															
全面マスク	必ず着用	管理区域内で身体汚染のおそれがある作業を行う場合着用																																																															
セルフエアセット	内部被ばく、酸欠等のおそれがある場合着用	同左																																																															
防火服	火災近くでの作業を行う場合着用	同左																																																															
227	添付資料 2.1.22	添 2.1-184	また、柏崎刈羽原子力発電所1～5号炉には22名の運転員が当直業務を行っており、	また、柏崎刈羽原子力発電所1～5号炉には21名の運転員が当直業務を行っており、	②(他まとめ資料との整合)																																																												
228	添付資料 2.1.22	添 2.1-184	発電所内に常駐している緊急時対策所にて対応を行う要員29名(意思決定・指揮を行う要員4名、実施組織として現場対応を行う要員12名、技術支援組織として情報収集・計画立案を行う要員6名、運営支援組織として対外対応を行う要員5名及びロジスティック・リソース管理を行う要員2名)、現場で対応を行う復旧班要員14名(電源隊6名、送水隊2名、注水隊4名、給油隊2名)及び放射線測定等を行う保安班要員2名の合計45名を非常召集し、発電所対策本部の初動体制を確立するとともに、各要員は任務に応じた対応を行う。なお、緊急時対策要員は合計45名が発電所内に常駐しており	発電所内に常駐している緊急時対策所にて対応を行う要員28名(意思決定・指揮を行う要員5名、実施組織として現場対応を行う要員12名、技術支援組織として情報収集・計画立案を行う要員5名、運営支援組織として対外対応を行う要員4名及びロジスティック・リソース管理を行う要員2名)、現場で対応を行う復旧班要員14名(電源隊6名、送水隊2名、注水隊4名、給油隊2名)及び放射線測定等を行う保安班要員2名の合計44名を非常召集し、発電所対策本部の初動体制を確立するとともに、各要員は任務に応じた対応を行う。なお、緊急時対策要員は合計44名が発電所内に常駐しており	②(他まとめ資料との整合)																																																												
229	添付資料 2.1.23	添 2.1-193	<p align="center"><u>表 3 重大事故等対策に関する教育（支援組織の主な教育内容）</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育名</th> <th>目的</th> <th>内容</th> <th>対象者</th> <th>頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）</td> <td>アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得</td> <td>・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*</td> <td>技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>アクシデントマネジメント教育（応用的知識）</td> <td>事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得</td> <td>・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位</td> <td>技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>防災教育</td> <td>・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。</td> <td>・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*</td> <td>技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>総合訓練</td> <td>想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。</td> <td>・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*</td> <td>緊急時対策要員</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>その他訓練</td> <td>あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。</td> <td>・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・原子力災害医療訓練</td> <td>・運営支援組織（通報班） ・技術支援組織（保安班） ・運営支援組織（総務班） ・運営支援組織（総務班） ・技術支援組織（保安班）</td> <td>1回/年</td> </tr> </tbody> </table> <p align="center">※：福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、充実強化した内容</p>	教育名	目的	内容	対象者	頻度	アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）	アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得	・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*	技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）	1回/年	アクシデントマネジメント教育（応用的知識）	事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得	・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位	技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））	1回/年	防災教育	・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。	・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*	技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）	1回/年	総合訓練	想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。	・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*	緊急時対策要員	1回/年	その他訓練	あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。	・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・原子力災害医療訓練	・運営支援組織（通報班） ・技術支援組織（保安班） ・運営支援組織（総務班） ・運営支援組織（総務班） ・技術支援組織（保安班）	1回/年	<p align="center"><u>表 3 重大事故等対策に関する教育（支援組織の主な教育内容）</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育名</th> <th>目的</th> <th>内容</th> <th>対象者</th> <th>頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）</td> <td>アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得</td> <td>・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*</td> <td>技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>アクシデントマネジメント教育（応用的知識）</td> <td>事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得</td> <td>・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位</td> <td>技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>防災教育</td> <td>・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。</td> <td>・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*</td> <td>技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>総合訓練</td> <td>想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。</td> <td>・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*</td> <td>緊急時対策要員</td> <td>1回/年</td> </tr> <tr> <td>その他訓練</td> <td>あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。</td> <td>・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・緊急時被ばく医療訓練</td> <td>該当者</td> <td>1回/年</td> </tr> </tbody> </table> <p align="center">※：福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、充実強化した内容</p>	教育名	目的	内容	対象者	頻度	アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）	アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得	・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*	技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）	1回/年	アクシデントマネジメント教育（応用的知識）	事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得	・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位	技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））	1回/年	防災教育	・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。	・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*	技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）	1回/年	総合訓練	想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。	・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*	緊急時対策要員	1回/年	その他訓練	あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。	・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・緊急時被ばく医療訓練	該当者	1回/年	②(他まとめ資料との整合)
			教育名	目的	内容	対象者	頻度																																																										
アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）	アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得	・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*	技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）	1回/年																																																													
アクシデントマネジメント教育（応用的知識）	事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得	・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位	技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））	1回/年																																																													
防災教育	・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。	・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*	技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）	1回/年																																																													
総合訓練	想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。	・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*	緊急時対策要員	1回/年																																																													
その他訓練	あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。	・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・原子力災害医療訓練	・運営支援組織（通報班） ・技術支援組織（保安班） ・運営支援組織（総務班） ・運営支援組織（総務班） ・技術支援組織（保安班）	1回/年																																																													
教育名	目的	内容	対象者	頻度																																																													
アクシデントマネジメント教育（基礎的知識）	アクシデントマネジメントに関する基礎的知識の習得	・アクシデントマネジメントの概要 ・津波アクシデントマネジメントの概要*	技術支援組織、運営支援組織（広報班、立地班、通報班）	1回/年																																																													
アクシデントマネジメント教育（応用的知識）	事故時のプラント挙動、プラント状況に合致した機能別設備を活用したアクシデントマネジメントの専門的知識の習得	・代表的な事故シナリオの成れとプラント挙動 ・機能別の設備のプラント状況にあった優先順位	技術支援組織（統括、班長、要員（計画班））	1回/年																																																													
防災教育	・発電所員として必要な基礎知識の理解 ・原子力災害に関する知識を習得し、原子力防災活動の円滑な実施に資する。	・原法及び関係法令の概要 ・原子力事業者防災業務計画の概要 ・防災体制、防災組織及び活動 ・防災関係設備 ・緊急時活動レベル（EAL）*	技術支援組織、運営支援組織（役割に応じた項目）	1回/年																																																													
総合訓練	想定した原子力災害への対応、各機能や組織間の連携等、組織があらかじめ定められた機能を発揮できることを確認する。	・各機能班の活動 ・各機能班の連携 ・本部の意思決定 ・本社本部との連携 【重大事故等を想定し、上記を実施】*	緊急時対策要員	1回/年																																																													
その他訓練	あらかじめ定められた機能を発揮できるようにするために資機材操作を含めて行い、機能毎の対応能力向上を図る。	・通報訓練 ・モニタリング訓練 ・避難誘導訓練 ・緊急時被ばく医療訓練	該当者	1回/年																																																													

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																								
230	添付資料 2.1.23	添 2.1-194	<p>表3 重大事故等対策に関する訓練(1/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育訓練項目</th> <th>教育訓練に使用する手順書</th> <th>対象者</th> <th>個別訓練名称及び頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GTGによる給電</td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる非常用緊急用M/C受電」 ・「第二GTGによる大停電緊急用M/C受電」</td> <td>復旧班員</td> <td>・ガスタービン発電機車(GTG)操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>電原車による給電</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「電原車による非常用緊急用M/C受電」 ②「電原車による給電(動力変圧器FC-1接続)」 ③「電原車による給電(A/M同期力安定制御)」 ④「電原車による給電(緊急用電源切替器TA接続)」</td> <td>復旧班員</td> <td>①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年</td> </tr> <tr> <td>緊急用M/Cからの受電</td> <td>○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」</td> <td>運転員</td> <td>・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年</td> </tr> <tr> <td>号機間融通</td> <td>○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電」</td> <td>運転員</td> <td>・D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」</td> <td>復旧班員</td> <td>・緊急用M/C受電訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>GTG、電原車への燃料補給</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」</td> <td>復旧班員</td> <td>①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年</td> </tr> </tbody> </table>	教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度	GTGによる給電	○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる非常用緊急用M/C受電」 ・「第二GTGによる大停電緊急用M/C受電」	復旧班員	・ガスタービン発電機車(GTG)操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年	電原車による給電	○多様なハザード対応手順 ①「電原車による非常用緊急用M/C受電」 ②「電原車による給電(動力変圧器FC-1接続)」 ③「電原車による給電(A/M同期力安定制御)」 ④「電原車による給電(緊急用電源切替器TA接続)」	復旧班員	①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年	緊急用M/Cからの受電	○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」	運転員	・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年	号機間融通	○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電」	運転員	・D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電:1回/年		○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」	復旧班員	・緊急用M/C受電訓練:1回/年	GTG、電原車への燃料補給	○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」	復旧班員	①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年	<p>表4 重大事故等対策に関する訓練(1/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育訓練項目</th> <th>教育訓練に使用する手順書</th> <th>対象者</th> <th>個別訓練名称及び頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GTGによる給電</td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる緊急用M/C受電」</td> <td>復旧班員</td> <td>・GTG車操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>電原車による給電</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「電原車による緊急用M/C受電」 ②「電原車によるFC-1及びFC-1受電」 ③「電原車によるFC-1及びFC-1受電」</td> <td>復旧班員</td> <td>①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年</td> </tr> <tr> <td>緊急用M/Cからの受電</td> <td>○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」</td> <td>運転員</td> <td>・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年</td> </tr> <tr> <td>号機間融通</td> <td>○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/Gによる緊急用M/Cへの受電」</td> <td>運転員</td> <td>・D/Gによる緊急用M/Cへの受電:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」</td> <td>復旧班員</td> <td>・緊急用M/C受電訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>GTG、電原車への燃料補給</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」</td> <td>復旧班員</td> <td>①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年</td> </tr> </tbody> </table>	教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度	GTGによる給電	○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる緊急用M/C受電」	復旧班員	・GTG車操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年	電原車による給電	○多様なハザード対応手順 ①「電原車による緊急用M/C受電」 ②「電原車によるFC-1及びFC-1受電」 ③「電原車によるFC-1及びFC-1受電」	復旧班員	①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年	緊急用M/Cからの受電	○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」	運転員	・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年	号機間融通	○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/Gによる緊急用M/Cへの受電」	運転員	・D/Gによる緊急用M/Cへの受電:1回/年		○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」	復旧班員	・緊急用M/C受電訓練:1回/年	GTG、電原車への燃料補給	○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」	復旧班員	①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年	②(他まとめ資料との整合)
教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度																																																										
GTGによる給電	○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる非常用緊急用M/C受電」 ・「第二GTGによる大停電緊急用M/C受電」	復旧班員	・ガスタービン発電機車(GTG)操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年																																																										
電原車による給電	○多様なハザード対応手順 ①「電原車による非常用緊急用M/C受電」 ②「電原車による給電(動力変圧器FC-1接続)」 ③「電原車による給電(A/M同期力安定制御)」 ④「電原車による給電(緊急用電源切替器TA接続)」	復旧班員	①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年																																																										
緊急用M/Cからの受電	○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」	運転員	・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年																																																										
号機間融通	○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電」	運転員	・D/GA/B/Cによる緊急用M/Cへの受電:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」	復旧班員	・緊急用M/C受電訓練:1回/年																																																										
GTG、電原車への燃料補給	○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」	復旧班員	①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年																																																										
教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度																																																										
GTGによる給電	○多様なハザード対応手順 ・「第一GTGによる緊急用M/C受電」	復旧班員	・GTG車操作訓練:2回/年 ・緊急用M/C受電訓練:1回/年																																																										
電原車による給電	○多様なハザード対応手順 ①「電原車による緊急用M/C受電」 ②「電原車によるFC-1及びFC-1受電」 ③「電原車によるFC-1及びFC-1受電」	復旧班員	①電原車操作訓練:2回/年 ②緊急用M/C受電訓練:1回/年 ③FC受電訓練:2回/年 ④ケーブル接続訓練:2回/年																																																										
緊急用M/Cからの受電	○AM設備操作手順書 ・「緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成」	運転員	・緊急用M/CからM/C7C・7Dへの電路構成:1回/年																																																										
号機間融通	○事故時運転操作手順書(EOP) ・「D/Gによる緊急用M/Cへの受電」	運転員	・D/Gによる緊急用M/Cへの受電:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ・「各号機D/GA/B/Cによる緊急用M/C受電から各号機への送電」	復旧班員	・緊急用M/C受電訓練:1回/年																																																										
GTG、電原車への燃料補給	○多様なハザード対応手順 ①「非常用D/G軽油タンクからタンクローリーへの給油」 ②「タンクローリーから各機器等への給油」	復旧班員	①非常用D/G軽油タンクからの補給訓練:2回/年 ②軽油地下タンクからの補給訓練:2回/年																																																										
231	添付資料 2.1.23	添 2.1-197	<p>表4 重大事故等対策に関する訓練(4/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育訓練項目</th> <th>教育訓練に使用する手順書</th> <th>対象者</th> <th>個別訓練名称及び頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射性物質放出抑制</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」</td> <td>非常用防護班の班員</td> <td>①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年</td> </tr> <tr> <td>水源確保</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」</td> <td>復旧班員</td> <td>・可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ・可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>CSPへの補給</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ②可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年</td> </tr> </tbody> </table>	教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度	放射性物質放出抑制	○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」	復旧班員	①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年		○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」	非常用防護班の班員	①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年	水源確保	○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年		○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」	復旧班員	・可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ・可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:1回/年	CSPへの補給	○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ②可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年	<p>表4 重大事故等対策に関する訓練(4/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育訓練項目</th> <th>教育訓練に使用する手順書</th> <th>対象者</th> <th>個別訓練名称及び頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>放射性物質放出抑制</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」</td> <td>非常用防護班</td> <td>①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年</td> </tr> <tr> <td>水源確保</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水」 ・「消防車による止水」</td> <td>復旧班員</td> <td>・消防車による止水訓練:1回/年 ・消防車による連続止水訓練:1回/年</td> </tr> <tr> <td>CSPへの補給</td> <td>○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」</td> <td>復旧班員</td> <td>①消防車による止水訓練:1回/年 ②消防車による連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年</td> </tr> </tbody> </table>	教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度	放射性物質放出抑制	○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」	復旧班員	①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年		○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」	非常用防護班	①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年	水源確保	○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年		○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水」 ・「消防車による止水」	復旧班員	・消防車による止水訓練:1回/年 ・消防車による連続止水訓練:1回/年	CSPへの補給	○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①消防車による止水訓練:1回/年 ②消防車による連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年	②(他まとめ資料との整合)								
教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度																																																										
放射性物質放出抑制	○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」	復旧班員	①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」	非常用防護班の班員	①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年																																																										
水源確保	○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」 ・「消防車による止水(選手型)」	復旧班員	・可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ・可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:1回/年																																																										
CSPへの補給	○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①可搬型代替止水ポンプによる止水訓練:1回/年 ②可搬型代替止水ポンプによる連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年																																																										
教育訓練項目	教育訓練に使用する手順書	対象者	個別訓練名称及び頻度																																																										
放射性物質放出抑制	○多様なハザード対応手順 ①「大停電発生後及び放水時に発生への放射抑制」 ②「所管防止装置による放射への放射抑制」 ③「放射計測装置異常時に発生への放射抑制」	復旧班員	①大停電発生訓練:1回/年 ②シフトフェンス避難訓練:1回/年 ③シフトフェンス組み立て・運用訓練:1回/年 ④放射計測装置異常時訓練:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ①「初期対応における放射防止装置」 ②「航空機燃料火災への対応」	非常用防護班	①放射線検出訓練:1回/年 ②大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ③大停電発生後発生への放射抑制:1回/年																																																										
水源確保	○多様なハザード対応手順 ①「野水池から大停電への止水訓練」 ②「野水池から大停電への止水訓練(直達対応時)」 ③「大停電発生後発生への放射抑制」 ④「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑤「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑥「大停電発生後発生への放射抑制」 ⑦「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①野水池から大停電への止水訓練【自動対応時】:1回/年 ②野水池から大停電への止水訓練【直達対応時】:1回/年 ③野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ④野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑤野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑥野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年 ⑦野水池から大停電発生後発生への放射抑制:1回/年																																																										
	○多様なハザード対応手順 ・「消防車による止水」 ・「消防車による止水」	復旧班員	・消防車による止水訓練:1回/年 ・消防車による連続止水訓練:1回/年																																																										
CSPへの補給	○多様なハザード対応手順 ①「消防車によるCSPへの補給(洪水/海水)」 ②「大停電発生後発生への放射抑制」	復旧班員	①消防車による止水訓練:1回/年 ②消防車による連続止水訓練:2回/年 ③エンジン発電機稼働訓練:1回/年 ④CVケーブル接続訓練:1回/年																																																										

主要修正箇所一覧表

No.	章番号	ページ番号	点検後	点検前	変更理由																																																																																												
232	添付資料 2.1.24	添 2.1-201	<p>表1 緊急時対策要員（現場部隊）の部隊別要員数と対応可能とする現場作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">常時確保 する現場 要員数</th> <th colspan="5">対応可能とする現場作業</th> </tr> <tr> <th>注水</th> <th>送水</th> <th>電源</th> <th>がれき 撤去</th> <th>給油</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">注水隊</td> <td>2名</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2名*</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○[監視]</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>送水隊</td> <td>2名*</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>○[監視]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電源隊</td> <td>6名*</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○[監視]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>がれき隊</td> <td>2名</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>【凡例】◎：主たる業務，○：その他付与する業務， ○[監視]：がれき撤去の安全監視員，—：対象外 ※ 注水隊，送水隊，電源隊の合計10名のうちの少なくとも1名は，がれき撤去作業（重機作業）の力量を有する要員を割り当てる。</p>		常時確保 する現場 要員数	対応可能とする現場作業					注水	送水	電源	がれき 撤去	給油	注水隊	2名	◎	—	—	—	—	2名*	◎	○	—	○[監視]	○	送水隊	2名*	○	◎	—	○[監視]	—	電源隊	6名*	—	○	◎	○[監視]	—	がれき隊	2名	○	○	—	◎	○	<p>表1 緊急時対策要員（現場部隊）の部隊別要員数と対応可能とする現場作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">常時確保 する現場 要員数</th> <th colspan="5">対応可能とする現場作業</th> </tr> <tr> <th>注水</th> <th>送水</th> <th>電源</th> <th>瓦礫 撤去</th> <th>給油</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">注水隊*</td> <td>2名</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2名</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○[監視]</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>送水隊*</td> <td>2名</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>○[監視]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>電源隊*</td> <td>6名</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○[監視]</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>瓦礫隊</td> <td>2名</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>【凡例】◎：主たる業務，○：その他付与する業務， ○[監視]：瓦礫撤去の安全監視員，—：対象外 ※ 注水隊，送水隊，電源隊の合計12名のうちの少なくとも1名は，瓦礫撤去作業（重機作業）の力量を有する要員を割り当てる。</p>		常時確保 する現場 要員数	対応可能とする現場作業					注水	送水	電源	瓦礫 撤去	給油	注水隊*	2名	◎	—	—	—	—	2名	◎	○	—	○[監視]	○	送水隊*	2名	○	◎	—	○[監視]	—	電源隊*	6名	—	○	◎	○[監視]	—	瓦礫隊	2名	○	○	—	◎	○	②(他まとめ資料との整合)
	常時確保 する現場 要員数	対応可能とする現場作業																																																																																															
		注水	送水	電源	がれき 撤去	給油																																																																																											
注水隊	2名	◎	—	—	—	—																																																																																											
	2名*	◎	○	—	○[監視]	○																																																																																											
送水隊	2名*	○	◎	—	○[監視]	—																																																																																											
電源隊	6名*	—	○	◎	○[監視]	—																																																																																											
がれき隊	2名	○	○	—	◎	○																																																																																											
	常時確保 する現場 要員数	対応可能とする現場作業																																																																																															
		注水	送水	電源	瓦礫 撤去	給油																																																																																											
注水隊*	2名	◎	—	—	—	—																																																																																											
	2名	◎	○	—	○[監視]	○																																																																																											
送水隊*	2名	○	◎	—	○[監視]	—																																																																																											
電源隊*	6名	—	○	◎	○[監視]	—																																																																																											
瓦礫隊	2名	○	○	—	◎	○																																																																																											
233	添付資料 2.1.25	添 2.1-204	 <p>図1 配置場所</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	 <p>図1 配置場所</p> <p>枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。</p>	②(他まとめ資料との整合)																																																																																												